

ジョージ・アダムスキー「生命の科学」第01課 段落001 [2007-03-04]

001 This course on the science of life will get deeper as we proceed with the study.

001この生命の科学コースは学習を進めるにつれて次第に深遠なものになるでしょう。

【解説】

この講座（「生命の科学コース」）はある種の通信教育として、開発されたものと聞いています。アダムスキー氏の哲学3部作の内、最晩年のものです。関係者の間では最も重要視された講座であり、全12課にわたる課程を経て地球人に必要な基本的知識が身に付くように工夫されたものとされています。

1963年6月付の同名のアダムスキー氏の論説「生命の科学」（「死と空間を超えて」：昭和43年11月発行、久保田八郎訳、P.87-88）に以下の記述があります。

「（略）私は目下、”生命の科学研究講座”を設ける準備をしています。それはこれまでに教えられてきた如何なる精神科学とも異なるでしょう。それは万物のすべての分野とそれを支配している諸法則を包括することになります。宇宙人が現在の進化の状態に達したのはこの生命の科学によるのです。

人間がこれまでに研究してきた神話は事実によって置き換えられ完全に排除されるでしょう。しかしこのためにだれも自分の信念を捨てたり変えたりする必要はありません。それはちょうどエンジニアになろうとして勉強している人が自分の信念を捨てる必要がないのと同じです。

私のいう生命の科学の研究は多数の人にとって容易ではないでしょう。それには生命の哲学が含まれていて、しかもあらゆる信念は哲学に基づいているからです。この研究を行おうとする人はすべて或一つの事柄を理解する必要がありますので、ここでそれを明らかにしておきたいと思います。すなわち、この研究から何かを得ようとするならば各人はオープン・マインド（注：寛容の精神）とハッキリした論理的な考え方を持たねばならないということです。自己の既成知識を持ち込んで心中に混乱を生じさせてはいけません。われわれは研究者にたいして他の人々の教師になってもらいたいからです。

（中略）

以上はイエスの言った言葉『幼児のようにならなければ天の国へ入ることはできない』の意味です。天の国というのは生命の真実の知識のことです。これが”生命の科学研究講座”を設けた理由です。それは研究者を向上させて教師とし、他人を助けるのを可能ならしめることにあります。

オランダの女王は私にむかって次のように言ったことがあります。『あなたの平易な言葉と表現の仕方のために、素人でもあなたの言っている事柄の真実性を感じることができます。長いあいだ人間を混乱させてきて、しかも人間を不安な生活に縛りつけていた神話的な言葉を用いないで、あなたは人間に生命の真実さをもたらしています』。人間は一人の主人をだまさないで二人の主人に仕えることはできません。人間がだましている相手は通常自分自身です。”生命の科学研究講座”については、最後の計画ができ次第に詳細をお知らせします。」

また、アダムスキー氏の論説「新しい地平線の彼方へ」（「死と空間を超えて」：昭和43年11月日本GAP発行、久保田八郎訳、P.134-135、及び「空飛ぶ円盤とアダムスキー」：1975年7月有信堂高文社発行、久保田八郎訳、p.202）に以下の記述があります。

「1964年に始まった”生命の科学”は今回第12課をもって完結し、ブラザーズも私もその成果に満足しています。講座を研究してその知識を応用した人の大部分は自己の能力を著しく拡大しています。実際、多数の読者が奇跡的な物事を行っています。このことは今後もずっとこの講座が大きな価値を持つことを示しています。宇宙の原理の研究と応用に終りはありません。これについて大いなる努力を払ってくださったブラザーズに感謝してよいでしょう。これは私達の精神生活ばかりでなく行おうとするあらゆる物事にあてはまります。この講座の研究だけでもよき未来を建設するのに役立つでしょう。

これまで講演会でたびたび申しましたように、私たちに直接関係があるのは円盤の目撃ではなく、生活改善のためにブラザーズがもたらした知識です。目撃などというものはみな大同小異です。この知識なくしてはよき世界を期待することはできません。よき世界の建設こそ私達の義務です。政府が私達にかわってこれを行うことはできませんし、また惑星人に関する情報それ自体がこれをやりはしません。情報と知識は実行されない限り価値はないからです。(後略)」

アダムスキー氏存命中に、どのような形式でこの講座が運用されていたか、今となれば知る由もありませんが、通常は1課毎に印刷テキストが送付され、何らかのテスト或いは感想文の返送を経て、学習者と教師(アダムスキー氏)がやり取りをする中で、講座を進ませるような仕組みであったと思われます。

しかしながら、現在、このような仕組みが取れなくなっており、各自が自習する中で、本書のようなノートを通じて、各々の理解力を伸ばすことが必要なのです。その意味で、お役に立てれば幸いです。

002 When we speak of life, we mean in every phase of life's expression. In plain -we are going to explore life.

002 私達が生命について語る時、私達は生命が表現するあらゆる側面を意味しています。簡潔に言えば、私達は生命を探究しようとしているのです。

【解説】

ひとくちに「生命」（或いは「いのち」「生活」）と言っても、その意味するところは広いものです。木の芽が成長し、花がつぼみをふくらませてやがて大輪の花びらを広げるように、自然界にはどんな鈍感な人間でも気付くような生命の営みがあります。また、一方では音楽に心震わせる感性もあるでしょう。形にならないものも「いのち」の表現である訳で、生命とする対象分野は広いものです。

これらの様々な対象をひっくるめて、ここでは「生命」と言っており、それらを含めてあらゆる生命の側面について、その根源から論じています。言うなれば、「生命」とはそもそも何であるかについて踏まえた上で、生命そのものを探究しようとしていると言うのです。

003 And in dealing with the religious or spiritual side, one should not be disturbed regardless of his faith. For the Creator whom we call God, created everything that is known and yet to be known. And to know the Father of all creation, one must study His creation and its purpose.

003 また、宗教や精神的な側面を取扱う際には、人は自身の信条がどのようなものであっても妨害を受けるべきではありません。何故なら、私達が神と呼ぶ創造主は、知られている、そして今後知られることとなるあらゆる物を創造したということ。そして、全ての創造物の父を知るために、人は父の創造物とその目的を研究しなければならないからです。

【解説】

自然界の創造物を探究することは人間にとっての義務でもあります。

この世界の鉱物、草木、動物等、全てが、創造主が無償で創造したと言っているのです。

人間はとかく、これらの「資源」を利用し、利用価値の無いもの、あるいは邪魔になるものは”雑草”や”害虫”として排除して来ました。

しかし、あらゆる創造物を知り、その目的を探究することが大事であると述べています。そこにはこれまで気付かなかった創り主の意図について知ることにも繋がる大事な一歩です。

ここで、何故、アダムスキーは「宗教や精神的な側面を取扱うについては、人は自身の信仰にかかわり無く妨害を受けるべきではありません」と言っているのでしょうか。それは、この種の探究は、あくまで自分1人で行う探究の作業であり、傍から「こうすれば良い」「こうしてはダメだ」等、指図されるべき事柄で無いことを意味しています。それは個人の内面から湧き起る印象や感性にも関わるもので、いわゆる頭脳で学習するような内容で無いことを指しているからです。自分で発見し、感得することで、自らの理解力や感性を高めることができるからなのです。

贈り主からのプレゼントを受け取る際に、受け手がその贈り物の価値を知り、贈り手の気持ちを理解することは最低限の礼儀であることは言うまでもありません。

004 We, as his highest creation are intrusted with that responsibility. The study should be no different than a careful observation of a famous painting would be when the artist is not known in person. For the more that it is studied, the better one understands the mind responsible for the painting.

004 最高位の創造物である私達は、その責任を任されています。その研究は画家を個人的に知らない場合に著名な絵画を注意深く観察するのと違いはありません。研究が進むにつれて、人はその絵画を描いた本人の心をより深く理解することになるのです。

【解説】

日頃、私達の周囲には何気ない存在であれ、様々な創造物を取り巻いています。しかしながら私達は日々の「仕事」に追われていて、多くの場合、その存在に気付くことさえ無いのではないのでしょうか。自分が歩いている足下にどのような草花が咲いているか、あるいは咲こうとしているのか、歩道の石の裏にひっそりと暮らしている虫達の営みを知ろうなどとは思わないのが普通です。

それよりは、会社での言い訳や交渉相手への説得方法等、毎朝の通勤でさえ、足下の自然など、確かに目には入っているのですが、その認識力は無く、むしろ心はその日一日の仕事のことで頭は一杯なのかも知れません。或いは、自分が好きな音楽を聞きながらの場合には、上空が如何に素晴らしく晴れ渡っているのに、何一つ気付く事無く行き過ぎてしまうのが我々です。

そのような無神経な者に創造主は創造物を委ねているというのです。本当にもったいない話しです。本人は知らないのですが、本人自身は元来、最高位の創造物であるというのも、驚きです。もっと、私達は、自らの価値を自覚しなければならなりません。そして、宇宙に存在する創造物に対する本来の責任についてもっと自覚する必要があることとなります。

そのためには、まず、自らも含めた「創造物」を良く観察・研究する必要があるというのです。丁度、絵を觀賞するように。もちろん、大自然や他の存在物でも研究対象は良いのです。しかし、それよりいつも身近にあって、直接観察できる存在、もっとも身近な「創造物」を対象にした方が良いことは明らかです。それは、言う間でも無く、自分自身ということができません。この創造物は、毎日、鏡で見ることができますし、何処に居ようと、常に本人と一緒にです。その日の心の動き、身体の働きと心の関係、等々、様々な生きた研究材料が、自分自身である訳です。自分自身を良く知ることが、もっとも早道であると言えるかも知れません。

自分自身の内面や外観を関係づけて、冷静に、かつ繊細に学ぶことが重要なのでしょう。そうする過程において創造主を知り、感謝することが最も大切な「学習」であり、「研究」なのです。何の為に哲学を学び、宗教の門を叩くか、その究極の回答が、この創造物を通じて創造主の心を知り、私達が賜った贈り物である人間の責任というものを理解することなのです。

【参考】

上述の「画家の心を理解する」に関連した資料としては以下の書籍があります。

* 田中穰著「生きる 描く 愛する 42人の名画家物語」婦人之友社（明治、大正、昭和の美術史にのこる42人の足跡。画家達の織りなす運命の物語と代表作を、一冊にまとめた保存版！画家の心の内と、名画の由来を後生に伝える語りべとして取り組み、7年にわたり『明日の友』に連載したシリーズ「心は億万長者」の集大成。）

005 As we cannot see the Creator the God of the Cosmos in person, we then must study Him through His creation. And this manifests in what we refer to as nature, for it is the embodiment of His Supreme Intelligence.

005 私達は創造主、宇宙の神を個人的人物として見ることはできない以上、私達は創造物を通じて創造主を研究する必要があります。そしてこの創造物は私達が自然と呼ぶものの中に現れているのです。何故なら自然こそが創造主の最高英知の体現であるからです。

【解説】

自然 (nature) に体現されている創造主を知ることは、具体的にどのようなことを指すのでしょうか。

自分の体験で言えば、早春、舗装道路の割れ目から紫色のスマレがそっと咲いていたかと思えば、しばらくするとスマレの花は姿を消して、新たな草が勢い良く伸びている。道路脇の草地には一斉に同じ小さな花をつけた草が繁る。2週間も付近を通らないとあたりの景色はすっかり変わっています。それほど、草花の変化は大きいのです。春に咲き誇っていたポピーは5月の末には実をつけた後、枯れて行きます。そしてあたりは、より逞しい夏草の時期を迎えるのです。

これらの草花の移り変わりを見るにつけて、これらひとつひとつの草花に誰がどのように指令を出しているのか、不思議に思います。離れた場所であっても全てが調和して各々の生命を全うしている。実に不思議。

それらの草木は、人間の都合によって刈取られることも多いのですが、それでも何事も無かったかのように、残った切り株から芽を出して来ます。この粘り強さは人間も真似したいものです。

「創造物を通じて創造主を研究する」とはどういうことを意味するのでしょうか。前述の続きで言えば、「自分自身を通じて創造主を研究する」ということになります。ある意味、それは研究材料が最も手近にあり、その反応も自ら良く分かり、一刻一刻の人体の生命活動を通じて、その創造主が元来、授けた意味や役割も含め、自分を理解できれば、最も効果的な研究ができる筈です。まして、最高英知の体現である人間としてダイヤモンドの原石磨きと同様に、自分自身を純粹にできれば、研究＝実益、更には他者に対する貢献も大いに期待できるかも知れません。日常の観察から、自分自身を観察し、創造主を意識できるまで感性を高めることは、本人自身を高めことにも繋がることでしょう。

006 As stated, we cannot see Him as a person for he embraces all, and manifested creation is the Effect from His Cause Intelligence.

006 先に述べたように、創造主が全てを包み込んでおり、創出された創造物が創造主の因なる知性から出た結果物であるが故に、私達は創造主を一人の人間のように見ることは出来ません。

【解説】

私達が最も信頼を寄せるべき存在、感謝すべき対象である創造主について、上記の記述は、創造主は「全てを包み込んでいる」と言っています。ちょっとした言葉ですが、その持つ意味合いは新鮮です。つまりは、貴方にとっても、私にとっても、その周囲は創造主によって包み込まれているという、何と暖かいいたわりであることか。

しかし、包み込まれているが故に、私達本人には、その存在を特定の人物のようには見えないということです。赤子はその母親に抱かれているようなものです。私達、創造物は創造主の結果物である為、自分と同じレベル（或いは次元）では生み主を自分と同様な像として見る事ができないということです。

一方では、古来より神（創造主）の像を建立し、あがめるという偶像化が行われており、それなりに、各自の信仰の対象として機能して来ておりますが、実は、本来は、創造主を人間のように表わすことはできないということを述べているのです。実は、創造主は、離れた場所に像として建立するよりも、もっと私達自身の身近に居るということに気付くべきなのでしょう。自分の周囲に片時も離れず、いらっしゃるということなのです。

007 When one studies to become a doctor he does not study just a man's eyes or nose, but he studies every intricate part of the body. This includes every nerve, muscle, etc., and their purpose or function.

007 人が医者になるために学習している時、人の目や鼻のみを研究することはせず、肉体のあらゆる入り組んだ部分をも学びます。これにはあらゆる神経、筋肉等、及びそれらの目的や機能についても含まれます。

【解説】

ここでは、人体の一部が何らかの症状が出て、病を自覚した時に対応を図る医者とはどのような事項を学ぶ必要があるかを述べています。通常は、目が痛ければ、眼科にかかります。しかし、医者は目についての知識だけあれば済むというものではありません。

例えば、糖尿病。これは膵臓から出るインシュリンと血液中の糖の関係であることは一般の人でも今では知る知識です。その糖尿病が原因で目の網膜に異常をきたして、視力が低下する事例があります。この場合、目の視力回復には糖尿病を治療しなければその進行を止めることは出来ません。つまり、症状は目に出ているかも知れませんが、その奥にある病気の原因は糖尿病という全身の病から来ている訳です。

このように、本来、人体のあらゆる臓器が相互に関連し、互いの影響を受けていることをまず、理解する必要がありますということです。

008 Some doctors go deeper when studying the manifested form of man and observe him with his consciousness. Thus he perceives the invisible or cause back of the effect. In this way he learns the purpose of every artery, muscle and organ and how each is related to the whole form. Thus when one part is out of order he knows what to do.

008 医者によっては人体の具現化された姿を研究する際、深部まで探究し、自らの意識でその人体を観察します。そうすることで、彼はその結果をもたらす目に見えない、或いは背後にある原因を知覚するのです。このようにして、彼はあらゆる動脈、筋肉そして組織、また各々が如何に全体と関連しているかを学ぶのです。このことにより、身体の一部が乱れた時に何をすべきかが分かるのです。

【解説】

私自身、医者ではないので、詳細は不明ですが、通常、医者が診察を行う場合、医者は患者の顔色をはじめとする外見を観察し、その訴えを聞きながら、真実の病気の原因を掴もうとしているものと思われる。

この場合、患者の身体の中について見ることはもちろん出来ない訳ですから、こうした制約条件の中で、自分の経験も含め、この患者がどこを病んでいるのかについて、それぞれ、全身全霊で探っているのです。

その時、医者が観察に使用しているのは目に見えない原因を察知し、把握しようとする医者自身の意識なのです。その際に重要なのは、各部と全体との関係についての理解だと言っています。万物の相互関係を理解することこそ、学ぶべき内容です。

また、ここでは、医者が患者を診察する際に、自分の「意識」を用いていると述べています。ここでより、詳しくアダムスキーの言う「意識」について、関連資料を用いて述べて見ましょう。

アダムスキーは「意識とは何か」(From Cosmic Bulletin, December 1971.)の中で次のように述べています。

"Consciousness is the foundation of all creation. It is not a physical thing yet it measures all expressions of physical forms. Without it no form could be or exist for consciousness is life itself. It is the power which gathers the elements into the formed state and it is the intelligent force which caused the awareness and animation within the form. Consciousness is that tremendous power which is referred to in the Scriptures as the Holy Ghost. It is a dweller, as power, within that which is created, perpetuating the growth of the form by the constant action which is the law of Its being." (中略)

"Everything from the mineral to the God Kingdom is changed, moment by moment, by the everlasting activity of consciousness. It is the avenue of progress; the stream of life laden with ideas which drop into the consciousness of mortal man with great rapidity and which may be used or discarded, depending upon the understanding of the individual. Consciousness speaks the language of the Soul, for it is the Soul. This Infinite language is soundless, yet it roars with the voice of thunder, reverberating with a tremendous force upon the mortal being, producing a state of awareness as to the idea that lie within him -- idea which only he himself knows unless he expresses them in words, and which even then may not be understood by another.

Consciousness is the very substance of all forms, yet itself is formless. It is the ruler and the keeper of all elements which compose it in field of form action, for through this intelligent force the elements which make the form becomes conscious. It builds forms and disintegrates forms, yet it knows neither life nor death. It is motionless, yet it is the all-active power by which the universe is maintained; placeless, yet it is everywhere for outside of it there is nothing; inert, yet composed of unlimited power." (後略)

つまり「意識とはすべての創造の基礎です。それは物的なものではありませんが、物的な形有るものすべての表現を計るものです。それ無しではいかなるものも存在することはできません。意識こそが生命そのものであるからです。それは各々の元素を形有る状態に取り集める力であり、形有るものの中に知

覚や活動を引き起こす知性的な力です。意識は聖書の中で精霊と呼ばれるとてつもない力のことで
す。」（中略）

また、意識については、「鉱物から神の王国まで全てが意識の永遠に続く活動によって刻々変化して
います。それは進歩の大道であり、人間の意識の中に落される巨大なスピードで生命の流れであり、それ
らは個個人の理解次第で活用されるか、捨て去られるかすることになります。意識は魂である故、魂の
言葉を話します。その無限の言葉には音はありません。しかし、それは雷のような声で響き渡ってお
り、人間に対してとてつもない力で反響しており、人自身の中のアイデアに対して気付く状態を造り出
します。そのアイデアは彼が言葉で表わさない限り、彼自身しか分からないアイデアでもあります。し
かし、それでさえも、他人には理解されないかも知れません。」

「意識は全ての形有るものの本質的なものですが、それ自身は形はありません。それはそれを成すすべ
ての要素の支配者であり保護者です。この知的な力を通じて形あるものを造り上げている各元素が意識
を持つようになるのです。それは形有るものを形成し、また分解します。しかし、それは生や死を知る
ことはありません。それは動くものではありませんが、宇宙が維持されているすべての力です。どこに
あるというものでなく、あらゆる所にあり、その外側には何もありません。そのもの自体、不活性です
が、それでも無限の力から成り立っているのです。」（後略）

各人はこのような、力ある知性を本来、有しており、自らを構成させていることの背景にある宇宙を貫
く知性と連動している力に気付く必要があるということでしょう。その力に気付くこと、私達の自然観
察に応用することが重要ということです。

009 We must follow this same procedure of study in order to know nature and thus be able to free ourselves from the mysteries that have surrounded us and made us an entity separated from our creator. Then we shall come into an understanding of Cause and Effect. And our mental senses will perceive all forms and their purpose. And consciously we will understand the cause back of the manifestation.

009 私達が自然を知るためにはこれと同じ手順に従う必要がありますし、そうすることによって私達を取り囲み、私達を創造主から分離した存在にしていた諸神秘から私達自身を解放することが出来るようになるのです。そうなれば私達は原因と結果の理解に到達することでしょう。私達の心の感覚は全ての形有るものとそれらの目的について気付くようになるでしょう。そして意識的に私達は出現の背後にある原因を理解することになるのです。

【解説】

自らも含めて自然を知ろうとする時の手順として、言うならば全身全霊をもって自然を観察せよと言っているのです。私達にとって身近な「自然」とはどのようなものがあるのでしょうか。例えば住いの近くの自然公園でも、街路樹でも良いのです。それらを観察、研究するという事はどのようなことをすることを意味しているのでしょうか。

例えば、わかりやすく言えば、春夏秋冬、木々は様々な装いを見せます。寒い北風の中では小枝の先の新芽は堅く覆われ、守られています。しかし、春の気配が感じられる頃、新芽はほころび、やがて目に鮮やかな新緑が顔を出し、辺りは新しい生命に溢れる季節を迎えます。そして逞しく育った青葉はやがて、生い茂り、夏の暑い日射しを遮り、木陰を私達に与えます。そして季節が再び冬を迎えようとする頃、木々の葉は緑から一変して赤や黄色の錦の色合いに変化し、やがて訪れる風に乗って、木々から離れ地に戻ります。

このように、自然は絶えまなく、大きな変化を遂げています。そして木々をはじめとする植物の変化は季節変化に呼応しており、食物の源を植物に依存している私達、動物にとって、一年を通じた自然の営みにその存在を依存していることは言う間でもありません。

私達は、ひょっとして自分達とこのような自然、更には自然を支えている創造主とは懸け離れている存在と思って来たのでは無いでしょうか。確かに、私達自身、創造主とは無縁なもの、人間は自然を征服する存在、自然を利用し、開発できる存在、地球を支配する存在であるとして来ていましたが、果して、そのような傲慢さで良いのでしょうか。

アダムスキーは「私達が自然を知るためにはこれと同じ手順に従う必要があります」と言っていますが、もう少し厳密に訳せば、「私達は自然を知る必要があります、そのためにはこれと同じ手順に従う必要がある」と言っているのです。まずは「これと同様（即ち医者が人体を観察するよう）に、自然を観察せよ」と言っています。

その観察を通じることによって、自然と私達との距離が縮まり、例えば植物の感性に近いまでに感受性が高まり、これまで自然の神秘とされてきたものが、私達の日常生活の中で生かせるような、生活が送れるようになるのかも知れません。実は、そのように「目に見えない印象」、「耳に聞こえない囁き」といったものが、本来自然の中に飛び交っていて、これらの「原因」となる力ある存在が、密接に私達に作用する状況に私達自身が高められるならば、素晴らしいことです。私達の心の感覚をそのレベルまで感性を高め、同時に形になっている現物の存在と関連づけることが重要だと言っているのです。

010 So we not only are going to develop our minds with the help of consciousness, but also expand our conscious perception at the same time. And in this way we shall see the Creator face to face through the mind and the consciousness as they become one.

010 それゆえ、私達は意識の助けを受けて自らの心を発展させようとしているばかりでなく、同時に私達の意識的な知覚力を広げようとしているのです。そしてこのようにして、私達は一体となった心と意識を通して創造主を面と向って間近に見ることとなるのです。

【解説】

しかし一方で、現実の日常生活において、私達の行動を支配しているのは「心」です。目に見えない存在や耳に聞こえない指令に鈍感で、肉体の器官が認識できる範囲を拠り所として、私達は生活を送っています。その生活は、往々にして怠惰であるか、あるいは追い立てられているかのいずれかで、極端のはじからはじまでを行き来しています。

ここでは、この問題の心なるものを意識の力を借りて、発展させよと言っています。しかし、その為にはどのようにせよとは、ここでは述べられていません。それではどのようにすればよいのでしょうか。

意識を自らの心の教師とする訳ですから、まずは、意識を信頼する必要があります。私達の心は意識の存在に普段、気付かないでいる訳ですから、その「見えないもの」の存在を「信じること」からしか、始まらないということでしょう。しかし、無闇に信じろと言うものではありません。意識の作用は、その結果として四季の移り変わりに対する動植物の反応や変化、更には自分自身の肉体が刻々と肉体の維持に懸命になって各細胞が活動しており、私達はその恩恵に浴していること自体、奇跡的な実証事例なのではないでしょうか。

まずは、その自らの肉体の活動も含めて、意識の存在を認め、絶大な信頼を寄せることが、意識の恩恵に対する私達の感謝の心得でもあります。自分を取り囲む意識の存在に感謝すること、信頼を寄せることが第一歩です。

ジョージ・アダムスキー「生命の科学」第01課 段落011 [2007-03-18]

011 This is the method that the planetarions or space people use in their development.

011 これこそが、惑星人達、スペースピープルが彼らの発達に用いている方法です。

【解説】

かつてアダムスキーを通じて進化した宇宙人達が伝えたこの生命の科学が重要な著作である理由の一つが、この内容が進化した宇宙人の原動力になったそのものの哲学であるということです。人間の発達において必要なことは、表面的な知識ではありません。かつて太洋に沈んだとされるアトランティスやムー大陸等、失われた文明について、その当時必要であった知識等、今日では何の役にも立ちません。同様に、現代社会における約束事等、所詮、その時代の社会の都合で出来上がったもので、本来の人間が身に付けるべき、知識ではありません。

私達は、既存の宗教や哲学を一旦、脱ぎ捨てて、まずは新鮮な気持で、この本に書かれている内容を幼児のように一つ一つ自分で身に付けながら、進んで行くことが、真の進化の道と言えるということです。

012 We must always remember through the entire course that the human mind or the senses have been depending upon effects, while the consciousness does not -- it produces the effects.

012 私達はこの全コースを通じて人間の心、諸感覚は結果に依存していること、一方、意識はそうではなく結果を作り出しているということを常に心に留めておく必要があります。

【解説】

ここで、大事なことを最初に述べています。私達の精神的な部分を二つの部分に分かれると言っているのです。「心」と「意識」です。この内、心は実は諸感覚のことであり、それは結果に依存していること。一方で意識なるものはその結果を造りだしているということです。

この内、私達が理解し易いのは「心」でしょう。日々の生活を見れば、結果によって気分が作用されます。学生であれば受検の結果の合否とか、職業人なら会社における業績その他、多くの結果が求められており、その結果を確保する為に汲々としているが実態です。しかし、一方、意識について実はこの現実世界を根本から造り上げている存在にも関わらず、私達はその成果である結果だけを利用して、その存在に敬意を払わないで過ごして来ました。例えばトマト等の野菜です。私達は、毎日のように自らの健康の為、進んで野菜を食べます。トマトは商品として流通していますが、トマト自体は種から育て、花を付け実を付けた後、熟すまで成長する過程について、トマトを食べる者は誰一人、想像すらしません。自らの健康にとって大切だから、美味しいから食べるだけのことです。

しかし、これを生み出した存在を知ろうとすることが先ず第一歩です。当然、創造物には創造主の勢いが本来、現れている訳で、トマトを見る時にそこから湧き出ているエネルギーに気付くことが大切です。食べるという行為は、自らの肉体を養うということ、食べた食物が自らの身体の中で活用され、自分にとって直接的に役立つことから、大変、分かりやすい事例です。この中で、私達の感覚に関する問題としては、味覚や嗅覚、視覚がこの食物については、関わって来ることでしょう。

これらの感覚に依存して、グルメを追求する場合と、創造主が意識の力を通じて大自然から造り上げた作物との会話を追求するのでは、大きな違いが出ることになるのは明らかでしょう。

進むべき道を見誤らない為には、私達はこれまでの自分の心を少し引いて見つめ直すことが必要で、既存の感覚では捉えられない、最初は微妙な印象に気付くことが必要になることでしょう。

013 Consciousness speaks in silence, or impressions, which is the language of The Supreme Being know as God, while the mind speaks the language of effects, which is sound.

013 意識は沈黙のまま、即ち印象によって話し掛けます、それは神として知られる最高位の存在の言葉でもあります、一方で心は結果の言葉、音声によって話し掛けます。

【解説】

最も重要なことは、「沈黙の声」とも言うべき「印象」を通じて、意識が私達に話し掛けていると言うのです。実は最高の存在である神の発する言葉というのは、印象を通じて人間その他の万物に伝えられておりますが、一方で「心」というものは、音声を通じて意思を伝達するとあります。

つまり、力強く自然界、宇宙空間にあまねく力を及ぼしている存在（「意識」）は、言葉になっていない前の段階のある種、の凝縮された塊のようなエッセンスを持ったメッセージのようなもの（「印象」）を発しており、それらの片鱗を受容することによって、力を自然界が受けているということかと思えます。

それに対して、私達の思考は、この記事のように言語を通じて、基本的には「音声」をイメージした中で、記述され、整理されています。これは、心が発する言語が、基本的には「音声」言語に基づいていることを意味しているのです。

しかし、意識を知ろう、意識の発するメッセージを聞こうとすれば、印象に注意深くならなければなりません。また、心自体が微妙な印象に気付くよう、鋭敏になる必要があります。そして、その印象なるものは、言語に左右されない、言い換えれば、言語以前の段階のものであり、当然ながら、万国共通語、生きとし生けるものすべてが理解出来る言語であると言うことができるでしょう。いずれにせよ、私達は、自ら、意識から発せられている印象に対して敏感であらねばなりません。また、そうした印象を通じて、意識との交流が生まれ、本来、授かっている能力を発揮することができるのです。

014 So this first lesson is the most important lesson of them all. One should learn through all of the lessons to follow that he is not studying effects alone but also causes, both at the same time. As you read and study the lessons from here on, make sure that you are using your mind and consciousness in full awareness of your study that you may see the effect and the cause behind the effect as a unit. Both are necessary to give us the things that we enjoy.

014 それゆえ、この最初の教科は全ての教科の中でも最も重要です。学習する者は以後に続く全ての教科を通じて自らが結果のみではなく、原因についても同時に研究しているということを学ぶべきです。あなたがこの教科を読み、研究する時は、あなたは御自身の心と意識をあなたの研究に全力で傾注して用いていることを確実にして下さい。そうすればあなたは結果と結果の背後の原因を一体として見るようになるでしょう。原因と結果の両者ともが私達が享受する物事を私達に授ける為に必要なのです。

【解説】

目に見えないものが大切だと言うと、すぐに神秘的なものに惹かれやすいものです。しかし、ここでは目に見える存在となっている結果（形あるもの、effect）とそれをもたらしている因なるもの（原因、cause）とを一つのユニット（一体）として見るように全力を傾けよと言っています。形に現れた諸物とそれを支える目に見えない存在を別々に見ることなく（言い換えれば、「物質と精神を個別に見るのではなく」）、融合したものとして捉えるようにと言っているのです。

何故なら、その両面とも必要だからです。これは、この種の研究（哲学や宗教）を学ぶ者にとって、とかく因のみに目が行くことを戒めるものでもあります。

015 This will not be easy at first since we have been taught to study with our mind and seldom recognize the consciousness or cosmic impulse behind the thought.

015 これは最初は容易ではないでしょう。私達はこれまで心で研究するように教えられて来た一方、めったに意識、想念の背後にある宇宙的な衝動については認識するようには教えられて来なかったからです。

【解説】

ここで些細なことですが、原文中の"with our mind"について注意して見ましょう。日本語訳は「私達はこれまで心で研究するように教えられて来た」と表現しますが、原文では"with(～といっしょに)"であり、"by(～によって、～を用いて)"ではありません。原文の主旨を言い換えれば、私達自身が先ずあって、「その成長については、自分達自身の心 (mind) と手を携えて、探究の道を歩むように教えられて来ましたね。それには大きな問題がありますよ。」と言っているのです。「心の他に、刻々と寄せて来る"想い"の奥底にある"意識"、神妙なる宇宙の衝動に気付くこと。それを受け入れることが大切だ」と言っているのです。

016 This awareness will enable a faster growth of understanding when used in everything that is done. And when the full awareness comes it will seem at first that there are two of you. The mental acting and the consciousness directing.

016 この気付きこそが為される全てに用いられるならば、理解力においてこれまで以上の急速な成長をもたらすでしょう。そして完全な気付きに到達した時には、最初の内はあなたが二人いるように思えるでしょう。活動しようとする心と指示する意識の二つです。

【解説】

私自身の体験で言えば、自分の行動を印象に従って行った為にうまく行った場合と、一瞬、躊躇して（おそらくは過去の経験と比べて「無理」、「あり得ない」と判断して、行動が遅れて失敗した場合があります。この場合、失敗と分かったのは、自分自身、その直前の印象に従っておけば良かったと思うからです。この時、いつも思うのは、この「気付き」（印象、衝動）は、私達の道しるべとして常に人生（生命、Life）の進むべき方向を指し示して下さっているということです。

そういう意味では、私達は、これまでの「常識・非常識」に影響されること無く、空間を貫いて私達を通過する「意識」なる印象に従うことによって、大きく成長することでしょう。これらの事柄は、多くの宗教における「修行」にも通じるところでありますが、この「生命の科学」の優れている点は、この「行」（訓練）を日常の実生活において実践することにあります。

しかし、これらの「行」について実践した者の中には、精神分裂状態に陥った事例もあります。その詳細な事情は不明ですが、自分の理解力以上に背伸びした実践は禁物です。印象に敏感になるということは、良くも悪くも、自分の感知する領域が広がる訳で、自分自身の段階に近いものほど、共鳴しやすいのは、科学の道理です。（類は類を呼ぶ）

従って、まずは御自身がどのような指向性を保っているのか、自分の軸足を確実にして、その上で宇宙を貫く根本的なSource(源泉)に自分は同調するのだというしっかりした動機付けが必要です。

多くの学習者は、今後、それぞれの人生において他者を導く役目も担うことになるでしょう。その時、その確かな礎があれば、相手を確かな方向に導くこともできるようになる訳で、自分の拠り所を何処に置いているかは、大切なポイントです。

017 Do not be afraid of making a mistake. But when you are aware of making a mistake, correct it as soon as possible, for if you do not, it could be a block in your progress. But do not feel badly, for that could cause you to be too cautious. Remember at all times that mistakes are the result of wrong application through which we learn the right procedure. And experience is necessary for the expansion of knowledge.

017 過ちを為すことを恐れしないで下さい。しかし、過ちを為したと気付いた時は、一刻も早くそれを正しなさい。何故なら、そうしないと、それはあなたの進歩の障害になるかも知れないからです。しかし、くよくよ思っははいけません。あなたを余りにも用心深くさせることになるからです。いつも過ちは間違った応用の結果であり、それらを通じて私達は正しい手順を学ぶということを覚えていて下さい。そして体験は知識の拡張に無くてはならないのです。

【解説】

これまで経験が無い、宇宙的衝動を現象世界を現に支えている存在として認識し、その指示を受け入れるように自らの心を訓練するということは、師匠と弟子が四六時中、寝食を共にしている場合以外、容易なことではありません。まして独学で、一人、学ぼうとしている私達にとって、間違えることはむしろ当たり前のことです。Try and error による学習になることは自然の成りゆきです。

しかし、ここで問題なのは、結果が失敗だった時の対応でしょう。思うように行かなかったことの背景には、様々な要因がある筈です。個人の責に因らない場合もありますし、自分の未熟さが現れた場合もあるでしょう。重要なのは、ここで自分の誤りに気付いた時、即ち、「自分のここが過ちであった」と自覚できた場合は、速やかに改めなさいということを行っています。実際には、人前で自らの過ちを認めることは容易なことではありません。自分のプライドを捨て去る必要もあります。無数の失敗への道がある中で、狭き門を行く為には、失敗への対応が重要であり、どのような場合でも全創造物の親である創造主の恩寵を自覚して、自らを素直に保つことができるかが、鍵となります。

018 Remember every act is perfect - be it good or bad - as we classify it. For every action calls for a full coordination of your mind, body and consciousness. So you grow into perfection by action and experience.

018 あらゆる行動は私達の分類によるところの良くも悪くもそれ自身、完全であることを忘れないで下さい。何故なら、あらゆる行動はあなたの心と身体、そして意識の完全なる整合を必要とするからです。ですから、あなたは行動と体験によって完全なるものに成長を遂げるのです。

【解説】

実は「行動（行為）」は「心」＋「身体」＋「意識」の完全な調和があってはじめて成り立っていると言っているのです。そのもたらす結果、或いはその目的はとにかくとして、人が行為を行う場合に、この三位一体が完全に成立していなければ、実際の行動は出来ないと述べています。行為を分析すれば、それ自体には良し悪しは本質的に無いと言っているのです。どのような行為であっても、その行為には私達が本来、目的としている「完全さ」の要素が備わっているということでしょう。

しかし、それだからと言って、どんな行為でもOKだとするのは、あやまりなのは言うまでもありません。心の指令と肉体各部の運動、それを支える目に見えないメカニズム等、「意識」と称せられる宇宙的な衝動のどれもが、協調して作用してはじめて、行動になるのです。

まずは、日常生活において、自らの足の一步を踏み出す際に、心が「先に行きたい」と思う想念と実際に「脚を前に進める」身体、そしてその脚の筋肉や体型のバランスを保つ一連の身体の動き等、様々な活動要素が円滑に調和してはじめて「歩く」という行為が行われます。そう言う意味からも、行為自体についても、どのような指示命令系統が身体に行われているか、感じ取る努力が必要かも知れません。

いずれにしても、単に「〇〇すべき、〇〇したい」とする心のみでは、体験することはできません。実際に行動する為には、「身体」と「意識」が調和されていなければなりません。

よくある話に、自分に自信を無くした場合、最悪のケースでは、目前の階段の1段も登れなくなるような事態も起こり得ますし、催眠術にかかって自らの心の力が弱くされると、極端な場合、一步も歩けなくなってしまうこともあり得ます。文中に述べられているように、私達は所詮、自らの行動とその結果として自らが経験する体験によって成長する以上は、体験を持つ為には、行動が必要であることは容易に理解されるでしょう。そういう意味から、自らの心（意思）を弱めたりすることからは、遠ざかる必要があります。

好例なのは、スポーツ選手の演技です。彼らの俊敏な演技（行動）は、「心」が「意識」のレベルまで周波数が高まり、機能が向上した場合には、それほどに高速度で高レベルな演技（行動）ができることを示していると言えるでしょう。

ジョージ・アダムスキー「生命の科学」第01課 段落019 [2007-03-29]

019 Even Jesus had to go through many unpleasant experiences and made a mistake when he drove the money changers from the Temple. For he taught, judge not. But when he realized his mistake he knelt in front of the Temple and asked his Father for forgiveness.

019 イエスでさえ多くの不快な体験を経なければなりませんでしたし、あの寺院から両替商を追い出した時は過ちを犯しました。何故なら、彼は裁くなと教えていたからです。しかし、過ちに気付いた時、彼はその寺院の正面にひざまずいて彼の父に許しを請うたのでした。

【解説】

人の成長の過程に誤ちは多いものです。また、不本意な結果に終わることもしばしばでしょう。一方的な見方で相手を判断し、行動した結果、行き過ぎた行為となってしまうこともあるでしょう。

良いものがよく分かり、世の中の悪しきものの本質が見えて来ると、とかく世間を批判し、正そうとする行動になります。

しかし、大部分の人々が地上のどうしようもない世の中で生きて行かざるを得ないのも、この星の現実です。問題はこのような苦しんでいる人々に、いかに宇宙に充ちている生命の息吹きに気付かせ、本来の安らぎを提供するかにある筈です。

行動を起さなければ何も進展しないということも確かですが、その行動は他者への哀れみやあたたかさに根ざしたものであることが必要なのです。自然界の営みが一見、無言であっても、全てが絶妙に調和して結果としては全く破壊の要素が見られないことにも留意したいものです。

020 We of today have a greater responsibility for we have more to compete with and more temptations than those who lived in the earlier days. So a greater alertness and determination is required if we are to understand and fulfill the purpose for which we were born.

020 今日の私達はより大きな責任を有しています。私達には昔の時代より多くの競争があり、多くの誘惑があるからです。ですから、私達が生まれて来た目的を理解し成就するには、より大きな警戒状態と決意が必要とされるのです。

【解説】

ここでは、昔の人々の素直さ、純粹さについて述べておきましょう。

今から約410年前、1597年2月5日、長崎で殉教したキリスト教徒26人（10人の日本人を含む）に関する記録が現存し、日本でも出版されています（「日本二十六聖人殉教記」ルイス・フロイス著、結城了悟訳、聖母の騎士社1997年発行。当時日本に滞在していた宣教師ルイス・フロイスが記述し本国に報告した記録）。

それによれば、キリスト教が日本に伝えられた当時、日本では大名をはじめ、庶民に至るまで数多くの人々がキリスト教に入信しています。その後、豊臣秀吉の禁教政策により、キリシタン弾圧が始まる訳ですが、その最初がこの長崎における26名の殉教事件でした。この本によれば、時の権力者（秀吉）が全国に君臨し、人の生死を意のままにする絶対的な権力者であったことがよく分かります。またその中で報告されていたキリスト教徒は実に心が素直で、信仰を受け入れています。当時の庶民の生活は今日とは比べようもないほど、貧しいものであったことでしょう。庶民の生活の中では、過度な競争も無く、互いに助け合うような誰もが貧しく質素な生活があった故に、素朴さ生まれたものと思われます。科学の発展も無い中で、人々は全てを自分の感性で受け止め、何が真実かを見極める必要がありました。そして、その判断が、時の権力者の意向に沿わないものであれば、命を賭けて自身の信念を貫くこともいとわなかったと言えるでしょう。

一方、科学が発展し、民主主義国家の今日においては、権力者は様々な目に見えにくい手法で、民衆をコントロールしようとしています。また、人々の実生活は、互いを利用して富を肥やすことを目指してしのぎを削っている毎日と言えるでしょう。その中で、今日、人間一人ひとりが生まれて来た本来の意義を達成するためには、更に慎重な判断と実行力が必要だと言っているのです。

021 There can be no question regarding the fact that we were born for a reason or purpose, and there could be many. If this were not true, there would be no need for human beings.

021 私達が何らかの理由或いは目的の為に生まれて来たという事実に関して何らの疑問はあり得ません。もしそれが真実でないとするなら、人類の必要性は無いことになるからです。

【解説】

私達がこの世に生まれて来たのには目的があると言っています。そもそも人類の存在意義について考えることが必要だと言っているのです。しかし、「人類」という大きな視野でなくても、自分自身、本来、生まれて来た目的は何であり、それが今日までどのように達成して来たか、実際に努力されて来たかを自省することが必要です。

人が生きて行く為には、日々必要な食物や生活に必要な資源等、多くのものが提供されています。まして、今日では地球環境問題とまで言われるように、人間が生きて行く上での影響は惑星全体にまで及ぶほど大きくなっています。

それほどに、周囲に支えられている私達ですが、実は自分がこの世に生まれるについて創造主から託されたであろう自分の目的について、これまで考えたことも無いという方も多いかも知れません。

しかし、遅すぎるということは無い訳で、御自身の目的についてもっと真面目に考察することが大切です。残念ながら、個人の内面のことは他人が立入ることはできません。死に至る前までに、その本来の道を自覚し、その方向に向けていくべくかの前進をしたいものです。

022 The major purpose for man seems to be -- an unlimited Expression of Cosmic Intelligence -- as no other form seems to have that scope of ability. Yet to do this, every phase of creation must be understood. When Jesus instructed his followers to be "about the Father's business" he had reference to this way of life. And in order to do this one must study each manifestation from the lowest to the highest.

022 人間の主な目的は、宇宙英知の限り無い表現であるように思えます。他の形有るものがそのような能力の可能性を持つとは思えないからです。しかし、これを成す為には、創造のあらゆる段階が理解されねばなりません。イエスが弟子に「父の務め」にとりかかるようにと命じた際、彼はこのような生き方との関連で述べたのです。そして、これを成す為には、人は最低位から最高位に至るまでの各々の現れを学ばなければなりません。

【解説】

人間の主要な目的は宇宙英知の表現者になることだと言っています。他の個々の創造物は生き物にせよ、鉱物にせよ、それらの固有の美しさを自ら表現しています。自然界にある全てのものは、いかなるものも、その種、特有のパターンや形式を保ち、その詳細な構造を調べれば、調べるほど、美しい側面が現れます。そして、その表現には種によって一定の枠があり、それ以上の変化を示すことはありません。

しかし、人間はそれらの枠を超えて、宇宙英知を制限無く表現できる能力があり、また表現することが本来の人間の目的だと言っているのです。

023 We find no two human being that are alike. For the different talents with which each is endowed makes the difference. But like the keys on a piano, when one learns the tone of each and strikes it accordingly a beautiful harmonious melody is the result. The opposite can be brought forth when not understood.

023 私達はそっくりな2人の人間を見つけることはありません。何故なら各々に授けられた異なる才能が相違を作り出しているからです。しかし、ピアノの鍵盤のように、人が各々の音色を学び、適切にそれを打ち鳴らせば、結果として調和のあるメロディーが生まれます。理解されなければ、その反対が引き起こされ得るでしょう。

【解説】

この世の中に「私」という存在は一つしかありません。各々が異なる才能、役目を担っていると言っています。

その違いをピアノの鍵盤のように例えています。そもそもの自分に課せられた音色（表現）とはどのようなものかを良く知ることから始める必要があると言っています。人間の常として、他人の欠点は良く分かります。しかし、これが自分のこととなると途端に分からなくなるものです。そもそも、自分に適した才能を見出す努力を行っているかも疑問です。自分自身を顧みることなく、成り行き上の日常生活を送っているのが私達です。

従って、まずは自分の才能に気付くよう努力することから始めることになります。普段とは違う側面に明るくチャレンジして自分の可能性を確かめるのも良いかも知れません。本文に言うように、人類全体を通じて流れる調和したメロディーに貢献できるよう、各自が精進することしか、全体のレベル向上は無いのです。

一方、逆説的にはなりますが、個人的体験から、世の中には自分と似ている人もいるように思っています。以前に米国に行った時、日本の私の職場の関係者と顔形や喋り方、物腰等の雰囲気似ている人物と出会ったことがあります。当然、米国人と日本人との違いはありましたが、雰囲気は大変似ていたことが印象的でした。その方とお話をしましたが、その対応や話し振りがそっくりなので、驚いた記憶があります。地球全体では、おそらく同じような思考パターンを持った人間は存外、多いのかも知れません。

自然界に目をやると、多くの生物がその種に独特な姿を見せる一方で、各個体は皆同じような顔形（かおかたち）をしているように思います。植物や昆虫等においては、各々の種で同じ顔形をしています。これを人間に当てはめたらどうなるでしょう。外見は皆一樣なので容姿を気にする必要はなくなる一方、各自が他人をひきつける為には、内面深く魅力を持たなければならないことは確かです。バッタや蝶等においては種による容姿の統一化が図られており、その中で各々の個体はある意味、命がけで生命の継続に向けての営みに自分自身を捧げています。結果としては、植物の受粉を助け、他の動物に食物を授ける役割を果す等、地上に調和ある自然の営みをもたらしています。

人間その他の動物では顔形で本人が区別できるようになっています。それはそれで便利なことではありますが、反面、容姿に捕らわれると、各自の内面についての訓練や学習という面では疎かになりがちです。外見に囚われず、内面から湧き出る各自の才能にもっと鋭敏になって、その発展に尽すことが必要です。自然の中の存在である人間にとって、各自の本来の役割を果すことがその個体の存在理由であるからです。

024 So we will endeavor to understand the self by knowing the equipment we have to work with.

024 ですから、私達は私達が日々共に働かなくてはならない道具を知ることによって自分自身を理解するよう努力する必要があるのです。

【解説】

二人と同じ人間がおらず、各自に託された才能が異なる以上、その天分を開花させるのは各自の責任です。そしてその為には先ず、自分自身を理解しようと努力することが必要になると言っています。

ここでは日本語訳では「努力」と訳していますが、原文では"endeavor"となっています。その意味合いは単に試しにやってみる「試み」に近い努力ではなく、「何とか実現しようとありとあらゆる手法を試みながら、目標に向かって一歩でも前進しようとする継続的な取組み」を意味しています。

また、その知ろうとする対象として私達自身の相棒である自らの「装置」（肉体）について研究すべきであると言っています。なお、この肉体、私達が活動する上で無くてはならないもので、いやおうなく自身の生涯の伴侶である為、"have to work with"と表現されています。

025 First -- What is a human being ? As we see the body which is an effect, we observe that it is composed of flesh, bone and liquid. And not much different than most animal forms. But that which makes up the form is never seen with the physical sight as it is made of myriads of cells. Each cell is independent yet it blends with all of the others for the common good and maintenance of the form. Just as the three billion people of the earth make up the human family. But because they have not been taught the part which they may play in life, disorder results. This disorder is minor compared to the total order on earth. For if it were not so the planet earth would be in a chaotic state. So now we must try and learn the cause of disorder.

025 第一に、人間とは何でしょう？ 人体を見ると、それは一つの結果であり、私達はそれが肉と骨、そして体液から構成されていることに気がきます。そしてそれらは大部分の動物の身体と大差が無いことがわかります。しかし、身体を作り上げているものは肉眼では決して見ることは出来ません。なぜならそれは無数の細胞から出来ているからです。一つ一つの細胞は独立していますが、同時にその形有るものの共通の目的や維持の為、他の全てのものと同様に融合しているのです。丁度、地球の30億人の人々が人類家族を作り上げているのと同様です。しかし、人々は生命において果たすべき役割を教えられて来なかった為、混乱が生じています。それでもこの混乱は地球の秩序全体と比べれば小さいものです。何故ならもし、そうでなければ、この惑星は渾沌状態になっていることでしょう。ですから、今、私達は混乱の原因を学ぼうと努力しなければならないのです。

【解説】

人間とはどのようなものを観察する際の視野の奥行きを深める必要性を述べています。肉眼ではどんなに目を凝らしてもほんのたまかな対象しか見えません。また、通常、私達は自分自身の物である（本当は「預かりもの」なのですが）自らの肉体について、実はあまり良く知りません。普段、気にかけるのは顔にシワがあるとか、ホクロがあるなど、些細なものしか目に入っておりません。しかし、真実は莫大な数の細胞があり、各々が人体という構造体を維持すべく活動しているということです。私達はこれらを「知識」として知っているに過ぎず、日常的にこれらの莫大な数の細胞の動きに気付こうとはしていません。それら微少な存在が活発に活動しているイメージに気付く必要があると言っているのです。

ここで、自分にとって最も身近な身体の部位を例に考えて見ます。私は「手」が最も身近な存在のように常に思っています。よく悪い意味で「手先」という言葉があります。それほどに、自分の意向に沿って動く器官が「手」なのです。この器官が如何に大事かということは指先の一つでもケガをすればすぐにわかります。それほどに私達の日々の生活はこの器官の助けを借りています。

その器官はどのようにして作用しているのでしょうか。こうして文を書いている時も、手は私の思いを着実に文字に変換しています。また、自分の身にどのようなことがあろうとも、常に私に随行し、用事を行ってくれます。暗い中で両手を触れて見てください。右手を通じて左手に貴方の意思を感じ取ることができるでしょう。

しかし、この部位も一つの結果であると文頭で言っています。即ち、手を動かす為、その部位が本来の活動を始める為には神経指令が必要ということになります。その指令エネルギーがその筋肉、腱、その他に正しく伝わらなければ、スムーズな動きは出来ません。脳硬塞等に罹患した方の場合、その部位の肉体上の問題は無くてもその部位を動かすことが出来ません。手を動かす指令を仲介する脳の一部に問題が生じたからです。

一方、高レベルの場合は、ピアニストの例が該当します。著名な作曲家の作品をピアニストが演奏する場合、ピアニストは楽譜に沿ってものすごい早さで鍵盤を叩きます。この場合、ピアニストの手には高速度の指令が伝達され、その指令に従って指先が連打しています。それが実現されるのは、作品のレベルに合致した伝送速度を流すだけの能力が先ず有って、その指令を受ける出力装置がそれに耐えうるまで機能を高めていることで初めて実現する訳です。

このように普段、何気なく接している自分の肉体ではありますが、私達として、身近に備わっているこれら優れた器官に改めて感謝する必要があることに気付きたいものです。

026 The average human is a mentalist governed by the ego which is itself an effect of the cause. And as the mind is the process of learning it seeks to guide itself by other material effects and there are many things that it does not understand. And the things that are not understood are feared and disliked. And the things that are pleasing to the senses (or ego mind) are liked. Yet oftimes the likable things become blocks that prevent the individual from progressively learning.

026 普通の人間はそれ自身は因の一つの結果でしかないエゴに支配されている心至上主義者です。そして心は学習の課程にいる為、心は他の物質的結果によって自分を導こうと探し求めますが、心が理解しない多くの事柄があります。そこで、理解されない事柄は恐れられ、嫌われます。また、感覚（或いはエゴの心）を喜ばせるものは好かれるのです。しかも、多くの場合、好まれる物事は進歩的な学習からそれを妨げる障害になるのです。

【解説】

成長の過程にある私達は、丁度、幼児が母親に常につき従うように、その保護者を常に求めています。結果の世界に生きている私達は、その存在の拠り所を結果（現象）世界に求めがちです。目に見えるもの、明らかに手元にあるものを土台として、自らの体験を広げながら学習を続けることは、自然の成りゆきでもあります。その為、「努力」はしていても根本的な認識対象を最初から結果（現象）世界に限界を設定している為に、現状から抜け出すことが難しいのです。

多くの場合、私達の感性は通常感覚器官では感知できない「意識」という印象レベルに発達していない為に、その認識レベルは現象にとどまっています。その場合、問題なのはとかく受け入れ側の私達の心が心地よいものを求め、一見醜いものや耳障りなもの、まずいもの、臭いものに対して、拒絶反応を起し、受け入れようとしないことです。

以前、ある達人から「美しい音楽を聴き、美しい風景を見て、美味しいものを食べることに、またそれらを求めることには問題がある。そのようなことをしてはダメだ。」というような主旨のお話を伺ったことがあります。当時はその意味は分りかねていましたが、本文に言う「心を喜ばせることを求めてはいけない」という意味であったことが、今日ようやく分ります。日常の自分を支配しているのは何か、自分がどのような時に喜び、どのようなことに悲しみ、また何に恐れるのかについて、分析する必要があります。太古の昔から繰り返されて来た人間の成長の限界を飛躍させる為にも、自分が現在、どのような要素に捕らえられているか、調べ上げることが大切です。

027 We can observe that life lends itself to all nature without divisions. And it seems that man's free will has separated him from his natural expression of life.

027 私達は生命は分け隔てなく自然全てに自らを貸し与えていることに気付きます。そして、人間の自由意思こそが人間を生命の自然な表現から分離させて来ているのです。

【解説】

「人間とは何であるか」、「自我（エゴ）の学習課程で陥りやすい課題」を述べた上で、物質世界を根底から支えている「生命」についてコメントしています。

端的に生命はあらゆるものに区別なく、貸し与えられていると言っています。ここでは「生命」について詳しくは述べていませんが、いずれにせよ、生命（いのち）の息吹き（活動）という共通の源泉によって、自然界のすべてが生かされていると言っています。これが自然が調和を保っている根本原因なのです。

しかし、私達の自由意志が私達を宇宙にあまねく生命から分離させてしまっているのです。人間だけに与えられた「自由意志」については、いずれ本文で述べられることと思いますが、ここでは、自然界の生命活動に同調出来ないでいる私達自身の問題点を指摘しています。

実は、この生命の源から離れてしまったことの問題について、おそらくほとんどの宗教や哲学が取り上げているものと思います。最近、聴いたウェイン・ダイヤーの講演記録（Dr. Wayne W. Dyer: Live Lecture 6-CD Set, "The Secrets of the Power of Intention", 2004 Hay House Inc.）の中でも"Source"（源泉）と再び結びつくことの大切さを訴えていました。しかし、実際の問題は、どうしたらその源泉に戻れるのかという点であり、単に「生命の源と一体になる」と叫んだだけでは問題解決にはなりません。その点でもこの「生命の科学」は様々な角度からその原因や解決策につながるヒントを私達に授けているものとされています。もちろん、単に理屈が頭に入っただけでは、知識が増えたに過ぎません。自らの刻々の精神活動がそれに沿って実行され、自分が体験したことを通じてのみ、理解のレベルを上げることができることとなります。この生命の源泉と一体になれば、他の自然界にあるものと同様に、常に若々しく新鮮な人生を送ることになることは間違いありません。

028 So we must first -- condition the mind which is made up of the senses to not accept the effects as the ultimate answer as it has been doing. But patiently analyze the reason for the effect before coming to any conclusion. It should not make any difference whether it be a personal effect related to one's self, or another person or form of life.

028 ですから、私達は最初に、過去にやって来たように結果を最終的な答として受け入れることの無いよう、諸感覚から成り立っている心を慣らさなければなりません。代わって、何らかの結論に到達する前にその結果に対する理由を忍耐強く分析することです。それには御自身の個人的な結果であろうと他の人の或いは他の生命体についてであろうと何ら違いは無いはずで。

【解説】

前項 (026) で述べられているように、私達の心は学習課程にある訳ですが、具体的にはどのような姿勢で望んだら良いのかをここでは明確にしています。つまり、当面、私達にとっては目の前にある結果の世界しか目に入らない（認識できない）のですが、その背景にある（それを支えている、或いはその原因となっている）様々な要素に気付くように努力せよと言っています。

とかく私達は結論を急ぎがちです。私達の心は「好き嫌い」や「善し悪し」等の判断（裁き）を半ば自動的に下し、世の中全てを自分中心に見て来ました。そこで必要となるのは心の訓練です。原文では"condition"（訓練する、慣らす）となっています。自らの心を事物の原因（それに至った要因）について知ろうと仕向けるようにと言っています。これらの思考パターンを繰り返し訓練することによって、私達の知覚能力は高められることを示唆しているのです。

また、ここで必要となるのは、心の動きを客観的に見ることではないでしょうか。自分の心の動きを見るためには、騒がしい現象世界にあっても、丁度鏡のように静かな水面がわずかな波紋にも反応するように、心が微妙な印象をも感じ取る鋭敏さを備える必要があります。こうした因に対する絶えざる探究心と感受性を日々の生活の中で育成することが必要だということです。心の習慣を変えることは容易ではないのですが、浮ついた心を落ち着かせ、事物の背後を支えている因なる要素へ自らの関心を高める努力を忍耐強く続ければ、成果が出ることに間違いはありません。

029 As an example we will use the form of a tree and analyze its purpose. As we observe the effect we find that its services are many, both as a living tree and the products that can be made from it. For many useful things are made from the wood of its trunk and it fertilizes the earth by dropping its leaves. But we do not see the energy or life force which emanates from it and without which we would not have the pure air which is found in virgin forests. For it transmutes monoxide gas to oxygen which is essential to life. And all plant life serves in this field.

029 例として、樹木を取り上げることとし、その目的を分析しましょう。私達はその結果を観察すると、私達は生きている樹木及びにそれから作られる製品共に木がもたらす便益は多種に及ぶことを発見します。何故なら、木材からは様々な有用な物が作られますし、その葉を落すことで土壌を肥沃にするからです。しかし、私達は樹木から発せられているエネルギー、生命力は見えていません。その生命力が無ければ、処女林に見られる純粋な空気は生じないでしょう。何故なら、樹木は一酸化炭素ガスを生命に必須である酸素に変えるからです。そして全ての植物生命体はこの分野で務めを果しているのです。

【解説】

樹木を例に具体的な分析例を示しています。私達は道端に生える街路樹を見ても、普段は余り印象を持ちません。私達は自分自身のことと常に頭がいっぱいで、地上に共生しているその他の生き物まで関心が回らないのが実状なのです。

さて、樹木ですが、良く見ると春夏秋冬、様々な変化を見せています。春には芽吹きを、夏には生い茂った新緑で周囲を爽やかな空気にしますし、秋には落葉の舞いを見せてやがて来る冬の到来を知らまします。そして冬には、枝先の芽が寒さに耐える姿を見せています。そのような樹木の変化はいうまでもなく、誰もが認める（どんな鈍感な人間でも気付く筈の）生きている証です。また、本文に書かれているように、樹木は木材として私達の日常生活に不可欠な様々な生活用品や家具等の材料としても役立っています。また、植物の呼吸作用として葉から吸収した二酸化炭素を一方では動物が必要とする酸素に変え、他方では炭水化物の養分を葉や根、茎に蓄え、動物の食糧としても提供しています。

これら樹木は惑星上の一大家族の一員としての自らの役目を果していることは、ちょっとわずかの時間、観察すればこのように分かる筈なのです。知識としては、十分、私達は教えられています。問題は、如何に自分自身の日常的な感覚の理解力をそのレベルまで高めるかにあります。目に見えない生命力を感じることを、感じようとするのが大切で、これらの感受性を高める努力は、ある意味、芸術家や宗教者の精進や修行と近いとも言えるかも知れません。

注：原文では"monoxide"（一酸化物）となっています。通常、植物は二酸化炭素（"carbon dioxide"）を酸素に変える「光合成」を行うとするのが定説であり、原文の"monoxide"は"carbon dioxide"、あるいは"dioxide"の誤りかと思いますが、原文に従って敢えて「一酸化炭素」と訳しています。

030 In observing the effect of forms we do not see the liquids or life blood, which we call sap in the tree, which flows through it making it a living thing. Nor do we see the roots in the depths of the earth and the work that they do in drawing energy from the earth unto themselves. Nor do we hear the molecules that make the form speak to each other in guiding it to the fulfillment of its purpose. This could be called the cause behind the effect.

030 その形ある結果物を観察する時において、私達は木の中の樹液と呼ぶ液体、生命を支える血液を見ていません。しかし、それは木の中を流れてそれを生き物と成しているのです。私達はまた、地表深くある根を見ることもありませんし、根が木々に土壌からエネルギーを引き出す為に果す仕事を見ていません。また、私達はその形有るものを構成する分子が互いにその形あるものの目的を果すために導く中で、互いに話しをする声を聞くこともありません。これは結果の背後にある因と呼べるものでしょう。

【解説】

樹木についての観察の有り様を本文では示しています。樹木はそれほどに私達の身近な存在なのかも知れません。

古来より、日本では巨木に対して神（生命）が宿るとして畏敬の念を持って大切にしてきました。今日残る千葉県清澄山の「千年杉」をはじめとして各地の神社や寺院に残る杉や楠の巨木はいずれも、こうした日本人の樹木に対する尊敬の証しでもあります。また、古代の日本には文化史的には「神人融合」の時代があったとされています。西田直二郎「日本文化史序説」（昭和7年発行、改造社）には以下の記述があります。「『草木ことごとくよくものをいい』。また『天地わかるの代、草木ものかたりせし時』ありとしたのは、古代の日本人が、わが住む世界について考えたところである。われらの祖先はその四周の山川草木のことごとくから、よく生ける声を聞いたのである。このころのうちには自然の事象と人間の生命との区分がなお明らかについていない。而してこれはまた神と人との境がまだまだ大きく分けられていない状態であった。かかるころの裡には神はつねに人とともにある。（以下、略）」

この「自然と人間についての生命の区別が無い」ことや、「神（創造主）と人との境が無い」とする日本古代の概念は、この「生命の科学」本文の言う樹木の内部の生命を認識する観察に極めて類似しているように思われます。目に見えない（因に属する）生命活動を日常的に観察できる感性については、わが国古代の人々の方がはるかに鋭敏であったと言えるかも知れません。また、そのような感性を持てば、自分よりはるかに長年月生きて来た巨木に対し、畏敬を持って接するのは当然のことなのです。

031 Now we must school ourselves to see the cause and the effect manifesting as One when we look at an effect. Form, we recognize with our physical sight as an effect to an effect. The mind must become aware of cause through consciousness. The moment that your eyes glance upon a form the consciousness will give the mind an impression of the life within the form. And you become single minded, as Jesus said man should be.

031 そこで、私達は一つの結果を見る時は、原因と結果が一体となって現れていることを見るように自分自身を訓練しなければなりません。私達は形あるものを自分の肉眼という結果に対して一つの結果として認識します。しかし、心は意識を通じて因について気付くようにならなくてはなりません。一つの形有るものをあなたの目が一瞥した瞬間、意識は形有るものの内部にある生命の印象を心に与えるでしょう。そのようにして、あなたはイエスが人はそうあるべきと言ったように二心の無い状態になるのです。

【解説】

如何なる物を見る時も、私達はその物をもたらした原因と現れた結果を一体のものとして見るように自分自身を「訓練せよ」と言っています。この場合、「訓練」としてはありますが、原文では"school"（教育する、調教する、学校で学ぶように自分を成長させる）となっており、やみくもな（体力まかせの）苦行ではありません。もっと穏やかな学習課程を想定していることに注意したいと思います。

さて、これまで再三、述べられて来たように、事物を見た際にその背後にある（因なる）要素にも同時に気付き、それらが一体となっていることを認識するようにと言っています。これを日常生活に応用し、日々の生活を学校のように見なして、個々人が自らの責任において成長して行くことが求められています。

おそらく、その成果が最もよく現れるのは芸術の分野かも知れません。例えば写真。皆が同じものを見ている、また、同じ道具（カメラ）を持っていても、写真家と一般の人とでは、その作品には大きな差が出るものです。この違いは何処にあるのでしょうか。写真家は、対象の中に秘められた美しさを発見し、それをカメラの視野に表現しようとし、自分が感動したものをもっと率直に他人に分かるように切り取って端的に表現しようとしているのです。人に感動を与えるのが芸術だとすれば、まず、自分が人に分かち与えるまでの感動（印象）を得ることが必要です。「心一つになる」（二心の無い）と本文にあります。万物の背後にあってそれを支えているもの、その相手こそ、万物を創造している創造主の心であることに気付くことができれば、私達の日常生活は素晴らしいものに一変することでしょう。

032 When the form is seen with the mind and the consciousness reveals the cause we then see the visible and invisible at the same time. i.e. If you start making a plan for a house by drawing it on paper, you are producing the first effect that comes to the mind by conscious impression. You are using the consciousness and the mind as one. The consciousness alerts the mind what the design is to be. After the plan is drawn you may make many changes due to the experience you have had with houses. Even then the consciousness will point out the improvements that can be made which were not present in the houses you have known.

032 形有るものが心で見られ、意識がその因を漏らす時、私達は目に見えるものと見えないものを同時に見るようになります。即ち、もしあなたが紙に図を描くことによって家を作る計画を立て始めるならば、あなたは意識の印象によって心にやってくる最初の結果を作り上げていることになります。あなたは意識と心をついに用いているからです。意識は心にデザインは如何にあるべきかを注意します。計画が図面化された後、あなたは家について得たこれまでの経験に基づき多くの修正を行うかも知れません。しかしそれでも、意識はあなたがこれまで知っている家には存在しない改善点があることを指摘するでしょう。

【解説】

これまで、事物の背後にある原因を見るようにと述べて来ましたが、ここでは逆に、未だ現実世界に無いものが、原因の世界からどのように結果の世界に生まれるのかについて示しています。家の建築を例にとって印象が心に受け入れられ、図面に仕上がるまでを説明しています。この場合、当初、私達の心には家については「こうしたい」という希望はありますが、通常、それらは漠然としたものに過ぎません。それでも、家の図面を引きはじめるのですが、この時、心は因なる「意識」の助けを借りようとしていると言うのです。

よく考えれば、この種のことは私達自身の日常においても、何か新しいことを始める時によく経験することです。このような場合、当初、私達（の心）は果たしてそれがどのようにまとまるか、全く検討もつきません。只、心を静めて「何とか良いものが出来ないものか」とアイデア（印象）が湧いて来るのを待っています。この時、私達は意識の指導に耳を傾けているのだと言っています。心が意識の指導を受け入れて（印象を受け入れて）、自分の手を使って図に表現すれば、成果（結果）が得られることになります。これは意識と各自の心の共同作業であると本文では述べています。

実際、多くの創造的な仕事においては、既存の感覚器官では捉え切れない世界に多くの部分を依存しています。作曲家にメロディーのひらめきを与えるのも、画家にモチーフを授けるのも、この目に見えない意識です。この本文の例示を少し考えただけでも、私達は日々の生活や仕事の中で、実は多くの部分を因なる意識との共同作業によって行っていることに気がつくことでしょう。

033 This could be called the development of the mind in intelligence. There is really nothing that you do that does not have the consciousness behind it. Your mind may change and modify an impression either for good or bad results, depending upon the mind's intelligence or how well it accepts the instructions. To produce good results the mind must have total faith in consciousness and permit itself to be guided by it.

033 これは知性における心の発達と呼んでもよいでしょう。あなたが成すことで背後に意識の無いものはありません。あなたの心は、その心の知性に依存して、あるいは意識の示唆を如何に良く聞き入れるかによって、良い結果となるにせよ悪い結果になるにせよ、印象を変化させ或いは修正するかも知れません。しかし、良い結果をもたらす為には、心は意識に全信頼を持ち、自らが意識によって導かれることを良しとしなければなりません。

【解説】

ポイントは、私達の日々の行動において、実は意識の助けを借りずに行われているものは無いということです。

前項(032)の本文で述べられているように、私達の日々の活動は、印象を基としていますが、その印象（アイデア）は「意識」から来ているものだと言っています。自分自身の経験から言っても、「あのとき、最初の印象に従っていれば良かった」等、後から思い出すように、私達の心は通常、やって来る意識の指導（印象）を素直には受け入れないものです。一つ一つ、自分（心）が判断し、これまでの経験に無い場合には、その印象をねじまげ、勝手な解釈をしがちです。

誰もが、演奏家が楽譜を見ること無く、長い曲を完璧に再現するのを見て驚嘆しますが、まさにその姿は宇宙を流れる意識という大英知に人間の心が完全に従っている光景です。

しかし、直ちにそのような理想的レベルに到達することは出来ません。まずは第一学年からで、各自の心を意識の指導の声に耳を傾けさせ、心を少しずつ本来の姿に純化することです。当面は指導の手を差し伸べている意識なる存在に信頼を寄せることが大切だと言っています。

ラジオやテレビの場合と同様、いかに意識が印象を発しようとも、肝心の受像機である心がそれらを受信できる感度が無い、あるいはせっかく受信しても自分の志向に合わないからといってスイッチを切ってしまったら、役立つ内容を視聴者に伝えることが出来ないのと似ているように思われます。

034 Here you may say that you do not wish to follow blind faith. Yet to accomplish what you feel down deep within yourself that you can -- you must use it. For what is blind faith? When you were planning your house you were using blind faith for the house was not present as a finished structure of concrete and plaster. Whatever you do in your life is performed with blind faith, for you never know what the results will be in any act. Whether walking or riding or whatever you are doing you hope that all will be well, but you are never sure. In fact 99 % of our life depends upon blind faith. I leave the 1 % to past experiences, but even there you are not sure the results will be the same if repeated.

034 ここにおいてあなたは、盲目的な信頼に従がおうとは思わないと言うかも知れません。しかし、あなた自身の中の奥底であなたが出来ると感じていることを達成する為には、あなたはそれを用いなければなりません。何故なら、盲目的な信頼とは何でしょうか？あなたがあなたの家を計画している時、あなたは盲目的な信頼を用いています。その家はコンクリートとシックい仕上げられた構造物として存在していないからです。あなたが人生の中で何を成そうと、それは盲目的な信頼とともに成されます。あなたはいかなる行動においても結果がどのようなになるかはわからないからです。歩いている、或いは乗り物に乗っている時、或いはどのようなことをしているにかかわらず、あなたはすべてはうまく行くように願いますが、確信を得ることはありません。実際には、あなたの人生の99%は盲目的な信頼に頼っているのです。私は残りの1%を過去の体験に残していますが、それでさえ、あなたは仮に繰り返しでであったとしても結果が同じになるかどうかは確かではないのです。

【解説】

ここでのポイントは盲目的な信頼です。（従前は"faith"を"信念"と訳される例が多かったのですが、faithには信仰の意味もあり、"信念"という"やみくも的"、"断定的"なニュアンスを避ける上から創造主への信仰の意味合いも込めて、"信頼"としました。）

これまで述べて来たように、何かを創り出す際に、私達は実際には99%、この盲目的な意識への信頼関係を活用していることに気付く必要があります。私達の心がどうさわごうとも、物事が生まれる際の一つ一つの過程を少し考えれば、私達は常に未知なる存在からの指導（印象）に従っていることを認めざるを得なくなります。

逆に言えば、それほどに私達は日常的に意識から、その時々に必要な印象を受けているのです。心が今後、よりスムーズに宇宙の源泉から来る印象を取り入れやすくする為には、その存在に対して、信頼を寄せ、印象の流れを妨げないようにすることが重要です。それが、意識に対する全面的な信頼が求められる由縁です。

035 Faith is the foundation of all manifestations. And one without faith is like a ship without a rudder or captain. Once your mind has trust in faith, it will trust the instructions of consciousness, thus allowing the consciousness and mind to work as one. Then the consciousness of God which is the cause, and the sense mind of man which is the effect, have been united. And the biggest Mystery of Life has been dissolved.

035 信頼は全ての創造の現れの基礎です。そして信頼の無い者は舵や船長のいない船のようなものです。ひとたびあなたの心が創造主への信頼に委ねれば、心は意識の指導を信頼するようになり、その結果、意識と心が一体として働くようにさせることとなります。そうすれば因である神の意識と結果である人間の感覚の心が一体となって結びつくのです。そして生命の最大の神秘が氷解することになるのです。

【解説】

あらゆる創造作用において、この意識への信頼というものが、基礎であり、基本です。

そして大事なのは、私達がどのような進路を目指すにせよ、意識は時々に必要なアドバイス、指導的印象を各自に授け続けているという認識です。本文では船の進路を例えています。様々な行く手の困難に対しても、意識を信頼すれば必ず目的地まで導いてくれると言っています。

ここで、ポイントとなるのは、私達の心が如何に意識が授ける指導印象を受け入れ、自らの行動に結び付けるかであると言っています。どんなに思いを込めたメッセージも、それを受け取るべき者が、それを無視したり、読もうとしなければ、本人の役に立たないのと同様です。しかし、直接会えなくとも、必要に応じて的確にアドバイスを送ってくれる師、あるいは父母のアドバイスは有り難いものです。私達は、この目に見えない存在、意識に対し、もっと感謝し、信頼を寄せる必要があると言っているのです。

036 What is consciousness ? No one definitely knows except that it is a life force that is the creator of all forms. For without consciousness man would not be a living being. And in man the best way that we can describe it is -- a state of alertness. And a state of alertness is a state of feeling or awareness. In the animal it is known as instinct which does not have to depend upon sound. The language of consciousness is the language of the Creator that one feels when he becomes conscious of things not yet experienced. Jesus expressed it in these words -- Blessed are those who see and hear not yet believe. For they shall enter the Kingdom of Heaven. And the kingdom of heaven was used in reference to the realm of Cause, a sea of consciousness or everlasting life. For consciousness proceeds all manifestation.

036 意識とは何でしょう？誰一人、それが全ての形有るものの創造主である生命力であるということ以外、明確には知ってはいません。何故なら意識無くしては、人は生き物とはならないだろうからです。そして人間においてはそれを最も適切に表現するとすれば、それは警戒の状態ということができましょう。そして警戒の状態というのは印象もしくは気付きの状態です。動物においてはそれは音声に頼らない本能として知られています。意識の言語は未だ体験していない物事について意識的になる時に感じる創造主の言語なのです。イエスはそれをこのような言葉で表現しました。「見もせず、聞きもしないのに信ずる者は幸いなり。何故なら彼等は天の王国に入るだろうからである。」そしてこの天の王国とは因の領域、即ち意識の海、永続する生命について用いられたのでした。何故なら意識は全ての創造の現れに先立つからです。

【解説】

この第一課は、意識の存在と心の関わりについて述べています。通常の論説では言葉の定義が有って、それに基づいた論理展開が行われますが、この「生命の科学」は違います。その理由は、問題となる「意識」の存在は、単に「知識」として記憶するのではダメで、自らが日常的に自覚、認識することが求められていることにあります。これは実際、難しい課題で、決して論理的な組み立てを見せればよいというものではありません。意識に関する一つ一つの要素、側面を学習者に実感させることが必要で、その積み重ねによって、やがてハメ絵パズルのように、全体のイメージが掴めるようになるよう、本文は構成されているように思われます。

そこで、これまで述べて来たことのおさらいです。おぼろげながら、これまでの例示から私達は、目に見えない「意識」と呼ばれる存在から常にインスピレーションを受けて日々を送っていることを自覚できました。この「意識」とはどのような物か、という問いに対して、本書では「警戒の状態」としてしています。目に見えない空間からやってくる印象に対して絶えずレーダーのパラボラを回転させるように、絶えざる警戒の状態、いつでもやってくる印象をキャッチでき、意識の指導を受け入れられるよう心を静かにしかも感度を高めて置く状況が大切だと言っています。

そして、それらの言葉になっていない言わば原始の段階の意志（印象）を心に受け入れられることが、本講座の目的の一つであり、このことは、他の多くの宗教修行の目的と類似しています。この能力は実は自然界の生き物には本来備わっていると本文は述べています。日本には毎年、遠く南半球から或いは北極圏からも、多くの渡り鳥が飛来します。小さな身体一つで何千キロもの距離を飛行する渡り鳥の例を見ても、彼等はこの意識の指導に自らの命を託して、毎年、冒険旅行を行っていることが分ります。しかも、人間にありがちな疲れや苦痛の表情を何一つ見せず、命の危険に取り囲まれているにも関わらず、むしろ、一瞬一瞬を楽しみながら、所定の生命の営みを続けています。私達こそ、これら野生動物が備えている意識なるものへの信頼の姿勢こそ学ばなければならないと言えるでしょう。

037 You see we are like a diamond in the rough. When man first found the substance that turned out to be a diamond, he saw a rock through his physical sense of sight but something inside of him told him that this rock was different from others. It was his consciousness and not his mind that alerted him to the fact that if he would cut and polish it, it would be the most beautiful thing that he had ever seen. Radiating every color conceivable. But this result would require patience and a lot of hard work, even pain at times when cut by the sharp edges. Every man is a diamond in the rough and there are many rough edges that must be removed before he can see the purity of himself.

037 私達は未加工のダイヤモンドのような物です。人が後でダイヤモンドと判明する物を最初に発見した時、人は自分の肉体の視覚を通じては一つの岩を見たに過ぎないのですが、自分の内部の何かが彼にこの岩はその他とは違うと知らせたのです。彼にもしそれをカットとして磨けばありとあらゆる色彩を放ち、これまで見たことのないような最も美しいものになるという事実を警告したのは彼の意識であり、彼の心ではありません。しかし、このような結果に至るには忍耐と努力、更には鋭い刃先でカットされる時の痛みさえ必要とされることでしょう。すべての人間は未加工のダイヤモンドであり、自分自身の純粋さを見い出す為にはそれ以前に多くの粗い角を取り除かなければなりません。

【解説】

この節では私達自身をダイヤの原石に例えています。確かに私達人間は他の創造物に無い優れた要素を有しています。しかし、実際にはその本来の輝く部分は、もっぱら人間社会の塵垢に覆われています。事実、毎日の通勤の電車で見える人々の顔に、喜びを見い出すことはありません。電車の窓から夜明けの空に輝く太陽が昇る光景を見て、宇宙を感じる人も少ないようです。このように、この惑星における長年の社会システムの支配と各個人が背負っている環境その他の影響から、私達地球の人間は、その元来の輝きを蝕まれ、各自がようやくと生きている状態が続いています。

この状況を打開するには、私達が私達自身の本質を知ろうと努力し、ある場合にはこれまでの自尊心を打ち砕き、自己（エゴ）を見つめ直して、不要な習慣を打破することが必要です。

自身（原石）から不要なものを取り去って、本来の輝く美しい要素を現すには、それなりの苦痛が伴います。しかし、それを躊躇し尻込みしては、何事も達成されません。

ここで、自らの純粋さを現すために不要なものを取り去ることに関係して、ジェームズ・アレン（James Allen 1864-1912）が"As a Man Thinketh"の中で「進歩に必要な自己犠牲」について述べている部分を参考までに引用しましょう。（出典は"As a Man Thinketh" in "The Wisdom of James Allen Five Classic Works", Laurel Creek Press, San Diego, California 2004, p.27.）

"Men are anxious to improve their circumstances, but are unwilling to improve themselves; they therefore remain bound. The man who does not shrink from self-crucifixion can never fail to accomplish the object upon which his heart is set. This is as true of earthly as of heavenly things. Even the man whose sole object is to acquire wealth must be prepared to make great personal sacrifices before he can accomplish his object; and how much more so he who would achieve a strong and well-poised life? "

"人は自分達の環境を改善しようとやっきになっていますが、自分達自身を改善しようとはしないものです。だから束縛されたままなのです。自己犠牲から尻込みしない者に自らの心が望む目的が達成できないことはありません。このことは地上でも、天上でも同じく真実なのです。富を獲得しようとするのが唯一の目的である人でさえ、その目的を達成するためには、その前にいつでも大いなる個人的な犠牲を成すよう備えがなければなりません。それを考えても強く、落ち着いた生活を達成するには、それだけ多くの犠牲が必要と言えるのでは無いでしょうか。"

人の進歩にとって、不必要なもの、不都合なものを自ら進んで取り除く（喜捨の）覚悟が必要だと言っているのです。

038 This is not a pleasant process for each removal, in most cases, will cause a pain of one kind or another. But the more pain he is able to endure -- the finer the stone will be.

038 これは多くの場合、心地よい過程ではありません。ひとつひとつの取り除き作業にあれやこれやの痛みをもたらすだろうからです。しかし、その者がより多く痛みに耐えられればそれだけ、よりすばらしい宝石になることでしょう。

【解説】

自身の純粋さを発現する上で妨げになる要素は進んで取り去らねばならないのですが、これは、快・不快に分ければ、実は不快なものになると言っています。つまり、私達の心にとっては、当初は決して心地よい体験ではないのです。しかし、ある意味（心にとって）辛い体験でも、それに耐えれば、次なる世界が開けると言っています。丁度、筋力トレーニングにおいて自分の限界近くまでのウェイトをかけて訓練することが、必要なことと似ています。このようなジムでの訓練は、やがて自分の筋力アップに繋がるのが分かっている為、皆、自ら進んで訓練に励むことができる訳ですが、自身の心についてはどのような事柄を指すのでしょうか。

まず、その前にそもそも自分が取り去るべき所は何処かを探し出すことが必要になります。例えば他人が素晴らしい才能を発揮している時、或いは人格的に優れた人物の足跡に触れた時、正直に自分自身と比較すれば、自身の欠点にも気付くことが出来ます。また、逆に他人が地上の習慣に陥って惰性の思考パターンに埋没して行くのを見て、自分自身にある同様の要素に気付く必要もあるでしょう。

しかし、病気の場合と同様に、治療や苦痛に耐えられる体力も考慮して一度に全ての患部を治療することは得策ではありません。時々状況に応じて、一つ一つ取組んで行くことが必要だということです。もちろん、そのような辛い体験にも向き合っていくのは、前節まで述べて来たように、宇宙を貫く創造主の力が現存していることに気付き、例え一時、苦痛を味わおうともその暖かい指導の御手に自我を委ねることが出来るからに他なりません。

039 A perfect diamond will reflect pure light from each facet that is cut upon it, and there can be no imperfections if the cosmic frequencies are to manifest in full.

039 完璧なダイヤモンドはカットされた一つ一つの面から純粋な光を反射するでしょうし、宇宙の諸振動が溢れるほどに現わされるなら、欠点などというものはあり得ない筈です。

【解説】

多くの苦痛を経て到達する私達自身は、最終的にカットされた宝石のダイヤモンドに例えられています。ここでは、ダイヤの輝きについて述べていますが、注意したいのは輝くダイヤはそれ自体から光を作り出しているのではないということでしょう。外からもたらされた光を自らの多才な表現分野を通じて余す所無く100%反射し、周囲にその美しい輝きを無償で与えていることに気付きたいものです。

言い換えれば、私達自身は自ら輝くようなものではなく、意識からもたらされる光のパワーに対し、何らの変更も加えることなく、個々人の方法や分野で外部に向けて多面的に反射し表現する中で、私達自身が無垢の光輝く存在になると言っているのです。真に美しい存在とはこのようなものと言えるでしょう。

040 Our habits of thinking in relation to past and present teachings in all fields of life are the rough spots that must be removed. Some will be harder to remove than others, but determination of purpose will bring the desired results. Then will come the polishing or establishing of new habits which perhaps will not be easy or pleasant at first. But when all of this is accomplished the Glory of God will manifest through the form once known as man.

040 生命の全ての分野についての私達の思考習慣は取り除かなければならない荒削りな汚点なのです。ある部分は他より取り除くのがより困難かも知れませんが、目標に向けた決意は望む結果をもたらすでしょう。その後、研摩即ち、最初は容易でも快適でもない新しい習慣が来ることになるのです。しかし、この全てが達成される時、神の栄光が人として知られる形有る者を通じて現われるでしょう。

【解説】

ここでは、取り除かなければならないものは、私達の長年の思考習慣であると述べています。こびりついた古い習慣を取り除いて、本来の意識の指導を受け入れる態勢を構築し、それを新しい習慣とせよと言っています。

ポイントは継続の力であると思われれます。何事もそうですが、物事を始める時、最初は苦勞するのですが、回を重ねるにつれ、次第にうまく出来るようになるものです。また、継続することによって、良くも悪くも大きな影響を及ぼすことは言うまでもありません。ブランコの揺れと同じように、少しずつの揺れでも、回を重ねるにつれて大きな振幅（影響）となる訳です。

まして日常の思考パターンのように時々刻々の場合は、なおさらその影響は顕著なものになる筈です。私達がこれまで続けて来た自我（エゴ）を中心とした世界観は、何千年もの間、地上で受け継がれて来た訳ですから、これを一朝一夕に改めることは容易ではありません。しかし、ここではむしろ、新しい思考習慣を開始することの大切さを述べ、一度、各自の思考パターンがその方向に転換し始めれば、やがて人間本来の輝きが現れることを確認しています。

041 It has been said that a rolling stone gathers no moss. But moss used in reference to man's accumulation of things has deterred his growth in cosmic intelligence. But the rolling one becomes polished by striking problems or other rocks and thus the debris is removed.

041 転がる石には苔が付かないと言われています。しかし、人による物事の蓄積に関連して用いられる苔は人の宇宙的知性における成長を遅らせて来ました。しかし、転がる石は諸問題や他の石とぶつかることによって、不要なものが取り除かれるのです。

【解説】

活動（行動）によってのみ、自分が磨かれるということでしょう。何事も新しい体験を通じて学ぶということ。もちろん、多くの場合、その当時の自分自身の限界や運不運も重なって、思い通りの結果にならないことも多いものです。しかし、少なくともその時期の努力によって、様々な出会いがあり、自分自身の成長があります。逆に、従前の環境に安住しては、やがて苔むす石のように、習慣（悪弊）が自身本来の美しさを覆ってしまうと言っています。

元来、山の頂きに置かれたゴツゴツの石も、斜面を転げ落ち、川の流れて乗って下流に流された末、遂には広々とした河口の河原に到達します。多くの急流を越え、大雨がもたらす濁流の最中にも耐えた後に辿り着いた河口では、石は皆、角張っていた鼻先が削り取られ、丸みを帯びたものばかりとなっています。そしてその表面には石を構成する鉱物組織本来の地模様が美しく出現しています。多くの苦痛に逢いながらも、またどんなに長年月かかろうとも、諦めずに精進して来た石たちの到達した姿がそこにあります。

042 The real beauty of man's finer abilities has become covered with moss and lost to his vision. For all that he can see is the moss which is a parasite that lives on the body of another form. This is equivalent to human habits that cover the real man. While the rolling rock may come up against many problems and rocks twice its size and endure pain while bumping against them and losing parts of itself, it keeps on rolling. And finally it is polished to a high degree and shows the colors and minerals of which it is made. And in some rocks beautiful designs are formed when the minerals by the law of affinity adhere to one another.

042 人間の繊細な能力に関する真の美しさは苔に被われ、見失われています。人が見ることができるもの全てはその肉体あるいはその他の形有るものにとりついて生きている寄生生物である苔なのです。これは真実の人間を被う人間の習慣に相当しています。転がる岩は多くの問題やその大きさの2倍もある岩に出くわして、衝突して痛みを堪え、自らの一部を失いながら、それは転がり続けます。そして、最後にはそれは高度に磨き抜かれ、それを造り上げている様々な色彩や鉱物を示すようになるのです。そして岩の中には鉱物が親和の法則によって互にくっつきあうことにより美しい模様を形作られているのです。

【解説】

人間は習慣の奴隷であり、習慣こそ人間に寄生し人間本来の持つ繊細な才能を覆い尽くしている存在だと言っています。私達個人個人には元来、芸術家と同じ鋭敏な感性や表現力が備わっているのですが、この寄生する苔のため、私達の才能は埋もれています。それを取り去るには、転がる岩が象徴するように、行動（努力）することだと言っているのです。様々な経験を続け、遂には本来の持つ美しさを体現することが出来ると諭しています。

各人に与えられた時間を価値ある内容とするためにも、毎日毎日、一刻一刻をその人間本来の道に向かって精一杯歩み続けるならば、例えその過程で苦しい体験をすることがあっても、遂には各々の美しさを体現させ、他者の手本となることが出来ることでしょうか。つまりは、次の瞬間、自分はどのような想念を受け入れようとしているのか、どのような行動をとろうとするのか等、一瞬一瞬の積み重ねの総和が人生を創り出すことになるのです。

043 It may take ages to do this, but through patience and determination a human can express this beauty in ever increasing fineness. And thus become The Christ in God's Kingdom.

043 このことを成すには年月を要するかも知れません。しかし、忍耐と決心を通じて、人間は永遠に高まる繊細さの中、この美しさを表現することができます。そして、このようにすれば、人間は神の王国におけるキリストになるのです。

【解説】

岩が転がりながら、時々課題にぶつかり、身を削ってもなお、歩みを止めずに遂にはその穏やかな形と内部に秘めた美しい地模様を体現するまでには長年月を要します。ですから、成し遂げる為には何よりも忍耐強く、確信を持ち続けることが必要だと言っています。

しかし、これを宇宙を流れる永劫の時間軸から見れば、その進化の歩みは目覚ましいものであるかも知れません。ひと粒の種子が荒野に落ちた後、芽を出し、根を伸ばす過程で、その新芽を青虫に食べられ、伸ばしたばかりの枝が大風に折られても、諦めず陽の光を求めて背を伸ばして行けば、やがて周囲に木陰を与え、様々な生き物のすみかを提供する大樹に成長できるでしょう。その美しさは荒野（地球）を緑豊かな楽園に変える源となるかも知れません。創造主の王国にとっての救世主（キリスト）に成り得ると言っているのです。それほどに、この「生命の科学」を学ぶ者に託された思いは重く大きいと言えるでしょう。

044 So the first thing a student of life should do is to cultivate the ever present awareness of Cause and Effect. Where not only the mind will see the form as it has in the past, but also it will permit the consciousness to reveal the invisible supporter of the form. It will be like driving a car with full awareness of all of its working parts which produces the power, that the sight does not see.

044 ですから、生命の探究者は原因と結果に関する常時の警戒感を養うことを最初にしなければなりません。心がこれまでそうであったように形を見る他に、意識が形有るものの目に見えない後ろだてを明かすことを容認させることです。それは自動車を視覚では見えないその動力をつくり出す作動部品の全てを完全に意識しながら運転することに似ています。

【解説】

ここ（第1課）でのポイントは、私達学習者が最初に取り組むべきことは、因なるものと結果なるものに対する同時的であつ、不断の気付き（警戒）であると言っています。そのような心の状態を養う（"cultivate" 耕す）ことによって、これまで通り心が姿形を見ると同時に、意識はその形を支えている内実を印象によって心に伝えます。その結果、私達は因なるものと結果なるものを同時に認識することが出来ると言うのです。

一つのものを見てもそれを支える目に見えない存在に気付くことは、物事の本質を見抜くことであり、身の回りの出来事や事物が実は、壮大な宇宙意識の作用で成り立っている現実気付くことでもあります。

長い時代を通じて、私達は何度となく文明を破滅させて来ており、現在の文明も多くの戦いや苦難の積み重ねが続いています。しかし、大自然、大宇宙を見るとそこには生命のstruggle(戦い)はあるにせよ、細部にわたり調和した姿があります。その違いは意識なる各々の存在の拠り所を不断に認識し、自らの価値をその意識に向けているかどうかにかかっていると云えるかも知れません。

確かに滅びに至る道は数多いと言わざるを得ません。物欲に走るばかりが誤った脇道とは限りません。私達の認識力、知覚力には限界がある以上、心の探究、創造主へ求道の道程にあつても、自身の心の発達段階を越えて余りに先を急ぐと、神秘主義や教条主義に陥り、道を外すことにもなりかねません。そこで地に足をつけて身の回りの自然観察、事物の背景分析を通じて、結果と原因を一体として観察することが大切になります。こうすれば、事物に対する理解力も少しずつ深まり、着実な学習を続けられることとなります。

ジョージ・アダムスキー「生命の科学」第01課 段落045 [2007-04-25]

045 Just reading this lesson will be of very little value but daily and momentary practice will bring results. When you have questions pertaining to any of the lessons you should write them down. And if you do not find the answer in the forth coming lessons after receiving three, you may send them to me.

045 ただ、この教科を読むだけでは何らの価値にもなりません、日々のそして一瞬の実践が結果をもたらすことでしょう。この教科のどの部分についてであれ、疑問がある時は、それらを書きとめて下さい。そしてもし、3課を受取った後もあなたが次ぎに来る教科までに回答を見つけられなければ、それらの疑問を私に送って戴いても構いません。

【解説】

第1課を終えるに当って、アダムスキーは学習者にこの教科をただ読むだけでは効果がないこと、日々刻々の実践こそが重要であると説いています。問題は私達の心というある意味、掴み所の無い対象を取扱う以上、知識として蓄積したとしても、実際の私達の精神活動を訓練するには、その活動を捉えた上で試行錯誤を繰り返しながら進める必要があるということです。

本書で度々自動車の運転の例えが出て来ました。もちろん、自動車の運転に先立って自動車の仕組みやハンドル、アクセルやブレーキの操作方法、更には交通ルール等の事前学習が必要です。しかし、それだけでは運転できるようにはなれません。実際に自動車を動かして様々な実践体験を積んで初めて自在に自動車をコントロールできるようになり、また自動車がもたらす本来の便益を享受することができるようになります。

同様に、私達は私達自身の心や意識の作用についてここで一通りの基礎知識を学んだからには、今度は実際の生活の場、自らの精神活動の実践の場において、少しずつ操縦の訓練を続け、技量を高めることが必要だということです。

また、アダムスキーはこの講座を単なるテキストの配布ではなく、通信教育の形で運営しようとしていました。元来は教師（先導者）が学習者の疑問に答える丁寧なシステムを目指していたことがこの一節からよくわかります。それほどにこの「生命の科学」には、私達地球人の進歩に必要な教科が詰まっているということです。

逐次解説を終えて [2007-04-26]

当シリーズは直接、一同に会しての学習会というものが出来ていない今日、「生命の科学」を日々の生活で実践しようとする学習者に少しでもお役に立てればと思い、書き留めて来た私のメモを掲載しています。

アダムスキーが残した「生命の科学」には他惑星の文明から地球の民に贈られた貴重な教えが随所に織り込まれていると聞いています。その一句一句を自分のものとし、日々の生活に活用する為には、その内容を率直にしかも真摯に受け入れ応用することが必要です。その為にも、各々の内容をどのように受け止めるべきかを考える際の参考用に、各段落を読んで受けた私の感想（印象）をそのまま掲載しました。内容的にもダブっているものもあり、至らない部分も多いかと思いますが、これも現在の私の時間的制約と認識レベルによるものごとご容赦下さい。

なお、目下、本シリーズに対する皆様のご意見を募集中です。ご質問やご意見について各コメント欄に記入するか、メールでお寄せ下さい（宛先はganetjpn@cream.plala.or.jp）。その際には原則として氏名と連絡先メールアドレスの明記をお願い致します。

いずれ、本シリーズを出版する際には、これら皆様のご意見についても紹介させていただくつもりです。

次回は第2課に進みます。準備が出来次第、本ブログに再び掲載を始めますので、ご期待下さい。

046 In lesson number one we left you with the idea of driving a car in full conscious awareness of all of its parts.

046 第1課ではすべての部品を完全に意識しながら自動車を運転しているという概念で話しを終えました。

【解説】

前課（第1課）のまとめとして、自動車の運転の例えが述べられて来ました。この場合、運転者（主人公）が自動車のもたらす恩恵を享受するレベルに達するには、自分が操縦する自動車（人体）の各部の機能や相互関係を学んだ上で、各部の状況を把握しながら、ペダルやハンドルの操作に対応した自動車（人体）の動きを体得して行くことになります。

外見上、自動車はボディーやハンドル、ペダルしか見えませんが、自動車を動かしているのはエンジンであり、その動力を伝える駆動軸です。それら通常、目に見えない部品の働きを意識して運転する状況が第1課の「因に気付くこと」の実践例として示されたのです。

しかし、因に気付いただけでは、まだ問題の完全な解決にはなりません。次なるステップとして私達（運転者）自身の心の実態について分析を進めるとというのが、第2課の目的です。

047 Now we proceed to analyze the mind, which is made up of the senses. This sense mind is actually in the process of creation through its constant learning. It is like a sensitive plate which receives impressions from its observations of effects. And most of the time its conclusions are not in accord with natural law.

047 これからは、感覚から成り立っている心なるものを分析することにしましょう。この感覚の心は実際にはその絶えざる学習を通じて創造される過程にあります。それは結果の観察から印象を受ける感受性のある板のようなものです。そしてほとんどの場合、その出す結論は自然法則と調和していません。

【解説】

分析すべき第一は、自分の「心」であると言っています。刻々の「気分」は自らの「心」の反映です。この「心」なるものは、人を精神を通じてその行動に至るまで支配しています。ここでは、心を印象を感受する感光板、今日的に言えばデジカメのCCDに例えています。この感光板の出来、不出来は同じ対象を撮影したとしても、仕上がった写真に大きな差を与えます。その繊細さ（感度）等の性能が高まれば、例えかすかな光でも明瞭な画像を記録に残すことができることは我々の知るところです。

また、印象が心に達した時（写真の場合で言えば、光が感光面に到達した時）、感光板自体がその画像を好き嫌いによって判断し、場合によっては拒否したりすることが起っているとしています。それが証拠に、同じ対象を見てもその受ける印象は個個人によって大きく異なるのが普通です。同じ道端の花を見ても、詩人はその風にそよぐ小さな花びらからも春の喜びを感じるでしょうが、多くの方は気にも留めないで行き過ぎるかも知れません。印象に敏感になることは、そのまま大自然・創造主からの印象（メッセージ）に気付くことができることに繋がります。

このように外部の観察から印象を得る入口である各自の心を本来の道に沿って進歩させられるよう、日々教育する必要があると言っているのです。

048 In order to better understand the action of the mind, let us consider it in four parts, like four different people.

048 心の活動をより良く理解する為には、それを4つのパーツ、丁度、4名の異なる人のように考えることにしましょう。

【解説】

前節 (047) で心を感じ板に例えたのですが、その感光板は4種に分類でき、それらが4人の異なる人間のように意志を持っているとしています。この4種については、後の本文で説明がありますが、私達の心なるものが4つの要素から成り立っていることに着目しておきましょう。このことは「心」なるものが存在するのではなく、心はその中に4人の人間が居るように振る舞うことを示しています。

049 The most predominant individual is sight. The next predominant one is hearing. Then taste and smell. You may say here, what about touch? The touch could be called a nerve impulse reaction which is not a sense, but it gives a sense reaction to the mind. As each sense acts independent of the others, oftimes one will disagree with the others. i.e. The sight may perceive a beautiful flower but the aroma is very unpleasant to the sense of smell and it rejects it. So the unity of mind is already divided. The same is true with the other senses, for one may like something and another dislike it. And while this is taking place, as it has for ages, pain and an unpleasant existence is the result.

049 その内、最も支配的な者は視覚です。次ぎに支配的なのは聴覚です。次に味覚と嗅覚になります。あなたはここで、触覚についてはどうしたのかと言うかも知れません。触覚は感覚ではなく、一つの神経パルスの反応と呼ばれるようなものですが、心には感覚のような反応を起こさせるのです。各々の感覚が他と独立して行動する為に、時として一つの感覚が他と意見を相違することが起ります。即ち、視覚は美しい花を認識するでしょうが、その臭いが嗅覚にとっては大変不快であれば、嗅覚はそれを拒絶します。ですから、心の一体性は既に分断されているのです。他の感覚についても同様です。何故なら、ある感覚が何かを好ましく思っても、もう一方がそれを嫌うかも知れないからです。そしてこのことが起っている間、その結果として何世代にわたって、苦痛と不快が存在して来たのです。

【解説】

私達の「心」なるものは視覚、聴覚、味覚それに嗅覚の4名の人物に分けられるのだとしています。言い換えれば人間の持つこれら4つの感覚が私達の「心」を構成しているというのです。更にこれらは互いに独立しているとしています。丁度、前節(047)では心を感じ板に例えられていましたが、それがCCDの場合は3原色の受光器でありましたが、心はこれら4種の各々独立した感覚から構成されているとしています。もちろん、これらの独立性は受光器（感覚）としては大変重要な要素であり、正しい色調を出す為には各々の受持ち波長に特化した機能が必要となります。心における4つの感覚についても視覚は視覚として人間に必要な情報を、聴覚は聴覚としての役割を果して行くことが必要です。

本文ではその各々がもともと独自の判断（裁き）を行って来た為、4つの感覚の間で意見が対立することがあり、それが心の混乱をもたらし、ひいては長年月の間、人間を苦しめて来た元凶であると指摘しています。

実際には私達の日々の生活の中で心がこれらの4つの感覚から出来上がっていることすら、現代の私達は静かに自らの心を見るゆとりは無いかも知れません。それほどに心自体も高度化し、大きな流れの中に流され行く毎日を送っているのです。しかし、ここで最低限言えることは、「美しい」-「醜い」、「美味しい」-「まずい」という分かりやすい分類の背景には、私達の視覚や味覚の反応が現れているということです。現代はこれら感覚にとって好ましいものを商品として販売し、利益を上げる風潮がありますが、そうした表面的な感覚ばかりを大切に（感覚が喜ぶものを追い求める）と、物事の本質を忘れる危険性があります。

美味しいから食べる、美しいから自分のものにしたいとするような表層的な「感覚主義」は道を誤る原因となることに注意しなければなりません。

050 Jesus said a double minded man is unsuitable in all of his ways. And it is double minded when one sense likes something and the other does not. So Jesus urged man to be single minded in all of his ways. In other words unite all four senses for the purpose of service and not judgment. And this can only be done by conscious guidance. For in consciousness there are no likes or dislikes, it understands the purpose for all manifestation but the mind does not. All manifestations are conceived in consciousness and born into the world of effects. Just as the mind was conceived in consciousness and born as an effect of that conception. This is why it is so easy for the mind to guide itself by effects. And not having the knowledge and the reason for all of the effects it passes judgment in either likes or dislikes.

050 イエスは2心ある者は全ての道において不向きだと言いました。そしてひとつの感覚がある物を好み、他の感覚が好まない時、2心となるのです。それゆえ、イエスは人に全ての道において心一つになるように求めたのです。言い換えれば、裁きではなく、奉仕の目的の為に4つの感覚を統合せよということです。そしてこれは意識の導きによってのみ為され得るのです。何故なら、意識の中では好きとか嫌いとか無く、全ての創造物（注：manifestation）にとっての目的を理解していますが、心はそうではないからです。全ての創造物は意識の中では生まれ、結果の世界に生まれて来ます。丁度、心が意識の中では生まれ、その結果として生まれるのと同様です。これが心が自分を結果によって導くことをそのように容易になる理由です。そして心は結果物の全てについての知識や理由を知らないが故に、好き嫌いの判定を下しているのです。

【解説】

私達はこの世に生まれ落ちて以来、成長の過程にあります。創造物は因なる世界を経て、結果の世界において肉体を得ます。このようにして誕生した私達は、生まれた当初、その創造の過程における神の御手のぬくもりや輝きを放っています。しかし、やがてその者を司る「心」がその者を支配するようになります。心が未熟であり、知識や深遠な理由を知らないが故に、私達の心はその感覚を通じて得る情報を頼りに日々の生活を送るようになります。通常、私達の心はその存在の源となる因なる世界を通じて私達創造物を導いている意識の存在に気付くことがない為、結果の世界、目に見えるもの、耳から聞こえることを頼りに、自らを周囲の危険から守り、どん欲なまでの食欲によって自らを生き長らえさせようとします。

しかし、この時、心の構成員の中で意見（判断）が分かれることがあります。それを「2心」と表現しているのです。いわゆる「迷い」の源がここにあるということでしょう。迷いは不完全な行動をもたらす、多くの場合、好ましい結果はもたらしません。迷いや躊躇なく行動する為には「心一つ」にならなければなりません。これは集団においても同様です。渡り鳥の群れの動きを見ればその見事さが分ります。皆、一斉に同じ方向に一糸乱れず飛び、外敵をかわす様はまるで一羽の鳥のように振る舞います。これらは固体における「2心」どころか、全体が文字通り、「心一つ」に一体化していると言えるものです。

051 In time it must retract these opinions if it is to have a pleasant existence. All of the troubles in the world have been so created. And when they become too great, people decide to place them in The Hands of God, which is the All Inclusive Consciousness that created all things with a purpose. Each person will hope that this Great Intelligence will correct the situation. But when the correction is shown in many cases, it is not accepted for it is not understood by the mind which made the mistake in the first place.

051 もし快適な存在を得るのであれば、いずれはこれらの意見を引っ込めなければなりません。世の中のトラブルの全てはそうにして造り上げられて来ました。そして、それらトラブルが大きくなりすぎると、人々はそれらを万物をひとつの目的で創造した全てを包括する神の御手に委ねることを決意します。各個人はこの偉大な知性が状況を修正してくれることを望むのです。しかし、多くの場合、修正法が示されても、その修正案は受け入れられません。最初に過ちを犯した心によって理解されないからです。

【解説】

感覚の意見が人間を支配し、トラブルを引き起こしている以上、私達は日々の生活時間の中で、これら感覚による好き嫌いの意見に気付くことが大切です。現実の場面では、これらは複雑、巧妙に織り込まれているため、世の中の問題となるようなものについては、単純に人間の感覚に問題があると指摘することは出来ないかも知れません。

しかし、人生において最大のトラブルである病気については、どうでしょうか。病気には様々な原因がありますが、痛みや苦しみに対してどのように自らが振る舞うか等、まさに病気に際してとる態度は本人の内面を反映するものとなります。出来るなら、たとえ死を迎える事態であっても心落ち着いて、穏やかに最期を迎えたいものです。

通常、人間の心は問題が大きくなり、到底自力では解決できないと知った時、全能なる神に全てを委ね、祈ります。それはそれで、正しい道なのですが、祈るだけでは不十分だとしています。神（因なる創造主）から授けられる解決策（メッセージ）を受信し、理解することが最低限必要なのです。この為には、日頃から創造主から降り注がれている印象に耳を傾け、同調できる姿勢を維持しておくべきなのです。騒がしく浮ついた心を落ち着かせ、印象に敏感になるよう感覚を鋭敏に保つことです。そうすれば、解決策はすぐにも示されることでしょう。

自然界の他の生物達は皆、その種の能力を発揮しています。地震や噴火、嵐のような自然災害も事前に察知していたという事例も多く聞くところです。ひとりひとり、当面している状況や問題は異なりますが、是非、心を落ち着かせて因なる創造主から贈られるアドバイスに気付く努力を続けて載きたいと考えます。ラジオやテレビと同様、多くの放送局を通じて折角の有益な放送がいつも流れている中、既存の4感覚だけに選局を限定していたのでは、もったいない限りです。

052 And oftimes the mind takes the stand of least resistance, a state of inertia, and does nothing. It tries to escape its responsibility instead of having the determination to learn by correction. It has been said that God helps those who help themselves. So the individual must do something in order to correct the undesired results and have the rewards hoped for.

052 そして、しばしば心は最小の抵抗、慣性状態をとり、何もしなくなります。心は修正によって学ぼうと決心する代わりにその責任を逃れようとします。しかし、神は自ら助ける者を助けると言われてきました。ですから、個人は不本意な結末を修正し、望んでいた報酬を得る為には何かを成さねばなりません。

【解説】

よく経験することですが、問題が山積して解決方法が分からなくなると人間、眠気が襲うものです。これについては私自身、多くの「体験」があります。一般的にはくよくよせずに、一晩寝て考えようと肯定的に受取られています。それはそれで、当面の対処術としては賢明なのかも知れませんが、また、問題が整理されずにいる段階では、とかく問題が実際よりも大きく感じられます。その点では、一旦は心の中を空にして整理する時間を創る為に、睡眠や気分転換を図るのも良いかと思われま

しかし、ここでは、そのような現象の背景には心が課題に対して前進する代わりに、立ち止まって何もしなくなる（出来なくなる）傾向があると指摘しているのです。慣性の法則というのがありますが、何もしないのが一番労力を使わずに済む訳で、心はどうして良いか分からなくなると、そのまま、じっとして時間が解決してくれることを望みます。しかし残念ながら、そのままでは過ちは永久に修正されず、やがては問題を大きくしてしまうことに繋がるものです。

実際には大きな問題にぶつかった時、私達の心は何もしなくなりますが、それはそれで仕方が無いことです。私の体験からすれば、その時は休息をとった方が良く思われます。ポイントは、本文に指摘されているように、「責任逃れ」をしないことです。急ぐばかりが、解決につながるものでもありません。自身の責任において着実に問題に立ち向かって行く勇気と根気が必要なのです。絶えず謙虚さを失わず、他者から学ぶ率直さがあれば、問題解決のハードルも低くなるように思うからです。

053 The pride of the sense mind may find the process painful, but the sense man must learn by experience. And to do this he must school the senses to respect one another. For as it is now they have no respect and as a result a person has no respect for his being. Thereby he has no respect for others, except those who please one or another sense.

053 感覚心 (sense mind) のプライドはその過程に苦痛を見い出すかも知れませんが、感覚人は経験によって学ばなければなりません。そしてこれを成すには、各感覚を互いに尊敬しあうよう訓練しなければなりません。何故なら、現在そうであるように、それらには尊敬感が無く、その結果、人は自分の存在に尊敬感を持っていないからです。それ故に、人はいずれかの感覚を喜ばせるもの以外に他に対して尊敬感が無いのです。

【解説】

人間のプライドほどに問題を長引かせ、大きくしている要素はないように思われます。日本流に言えば「面子 (めんづ)」がこのニュアンスに該当するでしょう。端的に言えば「他者に対して高い地位にある者が低い地位の者に頭を下げるなど、出来る訳がない」、「自分より下の者に教を請うまねは出来ない」等という苦痛の感情は、皆、この心が持つプライドに由来しています。

このように、プライドをまず捨てるが必要になりますが、実際にはどのようにしたら捨てられるのでしょうか。そこに、自分以外の全ての者に対する等しい尊敬感が必須の要素となります。人の地位や名誉に関係無く、動物や植物、その他ありとあらゆる万物にも等しく、その存在に敬意を示す気持です。そうすることで、自分と接する方々に対しておのずと受け入れる態勢も生まれ、やがてはトラブルの解決にも繋がることにもなります。

まして、自分の各感覚については、互いに好き嫌いを言わせないよう、他者を受け入れ、敬う姿勢を貫き通すよう日頃の訓練が大切です。うわべだけの、刹那的な感覚の喜びや他人の評価等は空しい限りです。ともに永続することはありません。私達は、そのような無常な物を追い求めているのではありません。感覚の領分を超えた英知の世界を探究する覚悟を持って、自らの幼子である感覚心を訓練して行くことが必要です。

054 Unless the sense mind disciplines itself and allows the consciousness to govern it, it will continue as it has in the past.

054 感覚心が自身を鍛練し、意識に心の支配を任せるようにしない限り、その状態は過去と同様、引続くことでしょう。

【解説】

昔から、敵は汝自身と言われるように、自分の心をどのように訓練し鍛練するかが大きな課題です。その為には心自体が自らを訓練する他はなく、大いなる意識という目に見えず、耳にも聞こえない「印象」による指導に心自身を委ねることが求められます。

これに関しては、イエスの幼子の例えが有名ですが、そもそも具体的にはどのようなことをイメージしているのでしょうか。最近、読んでいる本（坂村真民著「坂村真民一日一言」致知出版社、平成18年12月発行、P.20）に次の言葉が書かれていました。

「宗教は教学ではない。頭でいくら知っても、それは救いにはならぬ。救われなかったら宗教ではない。多く人は宗教を哲学にしたりする。念仏さえ哲学にする。そんなものでどうして救われるものか。上人（注：一遍上人）の言われるように愚かなる者の心に立ちかえることが宗教であり、信仰なのである。聖書にも幼な子の心になれとある。幼な子に議論などはない。理屈などはない。抱かれる無心な心が、幼な子の姿であって、これより美しいものはないのである。」

とかく私達は、理屈で理解しようとしません。こうして文字を打っているのも、半分は理屈の頭で作文しているのかも知れません。しかし、坂村真民も言うように先ずは、自らを空しくする、宇宙英知の前では全くの無知無学の身であることを恥じた上で、自分のおごりの心を鍛練し、宇宙に遍在する意識に自らを委ねるよう決意することしか、本来の向上は望めないと本文では言っているのです。理屈など考えず、意識に信頼を寄せて、心底受け入れる度量こそが大切だと考えます。幼な子は理屈抜きで、自分の信頼する存在に身を委ねる特質が備わっているから美しいのです。

055 If a family is to be happy, each individual of the family must respect each other member as he would like to be respected. And each must have trust and faith in the parents that are the guiding hands. And so it is with the senses - they are the family that make up the household of a man. And they must be taught respect, trust and faith in each other. And above all, for the parent which in the consciousness. It will not be easy to rehabilitate the senses due to the many habits that they have cultivated. But this must be done if we are to have a heavenly type of life. There is no other way except through learning and understanding the reason for life.

055 もし家庭が幸せになろうとするならば、その家族の各員が自分がそうされたいように互いを尊敬しなければなりません。そして各々が導き手である両親に信頼と確信を抱かなければなりません。そしてそれは諸感覚についても言えることです。それらは人間という家庭を作り上げている家族なのです。それらが養った多くの習慣の為、諸感覚を矯正するのは容易ではないでしょう。しかし、私達が天国のような生活を得ようとするなら、この作業は成されなければなりません。生命の存在理由を学び、理解することを通じて以外に他の道は無いのです。

【解説】

以前から繰り返し述べられているように、私達の心は4つの感覚から成り立っているとしています。人間の行動のきっかけは心の意志にあるのですが、その心に通常、情報を与えるのがこれらの感覚であり、実はこれら4感覚同士が内部で争ったり、外部からの情報を勝手に解釈していることに問題の根本があるとしています。

これら4感覚をここでは、両親（意識）の下にある子供達からなる家族に例えています。人間にとって自己を構成する最も身近な存在であるこれら「家族」が両親の指導の下、調和した状態を保つことが最も重要だと言っています。まさに「心の平安」とはこれら諸感覚の落ち着いた状況を指すものと思われまます。その為には、感覚同士が互いに尊敬するよう訓練する必要があります。しかし、これは長年培ってしまった私達の習慣とは反するものです。私達は、「勝ち負け」や「善悪」を明確にし、勝者や正義には特権を与え、敗者や悪人には罰を与える競争社会を造って来ました。その結果、勝負に負けることを恐れ、他人の評価を気にしています。本文はこのようなことの根源は各感覚の「美味しい・まずい」、「美しい・醜い」等の感覚の反応（裁き）にあるとしているのです。

それゆえ、私達は自らの感覚の反応をよく観察して、それらの傾向を戒める必要があります。生命本来の存在目的について自然から、より深遠な真理を知ろうとする各感覚の意欲を促し、アンテナを鋭敏にすることが求められているのです。

056 DISCIPLINE OF THE SENSES

How is one to discipline the senses? The sense of sight which guides itself by effects, as it is an effect of consciousness, seldom takes the time to study the cause back of what it sees. And by now if you have learned the first lesson well, there should be a desire to know the purpose for which each form has been created. And this can be revealed to the mind when an effect is viewed with the second sight, so to speak, or with the sight of consciousness. And as stated before single sighted.

056 諸感覚の訓練

諸感覚を訓練することとはどのようなことを言うのでしょうか？結果によって自身を導く視覚は、意識の結果の一つであるため、めったに自分が見るものの背後の因をじっくり学ぼうとはしません。そしてこれまで、もしあなたが第1課をよく学んでいたら、個々の形有るものが創造された目的を知りたいという願いが湧き起るはずですが、そして、これが結果がいわゆる第二の視覚、言い換えれば意識の視覚で見られる時、心に明らかにされるのです。こうしてこれまで述べたように一つの視覚になるのです。

【解説】

ここではこれまで必要だとしてきた感覚の訓練をどのように行うべきかを具体的に述べています。

視覚は私達に大きな影響を及ぼしていますが、その視覚を訓練するには、まず、物を見てすぐに判断せずに、「時間をかけて」その物の背景にある要因や生まれた背景について知ろうと努力せよと言っています。

何よりも万物を支えている生きた宇宙の力（パワー）を感じたいと望むことが始まりです。しかし、そのことは決して現実（現象）を軽視せよというわけではありません。このような従来から私達が親しんでいる結果の世界とこれから学ぼうとする因から降り注ぐ力ある印象を同時に感じ取るようにと言っているのです。

最も分かりやすい例としては、「まずい」「耳障りな」「くさい」などという感覚の拒絶反応を揚げることができます。これらは感覚の勝手な意見ですが、その内容は、その現象（結果）を出すに至った背景や経過などはお構いなしの感覚自体の利己的な意見です。しかし、例えこのような「まずい」「くさい」ものでも、人体にとって必須なものは数多いものです。人体の消化器臓器の内容物は皆、この類いの要素を持っています。表層的な感覚の評価は、そもそも人体自体における果たす役割とは全く関係が無いことが分ります。

何か感覚が反応した時、その判断を直ちには認めずに、一呼吸置いて、本当にその判断で正しいか、もっと本質的な要素に気付かなければならないのではないかと再考する必要もあるでしょう。感覚の反応を受け入れるのと同時に、関連した印象にも目を凝らし、耳を傾ける態度が重要です。そうする中で、やがては各々の感覚に意識的な部分が育成され、原因と結果が一体となって見聞きすることができるということです。

057 A child in a classroom is a good example. A good student follows the instructions of the teacher without having any opinions of his own during the time that the lessons are being given. After this he tests the information given to see if it is correct and where it fits into his own life. While another student will speculate on what a teacher is going to say, thereby he is ahead of what is being said. And he misses important points and has no clear knowledge of the subject. The first student profits from the instructions. The second one does not. In the case of the attentive student he humbled his mind to listen, but the second one became aggressive and lost the valuable points.

057 教室にいる子供が良い例です。良い生徒は教科が教えられている間は如何なる自分の意見を持つことなく、教師の教えに従います。その後、生徒はその与えられた情報が正しいか、そして自分の生活の何処に当てはまるかを知る為、確かめます。一方、もう一人の生徒は先生が何を話そうとしているかについて思いを巡らし、話されていることの先に行っています。彼は重要な要点を見逃し、本題に関する明瞭な知識を得ることがありません。最初の生徒は教えから利益を得ましたが、次ぎの生徒は得られません。傾聴した生徒の場合は、自分の心を謙虚にして聞こうとしたのですが、次ぎの生徒は攻撃的になり、価値ある要点を失ったのです。

【解説】

学ぶ際の基本姿勢について述べています。

学校の例で言えば、生徒は先生の教え伝えることをまずは受け入れる姿勢が重要です。全く新しい分野や概念は容易には飲み込めません。とにかく先生の言わんとすることに耳を傾け、少しのヒントも逃さず自分のものとする姿勢が求められます。その為には、先生は生徒に全面的な信頼を寄せられていることが必要です。まして、哲学や宗教の分野ではなおのこと教師への信頼が大切です。しかし、問題は教師側にもあることが多いのです。日本には古くからの神道や仏教寺院など、膨大な宗教組織があり、加えて巷には数多くの宗教団体が存在しています。その中には一部の真理は教えてくれるものの、結果的には集まった信者を食い物にしたり、誤った教義に引き込んでいる場合も多いと思われます。

決して断定する気はありませんが、宗教組織は当初、創始者（開祖）の時代は当時の社会のニーズ、当時の庶民の置かれた状況に救いをもたらす優れた業績を成し遂げますが、その後は膨れた組織体を維持発展させる為の集金組織に変貌する事例が多いのではないのでしょうか。

そういう意味からも私達は、既存の宗教組織に接する際には、慎重であらねばなりません。

一方、この「生命の科学」シリーズは、この惑星上で使い古された宗教をひも解くまでもなく、新規に宇宙兄弟（Space Brothers）から直接、アダムスキーの最晩年にもたらされた、言わば21世紀を生きる私達に相応しい新しい精神改革の手引き書です。また、学習にあたってはこの講座を通じて自習することができる構成となっています。

確かに、適切な教師につくことは効果的ではありますが、現状ではその教師役を務められる者はまだ、多く出ていません。自らの内面を観察し、自然をよく観る中で、講座で述べられていることの一つ一つを自分で確認するのが最良の道と言えそうです。

058 The mind, in order to learn from the consciousness must humble itself to get each point in a clear manner. For this instruction comes only by impressions. Whether observing an object or listening to sounds, impressions will be given independent of the mind. Consciousness is not governed by habits like the mind is. i.e. When I made the first contact with a space person my mind wanted to know many things, especially things that conformed with my habitual life. I had to control my mind and remain silent so that I could receive all that he wished to impress upon my mind. Had I speculated on what was to be given, I would have missed the significant of the meeting.

058 心は意識から学ぶには各々の要点を明瞭に理解する為、自らを謙虚にしなければなりません。何故なら、この教えは印象によってのみもたらされるからです。ある物体を観察する際や音に耳を傾ける際に、印象は心とは無関係にやって来ます。意識は心のように習慣に支配されておられません。ですから、私が最初に宇宙人と会った時、私の心は多くの事柄、特に私の生活習慣に合った事柄を知りたがっておりました。私は自分の心を抑制し、相手が私の心に印象付けたいと思っていたこと全てを受け入れる為に沈黙を続けたのです。もし私に何を与えられるのか考え巡らせていたら、私はその会見の重要ポイントを見失っていたことでしょう。

【解説】

それでは具体的に心を訓練するにはどうしたら良いかをここでは説明しています。

前項で述べられたように、学校における生徒と同様、私達は意識の指導に対して心を謙虚にすることが第一条件となります。つまり、目に見えず、耳に聞こえない因からのメッセージに心を開けと言っているのです。

また、デザートセンターでのオーソンとの会見の際にアダムスキー自身がとった態度を例えて、宇宙兄弟達に対して謙虚に話しを聞く姿勢を貫いたために、その会見の本来の意義を理解するに至ったと言っています。

とかく私達の心は騒ぎやすく、また一方では何もしない停止状態のいずれかになりがちです。印象を受取る為には、心を開き (Open Mind) 、微妙な印象の流れを中断させず、その印象に心を寄り添わせて、ポイントを理解する必要があります。その為にも、印象の源、意識を自らの導き手として信頼することが必要です。こうした心の訓練を積み重ねることによって、私達の心は次第に意識による印象の指導を自らの人生に取り入れるようになるのです。

059 In later contacts when I was given the privilege of asking questions, I did. But in each case I had to wait for that privilege to not interfere with what was being given. Many things did not fit into my way of life at the time but I was patient and trusted the ones who were giving me the knowledge. At first it was like a puzzle but at the end when all parts were put together the picture was clear. Had I been impatient and interrupted the individuals who were giving me the information I would have lost the precious jewels and had nothing but confusion. As I became as a child to the instructor, I was given many privileges and I am now living in the Cosmic Kingdom instead of the world that I did before.

059 その後の会見で私が質問の特権を与えられた時、私は質問しました。しかし、どの場合でも私は与えられている事柄を邪魔しないようその特権を待たなくてはなりません。多くのことが当時の私の生活の仕方に合いませんでしたが、私は忍耐強くまた、その知識を授けてくれる人々を信頼しました。最初、それはパズルのようでしたが、ついに全ての部品が繋ぎあわされた時、その絵は明確なものでした。もし、私がせっかちで、その情報を授けてくれる個人を遮ってしまったら、私は貴重な宝石を失い、また混乱以外何物も得なかったことでしょう。私は教師に対して子供のようになることで、私は多くの恩典を与えられ、今や私はそれまでの世界に代わって宇宙的王国に住んでいます。

【解説】

ここでは心を取扱う上での難しさについて述べており、一つ一つの基本的な側面を十分理解することを積み重ねることによって、大成することを示唆しています。逆に言えば、私達の心は常に自分の興味あることのみ注目し、結果を急ぎたがります。しかし、ポイントとなる要素を私達自身がマスターしなければ、容易に脇道に外れ、不完全な結果に陥りやすいということでしょう。

特にこの「生命の科学」等の言わば太古から地球で培ってしまった旧弊の精神システムを捨てて本来の源流に一大転換する新しい生き方を始める以上、それを成し遂げるには絶大な忍耐と努力が必要だということでしょう。

最近、一般の多くの場面で「意識改革」とか「パラダイムシフト」とかが、叫ばれています。しかし、これら既存概念の転換は単に頭で理屈が分ただけでは達成できません。問題は刻々の私達の心の姿勢であり、私達の心を落ち着かせ、自らが真に理解したことを実践しながら、着実に前進する中である日、全体の姿が見える（悟り）ようになるのです。そういう意味では、本講座を真面目に、ある意味、愚直に取り組めば、「以前より勤が働くようになった」とか、「物事がスムーズに行くようになった」等の成果の断片も出てくる筈です。私達は、それらの細かな成果に満足し、進歩を止めることなく、更に大いなる世界に生きるべく、暖かくも厳しい目で毎日の心の訓練を続けるべきなのです。

060 The consciousness is a cosmic teacher and unless the student does as I have done in this case, he shall have nothing but confusion in the end.

060 意識こそは宇宙的教師であり、学習者は私がこの事例で行ったようにしない限り、最終的に混乱以外の何物も得ることはないでしょう。

これまで述べて来たように、「教師」につくことが学習の早道なのですが、その究極の「教師」こそ、宇宙意識なのだと言っているのです。人間は変化し、変質する可能性もあり、安易に「教師」につくことは得策ではありません。何より自分自身を良く観てみれば、時には邪念が入り込まないとも限りません。しかし、意識はいつも、皆さんの味方です。新緑の季節をご覧戴ければ、あのように青空を背景にして輝く新緑の緑の木々が暖かな光を浴びて嬉しそうではありませんか。これらは皆、各植物に若葉の成長を促す意識の働きかけがあつてのことで、一つ一つの植物にとっては自らの成長の一環であり、全体としては5月の輝く美しい風景を構成しているのです。

一人一人が意識の声を信頼して従う中で、結果として輝かしい、生气溢れる状況が生まれるということです。

061 Many people have asked me why I did not ask this or that, trifling things in most cases, but had I done so I would not have the knowledge that I have today. Jesus said, lest you become as a little child you cannot enter the Kingdom of Heaven. Which is the kingdom of cause. And the Bible states that there is nothing hidden that shall not be revealed in time.

061 多くの人々が私にあれこれといった多くの場合、つまらぬことを尋ねなかったのかと聞いてきますが、もし私がそうしていたら、私が今日得ている知識を得ることはなかったでしょう。イエスは言っています、幼子のようにならない限り、天の王国に入ることは出来ないと。それは因の王国でもありません。そして聖書はやがて明らかにならないものは何も無いと述べています。

【解説】

宇宙兄弟達 (Space Brothers) に対する時も、意識に対する時も同様ですが、先ず相手が何を伝えたいのか、何を授けたいのかを心で受け止める受容的態度が重要です。宇宙兄弟達の場合は、遠く遙かな宇宙を旅し、様々な危険にさらされながら、無法惑星・地球に來訪している訳で、私達はそのことを想い、先ずは相手のミッションに耳を傾けるべきです。また意識の場合も、日常めったに心に巡り会うことが出来ない以上、意識からの印象を感受した場合には、それを大切に自分の心が勝手に騒いだりしないように、先ずは落ち着いてその指導を受け入れるようにしなければなりません。

ここで言う幼子は人間の素直さを例えています。即ち、心が素直でなければ因の世界に入ることは出来ないと断言しているのです。心は好奇心から日常的な様々な事柄に興味がありますが、それより更に重要な私達が宇宙の子供として生きる上で基本的な理解力を先ずは身に付け、実践力を養う必要があるのです。

062 Patience and faith are the foundation of such a reward. For those who become impatient become shipwreck.

062 忍耐と信頼はこのような報いの基礎です。短気な者は挫折します。

【解説】

長年の私達の習慣、更にはこの惑星における太古から積み上げられてきた社会システムの大きな流れの中にあっては、人間本来の生き方を新たに取り入れるのは容易ではありません。まして今までの心の指令に代えて、宇宙にあまねく目に見えず、耳に聞こえない「印象」を通じて会話する存在である意識を自らの教師として受け入れ、結果の世界に加えて、それらの印象を合わせて感受せよということは、初期の段階では気の遠くなる話しです。

しかし、どのような分野であれ、努力の積み重ねはやがて成果として実を結ぶものです。体験上からも、その結果を得る機会意外と早く来ます。いわゆる「時間」という概念に私達は捕われていますが、それは行動を起こす前の心の言い訳に過ぎません。実際に努力を続ける内に、その目的地はあっさり到達する例が多いように思われます。

何もしない段階では、心が勝手に想像する困難のイメージは膨らむ一方ですが、行動を積み重ねる中で、それら仮想のイメージは容易に解消するものです。

ですから、忍耐強く、目的に向かって一步一步近付くことが大切だということです。そして自らが望む目標が創造主の望むものであれば、なおのこと、行く手には数々の支援の手が差し伸ばされることでしょう。創造主への信頼があれば、努力は続けられるものです。

063 The Bible also states that man has many talents. So we will observe the talents with which the Infinite man is endowed. And the important part which each one plays in the cosmic plan where men are equal.

063 聖書はまた、人は多くの才能を持っているとも言っています。ですから私達は無限なる人が授かっている才能を観察することとしましょう。そして人々が等しく存在する宇宙の計画の中で1人1人が担う重要な役割についてもです。

【解説】

ここでは人間に備わった才能や能力について述べています。人間には様々な才能があり、各人が社会の中でそれぞれの役割を果たしているのです。これまでは心の身勝手さや原因を知ろうとしせず、結果だけに生きていた存在であるとして来ましたが、その結果の世界においては人間は自身の文明を造り上げて来ました。科学技術も発展させ、現代では宇宙にまでその活動の領域を広げています。

それらは本文で言う人間の才能を生かした結果であると言えるでしょう。しかし、ここで考えたいのはこれら文明は膨大な数の人間が各々の役割を果たしているということです。例えば電車が動くには、レールと車両、電力が必要ですし、保線や車両の整備、発電機の運転、更には運転士の操作等、様々な人間がそれに介在し、仕事をしていることが分かります。これら全ては人間の才能と言えるものです。他の動物にはこのような分野の才能は見当たりません。それほどに人間には本来、数多くの才能が授けられています。自分ではまだ、気付いていないものも多い筈です。それら人間に等しく内部に備わっている才能に気付くことも、この学習の成果の一つです。

064 The construction of a large building can be used as an example of what we mean, especially when it is to be a new type of architecture. The completed building is pictured on the screen of a man's mind by the consciousness. Once the mind sees the picture clearly a blue print of the impressions is drawn in order to retain the design of the structure. As in the drawing of the house plans, this is the first effect of the cause. Then the blue print is placed in talented responsible hands to bring about the manifestation. This individual in turn procures artisans and materials for the construction.

064 大きな建物の建設はこの意味するところの一例として用いることができます。新しいタイプの建築の場合は特にそうです。完成した建物は意識によってある人物の心のスクリーンに描かれます。その人物の心がそのイメージ（姿）を明確に見るとその建物のデザインを保持する為、すぐに印象に基づく青図が引かれます。家の建築計画の作図の時と同様、これが原因の最初の結果です。次に青図はそれを現出させる任務を担う人の手に委ねられます。この人物は次にその建設に必要な職人や材料を手配するのです。

【解説】

ここでは、以降 (065) で述べられる人間の様々な才能に関する事例の前段として、建物の建築過程について説明しています。

建築はある意味、極めて創造的な分野です。何も無い空間に立体的な建造物が建ち、完成後は多くの人々が集い、快適に活動する場となる訳で、建物を建てる際には、建築家は様々なアイデアに心を巡らします。そのような建築家の初期の精神活動には本講座で言う「意識」が深く関わっています。建築家の心が新たなイメージを求めて、因の世界からの指導を求め、アンテナを向ける時、遂には意識からの印象を感受します。通常、「アイデアが浮かんだ」とする瞬間です。このイメージをデッサンし、図面化して目に見える結果の世界に写し取る作業が最初の段階です。現実には、予定地にはまだ何も無く、建物は建っていないのですが、建築家にはその完成された姿が見えています。これら設計図面を見て、竣工後の建物の中を人が行き来している状況をイメージできるのは、私達が備えるべき能力の一つでもあります。

そして出来上がった設計図を基に、様々な機材が手配され、各々の能力を持つ人員が投入されて、建物が出来上がります。このように建物一つをとっても、様々な人間の才能がそれを支えており、どの一つが欠けても、建物を建てることはできません。

065 The first workers that he engages are what could be called of the lowest talents. For they will be the ones responsible for the ditch in which the foundation of the building will be laid. And without which the building could not be built.

065 最初に雇う労働者は最も低い才能の者達と呼ばれるかも知れません。何故なら彼等は建物の基礎を置く為の溝を受け持つ人々であるからです。しかし、それ無しでは建物を建てることは出来ません。

【解説】

建物はまず基礎部分から造り上げる必要があります、最初の仕事として地面を掘り、基礎を造る為の溝を造る作業員について述べています。私達はとかく、仕事に貴賤をつけがちで、これらの作業は粗雑な労働と見なしてはいないでしょうか。しかし、夏の炎天下、今日では機械力を使うとはいえ、その労働は端から見ても厳しいことが良く分かります。まして寒風の吹き荒れる冬には辛い仕事であることは言うまでもありません。

私達は、背広を着て綺麗なオフィスでパソコンを使うことを上質な仕事、現場で土ぼこりの中、スコップを手にするのは粗雑な労働としてきますが、果たしてそういう区分が妥当と言えるのでしょうか。実は建物の基礎は建物の安全性や耐久性を左右する大切な要素です。今日では、建物を建てる際には、事前に地質調査を行っています。建物がどのような地盤の上に建つのかを知る上で、本来、この溝掘りから発見される知見こそ重要なのです。一方、同じ溝掘り作業であっても考古学の分野では地中の埋蔵物を掘り出す作業はスリリングで胸踊る仕事です。世紀の発見につながる作業には慎重さと考古学の十分な知識が必要です。基本的には同じ作業なのですが、時々によって仕事の価値に差を付けたがるのが私達です。

066 From here on many talents will be employed to complete the structure. The final touch of historic recordings and beauty will be the murals painted upon the inner walls of the entrance. And for this the finest artist will be engaged. But even he with all of his talent cannot produce what is asked of him if the pigments of his paint had not been processed from the pick and shovel man through the various refining steps necessary. And this is true with the brushes and other equipment which he must use. And without these his talent would be of no value.

066 ここからは、多くの才能を持った者が建物を完成させる為に雇われることになります。その歴史的記念と美の最終段階の仕上は入口の内壁上に描かれる壁画となるでしょう。そしてその為に最高級の画家が雇われることでしょう。しかし、彼の才能全てをもってしても、彼の使用する顔料がツルハシとシャベル人夫で取り出されてから必要な精製工程を経て処理されていなければ、依頼されたものを造り出すことは出来ないでしょう。そしてそれは彼が用いる刷毛やその他の道具についても同じく当てはまりません。

【解説】

建物の例えで言えば、私達は建物の構造や骨組みよりは外観を、人目に触れない天井裏や床下よりは内装に目が行きがちです。これらは私達の日常は視覚が支配しており、外観の最終結果のみを見て、物の評価を行っていることを意味しています。しかし、実際には、その結果を生み出すには様々な人間の才能発揮が積み重ねられて初めて実現するのです。言い換えれば、一つの結果は、それを支える数多くの努力の連鎖が背景にあることに私達は気付く必要があります。

これらは、私達の身の回りの物、全てについて言えることです。毎日、何気なく食べる食品についても、食卓に並べられた品々について、各々この惑星の様々な所で育てられ、運ばれて来るものばかりです。また、お米については読者もよく御存知のように、モミが苗床に蒔かれ、稲の若葉が育つと水田に移され田植えが行われます。夏の草取り、秋の稲刈りを経て、脱穀、精米を経て店頭に並びます。このように数多くの人手と自然の恵みを受けて食物が食卓に上るのです。食事は毎日の生活の中では、断片に過ぎませんが、結果として世の中に存在するものの背景や起原について鋭敏になれば、本項は言っているのです。

067 Here you can see that the lowest talent is equal to the highest. From this you should know what the word equality really means. And this is far from the average definition of the word.

067 ここにあなたは最低位の才能が最高位の才能と等しいことがお分かりになるでしょう。ここからあなたは世界の平等というものが実際、どのようなことを意味するかを知らねばなりません。また、これは世の中の平均的定義とはほど遠いものです。

【解説】

時代は移り変わっても仕事そのものの仕方や段取りは変わることはありません。結果となる作品が生まれる為には、その最後を託される者ばかりでなく、それを支える様々な者が各々の才能を発揮して持ち前の仕事をする必要があります。最終結果に対する貢献度において、それに係る者すべてが等しく称えられるべきだとここでは述べています。

一方、現在、この惑星の多くの国では、危険で汚れる仕事は下請けにさせて自分は各工程の進捗管理のみの（あるいはそれすらも行わない）事例が多いのが実態です。これらの下請けの従事者はビル竣工の際に、そこに集う人々からねぎらいの言葉を掛けられることもありません。使われる者と使う者の構図が出来ているのです。

しかし、年月を経るにつれ、建物は残っても、その式典に誰が参列したか等、すぐに忘れ去られてしまいます。日本には法隆寺をはじめ数多くの歴史的建造物や仏像がありますが、今日人々が感嘆するのは個々の職人が造った造形美です。もともと誰が造った等という記録を残す等、無用のこと。無心に「美しさ」そのものを求めてノミを振るった職人にとっては結果である作品を通じて、自分達の目指したものを感じ取って欲しいということであり、建物の構造を担った大工にとっては自分が死んだ後、長い時代を経てもなお、地震や風雨に耐える構造であることこそが誇りなのです。

068 Another example for the sake of clarity. When King Solomon's Temple was finished he expressed a wish to have the man who had done the most in bringing about its completion, honored in a ceremony and seated in a chair next to his own on the Throne. All of the men of different talents presented themselves in clothing appropriate for the occasion, each hoping for the honor. But a blacksmith entered dressed in his working clothes. A burned apron and dirty hands from the forge, and seated himself in the chair. This caused a stir and complaint among the other men.

068 明確にする為にもう一つ例を挙げましょう。ソロモン王の寺院が完成した時、ソロモン王はその完成に最も貢献した者を式典で表彰し自らの王座の隣に座らせたいという希望を明らかにしました。様々な才能の持ち主が、各々その名誉を期待して、その場面に相応しい身なりで出席しました。しかし、ひとりの鍛冶屋が作業衣のまま入って来ました。仕事場から焼けたエプロンと汚れた両手のまま、その椅子に着席したのです。これは他の者たちの間に騒ぎと不平をもたらしました。

【解説】

旧約聖書の一節と思われます。ソロモン王（ダビデ王の子、古代イスラエル第3代の王、在位紀元前965年～922年頃）は紀元前958年にソロモン神殿を起工したとされています。

ここでのポイントは鍛冶屋職人が建築物その他の創造的な仕事において自分の製作した道具がどのように用いられているかを認識し、毎日の仕事に打ち込んでいたかということ、そして自らの仕事に対する誇りを持っていたかということです。まさに、後年、その製造した道具を見て、古物鑑定家に「いい仕事をしていますねえ」と言わしめる職人の心意気が感じられます。

また、一方では、この一節から、如何に王が柔和で寛容、民主的であったかが分かります。反対に日本では将軍がそのような気さくに庶民を遇した事例は聞いたことがありません。上に立つ者のあるべき姿の一つでもあります。

069 The King turned to the blacksmith and asked him by what right he seated himself there. With this the blacksmith arose and questioned the other workmen by saying, "who fashioned your trowel and your compass" ? They replied "you did". Then he said, "could you have built this Temple without these ?" Their answer was "no." Then he said, "the honor belongs to me."

069 ソロモン王はその鍛冶屋に何の権利によってそこに座っているのかと訪ねました。すると、鍛冶屋は立ち上がり、他の者たちにこう訪ねたのです、「誰があなた方のコテやコンパスをこしらえたのか?」。彼らは答えた。「お前だ」。すると彼は言った。「あなた方はこれら無しにこの寺院を建てることができただろうか?」。彼らは答えた。「いいえ」。すると彼は言った。「それでは、その栄誉は私のものだ」。

【解説】

仕事であれ何であれ、自ら一人で出来るものではありません。そこには陰になり日なたになり、様々な人間が関係していることに私達は気付く必要があります。とかく私達は成果は自分の努力や精進の結果だとしてしまいがちですが、実際にはそれを支えていた様々な事物や人物の恩恵を受けているのです。

そのように物事の背景に気付こうと心を仕向けることは、やがて因、目に見えない存在への関心を高めることとなり、見えないものへの感受性が増すことに繋がります。

私達が学ばなければならないのは、万物相互の関連性であるとされています。実に個々人の毎日の想念が惑星全体の行く末や気候状況と相互に結びついているように思います。そういう意味から、私達一人一人の毎日の祈りによって、地球の安寧にいささかなりとも、貢献できるということは素晴らしいことです。

070 This equality is lived on Venus and Saturn, for each talent is respected as a Divine gift from the Creator unto creation. And it manifests in ever field of endeavor - sports, art, etc. There is not the feeling of competition that we of earth express. But rather a feeling or desire for a finer quality of expression of individual talents towards the fulfillment of the Divine purpose. It is only the ego mind that desires honors for its accomplishments.

070 この平等さは金星と土星では実行されています。あらゆる才能が創造物に対する創造主からの神聖なる贈り物として尊敬されている為です。そしてそれはスポーツ、芸術等々、努力におけるあらゆる分野に現わされています。地球の我々のような競争意識はありません。むしろ、聖なる目的の達成に向って個個人の才能に関してより精緻な表現を感じたり、望んだりするのです。その達成に対して名誉を求めるのはエゴの心だけです。

【解説】

ここでの着眼点は、前述来の「平等さ」が実際に他惑星では"lived"、即ち実生活の場で生かされているということです。いわゆる「概念」や「思想」というレベルでなく、現実社会や個々人の人生に組み込まれ、根付いているということです。一方、この視点で地球上で行われている物事や人々の心の有り様を観る時、大きな違いに気付きます。競争意識の極端な例は「戦争」であるかと思いますが、私達各自の中においても多分に「競争心」があります。また、社会自体にも学校の入学試験からはじまり、契約における入札制度、更には競技スポーツまで、実は私達の生活の隅々に至るまで「競争」が浸透しています。

このような中であって、本学習者は真の平等感に基づいて他惑星社会での概念に少しでも近づく努力が求められます。その為には、現実の競争社会の中にあっても、自らは独自の心の有り様を確保しておく必要があります。まずは差別を無くし、名誉を求めず、ひたすら創造主から授かった自己の才能の発揮にのみ心を傾けることです。一人一人が発する想念はやがて周囲の者にも影響を与え、関連するあらゆる場所を伸び伸びとした雰囲気にし、また活気溢れるものに変化させて行くことでしょう。また、実践する中で少しでも自分自身で成果を体験すれば自信もつき、進歩の歩みも速まることと思われま

071 Jesus brought this truth to the people when he said that the man who desired honors from earthly men, had none coming in heaven. He also said not to worry about tomorrow, for the sparrow neither sows nor reaps, yet the Father takes care of each of them. But this calls for definite faith in the consciousness. For he also said, "are you not more than the raiment ?" This is the law by which all Venusians live.

071 イエスは地球の人達からの名誉を望んだ者で天国に来る者はないと人々に述べてこの真実を当時の人々に伝えました。彼はまた、明日を思い煩うなスズメは蒔くことも刈ることもしないが父はそれら個々の者を養ってくださっているのだから、とも言いました。しかしこれには意識に対する絶対的な信頼が要請されます。何故なら彼はまた、「あなたは衣服より以上のものはないですか？」とも言いました。これは全ての金星人が生きている法則です。

【解説】

イエスが天国 (heaven) と言った時、その天国とは金星や土星に置き換えるとより具体的なイメージが湧きます。他人から誉められることを望むのは人間の常ですが、それは金星や土星には何ら重きを置かないことであると言っているのです。

また、未来のことを心配するなとも言っています。明日、どうなるかは誰にも分かりません。しかし、大自然の他の動植物達は明日は他の者の餌食になるかも知れない中、皆静かに今を味わっていることも確かです。それが可能となるのは再三述べて来ましたように、意識への絶対的な信頼です。宇宙を貫く意識のパワーに自らの明日の命を預ける一方、現在を自分の能力発揮に集中する精一杯生きている姿がそこにあります。これらの有り様こそ、金星人の生き方だと言っているのです。

072 As you can now see, everyone in his daily life is important in one form or another. The thing that we must do is to learn the importance of each one, as the advanced space people do on their planets. In this way each individual effort is honored as he serves others. Directly or indirectly.

072 今やお分かりのように、あらゆる人はその日常生活の中で何らかの形において重要なのです。進化した宇宙人が彼らの惑星で行っているように、私達が行わなければならないことは各々の重要性を学ぶことです。このようにして、個々人の努力はその者が直接的あるいは間接的に他に奉仕することに対して榮譽を受けるのです。

【解説】

ここでのポイントは「間接的」な関連性や相互依存性を如何にして気付くかにあると思われます。自分が直接接する人に対してはその仕事内容や自分の日常生活との係りについて少し考えれば気付くチャンスも多い筈です。しかし、私達の目に見えない所で様々な人々が働いていることで、私達の日々の生活が豊かになり、知識も増やしているものも多いのです。例えば、毎朝、各家に配られる新聞或いはテレビ放送等は、今日私達の日常生活を如何に教養深くまた、視野を深めかつ広げているか計り知れません。遠い外国で起った出来事も今では瞬時の内に伝わります。これらを支えているのは、自ら現地に飛び込んで記者やカメラマンであり、そこで起っている事実を茶の間に伝える役割を果たしています。

073 You may say here, what about the people among us who are criminals and those who harm others? These actions could be considered mistakes on the part of the actor since he has been taught to guide himself by effects. And most everyone has been guided by effects, so we have all made mistakes. But if we are wise and desire understanding we shall then learn the reason for our mistakes and make the corrections. And we can be thankful for the experience that taught us a lesson. For without this we would not know the better way.

073 ここで、あなたは私達の中にあつて犯罪者であったり、他人に危害を与える者についてはどうかと言うかも知れません。これらの行為は結果によってのみ自身を導くように教えられて来たその行為者の側の過ちと見なせるでしょう。そしてほとんどあらゆる人が結果によって導かれており、私達は皆、過ちを犯します。しかしもし、私達が賢明であり理解を望むなら、私達は私達の過ちの理由を学び、修正しなければなりません。そうすれば私達はレッスンを私達に教えてくれたその体験に対して感謝することにも成り得るのです。何故なら、このこと無しにはより良い方法を知ることは無かったからです。

【解説】

「体験から学ぶ」と言われますが、物事の背景にある原因に気付きにくい私達は、結果を唯一の拠り所とし、他人の評価や不確定な将来に対する不安から、不完全な行動、場合によっては自らの内部の勝手な囁きを受け入れて犯罪さえも犯してしまいます。本文では、このような犯罪も日常生活の些細な過ちと同じ原因であり、全ては私達が結果によって導かれているためとしています。そして、これら体験から学ぶことこそが大切だと教えています。

よく事故発生後、その原因を徹底的に究明して再発防止策をとりまとめ、類似箇所に水平展開することが行われますが、そのようにして将来ともにその事故原因を取り除くことが着実な進歩につながると言えます。世の中の技術はこれら人間が学び取った多くの失敗事例が元になって改良されて来ました。

しかし、人間の心の機能については、どうでしょうか？各自の心の限界や挙動、たまたまの結果に右往左往する心の動きをしっかりと見据えて、本来、そのにがい体験の原因を分析すべきなのですが、このような体験を学んで以後の人生に生かす努力は、意外に行われていないのです。

074 History does not necessarily have to be repeated, for it is man's action that make history. We will cover this more thoroughly in the coming lessons but at the moment we will continue with the mind.

074 歴史は必ずしも繰り返される必要はありません。何故なら歴史を作るのは人間の行動であるからです。つぎの課ではより完全に取扱いますが、ここでは心について続けることとしましょう。

【解説】

実に歴史は繰り返されているように思われます。人類の歴史は手法こそ巧妙化していますが、その実、内容は同じ、「争い」の歴史でもあります。

個人について言えば、「過ちは繰り返される」とも言えるでしょう。問題の渦中にある時、一瞬、心を落ち着かせていったい何が問題なのか、かつて同様の状況はどうだったかを冷静に分析するゆとりを持ちたいものです。その状態における自らの心を観察し、まずは心配し、思い悩む心が訴えている事柄を受け止めましょう。次にその原因を探ることです。その整理する作業の中で、真の原因が見つかると同時に問題は解消する事例も多いものです。

心は自己の存在を守る為にやっきになっており、不安のまま過度な反応を起すものです。こういう場合にも、心は自分自身が創造主から愛され、常に必要適切な指導の印象が授けられていることを自覚することがポイントです。

075 We have been taught that the mind is the man as well as the knower. But as the mind is an effect, this statement is far from the truth. Yet within the form of man lives the knower. If the mind would humble itself and become the observer of the form through which it works, it would soon realize how little it does know. i.e. There is no question in our minds that we have brilliant people in the world, for the new inventions in the recent years prove this. In the field of electronics the things that are done could be called miracles. Things like correcting instruments from earth that are many miles out in space, and talking back and forth with a man in a capsule orbiting the earth. These accomplishments only show the potentials of the human mind when it listens to the guidance of consciousness. Yet with all of the knowledge at present there is not one man in the world that can create a human form and have it function as we do. But within the form there is that knowledge which manifests every day in the birth of children. Not to mention the thousands of other form creations.

075 私達はこれまで心こそが人間であり知る者であると教えられて来ました。しかし、心は一つの結果であり、この声明は真実とはかけ離れています。しかし、人体の内側には知る者が生きています。もし心が自らを謙虚にし、その知る者が人体を通じて働く様子の観察者になるならば、心はすぐに心がいかに少ししか分かっていないを自覚することでしょう。つまりこういうことです。世の中には素晴らしい人々が私達の中にいることについては疑問はありません。近年の新たな発明がそれを物語っています。エレクトロニクス分野では為されている物事は奇跡と呼ばれても良いでしょう。宇宙空間に何マイルも離れている装置を地上から修正するようなことや、地球を周回するカプセル内の人間と相互に通信するようなことがそれです。これらの成就した出来事だけでも人間の心が意識の指導に耳を傾けた時に発揮する人間の心の可能性を示しています。しかし、今日の知識の全てをもってしても、世界中に一人として人体を造り出し、それを私達同様に機能させることが出来る人はおりません。しかし、その人体の内部には毎日、赤子の誕生として現出する創造的知識が備わっているのです。その他、何千もの他の創造物についても言うまでもありません。

【解説】

現代文明を造り上げた人間の能力は確かに優れたものがあります。それを成した「人間」の正体は私達の自我、あるいは心であるとし、人間は他の動物に比べて勝っているが故にこの地上を支配しているとして来ました。しかし、それは真実なのでしょうか。まず、私達の「心」なるものは、決して全能なものでなく、むしろ常に不安定で、それ自身で自立できない大変危うい存在であることを自覚する必要があります。これまで科学が進歩したのは、その得た知識を言葉として書き留め、記録に残すことが出来たからと思われれます。各人の心は創造主の計らいにより真理の断片を掴む機会に恵まれますが、後人達はそれらをつなぎあわせることによって、今日の文明を造り上げたと言えるでしょう。

しかし、自然界を見るとこれら創造作用は肅々と手際よく作業が行われ、実効を上げて行きます。そこに働く英知は無言です。心を指導するより大きな存在が働いていると言えるでしょう。私達の心は決して他の動植物より優れているという自尊心を捨て、もっと自然界の営みを観察することによって英知の現れを間近に見る必要があると言っているのです。

076 So the mind does not have to go far to learn. For it can learn from the form through which it works if it humbles itself to the knowledge within the form. We can now see where the saying "man know thyself and you shall know all things" originated, for all creation is governed by this law. And there is no greater truth than this that has ever been spoken.

076 ですから、心は学ぶ為に遠くに行く必要はないのです。何故なら、形あるものの内部にある知識に心自らが謙虚になりさえすれば、心は形あるものの働きを通じて形あるものから学ぶことが出来るからです。私達は今、「汝自身を知れ、そうすれば全てが分かるであろう」という言葉が何処に起原を持つかを知ることができます。何故なら、全ての創造がこの法則に支配されているからです。そしてこれまで語られた中でこれほどに偉大な真実はありません。

【解説】

世の中で最も身近にある形有るものは私達自身です。全ての形有るものの中にそれを生み出し、機能させている英知、意識が存在している以上、その最も身近で観察や学習に適しているのは私達自分自身ということになります。

道を求めて様々な人物に逢い、事物を訪ねることも有意義ですが、それ以上に学習上、有効なのが自分自身を探究することです。自分自身のことであれば、自分の心の状態とその後の肉体への影響、更には自分の周囲の環境の変化等、外部（他人）から見えにくいことも一目瞭然です。またこの自分自身はこれまで及びこれからの私達を支えてくれる大切な肉体でもあります。自分の手や足、顔など基本的な部分も、自分自身の本質ではないにせよ、実生活においては無くてはならない部分です。これら肉体の各部分はまた、私達の心の動きに応じて変化します。心が発する印象（想念）に大きく影響を受けているのです。つまり、日々の心の有り様は、瞬時にその肉体に影響を与えています。心はその肉体内のより深遠でパワフルな英知の活動に気付き、その指導に従いさえすれば、驚くほど急速に真理を学び取り、それらの成果を自らの肉体に表現することができる筈です。「汝自身を知れ」という言葉は一般に思われているように自分自身の限界を知ることとは正反対に私達に備わっている無限の可能性にいち早く気付くよう、促す言葉だったのです。

077 THE CREATION OF A HUMAN FORM

A pregnant mother knows that a conception has taken place within her being, but her mind does not know what is to be done in the creation of the form. Many times she wonders what is going on. There is not a mind in the world that knows exactly the type of intelligence that is responsible for the growth. It is true that pictures have been taken from conception to birth, but not of the intelligence that brings about the form from moment to moment. This intelligence is superior to the minds of men and that of the mother, for they know not what goes on. This proves that the mind is subject unto a greater intelligence than its own. Yet the mind has the potential of attaining equality if it allows itself to be guided by the higher intelligence.

077 人体の創造

妊娠した母親は自分自身の中で妊娠が起ったことは分かりますが、彼女の心は形あるものの創造において何を為すべきかは知りません。何度も彼女は何が起っているのか不思議に思います。しかし、胎児の成長に責任をもっている知性のタイプを正確に知っている心はこの世に一つもありません。妊娠から誕生までの写真が撮られていることは真実ですが、一瞬一瞬人体を形作っている知性について写真に撮られることはありません。この知性は人間の心や母親の心より優れており、それらは何が起っているかを知っています。このことから、心はそのもの自体より大きな知性に支配されていることを示しています。しかしまた、心は自らをそのより高い知性によって導かれることを許すならば、それと同様な能力を持つ可能性を有しています。

【解説】

前節では人体の誕生過程に形あるものの内部に宿る英知の働きが現れるとして来ましたが、その内容を更に深く説明しているのがこれ以降の段落です。

卵子と精子の融合から始まる人体の創造過程は神秘という他はありません。一つの細胞が分化し、各々異なった器官の形成に向けて様々な変容を遂げ、何億倍もの大きさの組織体を構築し、そこに自立し行動できる個体を生み出す過程は、実に無から有を生み出す驚異のプロセスと言えます。

私達一人一人は、皆、例外なくこの創造の過程を通して母体から離脱し、この世に誕生しました。赤ん坊が生命力に溢れ、皆一様に元気活発なのは、彼等がその創造の過程の息吹きを失っていないからです。

このような女性の体内における人体の創造は、その身体的主人である母親の心が行っている訳ではありません。心とは別の無言の英知が母親の肉体の維持と同様に、胎児の誕生までの一切の手順を取り仕切っているのです。

更に目を転じれば、世の中には生命の誕生という現象が溢れていることに気がきます。そしてまた、私達人類の生活もこれら生物の営みに依存していることが分かります。

078 And what is this higher intelligence? Again we have to refer to the consciousness for a definition. For at times it impresses the mother's mind to seek a certain type of food that she does not ordinarily care for, because this chemical is needed in constructing the infant form. And this intelligence causes the movement within the mother's body. No voice of instruction is heard yet the mind of the mother knows that some change has taken place. This is done by impressions for consciousness does not use sound as we know it. It is this consciousness that is the creator or builder of the form as near as we can tell. And this is all done independent of the mind. Even here the mind may interfere by opposing the impressions that come, like the food. Either by not seeking it or not being able to get it, which could bring about an imperfect form.

078 次に、このより高い知性とは何でしょうか？ここで再び定義の為に意識について引用しなければなりません。何故なら時々、胎児の建設に化学物質が必要となる為、それは母親の心に彼女が普段は好まないある種の食べ物を求めさせるからです。そしてこの知性は母親の体内に運動を生じさせます。声に出しての指導は聞こえませんが、母親の心は何らかの変化が起ったことを知ります。意識は私達の知るような音を用いませぬので、これは印象によって行われます。私達がこの形あるものの創造主あるいは建造者と呼ぶのに近いのはこの意識なのです。しかもこれは心とは全て独立して行われています。ここにおいてもなお、心は食べ物の場合のようにやって来る印象に反対することによって妨害するかも知れません。それを求めることをしないか、摂ることが出来ないことによって、不完全な人体をもたらすことになるかも知れないのです。

【解説】

自分に最も近い存在であるこの「英知」は私達の心に印象という形で指示を与えています。とりわけ妊婦の場合には体内の子供の肉体形成に必要な物質要素を母体が獲得しなければならない必要から、意識を通じてより強い指示を母親の心に与えることとなります。このようにして女性は自らを舞台として人間創造のドラマを演じる体験をする訳で、生まれ出た我が子に誇りと愛情を強く抱くことになるのです。

この一例からも分かるように、私達の体内で起る様々な生命活動を統括指示している英知がいつも私達自身の内に居ることは大変心強いことです。何処かに大切に保存しておくことも、他人に預けておく必要もありません。常に私自身に付き添ってくれて無言で肉体の維持を担って戴いている存在、また私達が望めば大宇宙を貫いているよい大いなる英知にもつながっている存在。この私達自身の内部にある知性こそ、私達が生きて行く上で頼りとすべき相手なのです。まさに「同行二人」そのものです。

079 The mother has been used as an example, but people daily ignore impressions that are given to the mind by the consciousness and cause many imperfect acts that could have been avoided. All because the mind has been exalted through the ages and has given no thought to its parent - the consciousness. It supports itself by past acts and repeats history instead of going forward. There is some improvement historically, but actions are still founded on the past, like the destruction of men in war, instead of evolving above the past. The mind has an opportunity to bring newness each day by following the guidance of consciousness.

079 母親の件は一つの例として用いられましたが、人々は日常的に意識から与えられた印象を無視しており、避けることができた多くの不完全な行為を起しています。全ては心が長い時代を通じて誉められ、その両親である意識には何らの配慮も与えて来なかったことに原因があります。心は過去の行動によって自身の拠り所とし、前進する代わりに歴史を繰り返しています。いくつかの進歩も歴史的にはありますが、戦争における人間の破壊のように過去を超えて進化することの代わりに、行為は依然として過去に基礎を置いています。しかし、心は意識の指導に従うことによって、日々新鮮さをもたらす可能性を有しています。

【解説】

実は意識による無言の指示（導き）は母親のケース以外にも、誰もが日常的に受けているとしています。私達の心は自らの経験や過去の実績を拠り所としています。その為、未知な領域に冒険するようなことは好みません。また、心が印象を感受できたとしても、それに従わず、自己の経験を護持して行動せず、折角のチャンスを見送ってしまうことも多々ある筈です。

母親に母体の胎児の生育に必要な栄養素を摂るよう促すのと同様に、実は私達一人一人が日々新しい暮らしに一步を踏み出せるよう意識は一人一人に合った導きを伝えようとしているのです。その導きに従って、ご自身の新たな世界を切り開くか、無視して旧態依然の生活を続けるかは本人次第ということになるでしょう。しかし、私達の内部には、このように私達を見捨てない導き手が常にいらっしゃることを理解するだけでも、心安らぐのは確かです。

080 The mind acts as it does mostly through fear caused by a lack of knowledge and faith. For if it changes, it knows not what the next moment might be like. Fear is the master of the mind and governs nearly every human being on earth, in one form or another. Very few people realize that fear is a dominant factor for we have been children of its household for centuries and now feel that it is a natural way of life. We do not even know that we fear, yet fear is nothing but a lack of understanding of the laws that govern life. And these laws cannot be learned by studying effects, especially of human experiences. For most of these are the result of fear dictation.

080 心というものはそのほとんどが、知識や信頼の不足が原因で生じる恐怖を通じて行動しています。何故なら、もし変化があった場合、心は次の瞬間にどうなるのか知らないからです。恐怖は心の主人であり、地球上のほとんどの人間をどのような形態にしる支配しています。私達は何世紀の間、そのような（恐怖に支配された）家庭にいる子供であった為、私達の中で恐怖が支配的な要素であるということを知っている人々は極くわずかであり、今やそれが自然の生き方だと思えるようになってきました。私達は私達自身が恐怖していることすら知らないのですが、恐怖は生命を支配する諸法則の理解が欠けていることでしかありません。そしてこれらの諸法則は結果、とりわけ人間の体験を学ぶことによってでは学習することができません。何故なら、これらのほとんどが恐怖による指図の結果だからです。

【解説】

私達の日常の生活には「心の恐れ」が隅々まで浸透しています。そしてこれに対して保険や貯蓄等、数多くの仕組みがこの世の中に設けられています。需要がある以上、それを商売（ビジネス）にする者が生まれるのです。また、恐怖は組織を維持するツールとして多くの社会組織の中で用いられています。会社で言えば、社員と上司の間、更に役員や社長、大株主や資金提供者（スポンサー）との間等、上から下までその指示命令を通す上で「命令」には服従し、その指示内容の実現に命令を受けた者は奔走しなければなりません。その目標レベルを達成できなければ、ペナルティーを受けるという恐怖がサラリーマンを支配しています。

また、恐怖は国家間の防衛問題にも関係しています。相手国の脅威が自国の戦力の増強を追い立てています。

しかし、一瞬、恐怖を少し離れて見つめ直すことをお勧めします。例えば自分は何を恐れているのかを紙に書き出して見ます。そしてその正体が分かれば少し前進です。恐怖の正体を突き詰め、所詮、自分の心の自己保身でしか無いことが分かれば、恐怖は消える他はありません。

081 F.D.R. expressed it well when he said, "there is nothing to fear but fear itself." For fear promotes fear. Our late President Kennedy made the statement, "Ask not what the Nation can do for you but what you can do for the Nation." I would say it this way ; it is not what God will do for you but what will you do for God? And God is the consciousness of our being. Or we could put it this way, it is not what the consciousness does for the mind, but what the mind can do for the consciousness.

081 F.D.R. (フランクリン・D・ルーズベルト、Franklin Delano Roosevelt) は「恐怖以外に恐怖すべきものは無い」と言ってそれを上手に表現しました。恐怖は恐怖を助長するからです。故ケネディ大統領はこう声明しました。「国家があなたに何を為せるかと問うのではなく、あなたが国家に何を為せるかを問え。」私ならこう言うでしょう。「神があなたに何をしてくれるのではなく、あなたが神に何をなすかである」。そして、神とは私達自身の意識なのです。そこでこういうようにも言えるでしょう。「意識が心に何をなすかではなく、心が意識に何をなすことができるかである」。

【解説】

前述のように恐怖はまた更なる恐怖を造り出します。薄暗い道を歩いていると、ちょっとした物音にも心は驚きます。とりわけ目は暗闇を恐れます。恐怖が恐怖を呼ぶエスカレート振りはその恐怖心を許しておくとも容易に勢力を増し、心臓の鼓動を高め、身体に鳥肌を立てるほど高まることは誰でも経験することでしょう。しかし、私達の肉体の各器官は光の有無に関せず、休むこと無く一瞬一瞬を全力で所定の任務を果たしています。唯一、私達の感覚器官の一つである視覚だけが不安に思っているだけのこと。視覚がその不安を肉体全体が置かれている危機だと騒ぎ立てているのです。

ここで本文の「恐怖以外に恐怖すべきものは無い」という言葉と「神があなたに何をしてくれるのではなく、あなたが神に何をなすかである」との関係について整理しておきましょう。恐怖は次の瞬間に心の拠り所がどのような状況になるか確信が持てない不安から生じます。その背景には心はその理解不足から不安定な結果や結果の世界における他者に依存していることに遠因があります。これを反転させて、その結果を造り出す創造主側に奉仕する、言い換えれば創造主の道具になり切って、刻々の任務を果たすことに生き甲斐を見い出せば、未来に対する不安は軽減します。本文は「求める」側から「進んで奉仕する」側、「生み出す」側に転換することで失う恐怖は無くなることを示唆しているのです。

082 All of our life we have been doing things the hard way. Either in one extreme or another. Now the time has come to settle down into the middle, which is the conscious eternal highway. And stop taking the mental by-ways, for the center balance will make life much easier.

082 私達はこれまで生活のすべてを困難なやり方で物事を行って来ました。ある極端から他の極端のいずれかであったからです。しかし今や、意識的な永遠の大道である中庸に落ち着く時期を迎えています。そして心の横道を取るのを止めるべきです。中央のバランス状態は生活をはるかに容易にすることになるからです。

【解説】

一口に「中庸の徳」と片付ける訳ではありません。しかし、私達の精神生活は浮き沈みが特に激しいように思われます。たまたま幸運が重なり好ましい結果を得た時は私達の心は有頂天になり、あたかもこの調子が将来とも続くかのように強気になる一方、思いがけず不運な結果に終われば心は前途を悲観し、打ひしがれて何らの意欲も生じない憂鬱状態に陥ります。

このように私達の心は何事にも一喜一憂、本文で言う極端から極端へ振り子のように揺れ動いています。しかし、その結果、様々なストレスが自らの肉体に、更には周囲の環境に悪影響（危害）を与えているのです。

そこで本文が指摘しているのがバランスのとれた中道の大切さです。つまり、心の動揺が消え、安定安心した落ち着いた場所に心を持ち続け、意識からの無言のメッセージに心を鋭敏にして置くことを勧めています。言う間でも無く、そのような創造主からの直接の導きを感受するようになれば、各自の行動は効果的なもの、実りのあるものとなり、結果としてより楽な生き方が出来るとしています。本文で言う中庸とはこのような人間の進歩の大道を意味しているのです。

083 On this highway we shall find that all creation expresses a Divine intelligence. For consciousness is the life of even a grain of sand. It lives independent of forms, yet it activates all matter. It speaks the silent language which we call impressions, yet moves with a force far greater than any sound. And you and I are the highest manifestations of it, for without consciousness the mind would be nothing.

083 この大道では、私達はすべての創造物がある一つの神聖な知性を表わしていることに気付かねばなりません。何故なら意識は砂粒一つ生命でもあるのです。意識は形とは独立し、しかも全ての物質を動かしています。意識は私達が印象と呼ぶ無言の言語で話していますが、どんな音よりもはるかに大きな力で揺り動かしています。そしてあなたも私もその意識の最高位の創造物と言えます。何故なら意識無くしては、心は何らのものでもないのです。

【解説】

揺れ動く心によって脇道に迷い込むことなく、進歩の大道を歩むことが前節で述べられました。

その大道上では、私達は否応無しに万物が意識によって支えられていることを知ることになります。あらゆる物がその大小にかかわらず、内部で支えている生命の源を備えており、そのことを体験を通じてより深く理解することによって、人間本来の目的地に導くと言っているのです。

また、意識の用いる無言の言語の力はどんな大きな音よりも万物を揺り動かす力があると言っています。この現実世界を突き動かすパワーが意識にあることに気付けば、それに自分の心を同調させれば、私達人間は本来、とてつもない力を発揮できる存在なのです。進歩の道はこのように本来、幅広くゆったりしているものなのですが、その存在に気付くまでには困難があり、私達の日常からこの大道に入る為には「狭き門」があると言えるのでしょうか。既存の迷いの脇道から私達はいつでも、この大道に乗換えることができますが、その決断までの心の躊躇の過程が曲がりくねった小道ということになります。

084 The mind can be developed to see the pictures in a room that it takes a T.V. to produce. And the sounds and music that are in the air that take an instrument to amplify, and so on with the other senses of the mind, but if consciousness withdraws from the body we consider the form dead. Yet one can lose the functioning of the mind and all of the senses become very dull, but so long as consciousness is there he is a living being. This proves that the consciousness can live independent of the mind which the mind cannot do. Considering the two phases of man we find that they are comparable to two people living in the same house, one depending upon the other. One mental, the other conscious. The conscious part is of the Cosmos, the mental of the world. The wordly must learn to blend with the cosmic before the union with its creator can be realized.

084 心は部屋の中でテレビが造り出すような映像を見るほどに発達させることができます。また、気中にある増幅する装置を必要とする音声や音楽も見聞きできるまでになりますし、このことは心の中の他の感覚についても同様です。しかし、意識が肉体から離れれば、私達はその形有るものを死んだと考えます。しかし、心の機能を失い、全ての感覚が鈍くなったとしても、意識がそこに存在する限り、その者は生きた存在であり続けますが、心はそうは出来ません。このことは意識は心とは独立して存在できることを証明していますが、一方心は意識と離れて存在できません。この人間の2つの側面を考える時、私達はそれらは同じ家に住む2人の人間、一方が他に依存している場合のように例えることができます。一つは心、もう一つは意識です。意識の部分は宇宙的であり、心は世間的です。創造主との結合を実現するまでには、この世間的な部分は宇宙的部分と混じりあうことを学ばねばなりません。

【解説】

この部分の解釈には迷うところもありますが、本稿では「私達の心を発達させれば、（テレビの助けを借りなくても）テレビが造り出すような映像も目に見えるようになる」と解釈しました。なお、一方ではテレビやラジオの受信器を造り上げたのは人間の心であり、私達が実際に気中に流れる電波を増幅して放送番組を楽しんでいること自体が「心の発達である」と解釈することを付け加えて置きます。

さて、ここでのポイントは、心と意識の関係です。心（感覚）を鋭敏にすれば遂には大気中を飛び交う映像信号も感知でき、感覚の受信能力を高めることができる一方で、これら感覚は常に意識という遥かに大きな存在に依存しているということです。ヘレン・ケラー女史の例を待つまでもなく、人間は感覚を失っても肉体の維持に大きな支障はありません。意識があるか無いかは重要だとしています。これについては医療の現場で「意識があるか無いか」ということが大きな問題になっていますが、このことも本稿でいうテーマと関連しているものと思われます。

肉体という家の中に心と意識の両者が住んでいるという例えは、私達にある意味、安心感を与えます。私達（心）は遥かに力があり家を絶えず守っている意識から多くのことを本来、容易に学ぶことができる筈だからです

085 To make the blend it is necessary for an individual to cultivate the habit of having the mind think of the cause behind the action, what ever it may be. And analyze each action to see if it was habitual from the past experiences and purely mental and self centered, or of a cosmic nature, which one must strive to attain.

085 この融合を造り出すには各人は自らの心に行動の背後にある原因についてそれが何であろうと常に考えさせる習慣を養うことが必要になります。そして個々の行動についてそれが過去の体験から来る習慣的なもので単に心によるもの、自己中心のものか、あるいは宇宙的な性質のもの、人が達成しようと励まねばならないものかどうかを見分けるよう分析することです。

【解説】

人体という同じ家に住むと言っても、片方（心）が相手（意識）の存在に気付かずに過ごしているのが日常です。気付く為には、日頃から相手の存在、作用に関心を持ち、自らの行動についてそれが従来の心の指令なのか、意識の導きのいずれに由来するかを観察し、見極めよと言っています。

このような各自の行動の基となる拠り所を分析し、更にはその原動力である想念の由来を観察することで、本来の目指すべき意識による導きに対する感受性を高めることになるからです。

しかし、一般的には日常生活のほとんどが過去の経験に沿った行動パターンで過ごしており、私達の生活が色あせ、ルーチン化した毎日の繰り返しになっていることに気付きます。それに対し、一日一日を新鮮に迎え、過去を振り返らず常にフレッシュな観察眼を開いて様々な側面に感動できる単純素朴な幼児の心を自分の中に育むことが、宇宙の息吹きにも、万物を支えている宇宙の意識との融合にもつながる姿勢と言えるでしょう。

086 Regardless of what the expression may be, one should make the mind recognize and respect the consciousness as the life of the expression. Consciousness is not a respecter of forms or persons, it lends itself to all in all acts. For itself knows neither good nor bad, but its guidance is always for what we call the good.

086 その表現物が何であれ、人は自らの心に意識をその表現物の生命体として認識し尊敬させなければなりません。意識は形有るものや人物の尊敬者ではなく、それはありとあらゆる行動に自らを貸し与えています。何故なら、意識自身は善も悪も知ることはなく、それでいてその導きはいつも私達が善と呼ぶものに向っているのです。

【解説】

あらゆる物の生命体こそが意識であり、各自は意識を敬うように言っています。ある意味、私達はその意識によって生かされていることを考えれば、当然なことでもあります。しかし、私達は通常、心は尊大であり、わがままになっています。自分の肉体は自分（心）の意のままに動かさずし、自分の自由意志で好きな行動が出来るとしてしています。

しかし、私達の中に無言のまま存在し、全ての生命活動を支えている意識の存在の上に私達の日常があり、体内の生命活動無くして自分の存在が成り立たないことを思えば、この意識を尊び、その指導に従うことはごく自然の成り行きと言えるでしょう。

087 Our misinterpretation of its impressions gives us bad results. For many times the mind does not want to be dictated to and acts on its own. The mind in some cases is like a child who is told that if he touches a hot stove he will be burned. But he does not want to be told, so he burns his hand and it is painful. But he did have the experience even though this is the hard way of learning.

087 そのもたらされる印象への私達の過った解釈は私達に悪い結果をもたらします。何故なら多くの場合、心は指図されることを嫌いますし、自らの判断で行動してしまいます。ある場合には心は熱いストーブに触ると火傷すると教えられている子供のようなものです。しかし、彼は教えられることを嫌って、手に火傷をして痛い思いをするのです。しかし、これが学ぶ上で辛い道であったとしても彼は体験を得た訳です。

【解説】

ここでのポイントは印象に対する心の誤った解釈かと思います。本文では熱いストーブに対する幼児への両親の注意の例が述べられています。この場合、「熱いストーブに触れると火傷をするから、触れてはだめよ」と両親が子供に注意しますが、この注意の言葉こそが意識が発する印象です。これに対して、子供（心）がそのような親（意識）の忠告を無視して、自分勝手に行動し、火傷を負って痛い目を見るのが私達の心です。親（意識）の忠告を無視した結果、自らの体験により「貴重な」体験を得ることになった訳です。

しかし、より深刻なのは、私達は往々にしてその失敗を繰り返すということです。過去の体験が生かされないことがむしろ多いのではと思っています。その理由は、私達はその失敗の原因を十分分析せず、改める作業を行って来なかったことにあります。本来、その時の自分の心がどのような事柄で占められていたか、等を調べれば少しはその原因を理解でき、再発を防げたかも知れないのです。正直にありのままの自分を見つめることが大切です。よく重大事故の後、原因調査が行われます。こうした失敗事例を分析して得た知識を基に再発防止策を策定し、皆がその事故についての知見を共有することで技術は進歩して来ました。それと同様なことを本来、人間の精神面についても行うべきなのです。

これまでも繰り返し述べられているように、体験からしか学べない者は決して望ましい姿ではありません。しかし、体験から学べない者は更に救いがたいと言えるでしょう。私達は考えること、反省することを止めてはなりません。毎日、少しずつ進歩する努力の積み重ねが遂には成就へと導くからです。

088 THE WILL OF GOD is a term often used. If you cannot learn by His guidance which is the consciousness, then He lets you learn by your own mental will which brings painful results. So God is not responsible for your experience.

088 神の御意志という言葉がしばしば用いられます。もし、あなたが意識である神の導きによって学ぶことができないなら、神はあなたを苦痛を伴う結果をもたらすあなた自身の心の意志によってあなたを学ばせようとしています。ですから、神にはあなたの体験への責任は無いのです。

【解説】

通常、私達は自分達ではどうしようもない状況に至った時、自分達の責任を放棄して、人智の及ばない存在に運命を委ねる意味で「神の御意志」に従うことを宣言します。もちろん、本来の言葉の意味は異なります。自然界を見ればあらゆる物が調和した生命活動を行っています。これらの行動を支えているものこそ、「神の御意志」というものです。自然界の構成員は微生物から植物、高等動物にいたるまで、個々の能力を発揮しながら、しかも全体として調和を保ち、かつ個々の生き方を謳歌しているように見えます。これらは皆、神の御意志に従って、秩序を保ちながら全体として地球という惑星の環境を支えている訳で、神の御意志自体には私達の思い及ばない深い意図があると言わざるを得ません。

その神の御意志は常に私達の上から、あるいは内部から私達に注がれており、その片鱗に気付くことができれば、より良い生き方をすることが出来ます。各自は常時、ある意味、無料で注がれている意識（神）の導きに対して先入観に捕われがちな自己（心）を鎮めて、心自身が気付くようになることが一番の早道です。

089 Some reports have come in from the first lesson. And wonderful results are being obtained by those who are really sincere. This is not surprising as every thing that has even taken place is recorded in consciousness, and can be drawn upon when the mind of man becomes attentive.

089 いくつかの報告が第1課から寄せられています。そして実際に誠意ある学習者によって素晴らしい結果が得られています。これは驚くべきことではありません。何故ならかつて起ったあらゆる出来事は意識の中に記録されており、人間の心が敏感になる時、引き出されることになるからです。

【解説】

ここでは既に学習者に送付されていた「第1課」の反響について記されています。元来、「生命の科学」は一課毎の通信講座として設定されていました。著者アダムスキーは執筆を進めながら、書き下ろした段階から、随時印刷配布を行っていたことがこの記述により分かります。

今となれば、本文に紹介された報告がどのようなものであったかは不明ですが、その内容は「本人の過去の記憶が鮮やかによみがえった」、「太古の光景を目の当たりにした」等の報告であったかと推測されます。

本文では意識は膨大な記憶を保持していると言っています。いわゆる「アカシックレコード」と呼ばれる記憶の書と言われるものです。決して神秘的なものではなく、真面目に本講座に取り組む者全てが、これら宇宙の記憶にもアクセスする能力が自然に備わってくると述べているのです。

090 This is the reason the course has been simplified by the Brothers, and is different than any course of study presented before. In its simplicity it gives the major parts of self that the student must work with.

090 このことがこのコースが宇宙兄弟達によって単純化されて来た理由であり、これまで提示されたいかなる学習コースとも異なる理由です。その単純さの中で、学習者がいっしょにやっ行って行かなければならない自己の主な部分を理解させているからです。

【解説】

通常、私達は複雑に入り組んだ社会に生きており、その中で自分の生き方を見失った毎日を送っています。その間にも心や肉体が疲弊し、やがて死を迎えます。しかし、この惑星における人間社会が例えどんなにか混沌としたものであっても、自らの心を見つめ直し、その実像を知ろうと努力すれば、その束縛や迷い、悩みもいずれは解消することになります。

その為には、様々に多様化した現実から、余分なものを削ぎ取って、本質を浮かび上がらせることが理解に直結します。物事を理解するには、その原理をわきまえておくことが大事です。この生命の科学学習コースは、宇宙兄弟達（ブラザーズ）が特別に制作した教材だとされています。難しい表現をせずに、平易な言葉の中により大きな真理が埋め込まれていると言ってよいでしょう。私達は、この趣旨を十分に心に留めて、素直に自分の内面に照らして各教科を学ぶことが大切です。

091 The Creator's laws are very simple. If this were not true Jesus would not have said, you must become as a little child. A child is trusting and uncomplicated in its way.

091 創造主の法則はとても単純です。もしこれが本当でなければ、イエスは幼子のようにならなければならないとは言わなかったでしょう。子供は信じ易く、その行動に複雑さはありません。

【解説】

私達の心は言い訳に長けており、また私達の住む社会は他人から糾弾されないよう責任を限定、回避する様々な仕組みを設けており、それだけ複雑な仕掛けになっています。その合間をぬって一般人から多額の資金を集め、またその集めた資金によって逆に人々の暮らす社会全体を支配するような者が現れる時代となっています。人々の将来に対する不安につけ込んだ新手のビジネス（商売）もその一つです。

しかし、その一方で、これら人間社会の複雑な仕組みとは一切係り無く、惑星上の生命を支えているのが創造主の法則です。この法則は虫や鳥、植物に至るあらゆる生き物に作用し、その者達に理解されています。そのことをイエスは幼子のように（素直に）ならなければ理解出来ないと表現したのです。本来の物事の原理、法則は単純なものです。私達は長年、物事を自分達の都合の良いように分類し、解釈して来ましたが、この本質的な法則に基づいた別の見方をすれば、全く違った世界が目前に広がることでしょう。他の全ての生き物と一体感が芽生え、やがて嬉々とした生命の躍動する光景の中に御自身がいることに気付きます。それはまさしく、幼子の住む世界と言えるでしょう。

092 Until now, man has been doing everything the hard way with his mind. And has created mystery upon mystery where no mystery exists. And nothing is impossible.

092 今日まで人間は自分の心を用いてあらゆる物事を辛いやり方で行って来ました。そして神秘の無い所に神秘に次ぐ神秘を造り上げて来ました。しかし、不可能なことは何も無いのです。

【解説】

”努力は報われる”と言いますが、何事もただ（心によるガムシヤラな）頑張りでは効果が上がらないことも確かです。多くの場合、エゴによる過度の努力は周辺との摩擦を生み、ストレスを増して遂には身体や精神をゆがめる結果に陥りがちです。

一方、自然界ではどうでしょうか。植物は道端の舗装のわずかな隙間からも芽をだし、茎を拡げて遂には大きな花をつけるまでになることがあります。私達が外から見て大変だと思う反面、植物にとっては静かに生長進化の道を歩んでいるに過ぎないと言うかも知れません。春夏秋冬、それぞれの状況の中で植物は気候に適した身辺活動を行っています。人間に比べれば、植物の1年は劇的な変化のある1年であると言えるでしょう。自然界の生命活動は皆、苦勞を味わうことなく、ゆったりとした状態を保ちながらも、大きな変化、進化の道を遂げているのです。

また、本文では、神秘についても言及しています。とかく私達は、自分の理解できない事に「神秘」のレッテルを貼って特別扱いする傾向があります。ジンクスやオマジナイ、運命やタタリ等、現代社会にあっても古代と変わらない神秘主義が横行しています。私達はこの教科を通じて、これら神秘として分類されてきた事物にも光を当て、より確かな理解力を養う必要があるのです。

093 In lesson two we left you with the term, "The Will of God." And the explanation that God is not responsible for your experiences. And to clear this we will use electricity as an example.

093 第2課では「神の御意志」という言葉で、そして神はあなたの体験に責任がないという説明で話しを終わりました。そしてこのことを明確にする為、一例として電気を取扱うことにしましょう。

【解説】

神の御意志に対比するものとして私（心）の意志があります。以前にも述べましたように神の御意志は差別なく、あらゆる者（物）に等しく注がれ、自然界の全てがその意志に従って行動しています。唯一、人間だけが自らの意志を尊大化させて来ました。

神の御意志は言わば宇宙の法則であり、万物はその法則に基づいて行動しています。しかし、わがまま勝手な人間の心は多くの場合、忠告の声（意識からの印象）に耳を貸さず、その結果、避けられた筈の痛い結果を味わうことになるのです。

もちろん、私達（の心）も本来、生き生きした生活を送りたいと望んでいます。ただ、その実現を自分（心）の意志で達成しようとするのではなく、自分という存在を通して神の御意志が通過し、自分自身が神の道具として働き、その中に一切の自分（心）の意志を入れないことがポイントです。自らを通じて神の御意志を現実世界に具体的に体現することが求められています。

094 An attendant at a power plant that manufactures electricity sends out the current that you may use it for your benefit. He knows what the electricity is capable of doing and how it is to be used. And we are instructed how to use it. When used as instructed, many benefits are derived in many ways. We can even experiment with it providing we follow the law, without being hurt.

094 電気を起こす発電所の係員はあなたが自分の恩恵の為に使うことが出来る電流を送りだしています。彼は電気というものでどのようなことが出来るかや、どのようにして使用されるべきかを知っています。また、私達はその使い方について教えられています。教えられた通り使用する場合は、様々な面で多くの恩恵が引き出されます。私達は法則に従えば怪我をすることなく、電気で実験すらすることができます。

【解説】

第3課「宇宙的法則の応用」の例示として、電気を挙げています。目に見えず、しかも今日の私達の生活の隅々に行き渡って私達の暮らしを支えているのが電気です。各々の末端で機能を果たしている電気ですが、その源を遡れば、発電所に行き着く筈です。この発電所には私達と直接顔をあわせることはありませんが、発電機を運転し電気を起こし地域にくまなく送電する操作を担っている発電所の担当者があります。電気を宇宙あまねく意識とすれば、その発電所の担当者こそ私達が神と呼ぶ存在とすることが出来るでしょう。私達は発電所に赴くことはできませんが、そこから電気（意識）が送られてくることに間違いはありません。

また、この電気にも取扱う上での注意点があり、その作用を良く知っておくことが必要です。より多くの電力を引き込む程、その影響は大きなものとなるからです。私達は学習を進めるにつれて、ますます宇宙の法則について正しい理解を身につける必要があることとなります。

095 i.e. An electric socket is made to hold a light bulb and not for a finger to be placed in it when the current is on. Even when it is not, should one be standing in moisture, he can receive a shock. If one gets hurt or has an unpleasant experience by the misuse of the law, he cannot blame the man that is willingly giving him the power. He can only blame himself, either for ignorance of the law, or aggression on his part.

095 即ち、電球のソケットは電球を固定する為に作られたもので、電流が流れている時に指を入れる為のものではありません。指を入れなくても、湿った場所に立って（ソケットを触った）場合にはショックを受けるかも知れません。仮に法則の誤用によって痛い目に逢ったり、不愉快な体験をしたとしても、電力を喜んで送っている係員を責めることは出来ません。自分自身が法則について無知であったか、自分の無謀な行為について自分自身を責めるべきなのです。

【解説】

私達は自由勝手に動き回るやんちゃな子供のようなものです。しかし、法則は全ての末端においても等しく働く訳で、例外はありません。誤った法則の使用は当然、誤った結果をもたらします。

本文では電球のソケットに指を入れる例が述べられていますが、実際にはどのような事柄が想定されるのでしょうか。宇宙の隅々から支えている法則の誤用の例としては、「ねたみ」や「うらみ」「不安・心配」「恐れ」等の人間の心が放つ想念があると考えます。それらは内容の善し悪しに係り無く、いずれ現実（結果）世界に作用することでしょう。それほどに想念の放つパワーは大きいものがあると思われれます。しかし、同時にそのパワーは発信者自身にも相手と同様に作用します。従って、よく「怒りは敵と思え」と言われますが、それはそうしたマイナスの想念は相手のみならず、自分にも帰ってくることを指摘しているのです。

このような法則の誤用は、法則について無知なことに原因があります。因果応報、私達は否応なく、宇宙の秩序、大法則の直中に生きており、その法則を自ら理解しようと努力し、自然と調和して生きることが大切なのです。

096 The Creator gives us the power of life, and intelligence through the avenue of consciousness. The personal ego mind can use this in accordance with the law or it can transgress the law and receive either bad or good results, as with the electricity. Every individual has been granted this free will.

096 創造主は私達に意識という大通りを通じて生命の力（パワー）と知性をともに与えています。個人のエゴ（自我）の心は法則に従ってこれを利用できますし、法則を逸脱することも出来ますが、その結果、電気の場合のように良い結末あるいは悪い結末を得ることになります。各自は皆、この自由意志を許されているのです。

【解説】

私達が心を鎮め、静かに自己の存在を見つめる時、私達は言わば、空間に広がったある種の感性に取り巻かれていることに気付きます。通常の私達にはこの程度の認識でしかありませんが、この感じこそ、本書で繰り返し述べられている「意識」を示しています。実際にはこの意識は無言ではありますが、とてつもない可能性を秘めており、宇宙の生命の源に通じている存在です。

さて、本稿では、その意識を通じて、生命の力と知性の両方が私達に贈られていると言っています。力（パワー）のみならず知性もです。つまり、肉体（物質）を備えた者（人間）にとって、この意識により必要な要素は全て与えられていることになります。今日では、電力線で電気（パワー）の供給のみならず、情報もやりとり出来るようになっていますが、この意識という経路を通じて、私達は創造主から喜んで与えられている贈り物（ギフト）を進んで受け取り、贈り主（創造主）が本来望んでいる生き方に応用する為に、各自努力すべきなのです。

097 We can use the television set again, as a good example. The set in itself has no power or intelligence. But there are instruments in it equivalent to the brain or mind of man which cannot act until the power is turned on. When this is done, intelligent expression follows. Let us say that the intelligence is inhaled into the set through the ether or radio waves which carry the message. And as they come into the set the expression takes place, and not only the message comes through, but the individuals are shown as a living image on the screen. As I understand it, there are 80 different frequency channels in this nation over which programs are carried. Each channel is separated from all the others, yet some are so close that they encroach upon another. This calls for a very fine instrument to keep them separated. All channels use the same power and the same law, but there are sets that can only pick up a few channels. Yet all must depend upon the power and the ether waves to be of service. And they must inhale and exhale the waves to have the continuence of the program.

097 テレビ受像機を再び好例として述べましょう。テレビ自体には電力も知性もありません。しかしその中には電力が入れられない限り行動出来ない人間の脳や心に相当する装置があります。それが為されると、知性的な表現が続いて起るのです。メッセージを運ぶエーテルもしくは電波を通じて知性がその受像機に吸込まれると言うことにしましょう。そしてそれらが受像機に入るや、表現が起りますし、スクリーンに個人が生きているイメージで映し出されます。私の知る限り国内には番組を放送している80の異なる周波数チャンネルがあります。各々のチャンネルは他と分離されています。この為、それらを分離し続けるにはとても繊細な装置が必要になります。全てのチャンネルは同一の電力と同一の法則を用いていますが、中には数チャンネルしか受信できないテレビもあります。しかし、全ては機能を発揮する為電力とエーテル波に依存しているのです。そしてそれらは番組を継続する為にはこれらの波を吸込み、吐き出す必要があります。

【解説】

本稿では人間をテレビに例えています。前回、学んだように、私達は意識を通じて生命力と知性の両方を創造主から授けられています。テレビを機能させるに必要な電力を送っている発電所も、電波によって番組を放送している放送局もテレビとは遠く離れていますが、同じ創造主が送り手なのです。電力と電波の二つとも目に見えませんが、この二つがテレビを機能させていることに違いはありません。

この例えを進めて行くと、私達（テレビ）は創造主（放送局）からのメッセージを再現し、地上世界で表現することで本来、大きな役目を担っていると言えるでしょう。その為には、確かな電波の発信源にアンテナを向けて送られてくる精緻は信号を注意深く検波し、メッセージとして再現する機能を果たすことが必要です。もちろん、テレビ自体も性能を向上させなければなりません。同じ番組を映す場合でもテレビ受像機の性能によって見る者に与える影響は大きく異なります。一人一人の表現能力を磨き、ブラウン管からプラズマ、液晶テレビ等々、受像機（各人）も進化させなければなりません。しかし一方では、テレビはあくまで道具であり、電力と放送電波がその活動の源泉であることを自ら認める必要があります。

098 So it is with man. For he has all the potentials of expression built in, as it were. And he must inhale and exhale the breath of life to be of service. Should he cease breathing he would become a stilled instrument without any motion. Yet to inhale and not exhale the continuous state of life expression would cease. THE BREATH OF LIFE must pass through the form continuously for it to be active. It is comparable to the ether waves that feed the television set. Notice that the breath of life and the ether waves are everywhere and know no barriers, but they need an instrument to express through.

098 それは人間にも当てはまります。何故なら、人は内部に言わば全ての表現力が組み込まれているからです。そして人は役立つ為には、生命の呼吸を吸込み、吐き出さねばなりません。人がもし呼吸を止めたとしたら、何らの行動もしない静止した装置になってしまうでしょう。また、吸込むだけで吐き出さなければ、生命の継続状態は止まってしまうでしょう。「生命の呼吸」は形有ある物が活動的である為には絶えず体内を通っていなければなりません。それはテレビを養っているエーテル波に例えることができます。注意して欲しいことは、生命の呼吸もエーテル波も何処にでも存在し、それを妨げるものは無いのですが、それらは表現される為には道具が必要なのです。

【解説】

本稿では更に人体とテレビの関連性を解説しています。著者アダムスキーは呼吸の重要性について様々な箇所で言及しています。ここでも同様に、人間は生命の呼吸を続けることが必要だと言っています。具体的にはどのような事を示唆しているのでしょうか。原文 "Inhale" は息を吸込むことで、これは様々な印象や教えを自分自身に取り込むこと、場合によっては資料収集も該当するでしょう。

一方、"Exhale" (息を吐き出す) とはどのようなことを指すのでしょうか。昔、習ったラジオの原理はアンテナを通じて電波が受信器は取り込んだ電波を装置内に通すことを行っています。これは人間の場合に当てはめれば、宇宙に行き交っている生命力という電波を人体に取り入れ、通過させることによって、体内の某かの装置を活用して、そのメッセージ内容を体現するということになるでしょう。

この場合、むしろ難しいのは "Exhale" 側のことで、とにかく人間はアンテナを張ることに熱心なのですが、取り入れることが出来た情報やアイデアについては自分自身の中に留めがちです。しかし、それらのいわゆる所有欲に捕われず、得た有益なメッセージを放出し社会に還元することによって、更にますます情報の流れが加速するようになるのです。創造主の意志発現の道具に徹することが、本来、求められる人間の在り方なのです。

099 Man's mind could be compared to a detector tube in the T.V. set which cannot function until the power is turned on. And consciousness is the power and intelligence that motivates the mind through the process of the breath of life. And without this breath which we call air, nothing could live. Not even a grain of sand, for everything depends upon it. As it manifests through the various forms it brings forth a complete melody, expressing life in its fullness.

099 人間の心は電力が投入されない限り、機能できないテレビの検波管に例えられることが出来るでしょう。そして意識は生命の呼吸という過程を通じてその心を活性化する力であり知性です。そして私達が空気と呼ぶこの呼吸が無ければ、何物も生きることが出来ません。一粒の砂でさえもです。何故ならあらゆるものがそれに依存しているからです。そしてそれが様々な形あるものを通じて姿を現している為、それは生命を豊かに表現する一つの完璧なメロディをもたらしています。

【解説】

前節で私達は創造主の意志を実世界に表現する役割を持っていると述べました。ここでは私達の心はラジオやテレビの中の部品の内、取り入れた電波から音声や映像を必要な信号として取り出す検波管に例えています。私達の心の中を創造主からの印象が通過する時、私達の心（検波管）はそこから自分達に分かる波動成分を取り出し、表現していると言っているのです。

また、その基となるのは、人間の呼吸であるとしています。正確なことは分かりませんが、通常の呼吸という動作の中に私達の心を活発にする何らかの重要な作用があるものと思われれます。ちなみにヨガでは呼吸を重要視しておりますし、呼吸法を通じて身体の柔軟性を高め、姿勢の矯正を通じて身体及び精神の総合調整を行います。これも根本的には呼吸法という手段を通じて、心の訓練を行おうとしているものと思われれます。全てのものが、文字どおり同じ大気を呼吸しており、その呼吸の中に創造主からのメッセージを吸込み、発現する要素が係っていることは、実に良く考えられた素晴らしい仕組みではないでしょうか。

100 As we observe the harmonious blend in nature, we do not find the same in man. The reason for this that man has a free will and he must learn how to apply the law of the Creator. Through which he will learn the right and wrong usage of it, if he is to become an instrument of full expression. And this is the purpose of his being. He must school his ego sense mind in coordinating all of the senses, as we explained in the previous lesson. This is comparable to a musician tuning the strings of his violin that each may blend with the other, if a harmonious melody is to manifest.

100 私達が自然の中で調和した融合を見る一方で、人間にはそれと同じ（調和）を見ることはありません。この理由は人には自由意志があり、人は創造主の法則を如何にして応用するかを学ばなければならないからです。人は完璧な表現ができる一つの楽器になる為にはその過程を通じて正しいあるいは誤った応用例を学ぶことになるのです。そしてこれこそが、人の存在の理由なのです。前課で述べましたように、人は自分のエゴの感覚心を全ての感覚と調和するよう鍛練しなければなりません。これは調和あるメロディーが現出する為には、音楽家が自分のバイオリンの各弦を各々が他と融合するように調律するのと同様です

【解説】

ここでは人の心の調和について述べています。人間には自由意志が与えられていますが、その理由は様々な体験を通じて、法則の正しい適用、誤った応用を知る中で、自らの心を調和させて行くよう定められているからとしています。

本文にあるようにどんな名演奏家でもその持つ楽器が正しく調律されていなければ、演奏出来ないのと同様です。自らの楽器の発する音を低音から高音まで発する音を聴き比べながら、各々がその弦（や鍵盤）の放つべき正しい音を発するよう調整するのと同様です。

これはまた、曲の演奏とは異なり、地味ですが必要な作業です。これと同様に私達の日常生活の中でも、私達の心をどのようにして調和させるか、調律するかが問われています。「調和」の大切さについては各自、認識されている筈ですが、それでは具体的にどのようにしてということになると、各自、回答はまちまちかと思えます。

一つの試案としては、極端な心の感情を避けること、常に自分の心の状況を観察（相）すること、自然における動植物達がどのようにして調和した生活を送っているかをよく自分の目で観ること、日々の生活を精進し、人間として尊敬すべき人物のお話や書物を読んで自分の生活に応用する、等々が考えられます。

人間は本来、最高の創造物とされています。その潜在的な能力は薄べったらな心の横暴の中で、埋もれています。毎日の少しずつのこのような訓練によって、各自、自分の隠れた才能に気付き、本来の能力を発揮する中で、調和ある発展ができるものと思われれます。

101 And the ego must learn how to apply the impressions that come from the guidance of the THY WILL which is the conscious will, instead of the will of the mind. If a harmonious life is to be enjoyed, the will of the mind must submit its will to the will of consciousness, then the THY WILL is done. The difference between the two is - the conscious or THY WILL does not force itself. It is kind and mellow in its expression, while the ego will is aggressive, domineering and self-centered. Conscious will knows no fear - the ego will fears all through life and makes many mistakes.

101 そしてエゴは心の意志に代わって意識の意志である「汝の意志」の導きから来る印象をどのようにして応用するかを学ばねばなりません。もし、調和ある生活を謳歌するなら、心の意志は意識の意志にその意志を委ねなければなりませんし、そうすれば汝の意志が行われるでしょう。これら2つの違いは意識あるいは汝の意志はそれ自身を強制しないことにあります。その表現はやさしく、豊潤ですが、一方、エゴの意志は攻撃的で横暴、自己中心的です。意識は恐怖を知りませんが、エゴはその生涯を通じて恐れており、多くの過ちをおかすのです。

【解説】

まず、ここで述べられている印象の応用について考えて見ます。自分の心が発するにせよ、意識に起源を置くものにせよ、私達が「印象を応用する」とはどのようなことを言うのでしょうか。端的に印象を、「思い付き」や「アイデア」「ヒラメキ」というように表現すれば、応用するとはその「アイデア・ヒラメキに従って行動する」「そのアイデアに基づいて何らかの作業や過程を経て発展させる」あるいは「それに基づいて何らかの方向に向かって行動する」等の行為を行うことを意味しています。もちろん、その印象が正しい、誤りのないものであれば、良い結果を得ますし、単なる心の欲望、恐怖心から来るものであれば、結果は望んだものとはならない筈です。

そこで問題なのは如何にして心に浮かぶ印象が何処に起源を持つものかを識別するかにあります。極端に警戒して心を閉ざすことはかえって逆効果。どうせ自分の心から来る想念は口クなものではありません。むしろ心を広げて様々な自然の要素に関心を広げ、印象を数多く取り入れることの方が良さそうに思います。

私達のささやかな日常生活の中にも天気の変化や季節の移り変わりがありますし、注意して見ると様々な動植物の世界も身の回りにあります。この限られた空間の中にも立派な宇宙がある訳で、それらを観察することによっても宇宙から来る印象、意識からのメッセージを心に取り入れることが出来ます。画家、熊谷守一（1880～1977）は30年もの間、自宅から出ることなく15坪程の庭の動植物を観察して数多くの素晴らしい作品を残しました。どのような環境に暮らそうと、私達は皆、宇宙そして創造主に包まれた中に生きていくということです。

102 All nature, with the exception of man, operates by the will of Cosmic Law. In plain, nature lends itself to the law, or the will of the Creator. Yet the form of man operates under the same law that nature does, while the free-will of man operates contrary to it.

102 すべての自然は人間を例外として除けば、宇宙の法則の意志によって動いています。簡単に言えば、自然は自分自身をその法則、創造主の意志に委ねています。一方で人間の身体は自然と同様、同じ法則の下で動きますが、人間の自由意志だけがそれに反して働いているのです。

【解説】

自由とは通常、何物にも束縛されず、その者の望むことを発言し、行動することを言う訳で、一見誰もが「善し」とする人間の天与の権利とされています。

しかし、世の中の有り様、過去の人類の歴史を覗く時、人間は太古の原始生活から今日の宇宙時代を迎える中で確かに科学技術は急速に発展し、途中、数多くの戦いにより破壊が繰り返されましたが、その文明は着実に発展しています。

一方、人間の内側の進化は実にお粗末なものでした。毎日のニュースを見ても、人間の感情や欲望の果てに数多くの事件が連日のように起きています。これらの本質はいずれも、この人間の内面の進化が外側の文明の進化と比較して取り残されている為、かえって問題を拡大させているのです。また、社会自体の中で、他人を食い物にして財を為そうとする者を数多く生み出す等、極めて病んだ社会になっているのです。

これらの根源がこの自由意志にあることを考えれば、如何にして目覚め、そのような脇道から這い上がるかが問われています。昔、荒野でヨハネが「悔い改めよ」と叫びましたが、それはこの人間の自由意志のわがままを矯正して、大自然の法則に寄り添った生き方をしろということだったのです。自らが本来、天から与えられた自由を如何に正しく用いるかが課題です。私事ながら、昔、中学生の当時、毎週の朝礼でカント哲学者でもあった校長天野貞佑先生が毎回のように「自由とは何か」についてお話になっていたことを思い出します。

103 The Divine Will always expresses in perfect harmony and causes no distortion in any manifestation. That is why the human form under this will manifests so well. And yet it is abused more than any other form known, by the free-will or will of the ego. i.e. When one eats a meal, the mind or the will of man knows not what is to happen to the food in the body. And if the ego is in a happy harmonious state the food will be beneficial to the body. On the other hand, if the ego is disturbed, confused or tensed and out of harmony with the law, or consciousness, indigestion is bound to follow causing gas around the heart and constipation. Proving the Divine Will, will not lend itself to the distorted will of man. So man pays the price for the distortion through pain and suffering. And this is the only way that some people can learn.

103 聖なる意志はどの創造物においても常に完全な調和をもって表現し、如何なる歪みも生じさせません。それがこの下にある人体がかくも申し分無く現出している理由です。それに加えて人体はエゴの自由意志、つまりは意志によって他の如何なるものよりも酷使されています。即ち、人が食事を摂る時、心や人の意志は肉体の中で食物がどのようになるか知りません。もし、エゴが幸せな調和ある状態であれば、食物は肉体にとって有益なものになるでしょう。他方、もしエゴが掻き乱され、混乱しあるいは緊張して法則や意識と調和出来なくなっている場合には、消化不良になり、心臓の周囲にガスを発生させたり、便秘を引き起こします。聖なる意志は人間のねじれた心にはご自身をお委ねにはならないとしましょう。そうであれば、人は痛みや苦痛を通じてこのねじれに対して代償を支払うこととなります。そしてこれこそが、ある種の人々が学べる唯一の方法なのです。

【解説】

創造物の中で人体が最も酷使されていると言っています。その原因は自我（エゴ）にある訳ですが、皮肉なことにそのエゴに最も近い存在が自身の肉体なのです。各自にとってご自身の身体は一生の連れ合い、まさに死ぬ時まで片時も離れない相棒です。その大切な肉体を痛めつけているのは、その肉体を心底必要としている自我自身ということになります。

多くの病が心の意気消沈や不安等の不安定な状況の中で発する混乱した想念の影響を受けて発症します。もとより肉体に最も近い所に発信源がある訳ですから、その影響は甚大です。喜怒哀楽、ことごとく表情として肉体は反応しますが、身体の内側でも呼応して様々な反応が起っていると本文では言っています。

このように誕生してから死ぬまで、どのような想念を発し、その結果、どのような肉体にしてしまうかは、全く各自の責任で行われるべきものです。誰しも健康な身体で幸せな人生を送りたいと望んでいるのですが、それをどうやったら実現できるかは、誰も教えてくれません。多くの場合、手探りの試行錯誤によってそのポイントを自分自身で掴んで行くことになるのですが、少なくとも本講座を真面目に取り組むことによって多くのヒントが得られることでしょう。これまで自分自身の半生を振り返っても、この点だけは確かなものとしてお伝えできると思っています。

104 Fortunately there is a harmonious law that works through the body independent of the mind, or the body would not last the years that it does.

104 幸いなことに、身体の中には心から独立して働く調和ある法則があります。そうでなければ、人体はそのように何年も持続することは無いでしょう。

【解説】

身体の中で働く自然の法則。これにより何度、助けられて来たことか。時々の結果に一喜一憂。失望と有頂天を繰り返すのが心の常です。そして失望の時、あるいは怒りの時、私達の心は自らの肉体をも痛めつけ、自暴自棄に陥りやすいものです。

実は後から考えると、あの時何故あのような気分になる必要があったのか不思議に思うほど、心は時に暴走します。その心の暴走から身を守っているのが肉体内部で心の動きに従わない部分です。筋肉で言えば「不随意筋」。そもそも心臓や一連の呼吸作用等、到底不安定な心に任せられない重要な部分は皆、心とは別個に活動を行っているのです。

心が異常状態になったら、まず客観的に心を落ち着かせることです。これまでの体験を振り返ってどう対処すべきかを考えさせ、アイデアを創造主から戴きましょう。私達各々が創造主から愛されていることは、この日夜体内で働いている無償の愛の奉仕活動から実感できます。また、そこまで考えるゆとりが無い場合には、ゆっくり休んで心が鎮まるのを待つのも良いでしょう。

105 This shows that there are two stages of intelligence in the human form. One the Cosmic - directing the functioning of the body. And the other - mental opposition that causes the suffering in the body. A Clergyman expressed this well when he said that humanity has become Un-Godly. This is true, for people no longer look to the Creator for guidance, and they do not have faith in the giver of life. And as a result, they exercise their free-will to the full extreme under the master of fear. So greed has taken over, and it is like a cancer which is bound to destroy this civilization if it continues. These are the fruits of the free-will, where one Will does not trust another. But how can it when the will of man does not trust the Will Of The Creator or consciousness?

105 このことは人体は二つの舞台があることを示しています。一つは人体の機能を指揮している宇宙的な存在、そして他は人体に苦痛をもたらしている心の反抗です。ある牧師はこれを人類は神を敬わなくなってしまったと言ってこのことを良く表現しました。これは導きをもはや創造主に求めない人々にとっては真実ですし、彼等は生命の贈与者に信頼していません。その結果、彼等は恐怖の主人の下、最大限まで自分達の自由意志を行使するのです。そのため、貪欲が支配するようになりましたが、それはもし続いたらこの文明を滅ぼすことになる癌のようなものです。これは一つの意志が他を信用しない所に突る自由意志の結実の結果です。しかし、人間の意志が創造主の意志、あるいは意識を信頼しないとしたら、どうなってしまふことでしょうか。

【解説】

究極的には信仰心 (faith) に行き着く問題なのかも知れません。自我の確立を大義として近代文明はそれまでの政治から文化まで、生活の隅々まで宗教が浸透していた中世に反旗を翻して新しい自我中心の文明を造り上げて来ましたが、その結果が現代社会なのです。

確かに権威主義の暗黒時代は今日では完全に解消され、人々は自由を満喫できる時代となりました。しかし、今日、人々の日常にどれほどの精神的拠り所があるのでしょうか。自由意志からは自由競争、自己責任へと、個々の力量が最大限尊重される一方で、競争に敗れ、あるいは結果が予定通りのものでなかった場合、自我 (エゴ) の心は直ちに自信を失い、落込んで何らの活力も生み出せなくなる傾向になります。これはまさに、自由意志の限界と言えるでしょう。

もともと、この自由意志は自我の身勝手な意見に他なりませんし、本来、何ら創造的なものを生み出す力は無いことを最初に自覚すべきなのでしょう。これら自我の意志に依存することなく、もっと身体に宿る創造主の要素を身近に実感し、その指図を待ち、素直に受け入れることを目指すべきなのではないでしょうか。更には、この自由意志を内なる創造主の要素に寄り添わせるよう、創造主の言葉 (印象) を大切なものとして受け入れ、合体させる覚悟が必要なのです。その為にも、自分の内部の宇宙的な存在を先ず、信頼して次ぎの一步を踏み出すことが重要と言えるでしょう。

106 We can see the results, for the whole world is living under the cloud of fear one against the other. And no one trusts another human being.

106 私達はその結末を見ることが出来ます。何故なら、全世界が相互に対する恐怖の雲の下で生きているからです。そして誰一人として他人を信用してはいないのです。

【解説】

エゴが造り上げた社会は自分しか頼りにせず、自立した個我が自由に生きることを保証された社会であり、一見もったもな理屈がありますが、一方では貪欲がまかり通る殺伐とした世の中になっているという方が真実に近い表現でしょう。

基本的には他人は信用されませんし、また信用したら途端に食べ物にされる社会です。確かにこのような社会で生きて行く為には先ず、相手を疑ってから対応するのは賢い生き方なのかも知れません。

しかし、このような世の中の風潮は変えて行かねばなりません。未来の世代がより良い社会環境の中で生涯を幸せに送る為には何が必要なのかを考え、一步でも実現させるのは今の世代の私達です。与野な方の人々にそのような社会の次痛言を訴えるのは政治や宗教の本分ではありますが、そこにも偽物と本物とがあり、容易に信託することも出来ません。アダムスキー氏は組織というものを信用しませんでしたし、自らも作りませんでした。ただ、多くの著作を残し、講演会を開いて大衆一人一人に真実を訴えたことはご存知かと思います。様々な機会を捉えて同行者を募り、一人一人の思いを発信し、共感者を増やして行く草の根の活動が必要なのではないでしょうか。

107 You may say here, it is a mess. Yet it is the product of the exalted ego or human mind. For it no longer allows itself to be guided by the consciousness or creator.

107 ここであなたは、それをめちゃくちゃだと言うかも知れません。しかし、それは増長したエゴ、即ち人間の心の造り上げた所産です。何故なら、エゴはそれ自身を意識あるいは創造主によって導かれるものとはしていないからです。

【解説】

あらゆる物事に原因がある訳で、この混乱した世の中も、所詮人間のエゴが造り出してしまったものです。人間の増長した自我（エゴ）は創造主の導きの手から離れてしまい、その結果、何十世紀もの間、形を変えながらも流れ着いた先が現代ということでしょう。

しかし、その問題の原因は明確だとしています。エゴが創造主の指導に耳を傾けなくなったことに原因があると明言されています。実は、これと同様の指摘は多くの哲学者、宗教者が異口同音に訴えていることなのです。Wayne Dyer（ウェイン・ダイヤー）も「貴方の持つただ一つの問題は、ご自身の源から離れてしまっている」ことだとも言っています。本来、最も身近な存在であるべき自分の中の宇宙的な存在、常に進むべき道を示して下さる導き手を受け入れないなどというもったいないことを私達は日常行っています。唯一、自我のプライドが捨てられない為や不安を払拭できない為に踏み込めないのです。

聖書では息子が放蕩の限りを尽くし疲れきって家に戻って見ると、両親は暖かく迎え入れてくれたとしています。各自が自我を自ら訓練し、日常生活を通じてより誠実に創造主に向き合うようにすることで、自我の増長を戒め、本来の道を進むことができることでしょう。その先には両親である創造主が暖かく迎えてくれる筈です。

108 Perhaps you feel that I use the word consciousness a great deal and place emphasis on it. And you may wonder, why? It is because the consciousness has been neglected through the ages while the mind has been exalted. And did Jesus not say that we are the Temples of the Living God? It could be said in this way, know ye not that ye are the embodiment of the living consciousness?

108 おそらく、貴方は私が意識という言葉を変多く使用し、それに力点を置いているとお思になるでしょう。そして何故だと思ふかも知れません。それは何世代にわたり心が増長して来た一方で、意識は無視されて来たからなのです。そしてイエスは私達は生ける神の社であると言わなかったでしょうか？それはまたこのように言うことが出来ます。貴方は自分が生ける意識を体現したものであることを知らないのかと。

【解説】

「意識」という表現は、アダムスキーが特別な意図を持って表現した言葉と考えられます。ある意味、人間、否、そればかりでなく、ありとあらゆる創造物に宿っている、より深い目覚め、感性、知覚その他の認識を示しています。実際に各自の内なる存在の中に表層的な自我（エゴ）とは別の、根源的で創造主につながっていて、各自の様々な機能を司っているものを「意識」と表現しているのです。また、この「意識」なるものは、私達が通常、使用する「意識」、例えば「○○を意識して」（即ち○○の所に自分の感性を置きながら）、あるいは急病人が倒れて「患者の意識はあるか」（即ち、患者が覚醒しており、精神あるいは感覚の基本的機能が無事かどうか）という時に用いる場合と極めて類似した要素があると考えられます。

古来より、創造の真理は不変ですし、「意識」についても昔から存在していた訳で、多くの哲学者や宗教家がこの意識について、各々の時代や言語で語って来ました。科学が進化し、生命活動の仕組みが次第に明らかにされて来る中で、今日、私達は再度、原点に帰って、生けるもの、とりわけ自己の内部で「意識」がどのような活動を行い、私達の自我とどのように関わっているのかを深く観察することが重要となって来ました。他の自然が創造主の指導に従っているのに対して人間だけがその光明を見出せないでいるからです。

109 The Breath Of Life is proof of that, and it is given freely to all forms of life. For was not the first clay form of man activated into life by THE BREATH OF LIFE, breathed into its nostrils by the Creator? And it became a living soul, or a conscious being. A new born child is slapped on the buttocks and made to take the first breath, or it would not be alive. And notice here, the mind is only partially active, yet the baby is consciously alive. We know that a young mind knows no fear until fear is imposed upon it. Or until it begins to act with the mind and gets hurt, then fear takes over.

109 生命の呼吸はその証しですし、それは生命のすべての形有るものに無償で与えられています。人間に形取られた最初の粘土が創造主によって鼻から息を吹き込まれ、生命の呼吸によって生けるものになったのではありませんか。そしてそれは生ける魂、意識ある存在になったのです。生まれたばかりの赤ん坊がおしりを叩かれて、最初の呼吸をさせられますが、そうしなかったら、生けるものとはならないでしょう。そして、ここで注意して欲しいのは、赤ん坊の心は一部しか生きていませんが、赤ん坊は意識的には生きています。若い心は恐怖が押し付けられない限り、恐怖を知らないことを私達には分っています。あるいは赤ん坊が心といっしょに行動し、痛みを得るとその時から恐怖が支配するようになるのです。

【解説】

座禅その他の沈想の際、良く分かるのは自分の呼吸です。私達は独りでに、何らの努力をせずとも、人体が生きて行く為に不可欠な呼吸、生命の息を休みなく行っています。これは各自が赤ん坊としてこの惑星に生まれた時に始まる永続する宇宙の活動の一つでもあります。私達は通常、その言わば目に見えない創造主から無償で授かった生命活動に対して、もはや当然のごとく見なしており、その有り難さを自覚しておりません。唯一、自覚するのは、水に溺れた時や臨終の時、言い換えれば自らの生命活動の終わりに瀕した時です。無くてはならないこの呼吸こそ、全創造物に贈られた生命の根源的な活動なのだと言っているのです。

ありとあらゆるものが惑星上の同じ大気を身体に取り入れることによって、生命を維持している訳で、聖書にあるように人間の創造に関わるのがこの呼吸です。ヨガや禅の例を引き返も無く、おそらく呼吸にはより深遠な意義と仕組みが隠されているものと思われます。

110 This shows that consciousness knows no fear - for it is the possessor of all knowledge. The mind does not have the knowledge and lives in fear. And as a result it has promoted all kinds of mysteries in relationship to life and its continuance.

110 このことは、意識は如何なる恐怖も知らないことを示しています。何故ならそれはすべての知識の持ち主であるからです。一方、心はその知識を持ちませんし、恐怖の中に生きているのです。そしてその結果、心は生命とその存続に関連してあらゆる種類の神秘を助長させて来ているのです。

【解説】

不安や恐怖こそ、地球の人間が克服すべき最大の課題です。誰しもこの世に生まれ落ちた時は皆等しく創造主から才能や素質を授けられていた筈です。その創造主の子供達が成人し、造り上げたのが現在の社会です。そこには幼子を待ち受ける地上にはびこった既成の仕組みが大きく作用していることも確かです。しかし、人間の生涯は高々90年です。即ち、このスパンで、ほとんどの人間が入れ替わる訳で、過去の制度や仕組みに加えて、私達今日生きている人間こそが現在社会の諸問題発生の原因となっていることは間違いありません。

その最も大きな問題が恐怖の問題だと言っているのです。恐怖心は人間の理性を失わせ、極端な場合には殺人や戦争をも引き起こします。この恐怖は実に巧妙に自我の心の中に入り込みますし、既存社会の体制維持の道具としても用いられています。

何度となく申し上げるのですが、一方で自然界の生物達は例え自らの生命の危機にあっても恐怖に支配されることはありません。自らの寿命が明日で尽きる場合でも、皆現在を楽しみ、まさに為すべきことを為しています。特に夏に野原に出て見ると、虫たちは短い夏を精一杯楽しむかのうように、休まず働いています。これら虫たちが知っている「生命の永続性」こそが、ある意味、人間が身に付けなければならない最大のポイントだと考えます。その生命の永続性をベースとして人間本来の進むべき方向に向けて、日々の生活を楽しみながら、必要な訓練を続けることだと言えるでしょう。

111 We are now in the third lesson and I have not asked any one to concentrate or meditate, as taught in other fields. If anything, these ancient methods have brought the unpleasant conditions that we today face in the world.

111 私達は今や第3課に入っており、私はこれまで誰一人にも他の分野で教えられているように精神集中や瞑想をするようにとは言って来ませんでした。むしろ、これら古代の手法は今日私達が世界で直面している不愉快な状況をもたらして来たのです。

【解説】

この種の人間の知覚力・精神性の養成において難しいのは、教師側が伝える内容に対して、学習者が容易には理解できないということです。教師が自覚し、イメージしていることを言葉で生徒に伝える訳ですが、生徒に相当する理解力がなければ、形だけ、上辺だけの模倣が始まってしまいます。

精神集中や瞑想も上級者にとってはごく自然な行為の一つですが、私達初心者にとっては有益ではないと言っているのです。つまり、ただでさえ、自己中心的であり、結果世界から大きな影響受け、恐怖に支配を受けて日常を送っている私達は、例え沈想したからと言って、何か素晴らしい想念が直ちに流れ込んで来るなどということはありません。むしろ、ますます自意識過剰、あるいは自己の醜さだけが自覚され、憂鬱な気分になるかも知れないのです。

出典ははっきりしませんが、ある人が「あなたはこれ以上、自分に関心を持たなくてよいのです。既に十分過ぎる程、自分に関心を支払っています。」という主旨の発言をしていたことを思い出します。精神集中や瞑想は自己の殻の中で空回りさせる危険性もあることを本文では述べているように思われます。

112 The thing that we ask you to do is - become aware of your real self, the eternal part of God, or The Creator. Let your mind become conscious of consciousness as your guide in everything that you do. Then the admonition "Man know thyself and you shall know all things," will be your reward. But the mind must learn to trust the consciousness at all times.

112 私達が貴方に実行して欲しいとお願いしたいことは、貴方の真実の自我、神の永遠なる部分、創造主に気付くようにすることです。貴方の心を貴方が為す全てにおけるガイドとして意識を意識するようにさせて下さい。そうすれば、訓戒「汝自身を知れ、そうすれば全てを知るだろう」を褒美として受け取ることになります。しかしその為には、心は意識を如何なる時も信頼することを学ばなければなりません。

【解説】

精神集中や瞑想よりも、真自我 (Real Self) を日々の生活の中で意識することが重要だと言っています。目に見えず、耳に聞こえない微妙な意識からの指導に気付くようにせよと言っているのです。

別の言い方をすれば、次々にやって来る印象に自分の心を鋭敏にする為には、先ずは心自体を静かに落ち着かせ、内部の意見や偏見を鎮めることが前提となりますし、心自らが目に見えない存在からの指導に従おうとする誠実な志向性を必要とします。つまり、心を謙虚にさせること、自然や宇宙に対して畏敬の気持ちを育てることでもあるのです。

こうした中で、印象に従う行動を積み重ね、最初の内は失敗も多い筈ですが、習熟するにつれて自分自身の中にある惜しみ無く与えてくれる目に見えない存在をますます信頼するようになり、全ての面で各自が自分の人生を次第に有意義なもの、創造主がお望みになる方向に発達させることができるようになることでしょう。

これまで奉仕して奉仕して来たこの永遠の生命の贈与者に気付き、感謝すると同時にそのアドバイスを受け入れ、各自の行動の中で現世に実現することが、贈与者への恩返しでもあるのです。

113 Also notice that we did not forbid you to live a normal life. All that is asked of you is - live a conscious life and not a mental one. And do, and use, all things in moderation. That is all that is necessary to fulfill the purpose of life. This is how our space brothers have grown in knowledge and live a heavenly way of life.

113 また、私達が貴方に普通の生活を送ることを禁じていなかったことにも注意して下さい。貴方に求められていることの全ては、心による生活でなく、意識による生活を送ることです。そして全ての物事を適度に行い、また用いなさいということです。それが生命の目的を成就する上で必要なことの全てです。この方法によって私達の宇宙兄弟達が知識において成長でき、今、天上の生活を送っているのです。

【解説】

本文で述べているのは何も特殊な修行をするのではなく「通常的生活を行いなさい、但し心でなく意識を使って」ということです。確かに極端な修行や行為を行うことによって一時的には私達の日常感覚を超えたいわゆる神秘体験を得ることもあるでしょう。その時は既存の心が解放され、意識からの莫大な印象が流れ込むこととなります。しかし所詮、その行為を長続きさせることはできません。すぐにも過去の一体験として終わってしまいます。

問題は24時間、一刻一刻における私達の生活の中における心の反応なのです。本来の私達の心の進化の道を歩む為には「あせらず、怠けず」、意識の存在を少しずつ自ら確認し、意識の指導を求めながら歩むことです。

道は長く遠くまでつながっています。以後、何代にわたって歩む道でもあるのです。しかし、労苦を求める訳ではありません。自然界の調和した姿を愛で、その一員として毎日の営みを楽しむ (enjoy) することが必要だとも言っています。釈迦も苦行の道からは悟りを開けず、少女が差し出したミルク粥を食べた時、生命の歓び (悟り) に気付いたとされています。私達は見えざる意識の指導を仰ぎながら、あらゆる事を調和をもって行うことが求められており、長い道程を各自のペースで日々、少しずつ歩むことが重要なのです。

114 And remember you cannot have a manifestation or good results if you do not use both sides of the law. The objective and the subjective, or the negative and positive - male and female. You cannot use one and exclude the other and expect good results. Let us go back to electricity for an example. Electricity is one power consisting of two phases, negative and positive. One phase cannot be used in the absence of the other and give useful power. But when they are combined and balanced the manifestation is perfect.

114 ここで覚えていて欲しいのは貴方は法則の両面を用いなければ、創造の現れや良い成果は得られないということです。主観と客観、積極性と消極性、男性と女性がそれです。一方を用いて他方を排除しては良い結果は望めません。一例として電気について振り返ってみましょう。電気は2つの側面、マイナスとプラスからなる一つの力です。他方無しで片方を用い、有益な電力を得ることはできません。しかし、それらが統合されバランスがとられた時、そのもたらす創造の現れは完全になります。

【解説】

ここではその普通の生活を送る上での注意点を述べています。もちろん意識による指導を常に受けていれば、このような注意も必要ないのですが、私達の心得のポイントとして、法則の両面をバランスさせながら生活に生かせと言っているのです。

自然界の法則には対比性（対極性）があると言っています。電気のプラスとマイナス、磁気のN極とS極、動植物の雌雄がそれです。また同様に人間の身体例えば心臓の収縮・拡張の運動による血液の循環、更には呼吸における呼気と排気の動作等々の他、分子の振動にも当てはまる等、深遠な意味を持っているものと思われます。

この両極性の片方を排除せず、その両方を素直に受け入れて行けば、成果が出ると言っているのです。これを進めて行けば、自分一人で行う精進には限界があるということもできるでしょう。自分と異なる性質、違う意見を持った者とも進んで交流し、バランスをもって相互に影響を与えあうことによって新たな成果が得られることをも意味しています。動植物を含め、様々な個体と接触することで世界が広がると言っているのです。

115 So it is with the law of the Cosmos. Positive Thinking, that you may have heard about, has hurt more people than it did good. God's purpose cannot be divided and give good results. Nor can one judge His laws and omit parts of them, be it through lack of understanding or egotistical aggression, which has been done through the ages. People judge the Creator's creation without knowing the reason for each part. And in this way they have been judging the Creator and exalting the ego mind above His Intelligence.

115 ですから、それは宇宙の法則についても言えることです。陽性の考え方（ポジティブ・シンキング）は、貴方が聞いたことがあるかも知れませんが、それが為す良い事以上に多くの人々を傷つけて来ました。神の目的は二分されて良い結果をもたらすことは出来ません。人は理解力の不足に由来するにせよエゴの侵略行動に由来するにせよ、神の諸法則を裁いてその一部を除くことをしてはならないのですが、それを長年行って来ました。人々は創造主の創造物を各々の部分の存在理由等を知らないまま、裁いて来ました。そしてこのようにして、人々は創造主を裁き、自らの自我の心を創造主の知性の上位に置き増長させて来ているのです。

【解説】

ここではいわゆる東洋の「陰陽」に類似したことも示唆しているように思われます。

陽性 (Positive) の考え方は一見、積極的、行動的で好ましいように思われがちです。しかし、私達の劣った心の段階では、それは断定的になったり、更には攻撃的になったりする大きな問題要素を持っていると言っています。陽性は過度になれば、相手の立場を考慮することなく、相手を非難し、裁くことを平気で行うようになります。また、極端な場合には残虐な事件を起すことにもなりかねません。戦争はその端的な例です。

このように陽性の考え方を突き詰めて行けば問題がある訳ですが、反対に陰性 (Negative) の考え方についてはどうでしょうか。陰性の考え方は、想念を受け入れようとする開かれた態度である一方、自ら積極的に働きかけることはしない為、常に受け身の対応となります。その結果、様々な他の主張に耳を貸す一方、自らの意見の発信を行わず、他に影響を及ぼすことができないこととなります。即ち、陰陽のどちらか片方を取り入れることでなく、両者をバランスさせながら発展させることが必要なのです。

しかし、まずは陽性の考え方に注意しなければならないと言っているのです。本文では、特に陽性の考え方を自我（エゴ）の増長に結びついているとしており、まずは創造主に対して心を謙虚にすること、どちらかと言えば陰性の考え方を最初のステップとするよう、助言しているものと考えられます。

116 And we have become lost in our own mis-creations by separating ourselves from our consciousness which is of the Creator. We have become intellectual giants, but moral morons from a conscious point of view.

116 そして私達は創造主である私達の意識から自分自身を分離することによって私達自身が造り出した誤った創造の諸物の中で迷子になってしまっているのです。私達は知的には巨人になっていますが、意識の観点からは倫理上、低能に成り下がっています。

【解説】

私達の最大の問題は意識から自分自身を分離させてしまったことにあると言っています。自我（エゴ）を増長させ、自我のみで人生を送って行けるとして、やりたい放題に人生を謳歌して来た結果が、現在の混乱した状況と言えるでしょう。様々な時代を通じて多くの賢人達がこのことを指摘しています。（例：Wayne Dyer,は講演の中で"貴方の唯一の問題は貴方自身の源泉から自分を分離させてしまった、You've separated from your sourceと述べています）。

本文ではまた、私達は知識の面では巨人になっているとも言っています。何世紀にもわたって私達は自然を研究して来た結果、自然界を支える宇宙の諸法則について、利用出来そうな結果面では着実に成果を吸収して来ました。その結果、今や遺伝子操作技術から原子炉まで多くの技術を確立しています。しかし、自然界で起っている調和した生命活動の根幹には私達が無視して来た宇宙の創造主の意志があり、創造物はそれらの指導に従って行動していることを私達は忘れ、目を向けておりません。それらの指導が無ければ、多くの動物達が災害を事前に察知して避難したり、渡りの時期を決めること等、出来ない筈です。私達は先ず、前提となるこの目に見えず、耳に聞こえないけれど私達の最も身近に居て、絶えず私達を抱擁している意識なる存在に心を向け、敬い、慕うことです。

117 Instead of gathering all form life into the sea of consciousness we have divided and separated, and this is why we cannot see God's life manifesting through us and all form life, as our space brothers do. For when they look upon a form, be it of man or any other expression, they do not see just the form, they see the consciousness that supports the form. This is seeing the Creator expressing through the form when the THY WILL and not the mind will is done. Their world and all life on it are conscious manifestations of the Creator, and are so honored.

117 すべての形有る生命を意識の海の中に集めることをせず、私達はそれらを分割し分離して来ましたが、これが私達の宇宙兄弟達がしているように私達やすべての形有る生命を通じて神の命を見ることができない理由です。何故なら、彼等が形有るものを見る時、それが人間であれ、他のどのような表現物であれ、彼等は単に形だけを見るのではなく、彼等はその形有るものを支えている意識を見るのです。これが心の意志でなく汝の意志が行われている時、形あるものを通じて創造主を見ているということです。それらの世界とそれの上に成り立つすべての生命は創造主の意識の現出であり、そのように榮譽を受けているのです。

【解説】

自然を観察することを何度も本文を通じて勧められて来ました。自然界の動植物の観察を通じて確かにそれらがひたすら活動しており、何らの悩みも無いばかりか全体として調和した一連の自然の循環の中にあることを確かめることができます。

一方、私達はその自然観察も往々にして植物の名前であるとか、昆虫の種類の呼び名を覚えることに片寄りがちです。確かに一つの分類名がわかればその種の特徴を記した図鑑等からだいたいの知識が得られますし、そのことによってその種については「わかった」「知っている」としがちです。しかし、本文ではこのような従来からの分類学の手法は誤っていると断言しているのです。つまり、私達はその相手の外見上の形態だけに捕われて、その内面にある生命の本体、意識には無関心になっていることの問題を指摘しているのです。

以前、ある絶滅危惧種の渡り鳥（コアジサシ）の保護活動をお手伝いしたことがあります。その時、鳥の観察を通じてまじまじと思ったのは、この鳥達は皆同じ顔をしているように思えたことです。このことはある意味、当然なことで、分類学が成立するように多くの生物種はその種の中では極めて類似した顔かたちをしている訳です。そこで思ったのは彼等はどのようにして相手を識別するのだろうかということと、人間に写し代えた場合、各自が皆同じ容姿を持ったとしたらどうなるだろうかということ。もちろん、その場合は各自は益々、自分の内面性を磨くことになることなのでしょう。つまり、鳥達は外見でなく、内面を見通して自分の相方を見分けているのだと思います。

とにかく私達は外見で人や物の価値を判断しがちです。しかし、このような形態の違いはそれを支える宇宙生命の大きさに比べれば、大した違いでは無いのです。生命の根源にある分子群であるDNAの違いもごくわずかだと聞いています。私達は自然を観る時、植物や動物等に関わらず、すべて同一の生命体の現れ、同胞として接し、各個体と交流が出来るように寛容の心に向けることが大切だということ。す。

118 As you can now see, man or his mind is in the process of creation, working towards a perfect manifestation by learning. And time is not involved, for there is no time in Eternity. So it then behoves us to study the various phases of creation that we may learn its reason for being. Then we will not judge our Creator, as we have in the past through lack of knowledge. For truthfully no man can judge his Creator or any of His creation. When man makes a thorough study of Life's purpose, understanding replaces judgment. For then man as the highest expression, becomes one with his Creator. And his intelligence is in line with the Creator's intelligence.

118 今やおわかりのように、人、すなわち人の心は学習を通じて完全なる創造の現出に向かって努力している創造の過程にあります。そして時間は関係ありません、永遠には時間が無いからです。ですから私達はその存在の理由を学ぶことが出来るよう、様々な創造の段階を学ぶことは私達にとっての義務なのです。そうすれば、かつては知識の不足から行って来ましたが、私達は私達の創造主を裁くことはしなくなるでしょう。何故なら、本当に人は自分の神や神の如何なる創造物をも裁くことは出来ないのです。人が生命の目的を徹底して研究する時、理解が裁きに置き換わります。そうなれば、人は最高位の表現者としてその創造主と一体になるのです。そしてその知性は創造主の知性と一致します。

【解説】

私達は言うなれば、本来備わっている知識、優れた能力について教えられることがない為、既存の体制の中で作り上げられた結果の世界の中で、次第にその備わった生命感覚が失われて行きます。果たしてどれだけの人が人生の最終日に「自分は自分の人生の目的を精一杯果たして来た」と言って、安らかに臨終の時を迎えられるのでしょうか。

しかし、生まれでる赤子には本来、託されているその生命の目的がある筈です。動植物が自然界で各々の役割を持っており、相互に競い合いながらも互いに補完しあう連携した活動を行っていることを考えれば、それらよりもの能力があり、技量も格段に高い人間が、自らの目的を知らぬまま人生を終わるということは、本来あってはならないことです。本文では各自に「a thorough study of Life's purpose (生命の目的について徹底した研究)」をするように促しています。自分の目的は他人に教えてもらう訳にはいきません。第3課の後半に至ったこの時期に、腰を落ち着けて自ら探究することが望まれているのです。

日本国内には多くの著名な仏像が現存します。その仏像は建立以来何百年が過ぎており、作者に建立にあたっての意図を直接伺うことはできません。しかし、脈々とその仏像が慕われ、大切に保存されている中で、後世の私達はその像をよく観ることで、仏像に寄せた作者の意図を推し量ることができることでしょう。まして私達各人は現在、生きている訳でその存在の目的は自らの責任で、突き詰める必要があります。自己を通じて刻々現れる生命活動をよく観察して、自己の真の目的について知ろうとする気持が大切です。

119 You may ask, how do we classify intelligence. Man classifies it as the result of actions or expressions. If we use this same classification, then we must admit that we are living in a sea of intelligence. All forms that live and express are using certain phases of it, and fulfill the purpose for which they were created. All of these lesser forms act automatically under the guidance of nature. Or we could say, by direct guidance of the Creator.

119 知性についてはどのように分類するのかと貴方は問うかも知れません。人はそれを行動や表現の結果から分類しています。もし私達が同様の分類をするなら、私達は自分達が知性の海の中に生きていることを認めざるを得ません。生きそして表現する形有るものは皆、その（訳注：知性の海）何らかの側面を活用しており、それらが創造された目的を達成しています。これら（訳注：人より）下位の形有るものは自然の導きの下、自動的に行動しているのです。言い換えれば、創造主の直接の指導によっていると言えるでしょう。

【解説】

前前節 (117) では、divide(分割する)、separate(分離する)ことの問題が指摘されました。それを受けての文節がこの項です。前前節を受けて、私達は分類 (classification) についてはどのようにしたら良いか、言い換えれば分割や分離でなく、どのように分類することが望ましいかを示しているのが、本文だと私は解釈しています。しかし、この違いは微妙でもあります。「分割」や「分離」という概念には他者との違い、独立性を主張し、優位性を高める感覚があることが問題なのです。いずれにせよ、物事を良く冷静に観察する中で、それら自然界の対象物が、いずれも宇宙を貫く法則に従い、自分の意志を完全に宇宙意識に同調させていることが分かります。とりわけ、この英知の大海の中で多くの法則、多くの世界がある中で、各々はその住む世界に応じた法則の下に生きているということです。

つまり、ハチであれば、ハチの住む世界に対応した自然界の法則（“掟”）があり、ハチ達はその与えられた規範の下、精一杯の生き方をしていると言うことが出来ます。これが創造主の直接の指導ということでもあるのです。

120 When we say Nature, it is used as a representative of The Mother Principle of Divinity. For she is the one through which forms are born. This is the feminine side of life, while the Supreme Intelligence is the masculine. And the two are working as one to bring forth the many manifestations.

120 私達が自然と言う時、それは神の内の母性原理を代表するものとして用いられています。何故なら、そこから形有るものが産まれるからです。これは生命の内の女性的な面を示しており、一方で至上なる英知は男性面を表わしています。そして両者は多くの創造物をもたらす為、一体となって働いているのです。

【開設】

全てのものがその惑星に属する物質から生まれ、また死する時も元素達は再びその惑星のもとに返される等、物質は循環（輪廻）を繰り返します。物質の構成要素である原子にまで遡れば、全ては形を変えながらも絶えず新しい創造物へ生まれ変わっています。自然の中では季節毎に動植物が入れ替わり立ち替わりに新しい姿を見せています。早春の芽吹きから始まって、陽春の草花、初夏の緑、盛夏の蝉時雨、初秋の紅葉、そして晩秋の落葉等、わずかの間に自然は実に様々な変容を見せてくれます。このように誰でも身近に観察できるのが自然における創造の姿です。私達自身も含め、まさにこれらは全て地球という同じ母体から生まれた兄弟達とすることができるよう。

また、本文ではこの活動を指導している英知、父性原理について述べています。この英知は目に見えない為にむしろ私達は気付くのが難しいと言えるかも知れません。しかし、材料が揃っていてもその作用のさせ方、加減が分からなければ何一つ造り上げることは出来ません。遺伝物質から正確に情報を読み取り、必要な成分を合成して行く為には私達が想像する以上に強大なパワーが作用していなければなりません。そのパワーの源（意識）の持つ力がこれらのあまねく創造の活動を支えているということです。

121 Ninety per cent of life as we see it is governed by the law of direct guidance. The 10% which is man, has separated himself from the law by using his free-will.

121 私達が見るところ生命の内90%が直接の指導によって治められています。残り10%の部分が人間なのですが、それらは自分の自由意志を使って法則から自分自身を分離させて来ているのです。

【解説】

地球という惑星を文字通り支配しているのは私達人類（地球人）です。しかし、惑星上の生命体全体の中ではその存在は10%だと言っているのです。言い換えれば大多数の生命体が宇宙英知の直接的な指導に従っており、調和を保っている訳ですが、このお蔭でとりあえず、この惑星は調和を保ち、維持されているということでしょう。

しかし、昨今では環境汚染は地球規模の気象変動にまで影響を及ぼす程の規模になって来ています。もちろん、この原因者は人間にある訳で、10%の存在が残り90%の生命の拠り所である惑星全体の行く末までも変えようとしているのです。また、その影響は環境問題のみに留まらず、惑星全体の精神波動により大きな影響を与えているものと思われます。自分達が発する想念が惑星全体の雰囲気汚染して不安や殺伐としたものに低迷させている訳です。本来、創造主から贈られた楽園であった地球を現在のような状態にしたのも、この10%の存在ということになります。まさに10%という一握りの存在が全体を支配する構図です。私達人間の持つ本来の責任を各々が自覚し、その責任を全うすることは各人の義務であり、その影響を少しずつ広げて、少しでも惑星をより良いステージに導くよう心掛けたいものです。

122 Let us assume that, the first man on earth did not have a teacher to guide him along the path of life, so he had to use nature as a teacher. i.e. As he listened to the winds passing through the trees with their varying types of leaves, he noticed that each produced a different sound. And as he listened to the birds and the rushing waters of the brooks and rivers, and other sounds that nature produces, he desired to reproduce the sounds. So he made a flute type whistle and later other instruments. Man innately desires to become as his Creator. So nature has been his greatest teacher.

122 ここで地球上の最初の人間が人生の道程を導く教師を持たず、自然を教師とせざるを得なかったと仮定しましょう。即ち彼は様々な形の葉を持つ木々の間を通り過ぎる風に耳を傾ける時、各々が異なる音を発することに気付きました。そして鳥達や溪流や川の水の流れやその他、自然が造り出す音に耳を傾ける時、彼はそれらの音を再現したいと思ったものです。そこで彼はフルートの形式の笛、そして後には他の楽器を作ったのです。人間は生来、自分を創造した創造主のようになりたいと願っているのです。ですから自然は彼の最も偉大なる教師であったのです。

【解説】

自然界に生きるもので人間以外は皆、各々創造主の導きのまま、その種族に託された生命を全うしているということを前節で述べました。ここでは人間は当初、地球に置かれた時から、どのように成長して行ったかを述べています。古代の壁画に残る動物の絵や、祭事用や人形の土器の遺物等、文字の無い時代の古代人の生活振りの一端は、世界的にも残っています。このようなものに加えて、本文では楽器の由来として、自然界における木々の枝が風でそよぎながら出す音等、自然の中で聞こえる様々な音を真似ることから始まったと解説しています。

また、人間本来の性質として、丁度、幼児が大人の動作を真似るように、人間は自らを生んだ創造主の真似をしたがるのだと言っています。言い換えれば、自然を手本とするという基本的な原則は、古代から現代、更には未来永遠に連なるものと言いうことができるでしょう。

言い換えれば、自然は人間に多くのことを気付かせ、教えてくれるものだと考えます。青空の中を行く雲は大変すがすがしいものですが、それと同様な光景は古（いにしえ）の人達も同じ気持で観ていたことでしょう。多くのインスピレーションを与えてくれる自然ですが、自然自らが言葉を発して私達に語りかけることはありません。常に黙って只、その作品（光景）を見せるだけです。そこから何を学び取るか、真似るかは各人に架かっているということですが、少なくとも、その意義を感受した者は自分の得た知見を自ら表現して他者の参考にさせる必要があるのです。それこそが、人類の進化を促進する原動力となるからです。

123 Even today man is going into the depths of the ocean and into space, only to learn from nature.

123 今日でさえ、人間は海洋深く潜ったり、宇宙に進出していますが、それらはただ自然から学ぶ目的からです。

【解説】

最近では多くの人々が海外旅行に出掛けて世界各地の歴史遺産等を見て回るようになりました。また、機材を身に付けての水中散歩や山歩きも盛んに行われているようです。これらは豊かな人々が増えつつある良い時代になった結果と思う一方で、これらの探究心の背景には自然そのものや歴史上の人物を尊ぶ気持、更には自分自身をその場に置いて自身でその現場状況を感じ取りたいという真摯な気持があるものと思われます。

この探究の結果、得られるものはいずれも単に書物で読む以上に私達自身に確かな印象を植え付けることでしょう。また、天体望遠鏡による星空の観察というマクロの目から、植物や小動物等のクローズアップ写真（接写）のミクロな観察まで、自然観察は私達に毎回、多くの発見をもたらしてくれます。とりわけ、接写を通して創造物というものは細部になればなるほど、精巧につくられ美しい造形美がそこに広がっていることに気付きます。このように自然の美しさについて認識を深め、古来から伝わる偉人達の生き方を学び人々の願いを知ること、私達自身も成長できる訳です。やがては私達の身の回りにあるものすべてが、私達の教師になる存在であることに気付くことができれば、毎日を楽しく学習、精進できることになるでしょう。

124 The most unfortunate part of man's learning is that his ego is impatient and tries to exalt itself above his teacher or Creator. And it is here that he makes his biggest mistakes, for he applies his will instead of Thy Will, and thus complicates things instead of simplifying them. He follows his mind which should be a pupil, instead of the consciousness which is the teacher and the life of every form. And yet his only salvation is to return back to Nature's guidance. For he can never become independent of it no matter how much he learns or how old he becomes. It will have to be nature by which he evaluates his knowledge.

124 人間の学習における最大の不幸は、人間のエゴが短気で自らを自分の教師である創造主の上に増長させようとすることにあります。そして人間がその最大の過ちを犯すのがここなのです。何故なら人間は「汝の意志」の代わりに自分の意志を用い、そうして物事を単純化する代わりに複雑化しようとするからです。人間は形有るあらゆるものの教師であり生命である意識の代わりに、生徒であるべき自分の心に従っています。そして人間の唯一の救いは自然の導きに立ち返ることです。何故なら人間は如何に多くを学び、如何に年老いても自然から独立することは決して出来ません。人間が自分の知識を評価するのは自然によらざるを得ないのです。

【解説】

私達が多くの物事を達成できないのは、その努力に継続性が無く、容易に結果が現れない為に途中でその望みや努力を放棄してしまうことにあります。理由は本文にあるように私達に忍耐力が無いからです。物事が動き出すには様々な要素が働く必要があり、心が望んだとしてもその想念が作用し現実化するためには、ある程度の時間も必要ですし、本人の継続的な努力も求められます。畑に蒔かれた種が芽を出し実をつけるまでを見れば良く分かることです。

継続があれば雨粒が岩をくり抜くように、思いは現実化するでしょう。問題はその思いを私達自身が途中で継続するのを止めてしまうせつかちにあると言っています。物事を実現するにはある程度のエネルギーが蓄えられなければなりませんし、目に見えないけれども周囲の状況にも働きかけも必要なのです。そういう意味ではやがて出る結果を待つことなく、途中で関心を他に移してしまう結果、私達の生活には何と無駄なことが多いことでしょう。

試しに何か一つ自分の望みに相応しい願いを立てて見ましょう。それが他人に役立つことならなお結構です。その願いが正当なものであり、自分もそれを目指して、無理はせず、しかし休まず、諦めずに取り組んでは如何でしょうか。きっとその願いは思いのほか、短時間に実現することに気付くでしょう。私達は生命の海の中に生きており、その流れに従って進めば、大きな苦勞はなく、目的地に着くことができるからです。自我を宇宙本流の流れに調和させるための努力こそが重要なのです。

125 Today we have scholars and learned men in all fields of endeavor, but all of them have to depend upon nature for their knowledge by studying nature's material and production of form life. And since man must depend upon nature for life itself, then it behoves him to let nature, rather than his ego, guide him. Or let his consciousness be his guide instead of his mind.

125 今日、私達の回りにはあらゆる努力分野において学者や知識人がいますが、彼等全ては自然界の物質や生命体の産生を学ぶことによって彼等の知識を自然に依存しなければなりません。そして人間は生命自体を自然に依存している以上、人間には自分のエゴよりは自然をして自分を導くようにする義務があるのです。言い換えれば自分の心に替えて、自分の意識を自らの導き手とすることです。

【解説】

目下、地球規模の環境問題が顕在化しており、気候変動も次第に明らかになって来ました。これらは自然から搾取するだけの人間活動の急速な拡大がその原因にあります。現代社会は全てが、コスト即ち通貨価値によって支配されています。人間が勝手に与える価値によって物の評価が決まり、その物を生み出す過程については一切の考慮は払われていないのが現代です。他の生物種を勝手に養殖し、人間の都合のよいように密集し、管理されたケージで飼育されるニワトリは昼夜の区別なく光を当てられ餌を食べさせられて育ちます。そこで精一杯に卵を産み、安価な食品として食卓にのぼる訳ですが、一方の親鳥は幼鳥の顔を見ることなく、その後は肉にされ、文字通り身を裂いてスーパーの食品トレーに載る運命をたどっています。このような仕組みは全てこの惑星が造り出した地球人のシステムです。

その仕組みの中に組み込まれている私達にとって、その仕組み自体を改めることは容易ではありませんが、少なくとも私達の生活の本質がこのように具体的に自然の生命の営みに依存していることは、最低限、知る義務があるでしょう。その上で、少しずつより調和した生き方を進める必要があります。自然界の最上位に位置する私達が自然をどのように見つめ、具体的な行動としてどのように振る舞うかが、惑星全体の波動、雰囲気、環境に大きな影響を及ぼすことにもなるのです。

126 From experience we know that nature is governed by the Supreme Intelligence.

126 経験上、私達は自然が至上なる英知によって治められていることを知っています。

【解説】

私達が自然から学ぶように、自然を観察するように度々、本文でも述べられて来ました。もちろん、春夏秋冬、様々な変化を見せ、その如何なる一瞬、いかなる細部にあっても自然界のものは皆、私達が観察すればする程、その美しさと繊細さを私達に示してくれます。このように自然の美しさや調和した中での活発な活動を目の当たりにすることによって、私達は各個体の美しさだけでなく、それらの間の絶妙な仕組みに感嘆してしまいます。

しかし、このような自然の見方は、未だ浅いと本文では言っているのです。私達は自然界で生きる様々な生物達の活動を見る段階から、更に深めて、自然の活動を指令している英知の存在に気付くようにせよと言っているのです。各個体の消長に気を取られることなく、大自然を陰で支え、導いている英知こそが私達の探究の目的であり、その本質を如何に感得できるようになるかが、各人の訓練の行き着く目標です。

127 So let us go back to the word intelligence; We may look upon a man that from all appearances represents intelligence, yet when he expresses himself we realize our mistake. Yet when looking upon an unassuming, unimposing man we find from his expression that he is quite intelligent. So we do classify intelligence by expression or action.

127 そこで知性という言葉について立ち返ってみることにしましょう。私達はすべての外見要素から知性そのものであるような一人の人間を見かけたとします。しかし、彼が自分自身を表現した時、私達は自分達が間違っていたことを思い知ります。しかし一方、謙虚で出しゃばらない人間を見るとき、私達はこのような彼の表現からその者がまったく知性的な人物であることに気がきます。ですから、私達は表現や行動によって、実際、知性を分類しているのです。

【解説】

私達は知性なるものをどのようにして見極めればよいのかを本文では述べています。

これまでも自然観察の重要性を述べて来ましたが、その自然の中に息づいている「知性（英知）」については、単なる外見、外形上からでは見極められないと言っているのです。見極める為にはその者（物）が発する言葉の内容や動作、振舞いに内部に宿るものの本質が現れることから、これらを観察することで、その形有る物の本性を知ることが出来ると言っています。

とかく、私達は外見の姿形、言い換えれば目に見える「結果」から大きな影響を受けてしまい、見えない内側の存在要素を見落としがちです。自然観察の目的は形状や様式を細かく分類して記憶することではありません。その者（物）の内部にあつて表現や行動を司っている知性に気付くことが出来るようになることが、その目的です。観察のポイントは対象物の内側になるということでしょう。日本にも昔から動植物を描いた絵画がありますが、円山応挙らの作品は、今にも虎が動き出しそうな臨場感が表現されています。観察の結果、外見だけでなく、その生物が示す動作の特徴を表わしたもので、画家が動物の動作についてもよく観察していたことが良く分かります。私達の観察眼を対象物の外見に留めず、内側の知性にまで深める必要性を本文では述べているのです。

128 All nature is expressing intelligence in varying degrees, for there is not a form, even a grain of sand, that does not express the purpose for which it was created, even better than man. A blade of grass as a tender shoot will come through the hard crust of the earth as it uses the power of the cosmos and obeys the intelligence that directs it. Yet man finds it difficult to penetrate a hard surface.

128 全て自然は様々な程度に知性を表現しています。何故なら形有るものはどれ一つとして、砂粒一つでさえ、人間以上にそれが創造された目的をより良く表現していないということは無いからです。一枚の草の葉は、柔らかな若葉の時、地面の硬い塊を貫いて現れますが、それは宇宙のパワーを用い、それを導く知性に従っているのです。しかも人間には硬い地表を貫くなどということは困難であることが分かります。

【解説】

”英知を表現 (Express) している”ということについては、度々述べられて来ています。しかし、ここで注意したいのは、著者が強調しているのは、結果物である生き物の最終形を見よと言っているのではないことです。「表現」という意味の中には無からその造形物に至るまでその個体がどのような創造の過程を経て今日に至ったかというプロセスを見よとしており、結果としての現状の造形美のみを意味しているのではないということです。これら造形物の成り立ち過程がどれほど素晴らしい内容であったかを知覚することが大事ということです。

更に進めるなら、私達が英知の表現者になるということは、私達が英知の助力や指導を受け入れて、これまで試されたこと、実現したことのない事柄を世にもたらすことや、白いキャンバスに崇高な絵画を描く等、創造的な仕事をするということでもあります。自然界における多様な生物種と同様に、各人の持つ才能や経験は異なる訳で、各自各々の表現が行われる中で、この惑星社会も豊かになると言えるでしょう。

129 With all of the intelligence we have today, no man can give the exact answer of how an apple or any fruit became such from a flower. This shows us that as great as man's intelligence is, it is still puny compared to what is manifesting in nature, the expression of the Creator.

129 今日、私達が持つ知性の全てをもってしても、誰一人として一つの花からりんご、あるいは何らかの果物がどのようにしてそのように成るのか正確な答えを出せる者はいません。このことは人間の知性が偉大だとしても、創造主による表現、自然における現れと比べればそれは依然としてちっぽけなものであることを示しています。

【解説】

言う間でも無く創造とはそれまで形や痕跡が無い状態から、一つ一つ事物を造り上げて行く作業を意味します。芸術分野等が分かりやすい例かも知れません。しかし、目を自然界に移せば、実は私達が日常、食卓に上る様々な食品が、これと同様の由来、創造の過程からもたらされていることに気がきます。言い換えれば、自然界の産品の内、直接、地下から掘り出して精錬、製品化したものを除き、私達の身の回りには動植物に由来するものが多数存在します。それらはいずれも、元来は種から、あるいは受精卵から誕生し、生育したものを私達人間が自分達の都合の良いように収奪し、加工したものです。

即ち、私達の生活のほとんどは、これら自然の創造的活動に依存しているのです。これを考えれば、私達はもっと深く、真剣にこれらの産品を提供してくれる多くの動植物に感謝し、またこれらの活動を指揮する創造主を尊ぶべきことがわかります。

また、昨今では地球環境対策としてバイオマスの活用が進められています。生物（バイオ）を活用した燃料の生産がその主目的です。私達の生活は更に他の生物種の生命活動に依存度を増していることを認識しなければなりません。また、同時に創造主をもっと自分達の都合の良いように活用しようとする人間の身勝手さが更に進もうとしていることにも注意したいものです。

130 Luther Burbank expressed himself well when he said that nature gave him the knowledge of how to improve upon vegetation. He stated that he was working with the Creator, and through His creation he saw Him face to face. Man will never be free from the drudgery he now is enduring, and the confusion in which he finds himself, until he returns unto the true teacher, the conscious director of all creation. We live in and are a part of its manifestation.

130 ルーサー・バーバンクは、自然が自分に植物に対する改良の仕方の知識を与えてくれたと言ってその実態を良く表現しました。彼は創造主と共に働いていることや、創造主の創造を通じて彼は創造主を間近に見ているとも述べていました。人間は真実の教師、すべての創造物の意識の指揮者の元に帰らない内は、現在耐え忍んでいる骨折り仕事や自分自身の混乱から決して自由になることは無いでしょう。私達は創造の現れの中に生き、その一部であるからです。

【解説】

自然界のあらゆる動植物が創造主の英知の指導に従って、各々の成長過程を歩み、相互関係を深めることによって全体として調和ある姿を表現していることは前項までで述べられて来ました。

ここでは、かつて人間としてこのことを実践した人物として、アメリカの植物育種家、ルーサー・バーバンク (Luther Burbank、1849-1926) を挙げています。ルーサー・バーバンクはカリフォルニア州サンタローザに植物改良の為の農園を持ち、そこで様々な新種の植物を造り上げました。米国では「シャスタディジー」「バーバンクポテト」等、有名な品種が現在でも数多く残っています。中でも有名なのは「棘無しサボテン」で、バーバンクがサボテンに「棘などはやして身を守る必要はないよ」と話し掛け続けることによってサボテンは次第に棘のない状態に変化していったとされています。(現在でも農園跡は記念公園として保存されています。Luther Burbank Home & Garden <http://parks.sonoma.net/burbank.html>)。なお、時代はエジソンと同時期であり、エジソンらの一行が車でサンタローザのバーバンクを訪ねている写真が上記の記念公園に展示されています。

さて、このバーバンク自身の言葉として”私は毎日創造主と直接、話しをしている”という主旨の発言がされています。何百、何千という若芽の中から、瞬時に目的の品種の要素を持つものを選ぶ等、言うならば「神かかり」的な選定作業があった訳ですが、バーバンクにとってはこのように、未だ結果が目に見えない段階から、数カ月後の姿が見えていたということなのでしょう。

本文にあるように、私達が自然の指導を受け入れれば、無駄な回り道をせずに、目的を達成できるということです。

131 It is not the prayers, the mantrums or the meditations that will bring this to us. But a re-birth into a fully conscious being of cause instead of the mental effect. In other words we must reverse the process of our learning. Instead of being mentally aware as an ego of the mind the mind must become aware of consciousness, as it has in the past of itself. For conscious awareness is the key that unlocks the storehouse of knowledge to the mind. It is the link between the Creator and creation.

131 このことを私達にもたらすのは祈りでもマントラでも瞑想ではなく、心による結果に代わって因による完全に意識的存在への生まれ変わることなのです。言い換えれば、私達は自分達の学習の過程を逆転させなければなりません。即ちそれまでの自分自身のように、心に属する自我として認識するのではなく、心は意識に気付く必要があるのです。何故なら意識への気付きは心に知識の貯蔵庫を開く鍵であるからです。それは創造主と創造物との間をつなぐ環（きずな）なのです。

【解説】

大切なのは本文にあるように祈りや瞑想は意識の指導を受ける上で役に立たず、自ら因に対して完全に意識できる存在に生まれ変わることが必要だと言っています。また、この為には私達の従来での学習方法を反転させる必要があるとも言っています。

何度となく目に見えない存在である意識を感知することが大切だと申し上げて来ました。しかし、その実現にはどのような分野でどのような努力をしたら良いのかについては、第1課の自動車の内部を意識しての運転の話が出て来ただけで、あまり具体的な例は示されていませんでした。

しかし、本項では、意識的になる上で、祈りや瞑想は役に立たないと言っています。私の理解力では詳細な理由までは掴めませんが、これらの「業」の中には、多くの場合、個人（エゴ）の希望が前面に出るばかりで、心の解放にはあまり結びついていないのかも知れません。また、通常の学校での学習の動機付けは学習者のライバル意識を高めることを促す等、真の学習とは程遠いものであるようです。

これに対して、既存の宗教修行も含めこれまでの私達の学習姿勢を一変させ、目に見えない存在である意識なるものに心を鋭敏にして、そこから全ての指導を仰ぐ自分に生まれ変わることが大切だと言っているのです。

132 Once man realizes this and makes daily use of it, he will no longer complicate things and he will feel himself one with his creator.

132 一度、人がこのことを悟り、それを日々活用すれば、以後は物事を複雑化したりすることはなく、自分自身が創造主と一体になっているように感じることでしょう。

【解説】

ここでのポイントは日々の精進ということでしょう。例えば、何らかの事情から一週間もこの分野の探究から離れ、他の諸事への対応に追われた場合等、再び以前の感覚に戻るのは容易ではありません。私達は少しずつの歩みしかできない一方で、進路は前進か後退かのいずれかでしかありません。氷の斜面を車で登るようなもので、あせってエンジンを吹かせばタイヤが空回りして、かえって危険ですし、エンジンを回さなければたちまち、滑り落ちて行くことでしょう。折角の学習のチャンスであり、これまでの歩みを無駄にしないよう、とにかく目標に向かって毎日の努力を続けるべきなのです。

実は太古の昔から各人はこの道程を歩んで来ました。現存する多くの仏像、寺社の存在がそのことを物語っています。とりわけ仏像は当時の世界観、宇宙観として人々の無限なる創造主に対する祈りの受け手として、人々によって大切に守られ今日まで伝えられたものです。これらの像を見る時、私達は必然的に自分の弱さや未熟さに対して無言で受け止め、何らかの形で力を授けてくれる存在として像に對面します。自分の祈りを創造主に伝え、叶えてくれることを私達は祈っているのです。

もちろん、これらの祈りが前節でアダムスキー氏が言っているように、直接有効な手法ではありませんが、「意識」を本文で言うrealize、即ち”間近に見る”、”悟る”という面からは、先ずは心をこれらの全世界を支配する目に見えない存在に向けるという意味において、日々の精進の一つであろうと考えます。自分の内面や目に見えない意識から知恵を授かろうとする素直な心を保つことが大切です。

133 The Venusians and others have done this, thus enabling them to advance as they have. They do not fight nature - but blend with it by understanding its laws. For this reason they honor all manifestations including their planet, as a Divine creation. They live the thought that a creator could not create anything lesser than himself. And with this feeling towards all nature they see Divinity expressing everywhere.

133 金星人や他の人々はこのことを既に達成しており、事実そのように進化を遂げています。彼等は自然と戦うことはせず、その諸法則を理解することによって自然と溶け込むのです。この理由から、彼等は彼等の惑星をも含め全ての創造物を神聖なる創造作用の一つの現れとして敬います。彼等は創造主は自分より劣ったものを創造できないとする思想を実践しています。そして全ての自然に対しこの感覚を持つことで、彼等はあらゆる所に神聖の現れを見るのです。

【解説】

ここでは「法則の理解」について言及しましょう。法則とは時間に関係せず、宇宙開びゃくの時から今日、更には未来永劫にわたって変わらずに宇宙空間を貫く原理、秩序とすることができます。また全ての物がこの原理に従っています。

物理学ではこれを数式として表現し、化学では反応式の形で表現します。しかし、それらは表面的、外表的な表現でしかなく、三次元世界に作用させようと創造主が息を吹き込んだ法則の一つの側面を見ているに過ぎません。真の理解とはその法則が担う意義について学び、それらの法則をもたらした創造主の意志を知ることです。

両親がその子供の行く末を考え、様々なものを用意するのと同様に、私達の創造主は子供である私達に役立つ様々な物を用意してくれていると考えるべきでしょう。英語で言う"Gift"(神が授けた才能)もその一つです。創造主が私達に授けた法則の真の意味をどれほど深く理解しようとするか、また、身の回りを見る様々な創造物の持つ素晴らしい才能を如何にして感じ取ることが出来るかが問われています。ご自身の生き方として、これら自然法則を理解し、それらと一体となって行動できれば、進化した他の惑星人と同様の道を歩めると本文は言っているのです。

134 As Luther Burbank said, they see the Creator face to face. Thus they learn the relationship and purpose of all manifestations serving each other and thereby serving the creator.

134 ルーサー・バーバンクが言ったように、彼らは創造主に直接対面しています。彼らはそのようにして互いに奉仕し合い、そうすることで創造主に仕えている全ての創造物の相互関係と目的を学ぶのです。

【解説】

植物育種家のルーサー・バーバンクについては、アダムスキーは講演の中で数多く引用しています。多くの奇跡的新種を世にもたらしたバーバンクは、しかし、当時のキリスト教会からは認められず、無神論者呼ばわりされ、周囲に理解されないままこの世を去ったとアダムスキーは述べています。

それほどにこの生命の科学で言うような意識を感受せよという内容は、これまでの常識からは離れた概念なのかも知れません。しかし、多くの宗教の祖師と呼ばれる人達は各々これと類似した神秘体験を持った故に、それらを自分の言葉で表現するために、各々の宗教を造り上げているのです。ここで注意すべきは、この種のことは実は特段、神秘ではないということです。誰でも自然の中に現れる生命の輝きに創造主を見出せる筈です。先日、中国のある都市に仕事で出張しましたが、施設建設用地の沼一面に蓮の花が咲いていました。言わば蓮の花園といった風景に感動したことを思い出します。

何処にいても、同じ創造主が各々の場所に適した植物を育て、全体として調和を実現していることを、ささやかなから、気付いた次第です。

135 In the next lesson we will explain this relationship. It is important to understand if confusion is to be eliminated. All that is asked of any one is to become more and more conscious of consciousness which is the true self behind every act or thought. In plain, give the consciousness the recognition you have been giving the ego mind, in everything you do or see. Be aware of the invisible intelligence behind every act and word. By doing this it will eventually become automatic for you.

135 次の教課ではこの関係を説明しましょう。混乱を取り除く為にはそのことを理解することが大切なのです。誰に依らず求められていることのすべては、あらゆる行動や考えの背後にある真実の自己である意識をもっともっと意識するようになることです。平たく言えば、あなたがこれまであなたが行ったり見たりするすべてにおいて、エゴの心に与えていた認識を意識に与えよということです。あらゆる行為と言葉の背後にある目に見えない知性に気付きなさい。こうすることによって遂にはあなたは自動的に行えるようになるでしょう。

【解説】

アダムスキーはこの生命の科学講座を通じて、万物（更には万物の行動）の背後にある目に見えない知性を「意識Consciousness」と終始表現して来ました。この目に見えない（即ち、通常の私達の心からは把握できない）存在に、まず気付くよう、つまり目に見えないからと言って無視することはあってはならず、まずはその存在に気付くよう、心を受容的にせよと言っています。最初はあたかもそこに存在しているかのように心を整えることで、次第にその英知に気付くようになるということでもあります。

そうすることによって、今まで自分とは自分の心（エゴ）としていたのに対して、本当の自己（意識）を認識できるとしています。

もちろん、このような段階に至るには、多くの年月、多大な精進が必要なことは言うまでもありません。しかし、少しずつ自分の理解力を広げる中で、わずかずつであっても確実に宇宙の根源に向って自分が歩んでいることがわかりますし、自然との関わりの中で、従前より進歩した生き方を楽しむことが出来るようになることは誤りありません。それほどに、意識に気付くことは各人にとって重要かつ、必要な学習項目なのです。

136 When you begin to enjoy and understand a broader field of life you will know that you are progressing. And ideas and thought will be coming faster than you have ever known before. Do not question anything from the standpoint of disbelief, but make an analysis of every thought and act to see if it was a premeditated mental reaction or a conscious one. And where it fits into your life in relationship to others.

136 あなたは自分がより広い生命の分野を楽しみ、理解し始めていれば、自分が進歩しつつあることが分かるでしょう。そしてアイデアや考えがこれまでに無い程、速く浮かんで来ることでしょう。何事にも不審の念に立って疑問を投げかけてはならず、あらゆる想念や行動をそれが前もって考え出された心の反応なのか、意識によるものなのか、他との関連においてあなたの生活の何処に当てはまるかについて分析することです。

【解説】

この学習コースは、各自の実践の程度によって、効果（成果）は大きく異なります。一方で、私達の精神面の神秘を解きほぐす科学でもある訳で、その示す内容（法則）は如何なる時代にあっても成立する不変なものと言えます。また、この学習に用いる実験教材は私達自身であり、何時如何なる場所にあっても、その学習を妨げられることはありません。唯一、私達の心（エゴ）がそのような地道な学習に飽きてしまい、目を他の対象に向け、本人もそれに引っ張られてしまうことが問題なのです。

しかし、このように教材が常に自分自身に最も近い所にあり、その効果を誰よりも良く知ることができるという点がこの学習の特徴です。また、この学習には教師から与えられる宿題（ノルマ）も無く、マイペースで（即ち自分の理解力に応じて）着実に学習を進めることができると言えるでしょう。

自分の解釈が正しいか間違っているかは、その結果を見れば一目瞭然ですし、例え間違っていたからといって誰も咎める者はありません。一つ一つの結果がどうであったかを注意して分析しながら、良い方向に向かって進めば良いのです。一度に急発進する必要は無く、私達の心の成長のペースに見合った学習ペースが大切だということです。

137 Keep your mind as much as possible on the finer qualities of life, as you would on a fine quality of music. And if you do this daily you cannot help but make progress.

137 あなたの心を精緻な音楽に耳を傾けるように、生命のより精妙さに関心を持ち続けさせなさい。毎日これを行えばあなたは進歩せざるを得なくなります。

【解説】

かつてアダムスキーは宇宙的な音楽の例としてヨハン・シュトラウスの作品を挙げたとされています。改めてそれらの曲を聴いてみると、基本的に”楽しい”（明るい）楽曲であり、細部にまで優しさが込められたものであることが分かります。逆に言えば、難しい議論やあからさまな悩み顔を作ることなく、率直にあらゆる生命を尊重し、自らその一員であることを喜んでいる姿がそこにあります。

私達の日頃の心構えとして、この課の最後に著者アダムスキーはより精妙な生命活動について常に関心を持つように言っています。これは以前の課で私達を未加工のダイヤモンドに例えた話をしていることと類似しています。私達地球人は未発達なため、粗暴で荒い精神構造のまま長年月とどまって来ました。些細な事で争いになることは日常、枚挙に困ることはありません。それほど私達の心は荒んでいるのが実態です。その人間達が支配しているとする地球上には実は完全に調和した自然の営みが残っています。その細部にわたるまで絶妙に調和した諸活動こそ、私達が望んでいる宇宙の英知を具体的に表現している生きた実例です。それらの活動に気を配り、やがてそれらの息吹きに同調することによって、私達は成長の道を歩むことになると言っているのです。

The Relationship of All Creation

138 In the last lesson we stated that we would explain the relationship of all creation as simply as possible in order to eliminate confusion. We will deal with the many kingdoms that serve man. For without each he could not live and the Cosmic Plan would not be complete.

創造物すべての関連性

138 前課では混乱を取り除く為に出来る限り単純に創造物すべての関連性を説明しようとして述べました。私達は人間に奉仕する数多くの王国について取扱うこととなります。何故なら、各々の王国が無ければ人は生きることが出来ませんし、宇宙の計画も完全にはならないからです。

【解説】

私達の身の回りには様々な世界、王国が存在しています。例えば植物の世界。ここにおいてもその立地条件から植生は大きく変化しますし、その王国の中で、各々の植物達は太陽の光や水分、養分を求めて互いに競い合い、また受粉させて実を付け子孫を増やそうとひたすら努力しています。野原や林でその植物達の様子を見れば、それらは目に見えるだけでも昆虫や小動物に食物を与え、住処を提供する等、自らの繁殖だけでなく、周囲に様々な便益を与えています。もちろん私達人間にも、畑では野菜や穀物を、田圃では米を提供しています。そして更に重要なことはこれら植物世界が地上の生物に必要な酸素を提供しているということです。

これら数多くの王国の恩恵を得て私達が生存できる訳で、その相互の関連性を学ぶことは今日の環境問題への対応を考える上でも有益なことは間違いありません。

139 It is man's duty as the highest expression of intelligence to understand all of life's phases in relation to himself.

139 英知の最高位の表現物として自分自身との関連におけるあらゆる生命の側面を理解することは人間の義務です。

【解説】

人間は先ずは自分の真の価値と役割、責任について自覚することが必要です。事実上、一つの惑星を支配している人間（地球人）はそこに存在する全ての生き物の行く末に責任があります。かつて、そして現代でも、核実験と称する破壊技術の試し打ちを、この惑星に対して人間は行って来ました。まさに自分自身の身体に対する破壊行為です。有害な放射性物質をまき散らし、一時期は地球破滅の危機までに至ったこともあるのです。1952年11月20日、デザートセンターでアダムスキーがオーソンと会見た当時、世界各地で原爆実験が行われる等、まさに他惑星の介入が必要な時代であったと言えるでしょう。

一方、今日では、また別のタイプの破壊活動が行われています。古来の宗教、民族対立を煽った無差別テロとそれに対峙する既存組織との戦いです。しかし、元来、宗教の目指す目的は神、創造主との調和である筈で、各人の存在に創造主を見い出すことが求められており、憎しみは問題解決とは逆行することとは言つ間でも有りません。

このように人間世界は荒んだ状況なのですが、一步その人間界を離れ、他の創造物（自然）の王国を見る時、私達はその整然として調和ある動きに感動します。例えば季節の微妙で確かな変化をとって見ても、多くの生物が皆、協調して変化して行く様は目覚ましいものがあります。よく写真撮影に出かける近くの自然公園で起っている季節変化は実に見事です。最近パソコンで膨大な写真類を簡単に整理することが出来るようになりました。1年間の間に撮影した写真を改めてパソコンで見ると自然の中の四季の変化、出現する野草や昆虫達の辿る1年の歩みが良く分かります。実に自然の生き物は人間以上に短いながら充実した一生を送っていることに気付きます。これら惑星上の生物、更には気体から液体、固体に至る様々な側面の物質の知られざる変遷や諸活動を知ることによって得られる私達の概念の深まりこそ、貴重なものと言えるでしょう。

ジョージ・アダムスキー「生命の科学」第04課 段落140 [2007-09-19]

140 For analysis we will start with the invisible gases which seem to our understanding almost nothing. But within this kingdom are groups that vary in consistency and purpose. And from these come the many forms, as they solidify.

140 分析の為、私達の理解にはほとんど何も無いように思える目に見えないガス類から話しを始めることにしましょう。しかし、この王国の中にはその密度や目的を変化させるグループもあります。そしてこれらが凝固する際、それらの中から数多くの形が現れます。

【解説】

目に見えない存在の身近な例は大気です。日常、何ら気にかけることも無く、身体に取り入れている空気こそ人が生きる上で必要不可欠な存在です。生まれ落ちてから、臨終の最後の一息まで、休むこと無く人の命を支え続けているのが呼吸であり、この大気中のガス成分が人体を養っているとも言えるかも知れません。

既に物理等で学んでいるように透明な（目に見えない）空間の中には1立方メートルの中に1キログラム程のガスが詰まっており、個々の分子は毎秒数百メートルもの速度で動き回っています。肉眼では何も無い、何らの動きも認められないとしても、そこには厳然として永続的な宇宙活動と繋がる微細な世界があることに私達は気付かなければなりません。

141 In the gaseous state the highest activity exists. And the gases continuously combine and separate to bring forth the different combinations within the kingdom. Some combine and slow up their action and continue to do so until they become a form. In the first part of the slowing stage they become liquids which we classify as chemical elements. Thus in the liquid stage one chemical element mixes with another and creates phases that are different than they were originally.

141 気体の状態の中に最高レベルの活動が存在します。そして気体達はその王国の中で常に結合し分裂して異なる結合をもたらします。あるものは結合しそれらの行動を緩め、それを続けることによって遂には一つの形あるものになります。緩やかになる最初の部分では、私達が化学の要素で分類するところの液体になります。このように液体の段階で化学要素は互いに混じり合う結果、それらが元にあったのとは異なる諸側面をつくり出します。

【解説】

私達の身近にあって気体の様々な変化を見せてくれるものに大空に浮かぶ雲があります。大気中の目に見えない気体としての水（水蒸気）が地球大気の様々な活動により、気圧等の変化を受けて温度が下がる等の影響により、微細な粒子に凝結し、浮遊する雲を構成するとされています。一方、雲の形は気象図鑑にあるように様々です。青空を背景にぼっかり浮かぶ白い雲を見ると心が和むのは私だけではないでしょう。この雲を眺めていると、一つ一つは変幻自在、実に様々な形に変化し、また決して同じ所にとどまることはありません。目に見えない大気の壮大な運動に乗って、思わぬ間に視界から立ち去ることでしょう。

これら諸活動を創造主のわざと認めるなら、私達の周辺には多くの創造主の御わざが提示されているということになります。空一杯に広がるキャンバスの中である時は青空の下、流れる白い綿帽子を、朝夕には輝く太陽を受けて黄金の雲海を私達に無償で披露してくれるのが、この大気の宇宙的な活動であり本書でいう気体の王国です。

142 Through this mixing process extreme heat and extreme cold and the many variations between result as the action continues. And some combinations of gases and liquids cause mild or violent combustions. But out of these come the solidification of liquids that are composed of gases and parts of matter. But they are so fine that we have not as yet been able to make a microscope or instruments able to detect them. Yet they are there, and have to be in order to produce what we know exists on this planet.

142 この混合の過程を通じてその活動が継続するにつれて、極端な高温と極端な低温、そして様々な中間領域が産み出されます。そして気体と液体の内、いくつかのものの組み合わせによっては、穏やかな、あるいは荒々しい燃焼を引き起こします。しかし、これらから気体と物質の一部からなる液体の固化が起ります。しかし、それらはとても微細な為、私達はそれらを検知できる顕微鏡や装置を作り上げることは未だ出来ていません。それでもそれらはそこに存在しており、この惑星で私達が知る存在するものを造り出す為にはなくてはならないのです。

【解説】

ここで述べられている気体の中の各成分の活発な動きと反応、それらが生み出す微細な産物等の状況は、天地創造の創世記の頃を説明しているものと思われませんが、この天地創造は宇宙空間の中では現在も行われていることに注意しなければなりません。

この地球もその出現の源は宇宙空間のガス状物質であったと思われれます。人間の感覚では気が遠くなる程の昔に宇宙空間から産み出されたのがこの惑星です。当然、肉体の成分をこの惑星の構成成分に由来している私達の肉体は、紛おうことなくこの惑星に属しています。

また、ここで述べられている私達の目では見えない微細粒子の世界において実際の「無」から「有」を生じる「創造」作用が活発に動いている訳で、空間から物が出現する「奇跡」が仕込まれているのも、この気体の世界とすることができるとでしょう。

143 So we naturally assume that all planets and forms are made of very much the same materials. And they vary only in size and fineness or coarseness of structure.

143 ですから、私達はおのずと全ての惑星や形有るものはとても似た物質から成り立っているものと考えています。それらは構造における大きさ、繊細さや荒さが異なっているに過ぎません。

【解説】

私達の住む惑星の由来が宇宙空間のガス状物質だとすれば、その凝結結果である個々の天体は皆、成分は概ね同じとなると考えるのは自然です。そして環境等の違いから段階の差は出るにせよ、各天体は同様の進化・変遷を辿ることも納得できます。

かつてイエスは”Many Mansions（多くの館）”と当時の民衆に他惑星のことを伝えました。まさに他惑星に住むブラザーズ（宇宙兄弟達）にとって、宇宙空間の諸惑星は大海の中に浮かぶ館という概念であろうと思います。

宇宙にあまねく万物を前項（142）の遠大な作用によって産み出された共通の創造物とすれば、あらゆる物を同胞として受け止められるでしょう。これまで、この惑星で続けられて来た争い事は、このような互の共通点を見つけ、受け入れる包容力の前に色あせて行く筈です。

144 At this point let us go back and analyze, or speculate on what the steps would be to build a form embodying all of the elements necessary for self reproduction.

144 ここで自己再生に必要な要素全てを体現する形有るものを作り上げるのにどのような段階があるかについて振り返って分析し、また考察して見ましょう。

【解説】

形有るものの最も身近な例として、自身の身体について考えて見ます。当然ながら、その身体発現には起源がある訳ですが、私自身の心（エゴ）にとっては、自分の歴史の中に起源（出発点）があったという考えは、不思議な感じがします。つまり、心にとってはこの安住の住処である身体は、多少の変遷は辿るにせよ、感覚的にははるか以前からこの世に存在していたように思っているのです。

しかし、実際には母なる体内で受精が成立後、言わばただ一つの細胞から最終的には人間の形を成す段階まで、驚くべき成長を遂げて誕生したのが、私達です。これには、本書で言う意識の直接的な指導による創造の奇跡が幾重にも作用しているものと思うべきです。

また、一方でこれら身体もまた年月を経るにつれて、衰え、老化の道を辿ります。動物によっておおよそその寿命がある訳ですが、その差、例えばソウとネズミの寿命の差はどこから来るのか、そして彼等はどうのような感覚で生涯を送っているのかについては、分っておりません。しかし、個々の心（エゴ）が自覚しているか否かは別として、遠からず死を迎えることも事実です。肉体が生まれ出た時と同様、その終わりの時を迎えるのは、形有るものにとって避けられない現実です。その時は、各自の心は自分の存在が消えてしまうことになる訳ですから、不安を持ち、怯えるのは当然だと言えるでしょう。

しかし、自然界を見ると、生命の死は実は日常茶飯事のことであり、何ら悲しむべきことではないことが分かります。道路を行く小さな蟻達は車に曳かれ、人の足に踏み付けられても、その歩みを止めようとはしません。また植物から始まる食物連鎖があってはじめて、自然の営みが成り立つ訳です。蟻達にとっては、限られた時間の中で所定の任務をこなすには脇目を振らず与えられた任務を全うすることの方が大事なのです。

このように自らの存在、個（エゴ）の存在を何ら未練も無く、投げ出すことが出来る背景には何があるのでしょうか。そこには、これら創造作用を支えている意識が個々の真の自我の存在を引き続き支え、養って下さるという信念があると考えたいと思っています。かつて、アダムスキーは金星で亡くなった妻メリーと再会した時の模様を述べています。決して現在の各自の生活を軽視することはありませんが、より長いスパンで人生を考え、成長過程に取り組むことが大切です。自分自身の成長を生きた証として生き、また、多くの人の為になる成果を残せば、誕生の当初、一つの受精卵であった存在の真価は果たせたことになる筈です。

145 One of the planets of our system would be a good place to start. As it represents one of billions of planets which in turn produce the many forms borne upon it.

145 私達の太陽系の中の一つの惑星は話しを始めるのに良い例となるでしょう。何故ならそれは、何十億もの惑星を代表しており、その後はその上に多くの形有るものを産み出すものだからです。

【解説】

広大な宇宙空間の中で、生命に住処を与え、養ってくれる場所が惑星です。かつてアポロ計画で宇宙飛行士達が月探査を終えて、地球への帰途に着いた時、彼等は暗黒の空間に一つ輝く青い惑星を見て、地球こそ全ての生物の養い親であることを実感し、その惑星が大変貴重であることに気付いたことでしょうか。

この惑星もまた、それを構成する物と同様、宇宙の中で生まれたことに誤りは無く、その出現には起源があることとなります。

人間の時間感覚では膨大な年月となる遙か昔、この惑星も宇宙のガスやチリから創造されました。その作用は今も何処かで起っている一連の創造活動の一つでありました。また、一度、惑星が形作られた後は、植物や動物等、様々な種が出現し、進化変容を遂げ、各々ある程度は独自の進化を遂げることでしょう。

この惑星（大地）こそ、その上に宿る生き物達の母親でもあるのです。水や空気、更には温度まで適切な状態を維持し、提供してくれるのが母なる地球です。

私達人間は、とかくこの大地から農作物と称して食物を搾取し、産業と称して水や空気を汚して来ました。そして今、温暖化等、地球規模の環境問題を引き起こすに至っています。この問題の解決は、当事者である人間が解決する必要があり、決して被害者である母なる地球に委ねることは出来ません。

146 Now let us visualize the steps of creation into form when the liquids begin to solidify by slowing up their action within the liquid kingdom as the gases did to form the liquids. For once the liquids begin to solidify they vanish just as the gases did. Even though they are ever active in the pattern of creation.

146 さて、気体が液体を形成したように、液体の王国の中でその活動を緩慢にし液体が固化し始める際の形有るものに至る創造の歩みを思い描いて見ましょう。何故なら、一端、液体が固化し始めるとそれら液体はガスの場合と同様に消滅するからです。しかしそれでも、それらは創造の形式の中では依然として活動を続けているのです。

【解説】

地球の誕生過程には、最初にガス状物質の集合があった後、液化が起り、その後は固化が起ると本書では述べられています。地球の生い立ちを考える時、一端は液状化し火山のマグマのような高温の溶岩の時代があったのかも知れません。その後、徐々に固化や結晶化が進み、やがて固体惑星が成立したものと思われます。

一方、地学その他で習ったように、地球の奥、中心部にはそのなごりである液状のコアと呼ばれる部分が存在しますし、時折、火山から噴出する溶岩を見ても惑星の内部には高温高圧の液状部分が残っていることが分かります。

この間の創造の御わざの例として、私達はこの固化した鉱物の美しさを宝石として愛でています。注意深く見れば、様々な色光を反射する結晶の輝きはこの間の創造の作用が如何に素晴らしいものであるかを示しています。自然は無言で、誰に気付かれることがない場所でも、等しく変わらない仕事をしているのです。

また永遠にその形を保つものとして、これら地下の岩石は建築資材にも多用されて来ました。美しい結晶模様はその外側をわずかに研磨するだけで姿を現しますし、地上の建物を飾る重要な素材にもなっています。中でも言い悪いは別として墓石に象徴されるように、人の思いを一手に受け止める永久物としての役目も担わされていると言えるでしょう。

147 This is a good example of what takes place : When we look into a beautiful clear sky, we do not see anything but the sky. Yet we know that between us and the blue are layers and layers of gases such as oxygen and hydrogen, etc., that we do not see. But once they slow up their activity a cloud will appear. And once it slows up its activity it may then reactivate itself and become totally invisible as it returns to its invisible gas. Yet even here we may speculate that some change has taken place among the original gases.

147 起っていることの良い例がこれです。私達が美しく澄んだ空を見入ったとしても、私達にはその空しか見えません。しかし、私達は私達とその青い空の間には私達には見えない酸素や水素等のガスの幾重もの層があることを知っています。しかし、一旦それらが活動を弱めれば、雲が発生することでしょう。そしてその雲も活動を弱めれば目に見えない気体へと変化する為、完全に目に見えなくなってしまう。しかしながら、私達はその元の気体の間で何らかの変化が起ったと考えるかも知れません。

【解説】

先日、朝早く起きて日の出前に机に向っておりました所、ふと窓越しに東の空を見ると朝焼けの雲が長く棚引いておりました。そしてしばらくしてもう一度、見上げると、驚いたことに、それらの雲は大きく形を変えて消えそうになっていました。おそらくは日の出の太陽の光を受けて、いままで留まっていた雲が暖められて、再び蒸発して、急速に消えていったものでしょう。大空いっぱい舞台にして起る大気の動きは実に活発です。このような日夜繰り広げられている大自然の変化に、残念ながら、多くの人々は無関心なのです。

地球の表層に住処を得ている人間は、その抛り所となる大地や毎回の呼吸を得ている大気の活動にもっと敏感にならねばなりません。そういう目で見てみると、朝晩の野鳥達の動きは実に活発です。とりわけ、朝は鳥達は太陽を待ちかねているように東を向いて、じっとしていますし、一度、日が昇れば、群れを作って大空を回遊します。鳥達の一日のはじまりを喜ぶ姿勢には本当に感心させられます。まさに人間とは異なり、他の生物達は自然とともに生きているということです。

148 But should the cloud get heavier by continued slowing up of its action the atmosphere will begin to feel moist for now the gases are coming into a liquid state and moisture will start dropping to earth, which is the second kingdom in action.

148 しかし、雲がその活動を減じ続けることによって濃密になって行けば、大気は湿気を感じるようになるでしょう。何故なら今や、ガス類は液体状態になりつつ有り、水分はやがて地上に落下しはじめることでしょう。それは活動する第二の王国のはじまりなのです。

【解説】

普段、目にする現象に対して私達はそれを当たり前のこととして、日常生活を送っており、特段気にとめることもありません。本文に出て来る雨等は長年見慣れたものであり、むしろその結果、旅行の予定が取り止めになる等、私達の生活が影響を蒙ったことの方が大きな関心事にたっています。

しかし、例えば降雨の中を離陸する飛行機に乗ると、最初は雨粒の中を機体は上昇するのですが、その後まもなく、雲の層を突き抜け、眼下に白い雲海を見下ろしながら、眩しく輝く青空が広がっていることがわかります。

地上ではどんより曇った雨の一日にはなっていますが、その作用をもたらしているのは、大気圏の内のごく薄い部分の働きなのです。実に私達は身の回りの環境に大きな影響を受けていることが分かりますし、現実起っている様々な現象について正しい知識を持つことが大事です。

さてこの雨もまた地上の生物に必要な不可欠なものであることは言う間でも有りません。夏の水不足は農業にとっても深刻な問題です。その恵みの雨は本文のように大気中に存在する水蒸気成分が凝縮した結果、雨粒に成長して地上に落下します。その過程はいわゆる自然における水の循環と呼ばれるように、地上の汚れた水が一度、蒸発して水蒸気として大気に融合した後、再び雨粒に凝縮して地上に慈雨として振り注ぐ、ある意味では生まれ変わりを示すもの、絶え間ない自然の営み、循環の生きた見本ということなのです。

149 In order to clarify what we mean we can use the illustration of the creation of form when liquids transform into solids. A drop of water placed on dust will absorb the dust unto itself. And if a small amount of water is allowed to move slowly over dust it will absorb so much that the liquid vanishes and a mud ball takes its place. It is no longer liquid, but moisture that holds the dust together to form a sphere. Should there be enough liquid to absorb all of the dust that might be available there is no saying how large this sphere could become.

149 私達の意味するところをはっきりさせる為、液体が固体に変容する際の形あるものの創造についての例を用いることにしましょう。塵の上に載せられた一粒の水はその上に塵を吸収させます。そしてもし、小さな水玉が塵の上をゆっくり移動するようにさせたら、それは塵を最後には液体が見えなくなるまで吸収し、遂にはそれに代わってひとつの泥玉ができることでしょう。それはもはや液体ではなく、球体を形作る為に塵を繋ぎ止めている水分なのです。もしすべての塵を吸収するに十分な液体があれば、この球体が何処まで大きくなるか誰も発言することは出来ません。

【解説】

私達は物の存在を自分の感覚で確かめることが出来なければ認めようとはしません。無色透明な空気、即ち気体は日常、私達はその存在に気付くことは稀です。そういう点では固体についてはよく認識し、気に入ったものは貴重な宝石として宝物にする程です。

しかし、その固体も実は前節（147、148）で述べられているように元はと言えば、気体から液体へと変遷し、本節で述べるように固体へとその形を変えて来ていると言うのです。もちろん、本節で述べられている現象が全てを物語るものではないのですが、類似した現象にいわゆる「結晶水」があります。無機物の成分の内、ある種の物はその結晶過程で水分が大きな結合力の役割を果します。加熱することによって結晶水を蒸発させると、結晶は粉々になり元の粉末に戻るといった具合です。

この他、天然鉱物の断面を見ても様々な結晶が互いに混じりあい、融合していることが分かります。このような各結晶同士が溶け合って硬い鉱物が成り立っている訳で、固体を形成するには内部に液体の要素が必要であることが分かります。各物体を成り立たせている真の力は外見からは見えません。内部に宿る力は目には見えないということです。

150 All of the particles of dust are made up of various gases which are capable of producing minerals as well as germs or seeds. And these can produce other forms once the proper conditions prevail. From the first kingdom to the present, activity continues in varying degrees that produces the changes.

150 塵の全ての粒子は様々なガス状物質から成り立っており、そのガス状物質は鉱物や胚や種子等を造り出す可能性を持っています。そしてこれらはひとたび適当な条件が広がれば、他の形有るものをも造り出すことができます。この最初の王国から今日まで、変化を造り出す活動が様々な度合に続いているのです。

【解説】

ここでは全ての塵（固体）は元々はガス状の物質から成り立っていると言っています。

原始の宇宙において、出発はこのようなガス状物質から始まり、また終局においてもまた、新星爆発に見られるようにガス状に帰って行くことは知られています。しかし、著者は現実の固体物質そのものの由来は皆、気体状の物質であると言っているのです。通常、私達の概念では、例えば硬い物の代表として鉄やダイヤモンドを挙げて、どうしてそれらの源が気体なのかと疑問を呈するかも知れません。しかし、良く考えれば、鉄の場合には溶鉱炉では完全な液体になりますし、温度や圧力条件を変えれば、鉄も気化するものと思われれます。また、ダイヤモンドについても元は炭素であり、真空状態にすれば気化しますし、逆に何かの表面に蒸着させることも可能です。

これら出発点である気体の王国から、あらゆる物が形成されるという点では、（目に見えないという意味で）「無から有を生じている」と言うことが出来ます。また、私達の周囲にそのような成分が多数存在するとすれば、それらは私達の放つ想念にも大きな影響を受けるでしょうし、やがてはそれらの影響が現実の事物として表面化せざるを得ないこととなります。

151 We know that wherever there is activity from any source, energy is the result. We classify this energy as friction, static electricity, or kinetic. And it can be seen when clouds are forming and moving at a good rate of speed and take on what we call static electricity. And when they have a full charge they discharge this force in the form of lightning. If there are two or more clouds discharging towards each other and cross lines of force like two electric wires, at the point of crossing they produce a flash and an explosion. And at this point a lightning bolt may be created. This bolt contains most of the minerals known on earth. Prior to the discharging of the clouds there was apparently nothing but empty space between them, yet there must have been something there at the point of crossing to, create a lightning bolt. The necessary elements were there and only needed the proper conditions to solidify them into the form we call a lightning bolt.

151 私達は如何なる源泉からにせよ、活動がある所には、エネルギーが結果として生まれます。私達はこのエネルギーを摩擦や静電気、あるいは運動エネルギーに分類します。そして雲が形成され高速度で移動していわゆる静電気を取り込んでいる時、それを目で見ることができます。そして満杯まで充電されると、それらは電光の形でこの力を放出するのです。もし二つ以上の雲が互いに放電しあい、2本の電線のように力線を交叉させている場合、交叉する点において、それらは電光と爆発を生じさせます。そしてこの時点で稲妻が造り出されるでしょう。この稲妻は地球上で知られているほとんどの鉱物を含んでいます。雲からの放電の以前にはそれら（雲）の間には見掛け上からっぽの空間があるだけでしたが、それでも交叉する時点で稲妻を造り出す何かがあった筈です。必要な要素はそこにあり、稲妻と呼ぶ形態にそれらを固化する為の適当な条件だけが必要だったのです。

【解説】

目に見えないガス状態が万物の元になっていることは、これまで説明されました。本文では、私達の日常生活の中で見る事ができる自然現象の中で起る類似事例として稲妻について解説しています。

夏の夕方、午後から立ちのぼった入道雲はやがて空を黒く覆い、稲妻や雷が飛び交い、やがて大粒の雨がひとしきり降り注ぎます。実はこの一連の動きの中に万物の創造の仕組みが現れていると言っているのです。

即ち、大気の急速な動きは雲を生み出し、静電気を蓄え、それらが放電する際に猛烈な爆発が生じますが、これにはあらゆる鉱物元素が関わっている（生み出している）としています。これらの事は現代科学では、未だ解明されていない分野ですが、自然界における静電気の力はUFO動力とも深い関係がある等、まだまだ未知な分野です。

一方、ここで述べられていることを別な見方をすれば、こうなります。つまり自然界においては本来、Aという状態からBという状態に移ることは可能であったとしても、通常の状態ではその反応は起りません。両者の間にはある種の壁があって、ただらと反応させることは許していません。しかし、その壁は各自の活動（努力）の積み重ねによって一定以上のエネルギーを貯えたと、その後は一挙に壁は越えられ、本来の反応が爆発的に起ります。日頃の努力の積み重ねが大事と言われる所以は、こういう所に表わされているように思うのです。

152 This alone is proof that space is made of the elements which produce the many forms known to man that depend only upon the combination of the elements. As stated before, it can be said that the birthplace of forms is in space. And the miraculous part is that the law known as disintegration can also be called the law of birth. For when disintegration takes place, regardless of the form, the elements of which it was made return to the original state.

152 このことだけでも空間が人間に知られている多くの形有るものを作る元素から成り立っており、それら形有るものはその元素の組み合わせのみに依存しているということの証しとなります。以前に述べたように、形有るものの誕生の地は空間にあると言えるでしょう。そして分解として知られる法則はまた、誕生の法則として呼ばれるべきであることは奇跡にもまさる不思議なことです。何故なら、形有るものに関わらず、分解が生じる時、それを作っていた元素が元の状態に回帰するからです。

【解説】

空間（宇宙空間）のガス状物質こそが、万物の根源です。繰り返し述べられて来たように私自身も含めてすべての物はこの同じ源泉から生まれて来ましたが、また、死の時もその同じ空間に戻ります。そして再び何らかの創造物として地上に出現することは皆さんご存知のことです。最近ではウェイン・ダイヤーも講演の中で血液中の鉄分の由来について述べ、それらの鉄は私達の出現の前から地球に存在していたし、死後も残り続けると言っていました。

古今東西、万物の要素（元素）が流転することが述べられて来ましたが、このガス状物質が存在する空間こそ、万物の故郷であることを伝えているのは、この講座の他に知りません。万物を生み出す目に見えない意識の存在を恐れ敬い、目には見えない空間に万物の元となる要素が充満していることを認識することは、結果の世界で起っている表面的な何物にも動ずることなく、自らが信じる真実の道を歩むことにも繋がることでしょう。

153 All gases contain the potential of repeating the cycle again and again. Everything in nature seems to be doing this. Which means that the gases in their original state seem to be constant, while the forms come and go. All of this takes place in a continuous state of action in varying degrees which we could call speeds or frequencies.

153 すべてのガス成分はその循環を何度も何度も繰り返せる能力を有しています。自然におけるあらゆるものがこうしているように見えます。つまり、形が行き来する一方でガス成分の元々の状態は変わらないように見えることを意味します。これら全ては私達が速度や周波数と呼ぶような様々な度合いの中、連続した活動状態として起っているのです。

【解説】

いったいどれだけの人が朝焼けの空を見て、この種の印象を得ているかは疑問です。しかし、毎日のように私達に見せる天空の輝く光景の背景には、この宇宙に属している大空の大空間こそ万物の故郷であり、その空間からあらゆる物質が生まれ、そして再び戻って来ると言っています。

美しさにはそれだけの理由があるということでしょう。私達の源が実は遠い所ではなく、身近な自らを包み込む気相にあることが自覚できれば、自らは形こそ変化するものの、本質的には永遠なる存在であることがわかります。また、目に見えない存在を普遍なる空間の中に認識することは、本人に創造主に包まれた暖かい気分をもたらす、気持を穏やかにすることでしょう。目の前に広がる空間こそ、創造に必要なあらゆる要素を豊富に含んだ豊かな王国でもあるのです。

154 The primal force of creation, the Cause, or purpose, is constant. While the manifestations or effects of the cause are transitory. All of this is governed by varying vibrations, speeds or frequencies, which in their change constantly produce new effects. And each is important to the other, for no part could perform as it does in the absence of the others.

154 創造の主なる力、因、あるいは目的は不変です。一方、形の現れや因の結果はつかの間のものです。それらすべては振動や速度、周波数の変化に支配されており、それらの変化にあたって、絶えず新しい結果を生み出しているのです。そしてそれぞれは、他にとって重要であり、いかなる部分も他の存在無しには自らの任務を果たすことができません。

【解説】

飛行機に乗ると本稿で言う創造の力の現れがよく分かります。地上はどんより曇っていても雨が降っていても一度上空を突き進むと、そこには白い雲海が広がり、まさに無色透明の空間から雲という様々な形ある物が生まれ、更には地上に降下する雨粒になる一連の過程が良く分かります。

そして分子の運動状態のレベルに応じて気体-液体-固体に分かれていることは既に私達も科学の基礎知識の学習の中で学んでいます。とかく私達は個々の具体的な物によって他と区別して認識していますが、氷が口の中で融けて水になり、また一部は水蒸気になって気散するように、その状態に目を奪われていると、物事の変化ばかりが目について、安定しません。

ここではこれら物質の3相（気相、液相、固相）についても、違いは分子の振動（周波数、速度）に過ぎず、基本的な

”力”は不変なものだと言っています。個々の物を観る時、私達はその物を造り上げている分子原子は、その源泉を宇宙空間として、一時期の勤めとしてその物を構成し、支えていることを理解する必要があります。そして、それらを結合させ、或いは遂にはその結合解き放って、新たな体験をさせるのは、宇宙の統一的な力、因であると言っています。

155 I trust that we now have some light or understanding of the first kingdoms, and how it may have been possible for creation to take place from what appeared to be nothingness, into form manifestation. Yet we may go a little further and ask, where did the gases come from in the beginning? And what, or who, set the law of attraction and repulsion in action where the various gases either combine with or repel one another?

155 私達は今や第一の王国について、また、どのようにして一見何も無いように見える所から形有るものに創造が起こり得るのかについて、いくらかの光明あるいは理解を得ているものと信じています。私達は更に進んで最初にガス成分は何処から来たのかと尋ねるかも知れません。そして何が、あるいは誰が様々な気体が互いに結合したり反発したりする活動に親和や反発の法則を設けたのかと。

【解説】

海を越え、遠い外国に来て、多少の差はあれ、自然は皆同じ態度で私達を迎えてくれます。木々や鳥等、種類は違っても人間の日々の営みとは離れた楽しい生活を送っています。むしろ気になるのは、そこで住み働く人達が実は他の国（世界）と比べても、大変恵まれた自然環境の中にあることに気付いていないことです。先日もある国の都市に出張で出かけましたが、朝からあちこちの街路樹の茂みの中で綺麗な声で鳥たちがさえずっているのに驚きました。しかし、人々は鳥たちには全く無関心の様子です。彼等にとってはごく当たり前の朝の風景なのでしょう。温暖で水も緑も豊富なこの地は、人間達の勝手な振る舞いで抱える諸問題とは離れて、自然は理想の姿を私達に見せてくれていました。

話しを大気（気相）の持つ潜在力に戻せば、これら創造物出現の由来を担っている宇宙空間には実に様々な知性が詰まっていることが分かります。地上のあらゆる物がそこから生み出されているからです。気相を構成する様々なガス状成分をコントロールし、新しい物を創造する知性は人間の邪魔が入らなければ、そっと必要な贈り物をして呉れる存在なのです。

156 In the first two stages we find that some kind of intelligence as we call it, was the director behind the scenes.

156 この最初の二つの段階の中、私達がある種の知性と呼ぶものがそれらの光景の背後の指導者であったことに気がきます。

【解説】

私達が自らの身体の諸活動を含めて、大自然の動きを観察する時、そこには細部に至るまで美しさがあり、各々が各自の能力を最大限に発揮する一方、全体として調和し、一体となった世界をミル事が出来ます。このように全体のレベルから個々の細胞に至るまで調和を保つには、統合された（共通する）知性が無くてはなりません。その知性は私達の目には直接見えないにしても、私自身を含め、全てのものを生かして支えてくれる存在であることは間違いありません。

気体分子から液体が生成され、液体が固体に変化する一連の変化の中には、未だ私達が知らない絶妙な仕組みが隠されていることでしょう。地上における私達の起源が宇宙空間に漂うガス成分であることは、全ての物が共通の源泉、真の兄弟であることを意味します。そしてチリから生まれた私達を現在の形に保ってくれるのも、太古から終始働き続けている宇宙の原理、知性である訳で、私達は本来、その恩義を片時も忘れてはならない筈です。

157 Do we not classify intelligence on a basis of an expression or manifestation? Isn't it true that we judge a man's intelligence by how well he expresses himself or how well he produces something or behaves? And if he does not come up to the standards of society he is called a moron. Doesn't this manifestation which appears to be more orderly in bringing forth results, baffle men representing intelligence? I would say that it does, and we will notice this more as we go on. It shows that there is an overall Cosmic Intelligence as well as Cosmic laws that governs all creation. And this intelligence does not need a form as it embodies itself in all forms for various purposes. And all manifestations through the gases and mineral kingdoms will themselves to this intelligence except man.

157 私達は知性を表現や創作を基礎に分類していないのでしょうか。私達はその者が如何に上手に自らを表現するかとか、如何に上手に何かを造り上げるとか振舞うとかによって、その者の知性を査定しているということではないのでしょうか。そしてもしその者が社会の標準に達していない場合、その者はまぬけと呼ばれます。そういう意味では、はるかに整然と結果をもたらしているように見えるこの創造作用は知性を代表する人間を当惑させてはいないのでしょうか。私はそうだと思いますし、私達は先に進むにつれてそのことに気付くことになることでしょうか。全ての創造物を支配する宇宙の法則とともに総体的な宇宙の知性が存在するのです。そしてこの知性は様々な目的の万物の中に自らを体現している為、ひとつの形を持つ必要はありません。そして気体や鉱物の王国をの中のすべての創造物は、人間を除いてこの知性に自らを委ねているのです。

【解説】

般若心経に「色不異空 空不異色」という一節があります。解説によれば、色（物質や肉体）は空（固定した性質がなく実体のないもの）に異ならず、空は色に異ならずとあります。一見して空（空っぽの空間）と見える場所が万物の故郷であり、所詮はそこに戻って行くということだと考えます。本稿でこれまで述べられて来たガス状物質の世界は、実に般若心経に言う「空」を指しているように思われてなりません。「空」を空しいものと捉えるのではなく、空間こそあらゆる要素（元素）が充満しているという明るく、積極的な意味を持つことがアダムスキー哲学の優れたところでした。目には何も無いように見える空間が、ただのスペースではなく、そこにはおびただしい数の創造の時を待ち望んでいる様々な元素が満ちているということです。

158 We have the evidence that all matter that does lend itself, is in a constant state of existence. And is everlastingly being refined into a higher state of expression or service to all parts, fulfilling the Cosmic Purpose. We know this to be true for the earth made of matter has existed for billions of years and has gone through many changes. Yet human civilizations have come and gone. One continues under the will of a creator, while the other ends through the will of the mind. This does not mean that the matter of which man is made ends. Nor does it mean that the consciousness ends. But the ego mind has an end when it insists on acting independent of the Cosmic Intelligence. For the only things that continue on are Cosmic Consciousness and matter, through the process of constant action and newness.

158 私達には自らを貸し与えているすべての物質が常に変わらぬ生存状態にある証拠があります。そしてそれは宇宙的目的を成就する為、より高い表現状態やすべての部分に奉仕する中で、永続的に洗練されているのです。物質から出来た地球が何十億年も存在し、多くの変化を経て来たことにより、私達はこれが真実であることを知っています。しかし、人類の文明はこの間、去来して来ました。ある文明は創造主の意志の下、続きましたが、他は心の意志を経た結果、終わっています。このことは人間を作っている物質が終りになるということを意味するものではありません。また、その意識が終ることを意味するものでもないのです。エゴの心が宇宙的英知から独立して行動することを主張する時、終末を迎えるのです。何故なら、永続する唯一のものは永続的な活動と新鮮さの過程を通じた宇宙意識と物質であるからです。

【解説】

自分自身の身体を構成している元素達と会話が出来るとしたら、どのような世界が開けるのか考えると楽しいものです。もちろん、地球の過去を考えれば、楽しい体験は数少ないと言って来るかも知れません。そうです、私達の身体を構成しているもの達に良い体験を残すのも、私達の役目です。人間の身体には60兆個もの細胞がある訳で (<http://www4.ocn.ne.jp/~hoeikai/karada.html>)、それらの一つ一つ、或いは分子・原子の一つ一つに意義有る体験を与えることが出来れば、人間としての私の役目も果たせるというものです。

また、これら細胞や分子・原子に適切な指令を与えている存在は一口に宇宙英知と言うには偉大すぎる気がします。本稿でも再三出て来ます、宇宙意識についても私達が想像する以上に遥かに大きな存在であることに気付く必要があるでしょう。日常の私達が抱える問題等は、その意義と大きさに比べれば、ほんのゴミのような存在です。まずは毎日、その身体を引き続き預っていること、その身体という小宇宙が円滑に機能していることに感謝しなければなりません。

159 Yet even the human form has evolved because matter lends itself unto the Cosmic Will and keeps progressing. And the matter of which the human form is made has a certain influence upon the mind or ego. So the mind has progressed also to a small degree. Not because of its own will but because of the part that the body intelligence plays upon it.

159 しかもこの人体ですら、物質が自らを宇宙の意志に委ね、進歩を続けているが故に進歩して来ました。そして人体を構成する物質が心或いはエゴに幾分かの影響を与えています。その為、心もまた、わずかながら進歩してきました。心自身の意志の故でなく、肉体の知性が作用する部分の故にです。

【解説】

この人体もそれを構成する個々の細胞や分子原子は自らの意志を宇宙の意志に委ねて日々活動しているため、進化を遂げており、その影響は人体全体にも及んでいるとしています。日頃はその主人である心の右往左往によって多大な悪影響を蒙っている一方、各細胞や分子原子は本来の任務を確実に実行しています。私達のエゴの働きが鈍る睡眠中にしっかりと身体の各部を癒し復旧させてくれるありがたい存在です。

私達の心は容易に進歩の道を行くことはないのですが、一方でこれらの細胞分子原子はひたすら進化を遂げているということでしょう。同じ人種であっても進化は確実に起っているようです。江戸時代の日本人と現代人を比較すると体型や顔つきも相当に異なるように思います。現代人は大柄になり、体型もスマートになっているように思われます。もちろん、食生活の豊かさも影響していることでしょう。また、人生50年の時代から80年、90年時代を迎えている今日、多少の問題はあっても昔の時代よりは生活はしやすく、精神的にも解放され、科学技術も進歩してより本来的に人生を楽しめる時代に向かって進んでいることも背景の一つにあるものと思われま

一方、自然に目をやれば、花や虫達はこれら人間達の世界とは関わり無く、昔から美しく輝いており、それぞれ完璧な姿を私達に見せてくれています。このように細部に至まで、美しさを表せるのは、それらが絶えず宇宙意識に100%身を委ねていて、人間とは異なり、絶えず進化の道を歩んでいるという背景があります。

160 i.e. Scientists have recently discovered that the memory of life's experiences are recorded within each molecule within the cells of a form. And each form of man is made of trillions of cells. And each cell in turn is made of thousands of molecules which carry a memory pattern of past and present action and a pattern for future action. These molecules are grouped for service to the many parts of the body according to the function of the part but all are interrelated. They not only carry the memory of the progress that an individual form and mind has made, but also the progress of all matter from the lowest conceivable stage to the present. This could be called the foundation of form growth guided by the memory molecules known as consciousness. This gives us a clue how a consciously alerted person who has learned to submit his critical mind to the obedience of conscious impressions that are given steadily by the molecules, can receive much information.

160 即ち、科学者は生命における体験の記憶はその身体の細胞内に記録されることを最近発見しています。そして人体は何兆もの細胞からなっているのです。そして個々の細胞は過去と現在の行動や未来の行動に関する記憶パターンとを運ぶ何千もの分子から構成されています。これらの分子群は肉体の多くの部分の機能に応じて各部に奉仕するようグループ化されていますが、皆相互に関連しています。それらは個々の肉体や心が成した進歩の記憶だけでなく、認識できる最も低次の段階から今日にいたるまでの全ての物質の進歩をも運んでいます。これは一つの意識として知られる記憶分子達に導かれた形有るものの成長の土台と呼ばれるべきものです。これは意識的に警戒状態にある人がこれら分子達によって絶えず与えられている意識的印象に自身のきわどい心を解き放つことによって、如何に多くの情報を得られるかのカギとなっています。

【解説】

人間も含め全ての生物の細胞には記憶が残ると言っています。実際に各人の心が放った想念は身体の隅々にまで浸透し、良くも悪くも全身の細胞に影響を与えます。もちろん、明るく宇宙生命の流れに沿ったものであれば、各細胞は生氣を取り戻し、生き生き活発な状態になりますが、一方で落胆や怒り等、マイナスの印象には各細胞はうなだれ、生氣を失い不活発になるに相違ありません。

そのどちらが生き方として適切かは明らかであり、心は自らの存在の拠り所となる肉体の維持の上からもいち早く自らの意志を捨て、生命の流れに従う必要があります。更に細胞の記憶については、記憶する分子群について本文では言及しています。今日的には遺伝情報を司るDNA、RNAを指しているものです。もちろん、記憶は個人に属しますが、その内容は細胞から記憶分子、更には原子レベルにまで受け継がれるかも知れません。そういう意味では、邪悪な想念こそ最も警戒すべきもので、今日の社会で放任されている「具体的な実行を伴わないから」或いは「他の者に分からないから」という理由で、想念レベルを低下させることは、実は命取りになることに注意しなければなりません。毎日の各自の抱く想念、発する印象をより良いものにしてむしろ周囲の者に良い影響を及ぼすことを本分にしなければなりません。

161 We know something about psychometry that permits a person to hold a ring or a watch belonging to another and give the owner a reading. These people have schooled themselves to accept impressions that come, without any feeling of doubt. And these impressions come in vibrations from the molecules that have had the experience.

161 私達はある人物に他の者に属する指輪や腕時計を握らせ、その持ち主にリーディングを与える精神測定（サイコメトリー）について幾分か知っています。これらのことが出来る人々は如何なる疑問の感じを持たずにやって来る印象類を受け入れるよう自分自身を訓練して来ました。そしてこれらの印象はその体験を持った分子から振動としてやって来るのです。

【解説】

本文で述べられているように様々な物体に印象が染み付いている訳ですが、このことを別の言い方をすれば、私達自身が日頃、発した想念、そしてその結果、体験した記憶がそのまま、私自身の肉体や身に付けている物体に振動という形式で蓄積されるということを意味しています。

発する想念の力は私達の想像する以上に力を有しているということでしょう。時間経過とともに減衰はして行く筈ですが、それでも日常の精神活動が周囲の物体にも容易に転写されていることは注意を要します。如何なる想念を取り入れるべきか、如何なる種類の想念を排除すべきかについて、絶えず警戒し、自分に取り込み、また発する想念を高次な内容にしむける努力が必要でしょう。地球社会には他人を墮落させて、金儲けを企む者が数多く存在します。その中で創造主に求められる道を進むのは容易なことではありません。

162 We can say that these tiny memory molecules are actually conscious entities capable of maintaining the form and guiding the mind if the ego allows it to do so. They are the knowers of all that has ever been or is. This proves that the human mind once properly schooled can commune with all forms in nature. And mysteries regarding life would not longer prevail. And secrets and guess work would cease to be, for these tiny memory molecules have recorded all action.

162 私達はこれら小さな記憶分子達が実際、形有るものを保ち、もしエゴがそれを許すなら心を導くことができる意識的な実体であると言うことができます。彼等はかつて存在したあるいは現在存在する全てのものを知る者です。このことは人間の心は一旦適切に訓練されれば、自然にある全ての形有るものと親しく語り合うことが出来ることを意味しています。そうなれば、生命に関する神秘はもはやはびこることはないでしょう。また秘密や憶測の作業は終わりを遂げることでしょう。何故ならこれら小さな記憶分子群は全ての行動を記録しているからです。

【解説】

身体には60兆個もの細胞があり、その細胞一つ一つに細胞の活動を指導し、更には身体全体と調和させ、宇宙の源泉にも通じている有能なる記憶分子群があるということは、私達は自分に最も近い所（自身の肉体の中）におびただしい教師を有していることになります。ただひたすら、心を目には見えない小さな記憶分子の存在を先ず受け入れて、それらと同期できるように心を穏やかに、かつ高レベルに保つ必要があります。おそらくはその分子群の所蔵する知識は、大図書館に匹敵する内容であり、心がアクセス出来さえすれば、十二分の知識（印象）を与えてくれることでしょう。まさに「汝自身を知れ」という意味がここにあります。

このように人体を調べて行けば行くほど、生命の神秘は広がって行きます。そして一人ひとりが60兆もの知的存在からなる一国の元首の座に着席すべき存在であることを考えれば、これら有能な民を如何に長命に保ち、秘めたる可能性を実現させることが元首としての務めであることが分かります。私達は生まれながらにして実に恵まれた存在であることに感謝したいものです。

163 This is the true Cosmic Self. This discovery has been made with the help of our space brothers many years ago, but not until now do our scientists realize its value and potential. And they named it DNA and RNA. Yet the space brothers have been using this knowledge for thousands of years. And they have applied it in their daily life by schooling their minds to be obedient to impressions coming from these memory carriers.

163 これこそが真実の宇宙的自我というものです。その発見は何年も前に宇宙兄弟達の支援によって成されましたが、最近まで私達の科学者達はその価値と潜在能力について認識して来ませんでした。それで科学者達はそれをDNAやRNAと名付けました。しかし、宇宙兄弟達は何千年もの間、この知識を活用し続けています。そして彼等はこれら記憶の運び手からやって来る印象類に従うよう自らの心を訓練することによって自分達の日常生活にそれを応用して来たのです。

【解説】

本文では記憶分子は具体的にはDNAとRNAであると明言しています。アダムスキー哲学が他と大きく異なるのは、実に説明が具体的であるということです。真理は一つである以上、同様な主旨を伝える宗教、哲学は多いものと思われれます。しかし、これほどの具体例を示せるのはアダムスキーにおいて他にありません。その理由はこの知識が地球人が思考の上に掴んだアイデアではなく、現実の実用知識として宇宙兄弟（Space Brothers）が日常用いている根拠のあるものだからです。

それ故、本シリーズを学ぼうとする者は、もっと率直に本文に記されている内容を自分の日常に当てはめながら、精読することが大事だと思います。本文の記憶分子がDNAとRNAだということと、これまでの人生の全てがこれら分子群に何らかの形で記憶され、これらの分子群が肉体全てを指揮し、宇宙意識とも繋がりを持っていることは、私達に生命に関するより明確なイメージを授けることになりました。

164 DNA according to scientists is a master blue print which carries instructions of life. And anyone who has given thought to the creation of form life, whether of man or an insect, must admit that there is some kind of intelligence that directs the structure of the form. As there are no two identical forms, this suggests that there are minor changes in each case. And that the matter which is used in making the form must have a certain kind of intelligence in order to receive directions.

164 科学者達によればDNAは生命の指令を運ぶ設計原図であるとのこと。そして人間であれ昆虫であれ、生命体の創造に考えを寄せた者は誰でもその形ある者の構造を指揮するある種の知性が存在することを認めなければならないでしょう。また、全く同一な形が無い以上、各々の場合においてわずかな変化があることが分かります。そして形有るものを造る中で用いられた物質もまた、指示を受ける為にある種の知性を持っている必要があるのです。

【解説】

私達は既に科学の授業で生物が持つDNAについて学んだことがあります。そして最も分かりやすい例として、サケの産卵と孵化が挙げられます。サケの卵（イクラ）が受精後、分化し、幼生まで生長し、その後孵化し幼魚になるまでに繰り返される一連の大きな変化は生命の潜在力そのものを現しています。この一連の生長を終始指導しているのが、遺伝情報を持つ分子DNAであることは今日では常識にまでなっています。また、このDNAは各個体によって異なる部分もある為、DNAの構成を分析できればその個体を判別できる所まで地球の科学も進歩して来ました。また、孫悟空が髪の毛を抜いて分身を造った物語りもありますが、今日的には髪の毛からDNAを取り出して遺伝子操作を行ったということ想像させます。

しかし、そのDNAの本来的意義、生命の記憶を一手に引き継いでいる「記憶分子」であることについての私達の認識は未熟です。その記憶内容に本人の心がアクセスできればDNAが携えている人類開闢以来の歴史を直接、自分自身から学ぶことができることや生命の神秘を開明することが出来ることにもっと関心を高める必要があります。一方で、死に至る病である癌については、これら遺伝情報が何らかの作用を受けて損傷し、本来の生命活動が混乱し暴走した結果だとされています。自らの人体に日夜起っている生命活動を正常な状態に保つよう、この重要な記憶分子に最も影響を与えらると思われる心の動きにもっと注意を払う必要がある訳です。

165 In the study of life, on other planets, half of the DNA would be considered the feminine part, and the other half the masculine. And there is constant relationship going on between the two parts which produces the messenger called RNA. And this carries the information of heredity or specific instructions, depending upon the type of a form. And as you can now see, there is a trinity involved. Two phases of DNA and one of RNA. You can also see that the two parts of DNA manufacture the RNA with a specific message.

165 他の惑星における生命の学習では、DNAの半分は女性部分、残りの半分は男性部分と考えられていることでしょう。そして、それら二つの間にはRNAと呼ばれるメッセンジャーを造り出す不断の関係があります。また、これ（メッセンジャー）は生命体のタイプによって異なる遺伝の情報や個別の指令を運びます。そうすると、既にお分かりのように、三位一体がそこに関連されています。DNAの二つの側面と一つのRNAです。そしてあなたは、二つのDNAの部分が特定のメッセージを携えたRNAを造り出していることも見るすることができます。

【解説】

様々な事象を陰と陽、女性と男性として解釈するのは、東洋の考え方だと思っていましたが、その本来の意義は他の惑星でも認識されているようです。電気や磁気を含め様々な自然の隠された真実の中には、このような宇宙普遍の本質が現れているということでしょう。

振り返って身の回りを見渡して見れば、家庭の中の父母や夫婦の間関係等、私達の日常生活にこれら2要素が適切な関係であるかどうかという問題があります。長年、暮らしていてもなかなか、相手の気持を理解するまでには行っていないのが地上の生活の実情です。この惑星で暮らして行く中で、互いに成長しなければ意味の無いことですし、相手を自分の半身と思って対応して行く他はありません。

また、このDNAが発するメッセージには細胞の増殖を指令するものもある訳で、DNAの遺伝情報に誤った内容が入り込むと癌細胞を生み出すような結果になり、その生命体全体が生存できなくなる状況にまで行き着きます。そういう意味からも、私達の日常、体内の言わば新陳代謝の一環として細胞の増殖活動が日々行われている訳で、これらDNAの活動を妨げるような精神活動は厳に慎まなければなりません。

166 Protons in a form are very important for the creation of a messenger. The germ called E in science, or COLI flourishes in the intestinal tract of any form, and is referred to as ribson. As every form must feed on something, the food must be converted into protons and other needs. The whole procedure is chemical, and apparently according to science, the ribson acts as a universal translator.

166 メッセージャーを造り出すのにその生物体の中の蛋白質（訳者注：原文では"Protons(陽子)"となっているが、"Proteins(蛋白質)"の誤りと解釈）が大変重要になります。科学でE或いはCOLIと呼ばれる細菌（訳者注："Escherichia coli"、略称"E.coli"と呼ばれている"大腸菌"のこと）はどのような生物体でも腸管に繁殖し、リボゾーム（訳者注：原文では"ribson"となっているが、"ribosome"の誤りと解釈）に関連し言及されています。あらゆる生物体は何らかのものを食する必要があり、食物は蛋白質やその他の必要物に転換されなければなりません。すべての手順は化学的であり、科学によればそのリボゾームは普遍的な翻訳者として活動しているとされています。

【解説】

ここでは生物体における食物の行方について具体的に語られています。内容的にはアダムスキーがどのようなポイントを示唆したのか、不明な点も多いのですが、筆者のわかる範囲で解説を試みたいと思います。

一つは大腸菌についてです。動物の腸の中にあって食物残さを分解する大腸菌は大腸の常在菌です。増殖速度が大きく、最大20分に1度の細胞分裂を起こせるとされています。この大腸菌は腸の中で単に食物残さを分解しているだけではなく、酵素の産生等、生体にとって有益な作用をもたらしていることを本文では示唆しています。

また、リボゾームはメッセージャーであるRNAから遺伝情報を読み取って蛋白質を生成するところですが、これについても大腸菌が関連していると言っているのです。つまり腸の中の細菌が様々な化学作用を通じてその生体本体に対して有用な役割を果たしているということです。

167 Cells in a form are grouped for specific purposes. i.e. The cells used to make a heart could not be used to make a brain, etc. But each group is in harmony with the others to produce a manifestation of a perfect form for a specific purpose.

167 体内の細胞達は特定の目的毎にグループ化されています。即ち、心臓を造り上げる細胞達は脳やその他を造るのに用いられることはありません。しかし、各々のグループは特定の目的の為、完全なる肉体を現出させる為に、他と調和しています。

【解説】

元来は一つの細胞であった受精卵も人体創造の過程で細胞分裂が進み、遂には身体の各器官が形作られます。本文ではそこで各器官を構成している細胞群は各々の器官を造り出す上で特定の動きや活動を行っていると言っています。つまり心臓には心臓に特化した細胞が必要ですし、腸にはその部分に適した細胞が出現するという事です。

しかし、これは元は一つの卵細胞が分化する過程で、適時適切な段階でそのような細胞が出現するよう何物かが、指示していたこととなります。その指導にはDNAが継承している記憶が活用されているという訳です。現代の化学では、このDNA、構造自体は細菌から人間まで共通であり、皆4種の塩基から構成されていること、またヒトにはこのDNAが46本あり、各々は約30億の塩基対から構成されているとされています。この塩基対の中に創造主の意図がコード化され、また各自の体験も追記されているということなのです。

60兆個の一つ一つの細胞がその知恵を活用しているのに対して、その統括的な位置にある私達の心は全くそのような感受能力が無いことの方が不思議というべきでしょう

168 I use this portion of scientific discovery in relation to memory and heredity to show that this type of intelligence operates independent of the mind. But the mind must learn about it in order to cooperate. And in this way the mind will know what has transpired in the past and what is taking place in the present.

168 私は記憶と承継に関係するこの部分の科学的発見をこの種の知性が心とは独立して作用していることを示す為に用いました。しかし、心は協力する為にはそのことを学ばなければなりません。そしてこのようにして、心は過去に何が起ったのか、現在何が起っているのかを知ることでしょう。

【解説】

これら細胞の受け継がれる記憶は心からは独立して細胞から細胞へ継承されて行くとしています。一刻一刻、本人がどのような想念を放ったか、どのような思考パターンと同調したかが、何らかの形でこれら記憶分子の中に記録されていることでしょう。そればかりでなく、人類創造の太古において祖先が体験したことも減衰しているにせよ、私達の体内には染み付いているということです。以前、アダムスキーは講演の中で戦争の傷跡は以後7代まで継承されると言っていました。その言葉の中には、戦争による人々への影響は次世代にもわたるものだという一般的な意味の他に、これら細胞による記憶の伝達についての意味も含まれていたに違いありません。

また、ヨハンシュトラウスのように優れた音楽家が輩出される家には歴代音楽家が続いていたという例も少なくありません。これらの記憶をすべて遺伝学で整理することは出来ないにせよ、親の記憶が子孫に伝播するということはある程度可能です。そういう意味でも現代の私達は自分の人生の他に、子孫の世代に対しても大きな責任を持っていることとなります。

169 Now let me describe what I have seen on instruments and diagrams that the space people study on this subject. Their method is simplified and easier to understand than the way our scientists are presenting their findings. As an illustration let us use two parallel lines, one white, the other black. One is masculine and the other feminine and at certain intervals they cross each other in the form of a figure 8. And they are constantly active. Within the figure 8 they produce from seven to nine different combinations depending upon the purpose. After reaching nine such loops the messenger is born with a specific message. And it carries the blue print of what the next step is going to be but it does not separate itself from the past. This is where the memory is carried on. And memory is the only part of man or any form that becomes eternal. For as we know, man is not a man without a memory. And you can see that by this process the memory of the past is steadily connected with the experiences of the present. And all of this takes place independent of the world of man.

169 ここで宇宙人がこのテーマについて学ぶ際の装置や図表について私が見たものを説明したいと思います。彼等の方法は私達の科学者達はその発見を発表するやり方より、単純化され平易です。実例として2本の平行線を用います。一方は白、他方は黒とします。一つは男性、もう一つは女性であり、ある時間間隔でそれらは8の字の形に交わります。またそれらは絶えず活動的です。その8の字の形でいる間に、それらは目的に応じて7~9の異なる結合を作り出します。そのような9種の輪が出来た後、ある特定の伝言を携えたメッセンジャーが誕生します。そしてそれは次の段階は何が為されるかの青写真を携えています。それは過去から分離したものとはなっていません。ここが記憶が受け継がれる場所であるからです。そして記憶こそが人間であれ、いかなる形有るものが永続する唯一の部分です。何故なら私達は人間は記憶無くして人間ではないことを知っています。これで皆さんは、この過程により過去に対する記憶は現在の体験と常に繋がっていることが分かるでしょう。そしてこの全ては人間の世界とは独立して起っているのです。

【解説】

ここではより具体的にDNAからRNAが産生される仕組みが説明されています。現代化学とどの程度一致する内容なのかは筆者には分かりませんが、重要なのは本文後半に書かれている記憶の伝達の部分です。DNAから産生される様々なRNAには新しい器官形成の為の当座の伝達内容と同時に過去の経験や記憶も記録され、伝達されるとされています。つまり「細胞から細胞へ記憶が伝達される」と言っても、そこには何らの神秘はなく、これら遺伝情報を担う記憶分子が私達の心とは離れた所で、ひたすらその任に当たっているということです。

お知らせ [2007-11-07]

昨日、母が亡くなった関係で、諸事があり、一週間程、お休みをさせていただきます。

170 This is the reason that the Will of man must will itself to the Will of this process if it is to know what it has been and its reason for being. We bring this to you in relation to our present science which is only on the brink of this knowledge. And as stated before, the space people have known and used it for thousands of years. And if man is ever to know his true self, this knowledge is very essential. For within it lies the absolute certainty of life.

170 これが人間が過去どうであったか、またその存在の理由を知りたいとするならば、人間の意志は自らをこの過程の意志に従わせようとしなければなりません。私達はこのことをこの知識のふちにいるだけの私達の現在の科学に関連してあなた方に授けているのです。そして以前述べたように、宇宙人達はこれを何千年も以前から知っており、活用しています。そしてもし、人間が自分の真の自己を知るのであれば、この知識はとても必須なものです。何故ならその中に生命の絶対的な確実さがあるからです。

【解説】

私達が自らの体内で時々刻々行われている記憶の継承から学ぶためには、先ずそのことを認識し、そこから学ぼうとする意志がなければなりません。60兆もの細胞が各々共通の記憶や知識を備え、人体の維持を担っている訳です。

通常、私達は自分の過去や現在に至る経過について表面的なつまらないものにはしか関心を持ちません。髪の毛のスタイルだとか、たまたま出来た顔のシミ等、表層的な視覚が気にするうわべだけが気になるだけで、体内にどのような変化が起りつつあるか等に気が付かずにいるのです。しかし、油断は禁物です。現在の世の中には様々な危険因子が取り巻いています。食物や空気、あるいは水に人体の正常な活動を阻害するような有害物質が含まれているかも知れません。中でも最も影響を与える私達の心の動き、受け入れ発する想念には自他共に害する要素を含めぬよう警戒する必要があります。そういう意味では真っ先に心が注目しなければならないのは、このような細胞達の無数の働き手が自分の体内にいて、これまでの一切の記憶を運んでいること、その中に人生の歩みも事細かく記憶されているということです。頼れる百科事典は各自の細胞の中にあるということです。

171 We all must admit that as mentalists we know little about what is going on in our bodies. But we do know that a certain kind of knowledge is operating through the body that knows what to do when the mind does not. So the mind has been accepting this on blind faith as an established fact. Yet it is the duty and privilege of the mind to learn all that takes place within the form if it is ever to have a peaceful existence. And thus fulfill the purpose for which it was created and eliminate the conditions brought on by confusion and fear caused by uncertainties. Then the mind would not repeat mistakes as it does today.

171 私達は皆、心至上主義者の私達は自分の身体で何が起っているのかほとんど知らないでいることを認めなければなりません。しかし、私達は心が知らなくても身体を通して何を為すべきかを知っているある種の知識が作用していることは分っているのです。ですから、心はこのことを確立された事実として盲目的信仰の上に受け入れて来たのです。しかし、心が平安な存在であり続けたいのであれば、形有るものの中で起っているすべてを心が学ぶことが心の義務でもあり、また特権でもあるのです。そしてこのようにすることが、その形有るものが創造された目的を成就させ、不安状態による混乱や恐怖によってもたらされた状態を取り除くことになるのです。そうなれば、心は今日のように誤りを繰り返すことはなくなるでしょう。

【解説】

自らの身体は、その主人であるべき自我（心）が、全く勝手にわからぬまま、忠実な部下である細胞達にその維持を任せ切りにして、自分は勝手に振る舞いをしていてよい筈がありません。先ずは分からないながらも部下の仕事振りをよく見て、学び取る姿勢が求められます。ましてそれらの奉仕活動を邪魔するようなことはあってはならないことです。

しかし、多くの場合、心はこの大切な人体の活動とは離れた世間のこと、社会の問題、人間関係等、人体以外の諸事に振り回されて、肝心のこれら肉体の日々の活動への関心は薄らいでいます。本来は最も身近な所に英知の宝庫を抱えているというのに、答えを外界に見つけだそうと心は不安定になっているということでしょう。

先ずは心を落ち着かせて、その感覚を深く静かに自分の身体の隅々にまで浸透させ、意識を心の中から解放させ、広げることです。その中で人体各部からのメッセージを受け取れるようになれば、少なくとも身体のある部分の痛みや病変等の自然治癒には大いに役立つものと思います。

172 You can see that the mind is seldom aware of the conscious intelligent operation within the form. For when we sleep the consciousness operates the form while the mind knows nothing. Thus proving that there is a form of intelligence which never rests. And the mind must unite with this intelligence in order to be the knower. Once this is done man will eliminate all the unpleasant ways of life he now endures. And he will know what goes on in every form known, and its purpose. And divisions will no longer cause mysteries.

172 あなたには心は身体の中の意識的知性活動についてまれにしか気付かないことが分かるでしょう。何故なら、私達が寝ている時も意識は心が何も知らない間にその身体を運営しているからです。このことは決して休むことのないある知性体が存在していることを示しています。そして心を知る者となる為にはこの知性と結びつかなければなりません。ひとたび、これが為されると、人は現在耐えているあらゆる不愉快な人生を取り去ることでしょう。そして全ての形有るものの中で起っていることやその目的を知るでしょう。そうなればもはや分裂が神秘をもたらすようなことはなくなります。

【解説】

心は大変、情けない代物です。内部で起っている奇跡とでも言えるような絶妙な身体維持活動の大切さに気付くことなく、外界に対する我が身（心）の保全や絶えず新たな物への所有・獲得だけに目を向けて日常を送っています。しかし、環境は絶えず変化しておりますし、宇宙本来の流れに沿ったものでない心の活動は所詮、多くは実現する筈もありません。その結果、不安感が広がってしまうのです。

しかし、自分自身の中にこのような知性が存在することに気付けば、随分と自信が付く筈です。他に求めなくても、既にその知性を所有しているからです。唯一の問題は、その知性の取扱いを知らないことだけであり、時間をかければいつかはその語る言葉を理解することができることとなります。死ぬまで、一緒にいてくれるその存在に私達はもっと感謝し、誠意を尽くす必要があることとなります。

173 The method that the space people use in working with this great intelligence is, to observe all forms with their consciousness instead of the mind. In plain they become conscious of the form as though they were the form, which they really are for nothing is separated from the whole. And in this way man as a mind blends with the whole.

173 この偉大な知性とともに関く上で宇宙人達が用いている方法は、心に代わって意識で全ての形有るものを観察するという事です。平易に言えば、彼等はあたかも彼等がそのものになったかのようにその形あるものを意識するようにするという事であり、実際、彼等はそのもの自身になります。何故なら何物も全体から分離することがないからです。またこのようにして心としての人間は全体と混和するのです。

【解説】

ここでは宇宙人達が行って来た具体的な方法について述べています。その方法は、特殊は修行を行うというものではなく、日常の観察の仕方にあるとしています。即ち、観察と言う場合、大人になってからの私達は冷静に相手（の行動）を見ることを指しますが、本文では別の観察方法を言っています。対象となる相手に自分の意識を没入させて、あたかも相手になったかのような”一体感”、”融合感”を持つまで、相手に入り込むということです。そうした一体感の中で相手の住む世界を知ることだと私は解釈しています。

小さい子供が人形と遊ぶように、容易に対象と一体になることが出来れば、相手の知性から教わるものも多い筈です。こうして、身近なものから宇宙全体へと”一体化”できる対象が広がれば、自然とより多くの知性から印象を感受できることになります。

174 There is no specific pattern that can be given by which man must work, as there are no two people alike. So no set formula is given in this course as in others. Just become awakened or aware of the conscious intelligence that is operating within your being. And eventually this will become habitual to the mind's way of thinking. And the mind and the intelligence will become a unit instead of two separate parts as they are today. This is the way the space people have developed and they now can commune with any form without words.

174 人がそれに基づいて取組まなければならないような特定の行動形式というものは授けられるものではありません。二人として同じ人間はいないからです。それ故、この講座においても他と同様、定められた形式は与えられません。只、貴方の中で作用している意識的知性について目覚め、気付くようになることです。そうすれば、遂にはこれが心が考える際の習慣になることでしょう。そして心と知性は今日そうであるような二つの分離した部分から一つの一体物になることでしょう。これが宇宙人達が発達させてきた方法であり、彼等は今やいかなる形有るものとも言葉によらず交流できるようになっているのです。

【解説】

人は一人ひとり異なる以上、画一的な処方箋は無いと言っています。要は各自の状況、経過に応じて自分に合った方法を探せということです。人の内面の発達具合は本人でしかわかりません。もちろん、有能な指導者の下につく場合は適切なアドバイスを受けることができるでしょうが、大多数の私達は自ら、意志を固めて独り進む必要があります。いわゆる仏典でいう「サイの角」です。

しかし、そのとっかかりとなる部分は難しいことではありません。自らの身体を動かしている知性の存在を先ず認めること、そしてそれから心が教えられることが多いことを自覚することが第一歩です。自分自身にそのような知性があることがわかった後は、それを他の対象に広げるということです。そうすれば様々なものが相互に語り合い、宇宙全体を成していることがわかることでしょう。

175 If we are to know what we feel that we should - who we are - and what we have been, then we must use the same method that they have used. There is one thing that we must remember, we cannot judge and divide and discriminate, or resent, according to likes and dislikes and have this knowledge. For once you get impressions coming from the memory buds there will be all kinds. And some you will have a tendency to dislike or even be frightened by them. For remember here on earth there are very low stages of life's manifestation that the ego might not like. But without these manifestations life would not be complete, for all phases are necessary. But once they are understood the judgement against them ceases. Like a drama on the stage where cruelty is resented, yet without it the phases of life would not be truly expressed.

175 もし私達が知るべきだと感じている私達が誰で、また何であったかを知る為には彼等が用いて来たのと同じ方法を用いなければなりません。ここで覚えておかなければならないことは、私達はこの知識を持った上で、好き嫌いによって裁いたり、分割したり、差別したり、腹をたててはならないということです。何故なら、ひとたび記憶の芽からやって来る印象類を捕捉するや、あらゆる種類のものがやって来ます。そしてあるものについては、あなたは嫌う傾向になるでしょうし、恐怖すら覚えることでしょう。何故なら、地球ではエゴが好まないようなとても低い段階の生命の現れがあるからです。しかし、これらの現れが無くては生命は完全にはなりません。全ての側面が必要なのです。しかし、一度それらが理解されれば、それらに対する裁きの気持は消えてしまいます。残忍さに憤りが湧く舞台の上の劇のように、それがなければ生命の側面が真に現されているとは言えないのです。

【解説】

知覚力や感受性が高まること自体は私達が目指している方向です。しかし、本人が十分、その能力に対する備えがなくては危険でさえあるということです。当然に感受性が鋭敏になれば、この地上の惨澹たる歴史から残っている多くの苦しみや憎しみの想念波動にも同調してしまうかも知れません。その時、それらの印象に対して哀れみや慰めの気持で接することが大切であり、誤っても怖がったり、拒んだりすべきではありません。能力が高まるにつれて、本人自身の人格の向上も必要になるということです。ですから、この講座を単に、能力を高める為だけに学ぼうとするのは誤りです。地球上で行われて来たたくさんの悲しい歴史を直視し、また自然界でも日常的に起っている一見残忍な事柄についても正視する気構えが必要です。最下層の段階から最上層の領域まで余す所なく含めて見届ける必要性を本文では述べているのです。

176 It seems cruel to us to see a big fish swallow another, but it is just as cruel to see a man eat a carrot. For it is a living thing made of molecules just as you or I, or the fish. And the memory carriers do have records of all phases of life, from what we might call the cruelest to the highest.

176 大きな魚が他の魚を飲み込むのを見ると残酷に思えますが、それは人間が人参をかじるのを見て残酷と思うのと同じです。何故ならそれはあなたや私、或いは魚と同じ分子群からなる生き物であるからです。そしてその記憶を運び手は私達が最も残酷と呼ぶものから最高位のものまでの生命のあらゆる側面の記録を持っているのです。

【解説】

確かに蛇が蛙を飲み込む姿を見ることは、私達の心にとっては心地よいものではないかも知れません。一方、人間社会の中では、これらの残酷に見える部分は巧妙に隠されています。例えば、きらびやかな照明の下、雰囲気のある生演奏が流れる中で著名な三ツ星レストランで高級な肉料理を戴く場面等、私達にとって上等とされる生活の中ではこれら自然界の残酷な光景は表に出て来ません。しかし少し考えれば、牧場で肉牛として飼育され、成長した牛が、食肉市場に送られ、屠畜され肉が取り出されてレストランに供給されるシステムがあるからこそ、私達は肉料理を味わうことができる訳です。また、関連して言えば、靴や鞆等、身の回りで愛用されている革製品もこれらの過程で原材料が提供されます。

このように私達が生命を維持し、生活して行く為に、他の多くの生物を犠牲にしている訳です。私達が生きて行く為に犠牲となったもの全てに対して、日頃から慰めと感謝の念を忘れる訳には行かないのです。また、目に美しい物、耳に優しい物、舌を喜ばせる物だけを追求することは、心（感覚）にとって理解できない都合の悪い事柄に目をそむける姿勢でしかなく、生命の実態を直視し、理解しようとする態度ではないことに注意が必要です。

177 This is where duality sometimes comes in. For you may love someone dearly and yet you do injury to them. This conflict is caused by memory cells of a lower nature, and those of a higher nature. If we knew something about our self we would combine these memories in relation to each other instead of the extremes with nothing between to support either of them. This lack of understanding is the cause of mysteries and misunderstandings. And when we hurt anyone we hurt ourself for we are all the same. We do this because our mind has not been trained to act as a good catalysis. This can only be done when the mind knows the reason for life.

177 ここが二重性が入り込む所以です。何故ならあなたは誰かを愛おしく愛しているかも知れませんが、それでもあなたはそれらを傷つけるかも知れません。この矛盾は低次な記憶細胞と高次な記憶細胞とによって引き起こされているのです。もし私達が私達自身についてなにがしかを知っていれば、私達はこれらの記憶を相互に補完することなく極端に走ることを止めて互いに関連づけてこれらの記憶を統合させることでしょう。この理解不足こそが神秘と誤解の原因なのです。また、私達が誰かを傷つける時は私達は自らをも傷つけることとなります。何故なら私達はすべて同じ存在だからです。私達の心が良い触媒として行動するよう訓練を受けていないが故に私達はこのようなことを起こしているのです。その心の行動は心が生きて行くことの原因を知るようになる時にはじめて実現することとなります。

【解説】

アダムスキーは、かつて私的な会合で「人は誰でも殺人者の体験を持っているものだ」という趣旨の発言をしています。その意味は本文で述べられているように、人体の細胞が記憶として運んでいるものの中には低次なものも多いということでしょう。また現実世界では紛争地帯では今も互いに殺しあいを行っていることや私達の日常の近くでも殺人事件や傷害事件が起っていることに注意する必要があります。当事者になった場合には本人の全身の細胞がその体験を等しく記憶する筈です。また、映画やその他の娯楽についても、私達は疑似体験をさせられているというのが実体であり、社会の風潮を改善する為には、より高度な文化、芸術の普及を図る必要があります。

一方、人は生きて行く上で、他の生き物を奪って、これをあやめ自らの身体の維持に利用しています。それは生物としての大きな自然の食物連鎖の一つとして考えれば、創造主の意図に従った姿であると言うことができます。しかし、これらの循環の中では本来、最高位の創造物である人間としては自らの中にあるこれらの獣性を神性に調和させ、本来の役割を果たすことが求められています。

178 For if we desire to be as our creator we must face all phases of life without being disturbed. The Creator faces his creation without discrimination. For should he like one and dislike another he would be dividing himself, and thus do no better than man. But all phases of creation are loved by its creator for its purpose is known. It is a human trait to discriminate and through this many hurts are received because the ego mind separates itself from the whole.

178 もし私達が創造主のようになりたいと望むなら、私達は心を乱されることなく生命のあらゆる側面を直視しなければなりません。創造主は自らの創造物を差別なく直視しています。何故ならもし創造主があるものを好み、他のものを嫌うならば、創造主は自らを切り裂くことになり、人間よりましなことができなくなるからです。しかし創造のあらゆる側面はその目的が知られているが故にその創造主によって愛されています。区別するのは人間の特徴であり、エゴの心が自身を全体から分離してしまう為、この過程を通じて多くの痛みを受けることとなります。

【解説】

本文で述べられていることは、全てをありのままに受け入れ、好き嫌いを無くすということです。この一見、当たり前と思われることが実は難しいのです。私達の日常の心の動きを観ていると、多くは好き嫌いで判断していることがわかります。つまり、自分の気に入るもの、気に入らないものを分け、自分（エゴ）が好むものを重用し、それに傾くのが人間の常です。これに対しては、まず、心に好き嫌いの判断をさせる前に、もっと公平に愛情をもって諸物に接することです。万物をいとおしく見ることが、心の好き嫌いを封じる唯一の手立てです。

一方、本文ではこのような好き嫌いの原因となる「区別すること」が人間の本性だとも言っています。確かに人が幼児期から物事を覚える際、一つ一つの物の名前を覚えることから始まります。ここでの物の名前は他から区別する上で必要となる作業です。諸物の理解の為にはその特徴を知ることが重要で、そのためには分類作業が必要となります。昆虫や植物の世界で新しい種が発見されたと報じられるのも、こうした分類学が人間の世界においては確立されているからに他なりません。しかし、分類ばかり行っているのは、肝心の個体の観察がおろそかになってしまいます。

好き嫌いは、エゴの実像がよく現れる現象です。各自、これらの反応を観察した際に、その反応をありのままに直視し、それが何故、どのような理由や根拠で発生したのかを知ることができれば、少なくとも同様な反応は以後、姿を消すことでしょう。エゴ自身がその誤りに気付いたからです。

179 The apple is made of matter and supported by conscious life the same as we are yet it does not scream when we bit into it. Why? Because it does not have the kind of mind that man has, endowed with a free will which is in constant opposition to Cosmic law.

179 りんごは私達と同じ物質から成り立っており、意識ある生命によって支えられていますが、私達が噛み付いても悲鳴を上げることはありません。何故でしょうか？それは人間が持つような、宇宙の法則に常に反対している自由意志を授けられているような心を持っていないからです。

【解説】

静かな植物の世界は人間とは違う雰囲気が存在しています。第一、植物は動物とは異なり動き回ることはなく、わずかに花粉や種を飛ばすだけです。一見、渡り鳥やその他の動物と異なり、好きな場所に移動できず、不自由な身の上かと思いがちです。しかし彼等は一箇所にじっとしていますが、落ち着いて大地や大気を通じて地球の動きを日夜感じているような気がします。太陽の眩しい光や夜の暗闇を感じ、また夏の暑さに耐え、冬の冷え込みに身構え、四季の移り変わりを全身で味わっているのです。

その植物達に多くの動物達が生存の糧を依存しています。また、植物達は、これらの動物達を養う為、進んで秋には実を着けます。この時期（初冬）には青空の下、細い枝先までもたわわに実を付けた柿の実を見かけますが、それらは餌となる昆虫が居なくなる冬の季節に、鳥達に甘い御馳走を提供しています。

本文では、りんごの例について、りんごが食べられることを嫌がらないと述べられていますが、その通り、りんごには自身を守ろうとする自我の心は無いことが、これら植物の奉仕の活動の原点となっています。

180 Can a man become immune to pain? Yes, we hear of those who can walk on hot coals without pain. But they have learned how to discipline their mind, and the mind had to be willing in order to be disciplined. This shows that whatever unpleasant conditions the mind faces, it is of its own creation through misapplication of the law. So it behooves the mind to become a willing student of cosmic principle if it is going to enjoy the blessings that life offers. This is where the memories from the past can serve man in recalling values he has gained through experiences he has had.

180 人間は痛みに関心なくなることが出来るのでしょうか？ もちろんです。私達は痛みを感じることなく、焼けた炭の上を歩ける人々について聞いています。しかし、彼等は彼等の心を如何に訓練するかを学んで来ており、心は訓練されることを喜んで応じなければなりません。このことは、例えどのような不愉快な状況に心が直面しようとも、それは法則の誤用によりそれ自身が造り上げたことを意味しています。ですからもし心が生命が提供する祝福を享受しようとするなら、心は宇宙の諸法則について喜んで学ぶ学生にならなければなりません。ここがこれまで体験を通じて得た貴重なものを人間に思い出させる過去の記憶が役立つところなのです。

【解説】

苦痛は何であれ辛いものです。しかし心の持ちようでその痛みは軽減できます。以前にも何処かでお話したとは思いますが、私の体験上、緩和できる方法があります。先ず、「痛い、痛い」と騒ぐ心を落ち着かせ、身体の何処の部分が痛がっているのかを静かに自分で自分自身の身体の隅々まで意識を動かし巡らして探ります。次に、その周囲に意識を浸透させて、「安心して落ち着くよう」その部分に印象を送ります。しばらくは目を閉じてその部分が訴えていることに耳を傾け、聴いているとたいいていの場合、痛みはスーッと消えてしまうというのが私の場合の対処法です。

言い換えれば痛みとはその発信源で肉体細胞が異常を訴えている訳で、その事実を先ず受け入れ、その後はそれを鎮め、細胞の調和を進めることによって痛みが無くなるということだと思っています。

一方、このような苦痛が生じるのはそれまでの生き方に原因がある訳で、こうした苦痛を取り去るには不調和を起こさない生活習慣が不可欠です。宇宙の法則に従うことが最も抵抗が無く、スムーズな人生を送れる秘けつであり、本来、人間が生きる道なのです。私達の人生の中には成功も失敗もあります。それらの体験は楽しいものもある反面、苦痛を味わったものもある筈で、成功は法則の正しい活用事例、失敗は過った誤用事例として自らの体験から多くを学ぶ必要があるということです。

Consciousness, The Intelligence And Power Of All Life

181 We are actually living in an invisible sea of life. And as I have said before, we should school ourselves to become aware of the visible and invisible at the same time. For today we are only mentally aware of the visible forms with which we have contact. Yet all forms rise from the lowest upwards, looking so to speak into invisible space. And why should this be so? Does not all creation look to its creator as a child looks to the mother for guidance? And as space is the birthplace of all forms, they look to and live within the household of their birth.

意識、即ち全生命の知性と力

181 私達は実際には生命の目に見えない海の中で生きています。そして以前にも述べたように、私達は私達自身を目に見えるものと見えないものとを同時に気付くように訓練すべきなのです。何故なら今日、私達は私達が接する目に見える形あるものだけに気付いているからです。しかし、すべての形有るものは最下位から上部を目指して、言わば目に見えない宇宙に向けて昇っています。そして何故、このようなことが起るのでしょうか？全ての創造物は丁度、子供が母親に導きを求めるように、創造主を求めているのではないのでしょうか。そして宇宙は全ての形有るものの生誕の地であり、それらの生まれた家庭を求めその中で生きていきたいのです。

【解説】

本課から、いよいよ宇宙空間との関係など、本格的な内容に入ります。

私達の暮らす世界は宇宙に繋がっており、生命の本源である宇宙を皆が志向しているとしています。創造主はこの広大な宇宙のすべてを支配し、その内側にある創造物のすべてを養っていることから、如何に大きな存在であるかが理解できると思います。その創造主の具体的作用として存在するのが本講座の主眼である「意識」なのです。本文では創造物は皆、創造主を頼って生まれ故郷の宇宙を目指して、各々の進化の道を歩んでいるとしています。私には、それらは丁度、サケや鮎が生まれ故郷を目指して急峻な川を遡る光景が目に見えます。魚達にとっては決して容易な旅ではありません。途中には堰や障害物等、様々な困難がありますが、一度諦めれば水流に流されて落ちて行くだけです。困難を乗り越えれば川の源泉にまで到達でき、生命の水の源を味わうことが出来るのです。しかし、このような困難で油断ならない旅も、魚達は、命を張ってはいても、皆楽しく、横道にそれることなく、堰を越えようと一生懸命、力の限りを尽くしています。一見して到底越えられないと懸念されるような堰も、何度となく飛ぶ内に越えられるものです。その努力の過程で幸運も作用する筈です。私達、人間もそれと同程度の意気込みを持って宇宙を目指し、目には見えない創造主の元を求めることができれば、各自の進歩は格段に加速することでしょう。

182 Living as we do, guiding ourselves by other effect no different than ourselves, we remain close to the form life of earth. Which is in itself only an expression from its lowest state of awareness.

182 私達は自分達と何ら変わらない他の結果物に頼って自らを導いて生活している以上、地上の生物体に近いまま留まっています。それらはそれ自身、悟りの最も低位な状態から来る表現でしかありません。

【解説】

とかく日常の生活は、その時々事情に左右され、諸事に追われる毎日に陥りやすいものです。このように地上の生活は習慣という大きな流れの中で漂い、気が付けば初心からは遠く下流に流されていることが多いものです。もちろん、それはそれで、地上の民として平凡に人生を終えるということであれば、仕方のないことです。事実、太古の昔からこの時期（初冬）の木々の枯れ葉が積もるように、地上にはこのような人生が積み重なって来ました。

しかし、それでは人間の苦悩は無くなりません。また、人間が住む世の中も決して良くなりません。どうしてもこの最下位のレベルから進化して、進歩した人類になる必要があります。

それには「結果」だけ、言い換えれば「自分の目だけに頼った判断」ではなく、その背景にある「因」から積極的に指導を受ける姿勢が必要だと本文では言っています。表面的な結果だけを重視せず、その背景にある「生命力」「宇宙意識」をまず認め、各自が日常生きる上での指導を目に見えない「存在」に求めることが重要です。

風の姿は目に見えませんが、歩道に積もったケヤキの落ち葉が風の意志に従って舞踏する時、落ち葉のダイナミックな動きから、私達は目に見えない風の自由、活発、活動的な姿を知ることができます。

183 Even some marine life strives to see the light above the water. And the liquid of water would not be if it were not for the essence of hydrogen and oxygen which are invisible. In this invisible state the prime of life cannot be seen with the sense of sight of the human mind. But it can be known to the mind through consciousness. For consciousness is the intelligence and power that is independent of the forms, yet it activates all forms when it acts through them. Consciousness knows no light or darkness as man classifies these frequencies. Nor does it know good or bad for these are classifications of the mind through misapplication of the law.

183 ある種の海洋生物でさえ水面上の光を見ようと努力します。また液体である水は目に見えない水素と酸素の基本化合物が無ければ存在しないでしょう。この目に見えない状態の中では生命の本源は人間の心の視覚では見ることは出来ません。しかし、意識を通じて心に知られることは可能です。何故なら意識は形有るものから独立している知性であり力であり、それを通じて働く全てのものを活性化するからです。意識は人がこれらの振動を分類するように光とか闇とかを区別することはありません。また、善悪も知ることはありません。これらは法則の誤用を通じた心の分類だからです。

【解説】

私達が立つこの世界も、惑星誕生時点の元はと言えば目に見えないガス状物質からなることは以前にも述べられて来ました。ここでは、海洋の生物についての例示をしています。多くの魚が光を求めて集まることは、夜のイカ釣り漁等で良く知られています。暗闇の中であって光を求めるのは、より高次元な存在への憧れなのかも知れません。また、魚の種によっては自身の住む世界を飛び出して、大気まで飛び出す勇気を持つものもいます。自らの暮らす世界を包む更に高次の世界を見たいとする冒険心と強い意志がその原動力です。

しかし、これらの魚達に比べて、私達が宇宙の意識を求める態度は実に貧弱であり、いいかげんなものと言えます。第一、”命を掛けて”ということはなく、一回試みて成果が出なかった場合、すぐに諦め、元の生活に戻る事例が大半ではないでしょうか。この魚達の一見、無謀と思える習性は、自らの身を守ろうとする自我の意見を捨て去って、ひたすらより高次元な世界を希求する姿勢を示しています。

184 No form or mind can live independent of consciousness. For outside of it, if there were any, would be absolute nothingness. So it is up to man to strive to have his mind listen to the teacher, the parent of all creation.

184 如何なる形有るものも、また心も意識と独立して生きることは出来ません。何故なら、その外側というものがもしあったとしても、そこは、絶対的な無であろうだからです。ですから、自らの心をすべての創造物の教師、両親に耳を傾けさせようと努力することが人間の義務なのです。

【解説】

いつも問題の行き着く先は「意識」になってしまいます。しかし、本課の表題にあるように意識は全ての生命の知性であり力であるということになれば、宇宙にあまねく存在し、全体を包み込んでいる存在ということになります。その意識から細胞一つ一つに指示が出され、人を除き、生物はことごとくその教えに従って労苦を感じることなく生活を謳歌しているということです。

問題は、自由な意志を授けられた、元来最高位にある人間が、その生命の根源とでも言える意識を無視し、また自我（エゴ）こそが人体の主人公として来たことにあります。しかし、本文では私達自身を含めて全ては意識に含まれていると言っており、私達は意識を求めて何処かに向かう必要はないことがわかります。まさに、空気のような存在で、何時でも好きな時に、交流することができるのです。山川草木、あるいは大気や星々、あらゆる所に意識を見ること、風の音、小鳥のさえずりの中にも意識の囁きを聞き取ろうとする探究心、感受性を心に植え付けることが、その第一歩です。

185 Let us now place the mind in relationship to consciousness as an observer of conscious action. And for this the shore of the ocean can be used as an example. For as we gaze out over the vast stretches of water we know that there is untold life within its body. So let us become consciously aware of the activity that is taking place within its depths that the sense mind does not see. We should now become consciously aware through impressions of the many active forms and see those as small as a grain of sand searching the bottom of the ocean for food. And millions of kinds of form life from the bottom to the surface doing the same thing. Some never rise from the bottom to see the light near the surface, while others do.

185 それでは意識に関連して心を意識的活動の観察者の立場に置いてみましょう。そしてこの為には、例として大洋の岸辺を用いることが出来ます。何故なら、私達が水の広大な広がりの方を見つめる時、私達はその中に人知れぬ生命があることを知っているからです。ですから感覚の心が見ることのない海中深く起っている活動について意識的に気付くようになりましょう。私達は今や、多くの活動する形有るものの印象を通じて意識的に気付くよう、また大洋の底を食べ物を探している砂粒ほどの生き物を見るようにならなければなりません。しかも海底から水面まで何百万もの種類の生命が同様なことを行っています。あるものは決して水面近くの光を見る為に海底から浮かび上がることはありませんが、そうするものもいます。

【解説】

目に見えないものに気付くことが大切だと言っても、やたらに神秘を造り出すことではありません。本文では海岸の波打ち際に座って、寄せ来る波の奥、遠く水平線の彼方まで続く海の中に生存している様々な生き物の活動を文字通り、意識せよと言っています。つまり、自らの知識として知っていることと実際の心の感覚を対比させ、如何に普通の心の感度が鈍いかを知ることが第一歩となります。

このように、少し考えれば、私達の身の回りには意識の活動、生命の活力を感じ取る上で、教材は無尽蔵に存在します。また、自然と対話した先人達も数多くいるようです。芹沢光治良は晩年、著書「神の微笑（ほほえみ）」で、また坂村真民もその著書の中で同様のことを伝えています。人間はその感性を高めるにつれ、このような自然界における生き生きした生命の諸活動から豊富な印象を受けることができるということです。

186 The whale, although there are others, masters the pressures and elements of the sea, for it is able to go to great depths yet it can swim on the surface of the water and partake of the invisible gases from space that enshroud the earth. And there are some like the flying fish that leave the liquids for an experience in the sea of gases. Thus they have experience in two different kingdoms. The liquid of the water and the gases of which the liquid it made.

186 クジラは、他の者もいますが、海の様々な圧力や要素をマスターしています。何故なら海中深くまで潜ることが出来ますし、水面付近で泳ぎ地球を覆っている宇宙から目に見えないガス類を取り込むことが出来るからです。そしてトビウオのようにガスの海での体験を求めて液体を離れる者もいます。そのようにして彼等は二つの異なる王国での体験を持つのです。液体としての水とその液体を造ったガスの二つです。

【解説】

ある面、人間よりはるかに高い能力を備えた動物も多いものです。例えば、本文にあるクジラはヒトと同じ哺乳類ではありますが、海中深く潜行出来たり、遠くの仲間と会話ができること等が知られていません。

ここでのポイントは、実は私達の日常生活を取り囲むように他の王国（次元）が広がっており、その世界を自らの体験として知っていること、知覚していることが大切だということです。前の段落では海の中に起っている様々な生命活動は人間の表面的な視覚からは感知できていないということを述べました。本文ではクジラやトビウオを例に日常の生活圏から一歩外に出て、新しい世界を知ることが大事だと言っているのです。日常生活の世界に100%依存している心をもっと冒険させて、周囲に広がる更に高次元な世界にもっと関心を持つ必要があるということです。

187 Man should become aware of living two different experiences at the same time, for he is living on top of the earth of three dimensions, yet depending and living in the fourth dimension. For from the crust of the earth towards the sky is the invisible fourth dimension which we call space. Outside of it we could not live any more than the fish that cannot live out of the water. No form could live without the support of the fourth dimension for it is the air which we call atmosphere in which earth forms live and breath. And if it were withdrawn no form could live, not even the earth.

187 人は同時に二つの異なる体験を生きていることに気付くべきです。何故なら人は3次元である地上の頂上に生き、かつ4次元に依存しその中で生きているからです。地上の塊から大空に向かって私達が宇宙と呼ぶ目に見えない4次元が広がっています。魚が水無しでは生きて行けないのと同様、私達はその外側では生きて行けません。如何なる形有るものも4次元の支援が無ければ生きられません。何故なら地上の形有るものが生き、呼吸する私達が大气と呼ぶ空気が無ければ如何なるものも生きては行けないからです。そしてもし、大気が取り去られたら、如何なるもの、地球でさえも生きることができません。

【解説】

前述のクジラやトビウオの例に関連して、私達自身も2つの世界を日常的に体験することが必要だと言っています。一つは日常の私達の生活する世界、地上の生活です。他の一つは私達が毎秒呼吸する大気の延長上に続く広大な宇宙空間、ここは4次元の世界だと言っています。もちろん、空間自体は縦・横・高さで見れば地上と同じ3次元ですが、「4次元」と表現することは、そこにはそれ以外の要素、例えば空間を超越したような大きな働きがあることを意味します。空間に限定されず働くことができる宇宙の意識の世界がそこにあるということでしょう。

最新の宇宙論の提唱者であるリサ・ランドールはかつてNHKのテレビ番組の中で宇宙が多重化した平面から成っており、それらの平面の間には唯一、想念（印象）だけが瞬時に行き来できるとしてました。私達は宇宙意識の海に包まれている訳で、日常の3次元世界で暮らす一方、宇宙に広がるより自由な世界から来る印象から多くを学ぶことが必要だと言っているのです。

188 Man's troubles begin in the fourth dimension. For he as a sense mind operates in the three dimensions, an effect of the cause. So he gives much time to the world of effects and understands it fairly well. But he has trouble associating the invisible world around him with the world in which he lives. And when he uses his mind instead of his consciousness to try and understand the fourth dimension, he becomes confused. And the great difference which exists in the invisible fourth dimension which is cause, makes it still harder for him to understand, as he has been taught in the three dimensions for centuries. Even the ancients did not understand the fourth dimension, for had they done so they would not have divided heaven and earth. Or cause and effect.

188 人間の諸問題は4次元で起ります。何故なら、感覚の心としての人は原因の一結果である三次元で働いているからです。その為、人は結果の世界に多くの時間を費やしており、その世界をかなり良く理解しています。しかし、人は自分が住む世界と自分の回りの目に見えない世界に関しては悩みを持っているのです。そして人が4次元を理解しようとする時、自らの意識を使う代わりに心を使う為、混乱するようになるのです。そして因である目に見えない4次元に存在する大きな違いは更に理解を難しくしています。何世紀もの間、人は3次元世界の中で教えられて来たからです。古代人達も4次元を理解していませんでした。もし理解していたら、彼等は天と地、あるいは原因と結果に分割しなかったであろうからです。

【解説】

本文の主旨から若干外れるかも知れませんが、ここで言う「問題は4次元世界から始まる」ことに関連し、コメントしておきたいと思います。

結論的に言えば、私達の生活する日常世界である縦・横・高さの3次元世界では、およそ悩みというものは存在していないということ、悩んでいるのは心だけであることに気付きたいのです。

自然界の何処を見ても、例えば冬になって葉が落ち、虫達はその短い命を終えても、何一つ悲しみに暮れ、佇んでいるような者は居りません。皆、各々の定めを受け入れています。大木から切り離された葉は、枯れ葉になって土壌を豊かにし、生き残った虫達の冬の寝床を提供し、やがて巡り来る春に備える植物の芽を冬の寒さから守っています。

自然界は個々の生存の為の努力は精一杯するのですが、それを越えた事態に至っては潔く命を捧げます。そこには苦悩も悩みも無く、ありのままを受け入れている姿があります。その理由は、人間のような自我がなく、全てを創造主の導きに委ね、精一杯生き、生きている間は一刻一刻を楽しんでいるからに他なりません。

一方、人間は他の者、時には創造主さえも騙して貪欲さを最大限表現する者となっています。当然ながら思い通りにならないことに怒りや落胆の念を発信します。これらは全て、自然界から発しているものではありません。それが何処にあるかは特定できなくても、私達自身の心から発していることだけは確かです。悩みや悲しみはすべて私達の心の反応であり、大自然とは一切、関わりのない所で発生している極めて個人的なものということです。

189 Since the beginning of time man has schooled himself to want concrete facts which are three dimensional like himself. He left the fourth dimension to mysteries and theories. And only here and there an individual could see the relationship of all dimensions. And when he would express his analysis he usually had very few followers.

189 時のはじまり以来、人は自分と同じ三次元の具体的な事実を求めるよう自分自身をしつけて来ました。人は四次元を神秘や理論に置き去りにしてきました。また、そこここでわずかながら、すべての次元世界の関連性を見る事が出来た者がいました。それでも、その者が自らの分析結果を表現する時、彼にはいつもほんのわずかの追従者しかいませんでした。

【解説】

通常、何事によらず世間で求められるのは確実性です。まして不安定な世の中であり、今後、地球自体がどのような状況になるのか余談を許さない今日ではなおのことです。多くの人々はより確実なもの、更には利益を得るものを求めています。余談ですが、今日の日本の低金利時代の中で老後の不安に対して、安心確実な資金の運用が求められているのは御承知の通りです。

しかし、古来より言われ続けて来ている通り、この世の中、三次元世界に確実なものは何一つ無いことに私達は気付く必要があるようです。一見して硬い大地は大きなビルを支える程の安定性がありますが、それでも地層の断面を見てもわかるように、地下の大地は太古から変動を繰り返しています。言い換えれば、私達自身も含めて、結果の世界にあるものは変遷し、否応なく日々移り変わっているということでしょう。

従って、私達自身の生き方の土台をこのような結果の世界に置くということ、結果の世界に基盤を置くことは一見、安心のようで、実は不安定ということになるのです。三次元だけでなく、心の精神状態や心が感受する印象類等、四次元世界における心の状況を常に向上させることが、変わる事のない原因の世界、宇宙意識に拠り所を構えることであり、安心安寧な人生を送る土台になるということでしょう。

190 Jesus for one tried to explain the fourth dimension, but even today his teachings are not understood. As a result the fourth dimension has been placed in the abstract side of life with the hope that it will be understood in the hereafter. But how could one ever understand if he did not have some comprehension of it here? One must learn the next step to be taken before he can understand the reason for it.

190 一例として言えば、イエスはこの四次元を説明しようと努力しましたが、今日になってもその教えは理解されていません。その結果、四次元は今後理解されるだろうとする希望と共に生命の抽象的な側に置かれて来てしまいました。しかし、人がそれを今ここで何らかの会得をしない限り、これから先どのようにして理解できるというのでしょうか。人は進むべき次の一步を学んだ後にその理由を理解することが出来ることを学ばなければなりません。

【解説】

アダムスキーは本講座も含め、様々な所で原因と結果を同時に見るようにとっています。ここでは原因、即ち四次元世界を私達は日常、切り離していることの問題点を指摘しています。哲学や宗教の学習においてよく見かけるのは、その高次な学習を行っている時は気分は高揚するのですが、一方、現実の生活に戻ればそれは一時の心のリラックスでしかなくなっていることです。それでもそういう時間を持つこと自体、貴重と言うことは出来ます。しかし、その結果、教わった内容は各自の隅に追いやられ、個人の勝手な概念の中に閉じ込められています。

しかし、このような実生活に伴わない学習は長年月を費やしても本道の道にはなかなか到達できません。何より、現実生活の場面において、本人が本稿で言う四次元、即ち宇宙普遍の意識世界を自覚し認識することが大切だと言っているのです。それを実行するには、ある意味、理解できるまでその場に立ち止まる程の決意も必要でしょう。一方では、その四次元世界は私達自身を常に取り囲んでいる訳で、四次元を理解出来ないということは自分が毎秒呼吸している空気を認識できないような情けないことなのかと思います。

かつて多くの教師達が地球に降り立ちましたが、イエスもその一人。当時の民衆にこの真理を伝えてくれたお方と聞いています。この講座も単に頭で読むばかりでは効果はありません。自分自身の心を訓練、教育してひとつひとつ気が付いた小さなことを実生活に応用することによって思わぬ効果を上げるものと期待されます。植物や動物達が日々の生活を謳歌するごとく、その応用にこそ力を注ぐべきなのです。

191 The wealth of time could not be as great as an understanding that man must have before his future is secure. For without it he cannot hope to have the knowledge that our space brothers have.

191 時間の豊かさは人が自分の未来を確実にする前に会得していなければならない理解以上に偉大ではありません。何故ならその理解なしには私達の宇宙兄弟達が得ている知識を持つことは望めないからです。

【解説】

未来の可能性は各自十分あることは確かですが、ただそのまま、結果の世界に生き続けている限り、習慣に流されストレスに曝されて老化することはあっても、この種の理解力が飛躍的に向上することは望むべくもありません。ある一時、チャンスが与えられた時に、その場で出来る限りの自己改善を行わなければ次にチャンスが訪れるのは何世紀も先になる可能性さえあると言えるでしょう。その時、その一歩を躊躇した為に、その後、何十年も無為に暮らす人もめずらしくはありません。

その点、傍らに手本となる人物が居れば最高です。イエスや仏陀の時代、各々の弟子達は身近に偉大な教師を得た訳で、何より各自の大転換となった筈です。これはアダムスキーについても同様です。

一方、このような偉大な師が地上を去った後、やがて弟子達は師の語った言葉を振り返り、解釈を進めて互いに学ぶという作業に入ります。真理を会得した者が語る言葉の中から、真理を理解しようと努力しているのです。この点は本連載も同じです。アダムスキーが述べた言葉を噛み締めて、その中から少しでも自ら理解できるポイントを掴もうとしているのです。

192 Man has learned much about the three dimensional world and now it is time for him to blend his knowledge with the four dimensional invisible world around him. That is if he is to do away with the mysteries that he has been governed by all of this time. And this can only be done by the mind, the effect, humbling itself to the consciousness - the cause, and thus allow it to explain the relationship of the two. Only consciousness can do this as it is the fourth dimension that knows no limitations.

192 人は三次元世界については既に多くを学んでおり、今はその知識を自分の周囲にある目に見えない四次元世界と融合させる時です。それは人が常日頃、支配されている諸神秘を取り去ろうとするならばです。そしてそれは、結果である心が自身を因である意識に謙虚にすることによってのみ可能となりますし、そうすることで意識に両者の関係を説かせることが出来るようになります。限界を知らない四次元である故に意識のみがこのことを為し得るのです。

【解説】

ここでのポイントは、本文にあるように私達が常日頃支配されている諸神秘に気付くことだと思えます。実は、具体的にここで言う「神秘」がどのようなものであるかということになると、容易には浮かび上がって来ません。未来に対する不安感、何時起るかも知れない地震や災害、あるいは将来の健康不安等々は、各々が抱えている（言い換えれば「支配されている」）問題が、ここで言う神秘に属すると言えるでしょう。また、その先を突き詰めて行けば、「死」は最大の神秘と言えるでしょう。この問題は人間の苦悩の中で最も大きなもので、死の床にあっても、その関門について考える時の不安感は大きいものと思われま

ここで、本文ではこれらの神秘を取り去る為に、心は長年学んで来た三次元世界の知識を四次元世界である意識と融合させよと言っているのです。私達を取り囲む四次元世界は常に求める者に寛大でということでもあります。

193 The three dimensional effects are the coarser part of its expression, like sound which is produced through a low state of friction or conflict among the elements. But consciousness in its fourth dimension does not produce sound as we know it. Its method of communication is through the feeling awareness given in the form of impressions.

193 三次元世界の結果物は丁度、粗いレベルの摩擦や各要素類の間における争いを通じて造り出される音のように表現の内でもより粗雑な部分でしかありません。しかし、意識は四次元世界にあって私達が知っている音を造り出すことはしません。その意思疎通の方法は印象の形態における感じによる気付きを通じて行われます。

【解説】

本節では、身の回りの四次元世界に気付く方法として、印象への感受性の重要性を述べています。

通常の日常生活では、私達は、文章を書くにしても基本的には「声」を発することによって自分の意志を表現しますし、相手の声を聞くことによってその意向を知ります。しかし、意識は声でなく、印象によってその創造物に話し掛けると言っているのです。印象は鈍感な者や他の対象に関心を取られている者にとっては、どのような重要な内容でも、意識が精一杯伝えようとしていても、気付かず通りすぎ、捨て置かれます。しかし、人を除く大自然に生きるありとあらゆる生物は、皆この意識の指導、印象を察知して日々の生活を送っているということです。

何故、本来、最高位の創造物である人間だけが、かくも混乱した生涯を送らなければならないのかは一大問題です。一方で、人間は人類発祥の時代から、自分の目、耳に聞こえる結果の世界についてたゆまぬ研究を続け、今日のような文明を発達させて来ました。その結果、人間にとっては大変住み良い世界システムが出来上がった訳です。しかし、その反面、今まで捨て置かれた課題、意識についての感受性向上については、これからの段階です。既存の宗教や哲学に頼ることなく、自分自身の心の動きを観察しながら、また、自然界の生き物達の動きを見つめながら、意識からの印象を受け入れやすくする体制づくりが必要になるということです。

194 So in order to unite that which is now divided in man, the mind must be willing to be taught by consciousness. And remember, consciousness is the soul of any form which makes life possible.

194 ですから人の中で分断されているものを統合する為に、心は喜んで意識によって教わるようにならなければなりません。そして覚えておいて欲しいのは、意識はあらゆる形あるものを生命たらしめている魂であることです。

【解説】

人の中には確かに、心とは別に四六時中活動している生命本体があり、その活動の恩恵を受けながら、人本体の行動を支配する心があることは、既に御承知のことです。このように私達は自身の王国の中に二つの要素を持つ訳ですが、通常、表に現れて人間の思考や行動を支配する心が人体そのものの意義や生命活動について何ら知ることなく、自我存続の為、ひたすら外部との関係に悩み、社会の動向に翻弄されています。

これらすべての問題は、人間世界だけの問題であり、他の王国では外見上、多少の争いはあるにせよ、圧倒的な調和が保たれています。また、そのお蔭で地球全体が辛うじて保持されているのです。

ここでは、人の中にあって、日々の人の抱く感情を支配する心が、もう一人の自分、即ち意識から物事を常に教わるよう、心に向け教えを請う姿勢が大切だと改めて述べています。仏教で言う”他力本願”の”他力”とはここでいう自分の中を貫く宇宙意識を意味していますし、”南無阿弥陀仏”や”南無妙法蓮華経”等の念仏やお題目も、これら意識を述べた真言（仏の言葉）に帰依し、日々精進しますと自ら宣言する行為に他なりません。

195 That we may understand more clearly let us become aware of the rim of the earth, as we did the shore of the ocean. And let the conscious messenger reveal to the mind the things in space, beginning with the fourth dimension. First, we will give you some idea of what is there in this invisible state. And as stated before it begins with the crust of the earth.

195 よりはっきり理解できるよう、以前大洋の岸辺で私達が行ったように、地球のふちに気付くようになりましょう。そして意識の配達人に四次元が始まる宇宙での物事を明かせましょう。先ず最初に私達は皆さんにこの目に見えない状態の中に何が存在するのかについていくらかの概念を授けましょう。そしてそれは以前述べたようにまず地殻から始まります。

【解説】

以前 (No.185) で、海を見てその奥深く生存する様々な海洋生物をイメージさせよと述べられて来ました。ここでは地平線を見て、大地から始まる宇宙空間についてどのような印象を受けるかに関心を持ってと言っています。

このように目に見えない所からやって来る印象を私達は大切にしなければなりません。それは自己の心が作り出す勝手な意見とは、別の源泉から来ている可能性が高いからです。

しかし、これらの印象は当面、心にとっては微小であり、また瞬時に通り過ぎてしまうので、到底、言葉に直す時間的余裕はありません。受信させるためには、一つ一つ詮索するような態度でなく、そのままを受け入れ、行動する姿勢が必要になります。よく運動選手が見せる体操競技で瞬時に鉄棒から宙返りし、安全に着地する際の印象の受信と身体動作の間にはおそらく、何らの迷いはない筈です。身体は言わば自動的に各動作に反応しているものと思われれます。これと同様に私達は刻々体内を通過するこれら宇宙意識の妙なる印象を歓迎し、積極的に受け入れる用意をしておくことが必要です。

196 Scientists know of various kinds of gases that proceed into space. The word gas does not mean much but the component parts of which gases are made, does. For in these is the food that the three dimensional world must have in order to live. As an illustration we will use this manifestation that has been used elsewhere in the lessons. When we gaze into a clear blue sky we see nothing, yet under proper conditions a lightning bolt is created in that space, which is made of minerals well known on earth. This shows that the component parts of what we call gas has substance that can produce solids. This is not the only proof for we have others. Many meteorites have landed on earth in various sizes, and when examined they contained the minerals known on earth. I am sure that these meteorites have not been thrown off of the earth and then returned. For they have dropped on the moon and other planets, so they must have been made in space as the lightning bolt is. This tends to prove that all elements known on earth in a coarser form have had their origin in a refined state in space. And as stated before, space is an incubator of forms in which planets and all forms are born and have their being.

196 科学者達は宇宙に向かって進む様々な種類のガスについて知っています。ここでガスという言葉はあまり意味はなく、ガスを構成している成分が重要なのです。何故なら、これらの中に三次元世界が生きて行く上で必要な食物があるからです。実例としてこれまでこの講座の何処かで用いられて来た創造作用を示しましょう。私達が晴れ上がった青空を見詰めても何も見えませんが、ある適した条件のもとでは稲妻がその空間に形成されますし、その稲妻は地球でよく知られている鉱物群から造られています。このことは私達がガスと呼ぶ成分には固体を作り出すことができる物質があることを示しています。これは唯一の証拠ではありません、私達には他にも証拠があるからです。多くの隕石は様々な大きさで地上に着地しますが、調査するとそれらは地上で知られている鉱物を含んでいることが分かります。私はこれらの隕石が地球から投げられて再び戻って来たものではないことを確信しています。何故なら、それらは月や他の惑星にも落下していますし、それゆえ、それらは稲妻のように宇宙で造られたに違いないのです。このことは、地上で知られている粗い形態にある全ての元素は、宇宙空間に精化された起源を持っていたことを示すものと言えるでしょう。そして、先に述べたように、宇宙は惑星やすべての形有るものが生まれ、そして存在する孵卵器なのです。

【解説】

地平線に続く大空の先には宇宙空間が広がっていることは私達は知識として知っていますが、なかなか実感するに至ってはいません。しかし、この宇宙空間と私達の身の回りの空気、ガス状物質とは相互に交流が行われています。つまり、何処からが大気で何処からが宇宙という境は無く、連続的であるということです。その宇宙空間の海の中を私達の惑星、即ち私達は高速で移動している訳です。今までは、それだけの理解でしたが、本稿では宇宙空間の新たな側面を指摘しています。それは物質誕生の揺りかごとしての宇宙空間です。

本稿前段で地球から宇宙に放出されるガス成分分子についての記述があります。逆に言えば、各成分が宇宙空間へ向けて素材が供給されることを意味します。そして後段には隕石の話から宇宙空間では物質が精化されることを述べています。そこで一例をご紹介します。今でもあると思いますが、昔、東京上野の国立科学博物館で大きな隕石が展示されていました。隕石の内部はほとんど純粹の鉄の塊で、切断面からは丁度、雪の顕微鏡写真のように鉄が綺麗に結晶化しているのを見たことがあります。一体、どのような条件でこのような純化が起るのか分かりませんが、宇宙空間ではこのような様々な物質が精化されているのです。そういう意味では、地球から発せられた汚れた物質、様々な成分がごちゃになったガス状物質が広大な揺りかごの中で再び純化され、次なる生物の誕生や惑星の創成に用いられることとなります。これは、人体も同じこと。人生の最後に茶毘にふされた肉体はガスに形態を変化させ、再び、採用される時まで、宇宙空間に融合するということです。

197 If the planet earth has produced out of its own body all that is upon it, and itself was born from the elements of space, then this should be a good proof that all planets are humming with life in varying degrees of development.

197 もし地球という惑星がそれ自身の体内から地上にある全てを作り出す一方、それ自身は宇宙にある諸元素から生まれたとすれば、すべての惑星は様々な発達程度の生命で活気溢れているという良い証拠になるはずで

【解説】

拙宅のトイレの壁には以前、パロマー天文台を訪れた時に買い求めた太陽系を解説した大型のポスターが貼ってあります。惑星の大きさや太陽の周囲を回る各軌道、各惑星が持つ衛星の数や大きさ等が分かりやすくイラストで描かれています。この絵を見る度に、各惑星が母なる太陽の周囲を巡る一大家族を形成していることを思います。しかし、このような絵が無くても私達の日常生活の中に、この大地（地球）と空間（宇宙）の繋がりを実感して過ごすことが必要です。毎秒、呼吸する空気がこの広大な宇宙に繋がっていることを理解する必要があるのです。

宇宙は別に天体望遠鏡で覗かなければ見えないものではありません。太陽や月、星や惑星等、少し空を見上げれば、頭上にありますし、いつでも眺めることができます。長らく私達は地表での生活に目を奪われて来ましたが、そろそろ本来の宇宙的な感覚を取り戻さなければならない時代になりました。

地球環境は地球規模の気候変動問題等、最近の課題はいずれも、この宇宙に広がる概念を必要としています。哲学や宗教においてはなおのこと、自身と宇宙との密接な関連について自覚する時代を迎えているということです。

198 Even though great distances exist between planets and there is no established communication with them, this does not prevent one from knowing what is going on upon them. But to do this the mind must be trained to listen and be taught by the conscious messengers, without questioning the impressions while they are being given. Some will come in the form of thoughts and some with thoughts and pictures.

198 惑星間に長い距離が存在し、相互に確立された通信手段が無くても、それは人がそれら惑星上で何が起っているのかを知ることを妨げるものではありません。しかし、これを為すには心は与えられている間、その印象類に疑問を挟むこと無く、意識の伝達人に耳を傾け教えを受けるよう訓練されなければなりません。それらの内、あるものは考えとして、またあるものは考えと画像の形でやって来ることでしょう。

【解説】

印象の伝播に距離は関係ありません。人の想いはそのまま広い宇宙に伝わるということです。まして創造主のご意志にあっては、宇宙の広大さは何ら障害とはなりません。

遠くの場所での出来事を知るということは、先に述べられた岸边から海中深く生息する海洋生物の存在を実感しようとする場合も、宇宙空間に浮かぶ遠く離れた惑星の状況を知ろうとする場合も同じです。いずれも肉体の目でない別のルートで私達はそれを観ることになります。内容を知るのは一瞬の映像イメージであったり、またイメージにもならない漠然とした「感じ」かもしれません。いずれにせよ、先ずはやって来る印象を率直に心が受け入れることです。

私達の生活の中でも太陽があり、月が居る等、目に見える具体的な天体は数多くあり、それらが私達に毎日のように見せてくる美しい光景は、私達を豊かにしてくれています。朝日は惜しげ無く水辺に黄金に輝く光の太い帯を見せてくれますし、月の出は静かで落ち着いた宵の始まりを私達に告げています。

これらの天体は実際には遠く離れており、肉体としての私達には行ける所ではありませんが、これら天体に対する私達の気持ちに距離は障害になりません。それらから印象を受ける為には、先ずはそれらを愛おしむ心が有ってはじめて、心通う関係になるものです。

199 When thinking of this let your mind be attentive as it was while viewing the ocean. And while the ocean has boundaries, space has none. This phase of development is very important, even when we begin to travel in space ships. For had I not developed along this line to some degree, my trips in space crafts taken bodily would have been of little value. Because there were many things on the ships and in space that my mind did not understand. But my consciousness revealed them to me. And later my understanding was verified. The language barrier was not present for in some cases I exchanged ideas with the space brothers consciously. This would have been impossible mentally.

199 このことを考える際、貴方の心を大洋を眺める時のように注意深い状態にさせることです。大洋には境がある一方、宇宙にはそれはありません。私達が宇宙船で旅行するようになった時でさえ、この発達の段階は大変重要です。何故なら、もし私がこの線に沿って幾分かの発達を遂げていなかったら、肉体を伴った宇宙船に乗っての私の宇宙旅行は大した意味を持たないものとなっていたことでしょう。何故なら、宇宙船や宇宙には私の心が理解しない多くの物事がありました。しかし、私の意識がそれらを私に明かしてくれたのです。そして後になって、私の理解は確認されました。言語の障壁は有りませんでした。ある場合には私は意識的に宇宙兄弟とアイデアを交換したからです。これは心では不可能なことでした。

【解説】

映画「未知との遭遇」(Close Encounters of the Third Kind, 1977年 アメリカ)については、ご覧になった方も多いと思います。発電所職員である主人公はUFOと接近遭遇後、自宅に奇妙な山の模型を作り出します。傍から見れば、理解しがたい行動ですが、その山は宇宙人達が選定したコンタクトポイントであった訳です。本人はそれと知らずに、印象に従って実物そっくりな模型を造り上げ、最後は実際の山に登り、宇宙船に迎えられるというストーリーです。

映画の中では、誇張して描かれていますが、このような事柄は、「印象」を感受した際の、ある意味、理想的な行動でもあります。しかし、通常は、私達が感受する印象は大変、微妙であり、また例え感受できても心が即座に判断して疑問を投げかけ流入を遮ってしまいます。本稿では心に疑問を挟ませないよう、宇宙から来る印象類を大切に取扱い、言語によらないコミュニケーション能力を高めよと言っているのです。

以前、ある人からUFOを目撃した時、どのような心の状態であったか、どのような印象を持ったかと熱心に聞かれたことを思い出します。もちろん、偶然に目撃ということもあるでしょうが、中には宇宙船から印象を送っている場合やこちらから発した印象に応えての出現もあるということでしょう。

200 The schooling of the mind is not an easy problem, but it is worth the effort even though it takes years to accomplish as it did for me. There is not a person on earth that does not receive impressions either from the earth, the inhabitants upon it or from other planets as well as the Cosmos. But there is a difference between the human and the cosmic impressions. For a mind is a mind whether on this planet or elsewhere and it has a tendency to confuse impressions and misapply them to suit the personal desire. Oftimes the mind permits the imaginary faculty to run away with it. The imagination is like a screen or a slate upon which the pictures are drawn and the human has a tendency to distort them.

200 心の訓練は容易な課題ではありませんが、それは私についてもそうであったように、達成に何年も要したとしても努力する価値があります。地球にいる人間で地球から、またその住人から、あるいは宇宙と同様に他の惑星から印象を受けてない人はいません。しかし、人間から来る印象と宇宙の印象とは違いがあります。何故なら心というものはこの惑星上の場合も他の場所でも同様に、印象類を混乱させ、個人的な願望に合うように不正に使用する傾向があるからです。しばしば、心はその想像力にその印象といっしょになっての暴走を許します。人の想像力とはその上に絵が描かれるスクリーンや石板のようなもので、人間はそれらを歪める傾向があるのです。

【解説】

人の一生はそもそも何の為にあるのでしょうか。とりわけ古来から、人間の真のあるべき生き方を求めて多くの人がある道を模索して来ました。時々の悲惨な社会を見て、その人生の全てを賭けてその修業の道を実践された多くの方もいます。その求道者が得ようとしていたものの一つが、この印象を自由に感受できるよう心を訓練することでは無かったですでしょうか。肉体的には何一つ変わった所がないのに、かくも精神面で大きく異なっている種族が人間だと言えます。

また、一方で、日常生活ではこれらのインスピレーションは稀にしか起らない不思議なこととして位置付けられ、三次元世界での物証が無ければ、信用する訳には行かないとしています。

しかし、私達自身の肉体各部が平穩に生きているように、人体の各細胞は互いに印象のやりとりを行っている筈で、私達はそれに気付かないだけなのです。既に、何度か本講座で出て来ているように、人は自身で日々表現されている生活活動から直接学べることを大切にしなければなりません。遠くに求めるばかりでなく、最も近い存在、自分自身から多くの印象を受信することが必要です。

201 i.e. The imagination can mate a flea with a dog on the slate but this can never be done in the cosmic plan. The picture would represent a misplacement of the law and this is where one must be very careful if we are to have the truth. There is so much of this going on now, and that is why we get so much confusion regarding our space brothers. This is caused by misapplication of the true law in order to satisfy the individual ego. And the un-natural stories come from this source.

201 すなわち、想像では石板の上でノミと犬をつがいにすることが出来ますが、宇宙の計画ではそれは決して起りません。その絵は法則の履き違いであり、これは私達が真理を得る上でとても気をつけなければならぬ所です。このようなことは今、多く起っており、それが私達の宇宙兄弟達に関してこれ程、私達が混乱している理由です。このことは私達各自のエゴを満足させる為に真の法則を誤用することによって起ります。また、不自然な物語がここを源としてもたらされます。

【解説】

実際問題、ここでの内容は筆者にとってはかなり先の問題に思えます。日常的には心が「印象」を受信することは稀であり、通常、心は目や耳に入って来る外の世界の情報に対して、瞬時に好き嫌いの反応を起こしている段階に過ぎません。ちなみに、この反応は極めて速く、逆に言えば、ろくに観察もしないで、瞬時に判断していることがわかります。何ら根拠もないまま、心が全くの自己本位、好き嫌いからその対象の人（或いは物）を一瞬で評価しています。丁度、果物の集荷場で次々にベルトコンベアで流れて来るミカン「要る」「要らない」の仕分けをするようにです。

一方、本文で記述されている印象への対応は、どのようなものなのでしょう。一つの例としては、眠っている間に見る夢がこれに該当するかと思えます。眠っている（即ち感覚器官の働きが鈍っている）時、心に印象がやって来たものが、夢として記憶されているものと思われれます。夢においては、本文の記述のようにやって来た印象を心が勝手にねじ曲げて、混乱したストーリーに仕立ててしまうケースも多いものです。これからは夢の中でも自分の心の反応を観察し、勝手な想像を行っていないかも注意したいものです。

202 To guard oneself against such wild impressions, remember that a human form is always a human form even on another system. For the pattern for man is cosmic. The difference would be in the refinement of the form and the expansion of knowledge in different fields of expression. Yet the similarity from the lowest to the highest will be present for there are no blanks in the cosmic plan. In the field of service he who is guided by cosmic consciousness recognizes no divisions but blends all phases of manifestations in relationship to all others. No discrimination or judgment exists for one who has an understanding. Analysis for the purpose of correction and understanding of the misapplication of the law is ever present.

202 このような粗野な印象類から自分を守る為には、人間という形態は他の太陽系においても常に人間の形であることを覚えておいて下さい。人の為のパターンは宇宙的だからです。違いがあるとすれば、その形の精緻さと様々な表現分野における知識の広がりにあるでしょう。しかし、最低位から最高位の間には類似性が存在し続けています。何故なら宇宙の計画に空白は無いからです。奉仕の分野において宇宙意識によって導かれている者は如何なる分断を観ることはなく、それらすべての創造の現れの側面を他のすべてとの関連において融合させます。理解を得ている者に差別や裁きはありません。法則の誤用に対する修正と理解を目的とする分析が永劫に存在するだけです。

【解説】

本文で記述されていることは、一見当たり前のように通り過ぎてしまうかも知れません。しかし、物事は連続的に進化の段階を辿るとすれば、特定の段階を区別し、固定視すべきではありません。例え相手から不快な行為を受けたとしても、その原因や過程を観察し、貴重な学習材料として研究することはあっても、自ら当事者としてエゴの怒りに身を任せるべきではありません。そのようなことをすれば、自分のエゴを増長させ、自らの肉体を痛めつける等、悪循環に身を委ねることになりかねません。

ヒトという創造物は宇宙くまなく同様な形態を持っていると本文では述べられています。それに関して思うのは仏像に対する人々の思いです。人には寿命があり、やがては一生を終える時が来る等、限りがあります。各時代においてかつて地上に存在した祖師や別の惑星にいる尊敬すべき人物に思いを伝え、あるいはその方達から教えを受けたい気持から、人々は人間の理想の姿として仏像を造って来たものと思います。本来は目に見えない存在こそ大事なのですが、先ずは目をそのような美しい存在から感化されるよう、理想とする容姿やかつて教えを受けた尊敬すべき祖師の似姿を見て、心を整える意義もあるものと思われます。「同乗記」の中にも宇宙船内に創造主を描いた絵が掲げられ、宇宙兄弟達はその絵を見ることで若さを保っていることが伝えられています。私達より遥かに進歩した彼等ですえ、日々の訓練を積み重ねているということでしょう。

ご挨拶 [2008-01-01]

新年あけましておめでとうございます。

いつもこのブログをご覧いただきありがとうございます。

昨年3月から始めたこのブログも既に、第5課の半ば過ぎに至っています。

「生命の科学」学習コースには、簡単そうに記述されていますが、その内容には進化した諸惑星の文明の英知が詰まっているとされています。

皆様にとって、このシリーズがどれほどのお役に立てたかは自信がありませんが、これからも少しずつでも理解を深めて行ければと思っています。

折しも、地球を巡る環境は社会経済的にも、自然環境的にも大きな変化・変動の時期を迎えているように思います。この日本においても人々の心の荒廃等、私達は大きな課題を抱えた新年になっております。その中であって、走らず、丁度、ウォーキングで道端の花を愛でながら歩むような自我の訓練ができればと思いますし、このブログをご覧戴ける方も、そういう気持ちで私とおつきあい下されば幸いです。

本年も宜しく願い申し上げます。

平成20年元旦

203 One can be fairly sure of being right in what is received through consciousness providing the mind does not indulge in wild imagination or judgment. Even though the impressions may not be understood at the moment, for oftimes patience is required. But the fact that there is a revelation should give you the assurance that it will fit in someplace when the time is right.

203 人は心が乱れた想像や裁きに耽らないならば、意識を通じて受け取るものについては十分正しいものと確信して良いでしょう。その印象が例えその時理解できなくてもです。多くの場合、忍耐が必要なのです。しかし、啓示というものがあるという事実は、貴方にそれがいつか時が正しい時に何処かで当てはまるだろうという確信をもたらす筈です。

【解説】

個人的な体験として、わずかですが本文で言うような事例を経験したことがあります。いずれも昔のことなので寝ている間に見た夢であったのかは、詳しいことはよく覚えておりません。しかし、随分年月が経過した後に、「この光景は昔、夢で見たものそっくりだ」と思ったものです。

いずれも夢の中の印象は色彩を伴ったもので、一つは自動車の色（赤）、一つは電車の色（青緑）でした。簡単に内容を紹介すれば、自動車の例では当時、自室は前に庭があるだけの家でしたし、自動車を持つことなど思いも寄りませんでした。赤い自動車が置いてある筈もないのに何故か自室の前に赤い自動車が置いてある光景が見えたのです。また電車の例については、当時（おそらく私が中学・高校の頃かと思えます）はチョコレート色の電車が普通の時代でしたが、ある駅の光景が見え、何故か見たこともない青緑色の電車が高架ホームに止まっているという光景でした。それぞれの印象を得た当時は全く現実とは離れた光景でした。しかし、それから年月が10年、20年を経過した後、不思議なことに結局、かつて夢で見た環境が自分の周囲に実現したという訳です。

以上の話はとるに足らない話ですが、個人的にはやって来る印象を大切に扱うという例にはなっています。いずれにせよ、やって来る印象を大切にし、その印象に従って、次々に行動できればしめたものかも知れません。よく調子の良い時には、次から次に仕事ははかどるものです。また、一方では悶々としていつまで経っても仕事が進まないという時もあります。その大きな違いは、「エゴの心で考えている」か「エゴを放棄して意識の指導に身を委ねているか」の違いにあるようです。各自がとことんエゴの心で取り組み、それでも一向に改善できないことを実体験した後、命までも喜捨する覚悟を持つようになれば、このような印象に従うことも容易になるということではないでしょうか。

204 Never allow the mind to become emotionally affected to the point where it wants to tell the world what has been revealed to it. For when the time of revelation does come - it will be given calmly and modestly. The tricks that the mind has cultivated and accumulated will appear from time to time and try to show the other fellow how much it knows. This is definitely wrong and should this occur it is time to remember - do unto others as you would have them do unto you. The mind has been dwelling in untruthful things for ages and when the real truth is brought to it, it does not like to accept for it built its foundation on mistakes and does not like to have them disturbed. And as said before, this does not mean that mistakes are of no value, for they show us the right way to act. But one mistake is not to be covered up with other mistakes. It is to be corrected immediately.

204 決して心に明かされたことを世間に告げようというところまで心が感情に動かされるのを許してはなりません。何故なら啓示がやって来る時、それは静かにそして控えめに与えられるからです。長年心が培い蓄積して来たたくらみが時折現れて、同僚に如何に自分が知っているかを示そうとします。これは絶対によくないことであり、万一起こった時は、次のことを思い出して下さい。汝が他人にしてもらいたいと思うことを他人に為せです。心は長い年月、嘘で固めた中で生きて来ているので、実際の真理がやって来た時、過ちの上に基礎を置いており、混乱されたくない為にそれを受け入れたくないと思うのです。しかし、以前申し上げたように、その過ちは価値が無いとしているではありません。何故なら、それは行動すべき正しい道を私達に示してくれるからです。しかし、ひとつの過ちは他の過ちによって包み隠されてはなりません。直ちに直されねばならないのです。

【解説】

余談ですが、このところ毎日、50件ほどのアクセスを戴くようになりました。どのような方がご覧かは存じませんが、ありがたいことです。また、一方ではこの解説文の内容についての真価がますます問われますし、責任も増していると考えています。ご覧戴く方になにがしかの得るところが無くてはなりません。筆者としては地に足の着いたコメントをと毎日パソコン画面と向き合っていますが、この画面を通じて、ご訪問戴いた方、アダムスキーの「生命の科学」を本格的に学びたいと思われる方と意気投合が出来ればと思っています。

さて本論です。自分のことは良くわからなくても、他人の行動はよくわかります。中にはいろいろなことを教えて上げると言ってくれる方も多いものです。しかし、多くの場合、それは自慢話に終わるものです。つまり、相手の理解程度はどうか、相手の関心はどうかという配慮はすぐに失せて、いわゆる「知ったか振り」で終わってしまうということに注意する必要があるということです。

特に自分が得た意識からの印象には取り扱いに十分な配慮が必要だと言っています。前項(203)で紹介したように、印象は光景としてもはっきりしたのですが、残念ながらそれが「いつ」現実になるのかについては不明でした。受けた本人はすぐにも現実のものになると思いがちですが、実現には時間が必要の場合もあるということです。意識の世界にはもともと「時間」は無い訳で、私達が思う以上に短時間で達成できてしまうことも多い反面、遠い未来を指し示すものも多いと思われれます。従って、折角与えられた意識からの印象、つまり色彩も明瞭で具体的なイメージを受けた場合には、大事に取り扱い、不用意に喋らないことです。いつか自分が体験することになるようなことですので、心に暖めて置く方がよいと思われれます。

アダムスキーは何処かで「右手で知った内容を左手に漏らさない」という趣旨の話をしていたように記憶しています。それほど、多くの事柄を知っていましたが、秘密は守ったということです。とりわけUFO問題は地球の政治・経済の根幹にも関わる大きな問題です。おそらくは自分が地上から去った後の世界の行く末も見通していたものと思われれます。今思えば、1952年11月20日アメリカのデザートセンターから始まったアダムスキーの公生涯は、折からの原水爆実験に明け暮れる最中に始まりました。言わば公然と外宇宙からの宇宙船の飛来が挙行され、お蔭で時代は例え、一時期であれ核戦争への道から大きく宇宙科学、宇宙哲学への道へと大きく転換したということです。

しかし、一人の人間の生涯には限りがある訳で、代々継承される地上の既存勢力と異なり、アダムス

キーが伝えた他惑星の生活指針は、各々授けられた者が引き継ぎ、発達させて行かねばなりません。一人で歩む以上、誤りはつきものです。その誤りから何を学び取るかが大事だと本文でも述べられています。出来れば、各自が「自分はかつて、こういう過ちをしたが、そこからこういうことも学んだ」ということも分かち合うべきでしょう。いわゆる「失敗事例」です。その根底には、宇宙には揺るぎなくあらゆる場所で働く絶対真理が貫いており、ある条件を設定すれば必ず同様な結果が発生するという原理と結果の関係があることを意味しています。私達の取り扱う宇宙意識との関係もそのようなものと理解して良いのです。

205 If you are not sure whether a mistake has been made or not, make a careful analysis of the effect. If you feel that you have, the way to make the correction will be shown. And if the action is against another human being, become that person, and you will know what is to be done without loss of time. For every mistake cuts one off from cosmic impressions and creates a condition like a vacuum or gap between two points. It is no different than being disconnected while talking on the telephone. If this is caused by a break in the line, and the one making the call is unaware of the break, he continues to talk but the receiver is not getting the impressions. And he will not until the correction is made. So the intervening conversation is lost to the receiver, and the gap is filled with confusion and wondering what was to have been said. And in this way, what would have been received is distorted.

205 もし貴方が過ちをしたかどうか不確かな場合は、結果について注意深い分析をすることです。もし過ちを犯したとを感じるなら、修正を行う方法が示されるでしょう。そしてその行為が他の人間に対するものなら、その人間になって見なさい。そうすれば時間の無駄なく何を為すべきかが分かるでしょう。何故なら、あらゆる過ちは宇宙的印象類から本人を切り離してしまい、2点間に真空或いはすき間のような状況を造り上げます。それは電話で話をしている間に電話を切られた時の状態と違いはありません。もしこの状態が通話中に起り、電話を掛けている一方がその断絶に気がつかない場合は、彼は話しを続けますが、受信者はその印象を受取っていません。線の復旧が行われるまで彼は受信できないままです。その為、受信者にとってその間の会話内容が失われ、そのすき間は混乱とその間に何が話されたかについての好奇心で埋められることとなります。そしてこのように、受信された筈の事柄が歪められるのです。

【解説】

そもそも「過ち」に気付くこと自体が容易ではないと考えています。日常的には、「自分は特段、過つたことはしていない」と考えているのが普通です。もちろん、常識的には当人が暮らしている社会の許容範囲内であれば、どのような過つた考え、過つた行動を行っていても、自由な行動が許されます。また、ギャンブル等の社会経済の歯車に組み込まれてしまった人生も中にはあるかも知れません。

しかし、ここでの「過ち」とは更に高度な内容を指すものと思われれます。つまり、宇宙意識との関係で貴方は過ちを犯していないかということです。前項(203、204)において意識から来る印象を受けた際の心の在り方について述べられて来ました。その関連においての「過ち」が本稿の主題です。例え意識からの印象を受信できたからと言って、早合点して他人に言いふらしたりしてはならないことは前項で述べられました。意識からの印象は確かに迫力があり、受信した本人が喜びの余り全部の内容が伝えられない間に有らぬ方向に突っ走って、全体のイメージを掴み損ねる結果、かえって他人を傷つける結果もあることを本稿では意味しているものと思われれます。

また、結局は自分の心の有り様や行動について、正しかったかどうかは、常にその結果を良く観察することで判断すべきと言っています。精神レベルの内容については、評価は自分自身でしか出来ません。自分がそのように感じ、そのような行動を執った結果は、その後の様々な状況として顕在化すると考えるべきです。そういう意味では、自身が一番良く結果を評価することが出来る訳です。キリスト教でいう懺悔もこれと同類の意義を持つものと思われれます。

この自身とその環境についての観察と分析評価は、実は大変重要なテーマだと考えています。再三述べ来たように特定の教師を持たない私達が個人でこの講座を学ぶ場合にこの過程が不可欠だからです。「狭き門」と言われるように多くの脇道が眼前には広がっており、導き手の無い時代に生きる私達は過ちに陥ることはごく当然なことです。しかし、過つた道に入ってしまったと思ったら、その原因を明確にし、修正すれば再び元の王道に戻れるということです。特に過ちの行動の結果が他人に影響を及ぼした場合には、その相手の立場に立っての修復が必要と述べられておりますが、これが一番難しい。どのように修復すべきかについては、一概に言えませんが、少なくともある種の負い目は付いて廻ることになるかも知れません。

いずれにせよ、意識からの印象のパイプを揺るぎないものとして行くことは学習の目的の一つですが、

その応用、言い換えれば、行動への適用については、更に自我の制御が必要だということです。

206 In the case of an uncorrected mistake against another, a mystery is created that may never be solved. And if it is done after a lapse of time the feeling will never be the same again. So there is a loss through the neglect of correction. And yet the correction even under these conditions is very important in order to carry on. For somewhere along the line the lost words or impressions will repeat themselves, even if for another reason, and he who has the knowledge can use these words to fill in the gap. It is no different than a window pane that will fit into a number of places.

206 ひとつの修正されない過ちに対して更に修正されない過ちが起る場合には、決して解決しない神秘が造り出されてしまいます。そしてもし、時間経過の後に為される場合には、その感じはもはや同じにはなりません。ですから修正を無視したことで損失が生まれるのです。しかもこれらの状況の中であっても修正はめげずに続けて行く為にはとても重要です。何故なら、その線に沿った何処かでその失った言葉や印象類は、他の理由からであっても再現するでしょうし、その知識をもつ者はそのすき間を埋める為これらの言葉を用いることができるからです。それは数多くの場所に当てはまる窓ガラスと何ら変わるものではありません。

【解説】

「過ち」、即ち「失敗」への対処が重要であるとこれまで述べられて来ました。しかし、実際に失敗した当座は、思うように行かなかった原因を他人のせいにして憤まんをぶつける、或いは自分の能力の不甲斐無さを悲嘆するものです。本文で言う「修正」という行動には容易に移れないのが実状です。また、いやな結果を忘れようと気晴らしに向かうことも多いものです。

しかし、アダムスキーは厳しくも、その十分な記憶がある内に修正することが大事だと言っています。そうしないと再び、そのテーマを学びとることが難しいと言っているのです。

一般に、自らの誤りを認めることには勇気が必要です。他人に対する自分のプライドがそれを阻むでしょう。また、私達が結果が全てだと思い込んでいることも、わずか1回の不成功で自分の努力や意志が無駄になったと感じてしまうことも背景にあります。また、特に他人に対する過ち（過失）については、再びその問題に直面することなく、むしろ避けて通りたいものですが、そうした場合、その関連は自分が通りたくない道として断絶（ギャップ）を自ら設定しているようなものとなり、今後の人生を狭くすることにもなるということです。

私も数少ない経験ですが、何度かトライする内に難しいとされていたハードルも越えることができるようになったケースもあります。後から考えて、成功した時の自分の心の状況、印象への対処行動等、成功の背後には思い当たるポイントもある訳で、この成功体験を大事にして、次回に繋げられればと考えています。

207 One must not be overly cautious in avoiding mistakes. For then he would be doing nothing - this has no value. The important thing is to realize and correct mistakes as soon as possible. For when one misses something that was meant for him, either by word or association, it sometimes takes years or even centuries to find it. I have known people who were searching for something all of their present life time. Sometimes they know what they are looking for and sometimes they don't. But they do know when they find it for the uncertain nervous feeling vanishes and they emanate a warm pleasant feeling and seem to enjoy everything that they do. They are not concerned with the future and seem content and happy to live from day to day. But they have a hunger to learn all that they can, and seek association with those whom they feel have what they want. This is usually a good indication that they are filling a gap - a something lost somewhere in life.

207 人は過ちを避ける為に過度に用心深くなつてはなりません。何故なら、そうすることで彼は何もしなくなるからです、これでは価値がありません。重要なことはできる限り速く過ちを自覚し修正することです。何故なら、人はその者にとって意味のある何かを失った場合、それが言葉によってか、あるいは人間関係によってかを問わず、それを見つけ出すには何年も、場合によっては何世紀もかかるからです。私はある人々が彼等の生涯の全てにおいて何かを探し続けているのを知っています。ある時は彼等は自分達が何を探しているかを知っていますが、わからないでいる場合もあります。しかし、彼等はそれを見つけるや否やそれがわかります。不安定で神経質な感じが消え失せ、暖かな楽しい感じが発せられますし、彼等が為すことすべてを楽しんでいるように見えるからです。彼等は未来には関心がなく、日々生きていることに幸せを感じています。しかし、彼等は学べるもの全てに渴望しており、彼等が求めるものを持っていると感じる者との繋がりを求めています。これは通常、彼等が人生の何処かで無くした何らかのすき間を埋めている良い兆候なのです。

【解説】

ここでは各自が求めているものの起源の中にはかつて自分が失ったものを穴埋めし、取り戻す為のものも含まれていると指摘しています。人によって求める分野は異なりますが、その本人の志向性には、場合によっては過去生にまで遡る理由がある場合もあると言っています。

もちろん、求道という側面もあるでしょうし、隠れた才能に気付き育てたいと願う気持もあるでしょう。しかし、強い本人の志向性には過去の人生ともかかわりのある要素も強いということでしょう。一度、しくじった学習テーマに再び巡り会うことは容易ではないと本文では言っています。ですから、できる限りその場で修正への行動をとるべきなのです。

また、「求めよ、さらば得られん」とされるように、求めていることはいつかは実現することでしょうが、本文に書かれている部分で特に大事なのは、”But they do know when they find it for the uncertain nervous feeling vanishes and they emanate a warm pleasant feeling and seem to enjoy everything that they do.”(しかし、彼等はそれを見つけるや否やそれがわかります。不安定で神経質な感じが消え失せ、暖かな楽しい感じが発せられますし、彼等が為すことすべてを楽しんでいるように見えるからです。) という感覚です。

何もあせる必要は無いのです。それが実現することをひたすら確信し、あとは意識の仕事として意識を信頼するという姿勢が大切だと考えています。これは自然界、一般に言えることで、今どきの季節(冬)にあつては、土や枯葉の下でじっと春の到来を待っている虫達や草花の芽がそれに当るのでは無いでしょうか。

一方、このような過ちについて最も心が痛む問題は人間同士の関係です。これまでもUFO・アダムスキー問題には多くの人々が関与され、また去って行きました。私自身、当初熱心であった多くも方が、その後離れて行かれた事例を知っています。その原因の多くは、その時々の方の運営や人間関係、他人を利用した、しない等々、様々でした。原因はどうであれ、結果的にせつかく大切な知識に触れた方がもし、アダムスキーを離れてしまったとしたら、大変残念なことです。会の運営者としても大きな責任があると言えるでしょう。一度、離れた方を再び、引き戻すことは容易ではありません。ある種の

拒絶反応から長期間にわたってこの問題への取組みを避けて通りやすいからです。そういう意味では、各グループ活動を主催されている方には、人並み以上の責任があり、常に誠実、柔和、オープンな姿勢が不可欠だと思っています。

208 Yet some individuals after finding this go astray. And there are millions of such. But when this happens more than one gap is made and sometimes these are almost impossible to fill as the human mind in many cases is lazy and seeks the highway of least resistance. Thus it creates many gaps through its span of life. And this majority never know true happiness, peace and contentment. And the indications are that they are off the beam of life which is of cosmic nature. For they are easily irritated, hard to satisfy, fault finding and display very poor sportsmanship. They constantly seek new friends which are not stable, but of the same nature.

208 それでも人によってはこれを見出した後も、道に迷う者もいます。しかもこのような例は何百万もあるのです。しかし、これが起った後は、出来るすき間は一箇所に留まらず、時として埋めることがほとんど困難になってしまいます。何故なら人間の心は多くの場合、怠け者であり、最小限の抵抗という常道を求めるからです。このようにして心はその生涯を通じて数多くのすき間を造り出すのです。そしてこの多数派は真実の幸福や平和、満足を知ることはありません。そしてその兆候は彼等が宇宙的性質である生命の光線とは離れていることを示しています。何故なら、彼等は容易にイライラして、満ち足りることが無く、あら探しをし、とても貧しいスポーツマン精神を表わすからです。彼等は常に新しい友人を求めますが、それらは不安定であり、また同類の者達です。

【解説】

自らが長年求めていたものを見つけた場合でも更に迷う者も多いと言っています。その原因は私達の心の怠け癖であり、折角のチャンスもみすみす失ってしまうということは大変、残念なことです。”慣性の法則”に身を委ねては、所詮、下るだけです。少しでも向上する為には、自ら自分の心を叱咤激励するしか方法は無いです。自らの現状を損なうことを恐れるあまり、冒険したがないのがエゴの自己保身の特徴です。

その結果、本当は千載一遇のチャンスであった筈のものが、再び去ってしまうことは悔しいものです。多くの事例では本人は一步を踏み出すことを躊躇していた為に、その後、何十年も改善の機会を失っているケースもあります。他人から見ると良い機会だと思のですが、本人の自覚がそこまで至っていないのです。

その根本の原因、踏み出せない原因はやはり信頼感、創造主から愛されているという信仰心が十分、内面に育っているかどうかにかかっていると考えています。信頼を何処に置いているのか、移り気の他人に置くのか、万物を貫く宇宙の意識に置いているのかの違いです。

209 These people are like a man lost in a heavily wooded forest where the congested growth hides the sun and the vision of heaven that could lead him in the right direction. The timbers could be likened to personal opinions that blocks the vision of light that could show the way. A person may even die in this state and never know the true purpose of life. We have people who have everything that the world has to offer, even security beyond their needs, but they are very unhappy within themselves. They have searched all of their lives for something they did not understand. They sought wealth and fame for security but after having this, the happiness they longed for was not there because they had never left the timber land of self opinions. And their values of life are out of line with the cosmos.

209 これらの人々は生い茂った木々の成長が正しい方向を示してくれる太陽と天の視界を隠しているうっそうと茂った森の中で道に迷った人間のようなものです。木々は道を示すことができる光の視覚を遮る個人的な意見に似ていると言えるでしょう。人によってはこの状況の中で亡くなり、人生の真実の目的を知ることはありません。私達はこの世が提供できるあらゆるもの、そして自分が必要とする以上の安全さえも手に入れ、それでも自分自身の内面ではとても不幸である人々を知っています。彼らは自分の生涯の全てを自分ではわからない何物かを求めて来ているのです。彼らは安心のために富や名声を追い求めて来ましたが、それを得た後は、願っていた幸せはそこには無かったのです。何故なら彼らは自己の意見という森林を離れることはなかったからです。そして彼らの人生の価値というものは、宇宙の方向からは外れています。

【解説】

そもそも心に意識からの印象を受け入れる余地がなくてはなりません。元々、自己主張が強く、それなりに自分で頑張って世の中を渡って来た人達にとって、取りあえず順調に推移している間は、問題も顕在化しないのですが、ひとたび、状況が悪化すると己の限界を過度に考え込んでしまうことになるのではないのでしょうか。

個人的には本稿事例のような状況を明確にイメージすることが出来ませんが、そもそも他人の意見を喜んで受け入れる度量が無くては、エゴに支配される人間に早晚、陥ることでしょう。むしろ、それまでの自分を振り返り、不要なもの、未整理な状況を自ら明らかにして整理する作業が必要だと考えています。いわゆる心の「棚下ろし」作業です。自分の心の状況を左右している要素は何と何であるかを改めて整理すると、意外に悩みの本質的内容は小さいものであることが多いものです。心が勝手に騒いでいたという事例も私自身、数多く体験しています。

210 Little did they know that what they were searching for was the other half of themselves which was not to be found in the darkness of their own opinions. For this is found in the light of consciousness which they never did enjoy. Yet it was always there, for every now and then the light would penetrate the darkness of the wooded country, but they failed to see and understand it. There are those who have followed the light of consciousness and found the way out and felt and enjoyed the freedom of the open country. And thus they experienced a lasting security that was never known before. Yet others not realizing what they had found, returned back into the darkened land only to be lost again. And they continue to create forests of darkness through which it will be harder to find the way as time goes on.

210 彼等は自分達が求めているものが自己の意見という暗闇の中では見出せない自分自身の半身であることが少しも分からないのです。何故なら、これは彼等が決して享受したことのない意識の光の中において発見されるものだからです。それでも、それはそこにいつもあります。何故なら時として光は木々に覆われた土地を貫くことがあります。彼等はそれを見落とし、理解し損じるからです。また、意識の光に従って外に通じる道を見出し、広がった大地の自由さを感じ、楽しむ者もいます。そしてこのように彼等はこれまで経験したことのない永続する安心感を体験するのです。それでも他の者達は自分達が何を発見したのかを自覚せず、再び暗い土地に戻って行き、ただ再び道に迷います。そして彼等は時間が経つにつれ見出すのをますます困難にさせる暗黒の力を造り続けるのです。

【解説】

求めているのは実は自分のもう一つの半身であるというのは、大変重要なポイントです。私達は失敗の原因を外、即ち環境のせいにし、生きる目的もまた、何か外に求めて様々に放蕩して来ました。その都度、街には勧誘の声があり、成功事例を伝える本も多数出回っています。私達はこれまで、それ程に外界に目を向けて来ましたが、これらのいずれもが結局は期待を裏切るものであった訳で、探し求めて来たものは最も近くにあったということです。

従って、逆の言い方をすれば、外に答えを求めても目的は達せられず、己の内面の隅々を照らすことで真の生きる満足が得られるということでしょう。それにつけても動物達は見ている、実に満足そうな生活振りです。どのような環境に置かれようとも、日々の生活は楽しさで満たされているように思えるのです。わずかな距離でも喜んで飼い主と散歩に出る時の犬の姿からも満足することの大切さを知ることが出来ます。

211 This recalls an incident which happened to my wife Mary, who has since passed away, when she became lost at night fall in a jungle of high wild lilac which covered only a half acre of land. She became frightened and called for help, even though she was only about 500 yards from home. This is used only as an example to show how easily one can become lost in a jungle of self opinions which are contrary to cosmic purpose.

211 このことはずっと前に亡くなった私の妻メアリーに起こったある出来事を思い出させます。それは彼女がわずか半エーカーの土地を覆っていた野生の背の高いライラックのジャングルに夕暮れ、道に迷った時に起こりました。彼女は恐ろしくなって助けを呼んだのです。家からわずか500ヤード足らずの所に居たにもかかわらずです。この事例は宇宙的目的に正反対な個人的意見というジャングルで人は如何に簡単に道に迷ってしまうかを示す例として用いているにすぎません。

【解説】

光に対する闇の意味合いは古くから迷いの象徴として言及されて来ました。確かに、あたりが暗い環境は私達の心に不安（恐怖）をもたらします。それほどに私達は目に頼った生活を送っている訳です。しかし、現実の物体は光にさらされていなくても（即ち目に見えなくても）、そこに存在します。事実、自分の体内の各器官は視覚を持たず、闇の中でも着実に所定の働きを続けています。丁度、無味無臭の空気を嗅いだ場合の感覚器官の反応と同様に、本来は視覚だけが「見えない」と指摘するだけの状況にも拘わらず、視覚への依存度が強い為に、主人公である本人全体を混乱に陥れているのです。

この例え話はそもそも、個人の意見の乱立から生じているとしています。様々な主義主張によって本来の太陽の光は地面に届いていないと言っているのです。言い換えれば様々な主張が乱立している為、それらが繁茂し本来の真理の光を覆っていることを意味しています。現代、世界各地で起っている宗教対立等もその例です。それゆえ、各自は少なくとも自分の周囲についてはこれらの思想の木々を整理し、要・不要を明確にさせて、単純化した生き方を進めるべきでしょう。そうすれば、遠からず宇宙本来の意識の印象（光）が暗い足下を照らすことになるということです。

212 It is unfortunate that 99% of the human kind are living in this kind of a jungle of the mind. When they could enjoy the consciousness, the other part of themselves that has everything that the human will ever need. For they could enjoy a life free from fear, with which the mind is shackled. There is one thing we can say for the noble space people, their minds follow the consciousness of the cosmos. And even though they are not perfect in its execution, they will be in time for they follow the guidance of consciousness.

212 残念なことに人類の99%が心のこの種のジャングルの中に生きています。彼らが人間が欲するあらゆるものを持っている意識すなわち、自身のもう一方の半身を享受することが出来るのにもかかわらずです。何故なら心が鎖で繋がれた恐怖から自由になれば生命を楽しめるようになるからです。高貴な宇宙人達について一つ言えることがあります。彼らの心は宇宙の意識に従うということです。そして彼らはその実行において例え完全ではなくても、彼らはいずれそうなるでしょう。彼らは意識の導きに従っているからです。

【解説】

第5課のまとめです。私達は心の勝手な意見に振り回され、本来の宇宙からの印象が入り込む余地がない程に密生したジャングルの中で生きています。しかし、これでは暗闇の中を手探りで林立する意見という大木に触れ、またしばしそれに頼って生活しますが、一向に森を抜け出すことはできません。

一方、よく「無心」で事を成すという表現がありますが、人を除く他の創造物においては心はそれほど増長していません。心に左右されない生き方こそ王道なのです。心の占める割合を小さくして、宇宙から直接やって来る印象（インスピレーション）に従う余地（ゆとり）を常に残しておく必要があります。「心貧しき者は幸いである」、「幼子のようにならなければ天国に入れない」という言葉も、このような素直な心の状態を指すものと思われれます。何事も心で考えていたのではスピードも遅いし、雑念も入り込みます。そういう意味では、もっと心を小さく、言い換えれば心を謙虚に保って、心自らは創造主から常に指導を受ける身であることを自覚することが大切です。

各自、日常生活においてこれを実行する上でどのようにした方がよいかは一概に言えませんが、毎日毎日その方向への少しずつの積み重ねが最終的には揺るぎない良い結果をもたらすことは確かです。感性の高まりや心の状態のレベルアップが日常生活の改善に及ぼす効果は絶大なものがあるからです。

213 In the next lesson I will explain the importance of newness in order to maintain a youthful body.

213 次の課では若さあふれる身体を維持する為に新しさの重要性について説明しましょう。

【解説】

「同乗記」には宇宙人達が旅行中に暮らす宇宙船の中に若者の肖像画が掲げられており、彼等は若さを大切にしていることが伝えられています。ともすれば、難解な思想哲学は老人の学問とされがちですが、それは地球だけのことで、宇宙普遍の真理は各自の体内で日々細胞が更新されているように常に若さを保っており、若さを保っていることが真理を掴んでいるバロメーターでもあります。

この講座で学ぶ事柄は訳知りの知識の蓄積ではなく、各自の日々の心の有り様に関する実務的な訓練であり、各自の生活（生命）に直結した内容です。究極の目的は私達が生きる惑星全体が他惑星と同様に進化の道を歩めるよう、伝えられた知識を自分なりに吸収し応用することです。元来、生命活動は生き生きしたもので、早春に木々の芽吹きが一斉に起るのを見ても分かるように常に更新、再生を繰り返します。宇宙を通じて流れる意識は天地創造の昔から老化することなく、変わらぬ働きを続けています。他方、形あるものには老化はつきものですが、少しでも意識、宇宙の活動を取り込むことで若さを維持したいものです。

LESSON SIX Newness, The Rejuvenator Of The Mind

214 In lesson five we showed you how the mind can get lost in the jungle of opinions.

第6課 新しさ、すなわち心の若返りの推進役

214 第5課では私達は皆さんに心が意見というジャングルの中で如何にして道に迷ってしまうかを示しました。

【解説】

私達は様々な思想や宗教、また多くの社会経済理論にさらされた環境の中で生きています。しかし、これらは所詮、人間が造り出した意見に過ぎません。また、次々に自らの心も勝手な理屈を並び立てますので、人の心の中は、これらの意見でいっぱいになり、静かに環境を見詰める余裕はありません。その中で私達のほとんどは思い通りにならない状況を悲しみ、別の生き方を模索はするのですが、それも惰性に流されてやがてその暗闇の世界に安住せざるを得なくなっています。

しかし、この闇から抜け出る方法についても私達は前課で学んで来ました。特に意識からの指導を受け入れる際には徹底的に素直になり、印象の流れを中断させないことの重要性について何度も述べられて来ました。一方でこのような好ましくない環境の下では、心身共に老化が早まるのは仕方のないことです。本課は心と身体に関連性について明らかにし、新しさや新鮮さが若さの秘訣であることを解説します。

215 You see the body is on one hand independent of the mind, yet on the other hand there are certain cell groups that are related to the mind and obedient to it. This is the cause of the conflict that a human finds himself in daily. The mind is inclined to be habitual and lazy. It would rather travel the road of least resistance than the road of progress that calls for steps yet unknown. This is why we are plagued with tradition and conventions of ancient times that no longer fit into our present way of life. But despite this, the mind must accept things from time to time whether it likes it or not.

215 おわかりのように肉体は一方では心からは独立していますが、他方では心と関係を持ち、心に従順な或る細胞群もあります。これが人間が日常、自分自身に葛藤を感じる原因です。心は習慣的で怠惰になる傾向があります。それは未知なる階段を必要とする進歩の道よりも最小限の抵抗しか無い道を歩むことを常としていました。これが私達が今日的生活方法にはもはや当てはまらない古来の伝統や因習に患っている理由です。しかし、これにも拘わらず、心は時としてその好き嫌いによらず物事を受け入れなければならないのです。

【解説】

本課では「新しさ」の重要性を学ぶことになっています。ここでは「新しさ」に対峙するものとして「古来からの因習」や「日常習慣」の問題が指摘されています。通常、私達は安住の道を選びます。その方が楽であり、とりたてて苦勞することは無いというのが私達の基本的傾向です。それが今日の問題の元凶であると本稿は指摘しているのです。

逆に言う「新技術」や「新製品」などの物質面の「新しさ」は大歓迎である一方で、各自の日常生活についてはある程度パターン化され、各自平日はどのような生活時間、土日はどのような過ごし方になるかはほとんど決まっているということもあるでしょう。特に年令を重ねるにつれて、この生活のルーチン化は定着して行き、遂には「10年ひと昔」というように毎日、何らの新鮮さを体験しないまま時を過ごすことが多くなるのが、地球の現実です。

しかし、これらの習慣に流れる生活は、最も危険な状況であることに気付く必要があります。中高年の肥満、「生活習慣病」は言葉の印象としては、重病であるというイメージはありませんが、実は糖尿病や動脈硬化等の致命的な病に直結しています。一日の過ごし方、生活の仕方が翌日の自分自身に大きな影響を与える訳で、努めて習慣を排除する、分かりやすく言えば、毎日、何が昨日と違った生活内容となっているかを自分に問いかけ、一日一日を新鮮に生きる必要があります。私達の心の習慣病にも気付く必要があります。

216 We can be thankful for the small minority of people in the world that are constantly looking for something new, not satisfied to live the doctrines of the old. It is this class of people that keep agitating the majority of the minds towards the better way of life without violence but with an understanding. The masses move very slowly and if it were not for this class of people that make them listen to the new phases, they would have been extinct long ago. Decayed by the law of monotony. But the newness that the few bring to the attention of the masses keeps them going. Slowly but surely.

216 私達は昔からの教義に満足せず常に何か新しいことを探し求めている少数の人々に感謝すべきかも知れませんが、暴力によらず共感をもって大半の人々の心をより良い生活の方向に進むよう促し続けるのはこの部類の人々です。大衆はとてもゆっくり動くものですし、もし新しい側面について耳を傾けるよう促すこの部類の人々がいなかったら、彼等はとうの昔に消滅していたであらうでしょう。退屈の法則によって朽ち果ててです。しかし、大衆の注目を引き付ける新しいものは、彼等を歩み続けさせます。ゆっくりですが、確実にです。

【解説】

昨年、日本の月探査衛星「かぐや」が月の周回飛行を達成し、月面上空を周回する際の鮮明な映像が公開されました。まさに、未知なる世界の探究心を掻き立てるのが宇宙探検です。本項でいる現状に甘んじることなく、常に探究心を持って新しいものに挑戦することが人々の意識に大きな効果をもたらすことは、この「かぐや」の飛行映像を見れば良く分かります。宇宙への進出は大きな意義がある訳で、今後もこの方向で進んで行って欲しいものです。

さて、日常生活においては、各自、昨日とは異なる何かひとつでも新しいことに取組む必要性については、前回述べたところです。ここでは、かつて新聞で読んだ横尾忠則氏が「こころの玉手箱」(2006年8月25日、日本経済新聞)で書かれた画家デ・キリコに関する論評(「自由自在なスタイル 魂の解放」)を以下に紹介しましょう。

「(中略) デ・キリコのいさぎよさというか捨て身の精神は評価の定まった自作を惜しげもなく捨て、まるで画学生のように過去の巨匠の名作の模写などを始めるところだ。成功した人間のやるべき態度ではないが、ここんところがなんといっても凄いのである。一度評価されればその上にあぐらをかいて金太郎飴みたいに記号化された作品ばかり描き続けている画家に比べると、デ・キリコのスケールの大きさはピカソに匹敵するか、場合によってはそれ以上であろう。彼の自由自在さは思考や魂の解放度によるものと思う。小さい自我の世界に閉じこもっている以上、あれほどの仕事はできない。一度ローマのキリコの家を訪ねたことがある。その時アトリエに立て掛けてあったイーゼルの裏に『自分以外の力の助けを信じる』というような意味の言葉が書かれていた。どうやら、デ・キリコの秘密がここにあるように思えた。それ以来ぼくもできるだけ小さい『私』に固執せず見えざる助力者の存在を信じることにした。」

偉大なる芸術家は皆、創造主に寄り添ってキャンバスに向っているということでしょう。

217 Newness is youth as well as progress. And there is some evidence today of the effect that newness has on society. For we can observe increasingly large numbers of people who do not show their age as they did in the past because in these days of scientific discovery something new is brought to their attention almost daily. Whether they understand or not the effects are there. Since man is nothing but a thought in action, any new thought, especially of cosmic nature, will have an effect upon his body.

217 新しさは若さであり、進歩でもあります。そして今日では新しさが社会にもたらしている効果についていくつかの証拠があります。何故なら私達は今日の科学の発見の時代にはほとんど毎日のように何か新しいものが注目される為、かつてのように年令を思わせない多数の人々がだんだん増えているのを見ることができるからです。彼等が理解しているかいないかは別としてその効果はそこに出ているのです。人は行動する想念以外の何物でもない為に、如何なる新しい想念であれ、とりわけ宇宙的性質を帯びたものは、その肉体に効果をもたらすことでしょう。

【解説】

かつては人生50年と言われた時代もありますが、今日では平均寿命も80才を越えてやがては90に届こうという時代になりました。これも本項でいう文明の進歩、日々の発見の賜物であるということでしょう。

私達がこの生命の科学を学ぶ主目的が健康維持とか若返りとするものではありませんが、少なくとも先輩である宇宙兄弟達が驚くほどの若さを保っていることを考えれば、進歩するにつれて身体の老化は防げることが良くわかります。

自らが取り入れる想念によって肉体は大きな影響を受けます。自身を構成する60兆もの細胞の全てが主人である心が発する想念に否応無しに影響を受けることでしょう。マイナスの想念が発せられた場合には、大混乱を来しますし、本来の活動は抑制されます。一方、プラスの想念の場合には、各細胞は疲れを感じることなく喜んで驚くほど活発な活動を維持するものと思われれます。しかし、何度もマイナスの想念で痛めつけられてはさすがの細胞も遂には活動を継続できなくなる訳です。言い換えれば、私達の心を自身の細胞の活動の邪魔をしないようにしなければならないということです。

新しさは一方では私達が陥りやすい惰性を排除することでもあります。身の回りを見渡して、常に課題を整理し、未着手の問題に取り組むことも、本項でいう「新しさ」に属する取組の一つと考えています。

218 Let me clear the point of man being a thought. To create a form like that of man or any other, whatever is responsible for creating the form had to have a thought pattern of the form before it could be created. Man is a thinking being, for if he did not think he would not be what he is as thought is the motivating force of his being. He has to think before he can walk or eat and no matter what he does he has to have a thought as a director. And these thoughts come to him either as a combination of past experiences, associations with others, or as cosmic impressions.

218 人が想念であるという要点について明確にして置きましょう。人あるいは他のどのような物でも形を造り出す為には何者かその責務を担っているにせよ、それが創造される前にその形についての想念パターンを持たねばなりません。人は考える存在です。何故なら想念がその存在の原動力である故に、もし考えることをしなければ、人は自分が自分であることがなくなることでしょう。人は歩くにせよ、食べるにせよ、その前に考えなければなりませんし、如何なることをするにしても想念を指揮者にしなければなりません。そしてこれらの諸想念は過去の体験や他との結合として、あるいは宇宙的印象類としてその者のところにやって来ます。

【解説】

「人間は考える葦である」という言葉が伝えられている通り、何を考えるか、考えているかが本人を決めるということです。言い換えれば刻々、どのような想念を取り入れるか、どのような想念を発するかについては大変、重要な意味を持っていることを意味します。世間の常識では行動に移さなければどのような想念を抱こうと、罪に問われることはありません。どのような残虐なゲームでもそれが仮想の世界なら問題視されることはないのです。しかし、想念こそが自分自身であるということは、そのような想念を抱くことこそが大きな問題だと言わねばなりません。暴力が横行する社会、殺戮の争いが続く世界に現代の地球が進んでいるように思うのは私一人ばかりではないと思います。実は、その大きな背景の一つに映画やコンピューターゲーム等を通じて若者の心に野蛮な想念が吹き込まれていることがあると考えています。

ですから、日々の生活の中で、自分がどのような想念を取り込んでいるかについては、よほど注意しておかなければなりません。毎日、心に取り入れる想念こそがその人の人格を造り上げるからです。

同様なことは他の多くの賢人達も指摘しています。ウェイン・ダイヤーやジェームス・アレン等、人が抱く想念の重要性を繰り返し指摘しています。つまりは人間の価値はその肉体にあるのではなく、その抱く想念にあるということで、その想念を磨くことこそが大事だということです。

219 Now let us observe how different types of thoughts manifest. If an angry thought enters the mind the facial expression changes to represent the anger. And if a happy thought is present it expresses, etc., etc. It is no different than a sculptor who molds out of clay a thought that he has in mind. So a thought whatever it may represent is like the sculptor for it molds the facial expression to represent itself. So we as intelligent beings desiring youthful, healthy, well proportioned bodies should always have that type of thought for it will mold the body according to its pattern. And a thought of newness especially along cosmic lines is important if the body is to maintain youthfulness.

219 それでは如何に様々な想念が体現するかを観察することにしましょう。もし怒りの想念が心に入り込むと、顔の表情は怒りを表わす為に変化します。また、楽しい想念が居合わせた場合にはそれはそれこれの表情を表わします。それは彫刻家が心の中で抱く想念を土からかたどるのと違いはありません。ですから想念がどのようなものを表わすにせよ、彫刻家のようなものです。それ自身を表現する顔の表情をかたどるからです。ですから若く、健康で良く調和した肉体を望む知性的存在である私達は常にその種の想念を持つ必要があります。何故なら想念はその想念パターンに従って肉体をかたどるからです。そして特に宇宙的分野に沿っての新規性ある想念は肉体が若さを保つ為には重要です。

【解説】

このように想念が人間の表情をはじめとして大きな影響を与えることは自分自身の例からも良く分かります。しかし、一步下がって、人以外の自然界にある者はどうでしょうか。いつも感じることは野生動物達は決して世をはかなんだり、自暴自棄になったりせず、淡々と自らの環境を受け入れ、その環境の中で楽しんでいるということです。

池のコイは寒い季節はじっと池底で春の来る日を待っていますし、水が多少なりとも暖まれば餌を求めて動き回ります。彼らは自分達にあてがわれた池が狭いことや水が汚いと不平を訴えることはありません。また、網に捕獲され人の食用に切り裂かれる直前には、「まな板のコイ」として自らの運命を観念します。一方、昆虫の世界に目を置けば、多くの者が1年という短い生涯を過ごしますが、生きている時間が短いからといって、創造主に不平を言ったり前途を悲観して安易にクモの巣に身を投げ出したりはしません。例え最後は羽がボロボロになっても花の蜜を吸い、与えられた命を精一杯生きています。

このように考えると彼らの中に流れている想念は常に明るく楽しいもの、感謝に満ちたものであるように思われます。実際には人間以外の全ての創造物はそのような明るい想念を維持しており、一人人間だけが迷いの世界にうろついているということでしょう。

毎日昇る黄金色の太陽は、この太陽系の万物に等しく力強く生命を謳歌せよというメッセージを放っているように思います。ちなみにヨガの中には太陽礼拝のポーズというものがありますが、古代の人々が生命の象徴、命の再生の証しとして日の出の太陽を敬っていた気持がこの動作を行うことによってよく分かります。

220 The masters of the ages taught one cosmic principle - As A Man Thinketh So Is He. We can now see how the people on planet Venus maintain a long and useful life. For they are constantly thinking in terms of newness. And a form 500 years old, of our time, looks youthful and in the prime of life. While here on earth we look older at 40 than they do at 700 years. But we are thinking in terms of age and are governed by habits that are thousands of years old. And you cannot feel young by wearing an old cloak for it will have an influence upon you. An old dress or suit, even though made of very good material, will make you feel old everytime you put it on. So will the old thoughts. We know that new clothing makes us feel younger, and so will new thoughts when we have them continuously.

220 各時代の指導者達は皆、一つの宇宙原理を教えました。人は思った通りの者になるのです。私達は今や金星の人々はどのようにして長く有意義な人生を保っているのかを知ることができます。何故なら彼らは常に新しさの視点で物事を考えているからです。その結果、私達の時間で言う500才の肉体も若々しく生命の全盛期にあるように見えます。一方、ここ地球では私達は40才ですら、彼らが700才で見せる以上に年老いて見えるのです。それでも私達は年令で物事を考え、何千年も古い習慣に支配されています。ですからあなたは古い外套を着ていては若さを感じることはできません。それがあなたに影響を与えるからです。とても良い材質で出来ていたとしても、古いドレスや服はそれを着る度にあなたに古い感じを起こさせることでしょう。ですから、古い想念も同様です。私達は新しい衣服があなたを若々しく感じさせることを知っていますし、新しい想念も私達が常に保つならばそれと同様となります。

【解説】

身につける想念を常に新しいものに保つことの大切さを述べています。

人はその取り入れている想念の通りになる訳で、新しい想念を保つことが若さを保つことにもなるのです。しかし、現在の私達の社会は個々の人間の状況に関わらず、「年令」で全てが規程されています。会社勤めの場合にはある年令に達したら退職となり、代わりに年金が支給され、老後の生活を始めるように指導されます。

反省材料として、私達自身があまりにも年令に囚われて生きているということもその背景にあると思われます。常に新しさを求め、古くなった概念を捨て去ることも重要です。それには、まず、何が自分を支配している古い考えかを洗い出し、それらの有益／無益を判定し、不要なものを捨て去ることが必要となるかも知れません。いわゆる身辺整理を常に行って古い不要なものを捨てることで、心の中にもスペースが出来るものです。

新しさを取り入れる為には、自身を身軽にすることも大切だと考えています。

221 But if the new thoughts are going to have the results that we desire they must be given top priority and not mixed with opposite thoughts. For this creates a conflict in the body and the results are anything but good. It is not going to be easy to maintain such thoughts at first, but determination will accomplish the desired results.

221 しかし、もし新しい想念が私達が望む結果を得るといふ為には、それらの新しい想念は最大限の優先順位を与えられ、対立する想念と混ぜられることがあってはなりません。何故なら、こうすることは体内に葛藤を造り出し、その結果は良いものとは決してならないからです。最初の内はこのように想念を保つことは簡単ではありませんが、決意は望ましい結果を達成することでしょう。

【解説】

例え新しいアイデアが心に湧いたとしても、それから十分な成果を得るためには、そのアイデアに基づいた行動が必要なことは言う間でもありません。また、心の中でも旧来の想念の傾向と相容れないものがあれば、心の中でその浮かんだアイデアを保持することさえ難しいものです。

ここで、アダムスキーはその新しいアイデアに最大限の優先権を与え、他の古びた想念との対立や心の中の争い（迷い）を消散させるよう強調しています。昔から「心ひとつに」という言葉がありますが、心の中に多くを溜め込まず、言い換えれば「心を貧しく」して、唯一、自分が取り入れるべき想念のみを大事に保持することが大切だと言っているのです。

もちろん、雑念も同時に心に立入らせてはなりません。ある意味、その想念を中心に据えることではじめてその想念本来の力が発現するということでしょう。よく芸術家は制作途中では、作品を前に自我を没入させて、自分のアイデアを投影した作品に仕上げますが、これと同様に、若さとはこうした想念の集中力をも意味します。わずかの間でも精神の活発な活動は密度の高い時間を過ごさせますし、これらの体験も肉体の若返りに必要な要素なのです。

222 In the first part of the lessons we mentioned group cells that are related to the mind and take orders from the mind. 90% of the other cells take orders from the consciousness. Yet they can all be made to take orders from the consciousness, which they must do eventually if the ego is to survive.

222 教科の最初の部分で私達は心と関係を持ち、心の指令を取り入れる細胞群について述べました。しかし、90%のその他の細胞は意識からの指令を取り入れています。それでも細胞にすべて意識からの指令を取り入れさせることは可能ですし、それはエゴが生きながらえる為に、最終的にしなければならないことです。

【解説】

以前にも述べたところですが、スポーツ選手の華麗な演技には目を見張るものがあります。体操やフィギュアスケート等、目も追えないほど次から次ぎへの妙技は人間の身体の可能性を示す良い例です。これらは人間の身体細胞が高速度に通過する想念の指令に応えている結果です。心が意識に従えば、このように肉体を最高レベルの表現まで高めることが出来るということです。

本文では人間の肉体の内、10%が心の言いなりになって日常を支配しているとしています。具体的な部位は不明ですが、各種の神経系統等、心の意志を伝達する細胞やそれに基づいて活動する範囲等も含まれているものと思われます。人体には依然として未知なことが山積しています。とりわけ心と肉体のつながり等、外側からの科学的手法では捉えきれない面も多い訳で、何より自分の心も研究対象として学習して行くことが本講座の本質だと思っています。

223 Here is an example of grouped cells. First we will use the ones associated with the mind. The mind is alerted to take on food due to past habits for the body needs fuel. But as stated before, the mind does not know what is to be done with the food when it enters the body. But there is a group that does know, and while the mind is entertaining itself with something else this group goes on with its work. I have used this example for years in lectures and class work, but it illustrates very well, so I will use it again. Once the food enters your body the intelligence independent of the mind goes to work on it. We will class these workers in four groups, each working in behalf of the other.

223 ここで群れになった諸細胞の例をお話しましょう。最初は心に関係した細胞群を取り上げたいと思います。心は過去の習慣の結果、食物を摂取するよう絶えず注意を払っています。肉体が燃料を必要とするからです。しかし、以前述べたように心は食物が肉体に入った後、その食物に何が起るかについては知っていないのです。それでも知る集団が居て、心が何か他のことで楽しんでいる間に、この集団がその仕事に従事します。私はこの例えを講演や教室での講義で何年も使って来ましたが、それでもこの一例は大変よく問題を表わしている為、再び用いることにします。ひとたび食物があなたの体内に入るや、心から独立した知性はその食物に対して働きます。私達はこれらの働き手を各々が他の為に働らく4つの集団に分類することにします。

【解説】

私達の心の欲望の大きなものの一つに食欲があります。人間、肉体を維持するためにはもちろん適宜、その材料を摂取する必要があります。しかし、実際には私達の関心は、食物の味が良いか悪いかであり、身体に必要なものであるかどうかまでは考えておりません。またその欲望も胃袋が「もう入らない」という所まで詰め込みたいと思っておりますし、詰め込んだ後は身体の中の誰か別の者に託して、自らは眠りに就くか、他の関心事に興味を移します。食べることに関するこれら一連の私達の日常を見れば、本項で言う「心に関連した細胞群」についての実像が分かると思います。

一方、現代人の生活習慣病の大半がこの「食べる」ことに関連しています。体重管理は自分の食へのコントロールが基本です。カロリーの他、塩分や油分の摂取を抑えることが健全な食生活の基本ですが、それも心の構成要素とされる感覚器官の言うなりにならない姿勢が拠り所となります。食という最も身近な行為の中にも問題の本質が秘められています。

224 The first group starts the fermentation. The second group makes a perfect blend of the chemicals extracted. The next group eliminates the gases that are produced during the fermentation. Finally the scavengers throw off the waste matter that is left. If this process functions naturally you will never know a sick day. But if the cells related to the mind interfere with the cells that are doing the work, by the mind becoming angry, we know what the uncomfortable results will be.

224 最初の集団は発酵を開始します。二番目は抽出された化学物質の完全な混合を造り上げます。次の集団は発酵の間に生成されたガスを排出します。そして最後は、掃除人達が残った廃棄物を捨て去るのです。もし、このプロセスが自然に機能するなら、あなたは決して具合の悪い日を経験することはないでしょう。しかし、もし心が怒ったりすることによって心に関係している細胞達がこの仕事をしている細胞達の邪魔をすれば、どのような不愉快な結果になるか私達には分かります。

【解説】

食物が飲み込まれた後、体内では各々の消化器官で必要な処理が行われます。消化器官からは必要な消化酵素が分泌され、混合されて所定の反応が進んだ後、必要な栄養分は吸収され、不要な部分は排泄物として体内から排除されねばなりません。これら一連の働きを著者は四つの細胞群が行っていると言っています。現在の段階ではどの部分が個々に該当するかはわかりませんが、これらの四つが食物の消化の基本的な段階だと言うことでしょう。

問題は、私達の心のとりわけ怒りがこれらの働きを妨げ、自分の肉体の不調の原因となっていることです。昔から「怒を敵と思え」という言葉が伝わっています。それ程にその強烈な心が発する感情は自身の肉体にとんでもない悪影響をもたらすということです。少々古いのですが、著名な精神科医の斎藤茂太氏の記事（2003年9月22日 日本経済新聞）の中に「一怒一老」という言葉がありました。現代のストレス社会の中ではうつ病が非常に増えているとのこと、不況も手伝って世の中が世知辛くなっていることが背景にあるとしています。こうした中で苛立つ人間が増えていることは毎日の通勤時によく見かける光景です。決してルーズで安直な道に進めということではありませんが、如何なる時代にあっても心の横暴を監視し、コントロールすることが必要だということです。

225 This shows that the cosmic plan is orderly, but the mental is not stable and needs guidance.

225 これは宇宙の計画は整然としているが、心は安定せず、導きを必要としていることを示しています。

【解説】

一つの結果を出す為には、背景に幾つかの段階があります。前項の食物の代謝にしても体内においては一定の過程に従って実行され、各段階に特定の酵素が作用して初めて所定の反応が完結します。これらは本項で言う「秩序」と言うことです。

しかし、私達の心はこれらとは一切お構い無しに自分勝手な意見を押し通しています。もちろん、自分が理解する範囲しか受け入れられない訳で、改める為には様々な人の体験を聞き、考え方を学ぶことが必要です。その中で心がどのレベルまで昇華できるかを見定めて、自分自身に反映させることです。私達の心は単独では生きられない故に、今までは貯えや家族を頼りにして来ました。しかし、本書で繰り返し述べているように、自分自身にあるこれら秩序立った宇宙的存在こそ、最も頼りにしなければなりません。

東京では昨日、雪となりました。一夜明けると白銀の世界。空も雪のお蔭で澄み切った青空です。その朝日が普段より明るいのは一面に覆われた雪のお蔭。鳥達も木々に照る朝日にうれしそうに鳴いています。あらゆるものの汚れを包み、純白にする天の力を今朝、感じた人も多いことでしょう。

226 As stated before, the body is made of trillions of cells, grouped for perfect maintenance and operation. No different than the structure of the cosmos, and the body has all of the cosmic force supporting it. And when the human mind is working in behalf of the cosmic plan, instead of self, it never knows any unpleasant effects. For then it is free from discrimination, judgements, and likes and dislikes.

226 以前に述べたように、肉体は何兆もの細胞から成り立っており、それら細胞は完璧なる維持管理の為にグループ化されています。それらは宇宙の構造と何ら違う所は無く、肉体はそれを支える宇宙の力の全てを持っています。そして人間の心が自身の為でなく、宇宙の計画の為に働いている時は、不愉快な結果を決して経験することはありません。何故なら、その時、人は差別や裁き、好き嫌いから離れているからです。

【解説】

自らの肉体が生きた教材であることの意義は大きいと言えます。他人にはごまかせても、自分自身の内面の状況は自分自身がよく知っている訳ですし、その状況が最も近い自身の身体にも反映され、直ちに結果を見ることが出来る組み合わせは他にありません。

とりわけ、注目したいのは、その教材が時間とともに変化することです。内面である心については幼児の頃から今日まで心は誰か他の者と入れ替わることなく続いて来ている筈です。昔は実現しそうにないと思ったことが、何十年か経過すれば出来るようになっていく（実現している）ことによって、進歩を実感することが出来ることでしょう。確かに、私達自身も進歩しているということです。

しかし、それでもその進歩のレベルは自身の体内で日々為されている精密・精緻な代謝反応と比べれば微々たるものだと言えるでしょう。その原動力は宇宙から来ると本項では言っています。私達の心の関心を自身に働くこの宇宙の力に向け、そこから学ぶことが出来れば、更に進歩の度合を高めることができるということです。食事の後のひとときを自身の体内で活動してくれるこれら細胞群の働きに心を傾けることも必要です。

227 The cells in the toe are different from those in the finger but each group is working with the others to make the body a perfect manifestation. And the same power and guidance lends itself to all alike. This is no different than the cosmic expression in the earth's cell structure. For from the lowest expression in the mineral kingdom and through the millions of nature's manifestations the same power and intelligence is expressing in varying degrees. This law is constant and does not change to favor one form, or a planet, above another.

227 足指の細胞は手の指のそれとは異なりますが、それでも互いのグループは人体を完全な創造の現れにする為、共に働いています。そしてそれと同じ力と導きが万物に等しく授けられています。このことは地球の細胞構造における宇宙の表現と違うものではありません。何故なら、鉱物王国における最低位の表現から、そして何百万もの自然の創造の現れを通じてこれと同じ力と知性が様々な度合で表現しているからです。この法則は不変であり、ある一つの形あるものや惑星の便宜を図る為に他に優って対応を変えることはありません。

【解説】

人体の各部・各細胞の身体全体における関係は惑星全体における地球構成要素である鉱物から動植物までの様々な構成と同じだと言っています。

人体の事例が良いのは、その一体感が良く分かるからです。もちろん、かゆい所、痛い所等、身体の中にあって問題の生じる場所は異なります。通常、私達の心は容姿等、表面の部位については気にしていますが、内側の大部分については無関心です。時たま、その部分が何らかの問題が生じて声を上げるとようやく気付くのみです。しかし、主人である私達の心の関心には関係なく、各部は相互に支えあいながら無言で働いています。もちろん、その働きは宇宙意識の指導によるものですが、ここで注目したいのは、各部は個別が独立して存在するのではなく、互いに支えあいながら、一個人としての人体を維持しているということです。とりわけ、各部が一体となっている点に注目したいと思います。

心静かに、身体各部に意識を巡らして見ても、各部は体全体として一体化しています。「私は足だから」、「私は手だから」とは主張しませんし、皆全体として人間が行いたいと思うことの実現に向けて、出来る限りのことを無報酬で行っています。即ち、各部が奉仕することで身体の役目が果たされるということです。本項座の人体の例で読者の皆様に感じて戴きたいのは、皆様ご自身の肉体各部が如何に皆様の意向に沿って日常働いているかということです。

228 The only difference between man and nature is - nature has no will of its own for as stated before, it is under the will of the All Inclusive Intelligence. Man as the highest expression was endowed with a free will mind, and it is here that he has his trouble. For the mind as an effect guides itself by other effects instead of lending its will to the will of the Cosmos. The reason that man was given a free will mind was that he might learn from The Supreme Intelligence the way and purpose of life. And he is endowed with the potential of becoming like his creator and say as Jesus did, I and the Father are One, and when you look at me you see the Father. The Venusians and other planetarians endeavor to express this daily by willing their minds unto conscious guidance. And we must do this if we are to fulfill our purpose.

228 人と自然の間の唯一の違いは、以前述べたように自然は自身の意志を持たないということであり、それは全てを包む知性の意志の下にあることです。最高位の表現物である人は自由意志の心を与えられており、そのことが人が問題を抱える所となっています。何故なら一つの結果物である心は宇宙の意志に自らの意志を貸し与える代わりに他の結果物で自らを導いているからです。人が自由意志を与えられているのには人は最高位の知性から人生の歩むべき道と目的を習うだろうと期待されているという訳があります。そして人は創造主のようになり得る能力を授けられていますし、イエスが私と父とは一つである、あなたが私を見る時、あなたは父（訳注：創造主）を見ているのだと言ったようにです。金星人達や他の惑星人達は彼らの心を宇宙の導きに喜んで従わせることによってこのことを表現しようと毎日努力しています。そして私達も自分達の目的を達成するつもりなら、同じことをしなければなりません。

【解説】

この講座を学び真理を身につける目的は、ただ、世の中の本質を見極め訳知りの顔でこの混乱の世の中を横目で見ながら、自らは安住の暮らしを送ることではありません。ここで注目したいのは、他の惑星人でさえ、毎日自らの心を意識の指導に委ね、自らを創造主に似ようと努力しているということです。

私達より数千年も進化を遂げた人達も日々の努力目標として創造主に近付こうとしています。いわんや私達は自分の一日の目標として自らの創造主と向き合おう、創造主の意向に沿った生き方をしよう、とどれほどの努力をしているのでしょうか。私達の前には長い道程がありますが、少しずつであっても一步一步自分の足で確かめながら歩むことが価値あるものとなることでしょう。彼ら宇宙人も私達も同じ道を歩んでいる訳で、時々こうしたアドバイスが後輩達を励ますのにおおいに役立っています。

229 After thousands of years of living as we have, becoming habitual individuals, we have created habitual cells in relation to the mind. And habits do become hungry for their own food. i.e. An alcoholic's mind knows that it is not good for the body to go to extremes, but the habit is the master of the mind. The mind lost the strength of its will and the power of determination to oppose the habit so it continues as a slave to the habit. And this is true of all habits, for most of them operate in extremes. This does not mean that you cannot take a drink or do similar things, for all things are good in moderation. But it does mean that one should be determined to be the master of his life rather than have the habits master him.

229 私達は何千年もの間、このように生き、習慣的な個体となった結果、その心に関連した習慣的な細胞を造り上げてしまいました。そして諸習慣はそれら自身の食物を求めて腹を空かせるようにさえなるのです。即ち、アルコール依存の心はそれが程を越して極端になれば肉体に良くないことを知っていますが、それでも習慣がその心の支配人になっています。心はその習慣に反抗する意志と決心の力を失った為、その習慣の奴隷となり続けるのです。しかもこれは全ての習慣について言えることです。何故なら、それらのほとんどが極端に作用するからです。このことはあなたが一杯飲んだり、類似した事柄を行ったりしてはならないと言うことではありません。何故なら、全ての物事は適度であれば良いことだからです。しかし、人は諸習慣が自分を支配するのではなく、自分が自身の人生の支配人になることを決心すべきことは確かです。

【解説】

自分自身との戦いの中でともすれば、目標や展望を見失いがちになりますが、そこでいつも気付くことは私達の多くは習慣的な物事に動かされているということです。パターン化した生活、いつもの仕事等々、振り返ればあれもこれもと出て来る筈です。しかし、人が朝起きてから夜寝るまで、およそ創造的な（つまり、その人にひらめいた印象を現実世界に実現する）仕事をせずして一日を終えるのは大変残念なことです。問題なのは問題を抱えている本人が問題の重要性に気付いていないことです。

まして習慣に浸りきった心はその習慣のシンパとなる細胞を自身の中に造り上げると本文は言っています。こうなると相手は自身の心だけでなく、肉体の一部にも及ぶということになります。〇〇が旨いと感じる味覚細胞が増殖しているのかも知れないのです。

これら習慣を打破する手法はいくつかあると思われます。例えば、旅行等はその一つだと思っています。自分が知らない土地や言語環境に自分を置いて見たり、様々な世界を体験することは改めて自分を見つめる契機ともなります。宇宙人達は実に頻繁に宇宙旅行をするとされています。彼らにとっても他の世界を見聞きし、目新しい事柄を観察することが必要だということでしょう。

230 And this can only be done by allowing the consciousness with its unlimited power and knowledge to put the house in order.

230 そしてこれは無限の力と知識を持つ意識にこの家の中を整頓させることによってのみ、なされ得るのです。

【解説】

逆説的に言えば、習慣は結果の世界に拠り所を置く私達の心にとって前例踏襲こそ确实であり、とにかくも注意力をさほど必要ない頼れる存在です。しかし、前項で述べられているように習慣はやがてその人間を支配するようになってしまいます。このポイントは大変重要なことで、宇宙人からもたらされたこの哲学が他と違う点です。

この現状から抜け出るには、大変な決意と行動力を必要とします。従来、少なくとも何十年と続いて来た安易な自分の進む方向を180度転換することになるからです。その為に、本文は宇宙意識に全面的な信頼を置いて、自分自身を再構築する一大決心を要求しています。おそらく、最初は小さなことでも、意識に信頼を寄せ、目に見える結果でなく、もたらされる印象に従って行動することでその一歩は踏み出される筈です。

231 Once the mind realizes its weakness that has caused much unpleasantness during its life, it should then be determined, even though it is painful at the beginning, to lend itself to conscious guidance. These obstacles could arise when it tries to do this ; A thought of fear of losing its identity and authority that it has had during its domination even though it encountered many mistakes and uncertainties on its path of self-will. For lacking knowledge, it followed effects with no more knowledge than it had as it repeated mistakes, and alibied for them with a hope of bettering its position instead of correcting the mistakes.

231 ひとたび心がその生涯の間に多くの不愉快な体験をもたらした心の弱さを自覚したならば、心ははじめは苦痛と覚えることがあっても、それ自身を意識の導きに委ねることを決心すべきなのです。これを為そうとする時にはこのような障害が発生することがあり得ます。つまり、例えその自己の意志の道筋において数多くの過ちや不安定状態に遭遇したとしてもその支配の間に得ていた心の独自性と権威を失うことへの不安感です。何故なら心は知識が不足している為に、それ自身と変わらぬ知識しかもたない諸結果物に追従し、過ちを繰り返しており、それら過ちを修正することに代えて自分の地位をより良くしたいと思ってアリバイ作りを行って来たからです。

【解説】

意識の指導に身を任せる、印象に従うことの難しさは学習を続ける中で次第に気付くようになります。従来は印象に鈍感であった為、何も気付くことは無かったのですが、次第に鋭敏になるにつれて、瞬時に印象に従うことの難しさを実感するようになります。言い換えればとっさの事態に何らの躊躇なく行動すればよいのですが、長年の習慣からまずどうすれば良いかを心に判断を仰ぐ為、時間が経過し、その結果、印象に沿った行動をとれず、機会を逸する事例に多く気付くようになります。つまり、瞬時の印象に自分の行動を合わせられない体験から、印象に素直に従った生活が如何に自然の流れに沿ったものであったかを後で思い知ることになります。

このように私達は日常、身の回りに起る出来事に対して絶えず自分の心に判断を委ねます。これを行えば得か損する危険性があるかなどです。心がその乏しい体験の中から結論を導くまでには、通常、途方も無い時間がかかりますし、その選んだ手法も従前の結果を再現するものとは断言できません。しかし、意識の流れに従えば結果は直ぐに現れ、次々に飛躍の道を歩むことができるというものです。

232 This is no different than a mother who refuses to believe that her child can do anything wrong, and will not correct it. Eventually the child suffers with the parent because the parent failed to strengthen the weakness that was showing up in the child. This was caused by the mother's fear of recognizing the weakness in the child. And she added weakness to weakness instead of correcting it. Finally the mother had to face the truth, she could no longer avoid it and it was far more difficult than it would have been in the earlier stages.

232 これは自分の子供が何ら誤ったことをする筈がないと信じて、子供を正そうとしない母親と変わりありません。しかし、最後は子供がその両親に苦しむこととなります。何故なら両親はその子供の中の弱さに対して強くすることに失敗したからです。これはその母親が子供の中にある弱さを認めることを恐れていることによってもたらされたのです。そして母親はその弱さを正す代わりに弱さの上に弱さを付け足して来ました。遂には母親はその真実に直面せざるを得ず、もはや避けることは出来ず、それは早期の段階に比べてはるかに困難なことになってしまったのです。

【解説】

今までの心を中心にして来た生き方は本項で述べられているように、私達が何らの知識を持たず、ただわがままな態度をとる子供(「心」)を放任して来たことに似ているとしています。心の増長は決して良い結果を生み出しません。人間同士のトラブルから物欲が原因の悲惨な末路まで多くの不快な物事を引き起こします。その心を子供を適宜適切に教育する母親のように矯正することが必要だと言っています。私達は学習を続ける内に次第に今まで見過ごして来た心の悪事や無知、欺まんについてより鋭敏に気付くようになります。当初はあまりのていたらくにうんざりするものですが、反面、意識の印象の素晴らしさにも気付くことが多くなり、その違いが明確になるように思います。

そういう意味ではどちらの道を選ぶべきかは次第に明確になって来ます。決して無理をして特別な修業が必要ないように思いますし、ただひたすら日常生活の中に意識から来る印象に鋭敏な状態を維持し、素直に印象に従うことが大切だと思っています。

これら心の訓練は地球では教える機関もありません。本来であれば人生を通じて「学校」で学ぶべき内容ですが、地球にはそれを教える十分な教師も教室も無いのが現状ですし、当面は各自の自習が頼りです。

233 Did not Jesus say, he who is trying to save his life shall lose it? Isn't this what the ego is afraid of by giving up its will to consciousness? This is also a lack of faith in the Creator whom we call God. For Jesus also said, he who gives up his life shall find life eternal. Meaning, he who gives the will of the ego unto the will of consciousness shall partake of life eternal. For consciousness is eternal and proceeds all forms. And without it there would be no forms, for an unconscious form is a dead form.

233 イエスは自分の命を救おうとする者はそれを失うとは言わなかったでしょうか？これはエゴがその意志を意識に差し出すことで恐れていることを指すのではないのでしょうか？これはまた、私達が神と呼ぶ創造主に対する私達の信頼の不足でもあります。何故なら、イエスはまた、自分の命を捨てる者は永遠の生命を見出すとも言いました。それはエゴの意志を意識の意志に譲り渡す者は永遠の生命を共にすることになるという意味です。何故なら、意識は永遠であり、万物を先んじているからです。そして意識無しには如何なる形有るものも存在しません。意識の無いものは死んでいるものだからです。

【解説】

先ずは、「感じに従った」行動をとって見ることです。感じ（印象）を受けた段階では何ら結果の兆候もありませんが、心落ち着けてしばし、待てば結果が現れます。自分の得た印象が正しかったかはその結果から直ぐに分かります。また、多くの場合にはその「印象」すら感知しないまま、行動に移ることが必要になることも多いようです。

何度となくこの種の体験を積み重ねると、次第にその印象を私に授けて戴いた目に見えない存在にも気付くようになるのではないかと思っています。

いずれにしても、その印象の贈り主にまず、絶大な信頼を寄せることが必要で、自分の行動をこれらヒントに従って行こうとする気持が最も大切なのです。

234 The happiness which man feels within his heart and for which he searches can never be realized until he blends his will with the will of consciousness. Any more than the drop of water, remaining by itself can know the vastness of the ocean. When man realizes this he will know his true identity for the first time. And will no longer live in the shadow of his reality, influenced by every wind that blows. And there will be rejoicing in heaven when the prodigal man returns to the household. But this will take a profound determination on the part of each human, with an unshakable faith. For he will have to give up his egotistical pride and face whatever is presented to him.

234 人が自分の胸の中で感じ、探し求めている幸福は、自分の意志を意識の意志に融合させない限り、決して実感することはありません。孤独であり続けた水の一滴が大洋の広大さを知ることと大差はありません。人がこのことを悟ったなら、その者は初めて真実の主体性を知るでしょう。そして吹きすさぶものもの風に影響され、自身の真実の姿の陰に生きることはしなくなります。そして放蕩息子が家に戻った時には天国では祝賀があることでしょう。しかし、これには個々の人間の側に不動な信頼感を持った上での心からの決心を必要とします。何故なら、如何なるものが現れているかに関わらず自己中心的な自分のプライドとメンツを諦めなければならないからです。

【解説】

ここでは単純に意識に自我の心を委ねよと言っているのではありません。「意識の意志」に自己の意志を融合させよと言っています。逆に言えば、意識には意志があり、その意志の通りに行動せよと言うことです。各人各様に状況は異なり、その場その場で状態は変化するにも関わらず、創造主は常にあなたを見詰め、「こうして欲しい」、「こうありたい」という意志を持っているということです。

これはひっそり生きる野辺の花、一つに対しても同様な意識の思いがあるということです。こう考えるだけで、創造主の懐の広さ、深さを感じることができます。著者は大海を前にした一滴の水をエゴに例えています。その大きさの差、を自覚すれば、自我を捨てて意識に融合することの素晴らしさがわかります。意識に戻ることは、独自の意志を主張して家を出た放蕩息子が再び、両親の元に戻る訳で、両親は暖かく向かい入れてくれる筈です。

235 The story of the Prodigal Son in the Bible gives us a good insight as to what must take place. The mind of the prodigal son is a portrayal of all minds. For he, after deciding to return, had to humble himself and cast aside all of his pride, willing to face whatever might come. Knowing full well that some of the household would point fingers at him and remind him of his bad deeds. Yet he knew that their life was not his life. And they had not had the experiences he had gone through, even though they may have had similar ones. Knowing all of this he was still determined to conquer the will of his mind and return to the will of his real self - the consciousness - the Father of all forms.

235 聖書の中の放蕩息子の物語は私達に何が為されるかについて良い洞察力を与えています。放蕩息子の心はあらゆる心を表わす肖像画です。彼が家に戻ることを決心した後は、如何なる事態が来ようとも喜んでそれに直面し、自分を謙虚にし、自分のプライドをことごとく脇に捨てなければならないからです。家の中のある者は彼を指差して彼の悪事を彼に思い出させることも十分知っていたことです。しかし、それでも彼はその者達の人生は彼のとは異なっていたことは分っています。そしてその者達が彼と類似した人生であったとしても彼が通った体験はしなかったであろうこともです。これらの全てを知った上で、彼はそれでも自己の心の意志を克服し、彼の真の自己、意識、万物の父の意志に戻ることを決心したのです。

【解説】

何事も物事が立ち行かなくて、それまでの行動を取り止め、撤退することは難しいものです。私達は致命的な問題を抱えていても何とかそれを顕在化させずにごまかして、継続する道を選びがちです。その方が、苦勞が無く、まさに惰性の生き方が楽だからです。

しかし、そのような生き方も長続きはせず、所詮、最後には長年のツケが溜まって手痛い後始末をすることになります。本文で述べられているように心による私達の生活（「放蕩息子の生活」）は、一見、自己を確立し自立する望ましい姿なのでしょうが、自我が意識に対して謙虚にならなければ立ち行かないことを十二分に体験し、これではダメだとなった初めて、かつての家に帰る（「意識からの印象に従う生き方をする」）決意がなされます。つまり、そこには、これまでの自分の行動の問題点を認め、これではダメだと自戒した上で、改めて創造主を受け入れることになります。

そういう意味では、この場合に自我は、良くそこまで決心したと両親が喜ぶような存在である訳で、息子が戻って来たと両親（創造主）が歓びに湧く事情も理解されることでしょう。いずれも宗教にも「懺悔」という業があるように思っていますが、この反省こそ、創造主と対話し、創造主の元に戻るきっかけになるチャンスの一つでもある訳です。

236 Upon his arrival home his ego received a surprise. For his father had a banquet prepared for his wandering son and welcomed him with open arms as though nothing had ever happened. For when an ego conquers itself-there is no greater victory and rewards for the efforts are unlimited. And the individual is endowed with all of the needs of life, wanting for nothing.

236 彼が家に着いてみると、彼のエゴは驚きを受けました。何故なら、彼の父親は放浪していた自分の息子の為に祝宴を用意しており、まるで何事も無かったかのように彼を両腕に抱いたからです。それはエゴが自分自身を乗り越えた時、それにまさる勝利は無く、それに至る諸々の努力への報いは限り無いものだからです。そして、各自は生活の必需物の全てを授けられ、何も不足することは無くなります。

【解説】

ここで本当に大事なのは、息子は父や家族の者達から、これまでの自分の諸行に対して叱責され非難されるのを覚悟の上で父の家に戻ったということです。息子は父の家に戻れば祝宴が待っているとは考えても見なかったところが重要です。私達は意識の意志に従う際に、単に「意識に従えば生活が楽になる」とか「苦痛が解消する」からという理由、言い換えれば損得や御利益が目的であるべきではありません。

本当の意味で創造主の元に回帰するには、自らの欠点や問題を率直に認め、それを改める為に父（意識）の力を借りる決心が重要であり、父はそうしたわが子の改心を心から喜んでいるのです。

237 In the prodigal son there was still one small part that accused itself of wrong doing which was symbolized by the son who had never left the household. For in every individual the original spark remains. That is the only hope for the straying one to be drawn back to his original place. So the small original spark reminded the prodigal son of his deeds. But this was soon overcome by Cosmic Consciousness for it knows no judgement or discrimination. But it takes a great determination to accomplish this victory and lose the self as an ego in the COSMIC SEA OF CONSCIOUSNESS.

237 放蕩息子の内部には家を出たことのない息子として象徴され、誤った行動を叱責した小さな部分が依然として存在します。各個人の中には原始のきらめきが残っているのです。道に迷った者にとってはそれが自分の起源に戻される為の唯一の希望でもあります。ですから小さな原始のきらめきはその放蕩息子に自分の行動を思い出させるのです。しかし、これは宇宙意識によって直ぐにも征服されてしまいます。何故なら宇宙意識は如何なる裁きも差別も知らないからです。しかし、意識の宇宙的大海の中でこの勝利を得て、エゴとしての自己を捨てる事が出来る為には一大決心を必要としています。

【解説】

各自の中にわずかに存在する無垢の灯火、これが自己の過ちを指摘します。この存在の故に反省、自戒の機会が与えられます。以前、どこかで、「神は滅ぼす者をまず狂わせる」という主旨の言葉を聞いたことがあります。自省のない有頂天になった人間は、実際にはその人のエゴが自分の支配力を誇示している危険な兆候と言えます。かつて多くの戦争が為政者のこうした宣伝活動によって促進されましたし、時代の寵児ともてはやされる者もいつの日かボロが出て正体が判明するものです。

各自の中にいつも誤りを指摘する小さな声があることが、私達を意識の元に復帰させる原動力になっているということです。その意味では日常的にこの存在から素直に声を聞く態度が大切です。丁度、私達は自分勝手にやみくもに暴走する自動車のようなものです。運転するエゴは自分の車のフロントガラスが汚れて曇っているのをあたかも外の世界がそのような汚れたものであると勘違いして、恐怖のあまり不必要にエンジンを空回りさせて、どこかに車をぶつけて自動車（人体）をダメにしてしまうようなものです。この時、傍らにいて、小さな声で誤りを正し行くべき道を囁くのが本文で言う無垢の存在部分と思われる。

しかし、自らの殻を破り、一度、車を道の傍らに止めて、窓を開け、外を眺めれば、狭い車の中で悩んでいたことや道に迷っていたことなど、吹き飛んでしまいます。車の外は青空が広がり、穏やかに満ちた別世界が広がっており、今まで暗い世界と思っていたのは、自分の眼、ガラスが長年の無謀な運転で汚れていたのが原因であったのです。

ひとたび、意識の存在に気付き、その中に融合することの素晴らしさを知れば、その者はもはや後戻りすることはなくなることでしょう。

238 This is re-newing the mind and born again, as Jesus said. For one really dies as an ego pride will only to be born in the Will and the Glory of the Cosmos. Like the drop of water that finally becomes the ocean of water by uniting with it, no longer just a drop.

238 これはイエスが言った心の再生であり、生まれ変わります。何故なら、人は実際には一つの自我のプライドとして死ぬと宇宙の意志と栄光の中に生まれ変わることになるからです。ひと粒の水の一滴が大洋と結びつくことによって遂には大洋になり、もはや一滴の水では無くなるのと同様です。

【解説】

わかりやすく言えば、自我（エゴ）の自尊心やおごりを全て捨て去って、自らの意志を大宇宙の無言なる意志、即ち、創造主から放たれる印象に従うことで、本来の人の生き方が出来るということです。この場合、自分の意志を重んじないということは、我が身を創造主の意志の働き手、単なるパイプとして創造主に使って戴く覚悟が必要だということです。

自分を通じた意識の流れや発現をさまたげることなく、成就することで、私を通して表わされた事柄に対して、創造主も喜ぶ、また、その道具である私自身も学ぶものが多いということでしょう。このような状態になることは、もはやかつての自我は消え、自身も広大な宇宙空間の一部になっているということです。

239 And it makes no difference how many books you read, or how many religions you embrace, or how many courses you may take and teachers you may have, not any of these will bring this reality to you unless you do as the prodigal son did. Die in the pride of the will and the ego and be reborn in humility and the WILL OF CONSCIOUSNESS.

239 そして貴方が如何に多くの本を読んだかとか、如何に多くの宗教を奉じたか、如何に多くの教科を受講し教師を得たかといった事柄は貴方がその放蕩息子がしたように行わない限り、そのどれひとつもこの現実を貴方にもたらずものではありません。自分の意志のプライドと自我を葬り、謙虚と意識の意志の中に生まれ変わることです。

【解説】

この学習の道は息の長い道程です。自分自身を対象とする訳ですから、肉体の病気とは異なり、誰も治すことが出来ません。もちろん、他人の話し、先人の業績を学んでヒントを得ることは出来ませんが、最終的には自身で対処すべき事柄なのです。しかし、これらの知識から有益なポイントを学ぶことは有用です。著者アダムスキー氏も含めて、これまで多くの優れた教師がその人生の歩みを通じて私達に道筋を示してくれています。

しかし、本人の具体的な思考と行動によってでしか自身を変えることは出来ません。また、他人の体得した事柄も自分で確認、体験した上でなければ単に上辺だけの知識で終わってしまいます。自身が今までの生き方を心底振り返り、その不安定で身勝手な欠点を十分に自覚し、印象に従うこと、自分のプライドを捨てて創造主に意志を預けることが如何に大切かを悟ることが重要だと言っているのです。

240 And you do not have to give up anything that you enjoy in life now, but replace the extremes that are indulged in with moderation. And permit your mind to see God manifesting in all forms of life and in every cell that makes up the form. For the life of any form and that of a cell is the life of God expressing in varying degrees through the many forms.

240 そして貴方は現在の生活で楽しんでいるどのようなものも諦める必要は無く、ただ欲しいままにしている極端さを適度さに置き換えるべきなのです。そして貴方の心をして、あらゆる生命の形あるものの中、そしてその形を作り上げている一つ一つの細胞の中に神の現れを見させることです。何故なら如何なる形あるものの命、細胞一つの命も皆、様々な形あるものを通じて多様に表現される神の生命であるからです。

【解説】

大事なものは日常の諸事やこれまでの各自の楽しみを決して嫌悪すべきでなく、むしろ余裕をもって楽しむぐらいの姿勢が必要だということです。

創造主の意志に委ねるということは、行動については印象に基づいて自我の意見には取り合わない反面、その行動の結果については、私達行為者にとって責任は無いこととなります。つまり、結果は創造主から賜るべきもので、私達自身は創造主の意志（印象）に従うだけです。そうなれば、これまでのように二重、三重に保証を求め、神経をすり減らして来た事柄も、不必要になり、気が楽になることでしょう。

本文では、これまで通り、各自の生活を送ってよいと言っています。人間の営みを通じて神の現れが表現されれば、神は喜ばれるということです。あらゆるものに宇宙創造主の意志と魂が現れているということについて、知覚し、それら全てを心から尊重し、慈しむ気持が大切なのです。

お知らせ [2008-03-10]

この所、忙しさが続いたせいか、風邪を引いてしまいました。

皆様には大変申し訳ありませんが、2～3日間、お休みさせて戴きます。

241 Then you will begin to live as the Venusians and others do and discrimination will no longer be a part of your life. When you are able to do this and every one is, your mind shall witness things of far greater beauty and peace than you have ever known. And your body will manifest the evidence of the perfection to be.

241 そうすれば、貴方は金星人達や他の人達のように生活し始めることでしょう。そして、はや差別は貴方の生活の一部になることはないでしょう。貴方がこのことを成し遂げられる時、また誰でもそうですが、これまで知らなかった遥かに偉大な美しさと平安さを目撃することになります。そして貴方の肉体はその完璧さの証しを体現するようになるでしょう。

【解説】

私達は様々な段階にあっても、意識を受け入れるにつれて、自然界の美しさに心惹かれるようになるようです。私は趣味で動植物の写真を撮りますが、その写真を撮る姿勢にもこれらの変化は反映しているように思います。何より、「美しさ」に対する感性が鋭敏になった気がするからです。

しかし、これも自分の腕が上がったとうぬぼれてはいけません。むしろ、その発見した自然界の美しさを愛で、称讃すべきです。自然が造り出す色鮮やかな光景、その中にかくも美しい姿を各生き物が表現していることに驚嘆するばかりです。

この美しい世界の一員として私達も本来列席すべきことは言う間でもありません。蝶や花、飛翔する鳥達等、どれを観察しても、皆、各々の特徴を出しながらも、各々完成された美を表わしています。一人、人間だけが未だ自我の醜さで本来の美しさを覆い隠しているのではないかと思います。それほどに私達の周囲には美しい世界が広がっているということです。

242 And all of this is present within you now, like the feeling of how you would like to be treated by others, so just return the same to all forms of life. But do not give up because you do not succeed on the first, second or third try. Just become more determined to master the situation. And the more determined you are the better the results will be.

242 そしてこの全ては、丁度、他の者にそう扱われたいと思う気持ちのように現在の貴方の中に存在しますので、ただ生命のあらゆる形あるものに同じことを返せば良いのです。しかし、貴方が一度や二度、三度の試みでうまく行かなかったからといって諦めてはいけません。その状況に熟達するにはより深く決意すれば良いだけです。そしてより深く決意すればする程、より良い結果が付いて来ることでしょう。

【解説】

金星人達のように生きること、その素質は私達全員の内部に既に備わっていると言っています。しかし、長い年月をエゴに支配されて来た地球人にとって、その生き方は一度や二度の努力では実現する筈もなく、踏み込むには努力と決心が必要だということです。大事なそれはそれを実現する為に必要なものは特段、「何処かに行かねばならない」、「何かを探しに出なければならぬ」といった類いのものではなく、既に各自に備わっている要素を再発見するだけで良いということです。

これは自然界を観察すれば分かることです。春には新しい芽が吹き、花が咲き、鳥がさえずる等、全ての生き物が生命本来の美しさを体現します。この時期、野外に出て分かることは、多くの植物が春の陽光を浴びてその葉や茎を伸ばすとともに、虫達に新鮮な食料を提供しているということです。そして動き回る虫達もその恩恵に感謝しながら、花の受粉を助ける等、植物に役立つ仕事をしています。

これら多くの活動はたいていの場合、全くの無言のまま行われており、私達の耳が直接、その者達の会話を聞くことはありません。それらは印象、テレパシーによる意思の交流を行っているに違いありません。そのような高いレベルまで私達の感性を高められれば、私達は如何に美しい「極楽浄土」で日常生活を過ごしているかが分かる筈です。

243 At first it will seem like an impossible task, but everything at one time looked impossible, even learning to walk. But constant diligence brings success. Seldom does man find gold on the surface and so it is with this. Man must dig deep to see reality.

243 最初はそれは不可能な任務のように見えるでしょうが、歩くことを学ぶ時でさえそうであったように何事もかつては不可能に見えたものです。しかし、変わらぬ勤勉さは成功をもたらします。金はめったに地表に見つけることはなく、このことも同様です。人は現実を見る為には深く掘り進めなければなりません。

【解説】

この学習講座はこれまでのように知識を憶えるような学習などではなく、また、取扱う対象が各自の心の認識等、他人には捉えどころの無いものであるため、具体的な学習レベルは本人でしか分かりません。例えば自分が十分理解していなくても、他人の言動をそのまま受け入れ、盲信することで自分の真の理解度をごまかしたりすることも可能でしょう。

しかし、これら表面的な事柄を何十年と積み重ねたとしても得るものはわずかであり、逆に失うものも多い筈です。大切なのは本文で伝えられていることを真剣に吟味すること、言い換えれば進化した人類が本書の中にその経験の中で掴んだ精神世界のエッセンスがちりばめられている訳ですから、その一言一言の発するイメージを自分なりに受け止め、日々、応用、試行することです。

また、それでも本文で言う勤勉さは不十分かも知れません。私達一人一人がこの世界に生を受けた目的の一つとしてこの哲学を真に身に付け行動し、少しずつでも他者に影響を及ぼすことが出来るよう、自分の中を掘り進み、問題の本質を理解する日々の取組みが求められています。

244 Of what value is a talent if you do not use it? Suppose you have the talent of a great artist and know it, but all you do is to think and dream about it. And never bring it forth into reality which takes action to accomplish, so you never profit from it. You do not even prove to yourself that you could manifest your dreams and make them a reality. So all of your dreams and prayers regarding your talent are still unknown and remain in the dream state. And this will continue until you decide to express your latent ability. For then and then only will you prove to yourself that it is real and livable. And so it is with self development - the potential of all that we have spoken of is within you, but it will not do you or anyone any good as long as you do not bring it forth.

244 もし貴方がその才能を使わないとするなら、才能に何の価値があるでしょう？ 貴方には偉大な芸術家としての才能があったとし、貴方がそれを知っているけれども、貴方はそのことを考え、夢見ているだけの状況を考えて見て下さい。そしてそれを達成するには行動を必要とする現実世界にそれをもたらすことが無かったとすれば、貴方はそれから何らの利益を得ることは有りません。貴方は自分の夢を形に表わし、それらを現実に行うことができるということを自分自身にさえ証明していません。ですから、貴方の才能に関する貴方の夢や祈りの全ては未だ知られることなく、夢の状態に留まっています。そしてこのことは貴方が自分の潜在する能力を表現しようと決意するまで続きます。時として、貴方はそれが本当であり、生きたものであることを自分自身に証明することしかないのです。ですから、それは私達がこれまで話して来た貴方の内部にある全ての可能性である自己発達とも同期していますが、それは貴方が現実化させない限り、貴方や誰に対しても良いことをもたらすものではありません。

【解説】

これまで自らの（心の）プライドを捨て、意識の指導に委ねることの重要性について述べて来ました。またそうすることは他惑星の生き方に近付くことをも学んで来たところです。ここでは、各自に埋もれている才能について述べています。おそらくは私達の感性が鋭敏になると私達自身が持っている埋もれた才能にもより気付くようになるものと思われまます。

当然、そうなれば私達は自分には〇〇の才能があるのでは、或いは〇〇の道を歩みたいなと思うようになるかも知れません。しかし、様々な夢も現実には夢に終わる人生も多いことをここでは忠告しています。つまり、感性が高まり、優れた夢を抱く、言い換えれば意識からの印象をキャッチする頻度が高まるといのは、まず第一の段階だと言っているのです。その段階に留まっているだけでは、実は結ばれません。本人がその印象を現実化させ、成果を世に出さなければ、その夢を実現したことにはならないからです。

宇宙意識が如何に強力な意志をもって印象を発しても、それを受け取る人間の方が具体的に行動しなければ、宇宙意識の意志を実現したことにはなりません。意識の実現経路である私達は、各自に委ねられている才能を開花させることがその贈り主を喜ばせることになるのです。

245 You must re-create your ability by manifesting it in your daily life. And then you will prove to yourself that you can live that which you have been consciously aware of. Thereby it will not only serve you, but others also by your example.

245 貴方はそれを日常の生活の中で体現させることによって貴方の能力を再創出させなければいけません。そうすれば、貴方自身に貴方がこれまで意識的に気付いていたことを生き通せることを証明することになるでしょう。そのことによって、貴方に役立つばかりでなく、貴方の事例によって他の者にも役立つことになるでしょう。

【解説】

これまで意識からの印象に鋭敏になるにつれて、各自の才能により深く気付くようになると述べられて来ました。本来は私達はミツバチ社会の中の構成員のように、人類という一大家族の中の働きバチとして、楽しみながらも集団のため、奉仕活動に生涯を捧げるべきものだと考えられます。しかし、その働きバチが十分、所定の任務を果たす為には一匹一匹のハチに花の有り場所を察知する能力や蜜の集め方、遠い距離を往復できる飛行力等、十分な能力を備えていることが前提となります。年を重ねて身体が動かなくなると訴えて、若いハチ達に食べ物をもたらすだけのハチはハチ社会にはいないのではないのでしょうか。どんな状況にあっても、最後まで活動し続けるのが自然界の生き物達です。

本文では、意識の指導により実は自分の内部にある隠れた才能に次第に気付くようになったら、それを現実化すること、自分が感じたことをそのまま実践し、そうすることで自分を再創出（生まれ変わり）させなければならないと言っています。この命題は年齢に関わらず、人間に等しく問われています。幼児から死の床にある者まで、生きている限り、自己の能力の発現に躊躇があってはならないと言っているのです。また、その生き方を他者に見せることによって、私達は他人にも良い影響を与えることができると論じています。

悟りを開いたからと言って、そこに安住するということはなく、次なる進歩の道を歩んで行くということでしょう。

246 Examples have been used in many ways. i.e. If a dictator wants to dominate his people, he destroys those who, oppose him, as an example to others. If examples can be used in this way, why can't we set a fine example for the world to follow? We can with action and not just words and dreams. And this can be done only by living the things that we know. We must be honest and truthful to our better self before we can be honest and truthful to others. We must trust our consciousness if we expect other conscious entities to trust us.

246 例示というのは様々な方面で用いられて来ました。即ち、独裁者がその人民を支配しようと思うなら、反抗する者を他の者への見せしめとして滅ぼします。仮に例示というものがこのように用いられ得るとすれば、何故私達は世界が従うような素晴らしい例示を打ち立てようとしないのでしょうか。私達は単なる言葉や夢でなく、行動によってそれが出来るのです。そしてこれは私達が知っている事柄を生きることによってのみ、行い得るのです。私達は他の者に対して正直で誠実である前に私達のより良い自己に対して正直で誠実であらねばなりません。他の意識ある存在が私達を信じてくれることを望むなら、私達は私達自身の意識を信頼しなければなりません。

【解説】

もちろん、言行同一であることがその人物が信用される所以です。まして深遠な事柄を学んでいる私達は、先ずは自分の理解したことだけを話すべきことは言うまでもありません。しかし、自分が自覚したことを単に話すだけでは、十分な効果を発揮できてはいないのです。自分が知ったことを具体的な行動を通じて現実世界に実現することがはるかに重要だと本項は教えています。

駅のホームで車椅子の人が電車に乗れず困っている様子にいちはやく気付いたとしても、その人に声を掛け、手助けが出来なければ、気が付かずにその場を通り過ぎて行くその他の人間と大差はありません。具体的な行動が伴わなければその気付きを生かしているとは言えないのです。

印象に気付くようになったからと言って、直ちに行動に移すことは、私の体験からも容易ではなく、多くは後で何故すぐに行動しなかったのだろうと悔やむ事例も多いものです。しかし、その原因を突き詰めると、そこには未だ、私達はその印象に自身を委ねてはいないことが分かります。印象が来ても私達の心はあれこれとその場で思案してしまい、結局は時間が過ぎて折角のチャンスを失っているのです。そういう意味でも、いつも不意にやって来る印象に対してスタンバイできているよう、意識に対する私達に受け入れ体制を万全にしておく心構えが必要のようです。

247 Yet to live this new kind of life among the many who do not, one must have un-shakable faith and patience in order to endure. For everyone will not grasp the idea immediately, humanity is very slow to change. But change it must if it is to survive. And pioneers in any field must be strong and determined if good results are to be realized.

247 しかし、この新たな生活を送る為には、そうではない多くの人達の中であって、人は耐える為に揺るぎない信頼と忍耐を持たねばなりません。何故なら、誰れでもその概念を直ちに掴み取る訳ではなく、人間性とは変化するのに大変遅いからです。しかし、生き延びる為には変化しなければなりません。そして先駆者はどの分野にせよ、良い成果が実現される為には、強く決意しなければなりません。

【解説】

私達はこの講座で自らの心の奥底まで入り込んだ新しく深遠な事柄を学ぶ一方で、普段通りの日常生活を送っています。山奥に住む仙人ではありませんから、様々な人達と接し、生活の糧を得る必要もあります。当然、圧倒的にこうした世間のただ中に暮らす以上、世間（地球レベル）に大きな影響を受けています。テレビ等、マスメディアの影響も受けています。

この場合、特に自分達が学んでいることを世間の一般の人々の暮らしとは時に大きな違いがあるのは当然で、私達はそれらから影響を受けるべきではありません。しかし、逆に私達は先ずは先人として、自分の生き方を確立すべきであり、中途半端な段階の時に、やたらに世間を非難し、誤りを指摘すべきではありません。指摘しても相手が納得できなければ逆に反発を受けるだけです。私達が能力を高め、他人を十分説得させられる実績を積むことが出来れば、自ずと人は集まって来るものと思われま

ここで重要だと思うことは、人間はこれまでの生活を続けていれば、早晩、滅びるということです。本文では生き残る為には、変化しなければならないと言っています。つまり、一つは絶えず新しい事柄に挑戦し、自己を改革して行く気力が大切だということです。とかく習慣に流される気持から決別し、宇宙から来る印象と同調して自由かつ達な生き方を取り入れることです。もう一つは自分の心の状況を直視して、真に心から創造主の意志を実現しようと決意することです。

248 We must build on a rock foundation and not on shifting sand. So that when diversity and opposition cause a storm in our life we can stand firm and not be swept away because of a weak foundation.

248 私達は転じやすい砂の上では無く、磐石の土台の上に建物を建てなければなりません。それは、多様な変化や反対が私達の生活に嵐をもたらす時、私達が弱い基礎のせいで流される代わりにしっかり建てられる為です。

【開設】

頭の中で分ったように思っている、実際には他人の言葉を鵜呑みにしていたり、深く考えて自分に当てはめて考えていない為、上辺だけの理解で済ましていることも多いものです。

しかし、現実世界に生きている私達には、時としてその生き方を妨害するように、様々な出来事が襲って来ます。丁度、暗黒の宇宙空間を航行する宇宙船のようなもので、高速で航行すればするほど、空間に浮かんでいる隕石等の障害物にぶつかる確率が高まるのと同様です。わずかな衝撃でも自分の進路が変えられてしまうのは、その者の突き進もうとする力が弱いからです。その衝突の時にこそ、真の能力が発揮できる機会でもあります。

自分が何処迄理解し、納得しているか、何を譲れない信念として持っているかが問われる訳です。いつも私は自分にとって最も近い存在、いつも自分の中であって物事を相談できる存在（創造主）を持っていることが大切で、貴方の身の回りの世話をかくも甲斐甲斐しくやってくれる手足の貢献に感謝しなければならぬと言っています。この二つだけは誰にも引き裂かれることは出来ず、最後まで貴方と共に人生を全うすることでしょう。

自分の拠り所を何処に置いているかは、機会ある限り、確認した上で、次の一步を進めることが大切です。

249 The goal we seek to attain should be all that matters and no obstacle should prevent us from attaining it.

249 私達が到達しようとしているゴールは大事なことの全てであるべきであり、如何なる障害も私達がそれを達成することを妨げることがあってはなりません。

【開設】

人生を生きて行く上で、その人が年少の頃に抱いた夢や青年期に描いた将来を多少なりとも実現できれば、この地球では良しとしなければならないのかも知れません。第6課は生きて行く上での心構えと行く末に広がる希望を実現する為の諸課題の存在を私達に授けてくれる内容となっています。

中でも、その人の気力（意欲）を春の若葉のように新鮮な状態に保つことが重要だと言っています。その若さ（新しさ）を引き出す上で課題となるのが自身の中にある古い習慣であり、その根源が各自の自我（プライド）、自画自賛です。プライドは突き詰めれば、自己の優越性を拠り所に他者を差別することにもつながっており、それが引き起こす諸問題が本人を老化させる元凶となっています。

そのような事態を解消するのが、自我（エゴ）の意志全てを、目に見えない意識の意志に委ねることなのですが、これが単に概念で分ったつもりでいたのでは、効果は発揮できません。実際に自分を空しくして印象に従う行動をとって見て、その結果、はじめて自分が良い方向に進んでいることが確証される訳です。各自の目標の実現にはこの行動体験の積み重ねが大切です。最初はゆっくりでも一步一步の積み重ねによって、次第に進化のスピードもはやくなるものと思われれます。しっかりした基礎から始めることが大切だと言っているのです。これで第6課を終わり、次回から第7課に入ります。

LESSON SEVEN Cosmic Memory

250 As man is not a man without a memory, then his memory is essential for the continuance of life. And the reason that most people do not remember their past experiences through various lives is because the mind never learned to memorize the important values gained. It has depended upon effects which are momentary and they come and go, especially the ones that we call unimportant that the ego feels are of little value.

第7課 宇宙的記憶

250 人は記憶無くして人ではない以上は、彼の記憶こそ生涯の連続にとってかけがえのないものです。そして、ほとんどの人々が彼らの過去の諸経験を思い出せないのは、心がこれまで一度として獲得した重要な価値を記憶することを学んで来なかった為です。心は一時的な結果に頼ってきましたが、それらは来たりてまた過ぎ行くものであり、特にエゴが感じるとるに足らないとする物事はほとんど価値がないものです。

【開設】

第7課は宇宙的記憶についてです。これまでの人生を振り返っても、過去の経験こそ現在の生活に活かすべきことは言うまでもありません。しかし、実際には働き盛りの頃はあまりに多様多岐にわたる出来事が私達の周囲で発生する為、私達は前に進むことで精一杯で、過去を整理する時間的余裕もありません。一方、高齢になると時間的なゆとりは出来ませんが過去の断片的な出来事には郷愁を感じるものの、その後の記憶する力は急速に衰えて行きます。結局は、人生において本来記憶し、次の生に引き継ぐべき、大切な体験（知識）は最後は失われた状態で死を迎えることが多いのではないのでしょうか。

しかし、私は「記憶する」ことは「暗記」することと同一には思えません。経験上からも単に試験対策等で覚えた事柄は用事が済めばいち早く忘れてしまうことが分っています。その一方で、自分が感動した事柄、出来事、恩師の言葉等は忘れることはないものです。そこには自分の心の底まで到達した事柄だけが、永らく記憶されるものと思われまます。

芸術家であれ、宗教家であれ自身が感動し、天啓とも呼べる体験をしたことがその人のその後の人生を決めるような出来事となっています。宇宙につながった感じは、忘れるものではありません。日常生活を進める中で、価値ある体験を如何に多く持つか、また、それらを大切にしてい行くかは、人が進歩する上で大切な事柄だと言っています。

251 Ordinary routine becomes habitual and governs the ego, but this cannot be called a memory. And unless man cultivates Cosmic memory he becomes nothing.

251 通常の日常仕事は習慣となりエゴを支配しますが、これは記憶とは呼べるものではありません。そして人は宇宙的記憶を養わない限り、無になってしまうのです。

【解説】

本文では私達の習慣はエゴを支配する一方、宇宙的記憶には何らの足しにはならないと明言しています。

私達はどのようなものを宇宙的とするかは分からなくても、問題の「習慣」については、良く分かる筈です。朝目覚めてから夜眠りにつくまで、私達の生活のほとんどが習慣に陥っているとしたら、何年生きていても宇宙的記憶は身に付きません。そもそも習慣とはどのようなことを指すのでしょうか。私は、無感動、無意識に行っている事柄はこの「習慣」の範疇に入ると考えています。絶えず目に見えない印象を受け入れ、足下に咲く小さな花とも印象を交換出来れば、その人は少なくとも充実した日々を送るに違いありません。習慣に流されない為には、各自は相当の努力と工夫を必要としています。

毎日の仕事を新鮮な感覚で取組み工夫を加えて行くことで、これらの習慣を打破することが出来ます。また、同乗記にも述べられているように、旅行に出て新しい世界を知ることも有効でしょう。努めて過去を捨て、新しい自分の可能性を求めて生きて行くことが生活を充実させる上で必要なことだと考えています。

252 To illustrate this let us use a man who has lost the memory of who he is. We have read of these cases. Some are well to do, hold good positions and have a family. Yet when this man loses the memory of his identity he re-establishes life in another part of the country, marries, has a family and works as a common laborer. If recognized by a former acquaintance he denies that he is the party for he remembers nothing pertaining to his previous life. This means that the first personality is dead to the mind while the body still maintains the identity.

252 このことを例示する為、自身が誰であるかという記憶を失った人を用いることにしましょう。私達はこのような事例を読んだことがあります。ある人は物事がうまく行って、良い地位を得て、家族も持っていました。しかし、この人が自身の正体の記憶を失った後は、他の地方で生活を再建し、結婚して家族を持ち、通常の労働者として働きます。以前の知人に発見されても、彼自身、以前の生活に関することを何も思い出せない為、いっしょにいたことを否定します。このことは心にとって最初の人格性は死んでいる一方、その肉体は依然としてその正体を保持していることを意味します。

【解説】

多くの方にとってはこの事例は奇異に聞こえるかも知れません。私自身もまだ、こうしたケースを耳にしたことはありません。しかし、少し考えて見ると、人間の生まれ変わりについては、全くこの通りのことが一人一人に起っていることが分かります。アダムスキーは金星で亡妻メアリーが生まれ変わっていたことを金星旅行記で述べています。その中で、メアリーはアダムスキーに地球での体験はあえて思い出したくない旨の発言をしています。もちろん、過去の体験で役に立たないものは、キレイサッパリ忘れるべきです。問題は折角、本人が努力して培った素養が、もし過去に貯えられていたのであれば、記憶を甦らせられないばかりに、それを活用、発展させられないことです。

やはり、物事には蓄積が必要です。何事も一朝一夕には出来るものではありません。また、私達のこれまでのエゴに支配された日常生活においては成し遂げられる事柄も限られます。一生の間に、果たしてどれほどのことを為したかを各自考えればわかる筈です。

大事なこと、人生の転機になった体験、自分が掴んだ真理の断片はその人を造り上げていると言って良いでしょう。これらは何があっても忘れてはならない事柄なのです。宇宙意識の印象を感受し、ハットした時のこと、その時受けたイメージ等、古来より「悟り」と表現されて来た精神体験は、各自大切に記憶し、自身の中に保管すべき宝物だと言えるでしょう。

253 This is a common occurrence to millions of people when it comes to cosmic and ego identity. And is the reason why so few people are aware of their past lives. This shows that in the past as in the present there was a separation of the conscious real self and the personality or ego mind. For as we have stated before, consciousness is the only real eternal part of you. And it is in this consciousness that all activity is registered. Unless a man's mind blends with this consciousness he does lose his identity.

253 これは何百万人の人々にとって問題が宇宙的正体やエゴの正体になれば、一般的出来事となります。またそれは、如何にわずかの人々しか自分の過去生に気付いていないかの理由です。これは過去において今日と同様、意識の真実の自我と個性あるいはエゴの心とが分離していたことを示すものです。何故なら、以前にも述べたように、意識は貴方の唯一の真の永続する部分であるからです。そして全ての活動が登録されるのは、この意識の中になのです。人間の心がこの意識に融合しない限り、人間は自分の正体を失うのです。

【解説】

期せずして、前回（252）の解説で述べたことと同様な内容をアダムスキー氏はこの本文で述べています。

それほどに、私達は自分の過去生に対する記憶を保持していないのです。

先日の土曜日、久し振りに写真を撮りに近くの自然公園に出かけました。桜の花は盛りでしたが、まだ早春ということもあり、木々の芽吹きはこれからという状況。折からの暖かい日の光を受けた水辺のクレソンに茂みに一羽の白い蝶（スジグロシロチョウ）が盛んに舞っています。良く見ると若葉の一枚一枚に産卵しています。これから迎える本格的な春に卵から孵った幼虫達が食べ物に困らないよう、母親はクレソンの若葉のあちこちに少しずつ産卵しています。幼虫は春の終わりには羽化し、クレソンの花の咲く頃、その白い花の回りを若い蝶が群れるものと思われます。

もちろん、卵から孵った幼虫はその後、親から教えられることはありません。「自然」にどの葉が食べられ、どのような者が天敵かを察知し、自身に起る身体の変化を知っているのです。虫達がこのように何日何をすべきか等々、その小さな身体の何処で考え、記憶しているのか不思議です。気象条件も大きく変動する厳しい自然環境の中にあって、こうした優れた能力が無い限り、生き残れないことも事実ですが、その虫達の秘められた記憶力や感受力は人間を遥かに凌ぐものと思われます。まして一羽の蝶に比べれば、遥かに大きな可能性を有している人間には、更に大きな潜在能力があるに違いありませんし、その能力を開発しない、毎回の人生を無に帰してしまうことは創造主に対して申し訳ない限りと言うべきでしょう。

254 Yet another person who has alined himself with cosmic consciousness can locate the identity of an individual whose identity is lost to his present ego mind.

254 しかし自身を宇宙意識に従わせた別の人物はそのエゴの心には見失われている自己の正体を指し示すことができます。

【解説】

自分が何たるかを知らず、自分がこれまで何を行って来たかを覚えていない大多数の私達は、言わば自分を見失っているということです。見失っている状態の対極を示す言葉が、本文で示されている「locate」という言葉です。意味は「自分の位置を指し示す」或いは積極的に「位置を占める」「場所を設定する」という語感を持っています。

根無し草のように時々風に吹き流されて水面を移動するような、結果に翻弄される人生であってはなりません。しっかり基盤に根拠を置いた上で、成長することが、自分の位置を占める存在になる訳です。その為にも、自身を意識に従わせることが必要なのです。本文の「alined」は丁度、学校の生徒達が整列するように、自身が自分の前にいる意識に従って（つまり、意識が右に動けば自分も右に、前に進めば自分も前に進むように）絶えず自分を前に居る意識に従わせることを意味しています。

255 I have had a number of such experiences with others. But it is sometimes difficult to convey to the present individual ego, mind its past experiences and relationships. That is unless the mind of the individual blends with the consciousness of his own being, the all inclusive. This is not easy to do for most people dwell in the field of effects which they call concrete facts. Yet we know that behind each effect is the cause which is not as apparent as the effect.

255 私は他の人々についての数多くの同様な体験事例を持っています。しかし時として現状の各自のエゴの心にその過去の体験やつながりを伝えることは難しいものです。それは各自の心が全ての内包者である自分自身の意識と融合しなければ為し得ないからです。これは確固たる事実と称する結果の分野に居住する大多数の人々にとっては容易なことではありません。しかし、それでも私達は個々の結果の背景にはその結果物のように明らかなとなっていない因なるものがあることを知っています。

【解説】

この分野の学習は通常の知識の蓄積と同様の手法ではうまく進みません。何分つかみ所の無い心や意識というものを研究の対象としているからです。特に自分が納得しない段階で先に読み進むことはお勧めできません。各章各節で本当は何が重要なのかを一日、少しずつ考えて行くことが望ましいと考えています。

特に過去生の話になると受け入れられる人も少ないのかも知れません。しかし、単純に証拠が無いからというだけで何事をも拒絶することは心が既に末期症状になっている証しなのです。私達は基本的にあらゆる可能性を察知するオープンマインドが要求されています。

もちろん、基本は現在を生きることであり、仮に過去生で業績があったとしても、それらは過去にそっと置いておくべきでしょう。問題は各自がそうした過去で学んだ事柄について何らの記憶が無く、現在の生活にそれを生かせないでいるということです。意識と融合することは、膨大な知識、技能、能力が各自に流れ込んで来ることを意味しますが、それと同時に、自分というものがどのような人生を送って来た者であるかを知り、自分本来の役割というものにも気付かせてくれるということです。

256 So you can see that if the mind does not blend with the consciousness it can be lost in the sea of life. That is why great teachers such as Jesus have stressed, fear not that man that slays the body but the man who slays the soul.

256 ですから貴方には、心が意識と融合しなければ心は人生の海の中で迷子になり得ることが分かるでしょう。それがイエスのような偉大な教師が強調したこと、肉を切る者を恐れるな魂を切る者を恐れよの理由です。

【解説】

意識の中に記憶が残り、自然が持つ膨大な知識が意識の中に備わっています。その意識に溶け込み、一体にならなければその知識に触れることは出来ません。人生の中で自分を見失っている多くの私達は、言わば迷子の状態で、意識（両親）の元を探してはいるものの未だ自分の居る場所も本来の家の在り処も分からない状況にあります。

そこに関心を惹く情報を見せびらかしながら近付き、誤った方角に誘い出す者にこそ、注意しなければなりません。本文ではイエスの「魂を切る者」を引用しています。即ち、人々の迷いを深くしたり、道はずさせる行為は、最も戒められなければなりません。

一方で、私達が迷いの途上にあることは各宗教の教義で指摘される通りなのですが、そこから救われる為に最も大事なことは、宇宙にあまねく遍在する意識という無言で目に見えない存在に私達は常に囲まれている一方で、その意識を既存の感覚では知覚できないばかりに、その存在に気付かず、創造物の中で唯一、孤独な生活を送り続けているのが私達の現状だということです。

257 Let us consider the meaning of this. Man has two souls, the soul of the sense mind, and the soul of consciousness. It is the sense mind that can be slain by lack of memory caused by adhering only to the so-called concrete effects. We can now see that memory is essential in order to have life eternal.

257 この持つ意味を考えて見ましょう。人には二つの魂があります。感覚の心の魂と意識のそれです。いわゆる具体的な結果にのみ追従することで記憶の喪失により滅ぼされ得るのはその感覚の心です。私達は今や記憶が生活を永遠に保つ為に不可欠であることは分っています。

【解説】

ここでは人間の魂 (Soul) 、即ち精神的な活動主体は意識と心、2つあると言っています。この内、最も手近にあり、未熟なまま各自の行動を支配しているのが心ということになります。しかし、その心もそれ自身のこれまで歩いて来た道程等、その背景を覚えていなければ、常にゼロからの出発となることは容易に分かります。心が自らの体験を記憶できない、あるいは忘れやすいことが進歩を妨げる要因になっていることは明らかです。極端な場合、本人にはそれまでの記憶は残っていませんので、別人、別人格として再出発するということになり、かつての自分は取り戻せない残念な結果になります。

そこで重要なのは、自分自身の培って来た知識や経験を生かせる様、記憶しておくことにはなりますが、特に記憶すべき事柄は意識とのつながりに関するものです。本人の意識に関する体験はその人のその後大きな影響を与える重要なものです。また、UFOの自撃体験も印象深いものになる筈です。

私達は単調な日常生活よりは旅行に出かけた際に見聞きした事柄の方が記憶に残るようです。これは旅行中は見るもの聞くもの心にとっては物珍しいことが多く、心が興味を持ってあたりを見回している為に、敏感になっていることが原因と思われます。心が関心をもって周囲を観察し、印象を得ようとアンテナの感度を高めていることが記憶の定着を促すものとなっているのです。漫然と日常を過ごすのではなく、目に見えない尊い存在に絶えず敬意を払いそこから与えられ続けている価値ある印象を数多く受けければ、それだけ本人の心の記憶も深まります。

258 Jesus blended His sense mind with consciousness and thus He was able to say, I am in the world but not of it, and many other statements that He made in reference to His past. And He could not have maintained these memories had He not blended with consciousness which carries the memories and contains the book of records.

258 イエスは自らの感覚の心を意識と融合させました。それ故にイエスは、私はこの世に居るがこの世の者ではないと言ったり、自身の過去の関連して他の多くの声明を述べる事が出来たのです。そしてイエスは記憶を持ち運び、記録の書を内包する意識に融合しなかったら、これらの記憶を維持することは出来なかったでしょう。

【解説】

仏陀と並んでイエスほど、この地球の精神性に影響を与えた人物はおりません。そのイエスの秘密が本節で述べられています。即ち、感覚の心を意識に融合させる事が出来ていたイエスは多くの真理を人々に教える事が出来たのです。また、それほどに時代の潮流を把握し、人々がこれから生きるに当って必要な概念を平易な言葉で人々に伝えて行ったということでしょう。

誰でも自らの心を意識に融合させれば、その人、本来の生き方が始まり、必要な知識は意識に収蔵された記憶から容易に取り出されることとなります。「みどり子のようにならなければ」とイエスは言っていますが、それも自らの心を素直にし、意識に従わせたイエス自身の体験を述べていることが分かります。

誰でも最初から聖人になる訳ではありません。一つ一つの訓練、学習を通じて未熟な自己の心を育成し、自らの意志でその両親である意識の下に立ち戻り、再び一家が融合することによってのみ、達成されます。その為には、一步一步、家に帰る道程を進むことが必要です。「精進」とはこのような事例を指すものと思われま

259 To do this one must make the sense mind trust consciousness like trusting God. And this in turn calls for faith, oftentimes called blind faith. To clarify blind faith a little further, we have eyes with which to see but they do not see any more than a window pane can see what is seen through it. It is you who sees through the window, so it is the consciousness of you that sees through the eyes. For when you become unconscious the sense of sight is still there but you no longer can see. The other senses follow the same pattern. So one should realize the importance of conscious seeing, or sense mind cooperation with consciousness if he is to have a cosmic memory of life. For then he can recognize himself through eternity from the pages of memory. This is an important phase if individual life if life eternal is to be earned. And that is what Jesus meant when He said, he who loses his life shall find life eternal.

259 これを成す為には、人は感覚の心を、神を信頼するように、意識を信頼させなければなりません。そしてこのことは次には信頼、即ち、しばしば盲目的信頼と呼ばれるものを必要とします。盲目的信頼というものを少しより明確にする為に見るのに用いる目について述べますが、目は自分が見ているものは窓枠がそれ自身を通じて見ている以上のものを見ている訳ではないのです。窓を通して見ているのは貴方であり、それ故、目を通じて見ているのは貴方の意識なのです。何故なら、貴方が無意識になってしまえば、視覚感覚はそこに未だあっても、貴方はもはや見ることはできません。他の感覚も同じパターンを辿ります。ですから、もし人生における宇宙的記憶を持つようとするなら、人は意識的に見ることに、感覚の心が意識と協力することの重要性を理解すべきなのです。何故なら、そうすることで人は記憶のページの中から永遠を通じて自分自身を思い出すことが出来るからです。これは各自の人生が永遠の生命を得ようとするなら、重要な段階となります。また、これはイエスが自分の命を失うものは永遠の命を見い出すだろうと言った時にイエスが意味していたことです。

【解説】

本文では意識を信頼することと「faith」と表現していることに先ずは注意していただきたいと思います。従来、とかく「faith」を「信念」と翻訳されるケースが多かったのですが、その持つ語感とは異なっています。何故なら「信念」とはどちらかと言うと「自己の内面に抱く自らの考え、自分の信じている事柄を外部から如何なる妨害があっても守り通す」といった意味合いで用いられているからです。一方、本文で言う「faith」は違います。それは「窓枠である心はその部屋の奥深く窓越しに見ている自己の本体（意識）を信頼して無抵抗の態度をとり、そことの融合（一体感）を保つよう努力すること」を語感として持っています。意識への信頼を「faith」としているのです。

こうなると具体的に私達は感覚ごとに、このような訓練が必要になるように思います。視覚、聴覚、味覚、嗅覚。これらの中には美しい、醜い、美味しい、まずい、心地よい、気味悪い等々、様々な感覚による表層的な判断があり、各々のランク付けも行っています。これらは感覚の差別行為（裁き）ではありません。各々を落ち着かせて、自身の内部にある意識にありのままを伝えるだけの存在に徹することが必要だとしているのです。

260 We must train the mind to daily recognize a certain amount of cosmic life and this can be done through two phases. One, by someone who is very good at reading Cosmic Records. And the other, by allowing your consciousness to give the revelation to your own sense mind. But to do this your mind must have trust in consciousness. You will know when you have blended the two, for then you will be living in full awareness of cosmic cause and the related effects. i.e. Since I have had the experiences with the Brothers I have been living in two phases of life. One, as I used to live performing my daily duties in a normal manner, but enjoying life more than I did before. While at the same time consciously aware of my experiences and of the individuals that I have met from other worlds. The experiences are as indelible upon my memory as my daily activities.

260 私達は毎日、心を宇宙的生活を幾分でも知覚するように訓練しなければなりませんし、これは2つの面から成すことができます。一つは宇宙的記録を読み取ることがとても上手い人物による方法。他は貴方の意識に貴方自身の感覚の心に啓示を与えることを許すことです。しかし、これを行うには貴方の心が意識を信頼しなければなりません。貴方はその2者が何時融合したかは分かるでしょう。何故ならその時、貴方は宇宙の因とそれに関連した結果の完全な知覚の元に生きているからです。即ち、宇宙の兄弟達との体験を持つてからは、私は二つの生命の面で生きています。一つは私がこれまで生きて来たもので普段通りに私の日常の義務を行い、しかも以前より以上に生活を楽しんでいます。一方、同時に、私自身の体験や私が会った他の世界から来た人物達について意識的に気付いているというものです。その体験は私の日常活動と同様、私の記憶に消えることはありません。

【解説】

ここでのポイントの一つは「毎日少しずつでも宇宙的な生活を自分の心で感じられるよう訓練すること」であるように思います。私達地球人は太古からの歪んだ生き方がこびりついており、一つ一つ洗い流して行かなければなりません。一挙に飛躍することを望むよりは、一歩一歩階段を昇る方がかえって早道だということです。

もう一つは、本文ではいわゆる能力者（霊能者）とも言うべき教師の下で体験を積むことについてもその一方法であると述べていることです。そこで注意したいのは、原文で「someone who is very good at reading」とある中に、世に言う霊能者は確かに過去の記録を読み取る能力においては優れているものの、そのことと霊能者本人の人格性とは別のものであるという語意が感ぜられることです。これまで、多くの能力者が尊敬され、ある時には教祖として奉られて来ましたが、能力者は単に宇宙にある記録の書を読み取る能力に優れているだけのことだと言っているように思われます。

こうした宇宙生活に目覚めると私達の生活にどのような変化が起るのか、本文で言う宇宙的なものと現実の生活が混然一体となった新しい充実した毎日になることだけは確かなようです。

261 In order to obtain a cosmic concept of life all that is necessary is an expansion of the mental conscious awareness. And in this way you become more alert to your actions in both fields. It could be compared to being in a plane or on a high building, for then you become aware of things below as well as above you. You are using the same sense mind, only your field of awareness has expanded. When you are able to do this regardless of where you may be there is no limit to how far you can go in connecting with conscious memories that could reveal many past experiences. And in this way find your true self and live in the sea of eternity.

261 生命の宇宙的概念を得る為に必要となるもの全ては心による意識的な知覚の拡大です。そしてこの方法によって貴方は両者（訳注：因と結果）の分野における貴方の行動についてより多く気付くようになります。それは平原や高い建物の上に居る場合と対比することができます。何故ならその時、貴方は貴方の上空でのものと同時に眼下の物事をも気付くようになるからです。貴方は只、貴方の知覚範囲が広がっただけで、同じ感覚心を用いているのです。貴方がこのことをどこに居るかに関わらず出来るようになれば、多くの過去の体験を呼び起こすことができる意識的記憶に接続する為、如何に遠くに貴方が行こうとも制限はなくなりません。そしてこのようにして、貴方の真の自己を見つけて、永遠の海の中で生きて欲しいのです。

【解説】

「目に見えない意識に融合せよ」とか「意識の指導に従うことです」といくら言葉で唱えても、それを実現する為にどのようにすべきかを示さなければ、効果は上がりません。ここでは具体的にどのように心掛ければ宇宙的な生命感が得られるかを述べています。本文では比較的簡潔に私達の心の知覚範囲を広げることだと言っていますが、私はこのことは大変重要な意味を示唆していると思っています。

つまり、心の知覚できる範囲とはレーダーと相似させて考えて良いと思います。自分の心がレーダーが周囲を探知すべく、パラボラが回転している状況が本文の「alert」（警戒）の持つ語感です。そしてそのレーダー画面に見える範囲が本人の心の知覚範囲です。感度が鈍く性能が劣るレーダーはごく近くの大きなものしか把握できませんが、性能を高めて行けば、より遠くの、即ち未だ実現していないが現実化に向けて進行中の物事等のより繊細な存在に気づけるのと同様です。優れたレーダーがあれば暗闇の中でも不安もなく人生航路を進むことが出来る訳です。

このように心の知覚範囲を拡大することは各自の心の持ち様で少しずつであっても実行できると思います。日常歩いている時も、机に向かっている時も自分の心を文字通り広げ、印象に対する感受性を高めようとする事は、十分個人の努力でできる範囲だと言えるでしょう。

262 This particular phase of life is a major part to be learned and it should not be very hard when the sense mind begins to live with the consciousness instead of acting on its own as it has been doing. And results will be outstanding when the two live as one. This may seem to be a repetition of what has been said before, but repetition becomes a memory.

262 特にこの段階の生活は学習する上での主要な部分であり、感覚の心がこれまでして来たように自分自身が確保しているものを前提として行動する代わりに、意識と共に生き始める時には、過度に行うべきではありません。そしてその両者（訳注：意識と心）が一体となって生活する時、効果は傑出したものになるでしょう。このことはこれまで述べられたことの繰り返しのように見えるかも知れませんが、繰り返すことが記憶になるのです。

【解説】

心がかつてのように自分自身の凝り固まった意見や自らが築いてきた拠り所と称する結果を頼みとせず、自身の奥に居る静かで暖かい意識とともに人生を生きて行くことが、学び本来の姿だと言っています。言い替えれば、これまで述べられて来たことのエッセンスがこの言葉に集約されているということです。

私達はこれまで何の目的でこの講座を学んで来たのかについて、各自もう一度振り返る必要もあるように思います。自分の心を本来の位置に戻す為、矯正する為にこれまで学んで来た訳ですから、本項に記載された内容は極めて重要です。少しずつの実践を通して心をより低く、柔軟なものにし、意識のアドバイスを進んで受け入れること、心の中で考え出すのではなく、意識からの指導の声に従うことが最も的確であり、私達創造物のあるべき姿なのです。その結果として身体が健康になったり、事業が進展したりするということです。本末転倒というように、結果である御利益を求めるのは正反対の態度であると言ふべきです。

また、一時に過大に努力しても良い結果は得られない、即ち少しずつ、休まぬ取組が必要だと言えるでしょう。

263 A good example of this can be found in two people who decide to join together for life. Each is an individual with habits in his or her way of life, yet after years of life together they not only take on each others habits but they start to look alike. All because they have become aware of one another as though they were one. Even pets, such as dogs and cats etc., oftentimes take on the personality of the master. So we can see that a constant reminder or association becomes an automatic manifestation of the other, where effort is no longer required for the form operates on memory pattern. The most important thing to realize is that the pattern remodeled the personality of the form in likeness of itself. It could be said that the original person is no more as he was, but another has taken his place. For one has absorbed the other and the two become as one.

263 この良い例は生活を共にしようと決意した二人に見ることが出来ます。二人は各々自分の生活の習慣を持った人物でしたが、何年も生活を共にした後、彼らは互いの習慣を身につけるばかりでなく、似始めるのです。彼らが互いを一体のものとして意識していたからに他なりません。犬や猫等のペットでさえ、しばしば飼い主の個性を身につけます。ですから、私達は、絶えざる思い出や交際はやがて（訳注：自分自身へ）自動的に他者を現出させることになるのです。形有るものは記憶パターンによって働くため、もはや努力は必要とされないのです。私達が認識すべき最も重要なことはパターンが自身の似姿に沿って人格を再形成させたということです。それは、元々の人間はもはやかつての者でなく、他の者がその位置をとって代わったということも出来るでしょう。一方が他を吸収して両者が一体となったからです。

【解説】

私達の心がこれからの人生を意識と共に生きようとする時、どのようなことが起るかを示したのが本文です。

即ち、夫婦の例えのように、相手を信頼し、生活を共にすれば次第にその性格も似て来ると言っています。つまり、私達が心の中で絶えず意識を信頼し、またコミュニケーションとも言うべき会話（印象の伝達と感受）が出来るとなれば、私達は創造主の似姿になれると言っているのです。

また、一方で、このような心の変貌は各自の人格をも変えることをも指摘しています。悪い例で言えば「マインドコントロール」による人間の隷属化手法となりますが、良い方向に応用できれば人間本来の道に向けて各自の一大変革をもたらすこととなります。日常的にどのような心境で刻々の時間を過ごすのか、何に自分を同調させているのかが問われていることに私達は早い段階で気付かなければなりません。

264 While we have used two individuals in close association with each other, this can take place where many are represented by one when using the same pattern. This shows that the consciousness whom we call God, is the all inclusive. And as two people are able to become as one through association and even resemble each other, just so, an individual can become one with, and resemble God, when he thinks in terms of God instead of the ego. Yet he retains his individuality, the difference is that his sense mind has blended with conscious consciousness that we call God. The sense mind is able to perform its normal duty as it did in the past but it is aware of the consciousness that gives it power and intelligence to act wisely in the world of effects. The mind will then feel as Jesus felt when He said, I of Myself do nothing, but the Father that worketh through Me does all of the work. This is cosmic consciousness.

264 私達は互いに親密な二人を例にしていましたが、このことは多人数が同じパターンを使用する場合についても一人に代表されるところに起り得ます。これは私達が神と呼ぶ意識は全てを包含することを意味しています。そして二人の人間が交際を通じて一体となり、互いに似て来るまでになるように、丁度そのように各自も自我への代わりに神について考えていれば神と一体になり、神に似て来るのです。しかしそれでもなお、自分の個性を保持しており、違いは自分の感覚心が私達が神と呼ぶ意識的な意識と融合しているということです。感覚心はこれまで同様、通常の任務を実行できますが、その者に結果の世界で賢く行動する為のパワーと知性を与える意識について気付いています。心はその後イエスがこう言った時のように感じることでしょう。私自身は何も成していない、父が私を通じて全ての仕事を成したもうのだ。これが意識的な意識です。

【解説】

二人の人間の場合も、人と創造主との関係の場合も同じです。私達がこれまでして来たような自己への関心を創造主に向け直すことで、私達は創造主に似て来るということです。その究極が私達が創造主の意向を100%実現でき、イエスのように言えるまでになることです。ウェイン・ダイヤーも講演の中で私達はあまりにも自己に関心を集中しすぎていると述べており、賢者が指摘する真理は何時の時代も同じです。普段、どのような対象を気にかけているのかが重要だと言っているのです。

しかし、これを大変難儀なこと、厳しい修業を経ることによることでしか到底実現しないと思うべきではありません。その証拠に、自然界にある人間を除く生き物は全てこの心境に達しているように見えますし、毎日毎日を必要な任務を全うし、例えどんな困難な結果世界の環境にあっても楽しげに自分の仕事を全うしている自然の生き物達は、本文で言うその者を通じた創造主が働く状況を作り出しているからです。四国巡礼で多くの人達が「同行二人」という言葉を記したものを身につけるとされていますが、「いつも弘法大師と一緒に」というこの言葉も本文と近い内容を指す意味を持っていると考えています。

265 Consciousness is the father and the mother of all form creation which conceives and gives birth to the various forms. And within it is the blue print or memory which is ever present that can be reviewed for conformation at any time when the need may arise. But the sense mind cannot do this alone, there must be the combination of the two. For as we know, the sense mind learns from effects and now it must understand the cause producing the effect. The effect is the fulfillment of a cause and the sense mind might not execute it exactly as the cause mind intended it to be, so through misinterpretation a mistake could take place. And this is where the Law Of Grace enters and through this law the sense mind has a chance to realize and correct its mistake. And corrected it must be before progress can be made. And it must be made in behalf of consciousness and not the sense mind. In this way the sense mind is made to do what the better self wants it to do. If this is not done a slight memory might remain but it will be distorted.

265 意識は受胎し様々な形有るものに誕生を授ける全ての形有るものの創造の父であり母です。そしてその中には必要が生じた時に何時でも一致するか吟味できるよう常に出して置かれる青写真もしくは記憶が入っています。しかし、感覚心はこれを一人では出来ません。二者の組合せが必要なのです。何故なら、ご存知のように感覚心は結果から学ぶ者ですが、今や、その結果をつくり出している因を理解しなければならぬからです。結果は一つの因の成就です。感覚心は因の心が意図したようには実行しないかも知れません。そこに誤った解釈を通じて間違いが生じるのです。そしてそこに恩寵の法則が入り、この法則を通じて感覚心はその誤りに気付いて改める機会を得るのです。そして進化を遂げるにはその修正を終えていなければなりません。また、その修正は意識の為に行われなければならず、感覚心の為に成されるべきではありません。このようにして感覚心はより良い自己がそうしたいと思うことをするようにさせられます。これがなされなければ、わずかな記憶が残ったにしてもいずれは歪められて行くことでしょう。

【解説】

ここで注目すべきポイントは、「修正は意識の為に行われなければならず、感覚心の為に成されるべきではありません」ということです。従来は、自分の過ちは自分自身の向上の為、正すことだと思って来ましたが、著者アダムスキーは「意識の為に」自分の過ちを修正せよと言っています。逆に言えば、それ程に自分の心を小さくして全てを意識の為に奉仕することを言っているのです。

また、ここで「恩寵の法則」 (the Law Of Grace) について触れられていますが、これに関連して、広く親しまれている賛美歌の一つ、Amazing graceが思い出されます。ご存知の方も多いかと思いますが、作詞者ジョン・ニュートンはイギリス人で18世紀に生きた人です。やがて当時盛んに行われていた奴隷貿易に携わるようになります。その後、彼が22才の時、自分が船長であった船が嵐に遭遇しました。転覆しそうになる船の中で彼は一心に神に祈りました。その後、船は奇跡的に危機を脱します。この体験の後、ジョン・ニュートンは船を降り、牧師になった後に生まれたのが、この賛美歌とされています。

Amazing Grace! How sweet the sound 驚くべき恵みよ (なんと甘い響き)

That saved a wretch like me! 神は私のような罪深き者も救われた

I once was lost, but now I'm found, 私は見失われたが今見いだされたのだ

Was blind, but now I see. 私は何も見えていなかったが今は見える

なお、上記の訳語は下記を参照しました。

<http://www.ffortune.net/calen/xmas/songs/amazinggrace.htm>

この歌詞には、自らの死を目前に自分がこれまで犯して来た誤りを悔いる中で、作者が神の恩寵の暖かさを痛感し改心した率直な感謝の気持が込められています。

266 One should not be in a hurry to cultivate cosmic memory, for impatience will cause a misapplication of the law. Always remember that consciousness is eternal. Therefore it is not going anywhere, so it is not in a hurry, for in itself it is all inclusive. And by remembering this one will avoid many mistakes.

266 人は宇宙的記憶を培うのに急いではいけません。何故なら、短気は法則の誤用をもたらすからです。常に意識は永遠であることを思い出して下さい。ですから、それは何処に行ってしまうことはなく、急いではいけません。何故なら、それ自身の中に全てが含まれているからです。そしてこのことを覚えていることによって、人は多くの過ちを避けることができます。

【解説】

時には人生を振り返って見るのも良いものです。本文で言う宇宙的記憶はとにかくとして、遠い昔に体験した何かしらの事柄の断片は各自、思い出されることでしょう。とりわけ、雨や風等、特異な自然現象、旅先で見た印象的な風景等、私達の自我が記憶を保持出来ないと言っても、そのいくつかは残っているものです。

これらの物事を体験した当時から、何十年と経過し、もはやその時点に戻ることはありません。それは結果の世界、移り行く世界の出来事だからです。しかし、それを見つめる私達の本性は、その時から継続しているのです。つまり、極端に言えば、物質的な結果の世界はとにかくとして、内面性のみが、時間を超えて受け継がれるということでしょう。

このように記憶というものが各自の人格を構成して行く訳ですが、本文ではそれを獲得しようと急いではいけないと言っています。記憶の深い、浅いは如何にその体験に感動したかによって決まるでしょうし、歩み始めさえすれば、文字通り時間は永遠に続く訳で、バランス良く少しずつ自分の理解力を広げながら過ごせと言っているのです。

267 To cultivate eternal memory and become the likeness of God or The Supreme Consciousness, one will have to live it and with it as he does with his life mate or partner. Not thinking of self alone but the other as well, thus blending the two to create a harmonious union. For this is what must be done to blend the sense mind with consciousness. And when it is done the individual will represent God as he was meant to do, in the first place. As a man and wife represent each other, and the memory of their first meeting and all acts from there on are quite permanent and they enjoy life together.

267 永遠の記憶を培い、そして神、即ち至上なる意識の似姿になる為には、人は生涯の友人やパートナーに対するようにそのことを生き、それと共に生きなければなりません。自分のことのみを考えるのではなく、もう一つの存在を考え、この2者を融合して調和的な融合体を造り上げることです。何故なら、これは感覚心を意識に融合させる為に成さねばならないことだからです。そしてこれが成された時には、各人ははじめに意図されたように、神を表現するようになるでしょう。男と妻が互いを表わすように、また彼らの最初の出会いとそれからの全ての行動の記憶が完全に永遠となり、二人が生活をいっしょに楽しむのです。

【解説】

自分にとって大切な存在は絶えず自分の近くに置きたいものです。カトリックでは修道女を「神と結婚する」と表現し、以後の人生において常に神と生活を共にするという、本文と類似した表現をしています。

結果の世界、古来から続く歪んだ社会の中で生きる私達は、たとえ本人が真の道に進もうと努力してもそれを妨げるような出来事も数多く起るのはある意味、仕方のないことです。その時、自分の内部に相談できる存在、意見を求められる存在を持っていることが大切だと考えます。

その為にも、人生の航路の先に何が起ろうとも、絶大な信頼を置ける宇宙意識とのパイプを大切にし、その交流さえ確保していれば、他に何も必要なものはありません。ひとたび、この自分にとって大切な存在を自覚できれば、後は私達の心を常にその創造主と結果の世界に現れた諸々の創造物への関心を高めて、自分が一つの創造物として何を実現させたら良いのかと心を開くことだけで、答えはまもなくやって来ることでしょう。

268 The marriage of the sense mind and consciousness has been referred to as The Lion and The Lamb lying down together. And when this takes place one is on the way to Eternity, and the Book of Remembrance will be opened unto you as promised in Revelations.

268 感覚心と意識の結婚は共に横たわるライオンと小羊の関係として引用されてきました。そしてこのことが起る時、人は永遠へと続く道の上であり、ヨハネの黙示録に約束されているように記憶の書が貴方に明かされることでしょう。

【解説】

本文では心と意識の融合を両者の結婚と表現しています。また、「ライオンと小羊」の絵もカトリックではよく引用される例えです。なお、この場合、ライオンはイエスを、小羊は迷える者を意味しているとされています。

とかく私達は心が意識に吸収され、「無」になるような状態を想像しがちですが、そうではなく、両者はその絵のように各々両立するということに注意が必要です。もちろん、心は広大な能力を持つ意識に寄り添うことでより深い知識を得ますが、同時に意識もその意向を人間の諸活動を通じて現実世界に反映させることができることに注目しなければなりません。意識が例えどのような素晴らしいアイデアを持ち、それを表明したとしても、そのメッセージを受け止め、内容を理解し、実現に向けて行動する人間が存在しなければ意識の望む世界は実現しないからです。

互いに相手を尊重し、信頼することが結婚生活の基本ですが、それと同様に、まずは心が以後、それこそ永遠に連れ添うことになる意識に対して、これまで以上の信頼を寄せることが大切です。また一方が片方に全てを依存するのではなく、自ら相手の助けになる事柄を進んで手助けすることも望まれます。私達の心も意識から常に何かをもらおうとするのではなく、意識の為に何が出来るのかを考えることも必要です。

269 THE EYES OF GOD, OR CONSCIOUSNESS

We have been taught in our religious faiths that God sees all acts, yet we know that the sense mind does not see the invisible cause back of every effect. This means that we see less than half of what is to be seen. But we as an effect of God have the potential of seeing what God sees. The reason that we do not see as He does is because we do not understand life.

269 神の目、即ち意識

私達は宗教の教義の中で、神は全ての行為を見ておられると教えられて来ましたし、私達は感覚心はあらゆる結果の背後にある見えざる因を見ていないことを知っています。このことは、私達が見るべきものの半分も見えていないことを意味します。しかし、神のひとつの結果である私達は、神が見ていることを見る潜在力を有しています。私達が神が見ておられるように見ない理由は、私達が生命を理解していないからです。

【解説】

実際、本文で言う「神の目」で見るということは、従来の私達の見るという概念とは異なるものかも知れません。見える物の背景にある要因に気付く、或いは感じるようになるというのが正直なところかと思えます。本文では神はacts（行動）を見ていると言っています。つまり、私達が日々、刻々どのような生活振りを送っているかをじっと見ているということであり、私達は常に神から見られていると思ふべきです。

同様な意味を持つと思われるものに、チベット仏教の寺院の高樓に描かれている巨大な目の絵はこうした神が私達をいつも見守っていることを示すシンボルだとされています。

また、一方では人間の額に目を描く事例もありますが、これも本文で言う従来の肉体の2つの目の他に、意識と一体化した結果、見えるようになる人間の能力を象徴するものです。

270 Jesus made the statement, ye have eyes yet see not, and also, the blind lead the blind. Yes, we do have eyes, as your home has windows. And the windows would say if they could speak, through me the forest is pictured. And if I became a mirror I would reflect the forest, but not its life.

270 イエスは、汝は目を持っているが見ていない、また盲人が盲人を導くようなものと発言（訳注：マタイ15:14）しています。確かに、私達は皆さんの家に窓があるように目を持っています。そして、その窓がもし話すことができたとしたら、私を通してその森が見えるのだと言うことでしょうか。そして、もし、私が鏡になったとすれば、私はその森を映すでしょうが、その生命までは映すことはありません。

【解説】

私達の目の機能は、良く知られているように水晶体レンズで網膜上に投影された画像を感光体が受信し、その「信号」を脳でイメージに構築するといった原理になっています。もちろんその為、レンズが曇ったり、感光体の細胞が可能な眼圧その他で損傷すればその機能は損なわれます。

しかし、私達が実際、見ている、言い換えれば勝手に見ていると思っているのは、実は脳の中で再構成された感覚器官がつくり出したイメージから勝手に思っているのかも知れません。

実際には目は人体が外界の光を受けるために設けられた窓に過ぎません。また、その家の中に結ぶ像は単なる投影した2次元の像でしかなく、私達の感覚器官の巧妙なカラクリにより、あたかも実態を把握しているかの錯覚に陥っているということでしょう。言わばバーチャル（仮想）の世界であり、当然、窓からの情報は例えどのような優れた素材を用いても限られたものになることは良く分かります。

一步、その家（自我）の限界を知り、家の外に出て、かつて家の中から見えていた景色を再度眺める時、私達はより広大な空と大地の下、もっと生き生きした姿、生命の活動がそこにあることが分かります。また、ひとたび、窓からは決して見えない物事が現にあり、生命を支えていることを知れば、再び家の中に戻った後に窓から見る景色は随分、変わったものになるものと考えています。

なお、本文の中で「盲人が盲人を導くようなもの」の意味することはこのような解説を提供する者にとっては、大変重い言葉と受け止めています。

271 The sense of sight is reflecting the effects, but not the life of the effects. It is like the window or mirror. But to have a reflection there must be a cause. So in a way we are half dead, or living only half a life. And Jesus said, let the dead bury the dead. Meaning that the pallbearers bearing the corpse are as dead the corpse. The form within the coffin lies unconscious of life and the ones carrying it are equally unconscious of life in full, or cosmic life. For the corpse lived a mental life as the ones who bear it do and once the consciousness withdraws, the mental is silenced. For it never knew itself as the real part which is the consciousness.

271 視覚は結果物を反映していますが、その結果物の持つ生命は反映していません。それは窓や鏡のようなものです。しかし、映像を得るには因がなくてはなりません。ですからある意味、私達は半分死んでいる、或いは生命の内、半分しか生きていないと言えます。また、イエスはこう言いました。死者をして死者を葬らせよと。死体を担いでいる者も死体と同様に死んでいるという意味です。棺の中の肉体は生命の意識は無くなり横たわっていますし、それを運んでいる者達も等しく満ちた生命、宇宙の生命について意識していません。何故なら、その死体はそれを担ぐ者達同様に心による生活を送って来ましたので、ひとたびその意識が退くと、その心は沈黙させられます。何故なら、心は意識である真実の部分に関する自分自身について知らないで来てしまったからです。

【解説】

目で見ているものがその対象の全てであるとする、言い換えれば目で確認できればそのものを評価できるとするのは誤っていることを先ず、明らかにしなければなりません。なにしろ、私が見ていると思っているのは単なる自分のレンズを通して映った投影像であり、それは外面的な結果物でしかないからです。この点に対し、イエスはその人生は半分死んでいると称したのです。つまり、私達は目や耳等の感覚器官を窓として、そこから得られる情報で全てを判断し、裁いて来ているのです。そこには、形あるものの内部やその背後に息づく生命の本当の力は反映される筈もなく、ただ自分の見た、聞いた等の感覚器官の性能に依存した人生を送っている姿があります。

そこでイエスは死者を担いでいる者達も、実は死者も同然だと言ったのです。自分の中の意識を対象のそれと一体化し、形有るものの内部に宿る生命力と同調しない限り、本来の人生を送っているとは言えないと言っています。

272 Some may feel I use the word consciousness too often, yet it is this consciousness that is the real you. It is also back of all creation - the primal force - the most important part in a mental life. For the sense mind must remember its experiences if life is to continue, as consciousness is the recorder of all actions in life. If the sense mind does not associate itself with the consciousness its memory is short for it is not eternal. But as we have said before, it can become eternal by blending with consciousness.

272 中には私が意識という言葉をおよそ多く用いていると感じている人もあるかも知れませんが、真実の貴方はこの意識なのです。それはまた全ての創造の背後にあるもの、原動力であり、精神生活において最も重要な部分です。何故なら、感覚心は生命を継続するつもりならその体験を記憶して置かねばなりません、意識は生命の全ての行動の記録者なのです。もし、感覚心が意識と仲良くならなければ、その記憶は永続しない為、短いものとなるでしょう。しかし、私達がこれまで申し上げたように、心は意識と混じりあうことで永遠のものになり得るのです。

【解説】

意識というものが捉えにくいことは良く分かります。また、通常、私達の生活ではもっぱら表層的な心が右往左往しており、私達自身や万物の奥に存在する意識に気が付かないこともあって、私達は容易には意識の存在に気が付かないのです。しかし、少なくとも記憶ということについては長期に渡り保持されるのは心にではなく、この意識の中にあると本文で明言されていることに注意したいと思います。私達の価値は各自の人格、才能その他の特徴ですが、その価値の源はその人の記憶ということに行き着く筈です。どのようなことを大切に思って来たか、どのようなことに感動したか等々、丁度著名な画家も若い修業時代には多くの他の画家の作品を研究し、素描訓練も積み重ねたことでしょう。その上で初めて本人の画風を打ち出せるようになるものです。基本となるのは自らの技量の土台はこうした過去の記憶が意識の中に貯えられているからということになります。

人生のあらゆる分野についても事は同様で、心が自己顕示欲を捨て、意識と仲良く生きられればその記憶の恩恵に浴することも出来ますし、無用な葛藤をせず、楽な生き方が出来るということでしょう。

273 You may say here, but I am conscious. That is partially true for if you were not you would not be alive. But are you conscious of cosmic consciousness as the Creator whom we call God is ? For this conscious intelligence is aware not only of the cosmos but all the created effects. In other words its records consist of cause and effects. And if we are to fulfill the purpose of our creation we must cultivate the other half of our life which is cosmic consciousness. For this in turn brings life eternal with all of its records.

273 貴方は自分には意識があると言うかも知れません。それは部分的には真実です。何故なら意識が無ければ生きてはいないからです。しかし、私達が神と呼ぶ創造主が意識している程に宇宙意識を意識していますか？何故ならこの意識の知性は宇宙のみならず全ての創造された結果物を知覚しているからです。別の言葉で言えば、その諸記録は因と結果物を含んでいるのです。そしてもし私達が創造された目的を満たそうとするなら、宇宙意識である私達のもう一方の半身を育まねばなりません。こうすることがひいてはそのすべての記録を携えた永遠の生命をもたらすことになるのです。

【解説】

この生命の科学の一連の講座において最も大切な概念としてこの「意識 (consciousness)」が揚げられます。著者アダムスキー氏が伝えたかったこの「意識」という概念について、私達はもっと深く考える必要があるように思います。

あるものの存在を常に心の中に実感し、絶えず気にとめる状態を「○○を意識する」と表現しますし、救急隊が急病で倒れた者に対して「意識があるか」を確認する時は”目覚めているか”、或いは身体全体を統率する一連の頭脳活動は確保されているかといった意味で日本語では用いられています。そう考えると、本文にあるように、「私には意識がある (I am conscious)」という意味も、これと同様に”感覚反応を受け取れる識別能力や知覚能力がある”という意味合いであり、日本語の場合と同様な語感があることが分かります。

しかし、私達が日常的に持っている意識は、創造主の持つ意識とは比べようもなく小さなものに留まっており、その意識を宇宙の意識まで養成することこそ、究極の精進の目的であると言っているのです。但し、本文では”どうすれば”とか”どのようにして”とあまり解説はしていません。各自の自我の状況は、これまでの生涯の違いから各自異なる背景があり、一口にこうすればとは言えないのです。ただ、私の経験から言えば、日常生活を送る中で、自分の心を動きをチェックし、暴走しないようコントロールする中で、自分の意識する範囲、関心の分野を拡大し、そこから得られる印象を大切にしている過程で、自然と印象への感受性が高まるように思います。また、ひとたび自然を大きく包み込んでいる存在に気付いた後は、そのより大きな存在の意志に自分を従わせることが大切なことはこれまでも述べて来た通りです。

274 And how is this done? It is no different than memorizing things while in school or elsewhere, and is done with repetition until you are sure that it is well impressed upon the sense mind. When this is done you will never forget. But this should be done in the Cosmic Allness, and can be done by seeing with Cosmic Sight or God's eyes.

274 そしてこれはどのようにして成されるのでしょうか？それは物事を学校かその他で覚えるのと何ら変わるものではなく、貴方が感覚心に十分印象づけたと確信するまで繰り返すことで果たされます。これが実行された後、貴方は決して忘れることはないでしょう。しかし、これは宇宙的調和の中で成されるべきであり、宇宙の目、神の目で見ることによって成され得るのです。

【解説】

宇宙的記憶を育むにはどうすれば良いかについて本文は述べています。即ち、記憶に残すには学校での学習と同様、繰り返し憶えようと努力することだと明言しています。

私達は何か特別な行を積み、ある瞬間に特別な目覚めが起きて、瞬時に事が進むと思いがちですが、本文からわかるように現実はそうではないように思います。毎日の繰り返しがその人の人格や能力を作り上げて行くということです。また、この場合、自分でこのことを憶えておこうと決心し、心に刻みつける努力を何度も行い、確かに記憶したと心に確信するという一連の行為（努力）をして初めて、心に記憶される訳で、まずは自らこの体験を憶えておこうとすることが重要だと言っています。

今頃（5月のはじめ）は丁度、木々の若葉が美しい季節となりましたが、今朝も通勤途中の歩道のケヤキの若葉が朝日に輝き、木々がまさに生きているという実感が湧きました。一見では身動きしない大木ですが、季節の節目にはその活発な行動力を見ることができます。これら木々が吸収する有害ガスや放出する酸素、その他の恵み、夏には木陰を作り、冬には陽光を与えるケヤキの街路樹から、生命の姿の美しさを感じない訳には行きません。こうした印象に残る日常の風景もきちんと自分の心に留め、当時どのような印象を受け、どのような心境になったかを記憶に留めることも、本文で言う訓練の一つです。

275 Do not become too absorbed with labels as they may confuse you. Do not expect the same kind of reaction as you have been accustomed to from the mental side. For when you become aware of the life of a flower you will also be aware of the intelligence that produced the effect. The flower will not speak to you in sounds you are accustomed to but it will react to you as intelligence speaking to intelligence. And all forms can be addressed in the same manner, for you will not be recognizing the form alone, but the intelligence manifesting through the form.

275 レッテルにはあまり没頭しないようにして下さい。それらは貴方を混乱させるかも知れないからです。また、感覚心からの反応に馴れて来たのと同じ種類の反応を期待してはいけません。何故なら貴方が一つの花の生命に気付く時、貴方はまた、その結果（訳注：花）を造り出した知性について気付くようになるからです。その花は貴方に貴方が馴れ親しんだ音で話し掛けることはないでしょうが、知性が知性に話し掛けるように貴方に反応することでしょう。そしてすべての形有るものはこれと同様なやり方で呼び掛けることができます。何故なら貴方は形のみを認識しているのではなく、その形を通して具現している知性を認識しているからです。

【解説】

これまで人間が自然界を見て行って来たことは、各々の特徴を観察し、似たもの同士をグループにし、共通する特徴を集約しながら、個々に固有の名前をつけて来ました。いわゆる分類学です。このため、未だに何処そこで新種が見つかった等のニュースが流れます。これら分類の起源は、人に名前をつける権限を神が与えた太古に遡りますが、本文ではこのような既存の分類にとらわれず、現物、そのものを良く観よと言っているのです。

また、自然界にある植物その他の対象物に対して、話し掛ける場合に従来の感覚表現の形式で相手から返事が来る訳ではないとも言っています。全ては対象と私との内部の知性同士の会話、印象の交換であることを示唆しています。あらゆる創造物に対して、自己の内部の知性から働きかけることによって、互いに意思疎通、即ち会話が出来ると言っているのです。各自の感覚心で表層の形を見ると同時に、内面ではこのような印象のやり取りを行うことが大切だということです。

276 We have used the flower for everyone loves beautiful flowers. And if the love for it is equal to the love that one has for himself and he acknowledges its intelligence as firmly as he would of another person, with the same feeling, the flower will respond. And this can be observed if it is asked to turn its face from one side to the other. For it will follow your instructions as it follows the Sun. But you must remember at all times that you are consciously talking to an intelligent form.

276 私達は花を誰もが美しい花を愛することから用いて来ました。そしてもし、花に対する愛情が自分自身への愛情と等しければ、そして花の知性を他の人物に抱く感じと同じくらい確信し認めるなら、その花は応答することでしょう。そしてこのことは、片側からもう一方へ花の向きを変えるように求められれば、そのように観察されるでしょう。その花はそれが太陽に従うように貴方の指図に従うようになるからです。しかし、常に憶えておかなければならないのは、貴方は何時も一つの知性ある形に話し掛けているということです。

【解説】

花や虫達と気持の交流が出来れば、この世は素晴らしい世界になることでしょう。私達はこの地球の上であって、数多くの創造物に囲まれて暮らしています。中でも花や昆虫達は誰の周囲にも存在し、多くの方が普段から接していることでしょう。

しかし、私達はこれらを単にその形状や色彩、香りで判断し、評価しているだけで、その花が持つ生命力という本来の知性には気付いていません。花瓶に入れられた花のつぼみが、既にその根から切り離されているにも拘わらず、成長を続け、やがて大輪の花を咲かせることに驚いた方もあるのではと思います。それほど、花は例えその茎で切り離されてもその本来の使命を果たそうと精一杯の努力を続けるのです。おそらく同様の趣旨かと思いますが、坂村真民が次の詩を残しています。「何が一番いいか 花が一番いい 花のどこがいいか 信じて咲くのがいい。」その花の知性と交流する手法が本文では述べられているのです。

植物との会話ということでは、米国の植物育種家、ルーサー・バーバンクも同様な実践をした方だと思われる。私もかつて米国Santa Rosa市にある記念館を訪ねたことがあります。詳しいことは憶えておりませんが、そこでルーサー・バーバンクがかつて使用していた作業用の机やメモの類いを見せてもらった際、記念館の係員がルーサー・バーバンクはあまり系統的な作業記録を残さなかったと言っていたことを記憶しています。彼が何千という植物の芽からの確に目的の品種を選んでいたことは今日まで多くの逸話が残っている通りです。これらの手法は彼のやり方が直感的であったとされて来ましたが、その背景には彼が自在に植物と会話をしていたからに他なりません。特段、記録をつけて、その系統が優れているか自分の心で考えなくても、的確な応えを植物自身から彼は得ていたということでしょう。身近にある植物や虫達を自分と同じ知性体であることを認めれば、それらと心を通じ合えると本文では言っているのです。

277 Once you have accomplished this, you are not only blending your sense mind with consciousness, but also cultivating a memory. And from here you keep on expanding and include all forms of life by recognizing the cosmic consciousness in each. And you will experience the other half of life which you have not known until this time. As every act is recorded in the cosmic library you will have access to it at any time you will have need for it, the same as the Creator has. This awakened part of you has always been and always will be. The mysteries of life will be replaced by knowledge of life.

277 いったん貴方がこれを達成すれば、貴方は貴方の感覚心を意識に融合させているのみならず、記憶をも育てていることになるのです。そしてここからは貴方は広がり続け、各々に宇宙意識を認識することによって全ての生き物をも包括するようになります。そしてこれまで知らなかったもう半分の生活を体験することでしょう。あらゆる行為が宇宙の図書館に記録されており、貴方は創造主がなさると同様に、必要な時に何時でもそれを利用することができることでしょう。貴方のこの覚醒した部分はこれまでいつも、そしてこれからも常にそうあることでしょう。生命の神秘はこうして生命の知識に置き換えられるのです。

【解説】

ここで大切なのは身の回りの動植物と心を通わせるという、ある意味誰にでも出来る行為を通じて、私達は宇宙の記憶を培い、自身を成長させることが出来るということです。敢えて難解な宗教書の古典や哲学者の著作を読む必要はないと本文は示唆しているのです。つまり、自然、宇宙が私達一人ひとりの家庭教師なのです。

また、身近な動植物に接することを通じて、これまで見落とされていた自身の半身、意識を育成することが出来ると言っています。ここでのポイントは観察する相手が花や虫、何であれ、その相手を私達自身と同じ立場の知性ある存在として接することだと私は思っています。相手と交流するためには、先ずは相手を認め、心を開くことが何によらず重要だからです。身の回りのもの全てが皆、等しく同じ創造主を父とする兄弟達であることを認識し、互いに印象を交換できるようになれば、もはや私達には何らそれ以上、必要となるものはないことでしょう。

かつてアッシジの聖フランチェスコは小鳥と会話をしたという話は、聖人の逸話として伝えられていますが、実は聖フランチェスコも本書で言う自身の心を意識に融合させ、自身を宇宙に広げて行く過程であったのかも知れません。このことを考える時、私達は身近にかくも豊かな環境が整えられ、本来はこの上ない恵まれた存在であると思うのは私だけではないと思います。それまでの持ち物全てを捨て去って、文字通り無一物を貫いた聖人が見ていた世界は実は本書でいう宇宙意識の大変豊かな世界であったのかも知れません。

278 Your acts should be, regardless of the type of form, as definite as when you are dealing with man. And no doubt should be present in your feeling or act. Feeling in the form of revelations should be definite for feeling is a conscious state of alertness.

278 その際の貴方の行動は、対象の形有るものの類型に関わらず、貴方が他の人間に対する時と同様に明確なものである必要があります。そして如何なる疑いも貴方の印象感覚や行動に在ってはいけません。印象感覚は意識的な警戒状態であるが故に啓示における印象感覚は明確なものでなければならないのです。

【解説】

森羅万象あらゆる物に神性が宿り、それを敬い大切に出来たのは、他でもない太古の日本人でした。古い本ですが、「日本文化史序説」西田直二郎著、改造社 昭和7年の「第四講 古代文化の概観その一 神人融合」につぎの記載があります。

「...『草木威能言語（ソウモクコトゴトクヨクモノイヒ）』。また天地割判（ワカル）の代、草木言語（モノカタリ）せし時ありとしたのは、古代の日本人が、わが住む世界について考えたところである。われらの祖先はその四周の山川草木のことごとくから、よく生ける声を聞いたのである。このころのうちには自然の事象と人間の生命との区分がなお明らかについていない。而してこれはまた神と人との境がいまだに大きく分けられていない状態であった。かかるころの裡には神はつねに人とともにある。日本古代文化を考へて国家の組織を精神展開の事実として観るとき国家は人の住む国ながら、神の成せる御国であった。...以下略」。また世界の中ではまだ、原始的な暮らしをしている人々の間に自然崇拜の宗教（アミニズム）も、その本源には本書と共通するものがあると言えるでしょう。

しかし、ここで再び、これら古代の信仰に戻るべきと言っているのではありません。全く逆で、科学的な基礎に立った上で、現代の宇宙時代において各自のインスピレーションに対する感受力を拡大する必要があると本書は言っているのです。

その場合、各自の内面を拡大するには、その本人がその体験を経ねばならず、他人が自分の体験を述べても本人にその気が無ければ前に進みようはないのです。本文では印象を感じるということは意識的な警戒状態だと言っています。その状況を維持し、心を常に解放、拡大し、心の感知範囲を広げることが、意識との交流を促進することでしょう。

また、相手が誰であり、植物でも動物であっても、こちらの気持は相手にも伝わっています。問題は相手からの印象を如何にキャッチするかですが、その秘訣を本文では全く他の人間に対するのと同じように扱おうとしています。丁度、幼児が片言の言葉で身の回りのものに話し掛けるのと同様です。イエスが言った「幼子のようにならなければ」という意味も、こうしたポイントを教えていたのかも知れません。

279 We know that animals do not talk our language, yet the one who trains them to do the things that they do must have full confidence in himself as well as the animal. The trainer knows that the animal will do what he commands and this is done through a feeling of his expression. In other words they feel each other. And what can be done by a trainer with an animal can be done by you with any form, providing you have the same feeling that the trainer has towards the animals. Once you develop this part of you, you can be sure that you are making the blend with cosmic consciousness, without limitations or divisions of any nature for you are dealing in the Cosmic Sea Of Life. Intelligently you are the master over the elements. This is your birthright for the Bible says that man was given dominion over all things including death, for then man is born into a new life. But you cannot have these things without practice, and practice means living them daily as much as you can.

279 私達は動物達が私達の言語を話さないことは知っていますが、それでも動物をすべきことをするように訓練する者はその動物にと同様に自分自身にも最大限の確信を持たねばなりません。訓練士は自分が命じる事柄をその動物が行うようになることを知っていますし、これは訓練士の表現する際の印象を通じて行われます。言い換えれば、彼らは互いに感じ合えるのです。そして動物に対する訓練士によって為され得ることは、貴方が訓練士が動物達に抱くのと同じ印象を持つならば、貴方は如何なる形在るものに対しても全く同じことができるのです。一度、貴方が貴方のこの部分を発達させれば、貴方は何らの制限や何らの仕切りも無く宇宙意識と融合し始めていることを確信できるでしょう。何故なら貴方は宇宙の生命の海の中を取扱っているからです。知性的に貴方は各元素に対する主人です。これは貴方の生まれながらの権利です。何故なら聖書は人は死をも含む全ての物事に対する支配権を与えられていると述べているからですし、そうなれば人は新しい人生に生まれることとなります。しかし、貴方はこれらの事を練習無くしては得ることは出来ませんし、練習とは貴方が力の限りそれらを毎日の生活に活かすことを意味しています。

【解説】

本文では動物の訓練士における心の在り方について述べています。訓練士自らが表明する声掛けや表情、態度等の表現を行う際の気持（印象）に、その対象動物が自分の意思を分って従ってくれと確信することが大切だと言っているのです。また、一方で注意したいのは、この「確信」は特段、大声を發する等、極端な行為をとるということではなく、静かな信頼関係とも言うべきものだと思います。相手の存在を尊重し、心からの話し掛けが必要だということでしょう。

本項の良い例に盲導犬があります。目の不自由な方を危険から守り、日常生活を支え、人と犬が交流を深める様子はいつ見ても心打たれるものがあります。両者の間に音声による会話は無くても、十分、互いが信頼し切って生活を共にしているということです。

同様に自然の中の数多くの動植物とこのような交流が出来るとすれば素晴らしい世界が広がることは間違いありません。サン・テグジュペリの「星の王子様」の中で王子は様々な動植物と会話をしています。また「大切なものは、目に見えない（キツネの言葉）」等、多くのことを教わっています。私達は自然の中の生き物から学ぶことは多いものと思っています。

280 So one could begin to practice on the flower first, but do not be disappointed on the first tries, just be more determined to master the art. Remember the old habits will be in your way until you absorb them into better ones. Wherever you go and whatever you see or do make sure that your mind is aware of the cosmic life and intelligence that is back of all creation. And nothing is free of that life and intelligence any more than you are. For the smallest molecule in the cosmos is just as intelligent and alive as any other form and it serves its purpose. Yet your physical sight does not see the molecule, but your conscious sight can. And once you have made this a part of your life, ills that you may have had, of any nature, will vanish when you correct your mental life.

280 そこで最初は花で練習を始めても良いでしょう。しかし、最初の試みでがっかりせず、只、その技能をマスターすることをより深く決心して下さい。古い習慣は貴方がそれらをより良いものに吸収するまでは進路に居続けることを憶えておいて下さい。貴方が何処に行こうとも、貴方が何を見て、何を為そうとも、貴方の心は全ての創造物の背後にある宇宙の生命と知性に気付いていることを確認することです。そして貴方がそうでないように、如何なるものもその生命と知性から離れていないのです。何故なら宇宙の最小の分子でさえ、他のどのような形有るものと同様に知性があり生きていて、その目的に奉仕しているからです。しかしそれでも貴方の肉体の視覚はその分子を見ることはありません。しかし、貴方の意識の視覚はそれが出来ます。そして一度、貴方が貴方の生活でこの部分を達成すれば、貴方が持っていたかも知れない病気というものは、どのような性質のものであれ、貴方の精神生活を修正する時、消滅することでしょう。

【解説】

植物と意思を通じ合うということはどのようなことか、これまで一連のこの講座を学んで、その原理についてはよく理解できたことと思います。しかし、本文で言うように実際にその成果が出るまでには、幾度となく努力、練習が必要です。また、本文でアダムスキー氏は”master the art”という言葉を用いています。この場合、”art”には「こつ」や「わざ」「技能」という語感があります。つまり、「ある種の心の持ち方」を指しているものと思われます。これは技量（テクニク）に近い内容ですが、重要なのは、それらが第7課になった段階でわずかに述べられているということです。結果を得たいが為にテクニクを身につけようとするのは、実は大変危険だと考えます。

よく世間では超能力者がもてはやされ、その能力に憧れて、自らその能力を身に付けたいとして努力する人も居るようですが、しかし、これは能力という一つの結果を目指している以上、例えその人が能力を身に付けても、肝心なエゴの改革は為されずに終わってしまい、かえって世の中や自分にとっての害になる可能性もあると考えます。

私達はむしろ、ゆっくりでも王道を進むべきで、毎日少しずつの進歩であっても、積もり積もれば大きな成果が得られる筈です。何よりも宇宙に流れる意識の活動の一員になることが私達各自の喜びとすることだけは、誰にも譲れないところです。そうなれば自ずと身体の各部も調和して不調和な状況（病気）は消滅することは間違いありません。

281 Remember it was not the mind that created itself, cosmic consciousness was its creator and what it created it can correct and have it function perfectly when the sense mind blends with it. Even old age can be wiped away for that is a concept of the sense mind. We could say that as age came by man, so must youth come by man. The Bible states that as death came by man so, must life come by man, the sense mind. And this can be done when he becomes one with cosmic consciousness for it knows no age, nor time or place. It is always in the prime state of life and all inclusive.

281 覚えておいて欲しいのは自分自身を創ったのは心ではなく、宇宙意識がその創造主だということ、そして創造し生み出したものは正すことが出来、感覚心がそれ（訳注：宇宙意識）と混ざり合う時にはそれ（訳注：自分自身）を完全に機能させることが出来ることです。老化でさえ吹き飛ばすことが出来ます。何故ならそれは感覚心の一つの概念だからです。私達は老齢は人にのってもたらされた以上は、若さも人間によってもたらされる筈だと言えるでしょう。聖書は人によって死がもたらされたからには、命も人即ち感覚心によってもたらされる筈だと述べています。そしてこのことは人が宇宙意識とひとつになる時になされ得るのです。何故なら宇宙意識は年令を知らず、時間も場所も知らないからです。それは命とすべてを含む中であってその原始の状態にあり続けているのです。

【解説】

良くも悪くも自分の一生は自分が決めているということでしょう。本文では「老い」というものは自分の心が生み出す概念であると断じています。生命の息吹きに鈍感になり、益々積み重なる頑迷自我の重荷やそれがもたらす苦悩に疲れ切った状態が続けば、当然、さすがの肉体細胞も元気を失い、衰弱してくるのは当然です。

しかし、これは私達地球人が創造された目的とはかけ離れています。なにより生まれたばかりの子供は皆、生き生き活発であり、あらゆるものを受け入れる柔軟性を持っています。それこそが創造主の息吹きということでしょう。木々も四季を通じて実に大きな変化を遂げています。春の芽吹き、夏の繁茂、秋の紅葉、冬の落葉と季節に応じて装いを変え、その間に様々な生き物達とのつながりや相互依存関係を持っていることが分かります。人間の目には落葉は時に寂しい印象を与えますが、他の生き物や木々自身の成長にとって大事な出来事なのでしょう。時には厳しい風雪に耐えながら、季節に応じて木々は成長を続け、年輪として内部にその歩みを記録し続けているのです。

私達自身がどのような人生を全うするかは、実に私達自身が責任を有しています。創造主の下に戻って永久へと続く進化発展の道を進むか、途中で自ら造り出した、言い訳、脱落の脇道を選ぶか、冷静に考えればどちらの道を選ぶべきかは明らかです。

282 Here I will endeavor to give a short experience that I had on my Saturn trip. And you can see how well you can place yourself in consciousness with me, and in this way you can see if the trip is as real to you as it was to me when I made it.

282 ここに私は私の土星旅行の際に得た短い体験を伝えようと努力したいと思います。そうすれば貴方は私といっしょに貴方自身を意識の中に上手く置けるかどうか分かるでしょうし、このようにして貴方はその旅行が私がそれを実行した時、私にそうであったように貴方にとっても実際のことであるかが分かることでしょう。

【解説】

本文で言う土星旅行記について、かつて私がエマ・マーチネリ女史から伺った話では、当時、その宇宙船のスピードがあまりに速いことから、アダムスキー支持者の間から疑問の声が上がった際、アダムスキー氏がエマの質問に答えた言葉が伝わっています。アダムスキー氏はその旅行にヒゲそり用のカミソリを持参したと答えました。実際の肉体による宇宙旅行であったことがこれから分かります。

さて本文のポイントは私達が誰かがその人の思いを書いた文章を読むことは、その人の気持、それを書いた本人の意識状態の跡を辿ることでもあるということでしょう。私を含めて多くの方が既に何度も「同乗記」を読み、あの宇宙船内で繰り広げられている宇宙兄弟の生活振りの素晴らしさを心に染み込ませたに違いありません。このように本を読むことは肉体の目としては活字を認識することではありますが、その一方では視覚を超えた意識のレベルまでその内容を深めて理解しよう、吸収し一体化しようと努めるなら、意識レベルでは著者本人が当時感じた思い等、宇宙の記録に残る内容と一体化し、著者と同じ体験が得られるということだと考えています。

従って、自分がどのような書物を読むか、どのような映画を見るか、またどのような姿勢、態度でそれに向かうのかは大変大事なことです。私達は良くも悪くも影響を受け易いからです。

283 When leaving California I walked into a small scout ship. It took me to a mother ship that was a different type from any I had been in before. There were many things to distract my mind from the purpose of the trip and I was interested, from the mental side of my nature, in all the strange looking instruments. But soon I realized my distraction and organized my faculties, remembering the purpose. This was not easy to do, for the mind is very selfish and wants to eat more than it can digest and by so doing it scatters itself in various directions. But my consciousness told me that on the return trip I would have time to observe all of these things and in the meantime I was to place my mind in unison with my consciousness that I might absorb the important lessons that were to be given.

283 私はカリフォルニアを離れるに際して、1機のスカウトシップに乗り込みました。それで母船まで行ったのですが、その母船はそれまで乗ったものとは異なるタイプのものでした。その旅行の目的から私の気をそらす多くの事物があり、私の心の側からすれば興味がある奇妙な形をした装置類がありました。しかし、直ぐに私は自分が気を散らしていることに気付き、旅行の目的を思い出しながら私の果たすべき機能について整理しました。これは容易なことではありませんでした。何故なら、心は大変自己中心的で消化できる以上のものを食べようとしますし、そうすることによって様々な方向に自分自身を分散させてしまうからです。しかし、私の意識は私に帰還の際にこれらすべての物事を観察する時間があることを教え、そうする内に私はこれから私に与えられる筈のその重要な教科を吸収出来る様、私の意識と調和させることとなったのです。

【解説】

アダムスキー氏が1962年3月27日から30日まで土星で開催された「土星会議」に出席したことは、「土星旅行記」(Special Report, My Trip To The Twelve Counsellors Meeting That Place On Saturn March 27-30th, 1962)として発行されています。会議の様子は「土星旅行記」として日本では既に紹介されている所ですが、当時、この太陽系の各惑星の代表者会議が土星で開かれ、これから起る太陽系内の変化や地球への支援内容について話し合われたとされています。

本文では、この大変重要な会議に向かう途中のアダムスキー氏の内面について正直に語られています。もし、私達が間近に宇宙船に遭遇し宇宙人との会見の機会を得たとしたら、私達の関心はもっぱら宇宙人の乗り物や服装、道具といった事物に大部分の関心が向けられ、肝心の相手が伝えたい事柄や危険を犯して訪問してくれたことへの感謝など、思い浮かばないかも知れません。

自分が様々な環境に置かれた時、どのような反応を示すのかを観察することは大切です。ある場合は有頂天に、また別の状況ではおどおどする等、自我(エゴ)には落ち着きはありません。このような自我の動きにまどわされることなく、丁度、犬の散歩と同様に前に行くエゴの手綱をゆったり握りながらも、本道を逸れないよう、目的地を見失わず、その動きをコントロールすることが大切だということでしょう。

284 At this point my feelings were mixed between mental curiosity and the cosmic purpose of the trip. So it was my duty as a mentalist to control myself and know that I meant nothing, but what I was about to learn meant everything. In other words I had to lend myself to my better self which was the conscious teacher, knowing that my personal toys would be there when I needed them.

284 この時点で私の印象は心の好奇心とその旅行の宇宙的目的との間に融合されました。そこでは心主義者として私の為すべきことは自分自身を制御し、私が示すものは何らの意味はなく、私がこれから学ぼうとすることが全てであることを知ることだったのです。言い換えれば、私は意識の教師であるより良い自分自身に自分を委ねなければならなかったのであり、それは必要になった時、私の個人的なおもちゃ（訳注：個人的な興味の対象物）は現れることを知っていたからです。

【解説】

ここでの話はアダムスキー氏が土星の母船に乗船し、土星に向けて航行している時の氏の心境を述べたものと思われます。まだ私達には理解できない原理で航行する最新鋭の船内には、多くの珍しい機器があったものと思われます。これについては最近の日本の宇宙飛行士達も皆楽しげ、活発にスペースシャトルや宇宙ステーション内部を説明する様子がテレビで報道されています。それほどに実は宇宙空間に出ること、宇宙で活動することは心がわくわくする程、楽しいものなのです。

しかし、今回の旅の目的を考えれば、アダムスキーはこれら目にする物事に気を取られる訳には行かなかったのです。「土星旅行記」に書かれているように、重大な惑星間会議が目的であったからです。その為にも、先ずは自分の精神状態を安定させ、重要な事項を確実に記憶し、自分のものとする必要があり、全ての関心をその一点に集中する必要があった訳です。

なお、ちなみにこの場合、自我を落ち着かせる為に宇宙兄弟達から特別な注意を受けたとは述べられておりません。自ら進んで自分の半身である意識に融合させたと述べています。この「自分の半身」を信じて任せるということが大事なことで、他の宗教のように教祖や特別のリーダーのアドバイスに身を任せていないことに注意したいものです。生涯にわたって最も信頼できる存在は、各自の内部にある意識であることに気付く必要があるのです。

285 When I succeeded in doing this my mind felt that a vast door has been opened to an unlimited vision. And I experienced a full comprehension of things that my mind had never heard before. It was a feeling of no limitation, and everyone, including the ship, seemed to be a part of me. The ship seemed to become a living thing and for the first time I understood how a Captain of an ocean liner feels when his ship is sinking. In many cases he sends the crew away but he stays with the ship. And should he leave the ship he keeps looking back until it is seen no more, and he feels that a part of him went down with the ship. And a part of him did go down with it which he can never forget, for its impressions were so intense. You see the ship's life was also the captain's life as they had lived together so much that they became like two persons, each sharing the others feelings. One was the intelligence of the captain, the ship was the servant, and through this they became as one.

285 私がこのことに成功した時、私の心は何か巨大な扉が無限に続く視野へと開かれているように感じました。そして私はかつて私の心が聞いたことのない、ある完全な物事の理解というものを経験したのです。それは無限の感じであり、誰もが、その宇宙船も含めて私の一部のように思えました。宇宙船は生きているもののように見えましたし、はじめて私は大洋を渡る客船の船長がその船が沈む時にどのように感じるかを理解しました。多くの場合、船長はその船員を退避させますが、彼は船に留まります。また彼が船から退去するにしても、彼は見えなくなるまでその船を振り返って見ていることでしょう。そして、自分の一部が船といっしょに沈んだと感じます。そして彼の一部は実際、それと共に沈んで行き、彼はそれを忘れることは出来ません。その印象がそれほど強烈だったからです。お分かりのように、その船の生命はまたその船長の命でもありました。両者はそれほどに長い間共に暮らした為、二人の人物のようになり、互いに他が抱く印象を分かち合っていたからです。その二人とは一人は船長の知性であり、船はその召し使いでした。そしてこれを通じて二人は一体になっていたのです。

【解説】

ここでは真の一体感とはどのようなものであるかを説明しています。この例にあるように船と船長の間には、それが物質との間であっても、融合、一体感が生まれるということです。これは、カメラや車等、各自が大切にしている物についても言えることでしょう。物を大切にするという奥には、その物とも互いに分かり合える、つまり印象を交流できる関係になれるということです。

本当の意味での一体化とは、ここに述べられているように対象物と自分が何らの区別なく、互いに包み込まれ、自他の区別がない程の感覚になるということでしょう。この感覚は自然界の生物、無生物の間で、ごく普通に抱かれている感覚だとすれば、人間が気付かないだけで、あらゆるもの達が暗黙の内にも、穏やかに幸せな生命を享受していることが分かります。

各自の自我（エゴ）の心を鎮め、自分自身の意識に耳を傾け、そのアドバイスに従えば、このような世界が広がって来るということです。

286 This is comparable to all form life in relationship to conscious intelligence once man lives the oneness of life. And this is the way that I felt when I was on the ship.

286 これは一度、人が生命の一体性を生きようになれば全ての形有るものの生命と意識の知性との関係は同様になります。そしてこれが私がその宇宙船にいた時に感じた状況です。

【解説】

生物、無生物に関わらず、ある対象と一体感が得られるということは、意識レベルで両者がつながっているということだと思います。私達はある意味、自然界のあらゆる物、神の創造物と言われて来たものと、そのような心持ちを共有できることを願って来た訳で、これまでの学習を通じて、ようやくその一体感というものが、どのような原理で働き、何故私達人間だけが疎外されて来たかが分ったところで

す。

また、現象の奥にカギとして存在する「意識」についても、何故、アダムスキー氏が「意識」と表現したのか、おぼろげながら、感じ取られるようになった方も多いのではないかと思えます。いずれにしても各自の中には宇宙本源と、かくも容易に繋がる意識があり、それを覆い尽くす無知で、生意気な自我がある訳で、各々が何ら外部に求めなくても、必要なものは自分の中にいつも持っていることに気付く必要があります。

各対象物との意識の融合はこれまでにない柔和で落ち着いた心の状態をもたらすことから、他の物（者）に与える好影響も無視出来ません。つまりは副次的にも周囲に穏やかさをもたらすことになるのです。このように毎日、調和した生活を送ることによって、これらの効果は皆様の周囲に広がって行くことは間違いありません。

287 In the next lesson we will explain this more thoroughly.

287 次の課ではこのことを更に徹底的に説明しましょう。

【解説】

第7課では、真の記憶は感覚心が単に覚えているというような類いのものではなく、実際には各自のもう一つの半身である意識の中に記録されて行くものであること、従って心は意識と融合しなければ真の永続する記憶は得られず、肉体の生死の境に至っては記憶は途絶えてしまうこと等を学びました。

この記憶こそが各自の人格を構成するものである為、日々の暮らしの中で如何に望ましい体験を積み重ね、より良い記憶を培うかが大切であることは言う間でもありません。

その意識との一体化について、本課では常日頃、生活を共にする2人の例や船と船長の例が示され、人や物に関わらず各々の内部にある意識同士を融合させることで、互いに結びつくことが出来ることを明らかにしています。つまり、このことは幼児がその持つ玩具で遊ぶ際に、その玩具と一体化し、没入できるように、私達大人も対象物とそれくらい親密になれば意識レベルの交流ができることを意味しています。私と他人というように各々を区別する感覚がそもそもの誤りであり、全てを同じ創造主から生まれた兄弟達と思うことによって各自の視野が広がり、意識に本来の記憶が記録されるということです。次回からは第8課に入ります。

288 In lesson seven we spoke of my experience in the Saturn space ship. And as stated, when I first entered the big ship my mind was attracted to the instruments. But I had to quiet this interest in order to place myself in the realization of conscious awareness that I might be worthy of the primary purpose of this trip. The mind was like a child that wants to ask a lot of questions without listening to the answers. So the sense mind was quieted to listen and not be curious. This was of value for I was ready to listen through the sessions of the Council. But even then the sense mind had questions which I ignored, giving them no expression. So at the end of the Council my mind had no questions, all had been answered.

生命の科学—学習コース

第8課

宇宙的一体

ジョージ アダムスキー 著

288 第7課では土星の宇宙船での私の体験についてお話しました。既に述べたように、私が初めてその大型宇宙船に乗り込んだ時、私の心はその装置群に興味を引き付けられてしまいました。しかし、私はこの旅行の大事な目的に値するよう、宇宙意識の実感に身を置く為、この興味を鎮めねばなりませんでした。心は答えに耳を貸さずに多くの質問をしたがる子供のようなものでした。ですから、感覚心を静め耳を傾けさせて、好奇心を持たせないようにしました。これは価値があり、私がその評議会の会議を通して聞く準備が出来ました。しかし、それでも感覚心は問い掛けて来ましたが、私は無視して、それらに何らの解説を与えませんでした。その為、評議会の終わりには、私の心は何らの質問を起こしませんでした。全ては回答されていたからです。

【解説】

よく私達は重要な場面向き合う際、”心を落ち着かせる”行動をとりますが、その意味と類似したことを本項では述べています。私達の表層的な感覚心は”直ぐに結果が欲しく”、その時点の自分の関心にだけ目を向けがちです。まして、これからどのような出来事が待っているか分からない時点では、心は浮ついた状況になりがちです。

しかし、心を落ち着かせると言っても、「どのように」となると心が落ち着かせる方法が分からなければ、対処のしようはありません。ここで本項に言う”listen(耳を傾ける)”という行動が重要となります。つまり、私の側から、あれこれと疑問を発するのではなく、ひたすら与えられる回答を聞こう、受け入れようとする姿勢がカギとなることを意味します。無言の意識から与えられる指導を漏らさず受け取ろうとするオープンマインド(受容的な心)を保つことにより、自然と心は鎮まり、しかも鋭敏な状態を保つことが出来るということなのです。

289 On the return trip I became interested in the instruments as before. But then the mind was patient and ready to receive the explanation given it by the consciousness. It was not filled with the original curiosity, but a desire for knowledge. Like a child in a classroom who understands without questioning.

289 帰還の旅で私は前と同じようにその装置類に興味を持ちました。しかし、今度は心は忍耐強く意識によって与えられる説明を受け入れる用意ができていました。心は当初の好奇心によってではなく、知識を得たいとする願望によって満たされていたのです。勝手な疑問を差し挟むことなく理解する教室の子供のようにです。

【解説】

土星会議に向かう宇宙船の中で、自分の心が当初、初めて見る船内の珍しい装置類に好奇心が湧いたものの、先ずはその会議への自分の心の準備を優先させる必要性を自覚し、自分の好奇心を抑制した話は、以前述べられました。

それに対し、帰還の際にそれらの装置類に対し、今度はどのような心の変化があったかをここでは述べています。注目したいのは、その宇宙船内で誰かから詳しい説明を受けたとは言っていないことです。心が直接、意識から説明を受けたと言っている点です。つまり、心が興味本位の浮ついた姿勢を改め、真にその知識を得たいと願う時、心には必要な情報が与えられるということです。本課は意識との一体性について取扱う訳で、今後、より深い内容が語られるものと思われまます。

ちなみに、自然の中で動植物の写真を撮影する時、先ずはその環境、雰囲気と自分とを調和させ、一体化するように心掛けた後、改めて周囲を観察します。そうする中で、多くの人達が見過ごしてしまう、素晴らしい世界に気付くようになるものです。カメラのファインダーを覗きながら、あたかも人間のモデルに対するかのように。虫や花に話し掛けながら、良いポーズをとってもらって、撮るのが、私の撮影のやり方です。対象物に向き合う中で、自ずとそのものの意義や美しさを感じ取れますし、その過程に言葉は必要ありません。

290 In that frame of mind I became fully aware of the intricate parts of the instruments and their purpose. And I had the feeling of being a part of each part, and felt my purpose of being in cooperation with others. This was so clear, but I cannot find words to illustrate my feeling. It was so definitely impressed upon me that I cannot forget the experience. Even as I speak of it I enjoy the feeling once again.

290 この心持ちの中で、私はその装置類の入り組んだ部品やそれらの目的を完全に分かるようになりました。そして私は個々の一部であるかの気持になり、他と協力するという私の目的を感じました。それはとても明瞭なものでしたが、その時の私の感じを表現する言葉が見当たりません。それは私にそれほどにはっきりと印象付けられましたので、私はその体験を忘れることはできません。そのことを話す時でさえ、再びその感じを味わうほどです。

【解説】

この土星旅行が従来の「同乗記」で伝えられた宇宙母船とは異なる、より高いレベルの技術で動作するものであったことは、土星旅行記にも記述されている所です。その母船こそ、本課で学ぶべき宇宙の一体性を応用発展させた究極の成果物であった訳です。このような宇宙船が一般的なものであるかは知りませんが、宇宙兄弟達がアダムスキー氏に生命の科学の実践例を体験させる意味も大きかったものと思われま

す。また、ここで注目したいのは、その一体感なるものが鮮やかで、大変心地よいものであったということです。意識と一体化することは、そのような状態を附随させることになります。しかし、一方でこのような気持良さのみを求めることはその本意ではありません。現代化学は薬物を合成し、肉体や心を勝手に満足させる手法も一方では、蔓延しているからです。意識に従うこと、心を意識の中に溶け込ませることによって、自ずとそのような状況が生まれることに注意を払うべきなのです。

意識との一体感が宇宙船を航行させるほどの潜在力があり、各自の肉体の細胞一つ一つを輝かせるほどのパワーがあることが大切な点です。

291 This is only one of the experiences I remember from the trip, for the association with all that were on the ship was also a feeling of oneness, never to be forgotten. And this union of sense mind and consciousness included the ship which was carrying us. For the molecules, the conscious entities of my form, became one with the conscious molecules of the ship's form. Yet the geometrical pattern of each form was different, and for a different purpose in the field of effects. But the cause was the same, for each form was serving a cosmic purpose.

291 これはその旅行から思い出す体験の一つに過ぎませんし、その船にいる全てとのつながりは、また、決して忘れることのない一体感でもあったからです。そして感覚心と意識との結合は私達を輸送するその船も含むものでした。何故なら、私の体の意識的実体である分子達は船体の意識ある分子達と一つになったからです。各々の体の幾何学上のパターンは異なり、結果の世界において異なる目的のものではありません。しかし、その因は同一です。各々の体は宇宙的目的に奉仕しているからです。

【解説】

「一体感」、「一体化」の原理について、本項では良く説明されているように思います。つまり「一体化」とは各々の身体を構成している分子レベルの意識の融合であるということです。或る物との一体感は、実は自分を構成する細胞から更に精緻に深まった分子レベルの段階で、それらが意識的に融合することだとしているのです。

これについて、最近思うことは、「一体感」なるものは触覚に近いものではないかということです。例えば、自分の身体の中であれば、自分の気持（あるいは意識と表現した方が良いのかも知れません）を、どの部分への移動させることができる筈です。例えば、足指にかゆみが生じたら、「どうしたのかな」と自分の気持をその部分に移動させ、どのような状況か知ろうとします。つまり、その部分の身体の部位からの訴えを聞こうとします。このように自分の身体の範囲内であれば、いつでも、どこでも自分の気持を移動させることができます。これは、言う間でもないことですが、自分の身体がつながっているからに他なりません。これがその作用が触覚的な作用に思える由縁です。更に進めて、自と他の区別を無くすことが出来る程にこの感じを広げられれば、互いに共鳴しあうことも容易になるでしょう。その為には分子レベルでこのことを実現できるような安定した状況を自分の中に造り上げることが重要となる訳です。

292 In other words, I became the part that I wished to understand consciously, by realizing that the part was made by consciousness. For molecules and cells in any form are endowed with consciousness which is the life of the thing. There is not a particle in existence that is not supported by life - or it would not be in existence.

292 言い換えれば、私は私が意識的に理解したいと思う物に対して、その物が意識によって作られていることを実感することで、その一部になったのです。何故なら、如何なる形有るものも分子や細胞にその物の生命である意識が授けられているからです。生命によって支えられていないものは、みじんも無いからです。そうでなければ、それは存在しないでしょう。

【解説】

自身が対象物と一体化し、その一部になる感覚は、自分の意識が対象物の意識と融合するような状況と言うものと思われます。如何なる物にも意識が授けられており、それと親しむことは同時に様々な知識をも分かち合う関係になることでしょう。

宇宙兄弟達（ブラザーズ）は精神感応の達人だとされています。このように様々な対象物と容易に一体化することが出来れば、対象物が発している想念や印象の把握等、容易なことと思われます。よく、動物は相手が好意的か危害を加えようとしている者か見分けるとされています。言い換えれば互いに相手が何を考えているかは、この一体化能力を身に付けた者にとって、極めて簡単なことだということでしょう。しかし、私達は決してこのような能力を得たいが為にこの学習を進めるべきではありません。この研究を自ら日々、実践することによって副次的に感受力が高まって行くのです。

293 Just as you are able to put yourself in another persons shoes and feel exactly as he feels, so you can with all forms. And this procedure is good to practice. It could eliminate many misunderstandings and heartaches. For there is nothing in existence that one cannot be associated with through consciousness. But the sense mind must be willing to be taught by consciousness, for it is the knower and all forms live within the sea of it. And in this sea all phases are blended into one for the perfect manifestation of the Cosmic Whole.

293 丁度、貴方が他人の靴に足を入れてその者が感じるのと全く同様な感じを持つと同じように、貴方は全ての形有るものに対して同様なことを行うことができます。そしてこの過程は練習するのに良いものです。それによって多くの誤解や心痛を取り除くことができるでしょう。何故なら、意識を通して寄り添えないものは何も無いからです。しかし、感覚心は意識によって喜んで教えられなければなりません。意識は知る者であり、全ての形有るものはその海の中で生きているからです。そしてこの海の中に全宇宙の完全なる創造の為、全ての段階が融合されています。

【解説】

意識を通して一体化出来ないものは何も無いと言っています。例えば、目を閉じて心を落ち着かせれば、自分の意識が移動する様子がわかります。その意識を距離に関わらず、あらゆる物と一緒にになり、寄り添うことで、その対象物のことを理解することが出来ると言っているのです。日本語には「心を寄せる」という表現がありますが、これはそのようなことを指すものと考えられます。

もちろん、心がその恩恵を授かる為には、意識から与えられる印象を感受し理解しなければなりません。そうなれば身の回りの世界は素晴らしいものに一変するでしょう。このように自在に各自の意識の力を借りて、各自が理解しよう、宇宙の真の姿、自然界の生命の息吹を学ぼうとする時、その人には意識を通じて創造主の支援があることは間違いないことです。

294 All forms are stages of intelligence. This may not be easy to accept at first for 90% of form life does not have the type of mind that humans have. But they do possess consciousness - the life force of the form, and serve the purpose for which they were created. So once the human mind acknowledges this phase as it does associations with other sense minds, the blend is made.

294 全ての形有るものは知性の諸段階にあります。これは最初、受け入れることは容易ではないかも知れませんが。何故なら形有るものの生命体の90%には人間が持つようなタイプの心を持っていないからです。しかし、彼らは意識、即ち形有るものの生命力を所有しており、それらが創造された目的に奉仕しているのです。ですから、一旦人間の心がこの段階を認知すれば、他の感覚心との交流、融合が成されます。

【解説】

生物、無生物によらず自然界の形あるものは心というものの存在割合は1割だと言っています。私達人間のような心はわずかにしかなく、圧倒的に意識が前面に出た活動を行っている訳です。つまりは自分を防御しようとするような心の活動はなく、意識に全面的に従った生活を送っているということです。まさに「心貧しき者は幸いななり」です。

自然界には目に見えない細菌の類いから巨大動物に至るまで、様々な生命形態があり、相互に依存し合いながら、生き生きとした生態系を構成しています。独り人間だけが、その王国の支配者としてそれら自然を搾取して来ましたが、そろそろそれも立ち行かなくなっているようです。地球規模の気候変動や環境汚染、荒んだ人々の精神状態等にそれが現れています。

その解決には、まずは自然界の事物を観察し、それらの生命力を各自で感じることによって、本来は必要な解決策のヒントを授かることができると考えています。その為にも、足下にある各々の生物と交流するすべを身につける必要があるのです。

295 In lesson seven we illustrated how two people after a period of association began to look and act alike. This harmonious union can also be cultivated with all life.

295 第7課では如何にして二人の人間がある期間、一緒に過ごすことで外見も行動も似て来ることを説明しました。この調和した和合はまた、全ての生命との間にも培うことができます。

【解説】

「花祭り」という仏教由来の春のお祭りがあります。そもそも仏陀が歩いた一步一步ごとに花が咲き、蝶が舞ったとされる伝承を起源とするもので多くは、仏陀の誕生日とされる4月に行われる子供達のお祭りです。この場合、仏陀は生きとし生けるもの全てに、慈しみを与え、それらが仏陀に応えたということ、また自然界のこれらのもの達が仏陀をお守りしたということです。

「リトルブッダ」という映画があります。その中で仏陀が瞑想していると、やがて大雨が降って来ます。すると一匹の大蛇が瞑想する仏陀に近付き、あたかも飲み込もうとするのですが、仏陀は身じろぎもしません。やがてその大蛇は仏陀の頭の上に鎌首を差し出して、仏陀の雨よけになって喜んでいるというシーンがあります。仏陀には自然界の生き物達と融和し、共感共鳴できる能力があったことを示す場面です。

しかし、このような間柄は直ちにできる訳ではなく、少しずつ養うことだと本文は言っています。自然界の生き物達を同胞と見なし、親しく印象を交流させることで、少しずつではありますが、自然は貴方に応えてくれるようになるのです。近頃、私はこの種の学習教材としてベランダで小規模ながら野菜の栽培を行っています。それらの植物が日々、生長する姿には、本当に圧倒される思いです。毎朝、食卓に上る野菜達も一つ一つがこうした活発な生命活動の賜物であることに改めて気付かされ、「結果」を支えている生き生きした背景があることに驚いた次第です。

296 May I present this in a different way for the purpose of understanding. Recently I was asked, "but what is God like?" It is not easy to describe God, for if a person feels what God is like he cannot find words to express it. But we can study His creation since all manifestations were born out of His consciousness and lives within His consciousness.

296 ここに理解を進める目的から、違った道筋をご提案しましょう。最近、私は「ところで、神とはどのようなものだろうか」と尋ねられました。神を描写するのは容易ではありません。もし、ある人が神がどのようなものかを感じたとしても、それを表現する言葉を見つけることは出来ないからです。しかし、全ての創造物が神の意識から生まれ出て、神の意識の内側で生きている為に、私達は神の創造を学ぶことは出来るのです。

【解説】

ここからは神とはどのようなものかについて述べています。私達一人ひとりが被創造物であり、その由来、また日々の生命活動を支えている存在が神、創造主であることは、心の段階では整理されていることでしょう。

しかし、何故、この一連の講義の流れの中で、改めて創造主をどのように感じるかという問い掛けをしていることに着目しなければならないと私は考えています。つまり、前項で二人の人間が長年一緒に暮らす中で、互いに似て来る話が出ていました。実は、それと同様に、私達は日常的に神、創造主に親しむこと、創造主に関心を向け、可能ならば互いに印象を交流させることで、両者は似て来ることを著者は示唆していると思っています。

神の似姿が本来の人間の創造目的とされています。それを各自が実現する上でも、神と親しくなる (associateする) ことは、大事なポイントだと考えます。

297 There is one thing that is misrepresented, The Creator is not an old man. For consciousness is always in the prime of life, knowing no beginning or ending as far as we are able to detect. And as we know, the space people live this knowledge and enjoy a youthful long life.

297 偽って伝えられていることが一つあります。創造主は老人ではありません。何故なら意識は常に生命の全盛期にあり、私達が探る限り、始まりも終わりも無いからです。そして私達が知っているように、宇宙人達はこの知識を生活の中で実行し、若々しい長い生涯を享受しているのです。

【解説】

少し考えれば、「老い」はストレスや悲しみ、苦しみの結果の産物であり、元来、万物に生き生きした躍動の発信者である創造主に老いがある筈もありません。私達はこの永遠に続く生命の息吹きを授け続けている創造主をもっと知ろうとする必要があります。

同乗記にこの創造主を描いた絵画が宇宙船内にあり、宇宙兄弟達は日頃から、これら創造主の肖像画に親しんでいるという記述があります。若々しい青年のようであったと表現されていますが、まさにそのような存在が創造主であるということでしょう。特に私達人間は創造主の似姿であるとされています。そういう意味では古来より、仏像を刻み、お堂に安置して日々、祈りを捧げるのも、その人間の形をした像を、あたかも仏（創造主）として身を処し、お守りしていることに他なりません。

大切なことは自然を流れるこれら創造主の意思とも言えるメッセージ（印象）を感受し、それに自分の感性を同調させることによって、もっと身近に創造主を感じるということでしょう。慈愛に満ちた若々しい青年像こそ、創造主の真のイメージだと言っているのです。

298 When we speak of nature, or nature's laws, there are two phases. One, the forms which nature produces in which we see ageing. And what we call ageing could be a fulfillment of the form's purpose that it may be replaced by a new form. But the law of life, or nature, is the same today as it always has been - in the primal stage. Replacing new forms for the old for continuous service, each for a finer quality of expression as nature is progressive. Always going forward, never retrograding. So here we are witnessing the Creator's Consciousness in action. And since only newness comes out of this consciousness, and not age, then we are shown that the Creator lives in the primal stage all of the time. And all that is created by this consciousness is a manifestation of primal cause.

298 私達が自然或いは自然の諸法則について話す時は、二つの面があります。一つは自然が作り出す形あるものであり、そこには私達は老いを見ます。そして私達が老いと呼ぶものはその形あるものの目的の成就とも言えるものかも知れませんが、それは新しい形と置き換えられるかも知れません。しかし、生命の法則、あるいは自然というものはこれまでずっと今日と同じに、原始の段階であり続けているのです。継続的な奉仕の為にこれら古いものを新しい形に、自然は進化する為、一つ一つをより精緻な資質に置き換えています。常に前進し、決して退化することはありません。ですから、ここに私達は、創造主の意識が行動する様を目撃しているのです。そしてこの意識からは新しさだけしか来ず、老化はありません。そうして私達は創造主は如何なる時も原始の段階で生きていることを知らされるのです。そしてこの意識によって創造されたものは全て原始の因の現れなのです。

【解説】

言い換えれば、物事の原因、物質を寄せ集める非物質的なパワーは常に生き生きし、若さのままですが、それが物質に表現され形有るものになった後、その形有るものには老化が避けられません。つまり、一定程度の寿命があるということです。もちろん、その役目を終えた個体は再び、何らかの形で生まれ変わって、再び新しい生命が吹き込まれることになることでしょう。

ここでその形あるものは進化を遂げることに注意したいものです。ダーウィンの進化論にあるようにそこには環境に適應する等の進化が生じるということです。

一方、これら生命体の生みの親である意識は常に最高の状態を維持しており、老いることは無いと本文は言っています。毎日のように生まれでる生命体の躍動感を見れば、その源泉は常に活発で、魅力に満ちていることが伺えます。私達はいつもこの生命の源泉である意識に関心を向け、そこからの輝きを自ら表現するよう心掛けるべきなのです。

299 Man's law of discrimination and judgment is non-existent in creation. We are told that the sun shines on the just and unjust alike. And while differences are many in the human mind - in the Creator's consciousness all are necessary parts that make up the Cosmos. And without each part the Cosmos would not be complete. The principle difference between man and his creator is that the Creator understands the purpose of creation and finds no fault with it, while the sense man not understanding consciousness, the real part of himself, lives the mental side of life. Thus he finds fault with the Creator's creation and brings about unpleasant conditions for himself. But when man makes the blend and lives the whole life he will know the purpose of creation, no longer using the law of discrimination which caused the unpleasant conditions.

299 人間の差別と裁きのならわしは創造の中には非存在のものです。私達は太陽は正しい者にも不正な者にも等しく輝くと教えられて来ました。また、人間の心にとっては多くの相違が見えるのですが、創造主の意識の中では全てが宇宙を造り上げる上で必要な部品なのです。そして、これらの部品無しには、宇宙は完全なものとはならないでしょう。人と創造主の間の最も重要な違いは創造主は創造の目的を理解し、それに何らの誤りを見い出さない一方、感覚人は自分自身の真の部分である意識を理解せず、生命の内の心の側を生きているのです。こうして彼は創造主の創造作用にけちを見つけ出し、自分自身に不愉快な状態をもたらしています。しかし、人が融合を達成し全ての生命を生きようになる時、彼はもはやその不愉快な状況をもたらした差別のならわしを用いることをせず、創造の目的を知るようになるでしょう。

【解説】

差別や裁きは心の働きであると、本文では改めて述べています。多くの場合、各自の心が自分自身を基準として、劣っている者、醜い者、つまりは自分の感覚にとって見下すべき者に対して、断罪すると同時に、自分自身の優越性を確認する傾向があるということです。しかし、少し考えれば、それらには個別の事情があり、その状況に至っていることが分かります。その根本的な事情を一新出来れば、その結果は全く異なるものになる筈です。また、一方では美しいと感じるものに余りの憧憬を捧げるのも、どうかと思います。「星の王子さま」のバラの花の話では、わがままなバラに王子さまは翻弄される様子が書かれておりますように、美しいものを崇拜することにも問題があるということです。

私達は、まず身の回りに広がる世界を、自分の所有物でなく、全ては創造主からの借り物、一時的に授けられたものと見るべきでしょう。自分自身も含めて、この世に自分のものなど、存在しないとしたら、そもそも良い悪いの批評すらすべきではないことが分かります。全ては創造主が用意してくれたものということになれば、私達はただ、有り難く活用させて戴くだけです。

自分の身体自体も私達感覚心の思うようにはならないものです。その中で父の意志を継いで、身の回りの万物をその本来の輝きを助け、この世界の調和を図ることが、このような環境を授けられた人間の義務だと言えるでしょう。その際にその調和の妨げになっているのが、こうした人間の差別や裁きの感情なのです。

300 So if we are to be a perfect manifestation of the Creator we should study nature more than we have, as it is the conscious expression of God. And we should observe and adopt its laws of oneness in the same manner that we adopt each other's habits and even look alike.

300 ですから、私達が創造主の完全なる現れとなるには、これまで以上に自然を研究することです。何故ならそれは神の意識の表現であるからです。そして私達は互いの習慣を取り入れ、姿も似て来るのと同様に、観察し、その一体化の諸法則を取り入れることです。

【解説】

本文ではこれまでも繰り返し述べられて来たように、自然観察が如何に大事かを指摘しています。自然を創造主の意図の完璧な現れとして受け入れ、その中から学び取ることが求められています。山や森、野原や川原に出て、植物や虫達の営みから創造主の意思を掴み取ることが求めています。具体的には丁度、絵画を鑑賞するように、静かに雰囲気を楽しむ、細部のタッチから画家の息吹きを見ることも必要でしょう。また、自ら絵に描いたり、写真に収めたりして、その調和の詳細を確かめることも有効でしょう。

最近、植物画や絵手紙が中高年の趣味として流行っているようですが、身近な自然を鑑賞し、その中に美を見出すのは日本人の受け継いだ特質なのかも知れません。また人生も後半に近づくにつれ、幼年期と同様、身近な自然に再び関心を持つのも、創造主への回帰なのかも知れません。

本課は「宇宙の一体性」が課題となっています。各自が日頃から関心を寄せ、意識する対象に、やがて似て来ること、また両者が次第に一体化するようになることがポイントです。私達の周囲にある自然の営みから全てを学ぶことが出来ることを本文では述べているのです。

301 If you cannot do this from nature's point of view, we have another method by which we can do better than we have in the past. As we are supposed to be Christians -let us use the teachings of Jesus and make them a part of our daily life. Or which ever Messiah you are following - practice their teachings so that they become habitual with you. Just as your associate's habits become a part of you. If you will do this you will be amazed at the changes in your life as the many unpleasant things are replaced by understanding. But you must make your sense mind determined to follow the guidance of The All-knowing Consciousness. Then you can say - "I the sense mind do nothing, but the consciousness does all things through me." If we can accomplish this, which we must do, the newness of life will manifest through us. And old age will be replaced by youth. And sickness will be replaced by health. And we will be on the way in making the Earth a Heaven.

301 もし貴方が自然に対する見解の違いからこのことが出来ない時は、これまで行って来た以上に良く出来るもう一つの方法があります。私達はクリスチャンと想定した場合、イエスの教えを用いて私達の日々の生活の一部にするのです。或いは如何なる救世主に貴方が従っているかを問わず、彼ら救世主の教えをそれらが貴方の習慣となる程に実践することです。貴方の仲間の癖が貴方の一部となるようにです。もし貴方がこのことを行うなら、貴方は自分の生活に起る変化に驚くことでしょう。多くの不愉快な事柄が理解に置き換わるからです。しかし、貴方は貴方の感覚心をその全智の意識の導きに従うことを決意させなければなりません。そうすれば、貴方はこう言うことができます。「私、感覚心が何をするのではない。意識が私を通じて全てのことを為さるのだ」と。もし、私達がこれを達成できれば、またそうすべきなのですが、生命の新しさは私達を通じて現れることでしょう。そして老齢は若さに置き換わることでしょう。そして病は健康に置き換わります。そして私達はこの地球を一つの天国に作り上げる道筋にあることでしょう。

【解説】

自然に対する姿勢には基本的に自然の中に人間を超えた英知の存在を感じる東洋的な見方と、自然を克服、征服する人間の価値に重きを置く西洋の考え方があるように思います。その典型例が庭園づくりに現れています。例えば樹木を幾何学的デザインに刈り込み、人間が造り出した造形美として見せるヨーロッパの庭園に対して、日本の著名な庭園は、いずれも自然の山なみや泉を配した中で、各々の木々が自ら造り出す自然の枝ぶりの中に、その場所が例え都会の真ん中にあっても、静かな大自然の中に憩う雰囲気を楽しんでいます。

もともと、この生命の科学は目に見えない要素に気付くことから始まっており、西洋の論理主義、実証主義とは相容れない側面も多いのかも知れません。むしろ、私達、日本人には理解しやすい内容ではないかと思っています。

さて、本文では著者は自然観察に没入することが出来にくい場合の別の方法として、これまで地球に来た偉大な教師の教えを自ら実践し、その過程に意識の助けを求めよと言っています。つまり、各自の心であれこれ悩むのではなく、インスピレーションに従って、教えを自分で実践検証しろと言っているのです。

302 Reading these lessons will not do it, but living them will. And when you have done this you will have mastered yourself. And the elements that are here will serve you. For man is the only form that has the potentials of the Father. But he must first recognize consciousness as the Father, and return back from whence he came if he is to fulfill the purpose for which he was created.

302 これらの教科を読むことではそれを達成しません。それらを生きていくことが達成させるおです。そして貴方がこのことを達成する時、貴方はご自身を支配したことになるのです。そしてここに存在する元素類は貴方に仕えることでしょう。人間が父の可能性を持つ唯一の形有るものだからです。しかし、人は最初に父として意識を認めなければなりませんし、もし自分が創造された目的を成就するのなら、自分が来た所に戻らなければなりません。

【解説】

この講座をこれまで進めて来て、お分かりになるように、これまでの世の中の哲学書にあるような難解な論議は何一つありません。全ては平易な言葉で表現されています。このことは、宇宙兄弟達の生き方は大変シンプルなものであることを示しています。

問題はいくら、「知識」として頭に詰め込んでもダメで、自ら実践実行する中で真理を体得することがはるかに大切だということです。例えば目に見えない「意識」を自ら感じとれるかどうか、絶え間なく降り注ぐと思われる印象にどうしたら気付くか等、自ら実践する中で体得する他はありません。丁度、子供がはじめて自転車に乗るようなもので、いくら事前にペダルを踏んでと教えたところで、実際に自ら自転車に乗って見る他、ないというのと同様です。

私達がその実践に踏み出す時、感覚心（センスマインド）にとっては暗闇の中を進むようなもので躊躇しがちですが、踏み出した途端、意識からの支援の手が差し伸ばされることが多いものです。以前、小田秀人さん（故人）から「若い頃、人生の意味に疑問になり、いっそ死んでしまおうと思い、沖に泳いで行ったが、力尽きた頃、未知なる力によって助けられ、生き延びてしまった。以来、その不思議な宇宙生命の力の研究の道に入った。」という主旨のお話を伺ったことがあります。

私達は決して、この「生命の科学」にこだわる必要はありませんが、各自が”意識”というべき存在に気付き、それに従った生き方を続けることだと考えています。

303 Man cannot forever serve his mind - for himself. Or other minds for other men and expect to realize and enjoy a heavenly state of life.

303 人は自分自身の為にも、自分の心に永遠に仕えることはできません。他の人間の為、他の心に対しても同様であり、そうすることで悟りを得たり、天国のような生活を享受することはできないのです。

【解説】

ある程度の年齢になると、これまでよく犯罪を犯したり、避けることができる事故を引き起こすことなく、よく自分の心に付き合ってきたものだと思うものです。もっともそれ以外の相棒が居ない訳ですし、ある時は怒りが沸き上がるのを抑え、また有頂天で舞い上がりそうになる心を落ち着かせ、ある時は恐怖心で身の毛がよだつ中で冷静さを取り戻す等、未熟な自分自身によく付き合い、今日まで永らえて来たものと思います。

本文では所詮、このような不安定な心に一生仕えることは出来ないと述べています。その意味は自らの愚かしい感覚心を至上なる主人として仕えてはならず、むしろ訓練すべき対象だとしているのです。おそらくは生まれたばかりの子供は、かつてルーサー・バーバンクが世の中で最も感受性が高い生き物だと言ったように、実は大変鋭敏な状態にあるとされています。最近、NHKテレビのアーカイブス「あの人に会いたい」で童話作家の石井桃子さんのインタビューが放映されていました。その中で石井さんは自分の幼少の頃、姉から絵本を読んでもらった時のその絵本のページから受けた強い印象、絵本の中に自分が一体化した体験を後年になっても覚えているとお話になっていました。

誰でも、幼年の頃、つまりは感覚心が未発達の際には実はこのシリーズで私達が学ぼうとしている感受性は最も高い状況にあるのではないかと考えています。再び、この感受性を高め、これまで増長してきた感覚心を再訓練して調和ある形に組み直すことが大切なのです。自ら、自我を小さくし、奉仕する側に導けば、代わりに生命の根源である意識の作用が次第に大きく、各自に現れて来るということでしょう。

304 We are all conscious beings and the still small voice which is consciousness keeps impressing us that there is a better way than the mind has promoted. It is not some teacher or preacher, here and there, that can tell us how, but the consciousness that is within each, as it is within him. For it is THIS that has made man aware of a better life for centuries, and it will continue to do so until man's sense mind gives its dominion over to consciousness. And when this happens man will know, for he will never again sense any divisions or feel himself separated from the Creator.

304 私達は皆意識的な存在ですし、意識である小さくかすかな声が私達に心が押し進めているよりも良い方法があると印象づけ続けています。私達にそれがどのようにしてと教えられるのはこここの教師や説教者ではありません。それは各自の内側にある意識であり、意識が人の内側にあるからです。何故なら、何世紀にわたって人により良い生活について気付かせて来たのはまさにこれなのです。そして意識は人間の感覚心が意識にその支配権を譲り渡すまで、その援助を続けることでしょう。そしてこのことが起る時、人は理解するのです。何故なら人はそれ以降、決して如何なる分け隔てを感じることは無く、創造主から自身を分離した存在として感じることもないからです。

【解説】

私の中に宇宙を貫く生命の根源である意識が存在することは身体の中の日々刻々の生命維持活動を見れば良く分かります。毎日の食事が肉体を養い、老廃物を排せつし、毎回の呼吸が体内細胞の働きに不可欠な酸素を取り入れる等、自我が寝入っている時もひたすら肉体はその存続の為、働いています。この作用を差配する大生命力は自我をはるかに超えた英知であることは、誰でも分かるはずですが。

このように大多数の部分は意識と融合した存在なのですが、独りその肉体を差配すべき肝心の自我だけが、言わば迷いの中にあります。また、道を求める者も、既存の宗教に救いを求めますが多くの場合、そのグループの指導者の理解程度や組織維持の為に、やがて当初の輝きを失う事例も数多いものです。そうとすれば、所詮、頼れるのは自分の中で毎日のように実証して見せてくれるこの意識の存在に只只おすがりする他に方法はありません。

しかし、よく考えれば、心の反応も意識のささやきも、どちらも言葉で私達にメッセージを伝えることはありません。心にしてもとっさの判断（裁き）の積み重ねですし、単に「印象に従え」ということだけでは不十分かと思っています。受ける印象の質や内容を即座に判断することは難しいのですが、取りあえずは門戸を広げ、あらゆる印象を受け入れて、その内容に「好き嫌い」等の裁きや、「恥ずかしさ」等の自己保身等から来る要素の有無を見て、無ければ積極的に受け入れるということでは無いかと考えています。また、一方ではやって来る印象を自ら拒否している理由の中にそのような要素がある為に踏み込めないでいるかをチェックする必要があります。多くの場合、その対応が良かったか、過ぎていたかは直ぐに分かることでもあります。試行錯誤でも続けさえすれば、意外に早く本来の道には到達することはアダムスキー氏も言っているところです。

305 The space people live this understanding of life, but they also have a long way to go to attain it. However they have set their foot upon the right path and eventually will accomplish what they have set out to do. While we have promoted various highways and by-ways that have proven to lead everywhere except to the household of the Creator. We can be thankful to the Brothers for giving us the key of consciousness that unites all creation as one with the Creator.

305 宇宙人達は生命に関するこの理解を生活の中で実行していますが、彼らにもまたそれを達成する為の長い道があるのです。しかしながら、彼らは既に正しい道筋に足を乗せており、やがてはその提示したなすべきものを達成することでしょう。一方の私達は（戻るべき）創造主の家庭以外のあらゆる場所に導くものであることが明らかとなった様々な大道や脇道を奨励して来てしまっています。私達は宇宙兄弟達にすべての創造物を創造主と一体化する意識のカギを与えてくれたことに感謝してもよいでしょう。

【解説】

この分野の学習については如何にして正しい道を歩むかが、大きな課題です。世の中には道を求める者に対して、あまりに多くの門戸があり、それぞれ自分達が真の安らぎを授けられると主張しています。しかし、残念ながら、それらの多くは「真理」の一部を削り取って自らの教義に入れただけで、その道を進んだからといって、その人本来の求める道とは遠いままに捨て置かれ、代わりに時間とお金が搾取されているのです。

また、他方、独学により自然を探究してと思っても、多くの場合は巧みなエゴの裏切りから、途中で挫折することも多いのではと懸念しています。

この「生命の科学」の優れている点は、現に進化した宇宙人達がこれを基調として生活しており、十分な成果を挙げているということです。私達より数万年も進んだ人類が過去に歩んだ道程がここに簡潔に述べられています。人生の生き方という最も大事な課題は、私達自身が自ら求め、探して掴まなければなりません。その困難な薄暗い森の中でも、先人達が残してくれた明るく輝く道程がこの講座だと言っているのです。

かつてアリス・ポマロイさんにお会いした時、盛んに”Share（分かち合う）”という言葉をおっしゃっていました。私達も各自の歩みの中で掴んだ真理については積極的に後続く方々に残し、また互いに体験を交流することが重要だと考えています。

306 And speaking of the by-ways - as consciousness is the sea of life everything is living within it. And as the Cosmos knows no beginning or ending, we are living in the embrace of a vast structure which has many interesting things in it, and our attention of interest will shift from one thing to another. This could be likened to standing on the top of a very high tower. While facing east things will be seen that are in that direction, and to the west, the same, etc., etc. So when the sense mind is interested in conscious perception it will want to see everything within the household of consciousness. This could become a hazard, for this hunger for knowledge could promote impatience, and confusion would be the result. So the mind must learn self control. And remember it has eternity in which to learn. With this awareness it will gain knowledge step by step in the sequence of events. And there will be no gaps or divisions that cause divisions and mysteries. The interest of the mind should be of such a nature that time is not involved, only learning what each step has to offer. Then when it is time for the next step to be taken the blend will be there without any foreign element that could come from the mind.

306 脇道については、意識は生命の海であり、あらゆるものがその内側にあるということについて述べましょう。宇宙には始まりも終わりもありませんので、私達はその内側に多くの興味深い物事を持つ広大な構造物に抱かれて生きておりますが、私達の興味は一つのことから他のものに移り変わるものです。これは一つのとても高い塔の頂上に立っていることになぞらえるでしょう。東を向けばその方向にあるものが見えますし、西を向けば、また同様等々です。そのように感覚心が意識的知覚力に関心を持つようになると、心は意識の家庭の中にあるすべてを見たがることでしょう。しかし、これは危険要素に成り得るのです。何故ならこの知識への渴望は性急さを助長し、結果として混乱が生じるだろうからです。ですから心は自制を学ばなければなりません。そして学ぶべきものには永遠があるということ覚えていて下さい。この自覚を持てば、出来事の一連の流れの中で一步一步知識を得て行くことでしょう。そしてそこには分裂や神秘を引き起こす如何なる割れ目や仕切りはないことでしょう。心の興味は時間には巻き込まれず、只一つ一つの段階が授けるべきものを学ぶという性質のものであるべきなのです。そうすれば、次なる段階の時期になった時、心から来る無関係の要素が入り込むことなく、融合が起ることでしょう。

【解説】

ここでは意識への知覚力が増して来る際の注意事項について述べています。つまり、物事に対する感性が高まるにつれて、今まで気付かなかった様々な事柄に私達は気付くようになりますが、そこにも注意すべき課題があると言っているのです。

それは丁度、今までの旧式のテレビが数チャンネルしか映らない一方、新しいデジタル放送では数十もの番組を受像できるのと同様です。そのいずれのチャンネルも私達にとっては興味があり、有意義なコンテンツを放送しているとします。こうした環境の中で、とかく私達はやたらとチャンネルを変えて、より興味のある番組を探そうとします。しかし、それでは各々が放送する内容を把握できる筈もなく、結局は何も記憶に残らないということです。

これと同様に意識との一体化が進むにつれて私達は興味本位で知識を追い求めてはならず、それは逆に混乱を招くことを忠告しているのです。私達は決して進歩の道を進むべきでないというわけではありません。現時点における自分の理解力以上の知識を取り入れようとはすべきでなく、一つ一つの体験から何も学んだかを整理した後、初めて次の一步を進めるべきだ、或いはその整理が終わった時、宇宙が貴方に次の段階を用意してくれると言っているのです。

307 One should not question what the consciousness has to reveal before the full revelation comes. And you should fear nothing - for that could cause you to lose the sequence of the lesson. For as we know the mind has been accustomed to fear that which it does not understand, and reject that which is unpleasant, due to the wrong teachings it has been subjected to. But we know that every manifestation fits into every other one, it must be so in order for the Cosmos to be complete. And when this is understood by the mind a beautiful unfoldment will come, each part of the puzzle falling into place to make a complete picture. And it will not reject anything.

307 完全な啓示が来る前に意識が明らかにしようとしていることに疑問を差し挟まないようにしなければなりません。また何物も恐れてはなりません。レッスンの一連の流れを失うことになるからです。私達がよく知っているように、心はこれまで服従させられて来た過った教えのせいで、理解しないものを恐れ、不愉快なものを拒絶することに馴れさせられて来ました。しかし、私達はあらゆる現れが他のもの一つ一つと調和することを知っていますので、それもまた宇宙にとって完全なものになる為には必要であるに違いないのです。そしてこのことを心が理解するや、美しい展開が明らかにされ、ジグソーパズルの各々の一片は完全な絵を作り上げる為の場所に収まることでしょう。そしてそれは何物をも拒絶することはないのです。

【解説】

「ジグソーパズル」の一片が一見したところ、どんなに奇妙で判断つかないように思えても、実際にあたはまると全体としての完璧な絵が出来上がります。それと同様に一つ一つの印象の欠片を感受したからと言って、直ちに判断せず、忍耐強く全体像が見えるようになるまで大切に記憶しておくことだと言っています。

とかく私達はその場その場で受けた印象を判断し裁き、綺麗・汚い、善・悪、良・不良とに区分し、各々の片方を自分に取り込み、他を排除しようとしています。これは光景（視覚）や音（聴覚）、味（味覚）、香り（嗅覚）についても同様であり、各々対応する感覚の即断的な反応に由来しています。

そのような状況では、反応の結果、受け入れられないとしたものは、捨て去られ、全体像にはいつまで経っても至ることはできません。私達はやって来る印象のすべてをありのまま受け入れて、後日、どのようなものが与えられようとしているのか分かるまで、大切に保持している必要があると言っているのです。思慮深き神を信じることがその一歩です。

308 Should you become aware of an interference from the sense mind, either through impatience or egotistical effort, discipline it as you would a child. This must be done immediately, for if you don't, something will be missing from the picture which could result in confusion.

308 もしも貴方がせっかち或いは自己中心的な活動から感覚心を通じた干渉を察知した場合は、その心を子供に対する様に躰けることです。これは直ちに行われなければなりません。何故なら、もし貴方がそうしなければ、その全体像から何かが欠落し、その結果、混乱を生じさせ得るからです。

【解説】

多くの場合、本文で言うように心の干渉が生じた時にその問題に気付くというよりは、後から考えればあの時、変だと思って次の行動に移せなかったのは、誤りだったと気が付く方が多いものと思われます。本文では、更に進んだ段階として、その場その場で生じる心の反応を観察し、子供を躰けるように心を指導し、育成せよと言っています。

いずれにしても、心を通過しなければいかなる優れたイメージも現実世界に再現されない訳ですから、心に対するこの教育課程は大切だということが出来ます。また、意識からのメッセージに対して未熟な心はその受容能力が小さい為、常に断片的な要素しか受信できませんが、受信中に心の中で他の印象が湧き起こったり、その受信中の印象の断片を見て拒否反応を起こす場合が多いということでしょう。折角、意識によって与えられた印象を滞りなく感受する為には受信する側の心の訓練と同時に送信元（意識）への信頼感を高める必要もあるのです。

309 This portion of the lessons should be firmly adhered to, for in the forthcoming lessons we will venture into the Cosmic Sea of Consciousness. This will bring many revelations according to the individual, and the mind may have a tendency to dislike what it views. i.e. You may see yourself in a million different expressions in past existences, and the mind may tend to discriminate between the scenes, as some will not be flattering according to the mind. In other words, the mind must learn to face reality. For life is not made of just the sweet, as the sour is also in the plan. Yet by putting the sweet and the sour together we get a pleasant combination. It must be this way if man's form and mind are to progress and develop into something finer. Nothing can be omitted if one is to have full knowledge.

309 教科の内、この部分はしっかり固執されなければなりません。何故なら次に来る教科において私達は意識の宇宙的海の中に踏み入れることになるからです。これは個人によっては様々な啓示をもたらすことでしょうし、また心は見たものについて嫌悪を感じる傾向があるかも知れません。即ち、貴方は過去生における何百万もの異なった自分自身を見るかも知れませんが、心は場合によっては自らを楽しませるものではない為、それらの光景を分け隔てる傾向になるかも知れないからです。言い換えれば、心は真実に直面することを学ばねばなりません。生命は単に甘いだけのものから出来ているのではなく、酸っぱいものもその計画には含まれているのです。しかし、甘いものと同時に酸っぱいものを合わせることによって心地よい組み合わせを得るのです。もし、人の身体と心がより繊細なものに進歩し発達するにはこの道でなければならないのです。人が完全なる知識を得るには、何物をも除外出来ないのです。

【解説】

やって来る印象類に対し、受け入れるべき心がとっさに判断しその流れを止めることのないように訓練することは、これから先おⁿレッスンにとって大変重要なポイントとなるので、必ず身に付けられるよう、粘り強く学ぶことを本文では要請しています。

私達にとってこれから学ぶ内容は、前人未踏の領域なのですが、それ故に突き進む為には私達が基本的な姿勢を備えているように求めているのです。その為には再度、この辺でこれまで培った知識を整理し、自分自身で何が身につけられたのかを振り返る必要もあるのです。

また、本文にあるように、例え各自の過去生の断片が甦ったとしても、それは美しいものではないことを改めて覚悟しておくべきでしょう。私自身の体験から言っても、日々、この分野を学んで来てこの程度ですから、まして過去生では惨澹たる状況であったことは想像に難くありません。おそらくは大多数の皆さんも同様かと思います。その中では、各自の感受性が高まるにつれて、むしろ苦しいこと、醜いことがより一層、見えて来ることもあり得るのです。

しかし、その際に毛嫌いしたり、無視したりすることなく、ありのままを受け入れること、先ずは真実に直面することを優先すべきだと本文は言っているのです。全てを包括的に理解する姿勢が必要だと説いているのです。

310 Let me remind you here again, before we proceed with conscious exploration by the mind, that the sense mind is limited and consciousness is unlimited. And it is the sense mind that will be doing the exploring. The ego or personality, the second part of man, or the effect of consciousness. And as you know, the consciousness is the real you which produces the effect known as the personality which has the potentials and the image of the cosmic man.

310 心による意識的探検に進む前に、ここで再び念を押したいのが感覚心は制限がありますが、意識は制限が無いということです。そしてその探検を行うのは感覚心であるということです。エゴ或いは人格、人の第二の部分、意識の結果物とも言い換えることができます。そして貴方が知っているように、意識は宇宙的人間の可能性とイメージを持っている人格として知られる結果物を作り上げる真実の貴方なのです。

【解説】

本文を呼んで、この段階が一連の学習の中の分岐点、登山で言えばふもとから登り詰めて、一定程度の尾根に達した後、再び正面にそびえる頂に登って行く前に再度、装備や体力をチェックし、必要な準備をするという段階に似ているように思います。

これまでの私自身の経験からも、自分の理解力を超えて単に知識として学習するのでは意味がなく、また自分の能力を大幅に超えて精神活動に没入することは、逆に不均衡が生じ、良い結果は生まれません。そういう意味では、これからが各自、自分の理解力に応じた着実な体験中心の学習を少しずつ行って行くことが望ましいと考えます。

これからの学習のカギとなるのは、各自の意識と心なのですが、その両者の関係は親と子以上の間柄であり、意識が心の面倒を全て見ており、その人格をも育てるということです。言い換えれば、心自体が意識を自分の指導者、養護者として受け入れれば、遠からずその指導の声を聞き取れることになるということです。理論物理学者リサ・ランドールが描く宇宙像にある私達が住む「平面宇宙」を貫く神のメッセージが意識であるようにです。

311 A cosmic man is all inclusive, he does not go anywhere for he is everywhere. And your cosmic counterpart will take you on a journey through the household, from room to room, act to act, so that you may understand your inheritance and thereby become one with the whole.

311 宇宙的人間は全てを包含しています。彼は何処にも行くことはありません。何故なら彼は何処にもいるからです。そして貴方の中の宇宙側の相棒は貴方を部屋から部屋に、行動から行動へとその家庭の中を連れ歩くことでしょう。そのようにすることで貴方は自身が受け継いでいるものを理解し、それによって全体と一つになるのです。

【解説】

少なくとも、この教科を学ぶ中では次第に身の回りの世界、自分が認識する範囲が広がって行くことは間違い有りません。また、やって来る印象類からも表層からは判らない内部の状況や真の原因、更には近未来に起ること等をそっと教えられることも多くなる筈です。

それもひとえに本文で言う各自の宇宙側の相棒（意識）からもたらされるものであり、心がその存在を認め、受け入れることから全てが始まります。その具体的状況はどのようなものか、私自身、未だはつきりした体験はありませんが、例えば「2001年宇宙の旅」（1968年）の最終段階にそれを象徴するシーンが数多く出ているように思います。ボーマン船長が宇宙船で木星に接近する際、強烈な光りの流れの中を通り過ぎますが、それは意識から来る印象類を表現しています。また、木星上では自分がやがて年老いて死を迎え、更に生まれ変わって地球に戻って来る光景で最後のシーンとなりますが、その際にも、部屋から部屋に移動する際、それぞれ年代の異なる自分を見るシーンがあり、本文の内容を関連しているように思います。

ちなみにこの映画監督であるスタンリー・キューブリック（1928年ー1999年）という監督は、デズモンド・レスリーと交流があり、かつては同乗記をベースにした映画の制作を企画していたという記事を読んだことがあります。「博士の異常な愛情」（1964年）に出て来る映像の端々に、同乗記を想定した円卓の場面が出ているように思うのは私だけかも知れません。

312 All faiths and religions were originally founded on what we call the occult or supernatural. For the supernatural is nothing more than the cause back of all creation - The consciousness that we call God. And while mystery has been created through lack of understanding, in reality there is no mystery. For that which can be known ceases to be a mystery. And the space brothers know that it can be known by using the right approach. They have proven this to some degree.

312 全ての信仰や宗教は元々はいわゆるオカルト（訳注：神秘的なもの）或いは超自然的なものに基礎を置いて来ました。しかし、そこでの超自然的なものとは全ての創造の背後にある因、私達が神と呼ぶ意識であることに過ぎません。そして理解の不足に起因して神秘が造り上げられる一方で、現実にはどこにも神秘はありません。何故なら、理解し得るものは神秘では無くなるからです。そして宇宙兄弟達は正しい取組によってそれが理解するようになることを知っています。彼らはこのことを自身で幾分か立証して来たからです。

【解説】

いずれの宗教においてもその発端となる教祖は皆、人並み外れた感受力を持っていました。また、多くの場合、いわゆる神秘体験、本科の学習者であれば意識からの印象を一時的に覚醒した体験を有するものと考えられます。これらの体験を通じて、身近に迫った災害から人々を守り、またひとり一人の悩みを解決する方策を伝授したいという気持から、各々の宗教活動が始まったものと思われま

しかし、次第に年月が経過し、教団組織が大きくなるとこれら本来の目的よりも、如何にして組織を維持し、拡大して行くかの方が重要となって来るものです。その結果、信者から多額の寄付を集めるシステム作りや、他の団体を敵視することによる身内の団結等、いずれも世の中の商売（Business）と何ら変わらない様相を呈します。これについては、アダムスキー氏は組織を信じなかったこと、組織を作らなかったことは良く知られています。氏の活動を宗教に仕立てれば、一大宗教になったかも知れませんが、その後の弊害を知るアダムスキーは敢えてその道を選択しなかった訳です。

その理由の一つに本文で言う、これらの神秘体験は決して特異なものでなく、学習を続ければ、一般人でも容易に達成できるもので、決して神秘的なものではないからです。超能力は誰でも身につけられることを前提にすれば、既存の宗教についてももっと違ったアプローチが出来るはずで

313 We do not want anyone to associate what is to be given with the type of mysticism or occultism that they may have learned to know. For these have divisions and deal with two different ends. One material, the other spiritual, and they have been widely separated by fears and lack of understanding. While we are dealing with reality, as there must be a cause for every effect.

313 私達は誰一人として神秘主義や超自然主義の類いから学ぶかも知れないようなものに関わって欲しくはありません。何故なら、それらは分裂を有し、二つの異なる対極を取扱うからです。一つは物質的なもの、他は精神なものです。両者は恐怖心と理解の不足から大きく引き離されてきました。一方、私達は現実を取扱っています。個々の結果には全て因があるに違いないからです。

【解説】

何故に神秘的志向に近づくべきでないのか、本文では明確にその理由を述べています。そもそも最初のアプローチで現実的なもの（即ち物質的なもの）と神秘的なもの（精神的なもの）に世界を両極に分離していることに問題があるということです。

本来はそれらを融合させるべきであることは言うまでもありません。しかし、これは私達のような哲学の学びの道を歩む者にとっては、大変難しい問題でもあります。とかく、分析を増すにつれて関心は精神面に移ります。しかし、インドの行者のようにひたすら祈り、修業することだけで社会は改善されません。人々の生活を豊かなものにする、日々の暮らしの労苦から解放する上で多くの電化製品が必要ないように、物質面への研究や事業化も大変重要です。

しかし一方で、私達はこれまで数えきれないほどの戦いを起こして来ました。その要因には経済的なものも数多くあるとされていますが、何と言っても起爆剤は民衆の怒りという精神状態にあります。大衆の精神状態を落ち着いたものに保ち、調和ある発展の道に歩ませることが重要だということでしょう。

同様に、各々の学習の場においても、それが本物であろうと偽者であろうと、興味本位で神秘に近づくべきではないのです。身の回りの自然や宇宙から、毎日少しずつ何かを学ぶ姿勢こそが望まれます。

314 Once you expand your mind into the womb of consciousness you will be witnessing some of the things of which you may have read or heard pertaining to the mystical fields. But if you have learned your lessons well you will understand what is back of this. And what causes the different effects that are oftentimes produced through the various branches of mystics, or religions. And you will not participate in the confusion in which they find themselves.

314 ひとたび貴方が貴方の心を意識の子宮にまで広げるなら、貴方はこれまで読んだり聞いて来た神秘の領域に属するような物事のいくつかを目撃することでしょう。しかし、もし貴方は自分の教科を良く学んでいれば、この背景にあることを理解することでしょう。そして様々な神秘学派や宗教を通じて何がしばしば異なる結果をもたらしているのかも理解することでしょう。そして貴方は彼らが見る混乱に関与することはありません。

【解説】

ここで言う学習を通じて体験するようになる神秘的な事柄とは、具体的には現実に物事が起る前に予知したり、事前の知識が無いにも関わらず印象から、それが分かる等々の事柄があると思います。とかくこれらは奇跡的、あるいは不思議な働きとして特別視される一方、常にそのような能力を発揮する者を霊能者としてあがめて来ました。あるいは利用して来たと言っても良いでしょう。

しかし、本文では実は私達一人ひとりが真面目に本課に取組めば、ごく自然に身に付く能力であると言っています。即ち、本シリーズのように基本的な事項を積み重ねて行くことで、人は大きな成果を挙げられるとしています。最初から心の訓練を行わないまま、究極の神秘だけを追い求めるのは害が大きいことに注意したいものです。

一方、このように心を意識の領域まで拡大する、言い換えれば意識と融合するということは、単に学びたい、上達したいという気持（発心）からではダメで、そこには万物に対する愛情が不可欠であるのです。かつて数多くの人々から慕われた明恵上人（1173-1232）は「愛心なきはすなわち法器にあらざる人なり」（愛心ない人に仏法はわからない）と諭したとされています。この言葉は本文で言う万物の生みの親である意識が慈しみ深いことをも指しているのです。

315 Do not be mystified by the different feelings you may experience, for until now millions of cells in the body and brain have had nothing to do. They have been dormant, waiting to be used. Your mental interest in the cosmic self will give them an opportunity to act. And as they go into action you will notice a difference of feeling, a conscious alertness that you did not have in the past. You may even feel a strange, faint pulsation in your head as you put some idle brain cells to work. But in a short time they will blend with others and you will not be aware of their activity. And this will occur from time to time as the need arises for extra cells to go to work. For until now less than half of the cells of the brain have been active.

315 貴方は違った感覚を体験したとしてもまごつかないで下さい。今や身体や頭の中の何百万もの細胞が今迄何もすることがなかったからです。彼らは使われるのを待って休眠していたのです。宇宙的自己への貴方の心の関心が彼らに活動の機会を与えるのです。そして彼らが活動に入る時、貴方は異なる感覚、これまで経験したことのない意識的な警戒状態に気付くことになるでしょう。貴方は何か怠惰な脳細胞を働かせようとする時には頭の中である奇妙でかすかな脈動さえ感じるかも知れません。しかし間もなく彼らは他と融合し、貴方は彼らの活動に気付かなくなることでしょう。そしてこのことは追加の細胞が働くようになる必要性が起る場合に時として起ることでしょう。何故なら、これまで頭脳の細胞の半分以下しか活動していなかったからです。

【解説】

宇宙意識との一体化、融合が進むにつれて、私達自身の身体もまた変化するとしています。未だ私自身、本文で言う違った感覚を日常的に覚えるまでには至っておりませんが、学習を通じて自分自身も向上改善させることが、そもそも目的の一つである訳で、まさに自分自身を生きた教材として、日々対峙することに、この生命の科学講座の意義があるのです。

身体の中の細胞の支配者である心がより意識の方に、即ち宇宙を貫く生命の本源の方に関心を向ける時、やがて今まで閉ざしていた細胞群が目覚めて本来の様々な活動をするようになると本文では言っています。当然ながら、このような状況の変化は身体各部を若々しくする等、良い効果をもたらすことは間違えありません。

これから分かるように必要なものは既に各自の身体に備わっていて、それを開花させるか、させないで終わるのかは、ひとえに私達一人ひとりに委ねられているということです。

316 I speak of this that you may not think something is wrong and seek help. It is only an expansion of your sense mind activity towards the expression of a full man. Instead of only the effective half as before.

316 私がこのことを話すのは貴方が何か問題が出来たと考えたり、助けを求めたりしないようにする為です。それは完全なる人の体現に向けた貴方の感覚心の活動の拡張作用に過ぎないからです。以前の実質わずか半分であったことから代わってです。

【解説】

実際に心の拡大によって、現実の肉体に変化が生じるということです。また当然ながら、心自体の状況も大きく変容するものと思われます。いわゆる覚醒と呼ばれる状態となり、澄み切ったような感覚です。おそらくは本人の視野にあるもの全ての細部に至るまで、その存在と一体化する、言い換えれば心を通わせる感じかと思われます。

これらの澄んだ感覚（感じ）はヒトだけに備わるようなものではなく、実は自然界の生き物全てが有しているように思います。例えば草むらのカエルにしても、観察すれば実に澄んだ目をしていますし、その座った落ち着いた容姿は、どの場面をとってもバランスよく調和がとれています。また、細部を見れば見る程、その種、独特の個性を十二分に発揮する中で、美しさを最大限に表現しています。もちろん、野生の中では、食物連鎖の掟もある訳で、一瞬たりとも気を緩めることなく、ひたすら「警戒」の状態を保ています。

これら自然界の動物は地震その他の地球の異変には特に敏感だとされています。大地震の起る前に多数のカエルが現れた等々、多くの事例があらます。このように心を意識に広げることには多くの災害を避けることにもなるのです。

317 Some people call this pulsation a knocking in the head. Others say it is a code system like dots and dashes, but it is neither. In mystic fields this is considered as messages from the dead, or other planets or planes because they do not know what is taking place and give credit to mysterious forces. When in reality the pulsation is caused by the expansion of the mind cells in a broader field of interest.

317 人々の中にはこの脈動を頭の中のノック音と呼んでいます。他のものはそれを（訳注：無線の）トン・ツーのようなコードシステムだと言いますが、いずれも違います。神秘主義の分野ではこれを死者か、他の惑星或いは他の次元から来るメッセージだと考えられていますが、それは彼らが何が起っているかが分からずに、それを神秘的な力のお蔭としているのです。しかし、実際にはその時、その脈動はより広がった関心の分野に向けて心の細胞が広がることによって引き起こされているのです。

【解説】

本文には脈動現象の発生理由について述べています。自分の身体の中では絶えず心の状態を反映した細胞の活動が行われているという訳です。とりわけ、心に属するとされる細胞、おそらくは視覚や聴覚等、アダムスキー氏の言う四つの感覚器官に直接関わる細胞は、従来は与えられた信号に対して、「好き嫌い」や「敵味方」の判断を即決し、あるいはまたフィルターのような存在であったのが、心が不可視な既存の感覚器官では捉えきれない存在（意識）に気付くようになるにつれ、新たな生長を行うようになるということでしょう。

具体的には目、耳、舌、鼻で四つの感覚器官がいずれも頭部にある訳で、本文で言う頭の中の脈動はこれらの細胞が新たな分化に向けて、自ら生長し始めていることの反映だということです。これらの現象は言わば頭蓋骨の内側で起っていることから、通常、外見からは様子が分かりませんが、心の発達に呼応して肉体が発達する様はまさに人間の進化ということが出来ます。

しかし、私も含め、このような段階に未だ到達していない学習者にとっても、少なくとも大自然の生命力の本源から日常的な空間に広がる目に見えない存在があり、それらに心を寄せることで心とそれに属する肉体細胞が変化を起こすことは良く分かる内容だと思えます。人間本来が持つ可能性をこれから如何に発現させるかは本人の努力次第ということでしょう。

318 Many mystics have employed stimulants of various kinds to promote the knowledge of the unknown. But this is temporary, and many times only a hallucination or a reflection of their desires. This of course is unnatural and does not lead to beneficial knowledge of oneself. And only by knowing and following the natural laws can lasting knowledge be obtained. That is why the words of wisdom, "man know thyself and you shall know all things," have come down through the ages. And are just as true today as when spoken. And if we live these lessons, instead of stumbling in the dark as so many have done, we can go direct to the library of the Cosmos, the house of knowledge, directed by consciousness.

318 多くの神秘主義者は未知の知識を増進しようと様々な興奮剤を採用して来ました。しかし、これは一時的であり、多くの場合は幻覚体験、もしくは彼らの願いの反射でしかありません。これはもちろん、不自然であり、自身の有益な知識に導くものではありません。そして自然の諸法則を知り、従うことによるのみ、永続する知識が得られるのです。それが「人は汝自身を知る、そうすれば全ての物事が分かるはずだ」という知恵の言葉が何世代も通じて伝えられて来た理由です。そしてそれは、その言葉が話された時と全く同様に今日でも真実なのです。そして多くの者がそうであるように暗闇の中でつまづく代わりに、私達がこれらの教科に沿って生きていけば、私達は意識によって指揮された宇宙図書館、知識の家に直接行くことが出来るのです。

【解説】

多くの場合、本講座を独習する者にとって、この世の中、自らの師を見つけることは容易ではありません。自らの道は自分で切り開く必要がある訳です。とりわけ、前項でも述べられているように学習を続けて行くにつれて、自分の身体が次第に生長して行くことは大変重要なポイントです。つまりは自分の身体を実験台にして日常的に心の状態と対応する身体の反応を見比べれば良いのです。自分の進んでいる方向が誤っているか、いないかは実は本人にとっては大変分かりやすいことなのです。

本文では「汝自身を知れ」という名言が述べられています。これは本文のこの場所で述べられてはじめて本来の意味を持つと私は思っています。つまり、各自の心が如何に自身の中に生きる「真自我」ともいえる「意識」に自分自身への指導を委ねると、次々に様々な知識が心に洩されるという関係の中で、はじめて自らの中にある「意識」部分に無尽蔵の知識や記憶の源があり、それを頼りに進んで行けば良いということが浮き出て来ます。他の教師や何処か特別な場所に出向くことなく、全てを自らの中から湧き出させよという古来のメッセージがそこに息づいているのです。

319 Any logical person can see the advantage of going directly to the source of knowledge, the rightful inheritance of each individual. For it is the cosmic household from whence we came. Our space brothers have shown us the importance of a more direct approach to this realization. Now it is up to us to make this a part of our life. Endeavoring to express the real of our self and thus continue through eternity, in many different steps of understanding, in the many forms through which we will everlastingly learn or progress. This is no different than when we build a home here and live and learn in it only to eventually leave it for a still better home. As we progress in knowledge there must be forms to fit this knowledge. Once we learn this the sting of death will be removed. And we will continue to always be the children of the Divine Father, until we become as he is. One consciousness - not the many. Manifesting in varying degrees for various purposes, completing the Cosmic Melody through each form.

319 論理的な人なら誰でも直接、知識の源、各自の正当な相続の恵みの所に行くことが好都合であることが分かります。何故なら、それは私達が生まれ出た宇宙の家庭であるからです。私達の宇宙兄弟達は私達にこの悟りに更に直接的に近付くことの重要性を示して来ました。これからは、このことを私達の生活の一部にすることは私達次第になっています。永遠を通じてのこれらの継続、多くの異なる理解の段階の中、私達がそれを通じて永遠に学び進歩する多くの形有るものの中に私達自身の真実な部分を表現するよう尽力するという事です。これは私達がここに家を建て、そこに住み、その中で学び、遂にはより良い家を求めてそこを去ることと大差はありません。私達が知識に於いて進歩するに連れ、この知識にふさわしい形有るものがある筈です。一度、私達がこれを学べば死の苦しみは取り去られるでしょう。そして私達は常に聖なる父の子供であり続けるでしょう、私達が父になるまではです。多くではなく、一つの意識にです。それは各々の形有るものを通じて宇宙のメロディーを完成させる為、様々な目ので様々な程度に現出することです。

【解説】

誰一人として、貴方に的確な道程を授けられる者はいません。唯一、貴方自身が自分の中の宇宙の源泉に立ち至って、少しずつ生長することを、本文ではあたかもアダムスキー氏の遺言のように語り続けています。

これまで様々な宗教が説いて来た教えも究極には各自が自分の内面をどのようにコントロールし、内部から湧き出るインスピレーションを自分の成長に役立てるかにありました。しかし、各々の宗教宗派がその過程に独自色を出そうとするあまり、本筋とはかけ離れてしまっています。中東で続く宗教戦争は既存の宗教で現代社会を救うことが出来ないことを示唆しています。

しかし、各自に備わる宇宙英知の源泉は、地球上で営々と連なって来たこのような他人が編み出した思考誘導とは無縁であり、何よりも直接的に貴方に結果が返って来る、言い方を変えれば大変便利なアドバイザーでもあります。また、内部にあるこれら源泉に親しむことによって、私達自身も進化させてもらえる大変有り難い存在とすることが出来るでしょう。

私達の心の高慢さを取り除き、誠意をもって各自の内側にある英知の子供になる時、私達は実は本当に創造主の子供、父の庇護を受け、その成長を無償の愛で暖かく見守られていることを自覚することでしよう。

320 But to have this great reward we must remodel our present house and admit the Father of us all into it. Then we as His children obey Him. Knowing He is all knowledge - our consciousness through eternity. For nothing, not even this present house we call our body, or the many planets in the cosmic system, belong to the sense man. He may claim them for the time being through his ignorance and separation from his Father, yet all of these things can be taken away from him and man cannot prevent this from happening. This proves that man owns nothing. He only fools himself when he claims ownership, and satisfies his ego for the moment.

320 しかし、この大きな報酬を得るには、私達は現在の家を改装し、その中に私達の父が入るのを認めなければなりません。その後は私達は父の子供達として父に従うだけです。父が全ての知識であり、永遠を通じて私達の意識であることを知っているからです。何故なら、何一つ、私達が自分達の身体と呼ぶ現在の家ですら、また宇宙世界の多くの惑星であっても感覚人に属するものではありません。感覚人はその無知と自らの父から分離している為に、つかの間、自分のものだと主張するかも知れませんが、これらの全てはその者から取り上げられ、人はこれが起るのを妨げることは出来ません。これのことは人は何一つ所有していないことを証明しています。彼は自分が所有権を主張する時、自分自身を騙し、つかの間自分のエゴを満足させているに過ぎないのです。

【解説】

自己の中に全てが有ると言っても、その自己そのものに、まずは父を迎い入れる必要があると言っています。これまで私達は「自分の身体」等の表現をして来ましたが、私も「自分の手や足は最後の時まで自分と一緒にいる」とも述べて来ましたが、しかし、本文ではこの身体ですら、エゴの所有物ではないと言っています。「自分のもの」と主張しているのは、一時的なエゴの勝手な主張なのです。

そうなることと先ずは、家（身体）の本来の所有者（父）に全てを明け渡し、エゴはその権利を放棄することが必要です。返却するに当っては、いつのまにか溜まった雑物を整理し、これからの生活に必要なもの、不要なものを仕分ける作業も必要かも知れませんが、このように取りあえずの家の片付けを終えた後は、快く父を床の間に招き入れ、以後は父の教えに従う新しい生活を始める必要があります。

この身体までが”借り物”だとすれば、私達は本来、失うものは何もありません。全ては父からの賜り物ということになれば、私達は贈り主の意向に沿って、自分の身体を含め授けられたものを大切に、活用することが私達の務めでもある訳です。

321 But there is one thing that God never takes away - the consciousness which the sense mind failed to recognize. For it is the Cosmic Intelligence back of all creation.

321 しかし、神が取り去らないものが一つあります。それは感覚心が存在を認めることが出来なかった「意識」です。何故ならそれは全ての創造物の背後にある宇宙的英知であるからです。

【解説】

前項で述べられているように、あらゆる物が父から授けられたもので、本来の自分の物ではないということです。言い方を変えれば、全ては借り物ということになります。借りた物はいつかは返さなければなりません。

しかし、本文で述べられているように、意識はそのまま存在し続けます。どのような状況に至っても意識だけは変わることなく私達のそばに居るということです。

私達の感覚がこれまで気付かないでいた「意識」と表現される知性ことが時空を超えて永続する唯一のものであり、それがあつる所、常に生命を生み出し、支えているということです。

322 In the forthcoming lessons I will venture out into the Cosmos and give you some idea how one may travel through the cosmos without involving the well known, and practiced laws of mysticism that have been used by those who did not know what they were doing.

322 次に続く諸教科では、私は宇宙に飛び出て、良く知られ実践されてはいても、自らは何を行っているか知ることのなかった者達によって使われて来た神秘主義の諸法則には何ら巻き込まれることなく、如何にして人は宇宙を旅することが出来るかについて貴方に幾分かの概念を授けたいと思います。

【解説】

前項までで、私達は自分の中に父を招き入れる必要があることを学んで来ました。言い換えれば自分の主人公をこれまでの自我、即ち私という個性を形成して来た主人から、万物の支援者である父にその主人の座を譲ることが求められました。

これは自我にとって、これまでの拠り所を手放す訳であり、それ以降どのように対処すればよいのか不安にもなることでしょう。しかし、実際には父を招き入れ、時々適切な指導を受け入れられるようになると、不要な心配をすることなく、少しずつですが、安定した生活が始まります。

本文では、次の課では自分の意識を拡大して居ながらにして宇宙空間を旅することが出来ると言っています。ようやくシリーズの第9課に来て初めて、通常人の目からは超常現象と呼ばれそうな事象について説明が行われています。つまりは物事の結果だけを求めるのでは知識が蓄積するだけで、何年経っても理解は広がりません。一つ一つ土台となる石を積み上げて初めて全体を見渡せる位置に立てるというものです。一方、本文はこれに対してたまたま能力だけが恵まれた者は全体に対する十分な理解が無いと却って人々を惑わす存在になる可能性が高いことも示唆しています。ちなみに、アダムスキー氏自身にはかなりの能力があったことが知られています。本シリーズはこれらアダムスキー氏自身が自身の体験と理解を基にその真実の姿を解説しているのです。

323 We will study the cell activities, for they not only make up the human form but the cosmic whole. And we will discuss how we can use them in exploring the cosmos.

323 私達は細胞の諸活動を学ぶことになるでしょう。何故なら彼らは人体をだけでなく、全宇宙を構成しているからです。そしてまた私達は如何にすれば宇宙探検にそれらを用いることが出来るかを論じたいと思います。

【解説】

誰でも一度は顕微鏡下の細胞が活動する様子をご覧になったことがあると思います。60兆個とも言われる人体を構成するこれら最小ユニットとしての細胞群が日々活動するお蔭で全体としての人間が生き続けられる訳です。

本文ではこれら細胞は人体を作り上げているばかりでなく、宇宙全体も構成しているのだと、より深い洞察を述べています。つまりは各細胞の活動は宇宙の活動とリンクしていると言っているのです。

私達は少なくとも自分の身体については自らの責任がある訳で、例え一つ一つの細胞を肉眼で見ることはないにせよ、自分の意識を通じて「感じる」ことは出来ます。自分の気持を自分の肉体の隅々にまで移動させ、その存在を感じるという程度までは誰でも出来ることです。実は、各自が所有する事実上無限と言ってよいこの細胞群自身が更に遠く宇宙にまで繋がった存在だということになれば、ますます私達は宇宙を勉強する環境の中に居ることを実感しない訳にはいきません。

324 Recently scientists have finally admitted that the cells of any structure are the intelligence of the structure. They are the foundation that has always been, is, and will be, that are grouped for certain purposes.

324 最近になってようやく科学者達はどのような生物形態でも細胞がその知性であることを認めました。それら細胞達はこれまでも、また現在そして将来も基盤であり、各々特定の目的の為にグループ化されています。

【解説】

”万能細胞”の作成が発表される等、細胞研究も進んでいます。細胞の遺伝子を加え、言わば細胞をその気にさせることが出来れば、あらゆるものに変身してくれることが最近の研究成果として明らかにされています。もともとは一つの受精卵から全ての分化した細胞群が生まれて来る訳で、本来は肉体を構成する細胞自身、極めて高い潜在能力があり、本文で言うように知性そのものであると言わざるを得ません。

そうなれば、目の前の自分の肉体細胞をもっと生き生き、はつらつとさせることは授けられている人間の義務でもあります。これら自分を構成する細胞にもっと信頼を寄せ、尊ぶことも必要です。丁度、神社の社殿の前で礼拝するように私達は毎朝、自分の身体各部の微細な存在に感謝する必要もあるでしょう。まさに生ける神の宮としてです。

これら細胞が互いに協力し各々自分の役割を果たす為、特定の部位に分化して行く背景には、壮大な知性が全体を貫いて統治していなければなりません。その知性の存在をもっと身近に感じる為にも、私達は自分の肉体の中で日々どのような事が行われているか、関心を持つ必要があります。

325 May I suggest a scientific experiment which is just as good as any that one may practice. In the June 12, 1964, issue of Life Magazine is an article dealing with color frequency recognized by scientists. It is good for it deals with two phases of development that are quite essential for one's growth. And they are feeling and memory. The experiment is conducted by placing the first three fingers on the different colors while blind-folded. And one is to detect the vibration or frequency emanating from the color, thus being able to name the color. This helps to develop the feeling or touch sensitivity. For frequency or vibration is nothing but a feeling that imposes itself upon the sense mind. One should be very careful about this and once you are able to get the color right endeavor to remember the feeling you get from each color. This will develop a certainty that will stay with you and serve in many fields. And don't forget that a feeling or vibration is actually consciousness alerting the senses.

325 ここで練習するのに丁度良い一つの科学実験をご提案したいと思います。1964年6月12日号の雑誌Lifeに科学者によって存在を認められた色周波数を取扱う記事が出ました。それは人の成長にとって全く不可欠な二つの発達段階を取扱っており、良いものです。なお、その二つとは感じ（訳注：フィーリング）と記憶です。その実験は最初に目隠しをされたまま3本の指をそれぞれ異なる色に置いて行われます。そして色から発せられている振動ないし周波数を探るのです。これは感じや触覚の感受性を発達させるのに役立ちます。何故なら周波数や振動は感覚心にそれ自身の存在を気付かせようとする感じではないからです。これについては人はとても注意して行う必要がありますし、一旦、正しい色を把握できるようになったら、各々から得られた感じを覚えておこうと努力して下さい。これによって以後、貴方にとどまり多くの分野で役立つことでしょう。そして感じや振動とは実際には感覚に警報を発する意識なのだということを忘れないで下さい。

【解説】

本シリーズも第8課の終わりになって、はじめて各自が具体的に練習を勧める内容が紹介されています。その内容は各自の肉体の細胞が持つ潜在的な知覚力を高める訓練として、指で色を感じるという実験です。もちろん世間一般の常識からはこれらは「超能力」というレッテルを貼られるでしょうが、私達は決してこれらを「超常現象」として自分に身に付けようとするものではありません。これまで、一連の生命の科学を学習する中で各自の細胞が本来、潜在的に有している能力を開花させ、意識への感受性を高める上での一段階であることに留意したいものです。

宇宙を貫く波動に対し感受性を高める為には、目や耳、その他既存の旧弊に染まった感覚器官よりは私達の皮膚その他の部位をそれらに鋭敏にし、身体全体でキャッチすることの方が有効なのかも知れません。いずれにせよ、各細胞が感受した印象波動をしっかりと把握する知覚力も同時に養う必要があります、それがどのような状態であったかを自ら記憶し、次回に生かすことの重要性についても本文が言及しているところです。

326 We will expand on this in the forthcoming lesson.

326 私達はこれを来るべき教科で詳しく述べることにしましょう。

【解説】

この第8課はそれまでに比べて高度な内容になっています。最初の導入部では土星旅行における自らの体験を通じて、物と一体になる意味とその時に自分の肉体と対象とがどのような関係で結ばれるかをアダムスキー氏は自らの体験の言葉として述べています。また私達はこれまで、単に知識として知っている、あるいは聞いたことがあるという段階で永らく留まってきましたが、それでは意味がないということです。

自分の肉体や精神の両面を通じて、これらを一つ一つ実際に試し、その体験を通じて、その記憶が蓄積されるというものです。

しかし、私達の日常生活には時として相手に傷つけられたり、不快に思ったりすることもある訳で、常に本課のような高尚なレベルで暮らしている訳ではありません。その中では一時的にレベルが下がることはある意味、やむを得ませんが、そこから再び這い上がる必要があることも言う間でもありません。様々な体験を経ながらも、魚達が流れの源泉を立ち向かって行くように、私達も目指す目的地に向かって少しずつ力をつけながら、前進することが望まれているということでしょう。次回は第9課に入ります。

ジョージ・アダムスキー「生命の科学」第09課 段落327 [2008-07-29]

SCIENCE OF LIFE - STUDY COURSE LESSON NINE

Cosmic And Carnal Cell Activity

By GEORGE ADAMSKI

327 In Lesson Eight we spoke of the scientists acknowledgement on the cells and color. And they now admit that there are living cells in space. I would say, space is an aggregate of living cells from the Brother's point of view.

生命の科学－学習コース

第9課

宇宙的細胞と肉欲的細胞の活動

ジョージ アダムスキー著

327 第8課では細胞と色について科学者達が認めたこととお話しました。今や、彼らは宇宙には生きた細胞が居ると認めています。私としては、宇宙兄弟の見解から宇宙は生きた細胞達の塊だと言いたいところです。

【解説】

宇宙空間にも生きた細胞がいると言っています。私達の普通概念では宇宙には空気が無く真空状態で文字通りの「空間」と思って来ましたが、しかし、本文ではそこは生きた細胞の塊だと言っているのです。

確かに地上から高度を増すにつれ気圧は下がりますが、それだからと言って地上100キロから先の大気圏外は完全な真空であるとは言い切れません。

私達の惑星は宇宙空間に浮んで居る訳で、丁度大海に浮ぶボールのように本来、宇宙空間も海に似た要素を持つかも知れません。丁度、海の中には様々な生物が存在するように、宇宙空間にも形は変わっていたとしても同様な生命体が存在することは十分有り得ることです。アダムスキー氏もグレン飛行士も宇宙空間で光を放ちながら動く物体を多数目撃しています。

万物はこの宇宙空間で誕生することは誰でも分かることです。何らかの原因でこの惑星が崩壊してもその構成物は何処かに消え去るものでなく、宇宙空間で長く時間を掛けて再び精製精化されて次なる創造の材料となる訳で、宇宙空間にはこのような次なる創造の材料が満ちあふれていると解釈することは理屈に叶っています。

328 As we stated before, the human body is made of billions of cells, each with a specific mission in life which is carried out in group form. Yet each cell fills its geographic purpose for a structure to be. And remember all of this activity is independent of the sense mind. For it is the cells that bring about the sense mind and sight, hearing, etc., and once the mind realizes this, it looks to the cells for intelligent instructions. And it can communicate with any phase of life here on earth, in space, or on other planets. Even the scientists admit this now.

328 以前にも述べたように、人体は何十億もの細胞から成っており、それぞれの細胞は集合体としての役割を果たすそれぞれ特有の使命を持っています。しかし個々の細胞は構造があるべき姿になる為の地勢上の目的を満たしています。そして、この活動の全ては感覚心とは独立していることを覚えておいて下さい。何故なら、感覚心や視覚、聴覚その他をもたらすのはその細胞達だからですし、心がこのことを悟った後は、心は知性ある教えを求めて細胞に注視するようになります。そうして心はこの地球上や宇宙、或いは他の惑星上の如何なる段階の生命とも意思の交流をすることができるようになります。科学者達でさえ、今やこのことを認めています。

【解説】

細胞一つ一つが知性を持ち、複雑多岐な人体を造り上げています。これら細胞の働きがなければ、一秒たりとも人体は生き続けることは出来ません。このように考える時、これら細胞の知性レベルと私達の心のレベルとは全くの大差があることが分かります。結局は私達各自が自分の身体を構成している細胞達から生きる上のアドバイスをもらうよう、心を傾け、耳を澄ます必要があるということです。

以前にも書きましたが、最も身近な所に何十億（実際には60兆）個もの導師が共に寝起きしていると考えれば、至上なる喜び、恵まれた境遇の中に私達は居ることになります。

329 One who is interested in this, and the student should be, can read the June 1964 issue of Readers Digest, page 195. The scientists say here, supporting my earlier statements, quote; "These traveling enzymes are the voices of other cells calling across intercellular space, swapping information so that the millions of cells gathered to create body parts act in concord in dividing and multiplying, taking their places and assuming special shapes." end quote.

329 これに関心がある人や学生は1964年6月号のリーダーズ・ダイジェスト、195頁を読むべきです。そこに科学者達が私の以前の声明を立証して次のように言っています。「これらの移動する酵素類は何百万もの細胞が集まり、協調して分裂し増殖し、それらの位置を占め、特定の形を造るべく身体の部品を造り上げる為、細胞間の空間を通じて呼び掛け、情報を交換している他の細胞の声なのです。」

【解説】

本文で紹介されて記事は身体が細胞によって形成されて行く過程で、細胞間を流れる酵素は細胞が自分の意思を伝える声の役割を果たしているというものです。これらの細胞は元はと言えば、1個の受精卵から生まれた「兄弟達」であり、各々が目的を持って身体を形成する姿は大変興味深いものです。

酵素は一般的にはある特定な作用（反応）を促す触媒のようなものですが、細胞がこれを分泌することは「それをこうしたい」とする細胞の意思（指令）を全身に伝える意味を持つということです。通常では反応しないような材料がその酵素が作用するといとも簡単に反応が進行します。酵素分子の特定部位が鍵穴、相手の蛋白質の形が鍵となっており、特定の蛋白質だけが結びつくことが出来ると現代化学は分析していますが、その本来の意味は肉体を支える細胞の意思を伝え、かつ実行力を備えたメッセンジャーと言うことが出来ます。私達の体内ではこれら酵素を含めて実に様々な化学物質が駆け巡っているということです。

ちなみに、本項（329）と前項（325）はともに1964年の記事が引用されていますが、この年はこの「生命の科学」の連載が始まった年であることに注目戴きたいと思います。その頃、生命科学の分野で発見された事柄に、著者アダムスキーは注目し、読者に学習の広がり求めていたということです。概念に留まらず、現実を見据えた科学として取組む姿勢が他に無い本講座の大切なポイントです。

330 This particular phase has produced the mysteries of the world before this became known as it is today. The mystic groups do not know what takes place when the sense mind connects with the cell intelligence, so they have classified what they receive as coming from the dead.

330 この特定の状態は、今日のようにこのことが知られる前は神秘の世界を造り出していました。神秘主義的な集団は感覚心が細胞の知性と繋がる時に何が起っているかを分らない為、彼らは死者からやって来るかのように分類して来たのです。

【解説】

未だ私には感覚心が本項で述べられているような、あたかも何者かと話しをするような、いわゆる神秘体験を持ったことはありませんので、本項で言う状況がどのようなものかは分かりません。しかし、多くの霊能者が相談者の守護霊等を透視するという話には、多分にここで言う肉体細胞との会話に原因があるのではと思われます。

もちろん、細胞の知性と交流を持てることは素晴らしいことで、その正しい応用を通じて、私達は成長することが出来ます。しかし、直ちに理解できない現象を、「神秘」として棚上げしてはいけません。本文は示唆しています。心が理解できないことは恐れられがちですが、その真実の姿を自ら究明する姿勢も大切です。調和を保ちながら、科学の目で身の回りの一見不可思議な現象の原因を探ることが重要です。また、それにも増して全自然に対し、受け入れる心の拡がりを推し進めることです。これら自らの為に存在し続ける無数の導師（細胞）への尊敬も同様です。

331 As near as we can tell, each cosmic cell has a master unit with smaller molecules about it. The early scholars not knowing this, contacting this master cell unit, assumed that the information was coming from a highly developed spiritual guide. But in reality they were getting the impressions from within themselves. As the human body is made of billions of cells, there are billions of master cell units within its structure. And trillions of lesser molecules like a Queen bee with hundreds of workers.

331 出来る限り現実に近いように説明すると、各々の宇宙的細胞には周辺に小さい分子を備えた一つのマスターユニット（訳注：元細胞の1団）があると言うことができます。初期の学者達はこのことを知らないまま、このマスターセルの1団に接触し、情報が高度に発達した霊的ガイドからもたらされたものと考えていました。しかし、現実には彼らは彼ら自身の中から印象類を得ていたのです。人体は何十億もの細胞から成り立っていますので、その構造体には何十億ものマスターセルがあります。そして、女王蜂が何百もの働き蜂といるように、それは何兆もの下位の分子達とともにいます。

【解説】

この第9課では、具体的な人体内部の細胞レベルの構成が解説されています。

ここでの注目点は各宇宙的細胞には各々に対応した「master cell unit」（マスターセルの1団）についての記述です。このような「master cell」という表現は従来は馴染みの無い言葉でしたが、最近では移植医療等の研究分野では増殖の「元細胞」、つまりは増殖させる細胞の元となる細胞と言う意味で使われています。

本項では、具体的な場所についての記述はありませんが、人体の細胞の増殖を制御する中枢の機能を有する細胞ということだと思われれます。この重要な元細胞が何処にあるのかは、いずれ明かされることかと思いますが、とりあえずはそのような中枢箇所が人体にあるということです。これら中枢箇所とどのように接触するか、自分の身体ながら、心の感度を高めることは容易ではないようです。

332 The master units are cosmic cells that direct all cosmic activity within the body of every form. They could be called, if we were to name them, The Supreme Intelligence, or Father of all creation.

332 このマスターユニット達はあらゆる形あるものの身体の中で全ての宇宙的活動を指令する宇宙的細胞達です。彼らはもし私達が名付けるとしたら、至上なる英知、あるいは全創造物の御父と呼びたいような者達です。

【解説】

身体の中は只、60兆個の細胞が各々勝手な存在としてあるのではありません。私達が知っているように、骨や筋、筋肉といった体格を形成する部位から、血管その他の循環系や消化器系、それらを取りまとめる神経系等々、様々な特色ある機能集団に分化しています。おそらくはそれらの要所毎にこのマスターセルユニットなる一団がいるものと思われれます。いわゆるヨガのチャクラや鍼灸のツボに近いものでしょう。

これらの中樞の一団が受け持ち部位の成長や恒常保全の全てをコントロールしていると言っています。その宇宙的細胞という語感、その英知が大宇宙につながっていることを示唆しており、これら体内にある各センターが所管する部位の安定に向けて絶えず下位の細胞群に指令を出す一方、全体としての人体の調和を保っています。その指示内容やその手段の詳細は不明ですが、少なくともこれらマスターセルユニットには高度な知性が宿っていることに間違いはありません。自身の中にあるこれら英知の存在を認め、それらに近付くことから、全てが始まると言ってもよいでしょう。

瞑想や座禅とは行の中で各自は他でもない、自分自身の中からこれらの声をひたすら聞こうとしているということです。

333 The lesser workers that form the cells are equal in cosmic principle and are obedient to the direction of the unit instructors. So when the sense mind lends itself to a cosmic impression it is easier for it to receive from the molecules or lesser workers. A scholar of the mysteries not knowing this accepts the impressions as coming from dead entities, for each cell is an entity in its own right. And when impressions are received from master units they are classified as coming from a high, spiritually evolved entity as stated before.

333 細胞群を形作る下位の働き手達は宇宙的原理において平等であり、マスターユニットの教官達に従順です。ですから、感覚心も宇宙的印象に身を委ねるなら、これら分子即ち、下位の働き手達からそれらを受け取ることは容易なのです。神秘学の学者はこのことを知らずに、その印象を死者から来るものと認めて来ました。何故なら個々の細胞はそれ自身の権利を有する存在物であるからです。そしてマスターユニットから印象を受け取った時には、以前述べたようにそれらは高位な、靈的にも進化した存在から来るものとして分類されて来ました。

【解説】

誰でも一度は顕微鏡下の細胞分裂の様子を見た事があると思います。それぞれの細胞の中で様々な微粒子が振動しながら動き回り、驚く程の速さで細胞が分裂増殖して生きます。これら一心不乱に働く者達が本項で言う「細胞を形作る下位の働き手達」です。一見、人間の目には何事もないように思えても、ミクロの世界ではこのような活発な活動が行われています。

その活動の様子は、確かにミツバチの巣箱の中の働き蜂に似ています。女王蜂を中心に巣箱の中の幼虫の世話をする働き蜂の生きる姿は「奉仕」以外の何物でもありません。あらゆる生き物が、このような構成員によって造り上げられているということです。

また、本文では、これら人体の働き手やその上位に位置するマスターユニットとは、基本的には共通する部分が多く、感覚心も十分、それらと意思の交流を図れることが示されています。従来的心灵現象の多くは、これら身体内部の微小な存在から感覚心が得た印象の類いであると本文は言っています。

334 There are cells in the human make up that work in opposition to the cosmic principle. They are habit cells created by the sense mind that are trying to govern themselves by methods of their own.

334 人体の構成の中には宇宙原理に反して働く細胞達が居ます。彼らは自分達自身の方法でそれらを支配しようとしている感覚心によって造り出された細胞達です。

【解説】

一方で人体には宇宙原理に反して働く細胞、習慣細胞が存在していると警告しています。私達には習慣性という大きな課題があります。習慣（惰性）に対する概念が新鮮さです。いつも思うのですが、自然の中に生きる生き物達は実にキビキビした動作、絶えず警戒を忘れない生活を送っています。もちろん、この中には少しの油断が自らを他者の食料に捧げることにもなる訳です。

一方、人間の場合、成人して生活が安定して来ると、次第に新しい事柄への取組意欲が薄れて来ます。反対に強まるのが習慣性です。喫煙や飲酒、あるいは娯楽やゲームの類いはそれに該当します。これらは当初、本人の感覚を楽しませますが、遂には麻痺させて新しい思考を抑制します。実はそうした習慣性問題の背景には感覚心に従属する細胞が体内にあって増殖していることに原因があると、本文は指摘しているのです。

それらの場所としては、各々の感覚器官の近くにあるものと思われます。こうした習慣細胞群が各感覚器官の刺激に反応し、身体全体の行動を指図しようとしているのです。これら反抗分子に対しどのように対処すべきか、各自の戦いは自分の中にその手強い相手が居ることです。

335 In the cosmic organization there is no fear, so the fears that all humanity knows come from foreign cells created by the sense mind. There are many foreign cells that cause envy, jealousy, suspicion and etc., that hinder the growth of the individual in becoming one with the cosmic purpose. These are very powerful for they have been given dominion in this world for ages. And they have the sense mind serving them first. But when this is realized and worked with, the chemicals of these cells begin to change in line with the Cosmos.

335 宇宙秩序の中には恐怖は存在しません。それゆえ全人類が知る恐怖の類いは感覚心によって造り上げられたよそものの細胞から来ています。宇宙的な目的と一体になろうとする各個人の成長を妨げる妬みや嫉妬、疑惑等を引き起こす数多くのよそ者細胞が居ます。これらは何世代にわたってこの世界での支配権を与えられて来た為、大変力があります。また、それらには真っ先に仕えるべき存在として感覚心があります。しかし、このことが理解され、努力すれば、これら細胞の化学成分は大宇宙に沿って変化し始めます。

【解説】

いわゆる各自の感情の問題部分について、本項ではそれらが具体的な細胞群の反応であることが説明されています。このように私達の体内には感覚心に隷属する細胞グループが存在しているということです。身体の中の一部、感覚器官に近い部分でこのような独自の細胞群があり、それらが各自を牛耳っているということです。

しかし、冷静になってこれら「外来の細胞群」を見詰め直し、それらを暖かく指導すれば、それらもまた、内部が変化し、再び宇宙的細胞に変容すると言っています。

私達の相手は自分自身であり、日々の心の反応を観察しながら、それを正しい方向に導く必要があります。決して非難する必要はありませんが、その問題の感情がどのような経路を経て出て来たのか、それらが真に的を得た意見なのかを見詰め直し、教育する中で、自ずとそれらの細胞は変容するということです。その為には何よりも、本項に述べられているような私達自身の身体の中の構成についてしっかりしたイメージを理解しておく必要があります。

336 The foreign cells have been cultivated by the sense mind through fear and other phases of unpleasant thoughts against others. They are no different than the foreign cells known as cancer in the human body. And if allowed to continue they multiply the same as a cancer does. And it is a well known fact that they will eventually take over completely.

336 そのよそ者細胞らは感覚心によって恐怖やその他他の者に対する不快な想念を通じて培養されて来ました。それらは人体のガンとして知られているよそ者細胞と何ら異なるものではありません。ですから、もし許容され続けると、それらはガンがそうなるのと同様に増殖を続けます。そしてそれらは遂には全てを乗っ取ってしまうことは周知の事実です。

【解説】

故小田秀人氏はかつて、「ガンは治る。治しがたいのは人の石頭だ。」と度々話されていました。

私達は健康診断でガンの早期発見を目指して様々な検査を行います。また事実、ガンによる死亡も多いと聞いています。しかし、ガン以上に体内にはびこっているのが、この「よそ者細胞」なのです。本文の主旨から言えば、例えば人が恐怖を覚える時、それら細胞が他の正常な細胞を抑えて体内に一挙に増殖するということでしょう。最初の幼児期には60兆個の中では極々小さな存在であったものが、最後は全身を覆い尽くすまでに増殖すると本文では警告しています。

ガンであれば、その部位を切除するか、その細胞を弱らせる為の制ガン剤や放射線の治療もあります。しかし、これら感覚心の配下にある「よそ者細胞」は場所を特定することも出来ず、外部から治療する手段はないのです。

イエスはかつてこう言われたとされています。「あなたたちも聞いているように『姦淫するな』と命じられている。しかし、わたしは言うておくが、みだらな思いで女を見る者はだれでも、すでに心の中でその女を犯したのである。もし、右の目があなたを墮落させるなら、えぐり出して捨ててしまいなさい。体の一部がなくなるほうが、全身が地獄に投げ込まれるよりもまだからである。またもし、右の手があなたを墮落させるなら、切り取って捨ててしまいなさい。体の一部がなくなるほうが、全身が地獄に落ちるよりもまだからである。」（マタイによる福音書第5章）

これら感覚心の配下となっているこれら細胞を体から排除することに対する並々ならぬ決意が示された言葉です。

337 There are records of mystics who have willed themselves to a spiritual guide and lost their individuality. And the supposed guide was nothing more than foreign cells created by the mind desiring a spiritual leader.

337 これまで自分自身をある霊的な指導者に捧げて自分自身の個性を失った神秘主義者の記録があります。しかし、その指導者と思われた者は、霊的指導者になろうと願っている心によって造り上げられたよそ者細胞達以外の何物でもなかったのです。

【解説】

私達はこれまで無言でやって来る印象類に対し、鋭敏になるよう心掛けて来ました。またその結果として学習者の中には日常生活においても意識から与えられるヒントに気付き、生活に役立てて来られた方もあると思います。このように印象に従うことは何事によらず、基礎となるのですが、実はその印象類の出所には私達のエゴが造り出した細胞である場合もあるので、注意が必要だと本文は言っているのです。

つまり、印象（想念）も実は様々であり、自らの支配を拡大しようとするエゴに由来するのもあると言うことです。従って私達は全ての印象類を受け入れるのではなく、それらの本質を併せて見極める必要があります。印象に従った結果、得たものを評価して、正しい由来のものであったかをチェックすることが必要です。本文で再三述べられている「原因と結果の両方を見る」ということです。

また、本文では多くのいわゆる霊能者は自分自身のエゴが支配する細胞群が発する印象を垂れ流しているだけだとも言っています。まして通常の人がこれら他人を支配しようとする類いの「教祖様」に信奉し、人生の全てを捧げることは誤りだとも忠告しているのです。各自は各自の努力を一步一步その効果を確認しながら歩む必要があります。宇宙には原因に対応した結果が生まれるという例外の無い法則が貫かれているからです。

338 You may say, but can a sense mind create ? Yes, for the mind is an effect of a cause and it carries the same potential. All jealousy, hate, etc., are man's creation, for in the Cosmos we find none of these. And both the normal cells and the abnormal cells keep records of all actions to which the sense mind can go for information when the need arises. Normal cells will give the individual correct information, while the abnormal cells will give misleading information based on past experiences. Both live by multiplication. This is the law of survival, so the abnormal ones will strive to multiply and resent any interference, while the normal ones do not resent or resist interference.

338 貴方は感覚心は創造することができるのですかと言うかも知れません。出来るのです。何故なら心は因の一つの結果であり、それは因と同じ潜在力を携えているからです。全ての嫉妬、嫌悪その他は人の創造結果です。何故なら大宇宙にはこれらのいずれも見出すことはできないからです。そして正常な細胞達と異常な細胞達の両者とも感覚心が必要性が起った時に参照しに行ける為の全ての行動の記録を保持しています。正常な細胞は各自に正しい情報を授けますが、異常な細胞は過去の経験に基づいて誤解させる情報を与えます。両者はともに細胞分裂によって生き延びています。これが生存の法則であり、異常細胞は細胞分裂に励んで如何なる邪魔に対しても腹を立てますが、正常な細胞達は腹を立てたり、妨害に抵抗することはありません。

【解説】

私達が学習の対象としている感覚心はそれ自体、自らの体内では勝手な力を発揮しています。他の正常な細胞に対抗した自分の子分を造り出すのに躍起になっているとも言えるでしょう。ひたすら感覚の満足の為に人間本体を動かす為に手先を増やし続けているということです。

また、そのエゴに帰属する細胞達は心が思い起こそうと各細胞に蓄えられた記憶をたぐり寄せようとすると、勝手に都合が良いように脚色した情報を心に渡すと本文では述べています。これら細胞群が何処にあるかについての記述はありませんが、これまでの本文の内容から言っても、脳のみにあるとも思われません。全身にある細胞群がそれぞれこれらの機能を有していると考えべきでしょう。

このように私達の学習訓練対象は自分勝手に潜在能力がある厄介な存在ですが、本文にあるようにこれらの問題はひとえに各自の身体の中のみ存在することは大きな救いです。外に拡がる莫大な宇宙にはこれら問題の一切が無いことに、私達は力づけられます。宇宙の中で唯一の敵は自己の中にあるからです。

339 In order to change the abnormal or carnal cells into normal or cosmic cells there must be a chemical change caused by the sense mind accepting the help of the cosmic cells. This is not easily done for the carnal ones through habit do not want to lose their dominion. Sometimes it is necessary for an individual to associate himself with a higher developed person for environment has much to do with development. We can readily see this in the society in which we live, for individuals are molded according to their environment.

339 その異常であり、肉欲的な細胞群を正常即ち宇宙的細胞群に変える為には、宇宙的細胞群の助けを受け入れる感覚心によってもたらされる化学的変化がなければなりません。これは習慣を通じて自らの支配権を失いたくないとする肉欲細胞群にとっては容易なことではありません。時として、高度に発達した人物と接することも必要となります。環境は発達に大きく影響しているからです。私達はこのことを私達が暮らす社会の中で容易に見ることが出来ます。何故なら各自は各々の環境に応じて形成されるからです。

【解説】

もちろん、私達の目的は文字通り自らの心と身体の改造にある訳で、心と同時に各自の肉体に分散している肉欲細胞をもどうにかしなければなりません。それら問題の細胞は、しかし、全くどうにもならないような存在ではなく、感覚心がしっかり宇宙根源の指導に身を委ねれば、自ずと化学変化を起こし、正常な細胞に変化すると言っています。それには、時として感覚心にとっての環境を変えることも必要だと述べてられています。

この種の真理については、何もこの講座だけがあるのではなく、古来から脈々と地球の民に伝えられてきた筈のものです。しかし、政治や経済、科学の発達状況によって私達の生活は大きく影響を受けます。古代や中世、あるいは近代等、多くの時代は毎日の食物を得るだけで精一杯の時代も多かった訳で、戦に巻き込まれた中では、宇宙哲学を云々することは不可能であったことかと思えます。そういう意味では、これからの時代を平和に保ち、次の世代には本当の意味で宇宙時代に相応しい学習環境を残すことが大切であり、それが現在の私達の責任であることが分かります。

さて、また同時に本文では優れた教師につくことも有用だと述べています。アダムスキー氏について言えば、誰に師事したのかは全く不明ですが、後年、アダムスキー氏の周囲には多くの人々が集まり、氏の哲学指導や各自の人生課題についてアドバイスを受けていたとされています。また私自身の経験からも、20代の頃、東京世田谷のN氏の自宅を開放して毎月行われていた当時の日本GAPの有志の会に参加する中で、諸先輩から様々な体験談や注意点を伺ったことが今日の支えになっています。つまりは前人未踏の道でなく、同行の志が自ら体験して得たことを後輩に伝えることで、その者の進歩の助けになるということです。ささやかながら、本シリーズもそのような方の一助になれば幸いです。

340 Scientists now reveal that DNA directs all normal cell activity. And the cells are never silent as they travel from one to the other delivering their instructions.

340 科学者達は今やDNAが全ての正常な細胞活動を指導していることを明らかにしています。そして細胞達はそれらの指令を次々に他の者に配達する為、移動するので決して沈黙する存在ではありません。

【解説】

これまでもDNAが細胞の諸活動を統制していることを、本シリーズで学習して来ました。私達が細胞の複製や種としての遺伝情報の継承として理解している以上に、DNAが持つ役割は大きいものがあると思われまゝ。また、その下で働く細胞について、本文では「決して沈黙していない」とも表現しています。つまりは、細胞達は各々何かを訴えている、言い替えれば意思を表明しているというのです。

これに関連して、最近伺った実際に日本にあったお話を以下に紹介しましょう。

「ある青年が生前、ドナー登録をしておりましたが、不慮の交通事故で亡くなりました。遺族は青年の遺志に従って、角膜移植を行うことに合意しました。そこまでは普通の話ですが、実はその後、一人の若い女性はその青年の自宅を不意に訪れ、2階の部屋を見せて欲しいと言って来たのです。その女性は本人も訳がわからずその家に引き寄せられて来たとのこと。家にいた青年の両親は最初の内は断りました。しかし、その女性は引き下がらず、どうしても2階の部屋を見せて欲しいとのこと。家人は仕方なくその女性を2階に案内すると、その女性はまるで引き寄せられるように亡くなられた青年の部屋に入ったそうです。その部屋に入ると自分の部屋のように懐かしがり、まるでその部屋を知っているという態度を示したそうです。青年には生前、婚約者がおり、部屋には2人の写った写真が飾ってありましたが、その女性は青年とその婚約者が写るその写真の内、青年の方でなく、恋人の方を見てさめざめと泣いていたということです。家人は不思議に思いましたが、その後、その女性は何とその青年から角膜移植を受けた人であることが分かったとのこと。」

この事例は青年の角膜細胞がかつての自室を懐かしがり、最愛の恋人を思い出す等、移植後も細胞が生き続ける限り、記憶を保っていることを示しています。また、それら細胞から発せられた印象を移植を受けた女性が感受できた事例だと考えられます。その後については伺っておりませんが、次第にこれら細胞が発する印象も薄れ、新しい主人の元、新しい体験を増やして行くことと思われまゝ。

私達の身体には60兆個もの細胞があると言われております。これらの細胞が皆、平穏安寧に暮らすと同時に、少しでも宇宙生命の本来の姿に沿って生き生きと過ごしてもらおうよう、その統治者である私達一人ひとりの役割と責任は大きいものがあります。日本の言葉に「御自愛下さい」という表現がありますが、まさにその通りです。

341 The cosmic cells are always ready to help the carnal ones but this must be done by the insistence of the sense mind. And the process is no different than training a vicious animal to honor and obey. For through this kind of act the tendencies of viciousness are changed to kindness through chemical changes. The modern tranquilizer drugs do this, but only temporarily. To have a permanent lasting effect the sense mind must submit itself to such a change. During the change there naturally will be a conflict for the carnal cells will not be too willing to change. But the individual must stand firm, paying little attention to the unpleasantness that he will go through during this period, if he is to live a cosmic life instead of a personal existence.

341 宇宙的細胞は常に肉欲細胞を助けようとしています。これは感覚心の強い主張が無ければなりません。そしてその過程は凶暴な動物を訓練するのと違いはありません。何故ならこの種の行動を通じて、凶暴な傾向は化学的変化を経て優しさに変化するためです。現代の精神安定剤はこの働きをしますが、それは一時的です。永遠に続く効果を得るには、感覚心は自分をこうした変化に委ねなければなりません。その変化の間には当然、葛藤もあるでしょう。肉欲細胞らは変化することを余り好まないだろうからです。しかし、各自は、個人の存続の代わりに宇宙的生命を生きようとするなら、この期間で体験する不愉快さに少しの関心を払うことなく、しっかりそこに立ち向かわねばなりません。

【解説】

身体に役立つ細胞はいわば人体という巣箱の中で甲斐甲斐しく働く働きバチのように活発に活動しています。それらは常に巣全体を維持する為に必要な仕事をこなし、仲間達に必要な情報を分ち与えています。そうした中、巣の中には本文で言う「よそ者細胞（肉欲細胞）」という働きバチの恩恵を受けているにも拘わらず勝手な行動をとる者達も数を増やしているというのです。

これらは身勝手な思想を持つ者達ですが、その者を統制する感覚心が適切な処置をとれば、再び本来の姿に変化できるということです。それまでの間には葛藤も多いのですが、究極には圧倒的能力を持つ宇宙的細胞の感化を受けることでしょう。

また、このためには、原文の最後に何気なく書いてある「個人の存在の代わりに宇宙的生命を生きようとする」ことがポイントになると思っています。とかく私達は名声を好み、他人から尊敬され大切にされたいと思うものです。しかし、自然界では個人が尊ばれることは一切ありません。冒頭のミツバチの世界でも例え働きバチが外敵との戦いで多くが死ぬことになっても、ハチ達は何ら悲しむことなく、生き残った者達が次に必要なことを成し遂げようと新しい活動を開始します。私達もエゴを捨てて、そのような宇宙に流れる息吹に従った生き方が出来、生死を超えることができれば、随分と気分が穏やかです。すがすがしいものになることでしょう。

342 Once this is accomplished freedom will be known. For then the individual can travel the Cosmos, using his body for the transmission of knowledge to those who have not yet learned to travel in this way. This is comparable to our radio, television and wireless that serves mankind today. For the sense mind acts as a receiver and transmitter of knowledge. This is true psychic development, but this phase of what is called (psychic) has never been understood until now.

342 一旦、これが成し遂げられると自由というものが自覚されるでしょう。何故なら、各自は自分の体を使いながら、そのような方法で旅することを学んでいない人達に知識を伝達する為、宇宙を旅することが出来るようになるからです。これは今日、人類に役立っている私達のラジオやテレビ、無線通信に例えることが出来ます。何故なら感覚心は知識の受信器や送信器として働くからです。これが真の心霊的発達なのですが、(心霊)と呼ばれるもののこの段階はこれまで全く理解されて来ませんでした。

【解説】

私達の体内に存在する肉欲的細胞が同じく体内にある宇宙的細胞の助けを受けて、細胞本来の姿に化学変化する時、私達は完全なる自由に開放されると言っています。その状態は感覚心が宇宙根源からの印象を自由に受信し、距離に関わり無くありありと状況を知覚できるということでしょう。

今日では、家庭からインターネットを使って地球の反対側の街の状況を知る等、本人が望む通りに膨大な知識の中を行き来して関心のある知見を得ることが出来るようになりました。それと同時に、感覚心も宇宙的な素質を備えるようになると自由に知識の海を遊覧することが出来るということでしょう。もともと「宇宙的細胞」と表現されている背景には、これら身体の根幹細胞群は化学物質による身体内の意思疎通の他にテレパシクな能力も備わっているということだと思われまます。

私達が自分自身の心を観察し、適切に更正する中で、身体の問題細胞は正常なものに姿を変え、また宇宙を流れる印象類に対する感受性、更には印象類の発信能力も徐々に高まるということになります。

343 As you can see this true phase depends upon nothing but yourself. And the old interpretations of guides etc., are not involved. And as we stressed throughout the lessons, until now you have been living almost entirely within the realms of the sense mind with half of yourself searching for the other half. In other words longing for the cosmic part known as consciousness. For it is the cosmic one that makes the sense man feel that there is something more to be known. And man will not rest or be content until he finds that other half of himself.

343 お分かりになるように、この本物の局面は貴方自身以外何物も頼りにするものではありません。ですから指導者の古い解釈等は含まれていません。また、私達がこれら教科を通じて強調したように、皆さんはこれまでほとんどすべてもう一方の自分を探しながらも、その感覚心の領域内にのみ生きて来たのです。言い換えれば、意識として知られる宇宙的部分を切望しながらです。何故なら、感覚人に何か更に知らねばならないものがあると感じさせるのはこの宇宙的半身であるからです。そして人は自分がその自分自身のもう一つの半身を見つけるまで、落ち着いたり満ち足りることはないでしょう。

【解説】

私達が普段生活している世界、ここでは物理的な環境を言っているのではなく、精神活動の場がそもそも何処にあるかということです。例え広大な大自然の中を歩いても、その人の心はあいも変わらず都会の日常生活の雑事のことを考えているかも知れません。また逆に、朝の混み合う通勤電車の中で車内の吊り広告の一枚の山の写真を見て爽やかな印象を味わえる人も居る筈です。

このように私達の心が住む世界についてのお話です。本文はその世界はこれまで感覚心の世界といういわば半分の世界に過ぎないことを言っているのです。感覚心（エゴ）を一つの世界とするなら、もう一つの世界、宇宙意識の世界が自身の中に表裏一体として存在し、その「自分探し」を長年、志しある者は続けて来たということです。それには実は身内から囁き続ける宇宙的細胞の声があったからと本文は言っています。

このように全ては皆様、各自に備わっている訳で、他に必要なものは何も無い、言い換えれば、その存在に気付けば他に何も失うものも無いことも分かります。自分の中から湧き出る印象を活用するようになればその贈り主はようやく自分の意思が伝わったかとお慶びになることでしょう。

344 We read in the Bible; As it is in Heaven so it is on Earth. Or, as it is in consciousness so it must be in the sense mind.

344 聖書にはこのように書いてあります。天に行われると同じく地にも行われますようにと。それはまた、意識に行われると同じく感覚心にも行われますようにとも言えます。

【解説】

聖書のこの言葉は、これまで他の天体で実現しているような生活が、この地球にもいち早く訪れますようにと願う気持だと思って来ました。しかし、私達自身の中にも、宇宙的細胞群が営む世界があり、感覚心の配下にある肉欲的細胞が支配する世界があり、感覚心の世界も早く体内にある宇宙意識の世界と同じことが行われますようにと祈る言葉でもあるのです。

地球とその他の惑星にしても、大宇宙に比べると実に小さい、限られた空間に位置しています。当然、そこで行われていることは本来、同様な発達段階であろうとするのは自然です。しかし、実際にはこの地球だけが大幅に遅れ、進化と破壊を繰り返しています。昨今の情勢を見ても一度、衝突が起れば、殺戮はもちろん、略奪等が平気で行われます。そもそも人間の心の中にそうした要素が多く存在する為、外国に渡り、命の怯えと裏腹に極端な残忍性が出てしまうのでしょうか。

私達は自らの心の中に平安を保ち、自らのエゴを訓練し続け、そうした自分の心の現実にいち早く気付くかなければなりません。そうした中で人体を含め、広く自然観察をする中で、自然を動かしている宇宙意識に気付くこととなります。また、その時、両者の間の相違に驚くこととなります。エゴの世界と意識の世界の違いを実感しなければなりません。

345 All normal cells operate as consciousness impressing the sense mind with its potentials. And as the cosmic cells are not a respecter of persons they lend themselves to the sense man even though the man makes a mistake. For he can learn from the lesson and seek the corrective way of executing his impressions. All cells use the language known as telepathy - the language of impressions that come in silence.

345 意識が感覚心にその（訳注：感覚心の）可能性を印象づけることによって全ての正常な細胞は動作します。また宇宙的細胞群は個人を尊重する者では無い為、それらは自らを例えその者が過ちを犯すことになっても、感覚心に委ねるのです。何故ならその者はレッスンから学び、自分の得た印象類を実行に移す上での修正方法を探ることができるからです。全ての細胞はテレパシー、即ち沈黙の内にやって来る印象の言葉として知られる言語を使用しています。

【解説】

ここでは宇宙的細胞群の特徴について語られています。本文はじめの "as consciousness impressing the sense mind with its potentials" 部分については、訳者として若干迷う要素もありますが、ここでは「意識が感覚心にその可能性を印象づけることによって」と解釈しました。つまり、宇宙意識が感覚心を刺激することで全ての細胞（即ち、宇宙的な細胞も肉欲的な細胞も共に）が働き出すという意味になります。

また、特徴的なのは、宇宙的細胞が肉体の主人に重きを置いておらず、ひたすら宇宙の法則に従う活動に徹しているということです。場合によっては主人（エゴ）による法則の誤用によって、肉体そのものの存在が不可能になることがあっても、これら宇宙的細胞群は一切、気に止めることはないと言っているのです。ある意味、法則に自身を委ねる潔さがあると言ってもよいでしょう。また、それほどに宇宙の法則を支えている創造主を心から愛しているとも言えるのです。

346 There are two avenues of impressions. Those from abnormal or carnal cells created by the mind of distorted nature so well known in this world, and those that come from the normal cells of cosmic nature that give a constant feeling of elevation. The doors to both are open for manifestation and they permeate all space like the television and radio waves do. We live in the sea of them and it is up to the individual to make the choice of which ones he wants. If we want a war picture depicting misery we can tune into that type and live in that environment. Or we can choose a program of beautiful melodies or a performance of kind deed and enjoy that environment. One is of noble life and the other is of abnormal life. And we must remember that all of this is taking place in the sea of life. And we have been given a free will to choose which environment we wish to live in. I do not mean that we should ignore the abnormal actions of any phase. For if we are to know life from its lowest expression to its highest potential we must observe all actions. Then we will understand the cause back of them, observing the law of action and reaction - cause and effect. But we do not have to become the actors. We can watch a prize fight and not become a fighter but we can see how the human mind operates. When we can do this we are better equipped with knowledge and aware of the type of impressions that come upon us which could take over. This is where wisdom begins.

346 印象には二つの道があります。この世の中ではあまりに良く知られているねじれた性質の異常細胞群、即ち肉欲細胞群から来る経路（訳注：複数）と常に高揚する気分にする宇宙的性質の正常細胞群からくる経路（訳注：複数）です。現出に向けての扉（訳注：複数）は両者ともに開いており、それらの印象はテレビやラジオの波のように全ての空間を通過しています。私達はそれら（訳注：印象）の海に生きており、自分がどれを望むのかを選択するのは各自に委ねられています。もし私達が悲惨さを描く戦争の映像を求めるなら、私達はそのタイプのものに同調出来ますし、その環境に生きることが可能です。あるいはまた、私達は美しいメロディーの番組か親切な行為のふるまいを伝える番組を選択し、その環境を楽しむことも出来ます。一方は高貴な生涯であり、他方は異常な生涯です。そして私達が覚えていなければならないのは、この全てが生命の海の中で起っているということです。また、私達はどちらの環境で生きたいかを選ぶ自由意志が与えられています。私は如何なる側面の異常な行為であっても無視すべきと言っているのではありません。私達が生命をその最低の表現から最高の可能性まで理解しようとするなら、私達は全ての行為を観察しなければならないからです。そうすれば、私達は作用と反作用、原因と結果の法則を観察することによって、それらの背後にある因を理解することになるでしょう。しかし、私達はその行為者になる必要はありません。私達は懸賞試合を観戦することが出来ますが、選手にはなれません。しかし、人間の心がどのように働くかを見ることは出来ます。これが出来れば、私達は私達にやって来て自分を支配しかねない印象のタイプに関する十分な知識を身に付け気付くことが出来るようになります。これが知恵の始まりです。

【解説】

私達が自覚するしないに関わらず、私達は印象（想念）の海の中に暮らしています。電波と同様にあらゆる物を通過するそれらの印象を理解するには、テレビその他の受信機と同様、それらに心を同調させる必要があります。しかし、テレビでどのような番組を見るかは大切なことです。良い番組を見れば、為になります。不自然で暴力的な内容を見れば、しばらくは見た者に邪悪な要素を植え付けることとなります。そうすることはやむを得ないこと、そのようにエゴを発動しても許されるのだと納得させることになるからです。

このように私達は自らが取り込む印象（想念）に大きな影響を受けています。しかし、自分にどの印象を取り入れるかは全く各自の選択に委ねられています。しかし、一方で、これら体内を通過する外部の想念を断ち切ることは決して良いことではありません。反対に私達は感受性、即ち想念に対する感受性を高める道を歩んでいるからです。良くも悪くもあらゆる印象を感受感得し、冷静に分析、学習することが、生きる上での大切な知恵を各自に蓄積されることになると言っているのです。

第1課から第3課までの小冊子が出来ました [2008-08-29]

現在、これまでの内容を各課1冊の小冊子（簡易製本、各課A5版約50ページ）として製作し始めています。

やはり、後に残す為には本の形にまとめた方が良いと思ったからです。

つきましては、御希望の方には、¥500（送料込）でお送りしますので、希望される方は以下のメールアドレスに「生命の科学逐次解説冊子希望」と題するメールを送付し、希望の課と冊数をご連絡下さい。折り返し、振替口座の番号をお知らせいたします。

なお、なにぶん小冊子製作は手作業の為、当方の事情によりお待ち戴くこともありますので、御承知下さい。

メールアドレス：ganetjpn@cream.plala.or.jp

第4課以降については、出来次第、同様な形でお知らせしますので、それまでお待ち下さい。海外からのご依頼については別途ご相談下さい

347 We are told that Jesus went to a prison and talked to the prisoners. But he was not affected by the environment or impressions that came from the prisoners.

347 イエスは牢獄に行き、囚人達に話をしたとされています。しかし、彼はその環境や囚人達から来る印象類に影響を受けませんでした。

【解説】

ここでさり気なくイエスが牢屋に行って、囚人達に会った時の話として例に挙げられていますが、実は、これはイエスが捕われて遂には十字架につけられることになる状況での話と考えるべきだと思っています。

この場合、古代イスラエルの牢屋は暗く、劣悪な環境であったことは容易に想像できますし、囚人達は荒んだ心にあつたに違いありません。またイエスご自身もこれからご自身の肉体に加えられる苦難を十分、ご存知であった筈です。

しかし、本文ではそのようなことに一切触れず、牢屋にあっても何ら周囲の影響を受けなかったと述べられています。これら地上の誤り、劣った環境から一切の影響を受けず、淡々と人間達の下す判決を待つと同時に、哀れみのまなざしを囚人達に注いでおられたのだと思います。宇宙的細胞、宇宙意識に完全に同化同期した者には恐怖は無力になるということです。

348 We can use this illustration; A man on a tall building can observe all that is taking place below him. He sees the confusion but is not affected by it nor does he become a part of it. This is what you can do when you observe the actions of sense minds through your consciousness.

348 このような例を用いることが出来ます。高い建物の上にいる者は下で起っていることの全てを観察することが出来ます。彼は混乱を見ますが、それに影響を受けたり、その一部になることはありません。これが感覚心の行動を貴方の意識を通じて観察する際、貴方がなし得る内容です。

【解説】

感覚心に振り回されないようにする為には、自ら自分の感覚心を観察することが必要です。アダムスキー氏は多くの著作の中で、“想念観察”について述べていることは周知の通りです。

とかく右往左往しがちな自分を切り離して、客観的に眺めることによって、その本質が見えて来るということです。しかし、一方では、観察だけで、行動を伴わなければ、“体験”として残らないことも確かです。まさに“観察”が“善悪の裁き”になっても困ります。ここでは、横暴な感覚心が騒ぎ出した時、あるいは恐怖を抱いて混乱し始めた時、自分自身に対する全責任を負う当事者としては、それらの混乱に巻き込まれることなく、高みにあって、その印象の出所や作用について冷静に観察し、影響を受けないようにせよと言っているのです。

349 I stated at the beginning of this lesson that space is permeated with cosmic cells. All cells are conscious entities that make up the mind and all forms known and yet to be known. Our scientists recognize this now and our astronauts are being taught how to receive impressions from the living cells in space. These cells do not lend themselves to personal opinions of sense minds. But there is not a moment in life that the sense mind does not receive impressions from the cosmic source. The mind may not be alerted to them because it is preoccupied with its own abnormal conditions, but the impressions are there just the same. The only time that the sense mind becomes aware of them is when it loses its interest in itself. Sometimes this is called meditation or silence, for it is then that thoughts or impressions move before the sense mind at terrific speeds.

349 この教課の冒頭（訳注：327）で宇宙は宇宙的細胞が行き渡っていると述べました。全ての細胞は心や知られている、またまだ知られていないあらゆる形有るものを造り上げる意識的存在なのです。地球の科学者達は今やこのことを認め、宇宙飛行士達は宇宙空間において生きている細胞達から如何にして印象を受けるかを教わっています。これらの細胞達は感覚心達の個人的意見に自らを委ねることはしません。そのかわり、感覚心がその宇宙的源泉から印象類を受信しないことは片時もないのです。心はそれ自身の異常な状況に夢中になっている為、それらに警戒できないのですが、その印象類は全く同様のままそこにあるのです。感覚心がそれらに気付く唯一の時とは、感覚心が自分自身への関心を無くす時です。ある場合にはこれは、瞑想あるいは沈黙と呼ばれます。想念或いは印象が感覚心の前を猛烈なスピードで移動するのはそのような時だからです。

【解説】

宇宙空間には宇宙的細胞が言わば行き渡っているという点について考えて見ます。この場合、これまでの原表現から著者はcell（細胞）とmolecule（分子）とは区別して表現されていますので、ここで言うcellとは文字通りの「細胞」という意味で用いられていることとなります。それでは「宇宙空間には宇宙的な細胞が行き渡っている」とはどのような状況を示すかということとなります。最も容易な解釈は宇宙空間にある各惑星や衛星、流星に存在する生物体を構成する細胞です。しかし、一方では同乗記に書かれているように空間自体にも様々な色を発する物体が飛び回っているとも言われています。宇宙空間を海に例えるなら、海中深い暗闇の中で様々な発光する深海生物がいるのと同様な光景があるのかも知れません。

宇宙空間は何も無い真空の空間だと教えられて来ましたが、実際には海洋と同様に、海洋（宇宙）に浮ぶ島々（惑星）の生命を支える大切な環境であるかも知れません。

こうした宇宙空間に直接生息する生物が存在するとすれば、それらはまさに創造の間近に生きている訳で、それらの持つ精神レベルは著しく優れたものである筈です。また、私達は地上に生きているとされて来ましたが、実はその生きる空間はこれら宇宙と何らの境目がなく、つながっていることに留意したいものです。空を飛ぶ鳥達に古来から特段の高貴さを感じるのも、これに似た要素があるのかも知れません。

350 Here also one must be careful which ones he will give recognition to for abnormal impressions created by cells of that type join and move with the normal ones, just as fast. Like riley water mixing with clear water.

350 ここでもまた、人はどちらに承認を与えるかについて注意しなければなりません。その種の異常細胞で造り上げられた異常な印象類は正常なものに取り付き、一緒になって素早く動くからです。それは、清らかな水に混じる濁り水に似ています

【解説】

ここでは、人が想念を感受する時、注意すべき点として、多くの正常な印象に混じって、感覚心の手先に成り下がった細胞群からの邪悪な想念も同時に紛れ込んで来ることを指摘しています。いわゆる、「出来心」や「魔がさした」等の日本語の表現がありますが、それらは入り込んだ異常な想念に従って本人が行動した結果、招いた結末を後日、反省した時に出る後悔の言葉です。

このように、ありとあらゆる機会を捉えて、不正常的な想念が入り込もうとしている訳ですから、油断は出来ません。やって来る印象を何らのチェック無しに受け入れることは危険でもあります。しかし、一方では一つ一つ分析し、判断しては行動が遅れて、折角のチャンスを活かさないことも確かです。本当は、自分を創造主の僕（しもべ）として、宇宙的細胞をはじめとする正常な印象類を行動に移す発現の道具に成りきれれば良いのですが、それには全身がそれら、正常な想念のみに同調するような高次の状態を保つこと、また、そのような高次の想念を引き寄せる体質にまで育てる必要があるということです。まさに、自分にやって来る想念は現在の自分のレベル相応のものである訳で、その現実を先ずは直視する必要があります。

351 If the sense mind pays close attention without self opinions it can differentiate between the two. For one will have a personal tinge to it, while the other remains cosmic, like the shades between the riley water and the clear water. And the sense mind with its free will can choose one or the other. The astronauts will have to learn this in order to differentiate between the wishful thinking of the sense mind and cosmic reality.

351 もし感覚心が利己的な意見を持たず注意深い配慮を払えば、その二つを識別することが出来ます。何故なら丁度濁り水と清水との間に陰影が違うように、一方には個人的な色合いがあるでしょうが、他方は宇宙的なままであるからです。そして感覚心は自由意志を持つ為、そのどちらか一方を選ぶことが出来ます。宇宙飛行士達は感覚心の希望的考えと宇宙的現実とを識別する為、このことを学ぶ必要があるでしょう。

【解説】

宇宙飛行士の神秘体験については、日本でも立花隆氏の著書「宇宙からの帰還」が有名ですが、ジム・アーウィン (James B. Irwin) やエドガー・ミッチェル(Edgar D. Mitchell)等、後に宗教分野に目覚めた宇宙飛行士が多いというのは有名な話です。(ちなみに、ジム・アーウィン氏については、日本における初期の頃からのアダムスキー研究者である根岸邦明氏が「月に別世界の宇宙船がいた！－宇宙飛行士ジム・アーウィンの証言」(朋興社)を出版しています。)

実際に宇宙空間に出ると、人は地上にいる時よりもはるかに強い想念を感受できるのかも知れません。これまでは、この原因として、暗黒の中に美しく輝く地球の姿を見て感動したことや人類が生息する惑星全体が宇宙空間では手に取るように実感できるという体験が影響しているとされて来ました。しかし本文によれば、むしろ宇宙空間に生息する細胞群の諸活動に、その背景があることが分かります。

宇宙空間におけるこれら宇宙的細胞についての形態については本文では述べられておりませんが、それらの発する想念は地上よりも遥かに強くまた高密度でやって来るのだと思います。その中で、宇宙飛行士達は自分の感覚心が発するものと宇宙の源泉から送られて来るものをしっかり識別しなければ、かえって混乱することになりかねないと言っているのです。いずれにせよ、宇宙空間に出るということは、精神面についても大きな変革を受けることは間違いありません。

352 As said before, there will never be a time that the sense mind will not be receiving impressions from cosmic consciousness. As it is the knower and creator it cares for its creation, especially the sense mind through which it can express its totality. And the Law Of Grace is used, giving the sense mind an opportunity to unite with it and become one manifestation. We are given this opportunity through re-birth.

352 以前に申し上げたように、感覚心が宇宙意識から印象を受けていない時は一瞬たりとも無いでしょう。宇宙意識が知る者であり創造主である為に、それはその創造物、とりわけ感覚心については感覚心を通じて宇宙意識の完全性を表現できるが故に加護するのです。そして恩寵の法則が用いられ、感覚心に宇宙意識と一体化した現れになる一つの機会が与えられます。私達は生まれ変わりを通じてこの機会を与えられています。

【解説】

一方、地上に暮らす私達にも宇宙意識は絶えず印象を与え続けています。本文ではそれは宇宙意識が全てを知る者であり、創造主であるが故に自分が創造した者達を加護する為に行われていると解説しています。

私達はこのように無償の恵みを常に受けている訳で、いち早くその贈り物（印象）に気付き、その贈り主と結びつくことが必要です。誰でも、またどのような時でも創造主から直接の支援の声が降り注いでいることに感謝すべきなのです。以前の項（265）の恩寵の法則に関連する解説で紹介しました"Amazing Grace"ですが、その題名の"Amazing"は"驚くべき"という意味ですが、これは"何でそこまでののか、普通では考えられない、驚嘆すべきもの、見事なまでの云々"という語感があります。先ずはそこまでの恩寵があるということに気付きたいものです。

また、本文最後に「私達は生まれ変わりを通じて(through re-birth)この機会を与えられています」とあります。"re-birth"の解釈としては、通常的肉体の死を経て再び新しい肉体に生まれ変わる時を示すとする意見もあるでしょうが、ここではこれら生命の科学の学習を通じて従来の肉体のままでも必要な生まれ変わりが達成できるとする解釈から、精神レベルの変革という意味を指すものとしています。

353 Some may ask, what if there is no improvement over a period of time ! It seems under these conditions the sense mind returns to the original state, but it has lost its identity. The normal cells unite with other cosmic cells and the carnal cells are gradually absorbed by the cosmic ones. There will never be a time, once a man learns the other half of himself that he cannot view the Cosmos at will. For then he will be the cosmic self.

353 ある期間経っても進歩が無い場合はどうなるのかとお尋ねになる人もいるでしょう。それは感覚心がもとの状態に戻りますが、感覚心の自己識別性は失われてしまう状況のように思われます。正常な細胞群が他の宇宙的細胞群と団結し、肉欲的細胞群は徐々に宇宙的細胞群に吸収されて行きます。一旦、人が自分自身のもう半分を学べば、意のままに宇宙を見られないようなことは一時も無いでしょう。何故なら、その時、彼は宇宙自身になっているからです。

【解説】

本項はある意味、私達の大多数がこれから直面する事態を示しています。自我（エゴ）は実は永続しないことを本文では警告しているのです。文中の「ある期間」とはどれほどの長さを示すかは明記されておられません。しかし仮に生まれ変わりがあっても、結論的には同じことなのです。つまり、現在の私達はその「ある期間」のリミットにそろそろ近い可能性があるからです。

その自我の消失について文中では「肉欲的細胞群が宇宙的細胞群に吸収される」と表現されています。つまり、丁度、「食細胞」（別名「マクロファージ」。白血球の一つ。生体内に侵入した細菌やウィルス等を捕食し消化する。）によって不要な存在、人体にとって危害を与える細胞と見なされ、食べられてしまう現象と似ています。このような状況は、一度に起って一夜にして大転換するとは考えにくいと言えます。むしろ徐々に進行すると考えた方が良いでしょう。そうなれば自我の活動は徐々に低下し、意欲は薄れて来ることが想定されます。また、その結果、ますますエゴの発する想念は自己保身の為、終末に向けて荒れたものになる可能性もあります。

これらの状況は、私達のいわゆる老化現象をそのまま表わしているのではないのでしょうか。もちろん人によってこれまでの精神レベルの発達程度に応じて、状況は大きく異なります。つまりは、その人の精進の結果、即ち成果は晩年期により一層顕著になるということでしょう。私達が不幸な事例を学習することはもちろん必要ですが、更に先を目指した学習を進めるべきことは言うまでもありません。

354 The earth and space are of cosmic nature, thus man is not forbidden to view any part, or all, while living here. I am sure the astronauts will have that experience, once they venture into space, providing they are well schooled in receiving impressions. They will have the opportunity to live in two states of life-one the sense mind educated in the world's environment, the other-conscious awareness of living space. They could receive impressions of cosmic space while at the same time their sense minds could be wondering what was transpiring down on earth. They will have a remarkable opportunity to compare earth's knowledge and conscious knowledge. And will be in a position to blend the two into one. For they will be viewing that which cannot be seen with sense sight and that which can be seen with sense sight. And they will know the difference between that which is real and that which is not for the cells of the cosmos will communicate with them through impressions. And the sense mind will transform the information into sound when the astronauts speak to others.

354 地球も宇宙空間ともに宇宙的性質のものであり、人はここに生きている間、その如何なる部分も全体も見ることを禁じられてはおりません。私は宇宙飛行士達がひとたび宇宙に踏み出すや、印象類を感受することを十分訓練されていれば、その体験をするだろうと確信しています。彼らは生命の二つの状況の中で生きるという好機を得ることでしょう。一つは世の中の環境の中で教育されて来た感覚心、もう一つは生きている宇宙空間の意識的気付きです。彼らは宇宙的空間の印象類を受けることができますが、一方では彼らの感覚心は眼下の地球で何が起っているのか知りたいと思うことでしょう。彼らは地球の知識と意識の知識とを比較するという注目すべき好機を得ることになります。そしてこれらの二つを一つに融合する立場に立つことになるでしょう。何故なら、彼らは感覚心では見られないものと感覚心で見られるものを見ることになるからです。そして彼らは真実のものと真実でないものの違いを知ることでしょう。何故なら宇宙の細胞達が印象類を通じて彼らに伝達するからです。そして宇宙飛行士達が他の者に話す時、感覚心はその情報を音声に変換することになります。

【解説】

宇宙空間に出ると、そこは無音、暗黒の空間が広がっているものと思われます。しかし前項（351）でも触れられている通り、宇宙空間からはより鮮明、強力な印象類で満ちているということです。地球の宇宙飛行士達は狭い宇宙船内での忙しい任務の間にも、こうした宇宙空間を眺め、宇宙から来る印象類を多少は感受しているものと思われます。

およそ宇宙飛行士達は皆、明るく、また素直な性格だと感じるのは私だけではないと思います。本来であれば冷静な科学者、技術者が相応しいとされがちですが、それにも増して宇宙や未来に対して希望を持っている姿の方が上回っているように思います。これは実際、地表から宇宙空間に打ち出され、文字通り天空の神の国を実感すれば、その後の人生への大きな転換期になることは間違いありません。

また、地上に戻っても、宇宙を見てしまった者は地上（心）の問題と宇宙（意識）の整然とした秩序との落差に驚くことと思います。本文が書かれた1964年は未だ宇宙開発の黎明期（アポロ1号は1966年2月の打ち上げ）に過ぎませんでした。著者アダムスキー氏自身が、当時既に同様な宇宙体験をしていたことと、宇宙兄弟達の宇宙旅行を見聞した結果、人間の精神発達の面からも如何に宇宙旅行が大切であるかを実感されたのだと考えています。

355 But will the men of the world accept their knowledge when they return? For those who have developed to this stage without being an astronaut are faced with this same doubt.

355 しかし、この世の中の人達は彼らが帰還した時、彼らの知識を受け入れるでしょうか？何故なら宇宙飛行士になることなくこの段階まで発達させて来た者達もこれと同じ疑いに直面するからです。

【解説】

「宇宙意識」という言葉の背景には、全てを知る者が宇宙空間に充満しており、絶えずそこから無数の印象類が宇宙空間の中のあらゆるものに同時に降り注いでいる、あるいはあらゆるものの中に同時に湧き起っているというイメージがあります。肉眼では暗黒で何も無い空間には無数の「細胞」がいて、それらが極めて高度な知性を持っている等ということは、現実の世の中では到底受け入れられるものではないのかも知れません。

しかし、多くの宇宙飛行士達にとって、例えわずかな期間の宇宙滞在であっても各々のその後の人生に大きな影響を与えていること、とりわけ、神や英知の存在を間近に確信したことは重要です。宇宙空間での体験が如何に大きかったかを示すものです。目下の所、宇宙空間で何が起っているのかを正確に地上にいる私達に示せる者はおりませんが、その体験事例が増えるにつれて、探究も深まるものと思われま

宇宙空間にしばし滞在することによって、その悟りを得ることが出来るなら、宇宙旅行代金も高くはないと思う時代も来ることでしょう。

356 Unless man has faith in his fellow-man and the men of experience have the interest of humanity at heart and a desire to have others share their knowledge and experience, people as a whole will not benefit from their knowledge. Not any more than the masses are benefiting from the Space Brothers' knowledge.

356 人が自分の仲間への信頼が無く、体験を有する人達が心中から人類愛に対する関心と自分達の知識と経験を他の者達と分かち合いたいとの願いが無ければ、人々は全体として彼らの知識から恩恵を受けることはないでしょう。宇宙兄弟達の知識から大衆が恩恵を受けることと同じです。

【解説】

この種の仕事は、他人や創造物への受容と信頼が根本になれば到底やって行けません。アダムスキー氏が生前、少人数の集まりの中で、どのような話しをされていたか、残されたテープを聞いて見ますと、出席者のどのような質問にも実に誠実に答えていることが分かります。分からないことはどんなことでも質問するように、"Start asking"（質問を始めて下さい）と言っています。氏の持つ知識は幅広く、参加者がどのような事柄を質問しても、次々に新しい見解が惜しみ無く出されています。

これにはその質問者がその回答を受け入れられる状況であるかどうかを見極めた上で、その人に合った内容で回答しているものと思われます。しかし私達は往々にして自分が知っていること、自分が興味があることを一方的に伝えようとしがちです。これでは相手に内容は伝わりにくいものです。自分の体験を共有し分かち合う為には、先ずはその人に受け入れられることが前提であり、相手の関心も高まっていることが必要です。多少、逆説的になりましたが、各自の体験を分かち合う為には、互いに信頼関係がなければならないということです。

同乗記には宇宙兄弟達は他人に対し、あたかも神に対するように接すると述べられています。その究極は、磔の刑に処せられたイエスの「父よ、彼らをお赦しください。彼らは自分で何をしているのかわからないのです。」の言葉です。慈悲の典型として今なお、伝えられている言葉です。

357 Faith is the most important factor in life, for all men are not out for themselves and many are interested in the betterment of humanity. Each man must believe in someone and he might just as well believe in the ones who are interested in the betterment of his being, especially in the cosmic field. And he should learn to obey his conscious feelings that constantly remind him of his potentials. We have mentioned cosmic cells and carnal cells and that the cosmic ones are the primal force of all creation. And by multiplying they bring forth the secondary cells which are the offsprings of themselves with all the potentials of the original. This is where the two enter, the carnal man and the cosmic man, for the carnal one is the offspring of the original. And from here man begins to multiply his own ideas and by doing so he loses his cosmic identity in his creation of what we call foreign cells.

357 信頼は生命の中で最も重要な要素です。何故なら人は全て自分自身の為だけに動くものではなく、多くは人類の向上に関心を持っているからです。個々の人間は誰かを信じておりますし、その者はまた、自分の存在の向上、とりわけ宇宙的分野に関心を持つ者を信じています。また、その者は常に自身の可能性を思い出させる自分の意識的フィーリングに従うことを学ばねばなりません。私達はこれまで宇宙的細胞群と肉欲的細胞群について述べて来ましたが、宇宙的細胞群は全ての創造の主要な力であることを述べました。そしてそれらが増殖することによって、それらは元の全ての能力を有するそれら自身の子孫である第二段階の細胞群をもたらします。ここが肉欲的人間と宇宙的人間が入り込む場所となります。肉欲的細胞は原始細胞の子孫であるからです。そしてここから人は自分のアイデアを増殖させ始め、そうすることによってここで私達が言うよその細胞なるものを自ら造り出す中で、自らの宇宙的正体を失ってしまうのです。

【解説】

今回は少し細かな話しになりますが、いつも問題になる「faith」という言葉の意味合いについて解説したいと思います。冒頭、「faith」が人生の中で最も大事なことだとアダムスキー氏は述べています。この場合、文脈に沿って読んでいただければ分かることですが、この「faith」なる言葉を従来のように「信念」と訳されてますと、文の意味が通らなくなります。本シリーズではfaithを一貫して「信頼」あるいは「信仰」と訳しています。

これは、通常、「信念」と表現すると何か「自らの意志を強固に維持して、何物にも動じない決意」という意味に受け取られますが、本文から分かるように、「faith」には「何かエゴのレベルでは図り知れない創造主の世界を信頼する」というような意味合いがあることに気付きます。

人間は本来、こうした「faith」を皆、持っており、その根源にあるものが宇宙的細胞であると言っているのです。これは「信仰」と言っても良いものだと思っております。

しかし、エゴが増長するにつれ、自ら造り出す第二段階の細胞群が勝手な暴走を続けることによって、次第に自分の本来の正体を見失ってしまうと言うことで、その場合にはその人には次第に「faith」なるものが失われて行くことが分かります。常に、誠実であり、創造主に謙虚であることが人生の中で一番大切だと言っているのです。

358 This is why people feel a division between themselves and the Creator with a great distance between the two, when in reality there is none. This effect known as the carnal man or ego promotes foreign cells through his aggression and they in time cause his body to be anything but healthy and perfect. Thus many types of diseases are brought about by his many unpleasant expressions as we mentioned before. For as we know, as a man thinketh so is he.

358 これが何故人々が自分自身と創造主とがとても大きな距離、離れていると感じる理由です。しかし、実際にはその距離は無いのです。肉欲的人間、或いはエゴとして知られるこの結果物は、その攻撃性を通じてよそ者細胞群を増殖させ、それらはやがてその肉体に健康でも完全無欠とは程遠い状態をもたらします。こうして、多くの病が以前述べたように、その者の多くの不愉快は表現によってもたらされるのです。何故なら、私達が知っているように人は考える通りの者になるからです。

【解説】

エゴ、肉欲的細胞が独立したいが為に陥った創造主との乖離は、やがて行き詰まり、自らの心身を痛めつけることとなります。しかし多くの場合、そうした生活パターンは習慣化している為、そこから抜け出すことは容易ではありません。生活に疲れた人、ギャンブルに身を投じている人を見ると、皆、爽快さとはかけ離れた表情をしています。各自、生まれついた頃とは大きく異なった人生を歩んでしまったのです。

もちろん、その人各々の事情がある訳ですが、やはり、お金の有り無しに関わらず、生氣ある生き方を全うしたいものです。その為には私達はエゴが勝手に造り出した誤った概念や自分の生き方が、この環境ではやむを得ないのだとする言い訳に耳を貸すべきではありません。ひたすら大自然を観察し、その中に息づいている万物が当然のように従っている宇宙の法則に目を凝らし、耳を傾けなければなりません。そうする中で、自然界の生き物達が、どのようにそれらを把握し、それに従っているかを知ることが大切です。

自然の中では、例え一夏の命であっても、皆精一杯の生命を生きています。何一つ、将来を心配したり、悲しんだりするものは居りません。むしろ、夏の終わりのつかの間の晴れ間に、法師蟬がその鳴き声を謳歌し、周囲の者達に自分のメッセージを無心に伝えています。

私達の生命の科学の学習は決して、病氣治しの為に行うものではありませんが、エゴ全般の動きの実態を学ぶことで自然と体内の細胞が整えられ、結果として健康な生涯を送ることになるということです。

最後に、本文末尾に"as a man thinketh"という一節がありますが、参考までに同名のタイトルの啓蒙書についてご紹介しましょう。

以前(037)にも述べましたが、ジェームズ・アレン (James Allen 1864-1912) に同名の書"As a Man Thinketh"があります。その中に以下の記載があります。

"That circumstances grow out of thought every man knows who has for any length of time practiced self-control and self-purification for he will have noticed that the alteration of his circumstances has been in exact ratio with his altered mental conditions. So true is this that when a man earnestly applies himself to remedy the defects in his character, and makes swift and marked progress, he passes rapidly through a succession of vicissitudes. (略)

Every thought-seed sown or allowed to fall into the mind, and to take root there, produces its own, blossoming sooner or later into act, and bearing its own fruit of opportunity and circumstance. Good thoughts bear good fruit, bad thoughts bad fruit.†

「環境が想念から成長するという事は、自制と自己浄化を多少なりとも実践して来た者は分かります。何故なら自身の環境の変化は自分の変化した心の状態と正確に比例して来たことに気付いているか

らです。ですから、人が心底、自分自身に対して自分の性格の欠点を治し、素早く目に見える進歩を成し遂げるなら、その者は人生の転換をいち早く通過するのは本当です。（略）

心に蒔かれた或いは心に落とされた一つ一つの想念の種は、そこに根を伸ばし、それ自身の花を付け、いずれは行動に移し、それ自身の機会や環境という果実を産みます。良い想念は良い実を、悪い想念は悪い実を産むのです。」（竹島試訳）

359 All that a person has to do is to look at the thoughts expressed by man today to see how foreign they are to cosmic principle. And we know how hard it is for a man to accept cosmic principles, showing the vast difference between the two manifestations. This is why he feels that he needs perfection, for the mild conscious feeling is still present as a perfect manifestation. Even though he became foreign to it he feels that there is perfection some where. And this feeling pulls him towards its accomplishment. But man will never reach this state by taking the highways of least resistance. This has been proven through the ages. Only here and there an individual has traveled on the right path, through self will and not yielding to opposition from the masses.

359 人が為さねばならないことの全ては、今日人間によって表わされた想念類が如何に宇宙的原理に縁遠いかを見ることです。そうすれば私達はそれら2つの現れの間にある途方も無い距離が見える等、人間にとって宇宙的原理を受け入れることが如何に困難であるかが分かります。しかし、これが人が極致を必要とすると感じる理由です。何故なら穏やかな意識の感覚が完全なる現れとしてそこに存在するからです。人がそれに対して無縁な存在であったとしても、人は何処かに極致が存在すると感じているのです。そしてこの感じがその者をして成就に向けて引き寄せます。しかし、人は最小の抵抗の道を通ってはこの状態に到達できません。このことは世代を通して証明されています。わずかにあちこちに個人が自己の意志を貫き、大衆からの反感に屈せず、正しい道を旅しているだけです。

【解説】

この本文の主題となっている"foreign"について考えて見ます。本文では「今日人間によって表わされた想念類が如何に宇宙的原理に縁遠いかを見ることです」とあります。その「縁遠い」に対応するのが"foreign"です。本シリーズでは場合により「よそ者」とも訳しています。"foreign"の持つ語感としては、「異質な」「無関係な」「相容れない」「合わない」「無縁な」があり、「日常親しんでいるもの」"familiar"の反対語です。

その意味する所は、私達人間は如何に宇宙的原理からかけ離れた概念を持ち、宇宙的原理を無視した、自分達だけに通用する制度の下で暮らしているのかに気づけということです。もちろん、極致（完徳）の道を求める者にはより良い世界が存在することを感知できるのですが、それも実際に行おうとすると、訳も分からない目標に向かっての努力はしたくないと心は抵抗し、身体は眠りたがります。しかし、それでも決心して、少しずつ前進すれば自分が確実に進歩の道を歩んでいることが分かる筈です。

先ずは現実を直視し、私達人間たどれくらい宇宙的存在から乖離した生活を送っているかを自覚することから始まるということです。

360 As soon as a man places his foot upon the right path the chemical composition of his cells begin to change towards the goal. The pains and diseases he has had begin to disappear for he is beginning to use his full life force instead of just half of it as he did before. And all the cells of his body begin to take on new life. And the doors of knowledge begin to open wider and wider. And for the first time since he strayed away he will feel the closeness of his Creator.

360 人はその足を正しい道に乗せると直ぐに、自身の細胞群の化学的組成が目的地に向かって変化し始めます。その者が持っていた痛みや病は消えて行きます。何故なら彼は以前のように只半分の生命力を用いることから完全なる生命力を用い始めているからです。そして自身の身体の全ての細胞群は新しい命を身につけ始めるのです。知識の全ての扉がますます広く開き放たれるようになります。そしてその者は自分が道はずれて以来、初めて自分の創造主を身近に感じることでしょう。

【解説】

前項（359）では意志を強く持って、時代の潮流に流されることなく、自ら信じる道を進むことが大事だと述べられていました。ここで、現在、自分が歩んでいる道が正しいか、あるいはそこまで突き詰めないにしても、妥当なものかどうか、時折確かめる必要もあるでしょう。

そこで役立つのが、「心身ともに調子が良くなって来た」かどうかということです。それは正しい想念を発していればそれは体内の諸活動に反映する訳ですから、その通りと言えます。しかし、そのように単に「体調が良くなった」「気分が爽快になった」とするだけで、自分が歩んでいる道が正しいと断言するには、不十分な気がします。それらは当然の副次的効果であり、より重要なのは「創造主を身近に感じられるようになる」ことです。各自の中で創造主と親密な関係が出来ることが最も望ましいと思っております。

361 Remember that each one of us is but a single cell in Cosmic Consciousness and once we become united with this consciousness there will be no limits to the knowledge that we can have. This is what the Brothers are striving for and they are well on the way. They too had to struggle to get started and we have hardly started. But with determination, and using the knowledge they have given to us in the recent years we have the opportunity to travel right behind them. It is up to the individual, what he wants and how well he will use the knowledge at hand.

361 私達一人ひとり宇宙意識の中の一つの細胞に過ぎず、ひとたび私達がこの意識と一体になれば、私達が持つ知識に限りはないことを覚えていて下さい。これは宇宙兄弟達が努力して目指して来たことであり、彼らはその道筋をしっかりと歩んでいます。彼らもまた、始動には苦闘も必要でしたが、一方の私達は開始すらしていません。しかし、心を決め、彼らが近年私達に授けてくれたこの知識を用いることで、私達には彼らの後について正しい旅をする機会が出来ました。自分が何を望み、如何に手元にあるその知識を用いるかは、個人に委ねられています。

【解説】

多くの哲学、宗教には共通する要素があるように思います。個我の横暴を戒め、人間を超えた全能の英知の存在を尊ぶということです。心を落ち着かせ、全能の英知に関心を寄せる為、仏教における座禅や沈想、キリスト教における祈りもその一例です。確かに各宗教は歴代指導者の著作もあり、学ぶ教材も多いのですが、何分、教祖の時代から年月が経ち過ぎており、その間の解釈が加わって、今日ではそれらの中から本質を掴むのが難しくなっています。

しかし、この生命の科学は実際に宇宙兄弟達が応用し、生活に取り入れている内容を盛り込んでいるとされています。宇宙兄弟達から与えられた直接の教材、テキストとして改めて味わう必要があります。特にその内容が優れているのは、目には見えませんが、想念レベルの活動が直接、肉体細胞に作用すること、細胞群の中にエゴに従う細胞群が増殖してしまうこと、また一方では前節(360)に記されているように、心が改善されるにつれ、体内で化学変化が起きる等、科学的な解説が加えられていることです。私達がこの講座から多くの事柄を学び取って欲しいというのが宇宙兄弟達の願いでもあるのです。

362 There is nothing in the Cosmos that we cannot be a part of or know something about.

362 宇宙には私達がその一部になれないものや、それについて知ることが出来ないものは何もありません。

【解説】

「分かりあえる」「相手の気持が分かる」等、いわゆる「一体感」は意識レベルの融合が前提となります。前項（361）を受けて、「宇宙意識」に融合出来れば、あらゆるものと一体化することが出来、際限の無い知識が湧き上がって来るとしています。

私達が通常、「心を許している」親しい者には、相手が遠く離れた場所に居ても、相手の状況を感じることが出来るでしょうし、何気ない日常行動もタイムリーであったりすることはよくあるものです。これらは時にテレパシーと呼ばれるものですが、「生命の科学」学習コースでは第9課の終わりになってから、この種の記載がされるようになっていきます。私なりの解釈としては、いはゆる各自の能力開発分やはやもすると技術・技能面に力点が置かれ易く、表面上の能力獲得に目が行き易い為、十分、心と意識、肉体と心と意識の関係を学んだシリーズ後半になって訓練するよう配慮されたものと考えています。

誰でもこのような能力を身に付けたいと思うでしょうが、同時に自分の精神レベルを高めなければかえって不愉快な経験が増えるだけです。自らの包容力を高めなければ他人の欠点、社会の問題だけがいわば自分に同調する形で反映すると思うからです。清濁併せて、ありのままを先ずは受け入れることからスタートする訳で、それを受け入れられる包容力が先ずは必要であるように思われます。

363 In lesson ten I will try to illustrate how you can become aware of the things in the cosmic house. And that is the reason I explained entity worship at the beginning of this lesson. Which involves the present uninformed phases of psychism and the true meaning in relation to oneself. So that when the tenth lesson is given you will know the difference in your experiences. And know how to proceed without being involved in mystery, such as present psychics experience.

363 第10課では貴方がどのようにして宇宙の家の中の物達に気付くことが出来るようになるか説明しようと思います。またそれは、この教科（訳注：第10課）の始めに宇宙の実態の演習を説明した理由でもあります。それは今日の知識の無い神秘主義の段階と自分自身に関連した真の意味との両方を含むものです。ですから、第10課が与えられれば、貴方は自分の体験の中の違いを知ることになるでしょう。そして今日の心霊的体験のような神秘に巻き添えになることなく、どのようにして前進して行くかを知ることになるのです。

【解説】

次の課（第10課）以降は、存在するあらゆるものを知るといことはどのような作用なのか等々、具体的な応用に入るものと思われます。

宇宙兄弟達は容易に相手の想念を読み取ることは「同乗記」をはじめ、様々な所で述べられている通りです。彼らはそれを極く自然の生命体の能力として取扱っており、その原理も十分理解されています。私達も訓練によって、これと同様の能力を身につけられることでしょう。その為には、これらの動作原理を基本から学んで、自らを教材としてこれら教科が意図する要点を自分で学び取る必要があります。

自らの体内で日々起っている活動の影響は自分が最もよく分かります。心の反応とその言い分を冷静に観察しながら、自ら行動を通じた積極的体験を経て、これまで自分を支配して来た心の実態を明らかにする必要もあります。こうした心の課題を少しずつ解決し、一步一步、宇宙意識の本体に近付くことが出来れば、各自にとって創造主はより身近になり、これら創造主からのメッセージも受け取りやすくなるものと思われます。（第9課終わり）

364 In lesson Nine I told you that I was going to illustrate how one can travel consciously to any part of Cosmic Space and learn what is there. And yet not employ any mysticism that is so well known in this world, or give oneself over to some mystical guide that we hear of people doing in the mystic circles. No person dead or alive has a right to enslave you for his or her purpose. The only one you have a right to acknowledge and will yourself to work with is the other half of yourself which is the image and likeness of the Creator or God.

生命の科学—学習コース

第10課

意識による旅行

ジョージ アダムスキー 著

364 第9課では私はどのようにして宇宙の如何なる部分にも意識的に旅行出来るようになるか、そしてそこにある物を学ぶことが出来るようになるかを解説しようとして述べました。しかし、それはこの分野で良く知られているような如何なる神秘主義も導入するものでなく、人々が神秘主義グループで行われるような心霊ガイドに自分自身を委ねることも行いません。如何なる者も、それが死者であれ生者であれ、その者の目的に貴方を奴隷にする権利など無いのです。只一つ、貴方は悟りを得て創造主、言い替えば神の似姿である貴方自身のもう一つの半身とともに自分自身を精進させる権利があるのです。

【解説】

今課の題名は「意識による旅行」となっており、言わば居ながらにして、宇宙空間を旅する為の具体的な訓練が教示されるものと思われます。その教科の開始に当って、著者アダムスキー氏は本項を記しているのです。

即ち、私達が従来、超能力をあがめて行っていた降霊会や、通常レベル以上に能力を備えた人物を祭り上げた上で、その指導に従うようなことは、完全な誤りであり、そのような方法では自らの本来の能力を高めることは出来ないことを明言しています。

それに代わって、自身の中にある創造主の似姿である半身こそ頼りにせよと言っているのです。言い替えば、何も外に教師やアドバイスを求める必要はなく、自らの内側に宿る自身の半身と対話し、協働すれば、その道を自ずと歩むことになるということです。外はどのような環境になろうとも、自分自身の内側は常に暖かく、平穏が続いている。そのような状態を造り上げることから、始まるということです。

365 The Great Book states, "Have no false gods before Me." For the likeness and image is pure consciousness which is identical with the Cosmic One. It is the One that created the body and the sense mind. And the sense mind must make an effort to find its parent if it is going to fulfill the purpose for which it was created, or have life eternal as the parent does. For this is the only way that man can get back to the household of the eternal state and become one with it. Then and then only will he feel unity with all life and not the separation that he does today. The feeling of distance between himself and that which is eternal will vanish.

聖書は「わたくしをおいて偽りの神があってはならない」と述べています。何故なら似姿や像というものは宇宙的存在と同一の純粋な意識であるからです。それは、この肉体や感覚心を造り上げた存在なのです。ですから感覚心は創造された目的、あるいはその両親と同様に永遠の生命を得る目的を成就する為にはその両親を探そうとする努力をしなければなりません。何故なら、このことが人が永遠に続く家庭に戻り、それと一体になる為に戻れる唯一の道だからです。そうすれば時として、人は全生命との一体感を感じ、今日までの疎外感を感じなくなるでしょう。自分と永遠なるものとの間の距離感は消えるのです。

【解説】

旧約聖書の出エジプト記20章3節にある「あなたは、わたくしをおいてほかに神があってはならない」とはエジプト出発の後、モーセがシナイ山中で神から授かった十戒の最初の項目です。「主」と呼ぶ神から直接申し渡され、10の戒律が石板に刻み込まれる様子は、映画の有名なシーンです。当時のエジプトには多くの神が設定されており、ユダヤの民に対しては、唯一、このように命令する私だけを神とするよう命じたものと思われます。ちなみに続く第2の戒律は「あなたは自分の為に刻んだ像を造ってはならない」となっています。

これに対して、本文では似姿は本来、宇宙的意識そのものに等しいものであるべきで、両親の元に帰るきっかけに繋がる大事なものであるとしています。つまり、人間本来の源泉への帰還を目指す意味合いから、優れた像を見るのは、効果があるものと考えます。多くの仏像やマリア像に惹かれるのは、その人がそのような高貴な存在を願い求めているからであり、その思いを強くすれば、やがてはその存在に気付く時も来ると思われます。自然界に普遍に存在する宇宙的意識に日常的に気付くことが出来れば、進化の王道を歩んでいることになります。

同乗記には若い創造主を描いた絵が掲げられていたと記されています。「像を造ってはならない」とは旧約聖書の言葉ではありますが、それは当時の状況においてのことで、優れた人物像を拝することは、むしろ大切なことだと考えています。

366 As you have already learned in previous lessons, there is a constant chemical change going on, and the identity of one stage is absorbed by the identity of the next stage. So if one is to retain his individual identity through eternity he must lend himself constantly to the changes that are taking place. For personal ego has no place in the cosmic plan but individual identity has. For the individuals make up the cosmos. And by the personal ego allowing itself to be absorbed by the individual, which is sometimes referred to as saving oneself and earning eternal life, it becomes like the drop of water that allowed itself to be absorbed by the ocean of water. It becomes the ocean of water yet it retains its individual identity through its molecular structure. Referring again to the jigsaw puzzle, the piece that could be called personal has now been placed among others that eventually will make the picture. Thereby it loses its personal feeling of separation and takes on the feeling of the whole picture yet an individual part of it.

366 以前の教課で既に学んで来たように、絶えまない化学変化が起っており、一つの段階の正体は次の段階の正体に吸収されて行きます。ですからもし自分の個としての正体を永遠の中で保持したいとするなら、自らを生じている諸変化に委ねなければなりません。何故なら各自のエゴは宇宙の計画の中に占める場所無く、各自の正体だけが場所を有しています。個々が宇宙を造り上げているからです。そして個人のエゴ自身をその個体に吸収させることを許すこと、時に自分を助けだして永遠の命を得ると呼ばれることを行うことで、自身を大洋に吸収させることを許した一滴の水のようになります。それは大洋になりますが、引き続きその分子構造からその個人の正体を保持しています。再びジグソーパズルを引用すれば、個人と呼ばれる一片は今や最終的に絵画を作り上げる他のものの中に配置されています。こうして個人の疎外感を失う代わりに個人はその一部を保持したまま全体の絵画の感じを抱くようになります。

【解説】

昨今の世の中の急激な動きに言及するまでもなく、私達は目まぐるしい変化の中に生きています。この流れは想念の流れに似て、留まる所を知りません。その流れ、時代の奔流に乗らなければ年老いて行くことに間違いはありません。宇宙自体は、地球が毎秒約³⁰キロメートルの速さで天空を航行しているように、全てが流転しているということです。

その中で、孤立し変化に対応できないのが人間のエゴだということでしょう。私達はエゴという狭い殻をいち早く脱ぎ去って大きく変化と遂げている宇宙の流れに従うことが大切です。その為には損得や身の安全ばかりに気を取られるエゴを捨てて、目の前の目に見えない大きな潮流に飛び込む勇気が必要です。宇宙の本質の為にはどのようなものも捨て去る覚悟が求められているということでしょう。

367 You as an individual are a unit of many experiences, even in this life. As an individual you have gone through billions of chemical changes with each absorbing the previous one. So the cosmic identity of you, the individual, has been constant with no divisions. Each succeeding stage of your life was the embodiment of previous stages from the time of your birth to the present day. Every pulse of your being from the day of your conception on into a form have been recorded in the Cosmic Records. No pulse or act was left out. Your form may have a record of from 20 to 90 years in your present earthly life, but in eternity it is less than a thousandth part of a second. Yet you figure the seconds in the earthly time of age and every second some form of newness has taken place. And every second absorbing the previous second by the individual that brought you to this stage of life. But the sense mind does not figure this way. But when it does become one with the consciousness it will be able to review all of the changes that have taken place during its years of life. Yet not for one moment did the individual lose his identity. But the sense mind or personality has been lost many times through its lack of awareness of what it is. The personality changes many times during a life time even to the degree that pictures taken at different ages show very little resemblance to the way one looks now. While the individual consciousness remains the same.

367 一個人としての貴方は、この生涯にあっても多くの経験からなる一単位です。一個人としては貴方は各々がそれ以前のを吸収し、何十億回もの化学変化を遂げています。ですから、貴方の宇宙的正体には分断はありません。貴方の生涯の各々の継続するステージは貴方の誕生から今日に至るまで以前のステージの具体化であったのです。貴方が形有るものとなった受胎の日から一つ一つの鼓動は全て宇宙の記録の中に記載されています。いかなる鼓動或いは行為も漏れることはありません。貴方の形は現在の地球上の生涯の中で20から90年の記録を持っているでしょうが、永遠の中にあっては1秒の1000分の1よりも短いものです。それでも貴方は地球上の時間である秒数を数えており、その秒毎に何らかの新しいことが起っています。また秒毎にそれ以前の秒間がその個人により吸収され、貴方を今日のステージにもたすのです。しかし、感覚心はこのようには描きません。それでも感覚心が意識と一つになる時、それは生涯の間に起ったすべての変化を読み返すことが出来るようになります。それでも一瞬たりとも個人が自分の正体を見失うことはありません。自分が何であるかの知覚が不足している為に、感覚心、或いは人格（訳注：パーソナリティ）は何度も失われるのです。異なる年代で撮られた写真が、今見るのと少しも似ていないように見えるほど、生涯の間には何度となく変化します。一方、個人の意識は同じまま留まります。

【解説】

人間は様々な体験を経て生長すると言えます。その体験の記憶はやがて本人の潜在能力を醸造するものと思われて来ましたが、本項ではその体験は体内に化学変化を起こしていると解説しています。次々に体験によって人体は変化し造り変えられていると言った方が良いでしょう。そうする中で私達のエゴは拠り所を持たないが故に、浮遊し時々の結果に振り回されて変化すると本文に明記されています。その結果、私達はこの生涯の中でも人格は大きく変わり得ると忠告しているのです。

人間、生まれた以降、充実した人生を送るか、そうでないかは本人が決めるということです。日々、精進の末には活気ある人生が待っているでしょうし、感覚心に振り回される毎日を送っていれば、早晚、老化衰弱の一途を辿るばかりです。また年月の内には自分で自分を改造することも出来るということです。各自、この生涯を終える時、命を与えてくれた創造主に感謝して、この世を去ることが出来るよう、毎日を充実させることが必要です。

368 The effect mind which is the personality, usually follows the law of least resistance and allows itself to be molded into the environment of the word's society. This is why man feels strange to man, even though he is molded into the same type of society. And it is because the ego or sense mind is a stranger to the Cosmic Principle and itself caused through the divisions between individual identity and the ego. The individual acknowledges everything in unison whether visible or invisible to the sense mind, while the sense mind acknowledges only that which it calls concrete form. Yet when questioned the mind admits that there is something behind the concrete manifestations. But it does not like to go on record that there is for fear of what a neighbor or society might think of him. This shows that the individual's identity tried to alert the mind but the mind fears not to go along with society's pattern.

368 結果である心は人格でもありますが、いつもは最小の抵抗の法則に従い、自身を世の中の環境の中に鑄込まれることをやむなしとしています。これが人が自分が同じタイプの社会に鑄込まれているにも関わらず、人に対して見慣れない感じを受ける理由です。そしてそれが、エゴ、即ち感覚心が宇宙原理に対してよそものであり、そのことが個人の正体とエゴの間の諸分裂をもたらしたのです。個人は感覚心に見えているか見えていないかに関わらず全てを調和していることを認知しますが、感覚心は具体的な形有るものを要求するもののみを認知します。しかも尋ねられると、心は有形の創造の現れの背後に何かがあることを認めます。しかし、心は存在する記録には進んで行きたくありません。何故なら隣人や或いは社会が彼をどのように考えるかを心配するからです。これは個人の正体は心に注意を喚起しようとしませんが、心は社会のパターンを手に進むことを恐れていることを示しています。

【解説】

多少余談になりますが、先日、紅葉を見に山に出かけました。山に行くといつも思うことは、山道を行き交う人は皆、自然と挨拶をすることです。また、山小屋や途中の休憩所では不思議と見ず知らずの相手でも会話が弾むものです。もちろん、この背景には自分が先程、体験したことを相手に伝え、危険を避ける場合もあるでしょうし、相手に教えてもらいたいこともあるでしょう。今回の山行きも互いに名前は知りませんでした。双方の経験談を披露する等、楽しい一時を過ごしました。

しかし、このような状況は大自然の中の話で、都会ではまずはありません。その理由の一つに山の場合は、自然環境の雄大さの前に各自の自我が小さくなり、互いに心の垣根が消えることがあるように思います。本文にある「見慣れない感じ」(strange)と対極を為すのが、この親密感であり、どのような存在に対しても相手を心底、尊重し信頼する感じが大切だということです。

369 There are very few people in the world that are individualists. And those who are oftimes have a hard time because they do not go along with society and are considered non-conformists. History shows that all great souls in this world were non-conformists for they were individual and endowed with the deeper meaning of life.

369 世の中には自立主義者は極めて少数しか居りません。そして彼らは社会とうまくやっていない為にしばしば困難に直面し、非協力者と見なされて来ました。歴史はこの世の中の全ての偉大な魂は非協力者でした。彼らは独立した個人であり、彼らには生命のより深い意味が授けられていたからです。

【解説】

最古の仏教経典とされる「スッタニパータ」の中に「犀（サイ）の角（ツノ）」という表現が多数記述されています。「仲間の中におれば、休むにも、立つにも、旅するにも、つねにひとに呼びかけられる。他人に従属しない独立自由をめざして、犀の角のようにただ独り歩め」。「究極の真理への到達するために精励努力し、心ひるむことなく、行い、怠ることなく、足取り堅固に、体力、智力を身につけて、犀の角の如く、ただ独り歩め」等々の記述があります。

その意味するところは、周囲からどのようなことを言われようと、また社会の支持が得られなくても、独り誰にも頼らずに自分の目指した精進の道をまっすぐ進む覚悟を示しています。多くの芸術家や科学者も、その取組みがこれまでに無い新しいレベルの場合、他人の評価は低いものです。本人が地上を去った後に、その成果が発掘されるケースが多いのが多いようです。

本文では、同様な趣旨で社会や環境への順応者 (conformists) に対して individualists (自立主義者) が果たす役割が大きいことを述べています。創造主や意識、想念等、目に見えない対象を扱う生命の科学の学習分野では、結果物を示す訳にはいかない為、一般の人に理解してもらうことは容易ではありません。また、その他、神秘主義者と誤解されてしまうかも知れません。しかし、そのような他人の評価等、意味のないことです。とにかく、真理に到達し成果を見せられる段階に至るまでは、ひたすら自らの道をまっすぐ進む必要があるということです。

370 Before we proceed with the lesson promised I want everyone to recall that the so-called material world is an effect of the so-called spiritual or invisible side of life. Like an idea that is invisible to those around you until you explain it in words or create the idea into a form for them to see. So it is with all that we know - the invisible supporter of that which is visible. Just recently scientists have learned the process of how to draw upon invisible space for certain materials, as today there are more elements known than there were a few years back. And there are now several precious metals that are too costly to produce on a large scale at this time. But the substance for them was taken out of space, which is invisible. This is a proof that out of the invisible comes the visible and back to invisible. And over and over the process goes on. This should give us support for our next step in viewing and traveling in the Cosmos without the mystical application. But with an extension of our sense mind into the conscious sea of life.

370 お約束した教科に進む前に、私は皆さんにいわゆる物質世界は生命の内、いわゆる精神的ないし目に見えない側の結果の一つであることを思い出して欲しいのです。それは貴方がそれを言葉で説明したり、見える形に造り上げない限り、貴方の回りの人々にとって貴方のアイデアが見えないのと同様です。それは私達が知っている全てについても同様です。目に見えるものに対する目に見えない支持者の存在です。丁度最近、科学者達はある物質について目に見えない空間から引き寄せる手法を学び取りました。数年前より、多くの元素が発見されているからです。そして今や、現時点では大きな規模では造り出すのにあまりにも費用がかかる数種の貴重金属が存在します。しかし、それらの物質は目に見えない宇宙から取り出されました。これは目に見えない所から目に見えるものが出現し、再び目に見えない世界に帰って行く証でもあります。そして何度も何度もその過程は継続します。このことは私達に、次の段階として神秘的な応用でなく、宇宙を眺め、旅する際の支持を与えるものです。しかし、それは私達の感覚心を生命の意識の海にまで広げることが前提です。

【解説】

目に見えない空間から、具体的な物質が出現することは、常識的には理解できないとするのはある意味当然ではあります。しかし、一歩進めて、素粒子の世界になると、分からないことも多くあるようです。即ち10のマイナス8剰センチの大きさの原子を構成する10のマイナス13剰センチの原子核、更にその原子核を構成する10のマイナス16剰センチの素粒子（クォーク）等、物質の究極の素性になると、正体はあいまいになるように思います。

本項で言う、「目に見えない空間から物質が出て来る」という表現も、実は素粒子物理学の観点から見ると、納得できる要素を含んでいるものと思っています。

問題なのは、その素粒子を含む物質の挙動が、精神的 (spiritual) なものに関係しているということでしょう。精神の作用がこれら目に見えない微細は世界に対しては、より直接的に影響を及ぼし、やがては目に見える形となって私達の目の前に出現するということです。

371 And what would be the extension of our mind? A desire for knowledge must be the foundation. I will use a mechanical device as an example. In the early days of astronomy a small optical instrument was constructed to look into space towards the stars. It was a sort of extension of sight through a mechanical device to see and learn more about what was seen as a light. And to try and tell if it was solid, and if so what was on it. As the Moon was the closest large object, it was the first to be observed and mountains and craters were seen on it. The physical sight could not see these, so we could say that this was a mechanical eye which helped to extend knowledge, all because there was a desire to know. For something within man has always told him that there was more to life than this earth. As time passed, progress has been made in an extended view through the instruments. And today the 200 inch telescope on Palomar Mountain is bringing knowledge to man of bodies previously unknown, existing in invisible space. And this is just a beginning for electronic instruments will reveal much more. This is also true through a microscope.

371 そして私達の心の拡張とはどのようなことでしょうか？ 知識に対する願望がその基礎であるに違いありません。一例として機械装置を取り上げようと思います。天文学の初期の頃は、小さな光学装置が星々に向けて宇宙を覗き込む為に組立られました。それは光体として見られたものについてより大きく見て学ぶ為の機械装置を通じてのある種の視覚の拡張であったのです。また、それが固体であるかどうか、またそうであればその上に何かあるのかについて調べて知らせる為でありました。月は最も近い天体であった為、最初に観測され、月面に山脈やクレーターが観測されました。肉体の視覚はこれを見ることは出来ませんので、私達はこれを知識を広げるのに役立つ機械的な目と表現することが出来ますし、これら全ては知りたいとする願望があったから出来たことなのです。何故なら人間の内部の何かは常にこの地球以外に生命について更に何かがあると語りかけて来たからです。時が経つにつれ、装置により視界を拡張する為の進歩が為されました。そして今日では、パロマー山の200インチ天体望遠鏡は目に見えない宇宙空間に存在する以前に知られていなかった天体を人類にもたらしめています。これは単なる始まりでしかありません。電子装置は更に多くのものをもたらすことになるからです。これはまた、顕微鏡についても同様に真実です。

【解説】

本課の主題である意識による旅行を実現させるには、私達は心を拡張させる必要があるということなのです。即ち、肉眼では見えない世界があることは、天体望遠鏡で夜空を観察すれば実感できますし、高倍率の顕微鏡下ではミクロの世界の動きを眺めることが出来ます。これらは、そうした世界を覗きたい、その世界を知りたいとする人間本来の願望が元となって各々の装置が開発されたことに他なりません。これらは本文に明記されているように機械的な装置によって得た私達の視覚の拡張と言えるものです。

しかし、それ以上にパワフルで宇宙の隅々にまで移動できるのが宇宙意識に乗るということでしょうか。これらは極く自然の機能として、人間以外の他の生物達は常時、行っているのかも知れません。季節の訪れを知り、何千キロも離れた土地を目指して群れが移動する渡り鳥等、身の回りには生き物達の超能力が多く見られます。まして最高位の創造物である人間としては、更に宇宙空間を把握する能力を備えているに違いありません。その原動力として、本文のはじめに書かれている生命に関する知識への願望が重要だと言っているのです。

なお、本文最後に電子装置によって更に高倍率の望遠鏡や顕微鏡が出来ることをアダムスキー氏は指摘していますが、それは現在、ハッブル宇宙望遠鏡や偵察衛星に應用されているデジタルカメラのシステムや電子顕微鏡等の実用化を1960年代に指摘していたことに注意したいところです。

372 Could this have all taken place had it not have been for the consciousness of man as his senses were concerned only with themselves? But this consciousness, the invisible part of man, urges the factual man to explore more and more into the cause of form life. As the factual or sense man had disassociated himself from his Cause counterpart the instruments were necessary to bring the invisible back into focus that he might realize that he is only a speck in the Cosmos, but an important one. That his duty is to know about that which is in the Cosmos. And since the consciousness urged the mind to venture into space with instruments man continues to get more and more knowledge about space which has never been known before in this civilization.

372 自分の感覚が自分自身のみに向けられている等、もし人間の意識が作用していなかったとしたら、これらはすべて起っていたでしょうか？ところがこの意識という存在、人間の内の目に見えない部分が現実主義者を形有る生命の因の中、奥深くに探検せよと促しているのです。現実主義者、あるいは感覚人は自分自身を自らの因の相手役から切り離してしまった為、自分が大宇宙の中のしみでしか無く、しかし重要な一つであることを理解するよう目に見えない背景を鮮明にする為に装置が必要になったのです。人間の義務は大宇宙の中に何があるかを知ることです。また意識は装置を携えて心に宇宙を冒険しに出ていくよう促した為、人は宇宙についてより多くの知識を得続けていますが、このことはこの文明以前には無かったことです。

【解説】

感覚心の特徴は、自分自身の表面的な姿を最重要課題としています。それが証拠に、男女や年齢と問わず、鏡の前で髪の毛を整える等の動作は、皆真剣な面持ちで、端から見ると、その異常さにおかしくなる程です。その為、私は以前、敢えて努めて鏡で自分の顔を見ようとはしないようにした時もありました。これは、仏教で丸坊主にするのも、それらの執着を取り除く意味があるものと思われます。それ程に、各自の感覚心は自分の内面の精神レベルよりは、外見を重要視しているのです。

しかし、ひとたび、自分の周囲を見渡して見れば、私達は本来、実に美しい環境の下に生きていることが分かります。先日、写真を撮りに尾瀬を旅する機会を得ましたが、尾瀬ヶ原や尾瀬沼等、自然環境がそのまま守られている地域には、驚くべき程の清純な水と空気、緑があり、多くの生き物を見ることが出来ました。おそらく、人間による汚染や収奪が行われなくなれば、自然は驚く程の美しさでこの地球を復元することでしょう。更に優れたことは、人間の活動から隔離された自然では全てが美しい姿を見せるということです。言い換えれば、宇宙の意識そのままの力が発揮できている場所は光景も美しいということです。

与えられたありのままの姿は、植物や動物、また各々の種によって異なりますし、その時期（ライフステージ）によって、つぼみの時期も枯れる時期もありますが、それぞれに趣きがあることも確かです。また、自然の中では季節に応じて目まぐるしい程の変化が起っており、同じ場所でも一ヶ月でその内容は大きく異なります。これら生命の息吹きを如何に感じるか、それらが遠い宇宙と実は密接に繋がっているということを如何に理解するかが大事だと思っています。自宅に帰って尾瀬で撮影した写真を見ながら、その時、見た光景を固定し再現できるデジタルカメラの威力を改めて評価した次第です。

373 This shows that consciousness does not misguide the human mind if it is allowed to guide it, and impressions are received and accepted without modification to suit itself. For this is the only way that consciousness can prove to the mind that its impressions are correct.

373 このことは意識はそれが人間の心を導くことを是認され、印象が人間の心に合うように修正されずに受信され、受け入れられるならば、人間の心を誤った道に導くことがないことを示しています。何故なら、これは意識が心にその印象が正しいことを証明する唯一の道だからです。

【解説】

常に救いの手、導きの声は私達各自に向けられています。この慈悲深い神の御手、御声にこそ私達は絶大な信頼を置き、各自の導き手として頼りにする必要があります。

一方、おごり高ぶる私達のエゴは時々これら救いの手さえも騙そうとしています。自分の都合の良い方向に印象をねじ曲げますが、その結果は当然ながら成就せず、後から悔やむケースも多いものです。

意識からやって来る印象を素直に受け入れ、それに基づいて行動することが大事であり、そういう意味からも「みどり子」のごとく、やって来る印象に対して素直に対処したいものです。その為には、私達の日常生活も静かなもの、素直なものでなければなりません。様々な場面で、目に見えない存在から与えられる印象類に鋭敏であらねばなりません。疑いを挟むことなく、誠実に生きることが基本です。

374 But there will never be an instrument made that will reveal all of the Cosmos to man. Consciousness coupled with man's mind is the only way that man will learn about the cosmic whole. For now the instruments that have been used should cause the mind to have confidence, faith and trust in conscious guidance. The mind should have learned through past observations and experiences that that which at one time seemed nonexistent became a reality. For anything that is revealed by conscious impressions is in existence some where. So now the mind should be willing to be guided by consciousness instead of itself as in the past. And accept the things given by Cosmic Consciousness as a reality. For this is the only way that the sense mind can find its other half and become a part of the whole of the Cosmos. Jesus said, blessed are those who do not see yet believe. For the physical eyes cannot see the distances of the Cosmos, but the conscious eyes can.

374 しかし、大宇宙の全てを人間に明らかにする装置は作られることはないでしょう。人間の心と対になった意識だけが唯一、人間が宇宙全体を学ぶ方法なのです。今やこれまで用いられて来た諸装置は心に自信や意識の導きに対する信仰や信頼を持たせている筈です。心は過去の観察や体験を通じて一時期存在しないように見えたものが、現実のものとなることを学んで来た筈です。何故なら意識の印象によって明かされるものは何処かに存在するからです。ですから、今や心はこれまでの自分自信による代わりに意識に喜んで導かれるべきなのです。そして宇宙意識から与えられた物事を現実のものとして受け入れることです。何故ならこれが感覚心がもう一つの自分を見つけ、宇宙全体の一部になる唯一の方法だからです。イエスは言いました、見ないで信じる者は幸いであると。肉体の目は大宇宙の膨大は広がりを見ることは出来ませんが、意識の目はそれが出来るからです。

【解説】

本文から分かることは真の印象とは宇宙の何処かに存在するものに繋がっているということです。以前からも祈る場合にあたかも既に実現しているかのように思えと言われて来ましたが、それには、その印象が繋がっている相手が例え、莫大な距離離れているかも知れないにせよ、その存在を意識せよと言っていたのだと思います。また、各自の発する想念についても、発する間もなく何処かで現実化し始めるということもあり得るということでしょう。

以前どこかで、世紀の大発見というものは実は同時に世界の複数箇所で起っているという話を聞いたことがあります。これは様々な社会情勢や科学の発達状況も背景にはあるかと思いますが、重要な印象は実は多くの人が同時期に感受しているということだと考えています。なお、詳細は不明ですが、ジェルドレイクの形態形成場の仮説（生物の同一種が同じ形態になるのは、形態形成場に時空を超えた共鳴現象が起きるとする説）というものもあるようです。（<http://www.kousakusha.co.jp/DTL/newscience.html>）

また、やって来る印象の出所は高尚なものから低俗なものまで様々でしょうから、ややもすると私達は自分の心のレベルに合ったものだけを、わざわざ選局して同調している可能性もあります。自己の受信器の周波数レベルを上げなければ、到底高次な印象は感受できないということでしょう。

宇宙に遍満する創造主の導きを信頼し、自分をそれら不可視の印象に門戸を開き、少しずつ美しい体験を経る中で、真の宇宙の美しさとその中に祝福された創造物の一つとしての自身を発見することが求められています。

375 Let us now do with our sense mind what we did with the instrument thus allowing it to see that which has heretofore been invisible, replacing the instrument with consciousness. And as we believed that which we saw through the telescope let us do the same just as firmly with consciousness.

375 私達がこれまで見えなかったものがその装置を用いて感覚心が見えるようにしたように、今度は感覚心に対してその装置を意識に置き換えましょう。そして私達が望遠鏡を通して見たものを信じたように、意識によって見たものについてしっかり同じようにすることです。

【解説】

私事ながら、このところの心配事から、朝何気なく玄関を出て早朝北側の空を眺めました。すっかり明るくなっている大空を見渡すと、西の空に白いまあるい月が静かに私を見守っていました。その何と優しいこと。目のせいで普段はぼやけて見える筈が、くっきり月の模様まで見えていました。人を見守るということはこういうことだと改めて思った次第です。

さて、先日もお話したかと思いますが、先々週、尾瀬を訪ねた際、夜明け前の朝4時頃、山小屋の外に出て見ると、空は満天の星でした。各々の星座がはっきり見えるほど、一つ一つの星が大きく輝いています。まるでダイヤモンドの粒のよう。これら豪華な天体が私達の真上にいつも飾られていることに、私達は気がつくべきなのです。気付かず、過ごしてしまうのはもったいないことです。

本項では各自に無償で与えられ、無尽蔵の力を有している意識を日常的に活用するよう努力し始めなさいと言っています。創造主から各自に与えられた贈り物（意識）を大事にし、日常的に活用することで世界（宇宙）が広まって行くことを示しています。

376 Do not try to see too much at one time. Use the same method as with the instrument by extending your mind into consciousness little by little. Do not force it, let it be natural. For if we get into the eternal sea of life there is plenty of time. It is much better to have a slow growth than to try and grow fast and miss something that could cause confusion later. Let patience be your foundation and the extension of our mind into consciousness gradual.

376 一度に多くを見ようとししないで下さい。貴方の心を意識の中に広げるに当っては装置を用いる時のように少しずつ行うのと同様な方法を用いて下さい。それを強制してはならず、自然にさせておきなさい。もし私達が生命の永遠なる海に入るなら、そこには豊富な時間があるからです。努力して急いで成長しようとして後になって混乱を生じるような何かを見落とすよりは、ゆっくりした成長を遂げた方がはるかに良いのです。忍耐を貴方の基礎とし、私達の心を意識の中に拡張させることをゆるやかなものとする事です。

【解説】

この種の哲学修業は、只、我武者らに行うばかりでは成果が上がりません。私も過去には熱心に学習を進めていた人が最後は脇道に入られて、そのままになってしまった事例を多く知っています。その方々に共通な事項として、ある意味、余裕が無かったという印象があります。おそらくは、いくら集中して心を訓練しても成果が出ないと、その隙間に入り込もうとする低次元の要素も出て来る場合もあるでしょう。その点、本文では「自然に」というキーワードが明記されています。

自然観察と印象の感受、自らの心の観察、印象に基づく行動、更にはその行動に伴う心の観察等、階段を一步一步登って行く各自自身の問題として、人生の最後にその永遠の海（意識）に到達出来れば良く、慌ただしく登って、途中脱落するよりは、一步一步を確実にし、楽しみながら進むことが望ましいということでしょう。特に目先の成果は期待せず、最後には創造主のお導きやお助けがあることを前提に、一步一步進む中で、自分の中の何が変わって行くかをむしろ楽しみながら観察する余裕を持つことが大切です。

377 Remember that consciousness will convey impression to the mind that will seem foreign, like all new things do at first. But let your mind become as a little child listening and observing impressions and pictures that may come without questioning or trying to make a better picture out of the revelations.

377 意識は最初、あらゆる新しいものがそうであるように、心にとってよそものに思えるような印象を運んで来るでしょう。しかし、貴方は疑問を挟んだり、その啓示からより良い全体像を作り出そうとすること無く、心を幼子のようにして、そのやって来る印象と映像に耳を傾け観察させることです。

【解説】

何事についても率直、誠実が一番なのですが、事、印象への態度は必須な条件です。先日も長らく墨絵を描いている人から墨絵の描く上での留意点について聞く機会がありました。それによると筆使いのスピードが重要だと言うのです。初心者はお手本を横に見ながら、描く為、形に捕われ、どうしても筆の動きが遅くなり、筆先がギクシャクしがちです。それでは生き生きした絵は描けないとのこと。自分の中に描くものを決めたら一気に描くことだと聞きました。

印象に従い、あれこれ考え巡らすことなく、率直に素早く筆を進めることが生き生きした表現を紙に残すことになるのだと思います。そう考えれば、運動選手の演技も決して一つ一つの動作を考えながら行っているのではないことに気付きます。来る印象に身体が直接反応することで、あのような美技が生まれるということでしょう。

私達は印象の海の中で生きていられると言われていています。無数無尽蔵な印象が私達を毎秒、貫いているのであり、それらに少しでも鋭敏になるために、私達は自分の心というその道路に不要な障害を置いてはなりません。本人（心）が当面理解しがたいものでも積極的に心を通わせ、後日になってその価値を発見してもよい筈です。自然から毎日、無償で贈られて来る印象にもっと気付き、活用するよう贈り主は願っているのです。

378 You must remember at all times that only a little of the entire picture will be revealed at a time. Again like the jigsaw puzzle, you cannot look at all of the pieces and know where they fit. For the picture must be put together piece by piece and this takes time. Never try to fill in with some of your mental ideas accumulated in this world for they are of personal nature. Do not question for one minute what you receive for that would be like questioning God. And you should know by now which is accumulated knowledge from this world and which are cosmic impressions. Do not be confused for earthly impressions may come also, as many of these to which the mind is accustomed are of Cosmic Nature and may fit into the picture at a given point but perhaps not at present. Due to earthly experiences these ideas sometimes try to crowd into positions before there is a place for them. It is like an artist who gets an impression of red shading, when yellow should be used, with the red to follow.

378 いつも覚えておいて欲しいことは、一度には全体像のほんの一部しか明かされないということです。再度、ジグソーパズルのように、貴方は断片の全てを見ても何処にそれらが当てはまるのか知るという訳には行きません。何故なら絵は小片を一つずつ繋ぎあわせられなければなりませんし、これには時間がかかるのです。決してこの世界で貯えられた貴方の精神的なアイデアを当てはめようとしてはなりません。何故ならそれらは個人的な性質のものだからです。一瞬たりとも貴方が感受したものに疑問を投げかけてはなりません。神を問いただすようなものだからです。また、貴方は今では、どれがこの世からの蓄積された知識で、どれが宇宙的印象かを識別できる筈です。地球的印象も来るでしょうから、混乱しないようにして下さい。何故なら心が慣れているものの多くが宇宙的性質を帯びており、それらもいつか適当な時期にその全体像に当てはまるかも知れませんが、おそらくその時点ではないと思われるからです。地球上の経験から、これらのアイデア達はそれら本来の場所以外に群がろうとします。それは黄色を用いるべき所に赤い陰を付ける印象を受けた画家のようなもので、黄色の後に赤を用いるのに似ています。

【解説】

(本項の翻訳については、少々悩む部分もありましたが、当面は、提示した訳文で行こうと考えています。)

一度に私達に与えられる意識からの印象は断片的なものになると述べられています。それ故、与えられたイメージはそれ自体で完成されたようなイメージではなく、例えばその全体像が現実のものになった状況の中で、貴方が感じるであろう感情の一部や垣間見ることになる光景の一部等になると思われます。

その為、場合によってはそれら出来事が発生する何十年も前に見ることもあり、印象を感受した時点では、例えその印象が鮮明であったにせよ、何時現実化するかは分からないのが実際です。

しかし、思いのほか、早くその印象が現実化する事例も多いように思われます。その場合、その印象から利益を得る(即ち、印象のアドバイスを従って、自らのより良い生き方に活用する)為に、その印象に忠実である必要があります。

また、一方、感受した印象がどのような意図を指し示してくれているのか分からない、即ち本項でいるジグソーパズルの一片のようなもので、どのようなイメージを伝えているのか全体像が分からない場合も多いということです。その場合、注意したいのは、本文にあるように自分の心の中にも実は様々な印象類が滞留していて、その行き場を求めているということです。その中で宇宙からの印象が入って来る訳で、自身の中のものも付和雷同して心に受け入れられるようとして混乱するということです。いずれにせよ、私達は宇宙から直接やって来る印象について、例え断片的なものであっても丁寧な受け入れを行い、それが示唆するイメージを持ち合わせた既存知識で早合点することなく、落ち着いた態度で一つの断片を繋げる作業が必要だということです。

379 Impressions will come in some cases like a still small voice and you will swear that someone is talking to you, but it is your consciousness explaining things in words you are accustomed to. And sometimes with impressions that you cannot find words to express. But when pictures are impressed upon you, especially in color, they are focused by the consciousness on the screen of your mind which is located in your forehead. At least this has been my experience. Perhaps this is the reason for those who do not understand referring to this as the third eye, or all seeing eye. In Buddha statues there is a jewel in the forehead, signifying extended sight, and it forms a triangle between physical sight and itself. Jesus called this, single visioned and single minded. And when he said the renewing of the mind, he meant exactly what we are trying to do here by associating the mind with the consciousness to form a single unit. Where divisions between the two cease to exist. For then man becomes a total man.

379 印象はある場合にはひそかな小さい声としてやって来るでしょうし、貴方は誰かが貴方に話し掛けていると誓うことでしょうか、それは貴方の意識が貴方が慣れ親しんだ言葉によって物事を説明しているのです。またある時は貴方が言葉で表せないような印象としてもたらされます。しかし、映像が貴方にもたらされる時、特にそれがカラーである場合は、それらは貴方の額の場所に位置する貴方の心のスクリーンに意識によって投影されているのです。少なくとも、これは私の経験です。おそらく、これはこれを人々が第三の目或いは全てを見る目として引用することを理解できない理由です。仏像には、額の中に一つの宝石が埋め込まれ、拡張した視覚を象徴しており、それは肉体の視覚とそれ自体で三角形を形成しています。イエスはこれを一つになった目、一つになった心と呼んだのです。そしてイエスが心の復興と言った時、彼はまさしく私達がここで心を意識に親しませ、一つの単位を形成するよう努力していることを意味していたのです。そこでは、両者の間の分裂は消滅します。それ以後、人は完全なる人間になるのです。

【解説】

私達の心が意識を受け入れる体制を整えておけば、意識は私達に単なる印象だけでなく、言葉で語りかけ、またある場合には映像まで見せてくれるということです。それら意識との一体化、融合が達成した人物には3つ目の眼が開くとされて来ました。このような第3の眼に象徴されるデザインは遠くチベット仏教にも数多く表わされている所です。

問題はこれら意識による加護を受けるには日頃から意識に親しみ、言わば「仲良く」しておく必要があります。しかし、この場合、注意したいのは、常人より優れた能力を持ちたいというような欲望からではなく、自分が生きて行く上で真に指導を仰ぎたいとする謙虚な気持から意識に親しむことが重要です。よく私達に「幼子のようになれ」と言われますが、実はその幼子は目の前の母親に全ての信頼を寄せ、全てを委ねていることが、あのように純粹無垢の表情を生み出していることに気付く必要があります。私達が本来、宇宙意識に包まれ、それらの加護を受けていることを確信できるかどうかにもかかっているということです。

380 One must be very careful to avoid wishful thinking which the mind usually likes to promote. Or imagination which the mind likes to promote in its own favor. For the imagination does promote pictures as there are two phases of impressions. The imaginative mind likes to create freaks such as constructing a man's head with two faces. One in the back and one in the front, but nature does not construct a head like this. I mention this for the impressions and pictures that will come through consciousness will be closely related to imagination. And the mind is quite an expert at this for it has copied its action from consciousness. There must be something genuine before there can be a counterfeit and this is the case with the imagination, so one must be careful.

380 人は心がいつも奨励しようとする希望的観測を避けるよう注意深くあらねばなりません。或いはまた心が自身への味方を促進する空想についてもです。何故なら、印象には二つの局面があり、空想は映像を促進するからです。空想性を持つ心は顔が二つあるような人間の頭を作り出す等、倒錯物を造り出したがります。顔の一つが裏側にもう一つが表側にあるようなものです。しかし、自然はこのような頭を造り出しません。私はこのことを、意識から来る印象類と映像類は空想にとても近い関係にある為、述べているのです。また、心は意識からその行動を写し取って来ている為、この点において全くの熟達者なのです。偽者が存在する以前に何か本物があるにはちがいませんし、これが空想についての実状です。ですから人は注意深くあらねばならないのです。

【解説】

真に印象が心を通ずるや否や前項（378）で述べられているように、心の中に留まっていた心の産物である様々な思いがそれらを取り巻き、その印象の持つ本来の意味をはぐらかして、心が独自に造り上げた勝手な妄想に置き換え、主人であるその人間を自分（心）の都合の良いように仕向けることを本項は警告しています。

人真似を得意とする心は、意識の力さえも真似てその印象に近付き、その意味をねじ曲げようとするのです。その為、これを防ぐには各自は自らの心の働きに警戒しながら、ひたすら誠意を持って、意識の伝えようとしているメッセージを受け取ろうとする必要があります。まさに、この点は自分自身との絶え間ない戦いでもあるのです。

個人的な感想としては、一つの印象から長々とストーリーが繰り広げられるように見える場合は、心の創作である場合が多く、逆に何か分からない、或いはかすかで掴み所の無い印象の場合は、真の意識からの印象であることが多いように思います。その判別は、もちろん、その結果からその印象が正しかったかどうか、後日判明することによります。少しずつ各自、こうした経験を積む中で、これは本物の印象、これは偽者というように次第に判別できるようになるものと思っています。

381 There are not too many people who know the difference between that which is real and the copy. Inventors and artists use this method, and that is how some new inventions that man's imagination thought impossible have come about, for the real is always possible.

381 どちらが本物でどちらが複製物であるかの違いを知る人は多くはありません。発明家や芸術家はこの方法を用いており、それが人間の空想が不可能だと思って来たような新しい発明品が生まれることの次第です。何故なら真実なるものは常に可能なものだからです。

【解説】

心にやって来る印象の内、どれが意識本体から来る真実なもので、どれが自らの心が真似て作り出した複製品かを見分けなければなりません。当然、そこには少なくともそのかすかな違いを嗅ぎ分ける鋭敏さが我々になければならないのです。

品物の真贋を見分け、その値打ちを示す鑑定人は常日頃から本物を良く学び、機会を捉えて本物に親しんでいるものと思われます。そういう意味で言えば、意識からやって来る印象を見分ける為に、まず自らその根源である意識に普段から関心を持ち、その働きや自分とのつながりについて学ぶことが大切です。また宇宙や惑星上の自然の諸活動の紛れも無い真実さを実感し、意識への信頼を高めることも必要です。

こうした信頼（信仰）を通じて、意識本来が持つ感じを掴められるようになれば、心にやって来る印象の内、どれが本物でどれが心による複製品かが分かるようになるものと思われます。

382 Even though the space people had not come our way, showing that man can travel space, we would have succeeded in doing this sooner or later, accomplished by following the impressions given by consciousness. For man's goal is to blend his mind with consciousness.

382 例え宇宙人が我々の方に来て人間が宇宙を旅行できることを示すことが無かったとしても、私達は意識から与えられる印象類に従うことによって遅かれ早かれこれを為すことが出来たと思われれます。人間のゴールはその心を意識に融合させることだからです。

【解説】

その後の宇宙開発の進展経過を見れば1952年11月20日、デザートセンターでの言わば宇宙兄弟達の正式会見以後、今日の宇宙開発時代の幕が開いたことが分かります。当時はビキニ環礁等で核実験が盛んに行われており、中でも1954年の「ブラボー」水爆実験（直径2キロ、深さ73メートルの海底クレーターが出来程の大爆発を発生させた最大級の水爆実験）に代表される無謀な行為が行われていた時代背景がありました。それに対して、大挙した宇宙船の飛来やデモンストレーション等を行うことによって、宇宙への関心を促進した意義は大きいと思っています。

しかし、支援を受けたにせよ、宇宙ロケットを打ち上げ、小さいながらも宇宙船を軌道に乗せられるようになったのは、人間が積み重ねた技術の成果であり、人間が絶え間なく考え続け、試行錯誤を経ながらも、諦めなかった故に成し遂げられたのです。

これら進化の原動力は時々の人間にヒントを与え、進歩の方向に向けて惜しみ無い援助を与える意識の力でもあります。人間がその関心を意識に向けてそのヒントとなる印象に耳を傾ければ、驚くほど短時間に進歩の歩みを達成されるということです。宇宙の源泉である意識は当然のこと、意識自身が住む宇宙への人類をいざなっているのです。

383 At this point your reasoning facilities may enter for one phase of impressions follows the freakish imagination and is destructive, while the other is exhilarating and constructive. So then constructive logic must be employed in order to reach a true evaluation. And this must be independent of personal opinions if you are to know the truth about anything. This is a good policy to follow in living and working with others in every day life.

383 この点において、貴方の推論能力が登場することになるかも知れません。何故なら、印象類のある段階では尋常で無い空想が後に続き、それは破壊的ですが、一方で他のものは気分を浮き立たせ建設的であるものが続くからです。ですから、そこでは建設的な論理を真実の評価に達する為に用いなければなりません。そしてもし貴方が何にせよ真実を知ろうとするなら、このことを個人的な意見の影響を受けずに行わなければなりません。これは日常生活の中で他人と生活し働く上で従うべき良い方針でもあります。

【解説】

ここでのポイントはreasoning（論理的にその本質を見極めようとする推論）にあるように思います。一つの印象が心に入ると、それに呼応して心の中で貯えられた様々な類似印象が湧き上がります。いわゆる「連想」ということです。しかし、その際の問題はこれら集まってくるものの中には、心の空想が勝手に作り上げた役にも立たないものが混じっているということです。それらを排除し、自分が入り入れるのを選別する為、論理的な推論が必要になるのです。

ある時は意識の印象を心に勝手に判断させない内に取り入れるようにと述べる等、私自身も様々な言い方をして来ましたが、心に思い浮んだ事の全てを実行に移すことは、必ずしも良いことではありません。それ程に長年人間を蝕んで来た感覚心は巧みに私達に入り込んでいるということです。

しかし、心に湧く印象が建設的なものか、破壊的であるかは識別することは容易ですし、その指し示す方向が果たして労苦はあっても進歩に役立つのか、快楽があっても退化の道に繋がるのかを知ることは出来ます。そのどちらの道を歩むべきか、日常生活において常に応用しなさいと本文は言っています。

384 So now let us proceed with the first step: First your mind must relax, and this can only be done when the mind loses interest in itself in its own behalf. Like a boy who is interested in baseball, but if he wants to learn and see something else he has to put his first interest completely out of his mind and give full attention to that which he is about to learn or see.

384 それでは今から、その第一段階に進みましょう。最初は貴方の心はリラックスしなければなりませんし、これは心が自分自身の利益に関して自分自身への関心を失う時にのみ起こり得るのです。野球に興味を持っている少年に例えれば、もし彼が何か他のことを学び、理解しようとするならには、その最初の興味（訳注：野球）を完全に心の外に追いやって、全ての注目を自分がこれから学ぼう、あるいは理解しようとすることに集中する必要があります。

【解説】

以前にも述べたかと思いますが、この「生命の科学」における実践的な訓練についての記述は、実に当課等、シリーズの後半以降に現れます。その意味は学習者が十分に基礎的な原理や状況を学び取った上で、初めて具体的な実技に入ることを意味します。いわゆるテクニックだけをみがいても、その者の内面が未発達の場合、却って害をもたらすことが多いからです。

さて、著者は学習者に自分自身の損得について関心を捨てなければ、最初の段階であるリラックスも出来ないと注意しています。その少年にとっては野球こそが自分自身の関心事であっても、本来、少年にとって学ぶべき事柄は更に広く大きいものがある筈です。これらを少年期に身につける為には、少なくとも一つ一つの課題に対しては言わば、自我の趣味嗜好を一時、心の外に追い出して、各々の課題に全力で立ち向かうことが必要だということです。

385 For some this will be difficult with their eyes open, for the attention will be distracted by things that are seen, so it will be best to close the eyes in order to focus the full attention on the impressions or pictures that come. At first this should not be done for more than five or ten minutes at a time. And do not expect too much at the beginning.

385 ある者にとっては眼を開けていてはこれが難しいでしょう。見えるものによって注目がそらされてしまうからです。そこでやって来る印象類や映像類に全注目を集める為、眼を閉じることが最も良いと思われれます。最初はこれを一度に5分ないし10分間以上行われるべきではありません。また、最初から多くを期待してはいけません。

【解説】

前項（384）との関係で言えば、心をリラックスさせる為にそれまで自分の心の中を占めていた関心事を時には完全に心の外に追いやる必要が生じる訳ですが、その際、集中させる為に、眼を閉じることが有効だということです。視覚は心に大きな影響力を持っている為、視覚を遮断することも時には必要だということです。

また、心を静め、意識から来る印象類を受け止め易くする上で、この瞑想は有効だとしていますが、それも一度に長時間すべきではないことにも注意すべきでしょう。当然ながら、祈りや瞑想は一人で行うべきで、あくまで各自の訓練の一部です。一人一人の状況は様々異なる訳ですし、ただ眼を閉じて瞑想したからと言って、直ちに意識からの印象への感度が高まる訳でもありません。少しずつ歩む他はないのです。

私自身としては、従来、ややもするとポジティブなやり方として自分の願望を実現させる強い信念を持つことが強調されて来ましたが、それと同様にネガティブな姿勢として内省や内観という姿勢も大切だと考えています。眼を閉じて静かに自分の心の中を見渡し、湧き起るかすかな印象にじっと心を寄せるような心の態勢づくりも大事です。

ここで参考までにルドルフ・シュタイナーによる仏陀の瞑想について次の記述を紹介します。

「菩提樹の下で、かたよった苦行を捨てた29才の仏陀は、7日間の考察ののちに偉大な真理を見出す。その真理は、人間が静かで内的な沈潜のなかで、いまの人間の能力が与えるものを見出そうと努めたときに現れるものである。四諦という偉大な教え、八正道という慈悲と愛の教えが現れた。この教えは、慈悲と愛の純粋な教えを道徳的な意味に書き換えたものである。その教えが、インドの菩薩が菩提樹の下で仏陀になったときに現れたのである。

そのとき以来、人間はみずから慈悲を愛の教えを発展させることができるようになった。だから、仏陀は死の直前に内密な弟子たちに、『師が去っていくことを悲しんではならない。わたくしには、おまえたちに残していくものがある。わたくしは叡智と戒律をおまえたちに残していく。その叡智と戒律が、おまえたちのこれからの師となる』と言ったのである。」。（「シュタイナー仏教論集」（西川隆範（訳）、2002年アルテ発行、発売：星雲社））

386 One should never discourage the mind as it proceeds to gain knowledge. So perhaps it would be best to leave the eyes open and focus the attention on the hands. Through this you will begin to realize what the hands mean to you and what an asset they are to your life. After you have received good impressions of the importance of your hands, close your eyes and see what you will get then. If you are operating properly, without your mind guessing, you should see your hands constructed of thousands of molecules all very active, never stopping to rest for a moment. And you should receive the knowledge of the type of molecules that construct the nails, joints, etc. And you should be able to see the structure of your hand and the movement of energy better than any instrument could show. You can do this to any part of your body, if you want to know how your body functions.

386 人は心が知識を得ようと前に進む時、心を落胆させるようなことを決してしてはいけません。ですからこの場合、おそらく両目を開けて両手に注意を向けさせて置くのが最も良いと思われます。このことを通じて貴方はその両手が貴方にとってどのような意味を持つか、またその両手が貴方の生涯にとってどんなに財産になっているかを理解し始めることでしょう。貴方が貴方の手の重要性について十分な印象を受け取った後に、両目を閉じてその後、何が印象として得られるか観察して下さい。心が空想すること無くもし貴方が適切に行動しているなら、貴方は貴方の両手が何千もの一瞬たりとも休むことなく全て活動的な分子から構成されていることを見ることでしょう。そして貴方は爪や関節等を作り上げている分子達の知識を受け取ることでしょう。また、貴方は貴方の手の構造やエネルギーの動きについて如何なる装置よりも良く見ることができるとでしょう。貴方はもし、貴方の肉体がどのような機能を果たしているかを知りたいと思えば、このことを他の部位に対して行うことができます。

【解説】

私達の心に対する訓練は、丁度、児童に対するように行う必要があるということでしょう。つまりは子供の欠点ばかりを追求したり、成果が出ないことで責めたりしてはいけません。本項では訓練に当って心をつかりさせないよう、最も身近な「手」を例に、如何にして印象を得るか、説明しているのです。

以前にも書いたかと思いますが、私達にとって最も身近な存在は手であります。少し考えれば、朝目覚めてから夜眠りにつくまで、手は私達の身の回りの世話をしています。生活の場面全てにおいて私達は手の世話になっているのです。心の思い通りに動く、繊細で巧妙な動きはその内部の緻密な構造と、絶え間なく循環更新される人体の生命活動が支えています。これらの成果として最も緻密な部位として手が各自に与えられている訳です。

以前聞いた話に、人間はその最期を迎える時、ほとんどの人が目の前に手をかざしてまじまじと眺めると言います。それは長らく生きて来た中で最後まで自分に従い、支えてくれた存在に感謝し、これまでの歩みを振り返るひとときなのでしょう。もちろん、足やその他の部位も注意して観察すれば、同様の機能を果たしてくれていることが分かります。それほどに私達には従順で常に私達を支えてくれる肉体装置が与えられています。その与えられた贈り物をしっかり維持し、本来の機能を発揮することは贈られた者の務めです。

387 This type of study will create confidence in your advancement that you may not have had until now. And you will know that you are working in the right way. For you will be observing that which the physical eyes cannot see and the spoken word cannot express. And you will begin to understand your body and its functions which are independent of the mind, although related to the whole.

387 この種の学習は貴方がこれまで得たことのない貴方自身の進歩への確信を造り出すことでしょう。そして貴方は正しい道を前進していることがわかることでしょう。何故なら貴方は肉体の目では見えず、話し言葉では表現できないものを見ることになるからです。そして貴方は心とは独立し、しかも全体と関連している貴方の肉体とその機能を理解するようになるからです。

【解説】

心の訓練に最適な対象は自分自身の肉体です。私達は自分の肉体の各部の外見上の特徴の他に、各々がどのような機能や役割を果たしているのかを身を持って理解できますし、その部位を操作することで改めて確認することもできます。その上で、その内部で働いている様々な要素や機構について自ら知ろう（感受しよう）と思うことが大切です。

各部位が正常な機能を果たす為には、それを支配、操縦するオペレーターが十分、その内容を理解し、適正な範囲で運転することが重要となります。また、各部位を構成する分子達もオペレーターが自分達に関心を持ち、絶えず気に掛けていることを感じることによって正常性を保つ運動は活発化する筈です。それは丁度、植物が面倒を見る人間の愛情に依って育つのと同様です。私達はこうして自分の肉体を若く保つことができるものと考えています。

また、自分の身体を通じて肉眼では見えない生命活動に気付くことは、その人が自分の肉体を理解するのみならず、広く宇宙意識にもつながる訓練ともなる訳です。まさに、汝自身を知ることがここでもキーワードになっています。

388 From here we can expand the mind into the awareness of the conscious sea of life, like we did with the telescope. And on into space, the incubator of all forms. And the more interest you have in invisible space, the more the consciousness will be impressing your mind with that which the eyes do not see. For there is far more activity in the space that you thought of as nothingness, than your mind ever imagined possible. Then you will receive impressions or pictures that you never had before. And revelations as you did with your hands in space activity and the forming of events yet to come.

388 ここから私達は丁度、望遠鏡を用いて行ったように、心を生命の意識の海の知覚へと拡張することができます。そして全ての形あるものの孵卵器である宇宙に向かって広がるのです。そして貴方が目には見えない宇宙への関心が高まるにつれ、意識は益々貴方に目が見ていないことを貴方の心に印象づけることでしょう。何故なら、そこには貴方が皆無だと考えていた宇宙には貴方が想像していた以上に遥かに多くの活動があるからです。そうすると貴方はかつてない印象や映像を受け取ることとなるでしょう。そして貴方が自分の手について得たような啓示が宇宙の活動や物事の形成についてもやって来ることでしょう。

【解説】

身近な自分の手の観察による訓練から、肉眼を越えて空間から来る印象への感受力が高まると同時に、私達自身も意識による創造の世界への関心が深まります。その結果、人はそれまで思いもよらなかった活発、活動的な世界、まだ物質化されていない創造過程の世界にも気付くようになると言っています。

創造の世界からのインスピレーションを受けるということは芸術ばかりでなく、日常生活においてもより有意義な生き方に繋がる筈です。誰でも何かひとつこの意識の力に気付く体験が持てれば、後はその記憶を手繰り寄せてそれを深めれば良いということでしょう。決して焦る必要はありません。身近な手を相手に、人知れず自分に何が見えてくるか、粘り強く取組むことが重要だと思われれます。

また、大空を眺める時、肉眼では何も無く思える宇宙空間ですが、意識の目からは、そこには無数の原子達が絶えず創造、崩壊を繰り返す実に活動的な世界となっていることでしょう。私達は創造の揺りかごの中に日々暮らしています。

389 I cannot tell you too much of what you might see, for if I did you would be working on what I have told you, instead of getting your own impressions. But after practicing this method for a while you may write me of results. I will then know if you are doing it right or not. You do not need to go outside and look at the sky in order to do this, for you can do it within your room. But do not be discouraged if you do not succeed in the first few tries. For there will be many habitual obstacles that will have to be removed before good results can be obtained.

389 私は貴方がこの後、見るかも知れないことについてあまり多くを語ることは出来ません。もし語れば、貴方は自分自身の印象を得ようとする代わりに、私が話した事柄について努力することになると思うからです。しかし、この方法をしばらく練習した後に、貴方は私に結果について手紙を書くのも良いでしょう。そうすれば、私が貴方が正しい道を進んでいるか、そうでないかを知ることができることになります。貴方はこれを為すのに、外に出て空を見なければならぬということはありません。貴方はそれを貴方の部屋の中でも出来るからです。しかし、最初の数回の試みで成功しなかったとしてもがっかりしてはいけません。良い結果が得られる前には、取り除かなければならぬ多くの習慣的障害があると思われるからです。

【解説】

意識と繋がるのが実際、どのようなことなのか、現時点で私が皆様にお伝え出来ることはありません。しかし、本文を読む限り、それは各自が居る場所や環境に関わりなく可能なこと、そして何よりも目の前の小さな空間自体が宇宙にそのまま繋がっていて、意識とのやり取りが出来る場として提供されているということです。

見に見えない存在に心底気付く上で重要なことは、絶えず関心を持つことです。どのような些細な印象でもそこから来るものは洩さず受け入れられるよう、心自体を穏やかにしておくことです。止水明鏡という表現がありますが、水面を静かに保っておけば一条の微風が吹いても水面にその動きを反映させられます。私達の心も静かな水面のように保っておけばやがて様々な微風を表現することが出来ることでしょう。

自身の肉体は各自にとって最も身近な生きた教材でもあります。宇宙英知が造り上げた時々刻々の生命を支えている最も身近な存在であり、毎晩就寝時にそれら諸活動に感謝し、身体各部の声に耳を傾けながら、眠りに就くのも良いものです。

390 It took me many years to master this for I did not have the knowledge to work with that you have received in these lessons, regarding the consciousness and the mind.

390 このことをマスターするのに私は多くの年月を要しました。私は意識と心に関係してあなた方がこれらのレッスンで受け取った指針となる知識を持たなかったからです。

【解説】

様々な語り口で私達が抱えている問題点を解きあかす本書の価値はこの一文に良く表れています。この知識が地球よりはるかに進歩した宇宙兄弟達もたらした宇宙普遍の真理が巧妙に組み込まれており、これまでの地球の哲学や宗教の限界を越えたものとされています。何より、宇宙兄弟達によって実証され、応用されて来た揺るぎない真理であるからです。

これまで伝わっているところでは、アダムスキー氏は相当以前から宇宙における生き方への啓蒙活動に従事しており、時々宇宙兄弟達の支援があったにせよ、独りでその探究の道を歩んでいたことがわかります。そうした自らの歩みを振り返って本書の読者に改めて本書の意義を伝え、本書を少しずつ学んで行くことの大切さを述べているのです。

この逐次解説の投稿作業も毎日、少しずつの作業ですが、毎日、少しずつ学びながら日常生活を送るという体験は私自身にとってもこれまでにない効果が表れているように思えます。目的地に続くまっすぐなレールが目の前に敷かれている訳ですから、焦らず少しずつ前進すれば、早晚目的地に到達することになるということです。

391 There is one thing to always remember, the consciousness is the all inclusive power and intelligence. And it is the conceiver and creator of all form life. And the mind was created to execute its instructions. The consciousness knows and sees all while the mind does not, and it should be its student. It must learn to obey conscious instructions when it becomes tired of making mistakes.

391 いつも覚えていて欲しいことが一つあります。意識は全てを包括する力であり知性だということです。そしてそれは全ての形有るものを産むものであり創造主なのです。そして心はその教えを実行する為に創られたのです。意識は全てを知っており、観ているのですが、一方、心はそうではなく、その生徒であるべきなのです。心は過ちを犯すことに飽きたなら、意識の教えに従うことを学ばねばなりません。

【解説】

私達は「意識」といい、「心」といい、各々の実態をどれだけ知っているのか、一度、各々で確認しておくことも必要です。心の意志とはどのようなもので、どういう時に表面化するのか、或いはその姿をさらけ出すのかを知ることです。

その上で、少しずつ私達の認識を深めて行くことになります。よく経験する例は、最初は先が見えない作業でもやがて続ける内に、思わぬ時に終末が訪れ、長い道程もあつと言う間に終わるものです。これと同様に自分自身の理解の程度を復習した上で、課題を整理して立ち向かうと良いように思われます。只、いたずらに遠くを望むことなく、足下に集中することが大切です。

392 We have now laid a good foundation for the next lesson which will take us on an exploration of Cosmic space. And we will see how many will be ready for that journey and go along with us to face reality.

392 私達は今や、私達を宇宙空間の冒険の旅に連れ出してくれる次の課の為の十分な基礎を敷き終わりました。それで、私達はどれ程の人数の者がその旅行への準備が出来ており、真実に直面する為、私達と一緒に進めるか見ることにしましょう。

【解説】

本課では実に様々な角度から意識と心との関係について解説していました。心の発達或いは退化に呼応した自身の肉体内の化学変化 (367)、私達を取り巻く社会の慣習から独立することの重要性 (369)、物質世界は結果に過ぎないこと (370)、宇宙を望遠鏡で見る時のような心の広がり大切にすること (371)、素直に印象を受容すべきこと (374)、空想や心の願望と真の意識からの印象を区別すべきこと (380)、心の訓練に当っては例え心が過ちを犯したとしても心を落胆させたりしてはいけない (386)、等々です。

これらのポイントは、各学習者が日常生活に意識を取り入れる上で役立つ教えになっています。本課以降は「生命の科学」の応用編に相当しますので、私自身も含めて十分に付いて行けない部分も当然出て来る訳ですが、自らの受信器の性能を高めながら進む訳で、時間がかかるのはやむを得ないことです。それよりも、日常生活の方向性をきっちり維持することが大切です。(第10課終わり)

ジョージ・アダムスキー「生命の科学」第11課 段落393 [2008-11-14]

SCIENCE OF LIFE - STUDY COURSE LESSON ELEVEN

Exploration of Cosmic Space

By GEORGE ADAMSKI

393 In the last lesson we promised you an expedition into space. So we will take this step and see how well you will perceive this logical procedure.

生命の科学—学習コース 第 1 1 課

宇宙空間の探検

ジョージ アダムスキー 著

393 前の教課で私達は貴方に宇宙への探検をお約束しました。そこで私達はこの段階を踏みしめ貴方が如何にこの論理的な手順を理解できるか見ることにしましょう。

【解説】

前課（第10課）から「意識による旅行」と題して各自の意識を通じて感受できる映像類を伴った印象に関することが述べられていました。本課はそれを更に深めた内容になる筈です。

既に多くの皆様をご存知かと思いますが、アダムスキー氏は1949年に「宇宙のパイオニア (Pioneers of Space, A Trip to the Moon, Mars and Venus)」という本を出版しています。それは地球の科学者達が地球製の宇宙船で地球を出発し、月に到達した後、月面で月人の他、この太陽系の惑星人と出会い、そこから火星や金星への宇宙旅行を経験するという物語です。

その物語はアダムスキー氏が本課で言う、居ながらにして意識による旅行、言わば遠隔透視を行って得た知見が多く含まれています。そのことについてかつて、アダムスキー氏は自分で実際に行った時の体験と意識によって得た知見とは何ら違いは無かったという趣旨の発言をしています。このように意識による旅行が各自、少しでも可能になれば、宇宙への認識が急速に広がり、各自人生が変わる程の進化が生まれるものと思います。

394 In the early days the mind felt that space was empty because the physical sight could not see anything in it, yet in recent years with instruments we find that space is active and full of invisible elements out of which forms are created. Consciousness has been trying to convey this to our minds consistently but the mind would not accept it as the sight could not see the invisible manifestations. And only through the instruments has the consciousness been proven right.

394 初期の時代には心は肉眼ではそこに何も見えない故に宇宙空間はからっぽだと感じていましたが、近年では諸装置を用いることによって私達は宇宙空間は活動的であり、形有るものが造り出される目に見えない元素類で満ちあふれていることが分っています。意識はこのことを一貫して私達の心に伝えようと努力して来ましたが、心は目に見えない創造の御わざを見る事が出来ない為にそれを受け入れようとはしなかったのです。そして諸装置を通じる事によってのみ、意識が正しかったことが証明されて来ました。

【解説】

私達の天上に広がる大空間は切れ目無しにそのまま大宇宙に繋がっています。

本項ではその宇宙空間では活発な創造の作用が働いており、古いものは分解され、新しいものが造り出されています。以前にもご紹介しましたが、博物館に展示されている隕石の標本を見れば鉄が宇宙空間で内部が綺麗な結晶化される等、これら創造の活動の痕跡を見ることができます。

肉眼では皆無に見える空間ですが、その内部は驚く程の分子原子が詰まっている訳です。例えば1立方センチ（角砂糖大）の大気中には $2.6868 \times (10^{19})$ の分子が存在し（ロシュミット数）、それらが活発に活動し互いに衝突し合うことで「圧力」が生まれていると地球の物理学では教えています。一見して何も無い空間こそ、万物の発現の場であるということです。

空を見上げて月を見た時、私達は自分と月の間には何も無いように思いがちですが、その間の38万キロに及ぶ空間には、目には見えず、只透明な空間だけが広がっているように思いがちですが、実は創造主の作用が最も活発に現れている場所であると認識しなければならない訳です。その強烈な創造作用は、ジョン・グレンが見た「宇宙ホテル」もそうでありましょうし、映画「2001年宇宙の旅」の中でボーマン船長が月から木星への飛行中に遭遇した「光の洪水」等もその現象を示唆しているものと思われれます。更に言えば、私達の周りの空間こそが、想念や印象が最も作用しやすい場所であるとも言えるのかも知れません。

395 All planets and form bodies are born from the elements of space invisible to sense sight but not to consciousness.

395 全ての惑星と形有る物体は視覚には見えないが、意識には見える宇宙空間の諸元素から生まれています。

【解説】

全ての惑星や天体、更に言えばその惑星上の生き物達もまた、その存在の起源は同じ宇宙に由来します。言い替えれば皆共通の父母を両親とする訳で、まさに「兄弟」ということになります。宇宙兄弟達 (Space Brothers) という言葉も宇宙人達のそうした認識を表現したものです。

また、各個体としての生物には、種に応じた生涯がある訳で、これら種の間での生命の連鎖への引き継ぎにより、新たな生命への受け継がれます。今の時期、北海道ではサケの溯上を観察することができます。かつて生まれた清流に遠い外洋を周回して成熟したサケ達が子孫を残す為、個体としては最後の地を目指して川を溯上している訳です。このような行動もまた、宇宙に見守られながら行われているということでしょう。

一方で、これら形を構成する元素は生命体が終末を迎えても、破壊されることなく、再び形を変えて次の活用を待つということが分かります。個体の生涯が閉じる時、終末を迎えるのは個体としての自我であり、その他の圧倒的な構成要素は地球や宇宙に引き続き留まります。また、それら元素の内部構造が中央に原子核、周囲に電子群が各々の軌道を維持して周回している等、太陽系に類似した構成になっていることも不思議です。これら目に見えない極微な世界と遠大な世界とは類似した構成になっており、これらの要素が共に私達を造り出していることに、私達は気付く必要があるのです。

396 Our physical sight is like a window pane through which consciousness sees as spoken of in an earlier lesson, so we will proceed with conscious seeing.

396 私達の肉体の視覚は以前の教課で述べたように、意識がそれを通じて見る窓ガラスのようなものでありますので、私達は意識的に見ることに話を進めましょう。

【解説】

「目は心の窓」というような表現をかつて聞いたことがあります。目が輝いている人、目が濁っている人等、その人の内面の状況を率直に表わすのも目であります。ここで更に進んで、目は外界と接する窓ガラスのようなものだと本講座では指摘しているのです。

もちろん、その窓ガラスが曇っていたり、汚れていては外界からの真の姿を家の中の者に見せることはできません。また、窓自体は外界の景色そのままを映せば良く、そこに事前の判断や好き嫌いを織り込むべきではありません。目はそのような判断を加えずにありのままを家の中の主人公に伝えることが重要なのです。

一方、私達の身体の内側に、家の主人公である意識が居ると本文では表現されています。私達の日常生活は外界の景色も次々に変化することもあるが、それら窓ガラスの反応だけに終わってしまいがちです。内なる意識の存在をおろそかにしてはならないことに気付かなければなりません。

397 The elements of matter are of various sizes and move through space at terrific speeds similar to a dust storm mixed with layers of gases. From time to time particles unite and when this takes place they gather other particles to themselves through the power of attraction that might be called electromagnetic.

397 その物質の構成要素は様々な大きさを持ち、空気層と混じりあう砂嵐に似た物凄いスピードで宇宙空間を移動します。時としてその粒子群は結合しますが、このことが起るとそれらは電磁気と呼ばれるかも知れない引力によって他の粒子群をそれらに集めます。

【解説】

今の季節（11月下旬）は街路樹の落葉から大気の動きを知ることができます。ケヤキの落葉はそのまま下に落下することはほとんどなく、多くは道路を通り抜ける車もたらず空気層の乱れや冬の木枯らしによるつむじ風に乗って落葉は空中を回転しながら移動します。また、風の吹いた後は通りの所々に落葉が自然と集まる場所を見ることができます。

宇宙空間では更にスケールの大きな動きがあるということでしょう。ひとたび大気圏外に出れば、そこには大洋の海流のように大きな流れがあり、瞬時に宇宙を巡るような動きがあるものと考えます。その一つが太陽風というもので、太陽を源とする高速の気流の流れがあり、その速さは秒速300キロとも言われています。これらの気流は惑星にも大きな影響を与えていると考えなければなりません。

私達の日常生活は、このような宇宙空間で起っている現象を自覚する機会は少ないのですが、その劇的な動きは毎日の日の出、日の入りの際に見ることが出来ます。今朝、たまたま朝早く目覚め、家の外に出ると、未だ夜明け前で天頂には輝く月に従えられた星々を見ることが出来ました。東の空の端はやや薄明かりが差す状況。気付くとそれからわずか1時間余りで、すっかり夜が明け、いつもの青空が広がる空になっていました。毎日人知れず行われているこの劇的な変化には驚くばかりですが、それもこの惑星の自転作用がもたらす訳で、私達地球人は日常、自分達の経済システムの問題ばかりに関心が行き、宇宙に無関心であり続けていることに対しては心が痛みます。

398 In the formation of planets this attraction continues and each added amount calls for a greater compression towards the center. Finally through a combustion within the center of the orb that is to be a planet it is given its own heat or warmth. This heat in turn solidifies the elements, and it also gives birth to the germs or seeds that were dormant in the particles making up the planet. And as a result the plant life, the insects and all form life that we know was borne out of the body of the planet. Our planet earth was born out of space and lives in space and moves through space at the rate of some 1100 miles per hour, so it is logical that all other planets are doing very much the same. Of course they vary in size and some have more of one kind of mineral than others, just as found in different parts of the earth, but they are all made of material found in Cosmic Space.

398 惑星形成過程ではこの引き寄せ作用は続き、各々の積み重なった物体はその中央に向けてより大きな圧縮を呼び起こします。そして遂には惑星となる筈の球体の中心部での燃焼を通じて、惑星自身の熱や暖かみが与えられるのです。この熱は次にその構成要素を固化するとともに、その惑星を作り上げている粒子の中で眠っていた胚や種を発芽させます。そしてその結果、植物や昆虫そして私達が知るあらゆる形有る生命がその惑星の身体から誕生したのです。私達の惑星地球は宇宙から生まれ出て、宇宙の中で生きており、1時間に1100マイル（訳注：時速1770キロ）程の速さで宇宙を移動していますので、他の惑星群も極めて似たように行っているとするのが論理的です。もちろん、それらは大きさは様々で、あるものは地球の異なる部分で見られるように、他に比べてある種の鉱物を多く含んではいますが、それらは全て、宇宙空間で発見される物質から作られているのです。

【解説】

私達の日々の生活においても本項に紹介されているような宇宙空間における惑星誕生の壮大なる物語を意識することは大事なことです。身の回りの自然や事物がどのようにして今日に至ったか、そこには紛れも無い歴史があり、その痕跡は今なお残されているからです。植物で言えば、シダや苔類、イチョウも3億年前の古生代に遡るとされています。また、足下の石も更にそれ以上の歴史を見ていると言えるでしょう。

私達の起源は、更に地球誕生より更に遡るかも知れません。太陽系の歴史については「空飛ぶ円盤の真相」(Flying Saucer Farewell)にも記載されている所ですが、各自が短い生涯の中で十分な理解力が得られずに終わってしまうことは大変残念なことです。少しでもこの宇宙に関して理解を拡げ、次に続く世代に有益な教本を残すことが望まれます。

399 Can you now see the process in action and how planets were and are created? And can you see how the matter or elements of space have the potential of making all forms found on a planet, like a tree etc? And if your sense mind can perceive what the consciousness is now revealing you are making progress.

399 もう貴方はその活動過程とどのようにして諸惑星が創り出されて来たか、そして創り出されているかが分かるようになりましたか？ また宇宙の物質、或いは諸元素が惑星上に見られる全ての形有るもの、例えば木々その他を創り出す能力をどのように備えているかお分かりになりましたか？ そしてもち貴方の感覚心が意識が現在、明らかにしようとしていることを感知できるなら、貴方は進歩を為しているのです。

【解説】

大宇宙の中の一大イベントとして太陽系の誕生が起っている訳で、私達の地球も何十億年か前（地球の科学では46億年前とされています）にこうした宇宙空間に集積した粒子やその他形状の物体が寄せ集まって生まれたことが前項の記述から分かります。

しかし、その惑星を創り上げた創造主は惑星が出来た段階でその任務を終えたということではないと考えます。地球生誕から今日までの長い一連の地殻活動をはじめ、様々な変動等、いずれもこの創造作用の一環として考える必要があります。つまりは日々の天候、季節の変化等、全てはこの太古からの創造の力に直接繋がっているのです。

こう考えると私達もまた、毎日が創造の過程に身を置いている訳で、少しでも創造主の本旨に沿った生き方をすべきことがわかります。天地を創った者への感謝と自分が生かされていることへの喜びを片時も忘れることがあってはなりません。そこが本文中に「創り出されている」と現在形で述べられている意味の一つでもあります。

400 Cosmic Space or Consciousness knows no beginning or ending as we have said before, so there are planets and other forms in cosmic space without number. By other forms we mean suns, comets, etc., all just as solid as the earth. Now if the earth has produced out of its own body what we see upon it, it stands to reason that all other planets would be similar to the earth and consciousness conveys this to us. They all may differ according to their age as our planet has aged, for at one time there were less than 3 billion people upon it even though civilizations have come and gone. So the development of the people's minds will vary on the different planets the same as they vary in the different parts of this world, but the geometric pattern is not much different on other planets than we find on earth.

400 宇宙空間、或いは宇宙意識は以前申し上げたように始まりも終わりも知りませんので、宇宙空間には無数の惑星や他の形有るものが存在します。その他の形有るものとは、諸太陽や彗星、その他を意味しますが、全ては地球と同様に固体です。そこでもし地球がそれ自身の天体から私達がその上で見るものを創り出したとするなら、それは全ての他の惑星は地球と類似しているだろうとする理由を主張しますし、意識もこのことを私達に伝えています。それらは皆、私達の惑星が年齢を重ねるようにそれらの年齢に応じて異なるでしょう、何故なら或る時、その上には数々の文明が興隆、衰亡したにも関わらず一時期は30億以下の人々がいたからです。それゆえ、人々の心の発達がこの世界の異なる場所で違うように、惑星によって異なります。しかし、幾何学的なパターンは惑星によって私達が地球で見るとより大きな差はありません。

【解説】

地球自体がその表層に生まれ出た様々な創造物にとって文字通りの「母なる大地」である訳です。私達創造物は少なくともその物質的な由来を、その惑星に負っています。そういう意味でも、私達は「大地の子」でもあるのです。

しかし、私達の地球では皮膚の色や顔形によって多くの人種に分割され、古くからの差別や侵略の歴史を歩んでいます。また、それら差別を救うべき宗教も他宗教を攻撃することで自らの正統性を主張する等、混乱が続いています。

本来は一つの惑星上に生まれ、育っている人間という種族だけが、その母なる大地の地表で争いを続け、あらゆる生物の拠り所である惑星自体を汚し、傷つけているのです。

これら横暴になった人間達から本来の調和ある惑星を取り戻すために、人間自らが働き掛けることは人間の義務でもある訳です。もし、そうしなければ、遂には創造主の手で惑星自体が崩壊し、再び宇宙に還元されることもあり得るということでしょう。

401 Before starting our excursion to some of the planets that we know about, let us take the position that is sometimes called day dreaming. When this takes place the mind withdraws its interest from the present surroundings and becomes absorbed in the so-called dream. Conscious consciousness draws the mind's attention to itself to such an extent that any one could pass before the one so absorbed and his presence would not be felt. In other words a sort of telecasting connection is made between the consciousness and the mind and time and distance do not mean anything for the mind is interested in the scenes that the consciousness is bringing to it. Many people while reading Inside The Space Ships lived the experience with me and partook of the same exhilarating feeling that I had while describing the scenery and the words of wisdom given to me. This is the state in which one must place himself - the union of mind and consciousness for both are equally real.

401 私達が知っている惑星のいくつかへの旅行を始める前に、時として白日夢と呼ばれている姿勢に就いて見ましょう。これが起る時、心は現実の環境からその関心を引き上げ、いわゆる夢と呼ばれる中に吸収されるようになります。意識的な意識が心の関心を意識自身へそのように引き寄せる為、その者の前を人が通ってもその存在は気付かれない程です。言い替えれば、ある種のテレビ放送の回路が意識と心の中に形成され、時間や距離は意味をなさなくなります。何故なら心は意識がもたらす光景に関心を持つからです。多くの人々が「同乗記」を読んでいる間、私と一緒にその体験を生きていましたし、私がその光景や私に与えられた智恵の言葉を表現する間、私が得た心踊る感覚と同じものを共にしたのです。これは人が自分自身を置かなければならない心と意識の統合の状態です。何故なら両者は等しく実在のものだからです。

【解説】

いよいよ本項から意識による宇宙旅行に入ることになります。その意識による旅行とは本文で書かれているように意識が提供する光景に私達の心が全ての関心を寄せ、没入する状態を指すようです。それは遠隔地の光景ばかりでなく、古来から「アカシックレコード」と呼ばれている歴史的記録にもアクセスできることによって、その瞬間から心は急速に知識を身に付けることになります。

その状況は、例えば「杜子春」として小説化されている主人公が見た夢物語も、元来は類似した状況を示すものであったと思われます。アダムスキー氏も実はこのような能力に長けた人物であったことが関係者が残した手紙から伝わっています。既に述べましたように、「宇宙のパイオニア」もこうした意識による旅行を元に執筆されたとされています。

しかし、どのようにすればこのような状況をもたらすことが出来るのか、或いは単なる心の勝手な空想とどう区別できるかについて、本文では述べられておりません。日常的な学習を通じて各自がそれを目指し、少しずつ体験しながら正しい道を探す外は無いです。その際に重要なことは、胆となる宇宙意識なる存在を通常の自我の心以外に自分自身の内側にも感じる事だと思えます。冷静、合理的に考えて宇宙全体の担い手としてそのような存在が不可欠であることを導き出した上で、改めてその存在を探ろうとする気持も必要です。そういう意味では素粒子物理学の世界と似た感覚があるのかも知れません。

402 As an experiment let us go to Saturn. We are now on a solid body very little different from the earth except in circumference, for it is about seven times larger than our planet. The first thing that our mind it attracted to is the slightly different sky than we have known on earth. It is more opalescent than blue due to the rings of Saturn that reflect into the sky. It is almost breath taking in beauty and makes one feel he must be in God's presence. As many of the buildings are white they reflect the same opalescence from the sky, and the snow covered mountains do the same. In certain sections of the planet there are large glaciers and they reflect this coloring intensely as a mirror would. The frequencies of the colors seem to penetrate your being and you feel that you are a different individual than you have known yourself to be. You become consciously aware of that which you see and feel that you are in the Creator's household - the heaven for which you have been searching.

402 一つの実験として土星に行って見ましょう。私達は辺りの環境は別として地球とは私達の地球より7倍も大きい為にはほんのわずかの違いがある固体天体の上に居ます。私達の心を引き付ける最初の事柄はそれが地球で熟知して来たのとはわずかに異なった空です。それは大空の中に反射する土星の輪（訳注：複数）に起因して青色よりも、もっと乳白色をしています。それはあまりの美しさで息も止まる程であり、人をして自分が神の御前に居るに違いないと思わせます。多くの建物は白色である為、それら建物は空からの同じ乳白色を反射しますし、雪を被った山々も同じように乳白色を呈します。土星のある地域では大きな氷河があり、それらは鏡のようにこの色彩を強烈に反射しています。その色彩の波長は貴方の存在を貫くかのように見えますし、貴方は自分自身がこれまで思ってたとは異なる個人であると感じます。貴方は貴方が見るものを意識的に知覚するようになり、貴方がこれまで探して来た天国、即ち創造主の家族の中にいることを感じるようになります。

【解説】

本項は著者アダムスキー氏が（1962年3月27日～30日に）自ら訪問したことのある土星について、私達読者に紹介しながら、宇宙意識に同調すれば、私達も同様なことを見聞できることを示したものです。なお、土星旅行記については、久保田さんのGASite(<http://www.gasite/library/dosei/index.html>)にも公表されています。

地球に比べて遥かに進化したこれら惑星においては、その自然も本来の輝きを増すということでしょう。そういう意味では私達の地球でも様々な問題を抱えながらも少しずつ進化の道を歩んでいるように思います。例えば環境面ですが、日本に於いてはかつては工業化は文明の証であり、歓迎されて来ました。しかし、その後の公害問題の発生を受け、次第に環境への負荷が少ない方式への進化して来ました。何よりも、川や海、湖の汚染程度が改善して来たことが、その進歩を表わしています。また、緑についても古い写真と比べると格段に周囲に緑が増えていることが分かります。

しかし、地球全体を見れば、むしろ汚染や問題の規模は広がっており、温暖化の問題をはじめとして地球規模での気候変動をもたらすようになっています。

これら遠隔地における状況を体感できるのも、この方法のメリットとすることが出来ます。これにより異ながらにして各地の状況を感じ取る能力を少しでも高めることが出来れば、各自の日常生活にも役立つことは間違えありません。古くから野生動物が自然の異変の発生を事前にキャッチして安全な場所に避難する話がありますが、彼らこそ、こうした時空を越えた感知能力を生活に生かしているのです。

403 These are the first impressions that consciousness give to the mind. It is all so beautiful that the mind has a tendency to question if it is real, yet it knows that it is walking on solid ground.

403 これらは意識が心に与える最初の印象類です。それは皆、あまりに美しいので心はそれが現実であるか疑う傾向がありますが、それでも心は堅固な地面を歩いていることは知っているのです。

【解説】

前項（402）に引き続き、宇宙意識に心が同調した際に心がどのように遠隔地の状況を見聞することになるかの事例を取扱っています。いわゆる「遠隔透視」とされて来た現象ですが、本文から当人にとってはその体験は肉体による場合と全く同様に極めて具体的なものであることが分かります。

ここに記されている体験は、通常の見地からは常識を超えた超常現象とされることでしょうか、生命の科学の探究を進めれば、自ずと辿り着く境地ということになります。私達の肉体や心をテレビ受像機に例えれば、映像信号がテレビ受像機に入り込まなければ、テレビ自体がどのような画像再生力を有していたとしても、遠隔地の映像を映し出すことは出来ません。

各自のアンテナを宇宙意識に向けて、もたらされる印象に聞き耳を立て、素直にその信号電波を体内の受像機に導き入れ、その指示通りに全身全霊をそれらの印象類に同調させることで、美しい映像を自らの内から映し出すことが出来ます。また映し出された映像をテレビ受像機自身が観ることによってその遠隔地の情報を知るとともに、電波（意識）とテレビ受像機（自身）の価値と両者の一体化の持つ意義を理解することになるのです。

404 And now when we associate with the people a strange thing happens. It seems that everyone is a part of our own being for they seem to see through us and know how we feel and what we are thinking. And we wonder if we are worthy to be here and what they may think about us. But this comes from the habitual mind reaction and soon we feel at ease for we sense that they understand and are accepting us as brothers and sisters and not as strangers. You cannot detect even a trace of jealousy, envy or judgment in them. And when invited to their homes we notice that they share all things equally. This is particularly noticeable among the women for they respect each individual with the same feeling that a mother has for her child. And this is a higher respect than sisters have for each other and their relationship to all is based on the need of the other. The men in turn respect the women with the same feeling that we have on this earth for a Madonna as they are the mothers of men. And the women respect the men equally as high and honor them as the expression of Cosmic Principle-the masculine part of consciousness. And both men and women recognize the consciousness within each form as Cosmic Divinity.

404 そして私達がその人々と交流するや否や、不思議なことが起ります。彼らが私達の内側を見通し、私達がどのように感じ、また何を考えているかを知っているように思えることから、誰もが私達自身の一部のように思えるのです。そして私達は自分達がここに相応しいのか、また彼らが私達をどのように考えているか、疑問に思うものです。しかし、これは習慣的な心の反応から来るものであり、すぐに私達は安らぎを感じます。何故なら私達は彼らは私達を理解し、私達を兄弟姉妹として受け入れており、よそ者とはしていないことを感じ取るからです。貴方は彼らの中に嫉妬や妬みあるいは批判の痕跡も見つけることはできません。そして、彼らの家に招かれる時、私達は彼らが全てのものを等しく分かち合うことに気付きます。これは女性間において特に顕著です。何故なら彼女達は母親が自分の子供に対するのと同じ感じで各個人を尊重しているからです。そしてこれは姉妹が互いを尊重すること以上に高い尊敬の念であり、彼女達の全体への関係は他の者の必要性に基づいています。代わって男性は女性達をこの地球で私達が聖母マリアに抱くのと同じ感じを持って尊敬します。彼女達は男性達の母であるからです。そして女性達は男性達を意識の男性部分である宇宙原理の表現者として等しく、高く尊敬し敬意を払います。そして男性も女性も各自の身体の内側に宇宙の神性としての意識の存在を認めているのです。

【解説】

本項では実際の土星の社会の一端について紹介しています。一度印象類への感受性が固まれば、自分のことばかりでなく、相手のことも相手が何を考えているか等々について良く分かることになります。惑星全体がそのような人々で満たされているとすれば、人々は必然的に良い人間にならざるを得ないことが分かります。これは感応力が低い状態に留まっている地球と比較し、皮肉なことでもあります。

このような星はまさに「仏国土」であり、仏典を引くまでもなく、宇宙に数多く存在するという訳で、「天国」とは良く言ったものだと思います。私達の星についても最終的にそのようなレベルまで上昇させるにはどうしたら良いでしょうか。それは各自がそのような仏国土にあこがれるだけでは十分ではありません。例え本課のような学習者が地球を去ってもその歩みと経験が後世に伝わる仕組みを創らなければならないように感じています。

かつてアダムスキー氏の周囲には数多くの協力者がおりましたが、アダムスキー氏死後、年月が経過するにつれ、それらの人々も亡くなる方が増えている状況です。また状況は日本でも類似しています。少しでも何か学んだエッセンスを残すことを目指して、この仕事を進めているつもりです。

405 In their presence one feels that he has been given a new birth in life. For their homes and surroundings are exquisite, a reflection of their consciousness as is everything on their planet. Planet Saturn is a balancer or tribunal planet for our system.

405 彼らの面前にあつては、人は自分が人生で新たな誕生を授かっただと感ずます。彼らの家庭や周囲の物はこの上なくすぐれたものであり、彼らの惑星上のあらゆるものがそうであるように彼らの意識の反映になっているからです。惑星土星は私達の太陽系の釣り合い機、或いは法廷なのです。

【解説】

真に進化した宇宙兄弟達の前では人生観が一変する程の影響を受けると言うことです。また、宇宙の他惑星・別世界を体験することでその後の生き方が大きく、良い方向に転換するという訳です。これまで地球には時代を越えて様々な教師が宇宙から来訪し、人々の歩むべき道程を示したとされています。その痕跡は聖書や仏典の記述にも残されています。しかし、今日ではそれらの教師の言葉は年月の経過とともに、その本来の意味合いが薄れてしまっているのではないのでしょうか。教義の解釈の書は増え続けていますが、地球に降り立った教師自身の雰囲気や語った言葉等、肝心の所は伝わっていないように思われます。

一方、現代の宇宙飛行士達は宇宙飛行の体験の後、実はそのまま宇宙飛行の技術分野に携わるよりも、より精神的、宗教的な分野に転向する事例が多いように思われます。例えば1971年、アポロ15号で月着陸船パイロットとして月に降り立ったジム・アーウィン(James B. Irwin)はその後、宗教活動を行う傍ら旧約聖書の史跡を探して中東への探検旅行も行っています。また、アーウィンは「月面では地球とは異なり、神に祈るとすぐに神から答えが帰ってきた。月では違った。祈りが神に直接的に即座に答えてくれるのだ。」と述べたそうです。(詳細について解説しているサイトがありますので紹介しておきます。 <http://www2.plala.or.jp/seitouha/yumi/apollo.htm>)

宇宙の中に包まれている感じや他の天体に降り立った際に受けるその天体が持つ波動状況が大きく影響を与えるということでしょう。宇宙文明との交流によって私達は飛躍的な進化を遂げるに相違ありません。

406 Here I have given you just some of the high spots and not in detail form as you might expect but you can get the details if you succeed in going there consciously. And as I have been taken there physically by space craft I will know if your impressions are correct. And this will indicate how well you are able to travel consciously.

406 ここでは私は貴方に最も重要な部分だけをお話しており、貴方が期待するような詳細には触れておりませんが、貴方はそこに意識的に行くことに成功すればその詳細を得ることが出来ます。また、私はそこには肉体のままで連れて行かれた為、私は貴方の受けた印象類が正しいかが分かるでしょう。そしてこのことは貴方が如何に上手に意識による旅行を出来るようになっているかを示すことでしょうか。

【解説】

第11課では意識を用いた宇宙旅行について、私達は学んでいます。この意識を使って遠隔地を見聞する具体的な方法、心の制御方法等の技能的な内容は本課では説明されておりません。それらはあくまで本人が自身の心を訓練し、宇宙の意識から示される具体的な助言に耳を傾けることで少しずつ身に付けるべき事柄だということです。

しかし、人が死に向かう時、この活動はより顕著になるようです。昨年亡くなった私の母から、昔聞いた話があります。母には将来を囑望されていた優しい兄がいたのですが、その兄が学校を卒業し会社勤めを始めた頃、肺に病を得て急死してしまいます。戦前のことです。その兄が死に近付いた頃、ふと目覚めた兄が枕元で見守る妹に、「きれいな花園があったよ」としみじみ述べたといひます。その兄の死後、半世紀以上も経っていたにも拘わらず、その時のことを母は明瞭に覚えていました。

数年前に流行した「涙そうそう」という歌があります。歌詞からお分かりのように、宵の明星「金星」に亡くなった兄が生まれ変わって行ったと信じて、残された妹がその兄の住む星を毎日、見上げながら生きて行くという内容です。地球で生きて行くのは大変なことですが、それでも星々に思いを馳せ、宇宙に自分の意識を広げようとするのは、大変意義深いことだと言えるでしょう。

407 Jesus has said that where a man's heart is there he is also. It could be said that where a man's consciousness is there he will be.

407 イエスは言っています。人の心がある所、自分もまた居ると。それはこのようにも言えることでしょう。人の意識のある所、自分もまた居るであろうと。

【解説】

何時でも、何処に居ても意識を通じて人は互いに交流することが出来ると言っているのです。「そこに居る」とはどういうことなのでしょう。現実には面前に対していることと、遠く離れては居ても異ならしにして相手の心に浮ぶ考えがこちらにも分かり、互いに相手の意思が分かるようになれば、両者は同じことを意味することになります。つまりは「テレパシー」や「遠隔透視」という現象も、これら意識を通して可能になる事柄の一つと考えられるのです。

「同乗記」にも多数記載されている彼ら宇宙兄弟達の持つ優れた精神感応力は、これらの生きた実例ですし、誰でも到達可能な生物体を持つべき基本的な能力なのでしょう。そういう意味でも、世に「超能力者」がテレビに出て、遠く離れた昔の事件の状況を探る番組がありますが、そのような能力もいずれは、誰もが身につけられる時代も来るかと思えます。

そう考えると各自が何らかの信頼できる指導者を敬愛することによって、何処に居てもその教師と交流でき、人生を生きる助言を得られるということもある訳です。もちろん、創造主のイメージを常に心に持てば、やがてその人もその似姿になるということは言うまでもありません。

408 Now we will observe Venus and as we do we find a difference here for it is a smaller planet than Saturn and much of the time it is covered with clouds. Although the clouds break here and there and allow the sun to shine through, the air is humid but not oppressive. It is very much like other planets in formation for it has a variety of climates with ice and snow in some parts.

408 今度は私達は金星を観察しましょう。するところでは違いを見い出します。何故なら、それは土星より小さな惑星で、多くの期間、雲に覆われているからです。しかしそれでも、そこここで雲が途切れることで太陽を輝き渡らせますし、大気は湿度を帯びていますが、重苦しくはありません。その構成は他の惑星ととても良く似ています。ある部分には氷や雪もあるような多様性に富んだ気候条件を有しているからです。

【解説】

太陽に若干近い（地球-太陽間に比較して0.72倍）ということだけで、金星は灼熱地獄で硫酸の雨が降るとして、到底金星には人は住めないと地球では定説化されています。しかし、元々、1952年のいわゆるアダムスキー氏の公生涯の始まりは金星人オーソンとの会見からであり、金星こそ私達、アダムスキー哲学を学ぶ者の聖地でもある訳です。また、アダムスキー氏が敢えて金星をはじめこの太陽系の12個の惑星全てに私達以上に進歩した人類が住んで居ることを公表した故に、その後の宇宙開発事業の情報操作や情報コントロールが功をそうしたこともあり、今日までアダムスキー氏はその死後も世間には受け入れられておりません。

しかし、アダムスキー氏を通じて地球にもたらされた本稿をはじめとする宇宙時代を生きる為の哲学を学ぶ者にとって、この金星人オーソンがアダムスキー氏と最初に会見したことに着目すべきだと考えています。つまりはその後の氏に向けられた批判や中傷に対して氏を支え、時々に必要な助言や情報を授けたのも彼ら金星を中心とする宇宙兄弟達であったと思われるからです。

氏に関わった多くの人達の発言から、金星は地球に対して各時代に対応した様々な支援を行って来たことが伝えられています。一説にはその中に、イエスも居たと言うことです。そうした過去からのつながりの中で、アダムスキー氏とオーソンの間にも何らかの強い結びつきがあったものと思われれます。

いずれにせよ、私達には手本とする宇宙兄妹達と目指すべき理想社会がある訳で、この惑星地球を運営する現代文明が、もし、現在顕著になりかけているように地球環境汚染や経済システムの弊害から行き詰まることになったとすれば、私達は従来のやり方を全てかなぐり捨てて、その手本となるべき兄妹惑星の社会システムを導入することが必要です。そうすることが、この禁断の惑星・地球を解放し、宇宙社会に門戸を開くことになるのです。

409 Geometrically the people are very much the same as found on earth and other planets but they are interested in a wide scope of things and have very much the same type of environment that we found on Saturn.

409 幾何学的にはその人々は地球や他の惑星で見る人々とほとんど変わる所がありませんが、彼らは物事への幅広い関心を持っていて、土星で見られるのとほとんど変わる所の無い環境を有しています。

【解説】

アダムスキー氏の数多くの著作から他の惑星にあっても、人間は皆共通の体型をしていることが分っています。また、肌の色も地球上の人類と同様、様々であることがわかります。それ故に彼らは地球人の中に紛れて暮らしながら、人知れず各々のミッションを進めていることが出来る訳です。

彼らはアダムスキー氏の周囲に常に居て、必要な助言を与えていたとされています。また、アダムスキー氏の行く先々で宇宙船が多数目撃されており、最近、入手したアメリカのテレビ局が制作したビデオの中でデンマークの退役軍人のハンス・ペテルセン氏もインタビューの中で、アダムスキー氏を乗せた飛行機がコペンハーゲンの飛行場に着陸する際、1機のスカウトシップがその飛行機に追尾しているのを見て驚いたと述べています。この外、アダムスキー氏の協力者の中には、これら宇宙兄妹達と直接話しをした、あるいは見た経験がある人が多いのも事実です。私が直接聞いた中では、エマ・マーチネリさん、アリス・ポマロイさん、マデリン・ロドファーさんらは、皆、間近に地球上で暮らす宇宙兄妹達を見えています。そのいずれもが、外見上、一般の地球のビジネスマンと何ら違うところはありませんでした。彼らの持つ知識やそこから醸し出される知性が地球のものとは大きく異なっていたということです。

問題は、その人間の内側、内面性にあります。本文では短い表現ではありますが、金星人は幅広い物事に関心を持っているとしています。丁度、千手観音のように諸々の課題、対象に対して幅広く救い上げたいとする特性があるということです。そう考えれば、地球という問題惑星を援助する為、自らの命の危険性を顧みず、地球に来訪している彼らに私達は感謝しなければなりません。

410 There is just one head of Government with many co-workers who look after the affairs of humanity. And the respect for each other is very much the same as we found on Saturn.

410 そこには人類に関する事柄の世話をする多くの協力者を持つ政府の首長はただ一人存在します。そして互いに尊敬し合うことは土星で見られるのと大変良く似ています。

【解説】

どの集団でもその集団の意思を最終的に決定すべき代表者が必要です。そういう意味では進化した諸惑星においても代表者が必要になるということです。

進化した惑星社会ではその住人一人ひとりが地球人にとっては皆、人生の師となるべき人達ですが、その代表者とは更に進化した人物ということになります。同乗記にアダムスキー氏が金星と土星、各々から来訪した母船に招かれた状況が述べられていますが、その中で各々一名の長老（原文ではmaster）との会見も模様があります。そこで注目したいのはオーソン（金星人）やラミュー（土星人）等、アダムスキー氏を直接支援するメンバーもその長老のお話を貴重な機会として皆、傾聴していたという所です。つまりは彼ら宇宙兄妹達にとっても、めったに無い貴重な機会であったということです。そう考えると、その時会見した長老は本項で言う惑星を代表する人物であった可能性が高いと言えるでしょう。地球に公然と宇宙船を飛来させ、アダムスキー氏を通じて地球の一般人にその時期、他惑星に人類が住んでいることを知らしめさせたのには、より大きな意味があり、これらの諸活動は彼ら惑星の一大プロジェクトであった筈です。

また、そういう意味では、アダムスキー氏がローマ法王ヨハネ23世の謁見を受けるきっかけとなった法王への宇宙人からのメッセージも、こうした惑星の代表者から法王に向けられたメッセージであったのではないかと考えています。

411 As each planet represents some phase of humanity, Venus represents Cosmic Love that binds all things together as one.

411 各々の惑星はそれぞれ人間性の何らかの側面を表現しており、金星は全てのものを一つに結び付ける宇宙の愛を象徴しています。

【解説】

金星はVenus（愛と美の女神）という言葉で呼ばれています。その由来は知りませんが、本項で言う宇宙を包むような愛の象徴とも一致しているようです。

多くの皆様をご存知のように、生前、アダムスキー氏は金星まで案内され、生まれ変わった妻メリーと再会しています。その模様は「金星旅行記」として残っていますが、それを読むと金星の社会は調和があり、私達が夢見る以上の理想的な環境がありました。しかし、ちなみに現在の私達自身がそこに転居したとしても、あまりのレベルの差があることや感情のコントロールが未熟な為、相当の苦勞となるでしょうし、周囲に怠惰な人間は自分一人であり、未発達な者として同情されるのが関の山であることは言うまでもありません。

もともとそこに住む一人ひとりの発する想念がその集団や地域に独特の雰囲気形成する訳で、金星その他の進化した惑星は高度な周波数を持っている筈です。これに対して、この地球では過去のみならず、現在も戦争があり、憎しみや悲しみの連鎖が続いています。その想念は少なからず地球を厚く覆っているものと考えます。

これらの改善は一朝一夕には出来ませんが、一人ひとりが毎日、より良い想念を発するよう努めることで、やがては惑星全体の状況も改善されるに違いありません。

折からクリスマスや新年を迎える季節が近付いています。この地球という惑星全体の波動をどのようにするかは、その住人にかかっていることを考えれば、これまでの一年を振り返り、新しい年に向けて、何をすべきかを考える時期を迎えています。

412 Agriculture and the manufacturing of the necessary commodities is all based on production for use. And all individual talents are given an opportunity to develop and express. Every phase of their expression is extremely artistic and elevating to view as they express love in everything that they do.

412 農業や生活必需品の製造は全て使用に基づいています。また、全ての個人の才能はそれを発展させ表現する機会が与えられています。彼らのあらゆる表現の姿は彼らはその行うこと全てに愛を表現する為、極めて芸術的で高揚させるものとなっています。

【解説】

金星と私達地球との社会システムとは何処がどのように異なっているのかについて、本項は明瞭に解説しています。大きな違いの一つは、農業や工業は地球のような商業主義、貨幣経済でなく、人々が実際に使用し消費する量に合わせて生産されるとしています。ある意味、計画経済に基づいているように思われます。その結果、今日の地球で生じているような価格競争はもちろん物価という概念もないこととなります。つまりは各自必要なものは申し込めば、いつでも供給され、それらが終生保証されるような仕組みであろうと思われれます。

また、各個人については、このような安定した社会の中にあって自分の才能を伸ばせる十分な機会を与えられる訳ですから、成長したいと思う気持があれば、理想的な環境になります。一方で、そのような向上心が無く、必要物を要求するだけの人間の場合には、退屈であるばかりか、周囲の人間がそうした生き甲斐を感じている中で、一人取り残される惨めな環境に映るかも知れません。芸術であれ、科学技術、自然探究であれ、自分の才能を社会に貢献できる仕組みが用意されているものと思われれます。

社会が一人ひとりの自主性と芸術性を尊重する中では、一人ひとりのレベルはますます向上し、それらの相乗効果によって、その社会は否応なく進化し芸術性も高まることとなります。

413 I have now given you a foundation and you may fill in what you will consciously observe on Venus.

413 私はこれで貴方には基礎を授けましたし、その後は貴方が金星を意識で観察するものを埋めて行けば良いでしょう。

【解説】

各自、意識による旅行（遠隔透視）が出来た時、どのような光景が見えたら自分が間違っていないか、事前にその判断基準がこれまで例示されて来ました。かく言う私も、未だその段階には至っておりませんので、本件に関して多くを語る者ではありません。金星にせよ土星にせよ、少し注意すれば私達の肉眼で見える惑星であり、その惑星を見る際に、心に湧く印象もこれと同様なものであるべきことが分かります。

一方、私達の周囲には更に大きい天体があります。太陽と月です。しかし、私達はこの天体に対し、日常何の感慨も関心もなく暮らしています。しかし古代の人々は各々に畏敬の念を持って、毎日見上げていました。また、それら二つの天体が地球のあらゆる生き物の暮らしに密接に関わっていることを自覚していました。その証は日本語では月を「お月様」、太陽を「お天道様」と読んでいることから伺えます。また、古来には太陽信仰があったことも知られています。これら太陽と月を眺めて何が感じられるのか、各自の意識をその天体に向ける等、この生命の科学の学習教材として取組むのも良いでしょう。そうすると毎日の日の出や日の入り、月の満ち欠け等、学習教材は身の回りに豊富に提供されていることが分かります。

私達は進化した諸惑星や宇宙から地上の生命を養う母なる天体達に感謝と関心を寄せることから、一歩が始まります。

414 Next we will go to Mars, a planet I have not been on physically. Consciously I find the planet rugged, quite commercial and industrial and very similar to earth. Agriculture is in second place for water is scarce in inhabited areas and most of it is dry farming. The water that they have is channeled from the polar caps and melting ice areas. There is plenty of salt water and in recent years they have been converting it for use as we are doing in some places. There are canals of salt water that carry the ships to inland cities where the water is also converted for use. In the early days they tried mixing salt water with fresh water, about a two to one mixture of fresh and salt, but the amount of fresh water was not adequate and the mixture was not good for agriculture.

414 次に私達は火星に行きます。肉体としては行ったことのない惑星です。意識で見ると私にはそれが荒れて、まったくの商業的、工業的な場所であり、地球に大変良く似ていることが見えます。居住地域には水が少ない為、農業は二次的な地位であり、そのほとんどが乾燥農法です。彼らが用いる水は極冠や融解する結氷地域から水路を引いてもたらされます。塩水は豊富にありますし、近年には私達も幾つかの場所で行っているようにそれを変換しています（訳注：例えば逆浸透膜法等により塩水を淡水化し利用していることを指す）。内陸部の都市に船舶を運ぶ塩水の運河がありますし、そこでもその塩水が転換され利用されます。初期の時代には彼らは塩水と淡水を2対1に混合しようとしたましたが、その淡水量では不適切で、その混合水は農業に向かなかったのです。

【解説】

本項では火星についてアダムスキー氏自身が意識による遠隔透視によって得たイメージを述べています。それによれば、本課でこれまで述べて来た土星や金星とは大きく異なる内容描写であることが分かります。気候は荒涼としていて淡水が少なく、乾燥していて農業には適さないものの、商業や工業が盛んだと言っています。

それでは同じ太陽系の惑星として、位置も近い金星や地球、火星は本来は同じような自然環境と考えられるのですが、火星がそのような乾燥した惑星になった理由もまた、あるものと思われます。おそらくは極端に工業化を推し進めた為に惑星全体の気候が変化し、緑地が減ってしまい、淡水が減少したものと考えられないでしょうか。

それに引き換え、地球はまだ、水が豊かな惑星と言えるでしょう。しかし、このまま地球環境の問題が大きくなれば、環境は益々荒涼としたものになることは間違えありません。冬の朝、高層ビルの窓から平野を眺めると、水平線に沿って厚い茶色の霞みが街を覆っていることが良く分かります。その延長線上に火星があるのかは存じませんが、火星も地球と同じ環境修復への道を歩んでいるものと思われます。

なお、ちなみに映画「火星年代記」（原作はレイ・ブラッドベリの1950年作品。映画化は1980年）の中に出て来る火星人は、あくまで小説の世界であり、本項の内容との混同は避けたいのですが、その映画では火星人は探検にやってくる地球人を遠隔透視したり、地球人の想念を読み取り、自身をそれに似せてしまう等、能力的には本課に類似した内容を備えており、興味深い内容となっています。

415 Mars also has a population explosion. In another year I have been promised a trip to Mars and when I go I will prove to myself how close my mind has received the impressions given to it by consciousness.

415 火星もまた人口爆発にあっています。別の年に私は火星への旅行を約束されて来ましたので、行った時は私の心が意識によって得られた印象を如何に忠実に受信していたかを自分で確かめようと思っています。

【解説】

その惑星の住人がその惑星の水準を造り上げる一方、各々の惑星のレベルに合致した人間がその惑星に生まれ変わって来るとすれば、宇宙の中でも各自に適した惑星はさほど多いものではないかも知れません。そういう意味では、ある時期、その環境での学習を必要とする者が集中することも有り得るということでしょう。

いずれの理由にせよ、人口が一時に大きく変動することは昨今の日本の少子高齢化問題を洩く間でもなく、社会構造上は良い現象ではありません。本書が執筆された1964年当時の火星での状況の詳細は不明ですが、地球と同様に火星も問題を抱えていたことが分かります。

数多くの個性が集まることは、また一方では各々の能力を協力発揮させ、問題を解決する好機でもあります。その惑星に生まれるということは、そこでの役割を期待され、自分自身もその過程で成長する機会を得るということです。

416 A man can consciously travel the Cosmos as I stated before if his mind can trust what consciousness reveals to him. Some of us not knowing how this is done have traveled the Cosmos many times. In some cases it has been during the sleeping hours when we have had dreams that impressed themselves vividly on our waking mind. Especially of strange places where it would be impossible for the mind to promote the dream.

416 人はもし自身の心が意識がその者に明かすことを信じることが出来れば、私が以前述べたように、宇宙を意識で旅することが出来ます。私達の幾人かはそれがどのようにして行われるかを知らないまま、何度も宇宙を旅して来ました。ある場合は、それは目覚めた心にそれらの事柄を明瞭に印象付けられた夢を見る寝ている間に起って来ました。特に、夢を奨励しようとする心にとって到底、有り得ないような見知らぬ場所の夢については、そうなのです。

【解説】

人間、肉体には時として障害が出たり、不自由になるものですが、意識は自由に動き回れるということです。ある時は遠く離れた場所に旅したり、過去の記憶を遡ったり、更にはある程度の未来を見ることも出来ます。これらは各自の肉体とは別に授かっている「意識」の機能の一応用例に過ぎません。

ここでは特段、「意識による旅行」と呼ばなくても、各自が日常的に経験しているものもあることを例示しています。例えば、目覚めた後も明瞭に印象が残っていたり、ありありと記憶に残るような不思議な夢等、実際には意識による旅行体験だということです。

もちろん、眠る間に見る夢の中には、感覚心の妄想もある訳で、実際には意識によるものと混在しているものです。そこで真偽の判断については、時間がそれを解決するものと思います。つまり正しい意識による旅行はいずれそれが実現しますが、心の妄想の方はやがて消え去ることでしょう。その判断は本人にとっては容易な筈です。

ちなみに映画「コンタクト」(1997年のアメリカ映画)には主人公の女性電波天文学者がSETI(地球外知的生命体探査 Search for Extra-Terrestrial Intelligence)プロジェクトの中で、こと座のヴェガから発せられた電波による情報を受けて建設された特殊宇宙船に乗り込み体験したストーリーがあります。宇宙船に乗り込み、ジャイロに似た特殊装置を作動させると、瞬時にして遠く離れた惑星に移動し、その美しく不思議な雰囲気のある海岸で主人公が子供の頃に亡くなった父親と再会し、やがてまた地球に瞬時に戻ってくるお話です。原作者(カール・セーガン)の意図は不明ですが、この「意識による旅行」がイメージされているように思います。

おしらせ [2008-12-19]

せっかくこれからが大事なところなのですが、実は来週から出張が入り、しばらく中断せざるを得なくなりました。年末年始にはいったん帰国しますが、年始明けには再び出張することになっています。再開は1月中旬になるものと思います。

申し訳ありませんが、ご了承下さい。

417 We must remember that consciousness is the sea of life within which all forms are living regardless of what they may be. And outside of which there is no life. So when the mind becomes alerted that it is living within that sea and must depend upon the sea of consciousness for its own life then this awareness begins to impress itself upon the mind with new knowledge of various phases of its action and the various types of forms through which it expresses. Like certain fish in the ocean that are alert enough to sense a disturbance, conveyed through the water in which they live.

417 私達は意識はありとあらゆる全ての形有るものがその内側に生きている生命の海であることを覚えていなければなりません。そしてその外側には生命は無いことも。ですから心は自らがその海の内側に生きており、それ自身の命について意識の海に頼らなければならないことに感づくようになると、この気付きは心に対して意識の様々な行動の側面や意識が表現する様々なタイプの生命形態に関する新しい知識を印象により授けようとしはじめます。それは丁度、大洋の中のある魚が自らが住む水を通じて運ばれて来るうねりを感じ取るだけの鋭敏さがあるのと似ています。

【解説】

本講座を学ぶ人が終始一貫して身に付け、理解しようとしているのが「宇宙意識」という万物を支える存在であろうと思います。自らの心については、これまでの学習によってその不安定さや知識の不足について分かるようになり、ある程度客観的に自らの心を見ることが出来るようになったことでしょう。

一方、「意識」については、その存在を理解するのは容易ではありませんでした。しかし、ここで有益なヒントが提示されています。本文の表現「意識は生命の海であり、その外側には生命は無い」という部分です。つまり、私達の内、生命の部分（敢えて言えば無生物、つまり物体の部分があるとすれば、それらを除いた、命を持った部分）には境目が無く、この生命の海の中に生きているということです。その結果、私達はその中で時間や距離に関係なく、何処へでも自由に移動でき、他の生命体とも一体化し、相手を理解することが出来るということだと考えられます。

これまでの何故、アダムスキー氏が「意識」という表現をして来たか、ここで始めてその意図が掴めた気がします。その生命の海の中に私達が住んでいる訳ですから、各自が日常的に持っている精神面の主体（各自の「意識」とでも表現しておきましょう）は、実際にはこの生命の海の中を各自の意思により自由に動き回っているということです。その感覚をアダムスキー氏は「意識」と表現したのだと思います。

また、更に重要なことは、そうした生命の海という意識感覚は実は生命活動をすべて支えている大変大きな存在であるということです。私達が十分にまだ気付いておりませんが、身の回りの意識感覚こそ、絶大なるパワーがあり、宇宙くまなく巡っている生命力であるということです。この理解さえあれば、一見物質世界から見ればどのような苦難であってもおそらく、あまり苦勞や悲観はないものと思われまます。自分の周囲にはすべての生命力が満ちている訳です。こう考えて来ると、野生動物が過酷な自然環境や生存競争の中でも、何ら悲観することなく、毎日を楽しんでいる姿は容易に理解できるようになりました。彼らは自分達を常に包み込んでいる生命の源である意識の存在を知っているからです。

ご報告 [2009-01-13]

本日、無事出張先から帰国しました。

明日からブログを再開できるかと思えます。

長らくお休みしてしまいましたが、本年も宜しくお願いいたします。

418 Man can have this same alertness from the conscious sea of life when his mind is aware of its possibilities of receiving impressions from anywhere in the Cosmos. When this phase is understood and used man can be anywhere he wishes to be, either near or far away. For the Real You remember is the consciousness. The mind and the body are instruments which you use.

418 人はその心が宇宙の何処からの印象でも受け取ることが出来ることに気付いた時、その生命の意識の海からこれと同じ覚醒を得ることが出来ます。この側面が理解され応用されると、人は近くにも遠くにも自分が望むどのような所にも身を置くことが出来ます。何故なら、真実の貴方という存在は意識なので、心と肉体は貴方が用いる道具です。

【解説】

よく”気付き”とか”悟り”とかという言葉が聞かれます。長年、求道者が精神的な探究を通じて或る日、人生（生命）の本質について見極まることが出来た、言い替えればポイントとなる宇宙を貫く原理を発見した際に自覚する境地を指した言葉だと考えます。その境地こそ、本稿でいう alertness(ここでは「覚醒」と訳しました)だと思われま

また、私達の本質的な部分である意識はこの生命の海に属しており、心も肉体もその本質を支える為の手段や道具に過ぎないと言っていることも重要なポイントです。とかく私達は自分の心や肉体のその時々状況に影響を受けがちですが、それが「道具」に過ぎないということになれば、仮に道具を磨き、整備することは大切であることに変わりはないものの、人生を送る上での第一は各自の主人公である意識の活動にもっと思いを致し、その自由な発達を心掛ける必要があることが分かります。

意識に持つ潜在力を信じさえすれば、自分が望む所はどんなに離れていても瞬時に身を置くことが出来ることになれば、後は各自の思うままに自由に活動し、見聞することが出来ることとなります。聖書の中のイエスの言葉「見ずに信じるものは幸いです」（ヨハネ20：29）が思い出されます。

419 Many times when I was teaching in the early thirties a student would be sick and would not be at the class, yet on the following week when they returned he would report that he had not missed the class. For I was at the bedside giving the instructions yet I was not missed in the classroom. I was there before the students giving instruction through my mind and body while at the same time my consciousness was at the bedside of the one who was sick. It is like using two speakers with one microphone. Consciously I was conveying to the mind in my body that which was given to the students. In one place I was a solid form and in the other a thought form.

419 1930年代の初期、私が教えていた時に何度となく一人の生徒が病気になりクラスに出席することが出来ないことがありました。しかしそれでも、翌週にある次の授業にはその生徒は決まって自分は授業を受けられなかったことはないと報告するのです。その理由は私は彼のベッドの脇に居て、教えを授けていたからというのですが、私はクラスに出席しなかった訳ではありませんでした。私は当時は生徒達の前で心と肉体を通じて教えを授けておりましたが、同時に私の意識は病気の一人のベッドの脇に身を置いていたのです。それはマイク1つで2つのスピーカーを繋げているのに似ています。意識的に私は私の肉体の中にある心に生徒達に教える事柄を伝えておりました。一つの場所では私は固体として形あるものでしたが、他の場所では想念の形態であったのです。

【解説】

本課の一連の講話の中で、アダムスキー氏の体験として、意識を用いることの応用事例として同時に複数箇所に身を置くことが出来ることを伝えています。もちろん、肉体は一つなのでその占める場所は一箇所に限られていますが、意識は自分が文字通り「意識する」ことが出来れば、距離に関わり無く身を置き、相手に影響を及ぼすことが出来るということです。

よく考えれば、これは相手をイメージ出来れば直ちに遠く離れた相手と意識的な交流を果たすことが出来るというもので、テレパシーの原理でもあるようです。このことは遠く離れていても相手が今何を考えているか、楽しんでいるか、苦しんでいるか等々を感知することでもあります。地球の日常生活においても時として、家族の間で「虫の知らせ」、「胸さわぎ」等で表現されるように、少しは気付かれています。

問題は、より多くの人々に平安を授け、苦しみや痛みを取り除く手助けとなることを如何に日々の各自の精神活動の一つとして行うかにあります。その祈りの姿の具体例の一つが仏像でもある訳で、遠く離れた仏国土にあっても、多くの惑星の民を救う為の沈想の姿には例え如何に鈍感な私達でも幾ばくかの感動を覚えることでしょう。万物に関心を持つこと、意識を向けることが大切だということです。

420 And now I will explain what I mean by a thought form. Man is a thought manifestation of consciousness like a shadow is a manifestation of a form. So in the classroom I was manifesting as a solid form and at the bed side I was manifesting as a shadow of that form. A thought form can be sent and felt at any distance while a solid form cannot. This has happened many times even outside of the classroom. When I was lecturing in Pasadena someone would ask my help for a sick friend. I would deliver the lecture on a normal bases and at the same time go to the bedside of the sick person. I did not need to know the person nor the address for consciously I was in both places. When I next met the person that had asked for my help she was happy for the friend had improved immediately and in a short time he was out of bed and well on the road to recovery. My experiences are not limited to sickness alone for I have been able to help out in other types of trouble. These things did not take place during my sleeping hours but when I was active with something else. So this has been my experience with conscious traveling.

420 そしてここで、私が想念の形態と言うことで何を意味したかったかを説明しましょう。影が形あるものの現れであるように、人は意識による想念としての現れです。ですから、その教室の中で私は固体の形態として現れており、ベッドの脇ではその形態の影として現れていたのです。想念の形態は如何なる距離にあっても送られることが出来、感じ取られますが、固体の形態はそれは出来ません。このことは教室の外でも数多く起りました。私がパサデナで教えていた時、誰かが来て病気の友人を助けて欲しいと私に求めて来ました。私は通常の通りのレクチャーを行う一方、同時にその病気の人物のベッドの脇に行ったのです。私にはその人物やその住所知る必要はありません。何故なら意識としては私はその両方の場所に居たからです。次に私の助けを依頼したその人物に会った時、彼女はその友人が直ぐに良くなり、わずかの内にベッドから離れて回復への道程に進むようになったことで喜んでおりました。私の体験は病気に限られてはおりません。他の種類のトラブルから助け出すことが出来たからです。これらの出来事は私の寝ている間には起らず、私が何か他のことで活動している時に起っていました。ですから、これは意識による旅行に関する私の体験であった訳です。

【解説】

ここでは前項のような事柄をアダムスキー氏は何度となく行っていたと述べられています。つまりは相手から請われれば例え見知らぬ人に対しても、献身的に援助を行っていたということです。具体的に意識を投影することがどれ程精力を要するかは存じませんが、少なくともその対象に気持を合わせ、ある意味、一体化させながら必要な教を優しく伝えるような作業であったろうと想像するものです。そこには必ず相手に対する思いやりがありますし、相手に対する関心がなければなりません。つまりは誠実さが必要なのです。

アダムスキー氏は実に誠実な人物であったとされています。今日残されている少人数グループの間の質疑応答の記録によっても、氏が実に広範囲な物事に精通し、相手の質問に誠実に回答していることが分かります。氏は1952年の公式コンタクトの以前から多くの人々に本講座に似た真理探究と精神開拓の活動を行って来ました。その中に既にこの生命の科学の下地が作り上げられていたということです。

請われればどんなに離れた所にも瞬時に出向いてその者を励まし、助ける存在は、仏教で言う阿弥陀如来に似ています。本項で述べられている内容は浄土（他の惑星）を願う人々にそこに渡る上で必要な知識を授け、現世（地球）で生きる力を与える存在について解説しているものと考えています。

421 But when my interest was taken up with flying saucers these experiences ceased. For as Jesus said, you cannot serve two masters without neglecting one of them. But now as I start to teach again I am returning to my original service.

421 しかし、私の関心が空飛ぶ円盤に奪われた時、これらの体験は無くなりました。何故なら、イエスが言ったように貴方は片方を無視しないで二人の主人に仕えることは出来ないからです。しかし、今や私は教えを再び始めましたので、私は元の奉仕に戻りつつあります。

【解説】

各自の関心がどの方向に向いているかによって、流れ来る印象分野も異なるということでしょう。また、「二人の主人」について言えば、自分が「意識」を主人とするのか、或いはこれまで通り「心」を主人とするかは大きな問題です。これまでの経験からも、ご自身を「心」に委ねてしまったら、身体はすり減り安らぎはありません。しかし、意識を主人にすれば、今迄の自我のプライドは失いますが、スムーズで無駄の無い人生、喜びが湧き出る生活が生まれます。そのどちらの主人に仕えるかは本人次第なのですが、少し考えれば、仕えるべき主人は明らかでしょう。

本文ではアダムスキー氏がUFO分野に従事した時には前項（420）のような体験をしなくなったと述べています。アダムスキー氏自身の関心が人々に宇宙哲学を教えることから離れた時、そのような現象が消えてしまったと言っているのです。他人を支援したい、助けたいとする気持が具体的現象として相手に幻の姿として具現化する現象が起った訳で、その強い意志があつてはじめて意識による移動が実現するものと思われます。宇宙意識に身を没入させてはじめて、本課で言う意識による旅行が可能になるものと思われます。

422 I am only giving my experiences to show that man's innate ability is of his own consciousness and has nothing to do with mysticism. But rather it is an understanding of the law or the other half of oneself - the conscious part. 99% of humanity is living the mental side of life unaware of their conscious ability or conscious consciousness. Consciously you are free to go any place in the Cosmos but mentally you are anchored to one place. As I was anchored to the classroom but consciously I went to where I was needed. And the law is just as real on the conscious side as it is on the mental side. Consciousness is the permanent side while the mental is the changing side of life. Always changing because the mind is learning while consciousness is all knowledge.

422 私は人の生来の能力は自身の意識によるものであり、神秘主義とは一切関係が無いことを示す為に自分の体験を述べているだけです。むしろそれは法則の理解、自身の半身即ち意識の部分の理解と言えます。何故なら99%の人類は自分達の意識上の能力即ち意識的意識について気付かぬまま心の側で生きているからです。意識の上では貴方は宇宙の何処にでも行ける自由がありますが、心の上では貴方は一箇所に錨で繋ぎ止められています。私とその教室に繋ぎ止められていた時でも、意識の上では私は私を必要とする場所に行ったのです。そして法則は心の側でも意識の側でも現実に働きます。意識は永遠の側にありますが、心は人生の変化する側にあるのです。意識は全ての知識である一方、心は学ぶ過程にある為、常に変化しているのです。

【解説】

ここでの大事なことは、私達各自は生まれながらにして、つまりは特段の努力をしたり功績を上げなくても、生来、宇宙を自由に旅するような意識の力を授かっているということです。しかし、授かっていることはそれを活用していることとは無関係です。日常、それに気付かず、各自の肉体に限定された心に従って暮らしているのが私達です。

しかし、その心も学習の過程を経るにつれ、進歩するものです。人の一生はこの心の精進の道と言えるかも知れません。そうする中で、心は進歩しますし、場合によっては退化し、墮落することもあります。その結果、人の性格も変わり得る訳です。一方、意識は不変です。それを本項では「法」と表現しています。宇宙を貫く不変・普遍の原理、根源的な作用が私達の意識という概念のものの中に脈打っているのです。その法則に親しみ、理解することこそ、最優先の課題にしなければなりません。

423 What is meant by entrancement? The accepted idea of this is a misrepresentation of reality in the belief that a master is guiding one as spoken of before. Should such an impression or vision come to you during your development do not be alarmed for your conscious self will have this feeling when viewing other parts of consciousness.

423 忘我とは何を意味するのでしょうか。一般に容認された概念は、以前にも述べたように、ある聖者がその者を導くと信じて事実を誤って説明したものに過ぎません。貴方の進歩の過程でこのような印象や光景がやって来ることがあったら、怖れないで下さい。何故なら貴方の意識上の自己は意識の他の部分を見るとこのように感じるものだからです。

【解説】

意識と一体化する時、我を忘れる状況になることもあるでしょう。その際、何か特別な者の存在、直接、各自を指導する守護霊のような存在を感じる場合もあるとしています。しかし、その守護霊なるものは各自がそう思っているに過ぎず、意識の一側面をそのように感じていただけだと解説しています。つまりは、そのような特定の霊は居ないということです。

いずれにせよ、私達が独学でこの分野を進む時、本人の能力が高まるにつれて、これまで体験したことのない新しい現象が出て来る筈です。古来のいわゆる霊能力者達はそれら擬人化されて見えた存在を各々の守護霊として表現したものと思われまます。これに対し、宇宙時代を生きる私達はもっと広く科学的な視点からこれらの現象を見詰め、より適切な見解を持つことが必要とされています。

424 Remember your mind cannot absorb all inclusive consciousness in a moment so it must come in parts or different phases in the beginning until the mind is firmly developed in relationship to consciousness. i.e. A one inch hose will carry one inch of water but when the water comes out through the nozzle it separates into hundreds of drops of various sizes and shapes and each could be labeled as different according to our specifications. But each drop that falls upon vegetation gives moisture and life giving substance to that which it touches. Yet the essence of the drop of water unites with all the other drops of water as a whole, no different than it was in the hose. And the flow of Cosmic Consciousness is like the water in the hose. And it constantly separates itself for the service to be rendered to the lesser manifestations without which they could not live.

424 貴方の心は一度に全てを内在する意識を吸収することは出来ない為に、意識は心が意識との関係において確実に成長するまでは、最初は部分的或いは異なる種々の側面としてやって来るということ覚えておいて下さい。それは即ち、1インチのホースは1インチの水を運びますが、ノズルを通して水が撒かれる時は水は様々な大きさや形の何百もの水滴に分裂します。その一つ一つは私達の分類によれば各々異なるラベルを貼られるのです。しかし、植物に降り注ぐ一つ一つの水滴はそれに触れるものに潤いと命を与える物質を授けます。しかし、水滴の本質は他の水滴と共に全体として統一されており、ホースの中にあった時と何ら違いはありません。そして宇宙意識の流れもホースの中の水のようなものです。それはそれ無しには生きて行けない、より下等な生命の現れに自らを委ねるといふ奉仕の為に自らを絶えず分ち与えているのです。

【解説】

植物や動物等、生き物にとって不可欠な水。1日のは始め或いは終わりにホースを使って木々や草花に水を撒いた経験は誰でもお持ちかと思えます。ホースから無数に散らばる水滴は一つ一つの花びらや葉を潤し、個々の生き物に安らぎを与えます。それと同じことが私達一人ひとりの心に注がれる意識の恵みです。

その雫の一滴はホースの内部から湧き上がる水本体と何ら変わるものでなく、皆同じ効能を維持しています。私達が受け止める容量に見合う量のパワーが与えられるということです。

一人ひとり意識からの恵みが絶えず与えられている故に生き続けられる訳です。水無しには動植物が生きて行けないのと同様です。聖書にはイエスが「渇き」について何度となく話しをされています。その渇きを絶えず満たしてくれているのが、この意識による無償の恵みなのです。

425 In other words the Cosmic Mother and the Cosmic Father never wean their creation. When the mind does not understand this process it has a tendency to label the effects as the mystics have done. Let me give you an example of how the mind labels things it does not understand. For this we can use the experience of Jesus on the Mount of Transfiguration. His mind at that time was entranced by consciousness for he had given his mental will over to the will of consciousness as he became a listener and observer. And when he did this his face changed to represent the many individual forms through which his mind and consciousness had expressed before and he was fully aware of what was going on. And the disciples that were watching him observed the many changes of facial expressions and told him that to them he had appeared as Moses, etc. His answer to them was, "My life is the life of the many." In other words he had lived all of those stages of life and the consciousness reviewed the stages on the screen of his mind, thus bringing his mental life up to the present stage while the others observed.

425 別の言葉で言えば、宇宙の母と宇宙の父は自分達の創造物を決して乳離れさせることは無いということです。この過程を心が理解しない時、心は神秘主義者達がこれまでして来たようにその結果に偏見のラベルを貼ろうとする傾向になります。ここで心が自分が理解しない事柄に対して如何にラベルを貼ろうとするかの例をお示ししましょう。この目的の為、変容の丘におけるイエスの体験を例に用いることが出来ます。この時、イエスの心は意識によって忘我の状態にありました。イエス自らの心の意志を意識の意志の上に捧げた為、聴く者、観察する者となった為です。そしてイエスがこのことを行う時、その顔はイエスの心と意識が以前表現した多くの個人の顔かたちを再現しはじめたのですが、イエスは何が起っているのかを完璧に気付いていました。そしてイエスを見守っていた弟子達はイエスの表情が多くの変化を起こすのを観察し、イエスにイエスがモーゼやその他のように見えたと話しました。彼らに対するイエスの答えは「私の生涯は多くの生命からなっている」でした。別の言葉で言えば、彼はこれら全ての生涯の各段階を生きて来ており、意識がイエスの心のスクリーンにこれらの段階を回想させ、今日に至るまでのイエスの心の生涯を引き寄せ、それを他の者が見たということです。

【解説】

安易に神の恩寵という言葉を使いたくないのですが、本項では創造主や創造物を決して手放すことはなく、永遠の歳月を通して、支えて下さることを述べています。エゴは独立、一人立ち出来ると主張するかも知れませんが、その両親はいつまでもわが子を見守っているのです。

本文ではイエスがいわゆる変容の丘で表わした奇跡について述べています。イエスが過去にどのような人間として生きて来たか、過去の記憶を甦らせると同時に、その時の表情を肉体の細胞が再現したということです。このようにアダムスキー氏は聖書の内容について様々な所で具体的な記述を行っています。その理由は一説に、アダムスキー氏がイエスの12使徒の一人、ヨハネであったとかつて言われたことがあります。その真偽は確かめようもありませんが、アダムスキー氏は自らイエスの時代に遡る過去世からの記憶を持っていたものと思います。イエスとのつながりの中で、これらの記憶はアダムスキー氏自身が自分の眼で見たことをここで表現していることに留意したいものです。

426 This is no different than if you were to go back to the day of your birth, entrancing your mind or interesting it with your growth to the present day. Your consciousness would bring to mind the various stages of your development and experiences through which you have gone. And with this would come the many changes of facial expressions. And this is what happened to Jesus at that time for he was having the experience of realization while the disciples were just observing.

426 これは貴方が自分の今日までの成長に対して自分の心を忘我にするか、関心を持たせることによって自分の誕生の日に戻る場合と違いはありません。貴方の意識は様々な貴方の発達段階や貴方が乗り越えた体験類を心にもたらずでしょう。そしてこれと共に多くの表情の変化が生じるのです。そしてこのことがその時、イエスに起りました。彼は弟子達がただ見守る間、その具現化体験をしていたのです。

【解説】

よく「表情」と言われるように人の顔はその内面を实によく表わす表現者です。本人が喜んでいるか、悲しんでいるか、怒りを覚えているか等、自然に表情として顔が表現する訳です。また、長年の本人の精神状態はその顔つき（表情が固定化したもの）も変化させるものです。

私達は一生の中で様々な体験をし、その体験から多くを学びます。それらの中には苦しいながらもその結果、会得した真理もあるでしょう。そうした中、少しずつであっても私達は前進して行く訳ですから、過去よりは現在の自分は進歩している筈です。そういう意味でも過去を振り返るばかりでは意味はありません。本項に述べられている意味は、宇宙の意識には各自に対応して確固たる記憶が残されており、各自がその気になれば、いつでもその記憶を復元させ、その時の本人の姿を再現出来るということです。

いつでも必要な時に過去を参照できるということは、記憶についても甦られることが出来ることを意味します。自分が体験したことが決して無駄にならないということも重要です。各自が地球でこの生涯を終えた後も自分の履歴としてその体験を引き継ぐことが出来ることを覚えて置きたいものです。

427 This is the only true entrancement that there is - a Cosmic principle where the mind and consciousness work together. All other phases of so-called entrancement are either illusions, wishful thinking or self hypnotism, especially when your mind is impressed with guides or highly developed souls. Beware when you get a feeling of a so-called guide for there is only one that you can trust and that is consciousness - the other half of yourself.

427 これが唯一存在する真の忘我であり、それは心と意識が共に働く宇宙原理なのです。その他の忘我と呼ばれる側面は、幻覚であったり、願望の想念や自己催眠であるかのいずれかに過ぎません。特に貴方の心が指導霊や高度に発達した霊と出会ったような印象を受けた時はそうです。貴方がいわゆる指導霊のような感じを持った時は気を付けなさい。何故なら貴方が信じられるものは一つしかなく、それは意識、即ち貴方の半身であるからです。

【解説】

本課では(423)以降、意識と一体化する際の現象、entrancementについて解説が続いています。このentrancementについて従来はトランスと訳されて来ましたが、ここでは「忘我」と訳しています。ポイントは心が意識に同調し、その湧き起る印象の具体的表現者となる時、もはやそれまでの自我のガードは解放されます。その状態は「没入」や「夢中」とも言い表せる状態かと思えます。これら意識と容易に一体化できる能力はブラザーズ（宇宙兄妹達）においては特出すべき能力となっています。同乗記の中で宇宙船の操縦に際し、ものすごい速さで鍵盤を叩く様子が記述されており、彼らブラザーズにとって必要となれば直ぐにも発揮できる能力となっているのです。

しかし、これらの能力は地球では長らく神秘主義の範疇に置かれており、科学的立場からはいかがわしいものとして避けられて来ました。日本でも従来、多くが「心霊○○○」と呼ばれて来たところですが、せつかく、これまで生命の科学を物質と精神の両面から自らを教材として学んで来た私達にとって、いざ、多少なりとも能力が付いて来た頃に各自に生じる新しい現象に間違った解釈を下して、再び神秘主義に戻ることはあってはなりません。そういう意味で著者アダムスキー氏はこのentrancementについて何度となく注意しているものと思われまます。

何事も夢中にならなければ良い結果を生み出すことは出来ません。後にその結果を見て、心は果たしてこれがどのようにして出来たのか分からない、自分でも不思議に思う程、無心、夢中の行動が必要だということでしょう。

428 That is why the Holy Writ says have no false gods before Me. For every form whether it be man or anything else has gone through many experiences and many changes. If we accept life eternal there is just as much eternity in the past as we look forth to in the future. That is why Jesus said, If I was of this world I would fight for it but I am not of this world. If he came to this world is it not logical that we all have come from someplace else? For He made it plain that in the Father's House are many Mansions. But the human mind as an effect cannot know this unless it submits itself to consciousness which is the keeper of the records. And when it does the revelations come.

428 それが聖典が「わたくしをおいて偽りの神があってはならない」（訳注：365参照）と言う理由です。何故なら、あらゆる形有るものはそれが人であれ、何であれ、多くの体験を経ており、多くの変化を遂げて来ているからです。もし、私達が生命を永遠なるものであることを受け入れるなら、私達が未来の中へ前方を見るのと同様に過去にも多くの永遠があることとなります。それがイエスが「もし私がこの世界の者であれがそれと戦うでしょうが、私はこの世界の者ではないのです」と言った理由です。もし、イエスがこの世界に来たとするなら、私達全員もどこからか来たこととするのは論理的ではないでしょうか。イエスはこれを父の家には多くの館があると平易に説明しました。しかし、結果である人間の心はそれら記憶の保持者である意識に自身を委ねない限り、これを知ることが出来ません。そしてそれが行われる時、啓示がやって来るのです。

【解説】

ここでは前項（427）に対して、「偽りの神を持つな」という戒律の意味を対応させた解説が為されています。即ち、各自の感受力が高まり、意識との交流が始まるようになると、様々な想念を感じ取れるようになり、ますます直感的に行動するようになります。その時、前項でも述べましたように、人によっては指導霊のような存在を感じることもあるかも知れません。しかし、それは心が造り上げた架空のもので、ここで言う偽者の神ということになります。

その原因として、各自はこれまで何世代にわたって生まれ変わりを継続しながら生きて来た訳で、それらの記憶に起因するイメージ、あるいは他者から発せられる印象から受ける影響を大きいものと想像しています。従って、これら幻影の存在に左右されてはならないとしています。ひたすら自身の半身である意識の声に耳を傾けること、意識こそ裏切ることのない指導者です。

429 This does not include visions and travel only but also what we call telepathy. So you may not only get revelations in the form of visions but the impression of thoughts and what they represent. And remember we have not always been noble characters so some scenes and impressions may not be too pleasant to our present understanding yet they were a part of our development, a part of our life. So they should be accepted as a part of history and not rejected for they are you. How often have we said if I had my life to live over I would do things differently. We grow towards nobility by improving upon our past deeds.

429 この啓示とはイメージや旅行ばかりでなく、私達がテレパシーと呼ぶものも含まれます。ですから貴方はイメージという形式のみでなく、想念やそれらが何を象徴しているかをも含めた啓示を得ることでしょう。そして覚えておいて欲しいのは私達はこれまで常には高潔な性格では無かったので、その光景や印象の中には今日の私達の理解にとって余り心地よばかりのものではないことも有り得ることですが、それらも私達の発達の一部であり、私達の生涯の一部なのです。ですからそれらは履歴の一部として受け入れるべきであり、拒絶すべきではありません。それらは貴方自身であるからです。私達はこれまで何度、もし自分の人生をやり直すことになるなら、物事を違ったやりかたでするだろうと言って来たことでしょう。私達は私達自身の過去の行為に基づき改善することによって高貴な存在に成長するのです。

【解説】

ここでは第11課の最後として、これから私達が体験することになる啓示について解説しています。冷静に考えれば陶然のことなのですが、人間は一夜にして変わるというものではありません。長年積み重なってしまった各自の低レベルの体験にも由来する様々なイメージも出現して来ることを注意しているのです。

しかし、多くは各々の人生や生活にとって有益なものであることは、少ないながらも私の個人的な体験からも言えますので、読者の皆様には安心して戴きたいと思えます。

むしろ問題はやって来る印象に素直に従って行動できるかどうかにかかっています。或いは客観的（即ち物理的）状況は苦しいと思われる中であっても、光明を信じて前向きに生きて行けるかにあるように思えます。そういう意味では植物や人間を除いた動物達はその生き方を貫いており、結果を心配する様子は一切ありません。百合の切り花達がつぼみの状態で花瓶に入れられた後、例え最後は枯れる宿命であっても、各々精一杯の花を咲かせる姿はその側面を良く表わしています。

本課では生命の科学の集大成に近付いた章として具体的に意識と交わるとどのようなことになるかについて言及されて来ました。その具体的応用と実践は読者皆様に委ねられているところです。（第11課 終わり）

ジョージ・アダムスキー「生命の科学」第12課 段落430 [2009-01-30]

SCIENCE OF LIFE - STUDY COURSE

Lesson Twelve

Summation - The Rewards Of Continuous Progress

By GEORGE ADAMSKI

430 In the eleventh lesson we cautioned you not to leave any of your revelations out which were a part of you. The reason for this is very important for life is like a jigsaw puzzle and no part can be left out if you are to have a complete picture. And if you substitute something for the part you do not like the picture will not be as it should be. As we have lived a life of likes and dislikes this tendency will be present and one must over-come this to have a true picture of life. For should you substitute something to replace the things you did not like you would create a mystery and we want truth and reality.

生命の科学—学習コース

第12課

総括—継続する進歩の報い

ジョージ・アダムスキー著

430 第11課では私達は貴方に貴方自身の一部である貴方の如何なる啓示も追いやることの無いようにと警告しました。この理由は大変重要なことです。何故なら人生とはジグソーパズルのようなもので、完全な絵を得ようとするなら、如何なる部分も追いやることは出来ないからです。そしてもし貴方が自分が好まない部分を何か他のもので置き換えてしまったら、最終的な絵は本来あるべきものにはならないでしょう。私達は好き嫌いの人生を生きて来ましたので、この傾向が出るでしょうし、人は人生の真の全体像を得る為にこれを克服しなければなりません。何故ならもし貴方が好きで無い物事を何かで置き換えてしまうなら、貴方は一つの神秘を造り出すことにはなりますが、私達は真実と現実を求めているのです。

【解説】

生命の科学最終章の冒頭、著者アダムスキー氏は各自、自分自身の真の姿に直面することを求めています。とかく私達は綺麗なもの、美しい物をたたえ、醜いと感じることを避けようとします。例えば、以前述べましたように、レストランで食事を楽しむことには関心があっても、その食品がどのような過程を経て来たかについては知りたくはない等です。

おそらく、ある一定段階に到達し、その後、次の段階に移るには、そこでの整理が必要となるものと思われれます。この12課ではこれまでの学習の歩みを振り返って、自分の理解を整理し、残された課題を各自導き出すことになるものと思われれます。

431 Always remember that the things that we call good, bad, or indifferent are only a misapplication of the law through the lack of understanding. Also all of this took place within the Cosmic Kingdom and not outside of it. Compare yourself to the child within the home who makes mistakes, but through them he learns the right way of doing things. If life is to be understood all of its phases must be faced.

431 常に覚えておいて欲しいのは、私達が良い、悪い、或いは良くも悪くもないと呼んでいる物事は理解の不足から来る法則の誤用でしかないことです。また、これら全てが大宇宙王国の中で起っており、その外で起っているのではないことについてもです。貴方自身を家庭の中の過ちを犯す子供にたとえなさい。子供はその過ちを通じて物事の正しいやりかたを学ぶものです。生命というものを理解しようとするなら、その側面の全てを正視する必要があります。

【解説】

この生命の科学を総括する第12課の冒頭、前項（430）では嫌なものを避けることの問題点を指摘しました。本項でもそれを受けて、事柄の良し悪しを私達が日常、決めつけていることは誤りであり、まずは生命のあらゆる側面が宇宙の王国に属していることを認めて、ありのままを直視するよう求めています。

とかく私達は自分の感覚器官の反応に従って判断を加え、「美味しい、まずい」、「良い香り、臭い」等々、判断を下しがちです。しかし、食べ物が口から体内に入った後、便として出る時は「臭い、きたない」とされてしまいます。しかし、排せつ作用が無ければ人間は生きて行けないのは、ご存知の通りです。

宇宙の王国と呼ばれている全てをつつむ一大世界の中では温度に灼熱の暑さや極寒の寒さがあるように、様々な側面があります。その一方だけを見ているのは全体のイメージは掴めません。先ずは全てをありのまま受け入れて、改めて各々の果たしている役割を学ぶことが必要なのです。

私達は創造主の子供です。その子供に様々な体験をさせ、失敗を繰り返しながら成長するさまを創造主は暖かく見守ってくれているのです。

432 As stated earlier in the course you have a right to make analysis for the purpose of understanding, but not with criticism or belittling. This phase seems so close to the line of analysis that sometimes what we say is taken for criticism or judgment. But your motive is your guard against making this mistake. If your motive is noble with the purpose of understanding you need not worry what the other person may say. And if you make a mistake in analysis acknowledge it. This will prove that your purpose was noble.

432 本講座の初期に述べたように、貴方は批判やけなす態度でなく、理解する目的の為に分析する権利を持っています。この側面は私達が批判や判定と見なされる状況と時として大変近い延長上にあるように見えてしまいます。しかし、貴方の動機はこの過ちを犯すことに対する守り手になります。もし貴方の動機が理解する目的という高貴なものであるなら、他人がどのように言おうとも心配する必要はありません。また、貴方が過ちを犯したならば、それを認めることです。これにより貴方の目的が高貴なものであることが証明されることでしょう。

【解説】

現象の奥にある原理や仕組みを知る為には、まずは現象自体を注意深く観察する必要があります。これら観察や分析を通じてのみ、私達は生命について学ぶことが出来る訳です。

対象は自然界の様々なもので良いのですが、その最も重要な研究対象は他ならぬ自分自身ではなかろうかと私自身は考えています。日々の環境の諸変化に対する応答や心が取り込んだ想念による肉体の影響、更には関係する他者への影響等、外面から内面に至る様々な影響について知りうる最も身近な研究対象が私自身です。また、この場合はどんなに綿密に観察しても他人に迷惑をかけることはありません。

他方、分析を行う過程で、実は問題自体が解消することも多々あります。つまり、自分は何で悩んでいるかについて分析を進めて行くと、その根本原因が分った瞬間、問題は解消してしまうからです。痛みについても同様で、自身の身体の中のどの部位が痛みを訴えているか、ゆっくり自分の意識を身体内に浸透させ、各細胞の訴えを聴いて回り、その訴えを受け止めることで痛みが消えてしまうことが多いことは、私の体験上、分っています。

良し悪しのレベルでなく、暖かくその実状について話しを聴くこと、それに対して冷静に分析し、その結果を見せることは、現代のカウンセリング手法と似ている気がします。

433 After centuries of living as society has, habits have become the masters of men's minds. And this has been strengthened by each generation. So, as said before, it is not easy to get rid of them. But we must keep diligently at the task and replace old habits with new knowledge. This is the way to find and know the other half of yourself.

433 社会における何世紀もの生活の結果、諸習慣は人の心の主人になってしまいました。そしてこのことは世代を経るごとに強化されています。ですから以前に申し上げたように、それらを取り除くことは容易ではありません。しかし、私達はその仕事に精を出し、古い習慣を新しい知識に置き換えなければならないのです。これは貴方自身のもうひとつの半身を見つけ、知る方法なのです。

【解説】

最終12章の冒頭から本項も含めて4つのポイントが述べられています。その第1は今後明らかにされる事柄がどのようなものであっても排除せず、先ずは受け入れるべきこと(430)、第2はあらゆるものを裁くことなく受け入れて自らを体験から学ぶ子供のように見なすこと(431)、第3は対象を理解する為には対象を自ら研究し分析すること、及びにその分析は批判ではないこと等です。

第4のポイントが本項になります。主題は習慣性の打破です。とかく私達は習慣に流され易いものです。ある意味、私達は宇宙の法則が作用する中で生きていますので、一旦、やり方が決まれば同じ種類の行動は同様の結果を得ることになりますし、社会も様々な約束事に基づいて機能しています。その自体には問題はないのですが、このような習慣に流されている場合、本人には努力というものが不要になる為、新しい体験感は得られません。習慣性は人間を怠惰な存在に落とすめてしまいます。それに対する解決法として、本文では新しい知識が大きな役割を果たすと言っているのです。つまりは新しい発見に絶えず注目し、自然を見詰め治すことが大切だということでしょう。

顕微鏡下に見る水中の微生物の世界は実に活発です。皆その小さな身体をある者は震わせ、ある者は軽やかに泳ぎながら活気ある生活を送っています。もちろん、一瞬一瞬、気を抜けば食物連鎖に取り込まれてしまう厳しい世界でもある訳です。

絶えず自分の周囲を見回して、停滞している要素を見つけ、整理し直すことも新鮮な情報を取り入れるきっかけになるように思います。日々の仕事や生活を新鮮なものにすることは容易ではないことですが、その効果は大きいものがあるということです。

434 The first lesson dealt with the analysis of life and the awareness of cause and the importance of being aware of cause and effects at the same time. So continue to increase your awareness whether by mental observation or conscious impressions.

434 最初の課では生命の分析や因を知覚すること、更には因と諸結果を同時に気付くことの重要性について取扱いました。ですから、心による観察によってであれ、意識の印象によってであれ、貴方の知覚力を引き続き増強させることが必要です。

【解説】

この生命の科学講座の中で、第1課が最も重要だと明言されています(014)。講座を進めるにつれ、学習者には自ずと印象類の感受性が高まるのですが、講座のそもそもの始まりに、そのような能力開発という目的を掲げていないところを注目して欲しいと思っています。そういう意味では他人より能力を高める目的で、この講座を学ぶべきではありません。私達が本来、創造された目的、生きる目的を遅まきながら学ぶという、謙虚な姿勢が大切だと考えています。

その第1課で繰り返し丁寧に述べられているのは、通常、私達は自分自身を含めて身の回りの世界を物質的なものと見なしていますが、実際にはそれは結果でしかなく、各結果(現象)を支えている因についても気付くことの大切さです。

この点については、私達東洋人にとっては古来から万物に神が宿るとする信仰がありますので、比較的受け入れ易いテーマかと思いますが、実際には個々の生活では結果世界に左右される毎日が続いている訳です。

目に見えない存在である意識がどのように現象世界を支えているかは、各自が日頃から意識に関連して自然の活動や自身の肉体の反応等をよく観察することで、少しずつ理解を高めることが出来る筈です。その為にもまずは観察が大事で、因と結果が調和して存在していることに気付くことが出来るよう、関心を保つことが重要となります。

435 In lesson two we explained the mind and its component parts. So see to it that your mind is not purely occupied with outside perceptions. And demand that your mind takes equal interest in being aware of the component parts of your body and its purpose. Ever aware of the marvel of its working and that of all other forms.

435 第2課では私達は心とその構成要素群について説明しました。ですから貴方の心が外部の知覚によって純真に占められているのではないことに気を付けることです。そして貴方の心に貴方の肉体と構成要素群とその目的について等しく感心を持つことを要求することです。常にその肉体や他の全ての形有るものの驚くべき働きについて気付かなければなりません。

【解説】

第2課では私達の心は視覚、聴覚、味覚、嗅覚の4つの感覚器官から構成されていると解説されました。実はこの4つの感覚器官は本来、知覚した情報を肉体本体にありのままを伝達するいわばセンサーなのですが、長年、本人が感覚器官に依存して来たために、今日では感覚器官自体が判断し、肉体の主人公の行動をも左右する程の存在になっています。その結果、綺麗に映る存在や好まれ、嫌な臭いを感じずるものは遠ざけられがちです。

これらはまた本項で言うように外界の知覚に専念しているとは言えない状況です。いわば外界とは一線を置いて、各々の感覚器官が各々自分の領域を確立し、その中で勝手な意見を醸造し、外界を批判あるいは礼讃する状況となっています。

これに対し、本項では自らの肉体各部の働きとその目的の両方を同時に見るように求めています。結果と因を同時に見ることで理解は飛躍的に高まるからです。日常、私自身を事実上支配している心の本質を各自が見極める中で、第2課で書かれている内容が掴めるよう心掛けたいものです。

436 The third lesson was on the application of Cosmic Law. Be sure that you apply this law in your daily life at least to some degree until it becomes the master of your life. See this law in operation in every form, for it motivates all forms.

436 第3課は宇宙的法則の応用についてでした。その宇宙的法則が貴方の生活の支配者になるまでは、貴方が自分の日常生活において少なくともある程度はこの法則を貴方が応用しているということを確認していなければなりません。この法則があらゆる形有るものの中で働いているのを見ることです。何故ならそれは全ての形有るものを突き動かしているからです。

【解説】

第3課では家庭への電気の供給やテレビ受像機を例に示しながら、宇宙の法則についての説明がありました。私の身体や精神の活動や機能を支え、支配している原理を自覚するか、しないかでは大きな差があります。自然界の万物を見てそれらが四季の中でどのように変貌し適応しているか、動植物等の自然界の複雑な構成員が各々生命を全うできるのは、これらの日々の命を貫く法則がある筈で、その法則に気付くと言っているのです。

また、その法則は私達の内面にもつながっています。テレビ受像機の例にあったように、各自が優れた番組を画面に写し出せる受像機になる為には、電源にも接続されることはもちろん、自らのアンテナから番組という印象を継続的に受信出来なければなりません。また、受像機自体の解像度や再現音質もオリジナルの電波が持つ精緻さを表現できるものであることが望ましいことは言う迄もありません。その為には各々の受像機の性能を不断の努力によって高める必要があるのです。

法則はどのような場所、どのような時であっても、またその内容が知覚されようとしないに関わらず、等しく作用するものです。その法則を見つけ、その力を自覚することが出来れば、その後は本人は独りでも正しい方向に進んで行けることになります。第1課では物の背後にある意識の存在を自覚し、第2課で自らの内面の実態を把握した後に自然界を貫く意識作用の法則を学ぶというステップを踏んでいると考えてよいでしょう。

437 In lesson four the relationship of all creation was explained from the smallest to the greatest manifestation that one can conceive. See it all interrelated with no divisions, each dependent upon the other.

437 第4課では全ての創造物の関連性が人が知覚出来る最小の創造物から最大の創造物に至るまで説明されました。全てが区切り無く相互に関連しており、各々が他に依存していることを見なければなりません。

【解説】

第4課では万物の関連性について整理が為されました。とかく研究は個々の対象に特化しがちですが、その対象の真の姿はジグソーパズルの1片のように全体として眺めることによって理解されることも多いのです。とりわけ、何故私達が万物の関連性を学ぶ必要があるかについては、第4課の冒頭部分(139)で、「英知の最高位の表現者である人間は自身とあらゆる生命の側面を理解することが義務である」と説明されています。つまり、創造主からあらゆる創造物が生きるこの世界に最高位の表現者として生きる人間には他のものを理解し、集団全体を導く義務と責任があることを意味します。これについては現代の「地球環境問題」を取り上げれば容易に理解できることです。また、自然を研究する際、個別の種の分類に力を注ぐばかりでなく、生息環境や種族の行動について相互関係に着目する生態学に近い手法であるように思います。

一方、自然界の関連性についてはDNA分子を記憶との関係で解説する等、当時(1964年)としては画期的な最先端の情報も盛り込まれています。「生命の科学」として最も内容の濃い記述がこの第4課で為されているように思われます。

438 In lesson five we explained that the intelligence and power of all life comes through consciousness. And also how the Creator is manifesting Himself through all form life.

438 第5課では私達は意識を通じてもたらされる全生命の知性とパワーについて説明しました。またどのようにして創造主が全ての形あるものの生命を通してご自身を現されるのかについても述べたところです。

【解説】

第5課の内容は私達が皆、目に見えない意識の海の中に生きているのですが、実際、心がその世界を日常生活の中で認識することは容易ではありません。それを達成しようとこれまで各宗教の修業者が訓練しているのも、その知覚を得る為なのです。私達はこれまで、この4次元世界について学ぶ機会がありませんでした。また、この分野は心が勝手に造り上げた誤った脇道も多く、仮に誰かが「自分は奥義を理解した」と公言したとしても、各自はその人物に注意深く接しなければなりません。自分が納得した上でなければ、その者の教えを安直に取り入れるべきではないのです。

生命体の大部分が活気ある毎日を謳歌している一方で、心に支配されて来た人間は心の中の薄暗いジャングルの中で迷っていると、本文の中で述べられています。つまり、自分の培って来た心の意見を越えた世界を垣間見ることが出来れば、いままでこれが世界だと思って来た所が、実は素晴らしい生命の溢れる別天地の中にあることが分かるというものです。意識という宇宙を貫く普遍的な生命力の存在を受け入れることによって、一歩が踏み出されるということです。

439 Lesson six was on newness. In order to rejuvenate the body one must rejuvenate the mind first. And this is done when the mind is interested in all new things which is progress.

439 第6課は新しさについてでした。肉体を若返らせる為には、人は先ず心を若返らせねばなりません。そしてこれは心が全ての新しい物事に関心を持つ時に起りますし、それが進歩である訳です。

【解説】

幼児と老人の違いは物の見方にもあるでしょう。一方ははじめて見る世界に驚き、どのようなものか興味津々。一方はそれが当たり前の光景と思い、関心を持たません。関心事は自己の肉体の維持の為の食事ぐらいかも知れません。他方、自然を見るとそこに生きるものは悉く活発であり、生き生きした毎日を送っています。その心の違いは当然、身体にも反映する筈です。気持を若く保てば、身体もそれに呼応し、若さを維持するものです。

ここで常々思うことについてご紹介します。それは宇宙飛行士達が皆、共通した特徴を持っていることです。彼らはもちろん、映画「ライトスタッフ」に描写されているように、大勢の志願者の中から身体能力も専門知識を有する点においても優れ、更には強靱な精神力の持ち主として各々の国を代表する人物であることに間違いのないのですが、実際のテレビインタビューを見ていつも思うことは、彼らは実にフランクで明るいということです。

宇宙に飛び立つということが、これほど、人間を明るくし、活発にするかと思う次第です。このように宇宙空間に出るということは、地球を地表の平面としてでなく、大空間に浮ぶ球形の天体として自分の目で見、その周囲を高速度で周回する等、新しい体験を得るということです。そして宇宙空間に出て宇宙と一体になれる時を過ごせた者は地上に戻ってもその感覚は本人の生き方に大きな影響を与える筈です。宇宙空間は絶え間ない創造の場であるとも言われています。小は隕石のかけらから、果ては大星雲の誕生まで、活発な破壊と創造の作用が行われている訳で、それらを垣間見ることは、その者の創造主への信頼を深め、確かなものをつかみ取ることが出来ることとなります。その結果、信頼や確信が生まれ、明るい未来を見据えることが出来るものと思われれます。

こう考える時、創造主がその最高の創造物として創られた人間が、それ自身の心に原因があるにせよ、本来の寿命を全うできるよう絶えず、助言と援助の手を差し伸べて下さることは間違いありません。たとえ暗く曇った空の下に生活していても、その上には明るく輝く青い惑星と広大な空間が紛れも無く存在することを、私達は共に自覚しなければなりません。

440 Lesson seven was on Cosmic memory and the importance of memory in order to benefit from past experiences. The mind is not a good retainer of memory unless it blends with the consciousness where memory is eternal.

440 第7課は宇宙的記憶と過去の体験から恩恵を受ける為の記憶の重要性についてでした。心は記憶が永続する意識と融合しない限り、記憶の良い保持者にはなれないのです。

【解説】

永遠に続く宇宙の活動の中で自分というものがどのような位置づけに居るか、自分がこれまで何を担って来たか等、各自の正体を掴む為には、宇宙的記憶を持たねばなりません。しかし、私達の多くはそもそも自分の過去生を覚えていません。肉体が終末を迎えると心はほとんどの記憶を失い、再び生まれることがあっても心はまた、一から学び取るという大変不効率な過程を歩んでいます。しかし、各自の半身である意識に少しでも融合すれば、諸々の知識や経験を記憶することとあり、それから先はスムーズは人生を歩むことが出来ることでしょう。

これを成し遂げるには日常的にも宇宙的記憶を貯える必要がある訳で、毎日、身の回りの事柄を観察し、何かを発見しての感動体験、テレビを見、本を読んだの宇宙的な感性の向上体験等、自ら宇宙的感覚を高める努力が必要です。これら体験（実感）を日常生活に取り入れることによって、私達は自らの関心、即ちアンテナの方向を宇宙に向けることが出来ます。

自分がどのように生きたかを、自ら誇りとし、悔いを残さないように毎日を生きるかどうかは各自に委ねられています。記憶はそれらの一部始終が宇宙に記録されることを意味しますし、その記憶を豊かなものとするよう創造主はお望みになっているということです。

441 Lesson eight is on Cosmic Oneness and how when one may feel separate from another or other forms the feeling comes through lack of knowledge. As Jesus has said, "if you hurt any one of these you have hurt Me." There is no division or separation in the Allness. And if we let the consciousness which is the creator of all forms replace the domination of the mind the feeling of loneliness and separation will vanish. And these feelings will be replaced by the closeness of the Creator or our own Cosmic counterpart.

441 第8課は宇宙的一体性についてであり、人が他人あるいは他の形有るものから分離していると感じる時、その感じは知識の不足から如何にもたらされるかを示しました。イエスが「もし、貴方がこれらの者達のいずれかを傷つけるなら、貴方は私を傷つけたのだ」と言ったようにです。全体性の中にあっては分裂や分離は無いのです。そしてもし私達があらゆる形有るものの創造主である意識を心の支配に置き換えるならば、孤独感や分離感は消え去るでしょう。そしてこれらの感じは創造主あるいは私達自身の宇宙的片割れとの親近感に置き換えられることとなります。

【解説】

私達は心底、自然や宇宙との一体感を求めて来ました。万物を我が同胞とし、自然の中で他のもの達と調和し、融合した生活を送ることは多くの人の理想であるかも知れません。

その一体感を得るためには、相手を理解することが必要であることは言う間でも無いのですが、実際には文字通り意識レベルまで、その融合性を拡げることが必要だと思われます。よく長年連れ添った夫婦の間や親しい者同志の間には、互いに遠く離れていても相手の状況を感じ取ることがあります。それらはこの一体性の具体的な事例の一つだと考えます。

意識においても相互に融合していることで、相手が何を思っているかが分かるということです。これを拡大して言えば、より大きな宇宙意識に私達の意識を融合させ、一体化を達成することが出来れば、宇宙で起っていることはもちろん、様々な事柄を日常生活を送りながらも、身につけることができることとなります。

442 Lesson nine is on Cosmic and carnal cell activity. This is like any thing that we construct by using nature's materials to make things suitable for man's use. Through habits of the mind we create carnal cells. For the mind like the Son has the potentials of the Father. When the mind does not give credit to the Father it assumes that it operates on its own. And this brings a separation between the Cosmic Creator and the mental creator through the mis-use of the Cosmic Law. This is why the Father and the Son must work as one. As Jesus said, " I and the Father are One. I the mind and consciousness are one. Or I of myself do nothing but the Father that worketh through me does all of the work." Meaning, I the mind do nothing but the consciousness through the mind does it all. For a mind without consciousness is dead.

442 第9課は宇宙的細胞と肉欲的細胞の活動についてです。これは人間の使用に適するように自然の材料を用いて物を私達が作るのに似ています。心の習慣を通じて、私達は肉欲的な細胞を造り上げているのです。何故なら、心は父の潜在力を持つ息子のようなものであるからです。心が父の功績を認めない間は、心は心自身によってそれが動かされていると誤ってしまいます。そして、このことが宇宙の法則の誤用による宇宙の創造主と心による創造者との間に分離を生じさせるのです。これが父と息子が一つになって働かなければならない理由です。イエスが「私と父は一つ。心である私と意識は一つになっています。あるいは私自身である私は何も行っておらず、私を通して働く父が行っているのです。」つまり、心である私は何も行っておらず、心を通じて意識が全てを行っています。意識無しには心は死んでしまうからです。

【解説】

人体には宇宙意識に従い人体の維持を担う細胞群とは別に、心に従う細胞群が存在するという第9課の内容は多くの読者には意外に分かりやすい内容であったかも知れません。日々、自分の中に起る反応を観ればそれらの働きが良く分かるからです。

例えば視覚や聴覚等、感覚器官に心地よいものはそれを受け入れ、尊敬し、憧れさえしますが、逆に不快なものは直ちに拒絶します。その際にはその感覚だけでなく、身体全体をその行動に駆り立てます。また、一度、感覚器官にとって不快な体験が記憶されると、二度目からはその微小な兆候に対しても過敏な反応をもたらします。これは各感覚器官に隷属する細胞群が感覚器官の周囲に増殖し、その肉体を支配しようとしていることを示唆するものです。

私達はこれら感覚器官の奴隷に終わるべきではありません。その為にも自分の体内で起っているこれら心に隷属する動きについて監視し、それらを矯正する必要があります。

443 Lesson ten is on Cosmic Traveling. Jesus said that wherever a man's heart is there he is also. It means that man is wherever he is consciously aware of being.

443 第10課は宇宙旅行です。イエスは人の心がある所には、その者も居ると述べていました。それはまた、人は意識的にどこに居ようともそこに居ることを知覚することを意味します。

【解説】

心中心の生活から意識を主体とする生活に切り替えるにつれて、各自の感受力は拡大します。遠くで起っている出来事を感じたり、未来に起ることを察知する等は結果を生み出す意識に自身が近付いているしるしでもあるでしょう。

1949年に出版されたアダムスキー氏の著書「宇宙のパイオニア」 ("Pioneers of Space, A Trip to the Moon, Mars and Venus") は、こうした意識による宇宙空間への旅の体験から書かれたものと言われています。そこではその後、肉体のまま行った時に見た光景とかつて意識による旅行で見たものを内容は同じであったと後年、アダムスキー氏は述べています。事実、同乗記の中でも母船の中での会話に、ブラザーズは宇宙に関してそれまでの氏の思いを確信させる為に実際に宇宙に連れ出し、肉眼で見せたとする記述があったと記憶しています。つまりは宇宙の兄妹達はこれらの意識に関する各自の能力を勝手に飛躍させることなく、本人のレベルがある程度、上がった段階でそれを確証させる為、機会を提供することしかしないようです。

意識による旅行は中途半端は気持で行うべきではありません。いわば創造主への帰還という修業の道筋として各自人知れず行うべきものでしょう。それは各自が創造主である意識と対話する心構えで行うべきものです。

444 Lesson eleven on the exploration of Cosmic Space explains space as consciousness. And how when the mind blends with it it can explore any phase of space. Returning to the statement, where a man's heart is, there he is also, let us analyze the meaning of this. i.e. A person walking into a building can be attracted to one single thing and fail to see the other things in the building. I will use this as an illustration of alertness. Two men enter a tavern for a glass of beer. One is very observant and many things register on his mind such as a large beautiful picture and an attractive lady seated alone at a table. When they have finished their refreshment the two men leave. The observant one commented on the unusual picture and the attractive lady there alone. The other man who had been interested only in the drink had not seen any of these things but his interest was aroused and he suggested that they go back so that he could view them. I use this only to show how two people may travel consciously yet one will see much more than the other.

444 宇宙空間を探検する第11課は意識として宇宙を説明しています。また心が意識と融合する時に心がどのようにして宇宙のあらゆる側面を探検できるかについてもです。人の心がある所、その者もまたあるという声明に戻ってその意味を分析しましょう。即ち、建物の中に歩いて入る人物があるたった一つの事柄に関心を引き付けられていた為、建物の中の他のものを見過ごす場合です。私はこれを警戒状態の例として用いることにします。二人の男が1杯のビールを飲む為、バーに入ります。一人はとても観察力があり、例えば大きな美しい絵があったとか、テーブルに独り魅力的な女性が居たとかという多くの物事がその心に記録されます。二人が一息ついた後、彼らは立ち去ります。観察した男は珍しい絵や一人そこに居た魅力的な女性について話しをしました。一方の男は飲むことしか関心が無く、これらのことのいずれも見えていませんでした。しかし、彼の関心が呼び起こされた為、彼はそれらを見に戻ろうと提案しました。私はこの例を如何に二人の人達が意識的に旅行してもある者はもう一方の者より多くを見るかも知れないことを示す為、用いているのです。

【解説】

意識には距離の制限が無く、またイエスの言葉のように誰でも自分の意識を拡げれば、自由い宇宙を移動できることとなります。アダムスキー氏が「意識」という言葉で表わそうとした不可視の作用はその実、これまで私達が用いていた「意識」という語感に似たものであると考えています。

即ち、日常私達が意識しているのはこの宇宙意識の一部だと言ってもよいでしょう。意識を拡げれば、そこに行くことが出来るとするの、その延長上に考えてよいものと思っています。以前も述べたように宇宙空間に出た者は宇宙から何か強い印象を受けているように思います。それは宇宙空間ではこの意識の作用が強く働いていると思われるからです。おそらくは宇宙空間に出ると宇宙の創造主が直ぐ身近に感じられるというのもその影響かと思えます。

しかし、当分は私達通常の地球人は簡単に宇宙空間に出る体験は持つことが出来ません。意識による宇宙探検にならざるを得ない訳ですが、それでもその感受力による個人差があり、本項で述べられているよう、最初は意識を移動させても得る情報は少ないことでしょう。その原因は自我の欲望に執着する私達の心の側にあるのですが、少しずつ字づにつれて、得られる情報も多くなるものと思えます。

445 The twelfth lesson is of course the summation of all of the lessons and I hope that all who have taken this course have made it a part of themselves through their sincere effort to understand life. This is but a beginning for each time you restudy the many points given, you will enlarge the development of your Cosmic self. You do not need anything else for you have all of the tools necessary for your continued development.

445 第12課はもちろん、全ての教課のまとめであり、私としてはこのコースを学んだ全員が真面目な努力を通じて、生命を理解しようとするを自らの一部にして来られたことを願うものです。これはしかし、始まりでしかありません。貴方が再学習する度に多くのポイントが与えられ、貴方は貴方の宇宙的自我の発達を拓けることになるからです。貴方は他に必要なものは一切ありません。貴方は貴方の継続的な発達に必要な道具の全てを持っているからです。

【解説】

最終第12課を迎え、アダムスキー氏は改めてこの「生命の科学講座」の持つ価値について述べています。冒頭 () に紹介したように、本書は宇宙兄妹達が特別に組み上げた教本であることに注意したいと思います。各自ひとり一人が独習でき、繰り返し復習しても毎回新鮮な知見が得られるように構成されているものと思われます。

もちろん、個人差がありますが、各自が地上における寿命を全うするまで、一定程度を身に付けておく必要があることは間違えありません。先日、机の奥から古い手帳が出てきましたが、中身を見ると生命の科学の内容に関するコメントが数ページ記載してありました。しかし、その後は続かずに、その作業は中断していたのです。1970年代のもので、実に30年以上も経過して、このブログが実現したことになります。その記述の内容は自分が当時、どのように感じていたかを記したのですが、それは大変親近感のあるものでした。それもその筈で、書いた本人が同じであるからです。

しかし、そこで分ったのは自分というものは昔からずっとつながっており、基本的な物の見方はなかなか変わらないものだということです。言い換えれば、生命の科学を学ぶにしても、各自の個性は変わるものではなく、当面は感受性が高まる程度の変化なのかも知れません。私達が真に学ばなければならない道程は遠いものであるということでしょう。毎日の少しずつの前進が重要となりますし、各自が何らかの形で毎回、どのように感じたかを記述することはその人の精神的な歩みを残す有効な手法でもある訳です。その最終結果として、もしその本人が地球人に必要なレベルに達することが出来たとすれば、その足跡は後に続く人の道案内になることが出来ることでしょう。

446 As things on earth keep on developing it is possible that new knowledge will be coming from time to time from the Space Brothers. So if you choose to be informed you may ask to have your name entered on the list. And also let us know how well you have done with the lessons and what questions you have pertaining to the course. It probably will be impossible to answer your questions individually, but when time permits we will compile a booklet of questions and answers.

446 地球上の物事は発達し続ける為、新しい知識が時々に応じて宇宙兄妹達からもたらされる可能性もあります。ですから、もし貴方がその知らせを受けることを選択する場合は、そのリストに貴方の名前を入れるよう要望されてもよいでしょう。そしてまた、貴方が教課を如何に良く学んだか、また教課に関連してどのような疑問を持ったかについても私達に知らせて欲しいのです。皆様の質問を個別に回答することはおそらく不可能でしょうが、時期が許せば私達は質疑応答の小冊子を編纂することでしょう。

【解説】

「生命の科学」学習コースが始まった当初は、各課毎に何ドルかの費用を支払って、テキストを送ってもらうようなシステムをとっていました。学習コースという意味は通信講座の意味合いがあった訳です。また、確かな記憶ではありませんが、各課の終わりに「理解度テスト」のような質問リストがついていたのを見せてもらった覚えがあります。

このように宇宙兄妹達の支援の下に行われた講座でしたが、アダムスキー氏の死後はこの分野の仕事を引き継ぐ人は出なかった為、今日、世界中を見ても「生命の科学」は埋もれてしまったと言えるでしょう。その点、唯一、誰もが全課を一冊の本として入手できるのは日本だけです。その功績は日本GAPの久保田八郎氏によることは皆さんの良く知る所です。

本文では地球人のレベルが進化するにつれて、必要な知識は宇宙兄妹達が提供してくれるとも述べられています。そういう意味ではこのシリーズを十分に学び取った人は次なるステップに必要な知識を、今後は何らかの形で宇宙兄妹達からも与えられることを期待しても良いのかも知れません。最近、私の周囲でもUFOの目撃体験を寄せられる人が増えているように思います。地球の大きな転換期にさしかかって今、真実なるものとそうでないものとを賢く見極め、永続する真理を求めて行く必要があります。そうした中で宇宙兄妹達からの支援を受ける機会に巡り会うこともあり得るのです。

447 The Brothers would like to know how many of you have developed sufficiently through this course to organize a group for this study. And in this way you would be helping others, as well as yourself, to understand the self. And by so doing we could have a better world's society.

447 宇宙兄妹達は貴方がたの何人がこの学習コースを通じてこの学習の為のグループを組織するまでに十分発達したかを知りたいと思っています。また、このようにして貴方は自分自身と同時に他人をも助けることになるのです。そしてそのように行動することで、私達はより良い世界社会を得ることが出来るのです。

【解説】

アダムスキー氏を通じて地球にもたらされた、この「生命の科学」がどのように人々に受け入れられ、学ばれているか、授けた側の宇宙兄妹達は関心を持って見守っているということです。また、この学習は意志を同じくする者が集まって、共に体験を分かち合い、会得したポイントを互いに共有し合いながら学ぶスタイルが本来、望ましいということでしょう。その会を主催する者の力量や人格も重要な要素です。宇宙兄妹達はこれらグループのリーダーとなれる者に絶えず注目しているということです。

現在、幸いなことに日本では何箇所かで生命の科学をベースにした学習会が開催されているようです。私もその一つに参加しております。2ヶ月に1度、東京浅草で開催されるその会は、人数は多くないのですが、皆さん長年、この道を歩んで来た人達であり、率直な意見交換が出来る場となっています。

独りで学ぶことはもちろん基本ですが、問題にぶつかった時等にアドバイスを得られる等、相談できる場を持つ事は必要なことです。人は人の間で育てられるという側面もあるからです。

448 The lessons that you have received have been blessed by the Brothers for each individual's purpose. And they should be honored as an individual gift containing an everlasting avenue of development. For we know that the mind cannot remember all of the phases given and you will have to go back and re-read many things in order for the mind to continue its development.

448 これまで貴方が受け取った講座は各自の目的の為に宇宙兄妹達から祝福されたものです。そしてその講座は永続する進歩の大通りを含んだ個人的な贈り物として敬意を払われるべきものです。私達は心と言うものは与えられた側面の全ては思い出せないことを知っていますので、心がその発達を続ける為には何度となく元に戻って繰り返し読む必要があるでしょう。

【解説】

アダムスキー関係者の間では、この生命の科学講座は宇宙兄妹達によって特別に編纂されたものと認識されています。かつてアダムスキー氏はメキシコ、グアダラハラに「生命の科学学園」なるものを建設する計画を持っていました。それほど、本講座の内容は意義を持っているということです。

これを学ぶことは長年、人間を低レベルの存在に抑えて来たエゴの横暴さを鎮め、広大な宇宙の中の構成員の一員として生きる存在に復帰することにつながる大きな意味があります。まして、最近の混乱した世の中にあっては、揺るぎない真理をしっかり身に付けておく必要があります。各自がそれぞれの周囲に良い影響を及ぼし、少しでも人々を本来の方向に導けるよう、贈り主達は今でも願っていることでしょう。

しかし、私達は単に掛れている言葉を暗記するほど、読んだとしても理解が拡がらなければ意味のないことです。一つ一つの文の内容が何を示唆しているのか、少しずつ思いを巡らしながら、学び取る姿勢が大切です。繰り返し読み込むことで新しい展望が見えて来るのも本講座の特徴なのです。

449 It would be wise for a person to reread at least one page of a lesson a day and live in the awareness of what it contains. And you will be amazed how much more you get than you did at first.

449 1日少なくとも1頁を読み返してそれが含む内容を自覚して過ごすことは賢明なことでしょう。そして貴方は最初に呼んだ時より、如何に多くのことを身に付けたかを知って驚くことでしょう。

【解説】

心の鍛練は休みなく行うことが必要だということでしょう。長年の習慣は個人を造り上げるものです。単に日常の雑事に心身共に奪われる毎日では、やがては意味のない人生で終わる危険性もあります。

それに対して本文では一日一日の生きる拠り所を本講座の一頁に置いて、その日一日の心の訓練に充てることは意外に大きな効果をもたらすと述べています。一つ一つの積み重ねがある時点から揺るぎない基盤をつくることになる訳です。

以前読んだ本に四国の詩人、坂村真民（1909～2006）という方の毎日が紹介されていました。毎日午前0時に起床、未明混沌の霊気の中で打座し、念仏し、詩作にあたります。午前3時半には橋を渡って川原で大地に額をつけ、地球の平安と人類の幸福を祈願しておられたと伺っています。このような生き方を貫くことが、大切であり、それを為す人は宝であると言えるのです。

450 This series of lessons will be just as good 20 years from now as they are today, for there is no end to their revelations. They can be your guiding posts through the balance of your life. And I do know that most of you want the fullness of life. And I definitely know that you can have it by applying the knowledge within these lessons. Do not be discouraged by a slow progress for a slow progress is a firm growth. I do know that it is not easy at first for many habits have to be changed. But like everything else the finer quality and the most valuable gold is not on the surface. We have to dig for it which is hard work.

450 この一連の講座はこれから20年経っても今日と同様に優れたものであることでしょう。それらがもたらす諸啓示に終わりは無いからです。それらは貴方の生涯のかじ取りにおける案内標に成り得るものです。そして私は貴方がたのほとんどが人生の充実を求めていることは分っています。そして私は貴方がこれらの教課の中に含まれる知識を適用することによりそれを手に入れることができることを確実に知っています。進歩が遅いことでがっかりしないことです。何故ならゆっくりした進歩はしっかりした成長であるからです。私には最初はそれは容易で無いことは良く分っています。多くの習慣を変えねばならないからです。しかし、他のあらゆるものと同様に、より精緻な性質のものや最も価値のある金は表面にはありません。私達はそれを求めて掘り進めなければならず、その仕事はきつい仕事なのです。

【解説】

これまで「生命の科学」講座が重視されて来た背景には、これまでも述べて来た所ですが、ここで改めてその内容が学習者に時代を越えて、恩恵をもたらし、その者の進化に役立つことが述べられています。

その仕組みが何処に組み込まれているかは私には定かではありませんが、人間の心の実態を明らかにする一方、不可視、不可聴な意識が全ての生命を貫いていることをあらゆる生命の場面を感じ取ることを促していることは確かです。前々回(448)に述べられていたように、心はその全てを覚えておくことが出来ない為、繰り返し学ぶことが大事になるということでしょう。

果たして自分が20年後に、これらの文章を見てどう思うかは分かりませんが、少なくとも人生の歩みの中でその道を見失うことなく歩み通したことと、毎日少しずつの学習がやがては実を結ぶ時を迎えるだろうと思うことは確かですし、20年度、その成果は確かにあったと思うことを願うのみです。

451 And so to get the pearl of your being you have to do a lot of digging. This will take courage and determination but it will be a reward of eternal happiness for those who accomplish through perseverance. And I will never dismiss you from my consciousness, nor will the Brothers. We will help you on the road of progress.

451 そして貴方の存在の珠玉を得る為には、貴方は多くを掘り進めなければなりません。これは勇気と決心を必要とするでしょうが、それは忍耐を通して達成する者達に永遠の幸せという報酬となることでしょう。また、私は決して私の意識から貴方を見捨てることはありませんし、宇宙兄妹達もそうすることはありません。私達は貴方を進歩の道筋の上で助けることでしょう。

【解説】

掘り下げるとはどのようなことを指しているのでしょうか。それは表面的な物事を取り去って、事の真相を見極める意味や自分が本当に理解し真実を掴んでいるものと、そうでないもの、或いは未だ理解できていないことを明らかにする態度を指すように思われます。また、その原因を掴む為、丁度、地下深く湧き水の水脈を突き詰めるような作業を意味するものでもあるでしょう。

こうした作業は、労多くしてその成果は直ぐには現われないものですが、この突き詰める作業が無いと、表面的な理解で終わってしまいます。アダムスキー氏は各自が本来抱えている真珠（珠玉）を掴み取るには、表層から内部を忍耐強く探究しなさいと述べているのです。

また、そうする段階に達した者は、はるか上空から私達の想念レベルを探查している宇宙兄妹達から支援も受けられると明言しているのです。生命の科学を真に学ぶ者に次の世代を担ってもらう必要があるからです。これについてはかつてアダムスキー氏自身にもそうした一大転機が起ったことを、紹介したことがあります（下記参照）。皆様各自にそのような幸運が訪れることを願うものです。

「（略）やがて成年に達したアダムスキーは家を離れ、さまざまな職業についたと言われる。多くの人に会う中で、人々の持つ悩みや問題について学んだ。結局、彼は塗装業を営むことになり、生活も豊かになったという。しかし、彼には満たされないものがあつた。もとより、人前で話すことは苦手であつた彼は、後生も決して上手な英語を話したとは言えないとされている。幼い頃、両親がポーランド語を話し、年少時に通常の学校で学ぶことがなかったためでもある。40歳を過ぎた頃、そういう彼に、ついに転機が訪れた。夢の中にイエスが現われ、彼にこう言ったとされる。"I've done all this for you. Now what are you going to do for me?"（「私はあなたにこれまでしてあげた。さあ、あなたは私に何をしてくれるのか。」）さあ、あなたは私に何をしてくれるのか。」）彼は魂を揺り動かされた。以来、彼は生活の全てを自らが担った使命に捧げたのであつた。その陰で妻メリーは、彼にかわって働き続け、こうした中で彼をよく支えた。今日でもそうであるように、講演活動で一家を支えることはできようはずもなかつたのである。（略）」。「ロイヤル・オーダー」（たま出版、昭和59年発行）「監修者のことば」より。

452 May the heart and the consciousness of the Creator manifest in your consciousness. May you walk and talk with Cosmic intelligence. Blessed are those who cannot see or hear mentally yet believe, for of such is the Cosmos. For what the physical sight does not see is the power and intelligence by which we do see and hear.

452 創造主の御心と意識が貴方の意識の中に現れ出ますように。貴方が宇宙の知性と共に歩まれ、語られますように。心で見聞き出来なくても、信じることが出来る者達は恵みを受けています。何故なら宇宙はそのようなものであるからです。肉眼が見えないとしているものとは私達が現に見聞きする元になっているパワーと知性であるからです。

【解説】

以前 (279) にも述べたように「大切なものは、目に見えない」（「星の王子様」に出て来るキツネの言葉）という台詞がありますが、普段私達が大事にしているものは、そのほとんどが形あるもの、目に見えるものではないでしょうか。しかし、それらは結果であり、どのように大切に取扱ってもやがては色あせてしまう時の流れの中にあります。それに対して時代を越えて変わらぬ生命の息吹きを万物に与えているのが、意識であり、それは目に見え、耳に聞こえたりするものではないと言っているのです。

意識は宇宙の始まりから未来永劫に万物を生かすパワーであり、それを見失ってはその個体を維持することは出来ません。実は意識の姿が見えない、その声が耳で聞こえないと騒いでいる目や耳自体を機能させているのは、意識であることは何とも不思議な間柄です。

各自に与えられている意識をどのように開花させるかは、実に各自の不断の努力にかかっています。自分の中に宇宙本源の意識を十分表現できるよう、常に状況を整え、その通路になり切ることによって自分を通じて創造主を表現することになるのです。

453 So believe in your consciousness as you have in your mind and soon you will walk as one with your cosmic self from which you have been separated all of this time. The cup of the true essence of life is now before you. Drink of it daily and you shall never thirst.

453 ですから貴方は貴方の心に対して来たように、意識を信じることです。そうすれば直ぐにも貴方は自分がこの間ずっと切り離されてきた貴方自身の宇宙的自己と一緒に歩いて歩むことになるでしょう。生命の真の真髄の茶碗は貴方の目の前に置かれています。それを毎日飲むことです。そうすれば貴方は決して渴くことはないでしょう。

【解説】

これまでも述べて来たように、私達には一人一人に既に十分な能力と智恵が授けられています。その目に見えない力の源泉を意識と表現されて来たところです。万物を知る者という語感もあります。しかし、その存在を自分のものにする為には、本文中にあるように、先ずはその中身を少しずつ毎日飲む必要がある訳です。

何事も先ずは信じることから始まります。良い思いは良い結果を招くことはご存知の通りです。階段を登る際、もし自分の進む一歩が信じられなければ、次の一歩も出ないこととなります。つまり、一歩登って得られる結論は登る前は確認できません。階段を一段登って初めて、次の階段の先が見えて来ます。そういう意味ではとにかく、良い方向だと思ったら、前進するべきでしょう。ほとんどの場合、結果の確証等、事前には分からないからです。

また、これら自分の意識を同行者として日常生活を歩むことは、そのまま日常の生活が訓練となって有意義なものになります。毎日、少しずつ前進することが自分の基礎を固めながら成果を積み上げるキーポイントです。

454 For Cosmic Consciousness is as a fountain that sends its stream upward and then divides into myriads of tiny droplets that fall in all directions and again unite with the body of water in the pool. Thus the knowledge that is embraced within its bosom is ever present to be tapped and used once man unifies his being. And life in its entirety is viewed from the pinnacle of ever increasing understanding.

454 何故なら宇宙意識は水流を上を吹き上げる噴水のようなもので、それは次には無数の小さな水滴に分かれ、あらゆる方向に落ちますが、再び池の水本体と融合します。このようにその奥に包含される知識は、人がその存在を統合するやいつでも取り出され、用いられる為に常に存在しているのです。そして永遠の中における生命の姿は常に増大する理解という尖塔から眺められます。

【解説】

永遠に続く生命の源泉である宇宙意識を理解することは、生まれ変わりについて取扱わねばなりません。自然界において多くの虫達や花々は四季の移り行く中で、その命を終わり、次に訪れる春に子孫達による復活を託しています。

人も同様に諸条件や各自の環境により、長さは異なりますが、やがては最期を迎え、肉体は分解離散することになります。しかし、それで人の生命が本当に終わるとすれば、所詮、「永遠の生命」と言葉で表現したとしても、空しいものになってしまいます。本講座でははっきりと「生まれ変わり」について解説はされておりませんが、アダムスキー氏は氏の妻メリーが金星で生まれ変わっていたこと、その人間の個性は転生することを多くの人々に伝えて来たことを忘れてはならないでしょう。

即ち、転生の原理と作用について詳細は解説はないものの、実例としてその事実を私達は知らされていることは重要です。何時か自分にもやって来る最期の時に平安に地上でも活動のエンジンキーを創造主に返却できるよう、生命の永続性について常日頃から深く観ておく必要があるようです。

455 And man can partake of the joy of the bird in flight. And have a deep appreciation for the intricate delicacy of each thing that grows and blossoms. And marvel at the orderliness of the Cosmos. And as he does he becomes humble and grateful to be a part of so perfect a plan.

455 そして人は飛ぶ鳥の喜びを共にすることが出来ます。また成長し花を咲かせる各々の生き物の入り組んだ優美さに対して深い感謝を持ちます。そして宇宙の秩序に驚嘆するのです。またその者はそうする中で、自分がある一つの完全なる計画の一部であることに対して、謙虚になり、また感謝するようになるのです。

【解説】

噴水から四方に飛び散る無数の水滴の一つ一つが日に輝く情景が真実であるからには、それが支配する世界は明るく楽しいものである筈です。本文にあるように、鳥達は毎朝、早くから日の出を待ち焦がれ、東の空が明るくなった途端、群れをつくって大空を駆け巡ります。そこには、太陽に対する感謝と生きていくことへの喜びがあります。

空を飛ぶという特技を持っている鳥達には、人とは異なる世界観があることでしょう。地上の2次元の世界でなく、空を含めた3次元で移動し、文字通り鳥瞰図に示す視野を有している訳です。そうした鳥達には地上を支配する人間達の生活振りはどのように見えているか、興味深いものがあります。

さて、聖フランチェスコ (<http://www.aritearu.com/Influence/Francis/Francisword/Francisword.htm#3>) や良寛など、鳥達あるいは他の動物と語らったとされる人物が伝えられています。かつてはこれらの事例は奇跡として扱われて来ましたが、本文にありますように、本課を学ぶ者にとっては鳥やその他の生き物と語らうことは容易なことだと言うことです。更に様々な創造物を親しく観察し、意思を通じることによって益々その世界が精密に構成され、一見当たり前に見える現象にも創造主の精緻な御わざが支えていることを知るのです。

456 When cosmic conscious awareness is achieved life is understood and all effects looked upon as an expression of Cause Consciousness. So work patiently and diligently and you shall indeed know yourself and all life as a whole. A realization of the beauty of the interrelated cosmic picture as each experience falls into place as a part of your life.

456 宇宙意識への気付きが達成されると生命が理解され、全ての結果が因の意識の表現として見られるようになります。ですから、忍耐強く、こつこつ努力することです。そうすれば貴方は本当にご自身を知り、一つの統一体として全生命を知ることになります。それは一つ一つの体験が貴方の生涯の一部として収まる、相互に関連付けられた宇宙的絵画の美しさの悟りです。

【解説】

本講座全編を通じていわゆる生物、無生物を問わず、現象ごとごとくを貫き支える、宇宙意識と呼ぶものに気付き、自覚することの重要性が述べられて来ました。また一方、それはこのようないわゆる精神面をと物質面から切り離して取扱うことの問題についても述べられて来たように思います。つまり、そこには現象とその奥にある因とを同時に見ようとする姿勢が大事だとしているのです。

また、一方、肉眼で見えないものは容易には認めがたいとすることは、世の常であることは間違いありません。そこで、学習者は各々、積極的に意識に気付こうと努力しなければなりません。自らの生活の中で実践することが求められている訳です。

一口に宇宙意識を讃えよと言っても、時代ごとにその時代状況に合った言葉でその内容は表現されて来ました。万物の支持者を阿弥陀と呼称する時代にあっては、「南無阿弥陀仏」というフレーズが、その最も近い意味を民衆に授けた筈です。ここに一遍上人（1239-1289）が弟子に述べた一節を紹介しましょう。

「それ、念仏の行者用心のこと、しめすべきよし承り候。南無阿弥陀仏とまうす外、さらに用心もなく、此外に又示すべき安心もなし。もろもろの智者達の様々に立おかるる法要どもの侍るも、皆諸惑に對したるかりそめの要文なり。されば念仏の行者は、かやうの事をも打捨て念仏すべし。むかし、空也上人へ、ある人、念仏はいかが申すべきやと問ければ「捨ててこそ」とばかりにて、なにとも仰せられずと、西行法師の撰集抄に載せられたり。是誠に金言なり。念仏の行者は智恵をも愚ちをも捨て、善悪の境界をもすて、貴賤高下の道理をもすて、地獄をおそるる心をもすて、極樂を願う心をもすて、又諸宗の悟をもすて、一切の事をすてて申す念仏こそ、阿弥超世の本願にもっともかなひ候へ。かやうに打あげ打あげとなふれば、仏もなく我もなく、まして此内に兎角の道理もなし。善悪の境界、皆浄土なり。外に求ぶからず、厭べからず。よろず生としいけるもの、山河草木、ふく風たつ浪の音までも、念仏ならずということなし。（中略）ただ、愚かなる者の心に立かえりて念仏したまふべし。南無阿弥陀仏一遍」（p.22「愛蔵版 一遍上人語録 捨て果てて」坂村真民著、1994年大蔵出版株式会社）

善悪や美醜といった人間の心が裁いた基準を捨てて、自然界の諸活動を仏の現れと感じ、より本質の因をひたすら求める姿勢を当時の人々に示したものと言えると思います。

Summation ;

457 From the different reports that I have received some of the students have virtually performed miracles through the use of conscious perception.

総括

457 私が受け取った種々の報告からすると、学習者の何人かは意識の知覚を応用することによって事実上、奇跡に近いことを成し遂げています。

【解説】

本講座全 1 2 課を締めくくるに当たってのまとめが本項から続きます。

意識を知覚し、言わば悟りの境地に立った学習者が各々アダムスキー氏にその効果について寄せて来たものと思われます。人間の進化という課題は、科学技術や社会制度の進歩以上に問われる必要があります。

当然ながら、本講座を開設した際には、果たして現状の地球人に有用なテキストになっているかを授けた側の宇宙兄妹達は知る必要がありました。そこでアダムスキー氏は一課毎に郵送する形式をとり、各学習者の反応を収集する必要があったものと思われます。

その結果は、本項に記載されているように満足の行く内容であり、数多くの成果報告が寄せられたと伝えられています。これが「生命の科学」が素晴らしいとされる由縁の一つでもあります。

一方で、宇宙意識を掴んでさえいれば、心配することは何もなく、その自らの内なる声を頼りに自分を成長させることができます。しかし、それは決して特殊なことではありません。自然界においては、同様のことが日常的に起っています。遙か何千キロも旅する渡り鳥達はどのようにして目的地の場所を知覚し、広い海原を飛行することができるのか等、人間には真似の出来ない能力を備えている事例は数多くあります。まして、本来、鳥達よりは大きな能力を有する人間には未だ底知れない能力が秘められていると考えるべきでしょう。

458 There is one thing that we must remember, consciousness always was, is, and ever will be expressing through created forms whether of this earth or other planets. For in consciousness ideas are born, myriads of them.

458 私達が覚えておかなければならないことが一つあります。意識はこれまでも、現在も、またこれからもずっとこの地球であれ、他の惑星であれ、創造された形有るものを通じて現れ続けるということですから。何故なら、意識の中には、アイデアが無数に生まれるからです。

【解説】

意識は永遠に存在する。ニワトリが先か卵が先かの議論がありますが、物質（創造物）のある所に意識は存在します。何故なら、その物質を現に創造しているのは意識であるからとすることが出来るでしょう。従って私達は、意識を知る為に遠くどこかのジャングルに探しに行く必要はありません。現に目の前にある自分の姿の中にも意識は潜んでいるからです。

意識の作用として無数の創造作用がありますが、これらはその意識の中では無尽蔵に湧き出るものと思われれます。様々な想念が飛び交う世界と言ってもよいでしょう。

また、このように永続するということは、意識なるものには、老化が無いことをも意味します。永遠の生命作用、即ち永遠の若さが備わっているということでもあります。

459 The Bible tells us that God was, is, and forever will be and out of this creation has grown the many forms that we see in nature. These ideas can be classed as blueprints or patterns for various purposes, but they can mean nothing as long as they remain as only an idea for action is necessary in order to bring a manifestation.

459 聖書は神はこれまでも、現在も、そして未来永劫に存在し、その創造から私達が自然の中で見る多くの形有るものが成長して来たことを伝えています。これらの概念は様々な目的の為の青写真やパターンとして分類することが出来ますが、それらは一つのアイデアとして留まっている限りは何も意味はありません。現れをもたらすには行動が必要だからです。

【解説】

神は昔も今も、またこれからも存在し続けるという言葉は、前項（458）の意識と同種のものとして対比したものとなっています。本項の趣旨は次項（460）の内容とも関連するものですが、意識という言葉は知識の源泉だけでは実際の物は創られず、物質側がそれに呼応して適切な行動（反応）を起こさなければ、創造作用にまで結びつかないことを述べているのです。

即ち、必要な情報が提供され、物質界でそれに従う知性が合わさって初めて、創造がなされるということです。従って、私達も意識とのコンタクトを通して有益な想念（アイデア）を得たとしても、それらを応用（行動）しなければ意味を為す結果を得ることはないということです。

460 Notice that the Creator whom we call God was aware of the ideas in His consciousness but to have the ideas manifest He had to use the elements of the Cosmos in various combinations to bring them into form. As the elements did not have sufficient knowledge to know what kind of form they were to make a command was given by word or frequency to have them form into the desired pattern for a particular manifestation. But the elements did or do have enough intelligence to receive the command that is given.

460 私達が神と呼ぶ創造主は神ご自身の意識の中にあるその創造物に対するアイデア（訳注：「意図」或いは「原型」と訳される場合もある）については気付いておられましたが、そのアイデアを具現化させる為にはそれらを形有るものに変える為、諸々の組合せに宇宙の諸元素を用いなければならなかったことに注意して下さい。諸元素は自分達がどのような形を創ろうとしているのかについて十分な知識を持っていなかった為、個々の創造の現れに対して望ましいパターンにそれら諸元素が形づくられるよう、言葉、あるいは振動によって命令が発せられたのです。しかし、諸元素は与えられる命令を受けるだけの十分な知性は持っておりまし、現在も持っているのです。

【解説】

本項は創世記の一節、「○○よ、あれとおおせられた。すると○○ができた。」等に記載される事柄を指すものと思われます。私達、被創造物は先ず神のそうしたいとするアイデア（思い）があつて、その後、物質達にその意志を伝え、物質が持つ知性がその神の御意志に於いて具体的なもの（結果物）を造り上げていることを先ず、最初に明確に覚えておいて欲しいということです。

この場合、被創造物からのアプローチとしては、絵画の例にあったように、結果である絵を鑑賞することを通じて、画家の意図や感性を観ることの重要性について、第1課で述べられている通りです。私達、被創造物は各自の目的や他のものの存在理由等、創造の意図について絶えず研究する必要があります。自分は何を為す為に生まれて来たのか等、幾つになっても振り返って人生を見詰め、必要な是正を行う必要があるでしょう。

少なくとも贈り物を授けられた者は贈り主の意図をおもんばかると同時に、その贈り物をよく研究し、十二分に活用することが求められます。そういう意味では創造主の意図する方向で、各自生活を楽しむことも必要だと言うことでしょう。

461 In Genesis we are told that the first Creation was a Void, and without form. That in the second creation forms began to manifest. But we should notice here that the Creator gave a command, or instruction to the spirit which in this case is power, to the small amount of intelligence in the elements to carry out His command. And there had to be intelligence in the elements in order for them to carry out the instructions. You can plainly read in the Holy Writ how the form of a man was created, as well as all things. And there was no doubt in the Creator's consciousness whether a form would manifest or not for there was an absolute assurance that it would. And you can notice that the command was not repeated, it was given once and that was all.

461 創世記で私達は創造の最初は気空であり、形は無かったと伝えられています。そして第二の創造で形が現出し始めたとされています。しかし、私達はここで、創造主が命令、即ち指示を靈魂、この場合は力である靈魂、そして創造主の命令を実行する為に各元素の中にある微量の知性に対して与えたことに注目すべきなのです。そして、その指示を各々が実行する為に各元素の中には知性が無ければならなかったのです。貴方は聖書の中に万物はもちろん、人間の形がどのようにして造り上げられたのかを率直に読むことが出来ます。そして創造主の意識の中には形あるものが現出するかどうかについて疑念はありませんでした。何故ならそれがそうなるだろうという絶対的な確信があったからです。そして貴方はその命令が繰り返されなかったことに気付かなければなりません。それは一度だけ与えられ、それが全てであったからです。

【解説】

私達も含め、あらゆる宇宙の構成物を物質面で造り上げている分子・原子には創造主の意思を受け止め、その指示を理解する知性があるということです。また、これら分子・原子は創造主の意思に極めて従順に働きます。言わば創造主の指示は宇宙の法則とも言えるものです。その為、創造主は一度、命じた物事は必然的に物質世界に現出することになります。

創造物の中で最も高い位置を与えられた人間達は原子爆弾に象徴されるように、破壊的な物を勝手に造り上げて来ました。悲しいかな、その兵器という誤った応用の中でも各分子達は各々に定められた核反応を実行するのです。これは創造主の息子としての人間の罪でもあります。これらは不安定で恐怖心に満ちた人間の心が具体的に物質世界を破壊していることを意味します。

創造主のように一点の疑いも無く信じて下す命令（意思）には他の雑音が立入る隙を与えません。私達も自分の願いを實現する為には、一点の疑念も入り込ませてはいけません。現状の混乱した社会状況を見るにつけ、より良い世界に向けて各自の揺るぎない思念が必要な時を迎えています。

462 It is this kind of certainty that must prevail within each one of us, knowing that whatever idea we desire will manifest. In other words there must be full confidence in oneself that whatever the idea is, it will be brought forth, not the slightest doubt must enter. Having this type of confidence in whatever one does is having confidence in the Creator and with the Creator there is nothing impossible.

462 私達が願うどのようなアイデアであれそれは現実化することを知った上は、私達各自の中で支配的となるべきものはこの種の確信です。言い換えれば、そのアイデアが何であれ、自分自身の中にそれがもたされるだろうとする完璧な信頼がなければならず、ごくわずかであっても疑念が入り込んではありません。何をするにせよこの種類の信頼を持っていることは創造主への信頼を持っていることになり、創造主と共にあれば、不可能なものは何もありません。

【解説】

いわゆる確信や信念は単に個人の願望の実現というよりは、創造主の中では不可能は無いという流れの中で理解されるべきものです。もちろん、各自が何かをしたいと思う時、各自は信念を持って行動すれば、それを成し遂げることができます。その事は創造主が万物を創造した際の原理を応用すれば可能となるということです。しかし、その結果、各自が得たものが適切であったかどうかについての問題は残ります。

ここで述べられていることは、私達自身の抱く願望（即ち想念）には具体化する潜在力が備わっており、疑念を起こすことなく、その想念を解き放てば、やがてそれは現象世界に形作られ自分の目前に現れるということです。

このように一点の疑いもなく結果がもたらされることへの確信は、同時に創造主の意図により万物が絶えず創造の過程にあることへの信頼（信仰）が基礎となっています。本講座を学ばれて来た皆様は既にこの辺の理解は十分、為されている訳ですから、後は実生活への応用に進むべきです。多くの方がご自身の発達と社会への貢献の為、この生命の科学講座を応用して欲しいと思っております。人生は思ったほどより短く、また心が心配するよりは長く十分な時が与えられているような気がしているからです。

463 Now let us review from the beginning of the lessons; First, we will consider the consciousness within which ideas are born. In other words have a conscious blueprint of what the manifested action is to be with full faith and confidence in the ability of consciousness to produce it. Second - you cannot leave the idea in the blueprint and have a manifestation so a command which is the word is given with full confidence in the result. Notice that consciousness is the conceiver and creator of ideas. The Holy Ghost or Spirit is the power and intelligence. And the Son is the manifestation in the Likeness and the Image which the consciousness had and this makes the Trinity. It reads like this in all life - first the consciousness - second the holy ghost or spirit as the religious world has it, and then the manifestation which is the son.

463 それでは教科の最初から復習しましょう。最初、私達はアイデアが生まれる意識について考察することになるでしょう。言い換えれば、現出化させる行動の意識的青写真に対しては、それを造り出す意識の能力に完全なる信頼と確信を持たせることです。第二は、貴方は青写真にアイデアを放置したまま現れを持つことは出来ませんので、言葉である命令が結果への完璧な確信と共に与えられることとなります。意識はアイデアの受胎者であり、創造主であることに注目して下さい。聖なる魂、或いは靈魂と呼ばれるものはパワーであり知性です。そして息子は神の似姿やイメージに向けた創造物であり、これが三位一体を構成します。それは全ての生命においてこう読むことができます。第一に意識、第二に宗教上の言葉が言うように聖なる魂、或いは靈魂、そしてその次に息子である創造の現れです。

【解説】

ここでは全課を総括して創造の世界における意識と力、創造物の3つの構成要素について三位一体に合わせて説明しています。

この内、講座の中では主に創造作用の第一の担い手である意識に気付くよう、懇切丁寧に説明されて来ました。いわゆる目や耳等、既存の感覚器官では捉えられない存在である意識が、あらゆる創造物や生命体を支える英知であり、私達はその湧き出る流れを邪魔せずに、素直に従うことに尽きることを、また普段の生活の中でその捕らえ所の無い意識を文字通り意識（認識）出来るよう、常に物事の因を見るように教えられて来ました。

一方で、何か自分の願望を実現したいと思うならば、力、或いは意志についても磨く必要があります。揺るぎない信念ともいべき創造主への信頼はその想いの実現がより良い世の中にとって必要であり、それは必ず実現すべきものだと思う瞬間、解き放ったその想念には実行力が付き、遂には現象世界に作用して想い通りの状況を創り出すということです。

私達人間は父の息子として、父に似た能力が授けられており、その正しい応用は父も喜ぶ所となっています。

464 In Cosmic or creative mathematics it would read like this - one and one does not equal two but three. For every time that two principles are put together properly there will be a manifestation which is number three. This also goes back to one - for the three now become as one complete manifestation.

464 宇宙的、或いは創造的な数学では、それはこのように読み取ることになります。即ち1プラス1は2に等しくはなく、3に等しいと。何故なら、二つの本源が適切に協働する時はいつでも、数字で言う3に相当する創造が生まれるからです。このことはまた、一つに還ることでもあります。何故なら今やその3者は一つの完全なる創造の現れになっているからです。

【解説】

いわゆる父性原理と母性原理を合わせると新しいものが生れ出るということです。前項（463）で述べられていたのは想念を生み出す「意識」、その想念を力あるものにする「意思」、それらを自ら体感し、物質界に作用させることが出来れば、早晚、具体的な事物が自らの所にもたらされるというポイントが述べられて来ました。

ここではその一体化した事物は丁度、2者が一体化してまた新しい創造物が生まれ出たことになり、丁度、数学で言う「2進法」の概念に近いと言っているものと思われれます。つまり、2進法では「01」+「01」=「10」という表記になりますが、ここで「01」と「10」とでは位が異なり、新しいものが誕生することを意味しています。また、本文では更に、「01」と「01」と「10」とが、更に一体化して一つになるとも述べられています。

植物や動物等、自然を構成する生き物達の活動のお蔭で、私達人間は地上で生活することが出来ます。その生活を支えているのが、食料です。植物や昆虫達の生命活動によって農作物が育ち、魚や肉を提供してくれる動物達のお蔭で、私達人間は生きています。その基本的な生命活動は言う間でも無く、生物の生殖活動が発端になっています。動物達の生殖に関わる真剣さは、鮭や鱒の例を見ても明らかでしょう。昨年9月に北海道知床で鱒の溯上風景を見ることが出来ました。海から河口に数多くの鱒が集まり、その後、数年前に生まれた場所を目指して遠いアラスカ近くから回遊して来た魚達です。そして産卵を終えた魚の多くは息絶えてその一生を終わるとも言われています。その大きな自然のサイクルの中で、魚の増殖が行われ、また、その結果、私達の食卓に鮭や鱒が上る訳で、私達人間はこの文字通り生き物達が生涯を掛けた一大事業の恩恵の中に生きていくということです。

もちろん、私達人間は、更に高度な役割を担っており、互いに協働することによって、互いの能力の足し算よりもはるかに大きな成果を得られることにも注意したいものです。

465 An electric bulb needs the power of both principles, negative and positive, to produce a light. And the feminine and masculine are both needed to bring forth an offspring. This is the law that has and will work through eternity for the reproduction of forms that is everlastingly taking place. There is nothing impossible through this law.

465 電球は明かりを造り出す為にはマイナスとプラスの両方の原理を必要とします。また、子孫をもたらすには女性と男性とが共に必要とされます。これは永続的に続く形有るものの再生産の為、これまでもそしてこれからも永久に作用する法則です。この法則を通じて不可能なものは何一つありません。

【解説】

電球の光に象徴されるように陰と陽の基本要素が一体化する時、そこには陰陽2極には見られなかった新しい側面が創出されます。私達は万物をこの種の見方を見る必要があります。突き詰めれば、沈想や精神的な知覚を志向する「陰」と自らの意思を実現させる決意や体力強化等、何事にも積極的に取り組む「陽」の姿勢のいずれか片方を重んじるのではなく、両者をバランス良く進めて行くということかと思えます。

詳しくは知りませんが、このような調和を第一にする思想家には中国の老子があり、それら古来の哲学や宗教の教義とこの生命の科学とは類似点も多いように思われます。

いずれにせよ、私達は外に何かを求めて来た今迄とは異なり、これからは自分の内部に意識とその英知が備わっていることを自覚し、安心して、少しずつ実生活に本講座を応用しながら、その法則を実感することが大切です。

466 When a mind and consciousness combine in equal proportions man can rebuild his body in perfection of health. And only success can be known through this law.

466 心と意識が等分に結合した時、人はその肉体を完全なる健康状態に再建することができます。またこの法則を通じることによって、ただ成功あるのみです。

【解説】

人生において大事なことは健康と生き甲斐であろうと考えます。その両者は私達内部にある心と意識とが互いに対等の役割を果たし、その人本来の目的に向けて才能を伸ばす中で実現するということでしょう。また、それら本来の姿を邪魔して来たのが心であるということでもあるのです。

そもそも私達が何ゆえにこの講座に取組もうとしたかに立ち返って、これまでの歩みを振り返る必要もあるでしょう。進化した他惑星人達の人生を学び、私達に欠けている要素を洗い出す為、更には私達本来の人生の歩みを進める為のガイドブックとしてその時々につけるべき内容が、この講座の中にちりばめられているのです。

読者の皆様におかれては、一人でも多く、幸せな人生を歩まれ、また他の多くの人々に良い影響を与える存在になって欲しいと願っております。

【「生命の科学逐次解説」の完結に当って】

2007年3月から、本日（2009年3月25日）まで、まる2年にわたり連載して参りました「生命の科学逐次解説」も本日をもって、一応の完結を迎えることとなりました。この間、多くの方にご覧戴き、また何人かの方からはコメントも頂戴しました。改めて、これまでご覧戴いた皆様に感謝するものです。

毎回の翻訳作業や解説文の記述は、当日の朝、行っており、その時の偽りのない私の心情を記録したものです。そもそも逐次解説を始めるに至ったのは、アダムスキー氏の原文の生命の科学を世の中に残したいと思ったことと、単にそれを読むだけではなく、その内容をどのように解釈したら良いか、学習者が対面で接する機会が少ない今日、掘り下げた解釈例をお示しすることが、必要だと思ったことに外なりません。

しかしながら、毎日の生活の中、限られた時間や自らの限界の為、中には十分な内容とならなかったものもあるかと思いますが、御容赦下さい。本講座を進める中で、私自身が最も勉強になったように感じております。

また、現在、読者の方から熱心な御意見も戴いており、それを元に訳文訂正作業も進めております。訂正作業完了後はコメント欄でお知らせする予定です。また、御意見等がございましたら、コメントをお寄せ下さい。公表を希望しない場合は、その旨、記入いただければ、公表せず、御返事はメールにて差し上げます。

【今後の予定について】

アダムスキー氏の「テレパシー」について、次なる逐次解説として取組んだらどうかという提案があり、現在、実現に向けて準備中です。準備出来次第、この講座を継承する形で再開するつもりですので、今後も引き続きご覧戴ければ幸いです。

2009年3月25日

竹島正